チンアンセイ　陳安世　(漢)京兆の人。嘉性慈仁なり。家貧にして權叔本の家に傭はる。叔本、道を好む。二仙人あり、託して書生と爲り、叔本に從ひて游ぶ。叔本、意意る。二仙曰く、幾んど成りて敗ると。安世の篤實なるを見て曰く、汝、仙を好むか。曰く好む。二人與に約すらく、明日早く大樹の下に會せんと。三たび期して皆早く至る。乃ち藥二丸を以て之に與ふ。服して復た食げず、但た水を飲むのみ。叔本、其の仙を得たるを知り、却て之に師事す。後、安世、白日昇天す。

チンアンセキ　陳安石　(宋)貫の子。嘉祐中、夔峽轉運官と爲り、また蘇汾州河中府を歷知す。皆政績あり。吏部侍郎に累遷す。後、龍圖閣直學士を以て河陽に知たり。

チンイ　陳頤　(明)字は克養。蘇州の人。畫家。山水花鳥人物皆之を能くす。

チンイウ　陳祐　(宋)仙游の人。進士に舉げられて、官、左司諫に至る。嘗て奸人の善類を詆毀する故を言ひ、章惇蔡京蔡卞郝隨鄧洵武に及論す。旨に忤ひて滁州に通判たり。

チンイウ　陳祐　(元)一名は天祐。字は慶甫。天祥の兄。博く經史に通ず。性剛直、權貴に阿合せず。故に久しく位に居るを得ず。許蔡の間、巨盜出入す。祐、馬を下り之を市に戮殺す。民間帖然たり。後ち祐、台州の民由を擒す。玉山の盜至るに値ふ。備ふるきを以て害に遇ふ。河南郡公に追封す。忠定と謚す。著す所の詩文、節齋集と名づく。

チンイウ　陳熊　(明)銳の子。正德三年、出て漕運を督す。劉瑾、金を索む。應ぜず。竟に陷れらる。瑾敗れ、復爵して卒す。

チンイウ　陳友　(明)其先は四域の人。全椒に家す。正統の初、千戶に官たり。景泰天順の交、右都督に累進し左副總兵に充てられ武平侯に封ぜられて卒す。弘治中、沔國公を贈り武僖と謚す。

チンイウキ　陳友貴　(明)友諒の弟。連年兵を率ゐて明軍を苦しむ。至正二十三年、鄱陽に一敗するや、自ら焚死す。

チンイウジン　陳友仁　(明)友諒の弟。兄を佐けて頗る力む。至正二十三年鄱陽の役、焚死す。

チンイウテイ　陳有定　(元)字は安國。福清の人。本路總管と爲り、出て明兵と戰ふ。力屈し爲すべからざるを度り、北向自經して死す。

チンイウチン　陳有年　(明)字は登之。餘姚の人。克宅の子。嘉靖四十一年の進士。刑部主事を授けられ吏部を歷て驗封郎中に擢てらる。萬曆間、南京右都御史に累進す。卒す。太子太保を贈り恭介と謚す。時に萬曆二十六年正月。年六十有八。

チンイウヨウ　陳有容　(明)字は士弘。宣城の人。僉事龍の孫。萬曆七年の武舉。昌平千總に拜す。都督僉事に歷し、總兵官に進み、老を乞ひ歸り卒す。都督同知を贈る。

チンイウリヤウ　陳友諒　(明)沔陽漁家の子。嘗て書獄の吏となり、樂まず。徐壽輝倪文俊等が兵を起すに會ひ、慨然として往て之に從ふ。初め文俊が簿書掾となり未だ幾ばくならずして亦た兵を領して元帥となる。文俊漸く專恣、壽輝を殺さんと謀り果さず。友諒遂に文俊を擊殺し其軍を併せて自ら平章と稱す。壽輝制する能はず。至元二十年五月遂に壽輝を太平路に殺して自ら帝と稱し國を漢と號し大義と改元す。明軍震動し或は降らんと欲す。劉基曰く、敢て降を言ふ者は斬らんと。乃ち檄を發して友諒を擊つ。友諒、武昌に奔り湖廣の地に據る。二十三年四月、友諒、進んで南昌を圍む。兵六十万、其氣甚だ盛なり。太祖自ら軍を督して赴き援け、風に乘じて火を友諒の戰艦に放つ。江水盡く赤し。友諒、流矢に中りて遂に死す。其子理、武昌に奔る。太祖、勝に乘じて之を攻む。乃ち出て降り、江西湖廣盡く平ぐ。

チンイカウ　陳寅行　(唐)字は周道。潁川の人。進士に舉げられて尚書左僕射に累官す。性介特不群、深く主の知る所と爲る。足病を以て罷むるを乞ひ、出て河東節度使と爲る。

チンイカウ　陳夷行　(宋)臨海の人。公輔の子。進士に登る。治行高潔なり。

チンイキン　陳以勤　(明)字は逸甫。南兗の人。嘉靖二十年の進士。庶吉士より檢討に改む。累遷して洗馬たり。世宗を歷く祭

宗に至り、禮部尚書兼文淵閣大學士に擢し、機務を參す。少傅兼太子太傅を加へられ武英殿に改む。屬精輔導す。罷むを求む。遂に兼太子太師吏部尚書に進み、傳を賜ふ。卒する年七十有六。太保を贈り文端と謚す。

チンイセイ　陳以誠　(明)秀才の人。詩畫を善くす。永樂間の大醫なり。

チンイツ　陳鎰　(明)字は有戒。吳縣の人。永樂十年の進士。御史より副使に擢てらる。正統景泰の交、左都御史に擢し、太子太保を加ふ。四年秋、疾を以て致仕し卒す。太保を贈り僖敏と謚す。子伸。

チンイツゲン　陳一元　(明)侯官の人。萬曆中。江西に官たり。驛遞、法り。疾を移して去る。天啓の初、應天府丞に歷し、事を以て勅罷せらる。崇禎の初、復官す。後家に卒す。

チンイン　陳寅　(宋)西河守たり。元兵城に薄る。寅、智を竭して固守す。力、支ふる能はず。遂に陷る。要杜氏、鴆を飲んで自殺す。寅また劍に伏して死す。

チンウテイ　陳于廷　(明)字は孟謙。宜興の人。萬曆二十三年の進士。知縣より御史に擢す。崇禎中、左都御史に拜す。事に坐し削籍す。尋で卒す。福王の時、少保を贈る。

チンウヘイ　陳于陛　(明)字は元忠。以勤の子。隆慶二年の進士。庶吉士より編修に進み、萬曆の初、世穆兩朝實錄を預修す。太子太保に歷す。萬曆二十四年冬病んで位に卒す。少保を贈り文憲と謚す。

チンウワウ　陳于王　(明)字は丹衷。吳縣の人。世々蘇州衛千戶たり。既に襲職して再び武鄉試に舉げられ、奇兵營守備を授けらる。崇禎十年太湖の役、戰歿す。昭勇將軍指揮使を贈る。

チンエイ　陳嬰　(秦)本と東陽令史たり。縣中に居り素より信謹なり。東陽の少年その令を殺し、嬰を立てゝ王と爲さんと欲す。嬰の母謂て曰く、我れより、未だ汝の先に貴者ありしを聞かず、今暴かに大名を得るは不祥なり、屬する所あるに如かずと。嬰乃ち止む。後、楚の懷王に相たり。

チンエイ　陳瀛　(明)珪の族。土木の變に死す。寧國公を贈り恭愍と謚す。

チンエイ　陳銳　(明)孫の子。成化中、平蠻將軍の印を佩びて兩廣を總制す。弘治の時、水を治し寇を平げ、太傅兼太子太傅を累加せらる。總兵官に擢す。後ち勅罷せられ、十三年家に卒す。

チンエイ　陳英　(明)錄の子。善く梅を畫く。

チンエイキ　陳永貴　(南北)隴右の胡人。本姓は白。勇力を以て高祖に親愛せられ、屢々戰功を樹つ。北陳郡公に封ぜらる。

チンエウガク　陳幼學　(明)字は志行。無錫の人。萬曆十七年の進士。確山知縣に授けられ、汕州知府となり、按察副使を加へられ、九江の兵備を督す。天啓四年卒す。年八十四。

チンエキ　陳奕　(宋)初め賈似道に謁事して制置使となり、知黃州に進む。德祐元年元に降る。

チンエキ　陳繹　(宋)親に奉じて至孝なり。嘗て慶老室を作り以て其母を娛ましむ。丞介甫これに贈る詩に云ふ、種竹嘗疑ひ冬筍、開池放合通寒泉と。

チンエキ　陳易　(宋)字は體常。少にして學を好み、經史を該綜す。詩に工なり。淳熙の初、京師に遊ぶ。會々太學秋試あり。諸生競うて舉を止む。以爲らく、吾が學ぶ所以に非ずと。即ち棄て去る。乃ち佛氏の徒に從ひ、出世の法を論じて契する所あり。邑の蔡溪の左に就き廬を結んで居り、精進修行するもの五十年。崇寧の初、遺逸に舉げられ、また八行に舉げらる。就かず。宣和八年卒す。

チンエツシ　陳說之　(宋)緣の子。

チンエフ　陳曄　(宋)字は日華。慶元の初、知汀州事たり。治績あり。

チンエン　陳演　(明)井研の人。天啓二年の進士。編修に除す。崇禎中、吏部尚書建極殿に累進す。會々都城陷り雄に死す。

チンオウリン　陳應麟　(清)字は璧山。江陵の人。父、明末の難に節に殉ず。應麟、清に入りて孑然、身を終るまで仕へず。畫を賣りて自ら給す。專ら蘆雁に工なり。遂に絕藝を成す。

チンカ　陳嘏　(唐)晉江の人。開成間の進

士。刑部郎中に累官す。宣帝嘗て其才を奇として曰く、陳覬は琬琰の器也と。

チンカ 陳訏 (金)字は和之。滄州の人。大安元年の進士。屢々封事を上りて得失を言ふ。

チンガ 陳賀 (漢)沛公に從うて軍功あり。

チンカイ 陳開 (宋)字は發明。太學生を以て熙寧の進士に登第し、密州教授に調せらる。時に太守蘇軾、深く之を器重す。居ること七年、密州の儒風の盛なるは開より始まる。後入りて太學博士と爲り、召對して二割を進む。其一は新法を排し、其一は小人を去り君子を進むるをいふ。言議激切なり。國に當るもの之を忌み、出して雄州通判と爲す。尋いで宗正寺丞に升る。金紫光祿大夫を累贈す。蔡襄その行を狀す。

チンカイ 鎭海 (元)怯烈台氏。軍伍長を以て太祖に從ひ戰功あり。太宗の時、中書右丞相に拜せられ、扈從して西京に至り、攻めて河中河南の諸州を下す。功を以て恩州一千戶を賜ふ。是より先、天下の童男女及び工匠を收めて局を弘州に置き、既にして西域の織金綺工及び汴京の織毛褐工各三百餘戶を得たり。皆弘州局に分隸し、鎭海に命じて世業を爲さしむ。定宗の時卒す。年八十四。

チンカイ 陳海 (明)友定の子。一名は綜海。騎射に工に、亦文士を禮するを喜む。父既に執へらるゝ。是に至りて出でゝ明軍に降り、從つて死す。時人完節と稱す。

チンカイウン 陳開運 (清)字は而鈞。清流の人。父病む。股を割きて以て進む。兄弟八人、友愛にして間言なし。

チンカウ 陳綱 (漢)字は仲烈。少にして同郡の張宗と同じく、學を南陽に受く。綱、母の喪を以て歸るに及び、宗、安衆劉元の爲に殺さるゝ。綱、喪を免れて復た南陽に往き、元が醉臥せるに値ひて遂に之を殺し、自ら有司に拘す。赦に會うて免るゝを得たり。

チンカウ 陳綱 (宋)字は學正。泉州同安の人。淳化中、進士に第し、建州觀察推官と爲りて惠政あり。

チンカウ 陳皓 (宋)字は彥單。倜儻にして大志あり。武略を負ふ。靖康の初、金人順を犯す。慨然として義兵を集めて王に勤む。建炎の末、寇、都石城を陷る。皓、肯て降らず、潛かに長汀より敗兵千人を募り、子敏と死戰す。賊退く。捷聞す。借りに承信郎に補せらる。敏、武義大夫たり。

チンカウ 陳高 (宋)字は可中。開の從子。仙游の人。元符中、進士に第す。召試して太學祭酒に除せらる。襲原、ろの心を經術に潛め尤も易に深きを薦む。博士に遷る。政和中、始めて醫學を建つ。太醫學司業に除せらる。累りに封事を上り、蔡京の怒に觸れて致仕す。

チンカウ 陳頴 (元)字は仲明。仁宗に侍して賢聖の道を開陳す。即位に及び、特に拜して集賢大學士と爲し、禁中に宿せしむ。順帝、累朝の老臣を以て之を優遇す。至元間卒す。年七十六。魯國公を追封し文忠と謚す。

チンカウ 陳澔 (元)字は雲柱。又の字は可大。江西昌都の人。其家學を承けて深く禮典を探る。禮記集說を著す。

チンカウ 陳綱 (明)字は堅遠。應天の人。黔陽知縣たり。子沂、官、侍講たり。

チンカウ 陳鎬 (明)會稽の人。成化二十三年進士の第に登る。洪鍾に從つて賊を平げ、累遷して右副都御史たり。官に卒す。

チンカウ 陳剛 (元)字は公潛。浙の平陽の人。晝夜研索、易詩書三經の要旨に通ず。後ち兩目俱に盲す。人業を請ふ者あれば、猶能く口授す。潛齋先生と稱す。

チンカウイ 陳孝意 (隋)雁門郡丞たり。煬帝の時、馬邑の劉武周、亂を作し來り攻む。孝意これを拒ぎて遂に死す。

チンカウウン 陳亨運 (宋)字は俊民。仙游の人。孝行あり。乾道中、詔して孝廉を擧ぐ。縣令、亨運を以て詔に應ず。固辭して受けず。乃ち粟帛を饋りて其孝を旌す。

チンカウセン 陳孝先 (漢)ろの名詳ならず。(孝先は字)蹇の孫。諶の子。

チンガウチウ 陳剛中 (宋)字は之深。侯官の人。性慷慨、敢て事を論ず。胡銓、秦檜を劾するを以て昭州に貶せらる。剛中、啓してその不當をいふ。檜怒り、遂に張九成と同じく謫せられて客死す。貧にして葬る能はず。士論これを惜む。

チンカウハク 陳廉伯 (宋)字は長卿。七陽の人。直節を以て秦檜に忤ひ、家居すること十餘年。檜死して尚書左右僕射に拜せらる。性、沈靜明敏、語妄りに發せず。嘗て謂ふ、大臣は當に心を盡すべし、佞阿、黨を植つるが如きは鄙夫の爲す所と。每に高宗に勸めて早く兵備を爲さしむ。因て奏して曰く、金狄亂を敗り天人共に憤る、今日の事進むありて退くなし、聖意堅く決せば將士の勇自ら倍せんと。帝嘗て輔臣に謂て曰く、廉伯、器量あり、其の從容として迫らざるは晉の謝安に比すべしと。卒して信國公に封ぜらる。

チンカウミン 陳暻民 (漢)高祖に寵倖せられ左右に侍す。嘗て詔を矯め諸將の讒を排し軍を敗る。天福中、誅に伏す。

チンカウ 陳恪 (宋)青神の人。希亮の次子。官、滑州推官たり。

チンカウ 陳柄 (宋)字は季壬。平陽の人。政和中の進士。權禮部侍郎たり。寬洪蘊藉、誠を以て物に接す。而して榮利に淡し。自ら無相居士と號す。文集十六卷あり。子汝楫、汝賢、汝諧。孫峴。俱に辭學を以て第に擢でらる。

チンカク 陳鶴 (明)字は鳴野。海樵と號す。山陰の人。嘉靖の時、百戶を襲ぐ。後ち棄て去て山人となる。神字奇秀 學三教を兼ね古詩文に精し。又水墨花草を善くす。獨己意を出す最も超絕となす。山人交游天下に偏れく而して好て騎士を拔く。或は四方に往く、必ず山人の片言を借りて豪貴を動かす。山人の飲に値ふ每に、紫華を載せて以て山人に進む。彝を撫ひ觴を握り須臾にして累幅各乞ふ所に愜ふ、而して後止む。

チンガク 陳岳 (唐)玉笥の人。南昌觀察判官に累官す。唐書を著はし、高祖より穆宗に至るまで統紀一百卷と爲す。子澹。

チンガク 陳諤 (明)字は克忠。番禺の人。永樂中、鄕舉を以て太學に入り刑部給事中を授く。剛直を以て著はる。言を以て貶せらる。宣德三年、鎭江同知を辭し歸り卒す。

チンガクシン 陳學心 (宋)崇安の人。淳祐間の進士。高州知府に歷官す。謝枋得、兵を起すや、學心をして安仁を守らしむ。元兵至る。力戰して之に死す。

チンカクミン 陳覺民 (宋)字は遠野。仙游の人。熙寧の初、登第。元祐間、潼州復州建州に知たり。至る所治行あり。改めて泉州に知たり。時に有司建言して、六郡の酤を榷せんと欲す。覺民、五不可を陳ず。本路の提刑に遷る。風采嚴峻、人これを憚る。

チンカゲン 陳嘉言 (宋)景陵の人。復州學と爲り諭すに行文を以てす。鄕里の推す所たり。開禧の初、金人景陵を犯す。嘉言、その執ふる所となり、屈せず。自ら水に沈む。同室六人俱に死す。

チンカタイ 陳可大 (宋)字は齊賢。仙游の人。父汝器、善行あり。可大、政和中登科して漳州工曹に調せられ、後、肇慶府に知たり。民、欺く能はず。郡を去るの日、惟だ衣衾書籍のみ。官、朝議大夫に終る。

チンカフ 陳洽 (明)字は叔遠。武進の人。好古力學す。兄濟弟浚と並に名あり。洪武中、兵科給事中に除す。成祖の時、兵部尚書に累遷す。宣德元年奚趾の役、深く敵地に入り、淳ゝ陷り創を被る。賊數人を殺し自刎して死す。少保を贈り節愍と謚す。子樞。

チンカボ 陳嘉謨 (清)字は我師。江蘇興化の人。邑の諸生。父宏道、怨家の誣ふる所と爲りて府獄に繫がる。嘉謨、血を刺して訟寃の書を作り、自ら河に沈む。兩淮鹽運使これを知り、立ろに其父を獄より出し、其尸を鈔關河ゝ求めて之を禮葬す。

チンカン 陳咸 (漢)字は子廉。萬年の子。郎と爲る。異才あり。抗直にして數々事を言ふ。元帝の時、御史中丞に擢でられ、冀州刺史に累官す。後、尙書と爲る。王莽、政を專にし、何武鮑宣を誅するや、咸、喟然として歎じて曰く、吾以て逝くべしと。即ち骸骨を乞つて去り、父子相與に鄕里に歸り、門を閉ぢて出入せず、猶ほ漢家の祖の臘を用ふ。或人之を問ふ。答て曰く、我が先祖豈に王氏の臘を知らんやと。嘗て子孫を戒めて曰く、人の爲に法を議せば常に輕きに依るべし、百金の利ありと雖も愼みて人に重きを與ふる勿れと。

チンカン　陳侃　(宋)字は君和。永嘉の人。建牙郷に居り。親に事へて至孝なり。親、疾あれば、省侍嘗藥、夜も衣を解かず。喪を執り禮を盡す。五代同居し、家に異爨なし。至道二年、郡守何槩ろの事を上る。太宗之を嘉みし、詔して其門閭に旌表して孝門陳君と曰ひ、其母李氏に束帛粟米を賜ふ。侃、祥符七年卒す。

チンカン　陳鑑　(明)字は貞明。高安の人。宣德二年の進士。行人を授く。正統中、御史を擢す。按察使に累遷し、事に坐し獄に繫がる。景帝立ち赦を得。河南參議に任じ、致仕して歸り卒す。

チンガン　陳巖　(唐)字は夢臣。建寧縣の人。慷慨にして志略あり。乾符間、黄巢、福建諸州を轉畧す。巖、衆數千を聚め、九龍軍と號して鄉里を保つ。巢、害を爲す能はず。時に邑、黄の爲に鎮を連ぬ。巖、表して寧義軍と爲し、皷角を置き牌印を賜ふ。巖、餘寇を剪し鄉井を撫安す。境内之に賴る。中和四年、福建觀察使鄭鎰、巖を表して自ら代る。巖、治を爲すに威惠あり。吏民懷服す。

チンガン　陳巖　(宋)陳奕の子。知安東州たり。奕已に降り、書を以て之を諭す。轍ち元に入る。

チンガン　陳顔　(宋)汲縣の人。父光、壽陽尉を命ぜらる。未だ赴かず。金兵、汴を取るに値ふ。光病んで城中に圍まる。顔、闕を過ぎ河を渡り、往きて其父を省し、因て病を扶けて北に歸る。光の家奴、光人を殺すと誣告す。乃ち獄に繫がれ、拷掠に勝へず、因て誣に服す。顔、郡に至り、代りて死せんと請ふ。帥臣曰く、此れ眞の孝子也と。遂に併せて之を釋す。

チンガン　陳顔　(金)漳州汲縣の人。世々農を業とす。孝を以て聞ゆ。天會七年旌表す。

チンカン　陳巖　(明)陳遷の子。字は景高。東山と號す。能く父の業を繼ぐ。

チンカンキ　陳國輝　(明)字は木叔。臨海の人。崇禎　年の進士。知縣たり。魯王の時、禮部右侍郎に擢す。王に從つて海に航し、已にして相失す。哭して雲峰山に入り、絶命詞十章を作り水に投じて死す。

チンカンジヨ　陳鑑如　(元)杭州の人。寫貌に精し。元の第一手なり。其子芝田能く其學を世々にす。

チンカンノツマ　陳諫要　(明)李氏。番禺の人。諫、大平推官と爲り死す。其弟、懶を扶けて歸る。李氏曰く、吾少藝なり豈叔と同歸すべけむやと。遂に食せずして死す。

チンキ　陳痴　(漢)宛朐の人。高祖に從うて功あり、陽夏侯に封ぜられ、趙の相國を以て將として趙代の邊兵を監す。賓客盛なること甚だし。趙相周昌、恐らくは變あるを奏す。高祖七年、太上皇崩ずるに及び、上、人をして痴を召さしむ。病と稱して出でず、遂に王黄、曼丘臣等と反し、自立して大王と爲り趙代を劫暴す。上親征す。十二年冬、樊噲の軍卒、迫て之を霸丘に斬る。

チンキ　陳喜　(漢)元狩の間、淮南王に黨し兵を舉げて反す。遂に棄市せらる。

チンキ　陳龜　(漢)字は叔珍。順帝の時、匈奴に使し、事を以て獄に下さる。後、免されて京兆尹に拜せらる。

チンキ　陳紀　陳奇　(漢)字は元方。寔の長子。(南北)河北の人。少にして孤、母に事へて至孝なり。博く諸經に通じ、易に於て尤も邃し。常に鄭玄馬融が經を解して旨を失するを非とし、因て自ら注釋を作る。河間の刑祐と同じく召に赴き、秘書太尉に補せらる。高允曰く、奇、通識遠致、凡學の及ぶ所に非ずと。ろの名流の爲に知らるゝ此の如し。

チンキ　陳起　(五代)歙州の人。南唐の進士に舉げられて黄梅令と爲る。時に妖賊諸祐といふ者あり。衆を積むこと數百、夜行き貴伏し貨を盜に取る。起、官に到りて數日、祐を繕して里長と爲す。服せず、且つ慢言して起を辱む。起聞き、祐を執へて之を斬る。是に由りて名を知らる。監察御史に遷る。

チンキ　陳祝　(宋)字は元明。密州安丘の人。建炎元年、直龍圖閣知總安府に除せらる。王事に勤め金人と戰て功あり。樞密直學士、知廬州兼淮西安撫を以て卒す。年七十、右正議大夫を贈る。

チンキ　陳觀　(宋)字は德純。仙游の人。元符中、進士に第す。直講張讀、參政李邴と友とし善し。宗學博士に歴す。性鯁直。蔡京、事を用ふ。之が爲に屈するを恥ぢ、相見るを肯んぜず。溫州通州に歴す。年六十二、即ち冠を掛け、自ら安處居士と號す。

チンキ　陳驂　(宋)字は叔通。臨海の人。紹興中登第。將作少監に累官し、贛州太平寨に歴知す。光宗の時、吏部侍郎兼侍講と爲り、詔に應じて三十條を號す。皆時弊に切なり。寧宗の時、知樞密院事兼參知政事たり。卒して少傅を贈り、文簡と謚す。

チンキ　陳規　(金)字は正叔。絳州穫山の人。博學にして文を能くす。諸官を歴て、正大中出でゝ中京副留守となり、未だ赴かずして卒す。士論之を惜む。規、剛毅貞實、古人の風あり、學問に篤く老に至りて廢せず、詩亦律度あり。

チンキ　陳夔　(元)祐の子。号陂屯田萬戶。揭州に在り、父盜に遇ひて死すと聞き、泣て行省に請ひ、父の讎を復するを願ふ。遂に賊魁七人を擒にし、紹興市に戮す。

チンキ　陳瑾　(明)餘姚の人。世宗に仕へて官御史たり。嘗て同官と偕に大學士殿嵩を極劾し、後ち搆陷せられ斥けられて罷む。

チンキ　陳潤　(明)字は仲謙。武昌の人。畫家。永樂中、太祖の御容を寫す。

チンキ　陳沂　(明)字は宗魯。後ち魯南と改む。少うして蘇氏の學を好み小坡と號す。又石亭と號す。正德丁丑の進士。年方に七歳、便ち筆を擲して古人の畫を模倣す。後翰林に入り文待詔と議論し、其畫更に進む。累官して山東參政に至り、權貴に阿附せざるを以て致仕す。凡ろ宦遊歴覽する所の名山大川、便ち圖して卷を成す。最も河中萬玉の妙を得。初め金陵三俊の一となり、後ち又宏治十才子の稱あり。

チンキ　陳熙　(明)字は子明。五院と號す。吳縣の人。楓橋の祖野に居り。畫を善くす。山水は宋元の筆意を得たり。性豪曠にして舉書を長れ、興至れば揮染す。購ふもの必ず盈候して而して得。

チンギ　陳儀　(明)字は象之。穀の子。豊家。人物に工なり。下筆瘦なし。一代の妙となす。

チンキウ　陳宮　(漢)字は公臺。東郡の人。呂布に從ひ布の爲に畫策す。

チンキウ　陳球　(漢)字は伯真。下邳の人。少にして儒學に渉り律令を善くす。孝廉に舉げられて侍御史に累官す。桂陽の李研、衆を聚めて寇を爲す。球を命じて零陵太守と爲す。期月にして盜息む。南陽太守に遷り後に廷尉と爲る。

チンキウセン　陳九川　(明)字は惟濬。臨川の人。正德九年の進士。王守仁に從つて遊ぶ。太常博士を授けらる。南巡を諫疏して削籍せらる。世宗立ちて故官に復し、累遷して主客郎中正たり。再次人に訐かれ鎮海衛に貶せらる。赦に遇ひ、放還せられて卒す。

チンキウチウ　陳九疇　(明)字は禹學。曹州の人。倜儻にして權略多し。弘治十五年の進士。刑部主事に除す。武德を以て名あり。正德中、劉瑾に陷れらる。尋て復しまた罷む。世宗の時、故官に起ち、副都御史に累進す。四年春致仕す。

チンキガ　陳季雅　(宋)著、漢唐論斷あり。世に行はる。

チンキギ　陳貴誼　(宋)祿清の人。慶元中の進士。參知政事兼同知樞密院事に累官す。理宗嘗て其の憂國の言ありるを奬む。卒して少保を贈る。

チンキキフ　陳希伋　(宋)字は思中。揭揚の人。未だ第せざる時、太學生馬錫が文武の才あるを薦め、擢用せんことを乞ふ。後、錫、功を立つ。人、希伋を以て人を知ると爲す。嘗て上書して利害數万言を陳す。皆時弊に切なり。元祐中、經明行脩を以て第一に舉げられ、知梅州に擢でらる。

チンキグ　陳其愚　(明)安邦彥の黨。

チンキサウ　陳希造　(宋)字は賢復。仙游の人。吉老の子。紹興中、吉老、汀州に倅たり。希造、往きて之に侍し、賊と戰うて之に死す。汀人、祠を建てゝ之を祀る。

チンキサツ　陳機察　(元)世祖の時、兵を漳州に起して龍巖に寇す。即ち誅滅せらる。

チンキセキ　陳其赤　(明)字は赤文。崇仁の人。崇禎元年の進士。兵備副使を歴、成都を守る。崇禎十七年八月、張獻忠成都に寇す。乃ち巡撫龍文光を佐けて協守す。城陷る。石花潭に投じて死す。

チンキソウ　陳起宗　(宋)字は興祖。少に

して上座に入り、連りに多士に冠たり。年三十七、徽猷閣學士を以て幷州に知たり。起宗、詩に工に、瀟灑として陶謝の風あり。

チンギチウ 陳宜中 (宋)自中の兄。宋末、益王廣王南遷す。宜中往きて之に從ふ。益王(端宗)立ちて位に即き、宜中を以て左丞相と爲す。景炎二年十一月、元の劉深、舟師を以て淺灣を襲ふ。帝、秀山に走る。宜中、占城に往きて兵を求む。遂に復た還らず。

チンキツラウ 陳吉老 (宋)字は子州。仙游の人。紹興の初、維揚帥と爲る。高宗、鞍馬金帶を賜ひ、以て其行を寵す。時に秦檜和議を主とす。吉老力めて之を黜く。既に卒して奉直大夫を贈る。

チンキン 陳欽 (漢)蒼梧廣信の人。春秋左氏傳を治む。三輔決錄に謂ふ、左氏春秋の遠く蒼梧に在るは即ち欽によると。武帝の時、武雄將軍と爲る。子元。

チンキン 陳琨 (晋)字は延思。陳國苦の人。少にして文學あり。その父、宅を起し門を通つ。讀曰く、當に車馬を容れしむべしと。父笑つて之に從ふ。仕へて梁州刺史に至る。

チンキン 陳欣 (南北)字は永怡。宜陽の人。少よして驍勇、氣慨あり。容姿魁岸。同類咸く之を敬憚す。魏の孝武西遷の後、欣乃ち勇敢の少年を招集し、密かに往きて歸附す。立義大都督を授けられ、爵霸城縣を賜ひ、宜陽郡守に累遷し、後、熊州刺史に除せられ、遂に州に卒す。欣、兵を境上に繞ぶると三十餘年、麗々勁敵に對して常に功名を保つ。身死するの日、將吏その恩德を荷ふもの感慟せざるは莫し。

チンキン 陳肸 (南北)字は君章。義興國山の人。慶之の長子。七歳、能く騎射す。十二歳、父に從うて鴻臚卿朱異に謁す。異、甚だ之を奇とす。後、父と共に魏兵と戰ふ。魏の將、堯雄、於寶樂、その驍勇を恃みて單騎校戰せんことを求む。肸、乃ち躍り出づ。雄、寶樂、潰敗す。大清二年、侯景、歷陽を圍む。肸、景に擒へられて屈せず。遂に殺さる。

チンキン 陳均 (宋)字は平甫。俊卿の從孫。貧に安んじ學を力む。嘗て宋鑑學要備要二書を輯成す。太祖建隆庚申より起りて寶宗嘉定甲申に迄るまで、凡八十八卷。端平の初、時の宰相、朝に言す。福州に下して其書を取り、廸功郎を賜ふ。受けず。

チンキン 陳金 (明)字は汝礪。歷城の人。成化八年の進士。初め整源知縣に除し、後ち浙江を按じて文武大僚十九人を劾す。殿直を以て開ゆ。曾て流賊を討ずるの功を以て南京戶部右侍郎に進む。孝宗崩じて武宗立ち、給事中に改む。母の老を以て歸を乞ふ。允さず左都御史に擢す。憂歸、故官に起ち、歸江の賊を討平す。太子少保を加ふ。世宗即位す。老を請うて歸り、之を久うして卒す。

チンキヤウ 陳貺 (五代)閩人。忠操古朴。苟くも仕進せず。廬山に居ること三十年、學者多くは之に師事す。南唐主、幣を以て之を致す。貺、布裘麁粝、進止閑雅、因て景陽台懷古の詩を獻ず。南唐主、善しと稱す。官を授けんと欲す。固辭す。乃ち粟帛を賜ひて遣し還す。

チンキヤウ 陳競 (宋)德安の人。十八世同居す。太宗その門に旌褒す。世に義門陳氏と號す。弟旭、江州助教に拜せらる。

チンキユ 陳奇瑜 (明)字は玉鉉。保德州の人。萬曆四十四年の進士。知縣たり。天啓中、陝西右參政に歷す。崇禎間、兵部尚書兼右僉都御史に累遷す。後勅罷せらる。聿鍵、閭に自立し、召して東閣大學士とす。道遠くして未だ命を聞かず、家に卒す。

チンキヨ 陳秬 (宋)蒙の孫。

チンキヨウ 陳恭 (明)遇の長子。太祖の朝の學人。累官して工部尚書に至る。能擘あり。

チンキヨウキン 陳恭尹 (清)字は元孝。順德の人。自ら羅浮布衣と號す。李元仲、彭躬菴等と善し。皆明の遺民なり。恭尹、詩古文に工に縁れて書法に精し。未だ冠せざるに、姑蘇懷古諸詩を賦して一世を傾動し、名大に起る。洪稚存、嶺南三家を論ず。句あり、云ふ、尙得古賢雄直氣、嶺南猶似勝江南と。

チンキヨク 陳旭 (宋)陳升之の初の名。

チンキヨク 陳旭 (明)全椒の人。指揮僉事彬の子。官を嗣ぎ、會州衛指揮同知に歷し雲陽伯に封ず。永樂八年、疾を以て軍に卒す。

チンギヨクキ 陳玉琪 (唐)字は匱明。號は椒峰。武進の人。廉熙六年の進士。官、中書たり。學文堂集を著す。玉琪、幼にして大志あり。凡そ經世の書、講求精熟せざるは莫し。詩文を作るに筆を下せば千言、旬日の間、動もすれば尺に盈つるに至る。書を讀みて夜に入り、兩眸合せんと欲すれば、輒ち艾を用ひて臂を灼く。其の苦學此の如し。

チンギヨクデン 陳玉璧 (清)山東歷城の人。乾隆三年、進士を以て遼義府に守たり。郡人もと蠶を知らず。玉璧、蠶師を招きて之を教ふ。利を獲ること百八十萬。是より郡挙く蠶を養ふ。而して遼紬の名、遂に吳綾蜀錦と價を爭ふ。

チンキヨジン 陳居仁 (宋)字は安行。膏の子。紹興中の進士。秦檜、膏と舊あり。或人、居仁に、一たび檜を見れば美官を得べきを勸む。居仁聽かず。咸子監丞に累官す。後、寶文閣待制を以て福州に知たり。著、奏議制稿あり。

チンキリヤウ 陳希亮 (宋)字は公弼。青神の人。幼にして孤なり。學を好む。其兄、息錢を治めしむ。希亮、悉く逋家を召して其券を焚く。天聖中、進士に擧げられて數府州に歷知し太常少卿に累官す。才幹剛直を以て名あり。子忱、恪、恂、慥。

チンキレツ 陳希烈 (唐)宋州の人。博學にして尤も黄老に深く文章に工なり。開元中召されて禁中に進講す。累遷して同中書門下平章事たり。左丞相兼兵部尚書許國公に遷り、又秘書省圖書使を兼ぬ。已にして失職賴る所無し。後、安祿山に興す。肅宗、上皇の素遇する所たるを以て特に死を家に賜ふ。

チンキヤン 陳希尹 (明)寫照を善くす。亦善く虎を畫く。

チンク 陳渠 (宋)寧郡の人。繼周の次子。文天祥に從ひて江西を攻め、病みて死す。

チングウ 陳遇 (明)字は中行。先世は曹人。後建康に徙居す。天資沉粹、篤學博賢、象數の學に精し。また畫を善くす。元末、溫州教授たり。已にして官を棄てゝ歸隱す。學者稱して靜誠先生とす。後太祖に聘せられ供奉司丞を授けらる。辭す。三たび翰林學士を授く。また辭す。而も常に樞機に參し鴻業を裨く。洪武十七年卒す。葬を鍾山に賜ふ。子恭、遠。

チンクン 陳繼 (明)崇禎中、官、關南兵備副使たり。十七年四月、端王を護して蜀に入る。會々賊李自成の成都を陷るゝに遭ひ、難に死す。

チングン 陳群 (三國)字は長文。羣の孫。紀の子。初め漢に仕へて治書侍御史と爲る。魏に入りて御史中丞と爲り、司空に累官し、尙書の事を錄す。人と爲り弘博にして伐らず。

チンクンサ 陳君佐 (元)宿州の人。廣陵に寓居す。墨戲を善くす。宋の徽宗を師とす。山水は夏珪馬遠を法とす。

チンクンヒン 陳君實 (唐)貞觀の初、登州刺史たり。州、騷亂の後を承けて、民多くは流亡す。君實、加意勞徠す。期月ならずして皆業に復す。時に四方霜潦あり。獨り君實の治むる所は年あり、儲廩充實す。詔して之を褒む。

チンクワ 陳禾 (宋)字は季實。鄞縣の人。元符中の進士。殿中侍御史に累官し左正言に遷る。朝に立ちて風操あり。嘗て奏對して童貫を論じて已まず。徽宗、起たんと欲す。禾、帝の衣を引きて其說を畢へんことを願ふ。衣の裾落つ。帝曰く、正言、朕の衣を碎くと。禾曰く、陛下衣を碎くを惜まず、臣豈に首を碎きて以て陛下に報ゆるを惜まんやと。帝、色變じて曰く、卿能く此の如し、朕また何をか憂へんやと。卒して文介と謚す。

チンクワイ 陳懷 (明)合肥の人。眞定副千戶を嗣ぎ、永樂の初め都指揮僉事に至る。左都督に改む。英宗位に復し、平鄉伯に封ず。正統十四年、駕に扈して北征し、土木の變に死す。侯を贈り忠毅と謚す。子輔。

チンクワイ 陳洄 (明)義烏の人。經史百家に通ず。隱居して青霞冠を戴き白鳧裘を披、舉事を謝絶す。其居大溪に近く竹多し。自ら竹溪逸民と號す。常に小艇に乘り短蕭を吹き、悠然自適す。

チンクワウコウ 陳皇后 (漢)長公主嫖の

女。孝武未だ太子たり一時之を娶りて妃と爲し、立て帝と爲るに及びて皇后と爲す。子無し。初め武帝の嗣たるを得るは長公主與りて力り。是を以て皇后寵を擅にし貴に驕る。衛子夫大に幸せらるゝを聞きて、恚りて幾んど死する者數々。上愈怒る。皇后嫉人の媚道を挾み、其事頗る覺る。乃ち廢せられて長門宮に退居す。

チンクワウコウ 陳皇后 (南北)齊の高帝の母。諱は道止。臨淮東陽の人。魏の司徒矯の後なり。后家貧し、少うして織作を勤む。宣帝に嫁し高帝を生む。宣帝殂して後后親ら勤を取り、婢過あるも皆恕して問はず。縣舍に殂す。建元元年追尊して孝皇后といふ。

チンクワウコウ 陳皇后 (南北)周の宣帝の后。名は月儀。自ら潁川人と云ふ。大將軍山提の第八女。德妃となり、天左皇后、天左太皇后、天中太皇后に累進す。帝崩じ出俗して尼となり名を華光と改む。

チンクワウコウ 陳皇后 (宋)神宗の妃。開封の人。初め御侍と爲り徽宗を生む。美人に進む。神宗崩ずるや陵殿を守りて毀瘠骨立す。左右粥藥を進むれども用ひず。幾ばくならずして薨ず。年三十二。徽宗追冊して皇太后と爲す。欽慈と謚す。

チンクワウコウ 陳皇后 (明)世宗の后。元城の人。嘉靖元年冊立して皇后と爲る。帝性嚴厲。一日后と同坐す。張力二妃、若を進む。帝其手を撫視す。后恚り杯を投じて起つ。帝大に怒る。后驚悸、墮娠して崩ず、時に七年十月也。喪禮殺に從ひ謚して悼靈と曰ふ。後ち帝意稍々釋け、乃ち謚を改めて孝潔と曰ふ。

チンクワウコウ 陳皇后 (明)穆宗の后。通州の人。嘉靖三十七年九月選ばれて裕王の繼妃と爲る。隆慶元年王即位し冊して皇后と爲す。后、子無く、多病にして別宮に居り。初め神宗東宮に在り、每晨帝及び生母に朝し、舉れば必ず后に之き安を問ふ、后履聲を聞けば輒ち喜ぶ。既に位を嗣ぎ兩宮に孝事して間なし。二十四年七月崩ず。謚して孝安と曰ふ。

チンクワウシン 陳廣心 (明)元城の人。家を乙傍に起す。城將に破れんとするに方り衣冠危坐す。諸子璆泣して避けんと請ふ。聲を厲まして曰く、吾平生學ぶ所は何事ぞ、豈兒女戀々の爲ならんやと。遂に殺さる。

チンクワウソ 陳光祖 (宋)字は世德。希造の子。英德府に知たり。尋いで邕州に改まり、後、特に廣東提刑に除せらる。

チンクワウチウ 陳黃中 (清)字は和叔。號は東莊。景雲の子。乾隆の初、博學鴻詞科に應じて不遇なり。乃ち縱游して、南、洞庭に臨み衡嶽に登り、東、錢塘に浮びて閩に入り、北、燕齊河岱の間に馳騁し、學益々精し。海寧の陳相國の知る所と爲る。嘗て書を相國に上りて用人理財養兵の大事を論じ、鬱々として利病に切に、少しも諱むと無し。卒する年五十九。著す所、宋史叢一百七十卷、新唐書刊誤、國朝謚法攷等の書あり。

チンクワウチヨ 陳宏緒 (清)字は士業。號は石莊。新建の人。明の季、縣令と爲りて惠政あり。尋で免され歸る。清に入りて屢々薦むれども赴かず。移りて章江に居り、宋遺民錄を輯し以て志を見はす。

チンクワウボウ 陳宏謀 (清)字は汝咨。號は榕門。廣西臨桂の人。雍正元年の進士。東閣大學士に累官す。宏謀、外任三十餘年、到る處治績あり。卒して文恭と謚す。

チンクワセイ 陳化成 (清)號は蓮峰。福建同安の人。行伍より起りて水師守備に官たり。五遷して遂に總兵に至る。鴉片戰爭の時、英人、乍浦を陷れ、進んで吳淞に逼る。化成、吳淞を扼守して大に英人を困む。而かも勢盡きて戰死し、城遂に陷る。時に道光二十二年なり。化成卒する年六十七、謚して忠愍といふ。

チンクワツ 陳括 (明)字は子正。沱江と號す。陳淳の子。飲酒縱誕竹林の習あり。擯放浪と雖ども終に俗流にあらず。

チンクワノツマ 陳和妻 (明)武邑の人。高氏。和早く死す。高、舅姑を奉ずること甚だ孝。舅姑沒す、時に年五十。泣て子剛に謂て曰く、我父死して城北に旅葬す、母、衆木小車輞を以て之を識す、尋で母亦死す、吾三十年敢て言はざるは、汝が祖母の在るを以てなり、今大事已に畢る、吾父の遺骸を舁ひ合せむと欲すと。母子竟に葬所に抵

るに縣果々辨ずる能はず。高氏髮を以て馬鞍に繫き道行す。一小塚に至るに鞍重くして前む能はず。其塚を開けば車輞宛然。觀る者驚異す。遂に母と同葬す。

チンクワン 陳完 (周)字は敬仲。卜を善くす。

チンクワン 陳瓘 (周)乞の長子。字は子玉。齊の大夫たり。簡公元年、魯を伐ちて克たず、宵に遁れて楚に如き衛に入る。

チンクワン 陳煥 (宋)字は少微。博羅の人。貧に安んじ道を守る。鄉人之を稱して陳先生と曰ふ。祭酒西燁、嘗て其廬に至り、贈るに詩を以てす。云ふ、原思(原憲)非病貧何戚、回也(顏回)雖貧樂有加、茂晩與誰同此味、梅花深處是君家と。煥また詩を能くす。世に傳るもの幾百篇。嘗て特科を以て高安縣簿に擬せらる。堅く辭して仕へず。

チンクワン 陳瓘 (宋)字は瑩中。自ら了翁と號す。沙縣の人。進士に登る。徽宗の朝、右正言と爲り、蔡京蔡卞を論ずるを以て、連りに通台楚州に謫せらる。瓘、平生、京卞を論ずるや、皆其處心を披摘し、其情慝を發露す。故に京の忌恨する所と爲り、禍ひ得ると雖も酷し。嘗て曾布の專權を論じ、貶せられて合浦に居り、子史中の關係ある者を摘錄して壁に粘し、之を久しうして合せて一卷と爲し、名けて壁記と曰ふ。或人、游酢に問ふに當世の人才を以てす。酢曰く、四海の人才、周く知る能はず、識知する所を以てすれば陳了翁その人也と。楚州に在るや病發る。劉安世、人をして醫藥自ら輔くべきを勸めしめて曰く、天下將に公の力に賴るとあらんとす、當に保養して以て時用を待つべしと。遂に楚州に卒す。諫議大夫を追贈し忠肅と謚す。著す所、兩漢議論八十卷、尊堯集十二卷あり。子正彙、また抗直を以て聞ゆ。

チンクワン 陳萁 (宋)安陽の人。進士に擧げらる。眞宗その名を識り、擢でゝ高第に寘く。少にして倜儻、好んで兵を談ず。刑部尚書、直昭文館、知湘州に累官す。嘗て兵略を著す。世頗る之を稱す。

チンクワン 陳灌 (明)字は子將。廬陵の人。湖廣行省員外郎に擢し大都督府に累遷し寧國知府に除す。丰儀嚴正にして治寬恤。洪武四年召されて京に入り卒す。

チンクワン 陳煥 (明)字は子文。堯峰と號す。蘇州の人。山水を作る。用筆蒼老勢極めて空遠、宋元の法脉を得、沈周の室に入る。吳中の後學多くこれを師法とす。臨倣の如きは尤も佳なり。

チンクワン 陳桓 (明)濠人。太祖に從つて滁和に克ち、寧國を取り、浙西を陷れ、中原を平け、累功して都督僉事を授けられ、洪武十七年普定侯に封せらる。後、藍玉に黨して誅せらる。

チンケイ 陳珪 (漢)下邳の人。球の姪。少にして袁術と游ぶ。術、異謀あり。書を珪に遺る。珪曰く、自ら營に力を漢室に竭すべし、私を營み阿附するは我れ爲さざる也と。

チンケイ 陳京 (唐)桐廬の人。制行あり。親の喪に墓に廬す。刺史蕭定上言す。詔して其門に表す。時人、居る所の鄉を目して至德と曰ひ、里を如曾と曰ふ。

チンケイ 陳經 (宋)字は正甫。安福の人。慶元中の進士。官、奉議郎泉州泊幹に終る。經、書を嗜み辭を成す。書解、詩講等の著あり。

チンケイ 陳畦 (宋)篆の曾孫。

チンケイ 陳珪 (明)字は伯珪。常熟の人。米氏父氏を師とし、山水を畫く。筆意高雅、輕しく人の爲めに作らず。

チンケイ 陳圭 (明)黃巖の人。父鑑人の爲に訐かれ死に當す。圭上奉して曰く、臣子と爲りて父を諫むる能はず、不義に陷るを致す、罪死に當す、乞ふ父を原して自ら新たならしめよと。帝大に喜で曰く、謂はざりき今日此孝子あらんとは、宜しく其父を赦して四方朝覲官の至るを俟ち、之を播告して以て天下を勵すべしと。刑部尚書開濟奏して曰く、罪は當刑あり、法を屈して僥倖の路を開くべからずと。乃ち圭に代るを聽し、其父をして雲南を戍らしむ。

チンケイ 陳圭 (明)熊の從子。屢々流賊を討ち功を以て太子太保、累加せられ總兵官に歷進す。永樂十一年官に卒す。太傅を贈り武襄と謚す。

チンケイ 陳敬 (明)增城の人。洪武十四年、賢良に擧げらる。曲靖府經歷たり、劍川州事を署す。鄰寇り攻む。敬之を禦く。

官兵寡くして退かんと欲す。敵目を瞋らして大呼し、力戰して死す。

チンケイ 陳珪 (明)泰州の人。洪武の初、龍虎衛百戶たり。成祖の時、都督僉事に歷進し泰寧伯に封ず。永樂十七年七月卒す。年八十五。靖國公を贈り忠襄と謚す。子愉。

チンケイ 陳涇 (明)濂の弟。天順六年廣西を鎭す。明年猺賊を伐ちて克たず。頗る士卒を損す。乃ち獄に下さる。尋で宥され、卒す。子桓。

チンケイ 陳繼 (明)字は嗣初。吳人。幼より孤。永樂中孝行に舉げらるゝこと一再。仁宗の時、國子博士に起ち翰林五經博士直弘文閣に改め、宣宗の初、檢討に擢す。疾を引き歸り卒す。

チンケイ 陳景 (清)字は借山。善く牛を畫く。人爭うて之を稱す。

チンケイ 陳敏 (清)陳廷敬の初の名。

チンケイウン 陳景雲 (清)字は少章。吳江の人。年十七縣の學生に補せらる。群書を綜覽し、而して尤も史學に深し。著す所、讀書紀聞十二卷より以て綱目辨誤、兩漢訂誤、三國志校誤等の書に及ぶ。

チンケイカイ 沈儆炎 (明)字は叔永。歸安の人。萬曆末の進士。右副都御史を以て雲南を巡撫す。黃鳴亂れ叛賊蜂集す。儆炎轉戰功あり。南京工部尚書に拜す。尋で中官に勃ぜられ職を落す。崇禎の初官に復す。家に卒す。

チンケイカウ 陳景行 (明)穆宗陳皇后の父。建昌の人。錦衣千戶を授く。隆慶の初、固安伯に封ず。恭敏人に過ぐ。諸子を誡むるに退讓を以てす。萬曆間卒す。贈贈優厚。人皆之を榮とす。

チンケイゲン 陳啓源 (清)字は長發。江蘇吳江の人。毛詩稽古編を著す。自ら記して謂ふ、時を閱する十四載、黨凡そ三たび易へて乃ち成ると。

チンケイシ 陳慶之 (南北)義興國山の人。幼にして梁の武帝に從ひ、甚だ親賞せられて威武將軍と爲る。後、假節總知軍事に除せられ屢々魏兵と戰ふ。魏人犄角、十三城を作る。慶之その四壘を陷れ、復た魏操して其九城を攻め、獲斬殆ど盡す。二子昕、暄、俱に名あり。

チンケイシ 陳繼之 (明)莆田の人。建文二年の進士。給事中に除す。時に江南の僧道、陝田多し。繼之請うて一人五畝を限り、餘は以て民に賦す。朝廷之に從ふ。兵部尚書に遷る。數々機宜を奏す。後燕兵冢に入り、執へらる。屈せずして死す。

チンケイシウ 陳繼周 (宋)字は碩卿。寧郡の人。淳祐中、衡陽縣に知たり。文天祥に從ひて王事に勤め、遂に之に死す。數文閣待制を贈り、忠節と謚す。子榮。

チンケイジュ 陳繼儒 (明)字仲醇。眉公或は麋公と號す。松江華亭の人。建文儒衣冠を取りて之を焚き、崑山の陽に隱居す。著述終焉の志あり。詩文を請ふ者虛日なし。閑暇衞を能くす。詩文工妙、兼ねて

には勝地に游び吟嘯返るを忘る。卒する年八十二。

チンケイセン 陳敬瑄 (唐)田令孜の兄。少にして餅師たり。性長愼、善く士を撫す。黃巢の亂、僖宗を蜀より幸し功を以て檢校左僕射同中書門下平章事に進む。後令孜と謀を通じて諸方を寇掠す。未だ幾ならず、幕下に斬らる。

チンケイソウ 陳敬叟 (宋)字は炳然。臨武の人。博學にして詩文を能くす。咸淳中の進士。迪功郎主簿を授けらる。元、宋に代る。遂に隱居して仕へず。益々力を詩文に肆にす。詩集若干卷あり。世に行はる。子章伯。

チンケイソウ 陳敬宗 (明)字は光世。慈谿の人。永樂二年の進士。庶吉士より直文淵閣に進み、永樂大典を修するに預る。正統中、祭酒に擢す。十二年冬致仕す。天順三年九月卒す。年八十三。後禮部侍郎を贈り文定と謚す。

チンケイダウ 陳桂堂 (清)性譎詭、頗る事機に洞る。初め官軍に通じて內應を爲し、後復賊に降り、遂に蘇州に斃る。時に同治二年十二月なり。

チンケイフ 陳經孚 (明)平陽の人。嘉靖中、日本入寇す。母を殺さんとす。經孚身を以て翼蔽し、遂に共刃に斃る。

チンケイブ 陳繼武 (明)嘑拜に從つて中衞を狥へ廣武を陷れ、至る所勃掠す。遂に捕へて磔せらる。

チンケウ 陳嬌 (三國)東陽の人。魏の明帝の時、尚書令たり。帝嘗て尚書門に至る。嬌、竟き請うて曰く、陛下何れに之かんと欲するかと。帝曰く、文書を按行せんと欲するのみと。嬌曰く、此れ臣の職、陛下の臨むべき所に非ざる也と。帝乃ち命じて車を回す。其直亮、此の如し。

チンケウ 陳喬 (五代)岳の孫。幼にして穎悟、文史を躭玩す。南唐に仕へて翰林學士承旨門下侍郎樞密使に累官し、社稷を以て己れが任と爲す。建康守られざるに及びて、喬自縊して死す。後主(李煜)既に降る。宋太祖ろの命に拒むが貴むの後主曰く、臣、陳喬の制する所と爲ると。時に喬既に死す。太祖うの忠を愍み詔して爲を改葬す。

チンケウ 陳嶠 (宋)字は景山。年六十に近くして及第す。儒家あり、女を以て之に妻はす。合巹の夕、詩を作て云ふ、彭祖尙開年八百、陳郎猶是小孩兒と。

チンケウキヨ 陳堯擧 (宋)南豐の人。淳祐中の進士。官、通判臨江軍に至る。嘗て江西運司の檄を承け、廬陵の士子を考試し、文天祥を拔擢す。或ひ其の人を知るを謂ふ。官に居りて瀋治に甘んじ、毫も妄りに取るを無し。學者稱して鳳岡先生と爲す。

チンケウサ 陳堯佐 (宋)字は希元。閩中の人。省華の次子。進士及第して、官、參知政事同平章事に至り、太子太師を以て致仕す。卒して文惠と謚す。人と爲り寬厚儉約、學を好んで聽ふず。古隸を善くし尤も詩に工なり。自ら知餘子と號す。著す所、文集三十餘卷あり。

チンケウシ 陳堯咨 (宋)字は嘉謨。閩中の人。省華の季子。弧矢に精し。自ら小由基と號す。咸平中、進士第一たり。其母馮氏問と爲り、荊南に出でゝ守たり。其母馮氏問うて曰く、汝、名藩を典り何の異政かあると。咨曰く、州、孔道に當る、客、堯咨の射を善くするを以て歎服せざるなしと。母曰く、汝の父、汝に敎ふるに忠孝國家を輔くるを以てす、今異政善化を務めずして卒伍一夫の技を專らにす、豈に汝が先人の意ならんやと。杖を以て之を擊つ。金魚地に墜つ。率して廉潔と謚す。

チンケウソウ 陳堯叟 (宋)字は唐夫。閩中の人。省華の長子。端拱の初、進士第一に登りて、同平章事に累官す。後、右僕射知河陽を以て卒す。文忠と謚す。堯叟、姿貌偉ゝとして奏對明辯、久しく機密軍馬の籍を典り、悉く能く周記す。著す所、請盟錄三集あり。

チンケン 陳騫 (晉)嬌の子。沈厚にして智謀あり。尚書郎と爲り太守に累遷す。並に功績を著す。後、安國定侯に封ぜられ、侍中都督揚州諸軍事に遷る。

チンケン 陳喧 (南北)義興國山の人。慶之の次子。學、師受せず。文才俊邁。性甚だ酒を嗜む。太康中、徐陵、吏部尚書と爲る。喧、直ちに陵の坐に上る。陵、喧を識らず、吏に命ずて持ち下す。喧、徐歩して出づ。舉止自若たり。後主、東宮に在り、引きて學士と爲す。位に即くに及びて、通直散騎常侍に遷る。後主甚だ之を親愛す。而かも之を輕侮す。嘗て倒に梁に懸け、之に臨むに刃を以てし、命じて賦を作らしめ、仍て限るに暮刻を以てす。喧、筆を拔きて即ち成る。後、傲弄轉た甚し。蓋し後主、容るゝ能はざる也。喧、悖を殺して遂に死す。

チンケン 陳塡 (宋)字は仲和。鄞縣の人。嘉定中の進士。文を善くす。仕へて國子司業に終る。子蒙。

チンケン 陳謙 (宋)字は益之。永嘉の人。寶謨閣待制に累官す。兩漢精義、春秋解等の書を著す。

チンケン 陳軒 (宋)字は元興。建陽の人。元祐中、龍圖閣待制を以て廬州を知たり。徽宗立つ。兵部侍郎に擢でられ、後、龍圖閣學士を加へられ、杭州に知たり。

チンケン 陳賢 (明)蕭州の人。太祖に從つて功を立て、雄武衛百戶を授けられ、都督僉事に擢でられ、榮昌伯に封ぜらる。永樂十三年卒す。子智前。

チンケン 陳謙 (明)字は士謙。訥菴逸人と號す。書畫皆趙松雪を宗とす。

チンゲン 陳元 (漢)蒼梧廣信の人。欽の子。父の業を傳ふ。父の任を以て郎と爲り、上疏して左氏の學を立てんと請ふ。武帝之に從ふ。司空府に辟さる。後、病を以て去り家に終る。子堅卿。

チンゲンカウ 陳元康 (南北)字は廣人。

頗る文史に涉り、機敏にして才幹あり。北齊神武に仕へて行人台左丞に累官す。

チンゲンクワウ 陳元光 (唐)鷹揚將軍を以て父に隨うて閩 攻む。父死して代りて將と爲る。永隆の初、擊ちて潮州の盜を降す。後、漳州の賊を討ちて戰沒す。

チンケンイ 陳堅卿 (漢)蒼梧の人。元の子。文を善くす。

チンゲンケイ 陳元敬 (唐)梓州射洪の人。弱冠にして豪俠なり。歲飢う。嘗て粟萬斛を散じて以て鄰里を賑はす。後、明經に擢でられて文林郎に拜せらる。武后、璠に居り。遂ゝ山樓し木を食うて終る。子子昂。

チンゲンケイ 陳元桂 (宋)臨川の人。淳祐中の進士。知臨江軍たり。開慶の初、元兵奄至す。元桂屈せず。遂に害せらる。正節と謚し、廣を死所に立つ。

チンゲンキヨウ 陳彥恭 (宋)字は子愿。莆田の人。元祐中、進士に登り、鑒州に通判たり。清謹を以て聞ゆ。河南の坑冶鑄錢を監轄し、蔡京の黨に忤ひて罷めらる。後、諫官府に知たり。民、像を畫きて之を祀る。

チンケンサイ 陳顯際 (明)眞定の人。崇禎中の進士。藥陽縣を知す。十七年春二月。清兵來り攻むる甚急なり。力支へず城陷り之に死す。

チンケンジン 陳鵬仁 (宋)字は臧用。大卞の季子。始め仙游に居り、後に莆田の浮山に移る。紹興中、登第して古田縣尉と爲る。時に大臣に顯仁を知る者あり。其文行以て諸儒に領袖たるべきを以て、遂に教授に除せらる。後、朝請大夫に累遷し、宗正少卿を攝す。初め大卞、書を著す万言、未だ上るに及ばずして終る。是に至りて顯仁その書を上る。報ぜず。屢々外補を乞ひ、宣和九年、直秘閣を以て潭州に知たり。官、朝議大夫に至る。

チンケンシヤウ 陳獻章 (明)字は公甫。石齋と號す。廣東新會の人。正統間鄉試、再び禮部に上る、第せず。書夜讀讀輟まず。陽春臺を築き其中に靜坐す。四方來學の者日に進む。薦を以て官に拜す。就かず。弘治間卒す。年七十三。萬曆の初、孔廟に從祀す。文恭と追謚す。獻章また詩を善くし墨梅を善くす。索むるもの多くは潤筆なし。石齋其柱に題して云はく、烏音人多來さ。或人其旨を請ふ。乃ち曰く、烏聲を聞かずや、曰く自臨自畫と。客絕倒せんとす。

チンゲンゼン 陳元善 (元)龍溪の人。儒を以て著る。賊其素行を聞き、脅從せしめむと欲す。罵りて臨かず。竟に家族と俱に害に遇ふ。

チンゲンソ 陳元素 (明)字は古白。萬曆の時の人。長州の諸生なり。墨蘭は楚腕清芬の致あり。寸縑尺素、人爭うて之を寶とす。常に詩酒を以て自ら娛しむ。山水を寫す、用墨清妙なり。

チンゲンタイ 陳元太 (宋)字は孔碩。號は北山。世に北山先生と稱す。溫州儒學教授に任ぜらる。その著、四書講義、世に行はる。宋末、吳の常熟に來り、其の風物を愛して遂に焉に居り。子後山、亦道學を以て鳴る。仲子昇、慷慨にして大節あり。當時に景仰せらる。孫伯琬、伯珪、皆邑の名士たり。

チンゲンタツ 陳顯達 (南北)齊の永明中、征南大將軍江州刺史と爲る。顯達廉厚にして知計あり。自ら人微にして位重きを以て、官を遷る毎に常に愧懼の色あり。

チンゲントク 陳德 (明)明初、括倉の進士。善く山水を畫く。

チンゲンハウ 陳元方 (晉)劉臻の妻。聰敏にして善く文を屬す。嘗て正旦椒花頌を献ず。時に稱して女流中の名宿と爲す。

チンゲンブン 陳彥文 (宋)陸の子。蘇州に居り。崇寧中、進士出身を賜ひ、日部侍郎、顯謨閣直學士より、優洪楚江四州に知たり。建炎の初、江淮制置使に除せらる。後、召されて都堂議政と爲る。

チンゲンリヤウ 陳元亮 (宋)仲微の從子。博學にして氣節を尙ぶ。咸淳の進士。時に洪瀛、臨安府尹たり。勢を逞しうして威を作す。元亮、諸生を率ゐて闕に伏しうして奸を數ふ。

チンゲンリヨウ 陳元龍 (清)浙江海寧の人。詵の弟。康熙二十四年の進士。官、文淵閣大學士に至り、太子太傅を加へらる。卒して文簡と謚す。元龍、學に涖むこと七年、義學を建て、廩廠を設け、育嬰堂を創め、心を撫字に盡す。吏は畏れ民は懷ふ。建つ

る所の陟河石堤及び卅六陟門、盡く漢の馬援、唐の李渤の故蹟を復す。著、愛日堂文集あり。

チンゲンレイ 陳玄禮 (唐)玄宗の時、宮禁に宿衛し、純篤を以て自ら檢す。帝嘗て虢國夫人の第に幸せんと欲す。諫めて曰く、未だ宣勅せざるに輕々しく去就す可らずと。帝乃ち止む。後、清華宮に在り、正に月望なり。帝將に出游せんとす。復た諫めて曰く、宮外の曠野には備禦なし、陛下必ず出游せば願はくは城闕に歸れと。帝奪ふ能はず。

チンコ 陳湖 (清)字は冒夏。號は確庵。江蘇太倉州の人。崇禎十五年、鄉に擧げらる。桴亭先生と義理經濟の學を講明し、深く要領を得たり。聖學入門を著し、また全史を編す。康熙十六年卒す。年六十三。

チンコウ 陳恒 (周)乞の次子。初め齊の悼公の相たり。悼公弑せられて子簡公壬立つ。闞止等と政權を爭ひ、遂ゝ簡公を弑す。

チンコウ 陳近 (明)字は良會。常熟の人。正德六年の進士。知縣より御史に改む。朱厠明衡の二人を救ふ、坐して合浦主簿に謫す。河南副使に累遷す。帝承天に幸するに方り、供具辦ぜざるに坐し、獄に下して民とす。

チンコウ 陳後 (明)字は啓先。寓齋と號す。詩文書畫、兄復と名を齊しうす。

チンコウ 陳公 (明)其名を逸す。維揚の人。淳皇后の父。大將張世傑に從ふ。元と戰ひ士卒溺す。幸に獨り免る。巫術を善くし天を仰ぎ鬼神を指揮す。風濤頓に息む。二女あり、長は季氏に適く、次は皇后なり。薨ずる年九十九。洪武の初、揚王に追封す。祠を太廟の東に立つ。

チンコウ 陳觀 (清)南箕の弟。

チンコウエウ 陳厚耀 (清)字は泗源。江蘇泰州の人。康熙四十五年の進士。累遷して司業に至る。厚耀、春秋を治め、尤も心を天算に究む。嘗て杜預の長曆を補ひて春秋長曆十卷を作る。その他、著述多し。

チンコウゲン 陳興言 (明)南靖の人。崇禎十五年、清兵河間を圍むや、張振秀等と禦ぎ戰ひ、城破れて死す。

チンコウサ 陳公佐 (明)石泉と號す。能く山水を畫く。

チンコウシン 陳洪進 (宋)初め南唐泉州の衙將たり。太宗の時、入朝して淳泉二州を獻ず。

チンコウジユ 陳洪綬 (清)字は章侯。號は老蓮。浙江諸暨の人。明亡びて後、跡を浮屠の間に混じ、自ら悔遲また老遲と號す。繪事を善くし特に人物に巧なり。明の萬曆二十七年生れ順治九年卒す。年五十四。

チンコウセキ 陳孔碩 (宋)侯官の人。朱熹に師事す。高弟たり。尙書郎に累官して卒す。學に祠らる。

チンコウセキ 陳鴻績 (清)字は子遜。鄞の人。順治十四年、召試して檢討を授けらる。

チンコウチヨ 陳弘緒 (明)道亨の子。字は子業。官、晉州知州たり。文を以て名あり。

チンコウチヨノツマ 陳公緒妻 (宋)劉氏。紹興の末、金人、山東を犯す。公緒、義を倡へ來歸す。時に劉氏歸寧す。倉卒興に僧にするを得ず、惟だ子庚を携へ以て行く。宋授くるに官を以てし、正使に至る。劉氏北方に留り、音問通ぜず。志を失ひて他なし。公緒亦他に娶らず。庚やゝ長じ、家貲を傾け任俠に結び、淮甸に奔走する十餘年、遂に母を得て以て歸る。劉氏北に在る二十五年。紡織自ら給す。

チンコウホ 陳公輔 (宋)字は國佐。臨海の人。政和三年及第、平江教授に調ぜられ、累官して禮部侍郎に至る。端方の操、始終渝らず。諫官と爲る。論書剴切、惡を嫉むこと仇の如し。晚に田里に居り、著書自ら樂む。文集二十卷、奏議十二卷あり。子爽行。

チンコウホ 陳公輔 (明)江村と號す。吳江の人。群書に涉獵す。山水は盛子昭を宗とす。亦雜跡を善くす。

チンコウメイ 陳洪明 (清)遂東の人。征戰功あり。後ち吳三桂に與す。三桂誅に伏して洪明復た來り降る。廷議立ろに之を絞す。

チンゴキウ 陳五鼇 (清)字は逸子。湖南攸縣の人。父來學、賊を罵りて死す。五鼇、終身之を痛む。性兀傲、古俠士の風あり。國變の後、君親の讎を痛み、遂に祝髮して南豐行脚と號す。年五十四、四冷に卒す。

チンコウコウシユ 陳國公主 (宋)哲宗の女。

始め德康公主に封す。大觀四年、石端禮に下嫁す。政和七年、薨す。

チンコクズ弁　陳國瑞　(清)字は慶雲。湖北應城の人。長髮賊の亂、各地に轉戰して功あり。光緒元年、事を以て削職せられ、黑龍江に戍る。八年十二月三十日、疾んで戍所に卒す。年四十六。尋いで旨あり、總兵に復し其の歸葬を許す。

チンコクタイチヤウコウシュ　陳國大長公主　(宋)太祖の女。初め永慶公主に封す。魏咸信に嫁す。景祐三年薨す。貞惠と謚す。

チンコクタク　陳克宅　(明)字は即卿。餘姚の人。正德九年の進士。嘉靖中、官御史たり。大禮を哭爭し廷杖せらる。釋されて稍〻右副都御史に遷り、巡撫貴州たり。賊阿向黨の復叛するに坐し罷む。已に卒して平賊の功を推し恤典を賜ふ。

チンコツ　陳乞　(周)齊の人。景公五十七年、范中行氏邯鄲を以て晉に叛く。陳乞之を助けて晉を圍む。已にして景公薨ず。國夏高張、安孺子荼を立つ。乞、爲り高國に事ふ。後ち叛きて荼を弑す。二子、逆恒。

チンゴトク　陳吾德　(明)字は懋修。歸善の人。嘉靖四十四年の進士。行人に除す。隆慶間、工科給事中に擢し、便宜八事を陳し、廷杖民に斥けらる。神宗の時、累進して右給事中に至る。論勤廷爭、張居正に惡まれ、民に斥けらる。正已に罷め、徵し湖廣僉事に擢す。官に卒す。

チンゴワウ　陳五王　(明)友諒の弟。兄を佐けて兵を督し、數々太祖の師を困しむ。已にして敗れ擒にせられ鄱陽に誅に伏す。

チンサイ　陳敏　(宋)字は季常。福安の人。宣和間の進士。高宗これを重んず。時に秦檜、和議を主張す。敏、力めて之を沮む。檜悅ばず。遂に出でゝ知興國軍たり。

チンサイ　陳淬　(宋)字は君銳。莆田の人。紹聖の初、下第す。箕を挾んで四游し、戰功を以て鄭延都監と爲る。建炎の初、諸軍統制となる。金人、采石を犯す。淬、獨り戰ひ、勢窮りて大に賊を罵り、遂に其徒と共に死す。詔して明州觀察使を贈る。

チンサイ　陳濟　(明)字は伯載。武進の人。成祖の時、布衣を以て召されて永樂大典編纂都總裁に拜す。書成りて右贊善を授く。職に居る十五年にして卒す。年六十二。

チンサイタイ　年際泰　(明)字は大士。臨川の人。文を以て名あり。世文を作る甚だ敏し。一日二三十首に至る。前後作る所萬首。故相蔡國用の喪を護して南行し、道に卒す。年七十餘。

チンサウ　陳眞　(周)秦の穆公の時、地を掘りて一物を得。猪羊の形に似たり。食、以て公に獻ず。道に二童子に逢ふ。曰く、此媼や、地に在りて人の腦を食ふと。之を殺さんと欲して、先つ柏木を用ひて首を擊つ。媼曰く、此童子は陳寶と曰ふ、雌を得ば則ち霸たらんと。雄を得ば則ち王たり、雄を得ん。童子化して雄雞となる。媼を舍てゝ童子を逐ふ。公に言ふ。公、大に獵して其雄を得たり。化して石と爲る。汧渭の間に置きて陳寶祠を作る。

チンサウ　陳壯　(明)字は直大。其先は浙江山陰の人。祖、事に坐し交趾に謫戍し、後京師に調せられ遂に家す。天順八年の進士。南京御史を授く。成化弘治の交、官を出入する一再、河南副使に累遷す、覓に致仕し去る。

チンザウ　陳澄　(宋)字は季常。青神の人。希亮の季子。黃岡に寓居して方山子と號す。又、龍丘子と號す。隱名あり。溪山を以て自ら娛む。始め東坡と同じく道士張易簡に學ぶ。後、東坡、黃州に謫せらるゝや、之と往來倡和す。東坡、爲に方山子傳を作る。

チンサク　陳策　(明)莆田の人。世宗に仕へて御史に任ず。同官と嚴嵩等の擅恣を劾して爲に陷れられ、俸一級を奪ほる。累遷して台州知府たり。

チンサク　陳策　(明)萬曆の末、官、副總兵たり。天啓の初、清河を瀋陽に拒ぎて戰死す。少保左都督を贈らる。

チンサツ　陳察　(明)字は元智。常熟の人。弘治十五年の進士。南昌推官に除す。正德中、御史に擢す。嘉靖の間、僉都御史を以て南贛を巡撫し、尋て休を乞ふ。帝怒り、察の私に狥ひて妄に舉ぐるを責め、斥けて民とす。既に歸る、敝衣惡食のみ。

チンサン　陳瓚　(卒)字は琴玉。少にして志節あり。德祐中、布衣、闕に詣り、攻守の策を上る。報ぜず。景炎元年、家財を竭して海に航し、張世傑の軍を助く。世傑その才を奇とし、奏して官を授けんと欲す。受けず。元人旣に陳文龍を執へ去り、林華に命じて守たらしむ。瓚、陰かに賓客を部署して義兵を募り、華を誅して其城を復す。端宗、瓚を徐して知軍事と爲し、且つ勝に乘じて世傑と犄角し興に福泉二州を復せしむ。會々唆都の兵至る。瓚、力支へずして執へらる。降らしめんと欲す。瓚曰く、汝が知る所の城を守りて降らざりし文龍は吾が姪なり、吾が家忠義、豈に胡狗に向て活を求めんやと。唆都大に怒り、車裂して以て殉ふ。張世傑その事を奏す。兵部侍郎を贈り忠孝と謚す。子若水、張世傑辭して督府架閣と爲す。

チンサン　陳瓚　(明)字は廷課。常熟の人。嘉靖三十五年の進士。知縣より刑科給事中に擢す。嚴嵩の黨を極劾して除名せらる。隆慶中、高拱を論じて坐謫す。萬曆間、累遷して刑部左侍郎に至る。官に卒す。右都御史を贈り莊靖と謚す。

チンシ　陳氏　(晉)陶融の妻。箏を彈ずるを喜ぶ。嘗て箏賦を作る。

チンシ　陳氏　(明)祥符の人。揭瑄に字す。未だ嫁ぜずして瑄卒す。私に髮を剪りて媒氏に屬し、瑄の懷に置く。汴俗、女を聘するに金を以て生年月日を書し男家に與へて定婚帖と號す。瑄の母、帖を以て其髮を裹み以て葬る。幾何もなく父母改聘を謀る。女縊死す。後五十三年正德中、瑄の姪永康、瑄を改葬し、陳氏の骨を求めて合葬せむとす。二骨朽ち髮及び定婚帖鮮完故の如し。

チンシ　陳忠　(明)巴人。洪武中、燕山中護衛指揮僉事たり。成祖に從つて兵を起し、都指揮同知に歷進し、遂安伯に封ず。永樂八年五月卒す。

チンシ　陳氏　(明)閩人潘進士仲徽の妻。國才集あり。

チンシ　陳梓　(清)字は古民。溪川の人。楊園先生の爲に傳を作り年譜を輯む。嘗て曰く、楊園の純粹は敬軒の如くして而かも研窮精核、謹飭は敬齋の如くして而かも規模宏遠と。

チンシウ　陳修　(漢)武の子。父の風あり。孫權之を奇とし校尉に薦む。獻帝建安の末、功臣を追錄す。修また都亭侯に封ぜらる。

チンシウ　陳修　(明)字は伯昂。上饒の人。太祖に從ひ浙東を平げ、理官を授けらる。律令を引援し、盡く元季の弊政を改む。兵部郎中に遷る。其濟南知府に改るや、亂後の彫殘を革藏す。吏部尚書に累擢す。銓法秩然たり。官に卒す。

チンジウ　陳充　(宋)字は若虛。益州成都の人。雍熙中、進士甲科に擧げられ、孟州觀察推官と爲り、掌書記に改まる。後、召されて殿中丞を授けられ、又出でゝ明州に知と爲る。榮利に澹く、自ら中庸子と號す。

チンジウイ　陳從易　(宋)字は簡夫。晉江の人。仁宗天聖三年、廣州に知たり。後、知制誥に擢てらる。外孫蘇頌、神宗元豐中、滄州に知たり。

チンシガイ　陳師凱　(元)字は濱舅。江西南康の人。廬山に隱居す。其地を名つけて東瀘澤と曰ふ。尙書蔡傳旁通六卷を撰す。

チンシカウ　陳子昂　(唐)チンスカウを見よ。

チンシカン　陳之翰　(宋)字は憲之。明州の人。少にして志操あり。學を好み文を能くす。鄉人、之翰に金を借る者あり。期に及んで給きて曰く、携へて以て之を償はんと欲す、道にして之を水中に落すと。之翰疑はず。後數年、其人自ら悔い、病んで且つ死す。其子を遣して來り償はしむ。之翰これを受けて拒まず。徐ろに其償を以て其喪葬を助く。崇寧の初、衆論朝に薦む。因て之を官にす。

チンシキ　陳之奇　(宋)字は虞卿。吳人。學德一世に高し。四方の賢士、吳に至れば則ち相造りて教を請ふ。胡瑗、蘇舜欽と友たり。時に吳下の三賢と號す。

チンシキ　陳士奇　(明)字は平人。漳浦の人。天啓五年の進士。中書舍人たり。崇禎中、右僉都御史に累擢し、巡撫四川たり。十七年四月、出でて賊李自成を擊ち、坑に陷り禽へられて斬らる。

チンジキヤウ　陳自强　(宋)字は勉之。蜀縣の人。淳熙の進士。寧宗の時、謝深甫に代りて相と爲り、韓侂胄等と相應じて頗る專橫なり。後、竄せられて死す。

チンシタワ　陳子和　(明)酒仙(一作麗)と

號す。閩の浦城の人。初め塑工たり。水墨人物を寫す甚だ仙氣あり。

チンシクワウ 陳嗣光 (宋)寧德の人。已れを持すること廉にして、親に孝すること孝なり。宗族鄉黨これを稱す。時に朝廷、孝廉を擧ぐ。嗣光を以て詔に應ず。邑の簿、陞游、孝廉坊を立てゝ之を旌す。

チンシケイ 陳之經 (宋)字は仲倫。莆田の人。開禧元年、登第、德安に分教たり。二年、虜入寇す。之經、苦戰して之を禦ぐ。

チンシケイ 陳士啓 (明)名は雷。字を以て行はる。泰和の人。永樂二年の進士。庶吉士より禮部郎中に擢す。曾て唐賽兒の亂に坐して獄に下さる。尋で釋く。宣德六年山東軍籍を清理す。官に卒す。

チンシケツ 陳士杰 (清)字は偈丞。湖南桂陽州の人。道光二十九年の拔貢たり。長髮賊の亂に各處に轉戰して功あり。光緒十八年、家に卒す。年六十九。官、巡撫に至る。

チンシケン 陳思謙 (元)字は景讓。祐の孫。少して警敏、學を好む。尤も邵子皇極經世書に深し。天曆の初、數〻時政の得失を陳す。其言概ね用ひらる。御史中丞に拜す。年七十にして老を乞ふ。允されず。強ひて命を拜す。明に卒す。魯國公に追封し通敏と謚す。

チンシサイ 陳思濟 (元)字は濟民。河南拓城の人。才器を以て稱せらる。世祖召して顧問に備ふ。時に阿合馬、權を擅にす。思濟、其不法を劾す。出てゝ浙西に知たり。大水あり、廩を發して之を賑す。河南江北行省事に累遷す。卒して潁川郡侯に封ず。文肅と謚す。

チンシサイ 陳司綵 (明)字は瑞良。仲裕の女。洪武二十年選ばれて宮中に入る。六書を善くし大義を曉り女工に精なり。嬪嬪皆之を師事す。人稱して女中の君子と爲す。

チンジイン 陳自仁 (宋)興化の人。宣和二十四年命じて司綵と爲し歸省を賜ふ。

チンジイン 陳自仁 (宋)字は元和。號は中、進士に第し、永豐尉と爲る。建炎中、金人、洪吉二州を犯し、隆祐太后危し。自仁、尉卒を集め民兵を調し、道を分ちて進み攻む。會〻賊の別將至る。力窮り支へずして之に死す。通直郎を贈り其一子を官にす。

チンシヤク 陳師錫 (宋)字は伯修。建陽の人。進士第三に擢んでらる。蘇軾その德行文章を薦め、以て校書郎と爲す。徽宗立つ。殿中侍御史に拜せられ、時務を疏陳す。出てゝ潁廬滑二州に知たり。師錫、嘗て陳瑾と同じく蔡京蔡卞を論す。時に二陳と號す。

チンシジユン 陳之純 (宋)字は仲馘。莆田の人。進士に登る。紹熙中、詔して直言を求む。之純乃ち資政朴議二十篇を上る。累官して知臨安縣に至る。

チンシシヨ 陳嗣初 (明)東吳の人。文章を以て名を擅にす。竹を寫す尤も奇。仲昭士謙皆之れを師とす。

チンジシヨウ 陳次升 (宋)字は當時。仙游の人。熙寧中の進士。殿中侍御史に累官す。

チンシソ 陳士楚 (宋)字は英甫。莆田の人。早く林光朝に從ひて游ふ。乾道中登第。淳熙の末、召されて國子監簿と爲る。光宗立ちて司封郎に除せられ、嘉王府直講を兼ぬ。寧宗の朝、起居舍人に位す。その明年、侍講に除せられ、周書無逸篇を講じて、小人朝に在り君子野に在るの意に喩ふ。帝之を嘉納す。

チンシダウ 陳至道 (宋)字は元和。號は野雲。性至孝、詩を善くす。香嶺に隱れ得道上昇す。冲和大仙人と爲し詩仙と號す。

チンシダウ 陳師道 (宋)字は無已。彭城の人。少にして刻苦問學す。高介にして節あり。諸經皆訓傳あり。詩禮に於て尤も邃し。苦吟、每に枕上に句を覓む。或は累日起たず。其の文を爲るや曾鞏を師とし、詩を爲るや黃庭堅を師とし、平淡雅奧、自ら一家を成す。家甚だ貧し。傅堯俞、嘗て金を懷にして之を贈る。其詞色を見て敢て出さず。元祐中、蘇軾の聞その文行を薦む。乃ち本州教授に除せられ秘書省正字に遷る。徽宗に從うて郊す。時に天寒し。趙挺之、一裘を與ふ。師道その貪汚を嫌うて之を卻く。而かも遂に凍死す。

チンシダウ 陳思道 (宋)江陰の人。父を喪ひ、母兄に事へて孝弟を以て聞ゆ。酢を蠏ぎて生を爲す。母病む。思道、衣帶を解かざる者數月。母死す。水漿口に入らざる

七日。既に葬りて墓側に廬し日夜悲慟す。貴は則ち白兎馴狎し、夜は則ち虎豹廬を環りて臥す。咸平の初、束帶を賜ひ、其門に旌す。

チンシダウ 陳思道 (明)字は執中。山陰の人。進士より刑部主事を授けらる。太祖其執法を賞し、兵部侍郎に超拜す。尋で禮部に改む。乞うて家に歸り、之を久うして卒す。

チンジチウ 陳自中 (宋)宜中の弟。文を善くす。咸淳中登第、鄂の司馬より太常丞に擢でらる。宜中、二王(益王、廣王)を奉じて南遷す。自中、分水關を拒守し、食盡き援絶えて遂に死す。

チンシフチウ 陳執中 (宋)恕の子。初め父の任を以て秘書省正字と爲り、出てゝ梧州に知たり。復古要道三篇を上る。眞宗、異として之を召す。久た演要三篇を進む。右正言に推し、累遷して中書門下平章事昭文館大學士に至る。執中、國に當るや、人敢て私を以て干めず。卒して恭と謚す。

チンシボウ 陳之茂 (宋)字は卓卿。無錫の人。太學生と爲り、張九成と同じく廷對す。之茂の對ふる所、檜相に忤ひて黜けらる。九成は第一たり。殿階に叩頭して曰く、陳之茂、能く人の敢て言はざる所を言ふ、宜しく奬むべくして宜しく黜く可らずと。高宗、對を覽て悚然として曰く、忠言也と。同進士出身を賜ひ、休寧尉に調す。經學を以て諸儒の倡たり。仕へて吏部尚書に至る。

チンシン 陳軫 (周)游說の士。張儀と共に秦の惠王に事へて寵を爭ふ。既にして儀、相と爲る。軫乃ち楚に奔る。秦、齊を伐んと欲す。時に齊楚相親む。是に於て秦、先づ張儀をして楚王に說かしめて曰く、若し齊と絶たば商於の地六百里を獻ぜんと。楚王大に說びて之を許す。軫諫めて曰く、秦の楚を重んずる所以の者は齊あるを以也、今齊と絶たば楚孤なり、秦何ぞ孤國の爲に六百里の地を與へんや、張儀秦に歸らば必ず王に負かん、是れ、北、齊の交を絶ち西、患を秦に生ずる也、而して兩國の兵必す俱に至らんと。楚王遂に齊と絶つ。齊正大に怒り、節を折りて秦に下る。秦、果して約に背きて地を與へず。楚王、秦を擊つ。秦齊共に楚を攻めて大に之を破る。

チンシン 陳震 (三國)字は孝起。南陽の人。初め劉備に從ひ、後、孫堅に從ふ。

チンシン 陳新 (元)泰和の人。東境に至り賊を防ぐ。時に援少なく食盡く。堅守して去らず。尋で執へらる。佩刀を拔きて自刎す。

チンシン 陳琛 (明)字は思獻。晉江の人。進士に登り南京戶部に遷る。仕を辭して歸る。後屢々徵さるも、並に辭して赴かず。家居して一室に起臥す。長吏其面を見ること得るなし。

チンシン 陳訢 (清)字は叔大。號は實齋。浙江海寧の人。康熙十一年の舉人。中書を授けらる。禮部尚書に累官す。訢、兩たび巡撫に任ぜられ、己れを潔くし人を愛す。嘗て請うて天妃閘を復し、以て淮黃を奠む。尤も世に功ありと爲す。著、四書述、讀律述、玩辭述等の書あり。卒して清恪と謚す。

チンジン 陳諒 (漢)字は季方。寇の次子。

チンジン 陳仁 (明)字は子居。莆田の人。成化末の進士。弘治中、官戶部郎中たり。正德の初、劉瑾の厄に罹り謫せらる。瑾誅せられ、累擢して浙江右布政使に至る。

チンジン 陳仁 (明)張士誠の舟帥たり。至正二十六年、士誠遂に敗死す。仁、乃ち大船百餘艘を以て來り明に降る。

チンシンカフ 陳新甲 (明)長沙の人。萬曆中の鄉舉。知縣に除す。崇禎間、兵部右侍郎兼右僉都御史に累遷す。後其機事を洩し、且つ主過を彰はすに坐して戮せらる。

チンジンシヤク 陳仁錫 (明)字は明卿。長州の人。天啓間、殿試を以て翰林編修に拜す。權貴の意に忤ひ鄉を得て銘を削らる。崇禎間、南京國子祭酒に拜す。尋で疾を得て卒す。福王の時、贈事を贈り文莊と謚す。

チンシンセイ 陳眞晟 (明)字は德暉。淳州鎭海衛の人。意を試業に絶ち、志を聖賢の學に篤うす。潛思靜坐す。自ら淳南布衣と號す。成化間卒す。年六十四。

チンシヤ 陳子野 (明)金陵の人。蘭竹花卉を畫く。絶て俗氣なし。

チンシヤウ 陳翔 (漢)召陵の人。侍御史に拜せられ、揚州刺史に遷り、御史中丞に終る。靈帝の時の八及の一人。

チンシヤウ　陳商　（唐）德宗の時、王承宗と同じく馬仁山に隱る。江表從學するもの衆し。後、詔に應じて射策し、仕へて卿に至る。

チンシヤウ　陳昌　（南北）字は敬樂。霸先（陳の武帝）の子。父と共に梁に仕ふ。江陵陷る時、長安に沒入す。

チンシヤウ　陳相　（宋）衡陽の妓。歌舞其類を出づ。書を學びて小楷を作る。

チンジヤウ　陳襲　（宋）字は述古。侯官の人。初め蒲城の簿たり。民、物を失ふ者あり。倫兒數輩を捕へて問鞫す。襲曰く、某廟の鐘よく盜を辨ず、犯す者之を捫れば輒ち聲ありと。乃ち倫兒を引きて鐘の所に詣り、陰かに人をして墨を以て鐘に塗ちしめ、倫兒をして一々暗摸せしむ。出でゝ其手を驗すれば皆墨あり。惟だ一人墨なし。之を訊ぬれば乃ち服す。判尚書都省に累遷して青苗法の不便を論ず。襄、風節凜然、皆て契丹に使して屈せず。學者、稱して古靈先生と爲す。

チンシヤウ　揚尚古　（明）字は彥升。長州の人。畫を善くす。

チンシヤウシヤウ　陳尚象　（明）都匀の人。萬曆八年の進士。中書舍人を以て給事中たり。皆て尚書沈鯉を劾罷す。士論之を非とす。後ち直言を以て坐廢せらる。國人始て稱す。天啓中、光祿少卿を贈る。

チンシヤウダウ　陳祥道　（宋）清縣の人。元祐中、太常博士と爲り、秘書正字に終る。禮書一百五十卷を著す。弟暘、紹聖の制科に應じ、累官して禮部侍郎に至る。樂書二十卷を著す。

チンシヤウハク　陳章伯　（宋）字は奎龍。臨武の人。敬叟の子。宋亡ぶ。義、元に仕へず。門を閉ぢて書を讀む。その自ら作る所の祖豚を名けて巽溪詞高と曰ふ。

チンシヤウリヨウ　陳翔龍　（明）蕭山の人。崇禎十五年、清兵河間を圍む。張振秀等と共に之を禦ぐ。城破れて遂に死す。

チンシユ　陳珠　（晉）女巫。豆統の從父敬寧、先人を祠り女巫を迎ふ。珠至る。國色あり、髮服美麗、又能く形影を隱匿す。初め鐘斧を擊ち、頃くして丹珠刀を拔き、刀を呑んで火を吐く、雲霧杳冥、威光電發す。人皆其術を驚嘆す。豆統之を視て驚愕して走り、藩を破り出で歸る。人に請て曰く、是れ妖術衆を惑はす者と。大に其親族に戒め、復た招かざらしむ。

チンシユ　陳洙　（宋）字は思道。建陽の人。進士登第して殿中侍御史に歷す。嘉祐中上疏して司馬光を助け、早く儲嗣を建てんと乞ひ、且つ曰く、陛下、臣が異日の圖を後くを以て、臣の身を殺し臣の言を用ふるに若くは莫しと。疏まさに上る。即ち藥を飲みて卒す。奏下る。大計遂に定る。仁宗、洙が死せるを聞き、錢百萬を賜ふ。元祐の初、光の言を用ひて洙の一子を官にす。

チンシユ　陳洙　（明）上饒の人。嘉靖中、猴寇大に至る。洙を起して閩南巡撫に任ず。朝廷其才の足らざるを以て之を罷む。

チンジユ　陳壽　（晉）字は承祚。巴安漢の人。少にして學を好み、同郡の譙周に師事す。趙華その才を愛す。孝廉に舉げられて著作郎に除せらる。三國志六十五篇を著す。時人その善く事を叙し良史の才あるを稱す。

チンジユ　陳壽　（明）字は本仁。其先は新淦の人。祖志弘、寧遠衛に籍す。壽、少より貧甚し。皆て遺金を得、坐守夜分に至り、其主に還す。成化八年進士に舉げられ戶部給事中を授けらる。刑部尚書を以て致仕す。歷官四十年、家の歸るべき無し。南京に寓す。居る所風雨を蔽はず。卒する年八十有餘。

チンジユ　陳壽　（明）隨人。洪武中、國子生より戶部主事に歷す。永樂中、工部左侍郎に擢し、高照に譖せられて獄死す。仁宗即位の初、工部尚書を贈り敏肅と謚す。

チンシユクエキ　陳叔易　（宋）初め晁以道と俱に蕭山に隱る。叔易、召に赴く。晁、詩を以て之に送りて曰く、處士何人爲作牙、盡携猿鶴到京華、故人巖壑應惆悵、六六峰前只一家と。以道、宣和間、郡に領たり。人また此を以て之を嘲る。

チンシユクキ　陳叔起　（明）山水雜畫稍や清意あり。人に過ぎたる處なし。

チンシユクシン　陳淑眞　（元）陳驗の女。能く詩を誦し琴を數す。陳友諒の亂起る。琴を彈じ終りて曰く、晉斯に絕絃すと。明日賊至る。遂に射殺せらる。

チンシユクタツ　陳叔達　（唐）字は子聰。武德の初、判納言たり。皆て葡萄を賜ふ。食はず。帝之を問ふ。對て曰く、臣の母、渴を病み、葡萄を求むれども致す能はず、願くは之を奉らんと。

チンシユクハウ　陳叔寶　（南北）陳の長城公を見よ。

チンジユソン　陳壽孫　（宋）端安の人。寶祐間登第、台州教授を授けられ、累遷して福建提刑に至る。後、入覲して實似道と擅法の事を爭ひ、劾せられて鄉里に歸る。時に元兵至る。壽孫これを端安橋に要ぎて遂に執へらる。元將之を降さんとす。屈せずして死す。

チンジユツコ　陳述古　（宋）閩中の人。魏咨の子。篤學能文、官、館閣校勘に至る。

チンシユン　陳俊　（漢）南陽西鄂の人。光武に從うて銅馬等の諸賊を擊ち、向ふ所必ず破り、遂に其渠帥を斬る。光武歎ずして曰く、戰將盡く是の如くんば、吾何をか憂へんや。武功を以て祇阿侯に封ぜらる。

チンシユン　陳藏　（唐）玉笥の人。岳の子。楊吳に仕へて翰林學士と爲る。吳錄二十卷を撰す。

チンシユン　陳驗　（宋）字は敏仲。號は仁齋。寧德の人。進士に中る。朱文公（熹）の門に登り、論語孟子筆義、毛詩筆義を著す。子成父。

チンシユン　陳俊　（明）字は時英。蒲田の人。正統十三年の進士。戶部主事に除す。天順成化の交、南京兵部尚書奎璧機務に擢す。牧仕を乞ふ。太子少保を累加す。卒して康懿と謚す。

チンシユン　陳遵　（漢）字は孟公。杜陵の人。哀帝の末、功を以て奮威侯に封ぜらる。性、客を好み、會飲する毎に、客の車轄を以て井中に投じ、急ありと雖も去るを得ざらしむ。書を善くす。凡そ人に與ふる尺牘、衆皆之を珍藏す。初め京兆史たり。時に列侯に姓字を同じうする者あり。遵、人の家に至りて刺を通ずる毎に、座中震動せざるは莫し。既に至れば非なり。因て號して陳驚座と曰ふ。

チンジユン　陳準　（宋）藜の子。

チンジユン　陳淳　（宋）字は安卿。龍溪の人。朱熹、淳、守たる時、淳、鄂齋に從游す。熹曰く、南來して吾が道一安卿を得たりと。學者稱して北溪先生と爲す。

チンジユン　陳恂　（宋）青神の人。希亮の三子。官、大理寺丞たり。

チンジユン　陳淳　（明）字は道復。後字を以て名となし、字を後甫と改め、白陽山人と號す。蘇人なり。天才秀發、下筆超異、山水は古人を師とす。而して蕭散の趣宛然目に在り。尤も寫生に妙に、一花半葉、淡墨欵毫、而して疎斜歷亂、嚙々眞に逼る。

チンジユン　陳循　（明）字は德遵。泰和の人。永樂十三年の進士。翰林修撰に除す。成化癸卯に生れ嘉靖甲辰卒す。年六十有二。

チンジユン　陳循　（明）字は時英。蒲田の人。正統十三年の進士。戶部主事に除す。天順成化の交、南京兵部尚書奎璧機務に擢す。牧仕を乞ふ。太子少保を累加す。卒して康懿と謚す。

チンジユン　陳遵　（漢）字は孟公。杜陵の人。哀帝の末、功を以て奮威侯に封ぜらる。性、客を好み、會飲する毎に、客の車轄を以て井中に投じ、急ありと雖も去るを得ざらしむ。書を善くす。凡そ人に與ふる尺牘、衆皆之を珍藏す。初め京兆史たり。時に列侯に姓字を同じうする者あり。遵、人の家に至りて刺を通ずる毎に、座中震動せざるは莫し。既に至れば非なり。因て號して陳驚座と曰ふ。

チンジユン　陳準　（宋）藜の子。

チンジユン　陳淳　（宋）字は安卿。龍溪の人。朱熹、淳、守たる時、淳、鄂齋に從游す。熹曰く、南來して吾が道一安卿を得たりと。學者稱して北溪先生と爲す。

チンジユン　陳恂　（宋）青神の人。希亮の三子。官、大理寺丞たり。

チンジユン　陳淳　（明）字は道復。後字を以て名となし、字を後甫と改め、白陽山人と號す。蘇人なり。天才秀發、下筆超異、山水は古人を師とす。而して蕭散の趣宛然目に在り。尤も寫生に妙に、一花半葉、淡墨欵毫、而して疎斜歷亂、嚙々眞に逼る。

チンジユン　陳循　（明）字は德遵。泰和の人。永樂十三年の進士。翰林修撰に除す。成化癸卯に生れ嘉靖甲辰卒す。年六十有二。

チンシユン　陳俊　（明）字は時英。蒲田の人。景泰中、華蓋殿大學士兼文淵閣大學士に進み、少保兼太子太傅を累加せらる。天順中、事に坐して民に戾けらる。成化中、復官せらる。

チンシユンケイ　陳俊卿　（宋）天資忠孝、清嚴にして禮を好み、朝に立ちて色を正す。言を立つるに顧避する所なし。凡そ奏請する所、治亂安危の大に關する者、其立意一に先哲を以て法と爲す。孝宗、射に因りて眼を傷く。俊卿、切諫す。云へる有り、誠に能く智能の士に任じて以て腹心と爲し、武猛の將に仗りて以て爪牙と爲し、賞罰を明かにして以て士氣を鼓し、信義を恢にして以て歸附を懷けば、則ち英聲雄氣、榻俎の間を出でず、而して敵人、千里の遠きに邊巡長慴せん、尙ほ何くんぞ百步の間に驅射するを待たんと。時に以て明言と爲す。子宓。

チンシユンシン　陳舜申　（宋）字は休謨。連江の人。七歲にして能く文を屬す。淳熙中、進士に擧げられ、衡陽祝歸教授を歷て知漳浦縣に累遷す。惠政あり。著作郎に遷る。後、人に忌まれ、出でゝ外官と爲り、未だ任に赴かずして卒す。著す所、易鑑、語孟中庸大學集解及び高齋文集等あり。

チンジユントク　陳純德　（明）字は靜生。零陵の人。崇禎十三年の進士。年已に六十。御史に擢す。崇禎十七年の難に殉ず。太僕卿を贈り恭節と謚す。

チンジユンフ　陳純夫　（宋）字は德全。遵

の子。初め陞を以て官に補せられ、東門に仕へて異政あり。郡に守たり。郡人之を德とす。宣和間、南康より嗣を乞うて鄉に居ること十年、文を以て自ら樂む。官、大中大夫に至る。世に湖南夫子と號す。

チンシュンユ 陳舜兪 (宋)字は令舉。白牛居士と號す。烏程の人。博學强記。慶曆中、進士に中り、又、制科第一に擧げられ、倉書嘉州判官たり。熙寧三年、屯田員外郎を以て山陰縣に知たり。時に王安石の新法行はる。舜愈、命を奉ぜず。上疏してその不便をいふ。

チンジヨ 陳恕 (宋)字は仲言。南昌の人。少にして縣吏と爲る。節を折りて書を讀み、進士に第して澧州に通判たり。吏幹を以て聞ゆ。召されて三司判官と爲り、擢轍使に累遷す。太宗深く之を器とす。官、尙書左丞に至り晉公に封ぜらる。恕、戶部郎たる時、眞宗命じて其の中外の錢穀を條して以て聞せしむ。恕曰く、陛下春秋ユ富む、若し府庫充實ぜるを知らば、恐らくは侈心を生ぜん、臣敢て進めずと。嘗て知貢擧たり。首として王曾を薦め歎じて曰く名世の才なりと。時に人を知ると號す。

チンジヨ 陳舒 (清)字は原舒。號は道山。華亭の人。江寧に僑居す。順治六年の進士。花草を畜くに工なり。尤も荷を畜くに長ず。山水の小景また頗る佳。嘗て東牟に游びて蓬萊閣に登り、欄に凭りて海を觀、獨り數太白を擧ぐ。傍ら人なきが若し。筆を索めて眇乎小矣の四字を書す。

チンショウ 陳勝 (秦)字は涉。陽城の人。嘗て人の爲に傭耕し、隴上に息うて曰く、苟くも富貴ならば相忘るゝ無けんと。傭者曰く、汝、傭耕を爲す、何ぞ富貴ならんと。勝、歎じて曰く、燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんやと。遂に吳廣と共に兵を擧げ、自ら扶蘇と稱し立ちて將軍と爲り、廣は項燕と稱して都尉と爲る。既にして勝、陳王と爲る。後、その御莊賈の爲に殺さる。

チンシヨウ 陳儒 (宋)字は君擧。世卿の子。父の任を以て太廟齋郎に補せられ、遷りて蔡州に通判たり。召されて開封府に知たり。時、會〻新法行はるゝに屬す。儒乃ち外を請ひ、出て〻尉州惠州を歷知す。哲宗の朝、朝議大夫を以て致仕す。子瑾。

チンショウシ 陳升之 (宋)字は暘叔。初の名は旭。建陽の人。神宗の朝、富弼に代りて同平章事と爲る。升之、初め王安石に附く。既に相と爲りて頗る異同を爲す。後、罷められて卒す。年六十九。太保中書令を贈り、成肅と謚す。

チンショウヨウ 陳承鎔 (清)洪秀全が僞朝の內官たり。頗る信任せらる。常に江寧城に留る。後、誅に伏す。

チンジヨカン 陳汝咸 (清)字は華學。浙江鄞の人。康熙三十年の進士。官、知!浦縣より鴻臚少卿に至る。卒する年五十七。

チンショク 陳遠 (漢)字は仲弓。短帝の時、太丘長たり。鄉里に在るや心を平かにして物を率う。民、爭訟あれば輒ち判正を求む。遠、歎じて曰く、寧ろ刑罰の加ふる所と爲るも、陳君の短る所と爲らじと。嘗て夜讀書す。盜あり、梁上に止る。遠、弟子を呼び謂て曰く、不善の人、未だ必ずしも本より惡ならず、習、性と成りて遂に此に至る、梁上の君子は是れのみと。盜、驚きて地に投じ、稽首して罪を謝す。遠曰く、當に貧困の致す所たるべしと。絹二疋を遺りて之を遣す。嘗て荀淑に詣る。長子紀を御して車を御せしめ、次子諶を乘せしむ。孫孝先、長文(名は群)、尙ほ幼なり。車中ユ坐せしむ。既に至る。荀淑、その子靖をして門に應ぜしめ、爽をして酒を行はしめ、餘の六龍(淑の子八人、之を八龍と號す。荀淑の條を見よ)をして下りて食ぜしむ。その孫瑰、尙ほ幼なり。膝前に坐ぜしむ。是夜、德星聚る。明日、太史奏す、五百里の內ユ賢人聚ると有らんと。卒して文範先生と謚す。客、陳諶に問ふものあり、足下の家君太丘、何の功德ありてか天下の重名を荀ふと。諶曰く、吾が家君、譬へば桂樹の泰山の阿に生ずるが如し、上に万仞の高きあり、下に不測の深きあり、上は甘露の沾ふ所と爲り、下は淵泉の潤ふ所と爲る、斯の時に當りて、桂樹焉んぞ泰山の高き淵泉の深きを知らんや、功德ありと無きと知らざる也と。中常侍虞讓の母死す。名士の至る者なし。讓、深く之を恥づ。遠獨り往きて吊ふ。後、讓人の禍、遠自ら免るゝを獲たり。善類その保全を得るもの頗る多し。長子紀、字は元方。次子諶、字は季方。父遠と與に並に高名を著す。時に三君と號す。元方の子長文、季方の子孝先、各々父の功德を論じて祖太丘に咨ふ。太丘曰く、元方、兄たり難く、季方、弟たり難しと。太丘、友と行を期し、日中を期とす。期を過ぎて至らず。太丘舍て去る。去りて後、乃ち至る。元方、時に年七歲、門外に戲る。客、元方に問ふ、尊君在りや否やと。答て曰く、君を待つと久しくして至らず、既ユ去ると。友人怒て曰く、人に非ざる哉、人と期し相委てゝ去ると。元方曰く、君、家君と日中を期して、日中至らず、是れ信なし、子に對して父を罵る、則ち是れ禮なしと。友人慙ぢて車より下り之を引く。元方、門に入りて顧みず。

チンショク 陳植 (宋)永嘉の人。朱文公に從ひて學ぶ。著す所、禹貢辯、水鏡集等の書あり。學者、潛室先生と稱す。植、兄壻、第止善と俱に進士の第に登る。時人、居る所を號して桂蘇坊と爲す。

チンショク 陳植 (元)字は叔方。吳郡の人。工に樹石を畫く。別に奇趣あり。

チンショク 陳植 (明)廬江の人。元末の鄉擧、仕へず。明の洪武間、吏部主事に除す。建文二年兵部右侍郎に遷る。會〻燕兵江に臨む。植、戰を江上に監し、慷慨師に誓ふ。部將に迎降を勸する者あり。植責むるに大義を以てす。辭色共に厲し。遂に部將に殺さる。

チンジクワイ 陳如晦 (宋)字は日昭。長樂の人。幼にして學を嗜み、經史を貫穿す。勉齋黃幹に從うて遊ぶ。四山眞德秀と時を同じうす。

チンジヨゲン 陳汝言 (明)字は惟允。秋水と號す。吳中の人。詩文を善くす。山水は趙魏公を宗とす。清潤愛す可し。一に小巢と號す。

チンジヨジヤク 陳汝錫 (宋)字は師子。青田の人。幼にして穎悟、數歲にして能く文を屬す。黃庭堅、嘗て其詩を見て歎賞す。詔聖四年、太學より進士の第に登る。邑の登第、汝錫より始る。崇寧間、諸路の學士始めて提擧を置く。汝錫、首として提擧福建學事に除せらる。官、浙東安鎭使に至る。著、鶴溪集あり。鄂齋に刊す。子樣。

チンジヨセキ 陳汝石 (明)交阯の人。明の大軍南征す。率先歸附す。功を積み都指揮僉事に至る。永樂十七年、四忙土官車綿子等叛す。汝石、方政に從ひ之を討つ。深く賊陣に入り流矢に中り馬より墜ちて死す。

チンショブン 陳所聞 (明)畿輔の人。家を乙榜に起し、知州たり。崇禎中、李九成等平度を陷る。自ら縊れて死す。太僕少卿を贈らる。

チンシリヨウ 陳子龍 (明)字は臥子。松江華亭の人。崇禎十年の進士。推官に除す。兵科給事中に累擢せらる。王綱紐を解くを見て兵を擧ぐるを謀り、事露はれて獲らる。間に乘じ、水に投じて死す。子龍、詩を善くし、清醇の趣あり。

チンスカウ 陳子昂 (唐)字は伯玉。梓州射洪の人。家世々富豪。年十八に至るまで書を知らず。任俠にして才を使ふ。後悔悔して苦節、書を讀み、黃老易象に耽る。尤もよく文を屬す。京に入り、未だ知られず。胡琴を賣る者あり、價百萬と號す。豪貴厚視して辨ずる者なし。子昂千緡を以て之を市ふ。衆驚き問ふ。答て曰く、余此樂を善くす、聞かんとせば明日某所に集るべしと。衆期の如く來る。即ち酒肴を具して胡琴を前に置き、琴を捧げて曰く、蜀人陳子昂、文百軸あり、馳せて京轂に至るも庶士に碌々として人に知られず、此樂は賤工の役のみと。因て之を碎き、其文を會者に贈る。一日の內に聲華都門に溢る。進士に擧げられ右拾遺に拜す。武攸宜、契丹を討つに當り、子昂を以て書記となし、軍中の文翰皆之を委ぬ。會〻子昂の父、鄉にありて縣令殷簡に辱められる。子昂遽に鄉里に還り、父の喪に會ひ廬墓に次す。殷簡貪殘にして、收て獄に繫ぐ。遂に獄中に死す。年四十三。

チンスキノヂヨ 陳穗女 (明)沙縣陳穗の女。年十八。父母卒す。二弟を遺す、長七歲、次五歲。親族其有を利し且に旁に耽々ず。姑志を矢ひ弟を撫し、常に燈數十を設き、族人暮夜門を叩けば燈を燃し之を照らし、亟かに戶を啓き酒食を具ふ。叩く者曰く、吾輩夜行、燭を滅す、燭を求むる耳と。

此れより窺伺する者意を絶つ。二弟歸を聞り、年四十五、乃ち嫁す。終に子無し。二弟迎へ歸り之に母事す。

チンセイ　陳靖　(漢)餘干の人。幼にして慷慨大志あり。王莽、漢を纂ふ。靖、忿恨、王常の曲阿に起るを聞き、義兵を率ゐて赴く。常、署して中牙典軍校尉と爲す。甚だ江湖間の心を得たり。光武の時、散騎常侍に拜せらる。母老ゆるを以て乞ひ歸る。餘干侯に封ぜらる。

チンセイクワ　陳省華　(宋)閩中の人。智辯にして吏幹あり。初め孟景に仕へて四水尉と爲る。蜀平ぎて宋に歸し、光祿卿に累官し、諫議大夫に拜せらる。卒して太子少師を贈り、秦公に封ぜらる。子堯叟、堯佐、堯咨。

チンセイクワン　陳世倌　(清)字は秉之。魏は蘧宇。浙江海寧の人。詵の子。康熙四十二年の進士。官、文淵閣大學士に至り太子太保を加へらる。世倌、前後、海防の事宜五則、台灣の事宜三則を陳ぶ。悉く要領を得たり。卒する年七十八。文勤と謚す。

チンセイシウ　陳世脩　(宋)執中の姪。執中の生日、親屬多くは老人星の圖を献じ、世脩獨り范蠡五湖に遊ぶ圖を献ず。且つ贊して曰く、賢哉陶朱、霸越平吳、名隨身後、扁舟五湖と。執中、即日納節す。

チンセイゼン　陳性善　(明)名は復初。字を以て行はる。山陰の人。洪武十三年の進士。行人司副を授けられ累遷して翰林檢討

たり。惠帝の時に至りて副都御史に拜す。會々燕兵起る。城陷り執へらる。已にして縊たる。性善曰く、命を辱しむるは罪なり、奚ぞ以て晉君に見ゆんやと。馬を躍らし河に入りて死す。

チンセイフ　陳成父　(宋)字は汝玉。寧德の人。驗の子。克く家學を承く。著書數種あり。

チンセイキ　陳正彙　(宋)瑾の子。

チンセウ　陳炤　(宋)常州の人。元兵、常州に至る。知府姚訔、炤を辟して通判と爲す。訔と力を協せて固守す。城破れて訔死す。炤なほ巷戰す。家人曰く、東北の城、走るべしと。炤曰く、此一歩を去れば死所に非ずと。遂に戰死す。事聞す。直寶章閣を追贈し其子を官にす。

チンセウ　陳紹　(明)上虞の人。世宗に事へて官、御史たり。大學士嚴嵩の奸貪を劾して廷杖せらる。旋た韶州知府に遷りて卒す。上虞四諫の一に數へらる。

チンセウイウ　陳少游　(唐)博州博平の人。幼より老莊の書を習ふ。性樸變ゝ長じ、至る所一切幹濟し、權幸に賄謝す。是を以て數々進遷す。後ち李希烈に僞問せられて身を亡す。

チンセウギ　陳昭儀　(五代)梁の太祖の妃。少うして色を以て進む。太祖已に貴く嬪妾數百なり。昭儀寵を專にす。太祖嘗て疾む。昭儀、尼數十人と晝夜佛法を爲め、未だ嘗て懈らず。太祖以て己を愛すと爲し、尤も之を寵す。開平三年度して尼と爲りゝ宋州佛寺に居り。其終る所を知らず。

チンセウコン　陳昭袞　(遼)小字は王九。雲州の人。驍勇にして射を善くす。統和中、敦睦宮太保に累遷し、兼て圍場の事を掌る。開泰五年秋、大獵す。帝虎を射て中らず。虎怒り、勢を奮ひて將に輦を犯さむとす。左右辟易す。昭袞、馬を捨て虎の兩耳を提へて之に騎す。虎厭き且つ逸す。虎山に軼す。終に地に墮ちず。側ち便を伺ひ、佩刀を抜きて之を殺す。上慰勞良ゝ久し。即日燕を設け、賜ふに金銀器を以てす。特に節鉞を加へ圍場都太師に遷り、國姓を賜ふ。文臣に命し賦して以て之を美す。四南面招討都監を以て卒す。

チンセウソン　陳韶孫　(元)廣州番禺の人。父罪を以て雷州に流さる。韶孫、年十歳、父に離るゝに忍びず。遂に萬里を跋渉して從ふ。父歿す。皇慶の初、赦に遇ふ。乃ち父の骸を負うて歸る。

チンセウド　陳昭度　(宋)字は元矩。莆田の人。少にして穎異不群。年十九、紹興五年、進士登第し、尤溪主簿と爲る。事を以て辭し去り、閒居十年、讀書著文を以て樂と爲し、自ら西軒子と號す。既にして潭州教授と爲る。

チンゼウド　陳饒奴　(唐)鎮州の人。年十二、父母併に死す。騫騎、喪に居り。又、歳饑う。或人、その弟妹と別居して性命を全うすべきを勸む。饒奴涕を流し、離散する

に忍びざるを以て辭す。衆、爲に感動す。刺史李復、資儲を給し、其門に署して孝友童子と曰ふ。

チンセツフ　陳節婦　(明)安陸の人。李姓に適き早寡す。父家に歸り小樓に坐臥すること三十年、終りに臨み其姊に謂て曰く、男子を以て我を辱ふ勿れと。家人其言を忽にす。舁夫樓に登る。忽ち日を聞きて覘す。家人驚怖して下る。目乃ち瞑す。

チンセン　陳閬　(宋)字は伯通。仙游の人。皇祐中、進士に第して建州に知たり。後、移りて萊州に知たり。至る所、治績あり。

チンセン　陳薦　(宋)字は彦升。沙河の人。進士に登り華陽尉と爲る。韓魏公に從ひて定州の幕府に在り。魏公、每にその進むに厭にして退くに勇、嫌疑の間に毫髮も處らざるを稱す。龍圖閣直學士河北轉運使に累官し、資政殿大學士に進む。

チンセン　陳戩　(宋)松溪の人。給事中と爲り、上疏して當時五失あるを論ず。曰く、宰執姑息を務め、將帥功賞を邀め、諫諍細務を言ひ、守臣犯法多く、內侍權漸く失ふ、宜しく之を禁止すべしと。

チンセン　陳選　(明)字は士賢。臨海の人。員韜の子。天順四年の進士。御史に除せらる。成化中、廣東左右布政使に歷進す。事を以て謫せられ、病て卒す。年五十八。正德中光祿卿を贈り忠愍と謚す。

チンセン　陳宣　(明)晉て超松麗が五罪の闕を寫す。

チンセン　陳遷　(明)字は季昭。雲樵と號す。吳縣の人。藎を善くす。山水ば初め陳公輔を學び、後舊習を變じて自ら一家をなす。古人を臨倣するものは眞贋辨じ難し。

チンセン　陳瑄　(明)字は彦純。合肥の人。族を以て指揮同知たり。太祖惠帝世祖仁宗宣宗の五朝に歷仕し、平江伯に封じ總兵官に累擢し、宣德八年十月官に卒す。年六十有九。平江侯に追封し太保を贈り恭襄と謚す。

チンセン　陳撰　(清)字は楞山。號は玉几。鄞の人。詩文を善くし書畫に工なり。居る所の玉几山房、搜臧最も富む。著、繡鋏集あり。

チンゼン　陳禪　(漢)巴郡安漢の人。郡に仕へて功曹と爲り、善を舉げ惡を黜け、邦內の長ゝ所と爲る。後、漢中太守と爲る。寇賊その名を聞きて即時に降服す。順帝の時、遂果太守たり。匈奴その威を憚り退くこと數百里。禪、吏卒を遣し往きて之を曉慰せしむ。單于、使に隨うて郡に至る。禪、爲に道戰を說く。單于感服す。

チンゼン　陳漸　(宋)堯叟の從子。少にして文學を以て名を知らる。太宗の時、嘗て父堯封と同じく廷試し、漸、第に中る。辭して就かず、其文を擢づるを願ふ。之を許す。後、耀州節度推官に累官す。文集十五卷あり。自ら金龜子と號す。

チンセンフ　陳潛夫　(明)字は元倩。錢塘の人。崇禎中、鄉舉より推官に除し、福王の時、監軍御史に擢し、晉王監國、大理寺少卿兼御史に拜し、順治三年五月晦、兵潰え、水に赴きて死す。年三十七。

チンソ　陳楚　(唐)定州の人。武幹あり。始め牙將と爲りて李茂昭に從ひ、征伐して功あり。普寧郡王に封ぜらる。天祐の末、定州乱る。楚、傳驛して州に赴く。軍校部伍皆楚の舊なり。楚の至るを見るに及んで、衆心遂に定り州境既に寧し。入りて羽林統軍司徒と爲る。

チンソ　陳祚　(明)字は永錫。吳人。永樂中の進士。河南參議に擢す。仁宣英三宗に歷事して福建按察使僉事に擢でられ、疾を以て歸り卒す。

チンソウカイ　陳宗海　(明)陳海を見よ

チンソウキウノツマ　陳宗球妻　(明)吏氏。南安の人。夫死す。將に殉せむとす。期あり。姑の爲に酒を釀す。死に臨み舅に告げて曰く、婦喪あり、幸に棺に殮する毋れと。遂に縊る。

チンソウトク　陳景德　(清)太寧縣の人。嘉慶二年、奸民を聚めて乱を老木園に作し、以て賊に應ず。已にして勦誅せらる。

チンソウホ　陳宋輔　(宋)字は公弼。寧德の人。覺民の子。淳熙中、進士に登り、柳州教授に累官す。平生節概を尚び然諾を重んず。士民之を憚る。三蔡を論じて餘姚縣主簿に貶せらる。

チンソウレイ　陳宗禮　(宋)字は立之。南豐の人。淳祐中、進士に擧げられ、累官して端明殿學士僉書樞密院事兼參知政事に至

る。直言清節を以て名あり。卒して盱眙郡公を贈り、文定と謚す。

チンソウエン　陳宗淵　(明)青藍を能くす。

チンソク　陳束　(明)字は約之。鄞人。聰慧絶倫、好んで古書を讀む。文譽益々起る。嘉靖間、廷對第一たり。福建參政に累遷す。累より血を嘔くの疾あり。疾益々劇しく竟に起たず。年三十三にして終る。

チンソジン　陳祖仁　(元)字は子山。汴梁の人。早く文名あり。至正の初、進士及第翰林學士に拜し、參議中書省事に除す。宗社の存亡を以て念と爲し、累疏時政を陳して已まず。明兵進み至り、京城破る。乱軍の爲に害せらる。祖仁、一目眇、貌寢身短、然れども語音清亮、議論偉然、犯すべからず。詩文簡にして清麗、世多く之を傳ふ。

チンソハウ　陳祖菴　(明)海寧の人。崇禎中、官、巡撫順天たり。清兵を却けざるに坐して棄市せらる。

チンソハン　陳祖范　(清)字は亦韓。自ら見復と號す。江蘇常熟の人。雍正元年、禮部に試して式に中る。同邑の蔣文肅廷錫、方に大學士たり。之に謂て曰く、子、盛名あり、甲榜に登る、而して未だ朝に在り、今歲の大魁、子に非ずして誰ぞやと。祖范、默然趨り出て、即ち裝を辨じて南下し、人に語て曰く、他日我を以て權門に依附すと爲さしむる無からんと。遂に殿試せずして歸る。是に於て壓を華灑の濱に懶ひ、戶を鎖けて書を讀む。子弟著錄するもの日に衆し。祖范、蘇陽書院に在ること三年　また徐州の雲龍、安慶の敬敷、揚州の安定を主る、所在、皆訓課法あり。乾隆十八年、家に卒す。年七十九。著、經思堂錄等の書あり。

チンソン　陳存　(宋)安吉の人。累官して兵部尚書端明殿制置使に至る。宋亡ぶ。元、使を遣して七たび徵ぜども起たず。尋て疾に遷ひて醫を却け、絶食十四日にして卒す。

チンソンシユク　陳尊宿　(唐)高僧。名は道明。江南の陳氏。黃檗に嗣く。諸方歸慕して尊宿を以て稱す。蒲鞋を織りて母を養ふ、故に又陳蒲鞋の號あり。年九十八にして寂す。

チンダイ　陳泰　(三國)字は元伯。高貴鄉公、即ち魏の廢帝、名は髦の時、尚書右僕射たり。大將軍司馬昭、帝を弑す。太傅司馬孚並に泰、帝の尸に股に枕して號哭哀盡す。大將軍、禁中に入る。泰これを見て慙慟す。大將軍亦相對して泣く。謂て曰く、元伯其れ我を如何するとと。泰曰く、獨り賈充を斬りて少しく以て天下に謝すべきのみと。大將軍之を久しうして曰く、卿、更に其他を思へと。泰曰く、豈に泰をして復た後言を發せしむ可けんやと。遂に血を嘔きて死す。

チンダイ　陳泰　(元)字は忠同。所安と號す。茶陵州の人。嘗を以て龍泉簿に官す。生平吟詠を以て自ら怡む。所安集一卷あり。好んで獄行を作る。其詩清婉にして致あり。

チンタイ　陳泰　(明)字は吉亨。光澤の人。鄉舉より訓導に歷し、正統の初、御史に擢す。時泰天順の間、右副都御史に進み、漕運を總督し、兼て淮揚諸府を巡撫し、三年を閱して政を謝し歸り、成化六年卒す。

チンタイ　陳泰　(清)姓は鈕祜祿氏。滿州鑲黃旗人。太祖に從ひて明を伐ち、北京に薄り錦州を攻め山海關に入りて餘逆を掃除し、屢々奇功を立つ。後、軍に卒す。官、吏部尚書兼統都靖寇大將軍に至る。忠襄と謚す。

チンタイケツ　陳太竭　(唐)蒲江の人。武鼎の子。孝行あり。

チンタイコウ　陳太后　(晉)安帝の太后。諱は歸女。松滋潯陽の人。父廣、倡を以て進み、平昌太守に至る。后美色あり、能く獸彈す。宮に入りて淑媛と爲る。安恭二帝を生む。太元十五年薨ず。追崇して安德太后と曰ひ陵を熙平と稱す。

チンタイシヤウ　陳太璋　(明)字は明之。月隴と號す。鳳陽盱眙の人。善く菊花を畜く。また詩名あり。又行草に工なり。

チンタイシヤウ　陳大章　(清)字は仲嘆。黃岡の人。康熙三十七年の進士。庶吉士に選ばる。毛詩に深く、詩傳名物集覽十二卷を著す。

チンタイジユ　陳大受　(清)字は占咸。號は可齋。湖南祁陽の人。雍正十一年の進士。協辨大學士に累官し太子太保を加へらる。大受、封疆に歷任して、水利を興し盜賊を緝め災荒を賑す。朝廷倚て重臣と爲し、海

内その清節を推す。卒して賢良祠に祀り文肅と謚す。

チンタイシヨ　陳太初　(宋)眉山の人。蘇東坡と同しく道士張易簡に學びて得道す。

チンタイシヨ　陳太初　(明)善く松を畫く。亦墨竹を善くす。

チンタイセイ　陳大聲　(明)秋碧と號す。山水は沈啓南に倣ふ。

チンタイソ　陳大素　(宋)字は仲華。河南綏氏の人。進士に擧げられて大理少卿に累官す。能く人情に推原して以て法意を傳へ、牘に臨む毎に寢食を忘るゝに至る。袁州二州に歷知して治績あり。官、兵部郎中に至る。

チンタイチン　陳大年　(宋)字は彥永。再び昭州推官に調せらる。嘗て州事を攝す。民皆之を宜しとす。

チンタイヒ　陳太妃　(南北)宋の順帝の母。明帝晚年廢疾、內御する能はず。人懷孕する者あれば輒ち取て以て宮に入れ、男を生むに及ひ皆其の母を殺して六宮に與へ、愛する所の者をして之を養はしむ。順帝は桂陽王休範の子なり。陳昭華を以て母となす。明帝崩するや、昭華、安成王太妃に拜せらる。順帝即位、進めて皇太妃となす。順帝位を禪るや、皇太妃の號を去る。

チンタイヒ　陳太妃　(南北)宋の後廢帝の母。諱は妙登。丹楊建康屠家の女。孝武嘗て尉司をして人間の士女姿色有る者を采訪せしむ。太妃時に年十二三、尉、其の弟なるを見、即ち以て孝武に白す。迎へて宮に入る。明帝に賜ふ。始め寵あり、一年にして衰ふ。以て李道兒に賜ふ。尋で又迎へて還して廢帝を生む。是より先、人間言ふ、明帝不男と。故に皆廢帝を呼て李氏の子となす。明帝即位して貴妃に拜し、秩、皇太子と同じ。廢帝踐祚、尊號を上りて皇太妃と いふ。奧服一に晉孝武李太妃の故事の如くす。昇明の初、蒼梧王太妃となる。

チンタイフウ　陳大富　(清)字は餘慶。湖南武陵の人。長髮賊の亂、各地に轉戰して功あり。咸豐十一年戰死す。官、總兵に至る。提督銜を賜ひ、威勤と謚す。

チンタイベン　陳大卞　(宋)字は仲衢。仙游の人。治平中の進士。威武軍僉判と爲る。章淳と甚交あり。淳の國に當るや、屢々大卞を招く。大卞往かず。遂に致仕す。

チンタイライ　陳泰來　(明)字は伯符。平湖の人。年十九、萬曆五年登第す。順天教授より國子博士に進む。執政の冒路と相水火するを見、上書して之を規す。禮部員外郎に擢す。卒する年三十六。天啓中、光祿少卿を贈る。

チンタイリン　陳大倫　(元)字は彥理。諸堅州の人。意を仕進に絶つ。元季兵を流子里に避け、晚香亭を作りて日に賓客と暢飲して終はる。著に春秋手鏡、尙雅集あり。

チンタウ　陳湯　(漢)字は子公。山陽瑕丘の人。仕へて郎と爲る。元帝の時、外國に使し、制を矯めて兵を發し、郅支單于を斬る。後、爵關內侯を賜ふ。西域都護段會宗、烏孫の圍む所と爲る。朝廷、湯の議を用ひて其圍を解く。

チンタウ　陳讜　(唐)字は昌言。侯官の人。三史の科に登る。後、本郡の長吏と爲り、以て親を養ふに便す。春韻亭の州の刺史に累遷して卒す。讜、仁孝謙恭、官に居て餘祿悉く人に與ふ。

チンタウ　陳陶　(五代)劍浦の人。廬を四山に結び吟咏自適す。殊に佳詩あり。中原不是無麟鳳、自是皇家結網疎の句の如きは、人の稱道する所なり。陶、操行高潔なり。郡守嚴譔これを試みんと欲し、小妾蓮花を遣し往きて視しむ。陶、竟夕納れず。妾、詩を献じて曰く、蓮花爲號王爲應、珍重尙書遣妾來、處士先生巫峽夢、空勞雲雨下陽臺と。陶答て曰く、近來詩思清於水、老玄風情薄似雲、已向昇天得門戶、錦衾深愧阜文君と。

チンタウ　陳燾　(宋)電白の人。嘗日十年。紹興間、母死し將に葬らんとす。燾、柩を扶けて壙に至らんと欲す。人或は之を止む。燾曰く、母、我を生み我を鞠す、今日土に入るを視る、燾、疾を以て辭するに忍びんやと。柩を執ること一二里。双目頓く開く。人皆之を異とす。

チンタウ　陳讜　(宋)字は正仲。豊の子。隆興の初、進士に登る。慶元中、殿中侍御史たり。之を久しうして陳自强の意に忤ひ、太常少卿より外に補せらる。既にして召さ

れて兵部侍郎と爲る。開禧中、書を權臣に貽りて兵を用ふるの利害を極陳す。聽かれず。後、數文閣待制に除せられて奉祠す。

チンダウ 陳道 (清)字は紹洙。號は凝齋。新城の人。乾隆十三年の進士。仕へず。宋儒の學を以て子弟を啓廸す。

チンダウカウ 陳道亨 (明)字は孟起。新建の人。萬曆十四年の進士。刑部主事に除す。神光寮の三宗に仕へて中外に歷官し、南京兵部尚書に累擢す。寛に乞うて歸り、年を踰えて卒す。崇禎の初、太子少保を贈り清襄と謚す。

チンダウシウ 陳道周 (宋)潭湘の人。少にして孤貧、母に奉じて至孝なり。母歿して墓に廬し、自ら磚を陶し日に五枚を成す。四年を歴て墓を營するに高さ三尺。墓成りて道周縗いて亡ぶ。母の傍に附葬す。鄉人碑を立てゝ之を表す。

チンダウゼン 陳當前 (宋)洛縣王氏の女。節行鄉人に敬ぜらる。但呼んで當前と曰ふ。年十八、陳安節に歸す。歳餘にして夫死す。舅姑に孝養を盡くし、子を訓ふる方あり。二孫綱、紱、皆篤學なり。舅姑亡し、夫の妹、分貲を求む。當前、室中ある所を遣り、吝色なし。親屬貧窶自ら存する能はざる者を收養婚嫁すること三四十人に至る。子孫遺訓に遵ひ五世同居す。乾道九年詔して門閭に旌す。

チンダウホ 陳道輔 (金)京兆の人。好で墨竹を寫す。自ら夜江散人と號す。

チンダウメイ 陳道明 (唐)睦州の人。日々草履を織り鬻ぎて以て親を養ふ。又た開元寺に於て履を作り、行路の者に施す。人、陳蒲鞋と號す。黄巢の兵、境を犯し、一鄙洶々たり。道明戒めて憂ふる勿らしめ、大草履を織り命じて之を三十里外に擇ぜしむ。巢軍力を竭せども擧ぐる能はず。巢曰く、大聖人此に在るありと。乃ち城を捨てゝ去る。民、爲に兵難を免る。壽九十八、端坐して逝く。宋、悟空禪師の號を賜ふ。

チンタク 陳橐 (宋)字は德應。餘姚の人。刑部侍郎に擢でらる。時に秦檜、和議を主とす。橐、不可を言ふ。檜之を恨む。後、廣州に知たり。民夷悅服す。瓊州に改まる。橐、博學剛介、產業を事とせず。既に事を謝し歸りて僧寺に儒寓す。王十朋、近世會稽の人物を論じて謂ふ、杜祁公の後に陳德應ありと。

チンタク 陳卓 (宋)成寧の人。田五千あり。兄の田、止だ千。願うて戶を合せて之を同じうす。且つ曰く、人生飽煖の外、骨肉交々歡ぶのみと。其後、兄の子康民、進士に登り、官、大中大夫に至る。

チンタツ 陳逵 (晉)寔の六世の孫。永嘉中、長城令と爲り惠政あり。嘗て人に謂て曰く、此地、山水秀麗、當に王者の興るべのあるべし、二百年後、我が子孫必ず斯の運を鍾めんと。遂に碁に家す。後、十世の孫覇先、梁の禪を受けて帝と爲る。

チンタン 陳摶 (五代)字は圖南。眞源の人。華山に隱居し處處して百餘日起きず。嘗て白驢に乘り汴中に入らんと欲す。塗に太祖の登極を聞き、大に笑うて驢より墜ちて曰く、天下これより定らんと。太宗に召して羽服を以て延英殿に見る。宋琪、修養の道を問ふ。摶曰く、假令白日昇天するも何ぞ世に益あらん、今や君臣同德、興化勤め行ふ、修煉出づる無しと。此に於て帝益々之を重んじ、號を賜うて希夷先生といふ。又自ら扶搖子と號す。摶、甫めて四歳、渦水の側に戲る。青衣の嫗あり。抱いて懷中に置き之を乳す。聰悟日に益す。武當山に入り、辟穀鍊氣二十餘年、徙りて華山の雲台觀に居り。周の世宗、召して禁中に至らしめ、號を白雲先生と賜ふ。宋の太宗再び召す。辭して曰く、九重仙詔、休教丹鳳銜來、一片野心、已被白雲留住と。端拱の初、弟子張超に命じ、石を斲りて室を爲らしめ、蓬花峰下に化形す。博嘗て曰く、優游之地勿久戀、得志之物勿再往と。聞く者、以て至言と爲す。

チンタンセキ 陳丹赤 (清)字は献之。號は眞亭。福建侯官の人。順治十七年の擧人。推官を授けらる。累官して按察使に至る。耿精忠叛す。その害に遇ふ。太僕寺卿を贈り、忠毅と謚す。

チンタンゼン 陳坦然 (宋)溥江の人。景德中、宣容二州亂る。坦然、書を以て賊首を降す。詔して闕に召さる。賞賚受けず。驅うて延試に就く。潭州攸縣令を歴て移りて梅州に知たり。至る所治績あり。卒して太子賓善大夫殿中丞を累贈すと云ふ。

チンタンヨノツマ 陳丹餘妻 (明)宋氏。崇禎六年賊至り、掠めらる。並び其女を執へ空室に入らしむ。前に古槐あり。母女樹を抱き大に罵る。遂に害せらる。

チンチウ 陳忠 (漢)龍の子。法律に明習し、心を用ふる寛詳なり。三たび廷尉に遷りて聲名あり。安帝初めて立つ。忠、屢々上疏して隱逸及び直道の士を薦む。嘗て摺紳先生論を作りて時事を諷す。累官して中書令に至る。

チンチウ 陳鑄 (宋)字は師回。興化縣の人。天聖中、甲科に登る。康定の初、南雄州に知たり。親老いたるを以て、求めて福州に通判たり。改めて陳州の倅と爲る。時に水患あり。力を悉して拯救す。活を全うするもの多し。當路うの勞を上る。擢でられて潮州登州に知たり。仕へて光祿卿に至る。

チンチウ 陳忠 (明)臨淮の人。初め寛河副千戶より指揮同知に歴し、事に坐して廣西に戍す。功を積み指揮同知に遷る。仁宗の初、黎利の寇に忠死す。優卹制の如し。

チンチウキヨ 陳仲舉 (南北)字は德冒。武康の人。陳に仕へて著作郎を以て出でゝ長興令たり。政、廉平と號す。官、尙書僕射に至る。陳の文帝、鄉に居る時、常に仲舉に謂り深く相結ぶ。文帝吳興太守と爲るや、舉げて郡丞と爲し、位を嗣ぐや、召して中書と爲す。

チンチウギヨク 陳仲玉 (明)洪武元年、衆を集めて亂を搆へ、幾くもなくして誅せらる。

チンチウシ 陳仲子 (周)齊人。其兄戴、齊の卿たり、祿萬鍾を食む。仲子以て不義と爲し、妻子を携へて楚に適き、於陵に居り。自ら於陵仲子と謂ふ。窮すれども苟も求めず。櫑乏しきこと三日、乃ち匍匐して井上李實の虫を食ふ者三たび、咽んで能く視聽す。身自ら履を織り、妻は辟纊して、以て衣食に易ふ。楚王その賢を聞き、以て相と爲さんと欲す。使者、金百鎰を以て之を聘す。仲子入りて妻に謂て曰く、楚王、以て相と爲さんと欲す、今日相と爲れば、明日駟を結び騎を連れ、食、前に方丈なり、意ふに可ならん乎と。妻曰く、夫子、琴を左にし書を右にす、樂、其中に在り、駟を結び騎を連ぬるも安んずる所は容膝に過ぎず、食、前に方丈なるも甘しとする所は一肉の味を以て、而かも楚國の憂を懷く、亂世には害多し、恐らくは先生、命を保たざらんと。是に於て出でゝ使者に謝し、遂に相與に逃れ去りて、人の爲に園に灌ぐ。

チンチウジン 陳仲仁 (元)字は元長。江四の人。善く山水人物花鳥を畫く。趙文敏と藝を論ず。及ばざる所多し。其寫生の花鳥を見るに毫を含み意に命じて古人を追踪す。以爲らく黄筌の復生と。至元の間、年殆んど九十、而して神明衰へず、筆墨愈妙なり。

チンチウソ 陳宙姐 (清)長樂江田の陳岳伯が孫女なり。幼にして書史に涉る。隆慶の初年、黄一郷に歸ぐ。一郷痢疾を患へて死す。陳氏、遂に髮を擢きて郷が髩に結び、指を郷が口に入れて嚙ましめ以て信約をなし、曰く、六日我を地下に遲てゞ。後一たび絶し忽ち大息して曰く、鷄鳴なり、正に吾が夫と屬纊するの辰なりと。容を整へて逝く。郷が死してより恰も六日なり。其の門に扁して貞烈といふ。

チンチウビ 陳仲微 (宋)字は政廣。號は遂初。端陽の人。宋末、吏部郎と爲り、上書して權相賈似道を劾す。

チンチウフク 陳中復 (宋)字は從道。熙寧中、進士に第す。崇寧中、京畿京四路茶鹽香事を提舉す。政和中、廣東提刑と爲る。輓詩にいふ、南北建牙多故吏、東西開府半門生と。

チンチジウ 陳知柔 (宋)字は體仁。溫陵の人。自ら休齋居士と號す。天台に在り。徧く天下の名山に游ぶ(東坡以後に生る)。姪穆、楷、皆登第す。

チンチシヨウ 陳雅升 (漢)蒼梧太守たり。政事暇多し。嘗て水に臨んで魚を釣る。民醇にして訟簡なり。之と與に相安んず。

チンチビ 陳知微 (宋)字は希顏。高郵の人。沈厚にして才幹あり。咸平五年の進士に擢でられて東京轉運副使に歴す。頴る治

績あり。後、判司農寺たり。子幾卿、舜卿。

チンチヨウ　陳重　(漢)字は景公。宜春の人。少にして郡陽の雷義と最も密なり。孝廉に舉げられて郎と爲る。同署の郎に息鍾數十万を負ふ者あり。債主日に至る。重、密かに爲に代り還し、終に惠を言はず。義と俱に尚書郎に拜せらる。既にして義は黜けられ、重も亦病んで免ぜらる。後また茂才に舉げられて細陽令と爲る。政、異化あり。遷りて會稽太守と爲る。

チンチヨウ　陳寵　(漢)字は昭公。咸の曾孫。父躬、光武に事へて廷尉と爲る。寵、家業を明習し、章帝の時、尚書と爲る。是時、永平の故事を承けて、政、殿切なり。尚ぶ。寵上疏して、之を濟ふに寛を以てせんと請ふ。この後、風俗和平、屢々嘉瑞あり。三郡に歷守して所在績あり。官、司空に至る。寵法律を傳ふと雖、而かも兼ねて經書に通ず。奏議溫粹、號して職に稱ふと爲す。

チンチヨウ　陳致雍　(五代)背田の人。閩に仕へて太常卿と爲る。南唐に入り、通經を以て及第す。憲章典故、著す所精練なり。復た宋に歸し、開寶中、秘書監に除せられて致仕す。徐鉉送るに詩を以てす。三朝恩澤馮唐老、萬里鄉關賀監歸の句あり。既に還る。陳洪進、辟して掌書記とす。海物異名記、五禮儀鑑等を撰す。

チンヂヨシウ　陳女秀　(遼)邢簡の妻。甫めて笄し、經義に涉獵し、詩賦を覽れば輒ち能く誦す。尤も吟詠を好む。名づけて女秀才と爲す。年二十、簡に歸す。舅姑に事へて孝順、閨門和睦す。六子を生む。親から授くるに經を以てす。統和十二年卒す。年五十。聖智皇后之を聞きて嗟悼し、晉國夫人を贈り石に刻して以て其行を表す。

チンテイ　陳貞　(晉)張昌の別將たり。武陵零陵章武昌等を攻め、告之を陷る。遂に誅に伏す。

チンテイ　陳棣　(宋)背田の人。汝錫の子。官、通判潭州に終る。著、蒙隱集あり。宜春に刊す。

チンテイ　陳鼎　(明)字は大器。其先は宣城の人。高祖廸、惠帝の難に死す。子孫登州衛を戍り、遂にこゝに占籍す。弘治十八年の進士。正德四年禮科給事中を授く。累に坐して削籍せらる。世宗即位して故官に復し、河南參議に遷る。妖人馬隆等を討平す。累官して浙江按察使たり。廉介正直、私謁を通ぜず。應天府尹に擢し、未だ任せずして卒す。

チンテイケイ　陳廷敬　(清)字は子端。號は悅巖。山西澤州の人。順治十五年の進士。庶吉士に選ばる。初の名は敬。この科に同名の者あるを以て、世祖、廷字を加へて之を別つ。禁闈に出入すること五十年。三朝聖訓、平定三藩方畧、一統志を纂する、廷敬、皆これが總裁官たり。官、文淵閣大學士兼吏部尚書に至る。卒して文貞と謚す。

チンテウクワン　陳朝觀　(清)通江縣の人。嘉慶中、冉文儒に從つて王家寨に據り亂を作し、敗れて誅せらる。

チンテウラウ　陳朝老　(宋)字は廷臣。大觀三年、何執事を以て左僕射と爲す。朝老上書して、其の任に勝へざるを曰ふ。宣和の末、陳東等と與に上書して蔡京等を論じ、道州に編置せらる。建炎の政元に、宥に遇うて石門に歸耕す。紹興間、三たび詔して之を徵す。堅く辭して起たず。學者、陳二詔といふ。

チンテウロン　陳兆崙　(清)字は勾山。號は星齋。錢塘の人。雍正八年の進士。乾隆八年、鴻詞科に召試せられ、檢討を授けらる。官、順天府尹に至る。兆崙、意致蕭散、山澤間の氣あり。京師の士大夫、奉じて文章の宗匠と爲す。

チンテキ　陳廸　(明)字は景道。宣城の人。倜儻にして志操あり。初め府學訓導たり。鄆の爲に萬壽の賀表を草す。太祖之を異とす。道經を以て侍講に歷官し、出て山東左參政たり。惠政多し　內艱に丁る。起つて雲南右布政使に除す。會諸蠻寇を平け、禮部尚書に進む。制度を更修し旨に稱ふ。後燕王即位す。執へられて子鳳山丹山等六人と同じく市に磔せらる。

チンテン　陳篆　(宋)字は思文。宣和間、進士に登る。州縣に歷仕して、至る所、聲あり。子準、蔭を以て官に補せらる。年五十餘、即ち冠を掛けて歸る。別墅あり。石室の間に在り。朱熹、爲に石扉書室と扁す。準の二子、秬、江夏令たり。秬、力學倦まず。秬の子、靖州判官たり。

チンテンイン　陳天隣　(宋)字は君擧。闡溪の人。端重にして學を好む。父兄蚤く死し、母に事へて篤孝を以て稱せらる。母亡た死し、將に葬らんとす。時に六月六日、畏日焚くが如し。天隣、期に先だちて香を焚き、雲霧の棺を覆はんとを禱る。人皆之を哂ふ。已にして果して應ず。既に窆すれば雲散ず。人皆之を異とす。

チンテンシヤウ　陳天祥　(元)字は吉甫。趙州寧晉の人。少して軍籍に隸し、騎射を善くす。屢々上書す、其言頗切なり。奸臣誣ふるに不道を以てし、之を死に致さむとす。獄に繫がる。赦に遇うて釋さる。成宗の朝、山東西道廉訪使に除す。復た時弊を上言す。執政喜ばず。疾を謝して去る。仁宗位に即き復た之を召す。赴かず。卒する年八十。趙國公を追封し文忠と謚す。

チンテンシヤク　陳天錫　(宋)公輔の後。金華の王柏に師事して性理の學に明かに、志潔くして行廉なり。金華令と爲り能名あり。宋末、林壑に隱遯す。詩文極めて高古なり。集あり。世に傳る。

チンテンタイ　陳天臺　(明)字は閬仙。閩中の人。畫を善くす。

チンテンフク　陳天福　(宋)茶陵の人。歲凶なり。廩を發して糴を平にす。貧にして糴する能はざる者には輒ち之を周す。道士の米を丐ふ者あり。天福、これに一斗を與ふ。道士酬ゆるに百文を以てす。天福受けず。粗の下畦、靖州判官たり。

チンテンリン　陳天麟　(宋)宣城の人。天資豪爽、慷慨にして義を重んず。紹興中の進士。累官して集賢殿脩撰に至る。嘗て易三傳、四漢南北史、左氏綴節等の書を著す。

チントウ　陳登　(漢)字は元龍。下邳の人。許汜、嘗て劉玄德と共に人物を論ず。汜曰く、元龍は湖海の士、豪氣未だ除かずと。劉、故を問ふ。汜曰く、昔は下邳を過ぎりて元龍を見るに、主客の禮なし、自ら大牀に上りて臥し、客をして下牀に臥せしむと。劉曰く、君は國士の名ありて而かも心を救世に留めず、乃ち田に求め舍に問うて來る可きなしと言ふ、これ元龍が諱も所なり、如し臥するに當りては、百尺樓上に君を臥せしめ、吾は自ら地下に於てす、何ぞ但だ上下牀の間に於けるのみならんやと。

チントウ　陳東　(宋)字は少陽。丹陽の人。俶儻にして氣を負ふ。宣和の末、太學に在り。上書して蔡京、童貫、王黼、李彥、梁師成、朱勔の六人を論じ、且つ曰く、此六賊は異名にして同罪、伏して願くは陛下之を擒へて之を市朝に肆し、首を四方に傳へて以て天下に謝せよと。欽宗之を嘉納す。道士出づ。其の壁に題す。桂子蘭孫聯步武の句あり。後、子桂孫蘭孫、果して登第す。亦た義を墓に施を樂み、父の風あり。天福、宋季に遭ひ、姓を易へて復た祿仕せず。東山書院を營み、終身の計を爲す。博學好古、著述尤も富む。文選補遺四十卷を撰ず。世に行はる。

チントウ　陳登雲　(明)字は從龍。唐山の人。萬曆五年の進士。知縣より御史に改む。剛直廉介を以て聞ゆ。官、京卿に至る。疾を移して歸り卒す。

チンドウシ　陳勳之　(宋)絳の子。

チントク　陳德　(明)字は玉善。濠の人。家世々農を業とす、勇力あり。太祖に定遠に從ひ、万夫長を以て從戰して功あり。帳前都先鋒となり靖海侯に封せらる。洪武二十年、馮勝に從つて納哈出を征し、將に金山に至らんとす。大軍と道を異にし相失して敗沒す。後ち胡惟庸の黨に連坐し爵除かる。

チントクエイ　陳德榮　(清)字は廷彥。號は密山。直隸安州の人。康熙五十一年の進士。出て、湖北枝江縣に知たり。布政使に累官す。官に服すること凡そ二十餘年。

チントクホウ　陳得鋒　(清)奉節縣の人。嘉慶中、襲兄弟等と鐵瓦寺に據りて亂を作し、尋で賊徐王等と合す。已にして討誅せらる。

チントクヨ　陳德璪　(宋)字は子順。連江高宗南渡に至りて、復た力陳して、李綱を相とし黃潛善汪伯彥二人を罷めんと請ふ。誣ふるに上を詛ふを以てし之を殺す。東、初め未だ李綱を識らず。特だ國家を以ての故に之が爲に死す。識ると識らざると皆爲に流涕す。汪黃貶逐せらるゝに及んで、高宗悔悟し、秘閣脩撰官を追贈し、其の親屬一人を召して其家を卹せしむ。

チントウウン　陳登雲　(明)字は從龍。唐山の人。萬曆五年の進士。知縣より御史に改む。剛直廉介を以て聞ゆ。官、京卿に至る。疾を移して歸り卒す。

チントウシ　陳勳之　(宋)絳の子。

チントク　陳德　(明)字は玉善。濠の人。家世々農を業とす、勇力あり。太祖に定遠に從ひ、万夫長を以て從戰して功あり。帳前都先鋒となり靖海侯に封せらる。洪武二十年、馮勝に從つて納哈出を征し、將に金山に至らんとす。大軍と道を異にし相失して敗沒す。後ち胡惟庸の黨に連坐し爵除かる。

チントクエイ　陳德榮　(清)字は廷彥。號は密山。直隸安州の人。康熙五十一年の進士。出て、湖北枝江縣に知たり。布政使に累官す。官に服すること凡そ二十餘年。

チントクホウ　陳得鋒　(清)奉節縣の人。嘉慶中、襲兄弟等と鐵瓦寺に據りて亂を作し、尋で賊徐王等と合す。已にして討誅せらる。

チントクヨ　陳德璪　(宋)字は子順。連江

の人。少にして學を好み、博く六藝諸子百家の學に通ず。淳熙中、進士甲科に登り、累官して大理卿に至る。嘗て歳旱す。帝、直言を求む。德璟、封事を上りて曰ふ、天變を諱み人言を諱む、これ旱を致す所以、乞ふ二諱を去り以て天變を回さんと。上これを嘉納す。文集三十卷あり。

チントクリン 陳德林 (宋)直州に知たり。蘇軾、詩あり。云ふ、君爲守令有古風、名聲直入明光宮、老人愛君如劉龔、小兒敬君魯如恭と。

チンナフ 陳納 (唐)字は虞裕。翊の子。

チンナンキ 陳南箕 (清)字は狂農。江西安福の人。崇禎九年の副榜に舉げらる。甲申の變、身を以て國に殉せんと欲して果さず。遂に妻子を棄てゝ歐公山に入り、弟觀と偕に其中に隱るゝこと二十年、幾んど人世と隔つ。

チンナンヒン 陳南賓 (明)名は光裕。字を以て行はる。茶陵の人。元末、全州學正たり。洪武三年、都に至りて無様丞に除せられ膠州同知に歷す。至る所經術を以て治を爲す。後ち方孝孺と同く四川考試官たり。詩文清勁、法あり。卒する年八十。

チンノウ 陳農 (漢)成帝河平三年、秘府の書多く散亡せるを以て、謁者陳農をして遺書を天下に求めしめ、光祿大夫劉向をして之を校せしむ。

チンバイ 陳枚 (清)字は殿榆。松江の人。人物畫水花鳥を畫くに工に、宋人の法を得たり。京師に游び、内府に入りて内庭に供事す。

チンバイサウ 陳梅莊 (宋)女子。新昌胡縣丞の妻。梅莊は其號なり。少にして文翰に工みなり。詩集二卷あり、世に行はる。

チンハウ 陳芳 (宋)河陽の人。一門十四世同居すること三百年。孝義、時に重んぜらる。芳、仕へて大理寺丞と爲る。詔して其門に旌表す。

チンハウオウ 陳寶應 (南北)晉安侯官の人。性反覆變詐多し。侯景の反に與し、四方を侵擾す。幾もなくして擒へ戮せらる。

チンハウキ 陳方期 (晉)字は長年。孝行を以て稱せらる。太康中、辟されて曹功となる。就かず。親の喪に號泣して幾ど性を滅す。一日假寐す。夢に人あり。曰く、存亡に益なし、願くは出處を擇べと。既に寤めて終身仕へず。

チンハウジ 陳保二 (明)常州奔牛壩の人。至正十六年、兵を聚め黄帕を以て首を裹み、黄包軍と號す。初め太祖に來降し、復叛きて張士誠に歸す。乃ち誅斬す。

チンハウセン 陳邦瞻 (明)字は德遠。高安の人。學を好み風節に敦し。萬曆二十年の進士。南京吏部郎中を歷て出てゝ彰德諸府を理む。水田千頃を開き、滏陽書院を建て諸生を講習す。陝西盜賊起る。之を扼して遏うするを得ず、召されて兵部左侍郎に拜す。天啓間、上疏旨に忤ひて譏讟せらる。尋て戶工二部を兼ぬ。天啓三年官に卒す。尚書を贈る。

チンハウチン 陳彭年 (宋)南城の人。博聞强記、年十三にして皇綱論万餘言を著す。眞宗帝甚だ之を器重す。兵部侍郎に累官し、未だ幾くもあらずして執政に擢でらる。卒して文僖と謚す。

チンハクイウ 陳伯友 (明)字は仲恬。濟寧の人。萬曆二十九年の進士。刑科給事中に拜す。上疏して帝の失を諫む。帝省せず。又時政を陳す。疏亦中に留る。尋て艱を以て去る。時に廷議多く東林を排す。伯友遂に出てず。天啓間起て太常少卿に遷る。東林に倚附するを以て削奪せらる。莊烈帝即位の後、官に復す。未だ用ふるに及ばずして卒す。

チンハクシン 陳伯震 (宋)字は震之。襄の八世の孫。侯官より徙りて長樂に居り。紹熙の進士。泰州知州より廣東經略使龍圖閣學士に累官す。嘉定中、命を奉じて金に使し、能く數言を以て强虜を折服して君命を辱めず。

チンハクノツマ 陳伯妻 (明)江寧の人。黄氏。年十八、伯に歸す。母節を改めむと欲す。苦諫從はず。一日母來る。女門を閉ぢて相見ず。母憑ぢて去る。後ち伯疾篤し。黄氏熟視して曰く、吾望み無しと。徑ちに厨刀を以て自刎して死す。年二十一。

チンハセン 陳霸先 (南北)陳の高祖武皇帝を見よ。

チンハフ 陳法 (清)字は定實。安平の人。大名道に累官す。政を爲すに教養を以て先とし、公廉文告皆手治す。著す。易藪河干問答の諸書あり。

チンハン 陳範 (宋)字は朝弼。樂安の人。朱熹に從ひて學ぶ。嘉定中、進士に登り、徽州婺源尉と爲る。後、撫州崇仁縣丞に遷る。

チンバン 陳蕃 (漢)字は仲舉。汝南平輿の人。年十五、獨り一室に處り、庭宇荒蕪す。父の友薛勤、之を候ひ謂て曰く、孺子、何ぞ灑掃して以て賓客を待たざると。蕃曰く、大丈夫當に天下を掃除すべし、安んぞ一室を事とせんと。勤、其だ之を奇とす。安樂太守と爲る。時に郡人周璆、高潔の士なり。蕃、之を字いひて名いはず。既にして遷りて豫章に守たり。賓客に接せず。惟だ徐稚來れば特に一榻を設け、去れば則ち之を懸く。後、太傅に拜せられ、大將軍竇武と謀りて宦官を誅し、却てその害する所と爲る。郭林宗これを哭して野に働す。既にして歎じて曰く、人之云亡、邦國殄瘁、嗚呼哀止、不和於誰之屋と。

チンバンゲン 陳萬言 (明)蕭皇后の父。大名の人。嘉靖の初、鴻臚卿に拜す。詔して第を四安門外に營む、帑金數十萬を費す。言官皆諫むれども省せず。又武清東安の地各千頃を乞ひて莊田と爲す。諫官また論議す。帝寛に八百頃を以て給す。皇后崩す。萬言亦繼いでらる。尋て卒す。

チンバンサク 陳萬策 (明)江陵の人。天啓中、同邑の李開元と先後鄉に舉げらる。崇禎十六年正月、李自成襄陽に據り僞官を設く。萬策、龍灣市に隱る。自成使を遣し書幣を具して之を徵す。萬策歎じて曰く、我れ名を爲すは誤まれり、既に身を誓うて賊を滅する能はず、尚項頸を惜む可けんや と。夜自經す。

チンバンショウ 陳萬勝 (清)湘潭の人。長髮賊の乱、曾忠襄に從うて各地に轉戰し、同治三年、遂に雖に殉す。武烈と謚す。

チンバンテン 陳萬典 (明)天啓二年、衆を聚めて安邦彥に和し、乱を作す。敗れて誅せらる。

チンバンチン 陳萬年 (漢)字は幼公。沛郡相の人。性廉平、内行脩飭なり。高第を以てへりて右扶風と爲り太僕に遷る。丙吉、嘗て宣帝に薦む。後、御史大夫に至る。

チンヒ 陳秠 (宋)篆の孫。

チンビ 陳奚 (明)字は在中。新建の人。崇禎の時、鄉舉。宜城縣を知す。張獻忠、穀城に據るに及び、人情大いに懼る。奚、守備さに至る。襄陽陷る。賊兵來り犯す。奚、守備劉相國と迎へ擊つ。賊、伏に中りて敗れ去る。巡按御史、其功を上す。未だ擢用に及ばず。十五年冬李自成長驅して襄陽を犯す。賊、兵を分ちて宜城襄陽穀城光化均州に寇す。奚、宜城を守る。固相する七晝夜。城陷る。抗罵已まず。賊の爲に磔せらる。

チンヒン 陳璸 (明)淳浦の人。天啓五年の進士。無錫知縣を授けらる。崇禎十年、袁州推官に爲る。楚賊を拒ぎて功有り、遷して右參議に至る。湖南を分守し、八排賊を討平す。十六年張獻忠長沙を陷れ、參政周鳳岐を澧州に圍む。璸、兵を督して往き救ふ。軍破れて執へらる。之を降さんと欲するも屈せず。手を斷たれ肝を割かれて死す。

チンヒン 陳璸 (清)字は文煥。號は眉川。海康の人。康熙三十年の進士。福建巡撫に累官す。卒する年六十三。清端と謚す。

チンビン 陳敏 (晉)字は令通。廬江の人。少より幹能あり。荐りに張昌等の乱を平げて功あり。累官して揚州刺史に至る。惠帝長安に幸す。四方交々爭ふ。敏江東に割據するの志あり、歙を東海王越に通じ、遂に兵を擧ぐ。戰潰ゐて江乘に奔り、義兵に斬られ、餘衆悉く誅に伏す。

チンビン 陳敏 (宋)騎射に精し。閤門祗候に擢でらる。時に國地、寇多し。敏、統制と爲り、兵を要害に分つ。贛州の寧遠、その地に據りて叛す。敏これを聞き、部下の將士を領して馳すること七日、徑ちに贛に抵り、城を圍むこと月餘にして之を破る。累功して武功縣男に至る。高宗、其狀貌魁岸なるを見て、破敵軍統制に除す。嘗て兵を高郵に駐し、屢々金人を敗る。光州觀察使に歷す。

チンビン 陳敏 (宋)無錫の人。進士に擧げられて台州に知たり。朝廷命じて元祐黨

碑を立てしむ。敏、肯てせず。監司之を促すと急なり。敏、日に司馬相公(光)を謁ひて、奸臣、天を無みする者と爲す。倖これを立つ。敏、其石を碎く。或人、敏を咎む。敏曰く、我れ死も且つ辞せず、何の彈劾かこれ畏れんと。遂に冠を掛けて去る。後、八行を以て薦めらる。起たず。

チンビン　陳敏　(明)陝西華亭の人。宣德中、知州たり。景泰の時、右僉政に累進す。經る所、威信大に行はる。後ち事を以て劾罷せらる。

チンビンシウ　陳敏修　(宋)市隱居士と號す。紹興中、進士第三人たり。玉音云ふ、卿は便ち是れ陳敏修、年幾何と。對て曰く、七十三。問ふ、幾子ありや。對て曰く、未だ娶らずと。乃ち内人施氏を出して之を嫁す。年三十、貲奩甚だ厚し。時人詣りて曰く、新人若問郎年紀、五十年前二十三と。

チンフ　陳邪　(宋)字は彦聖。建陽の人。進士に第して崑山縣に知たり。後、司農丞と爲り、太府丞に遷る。外を請ひて閩漕に除せられ、元祐黨を以て坐廢せらる。後、また朝議大夫に擧げられて卒す。邪、性清鯁、歷官五十餘年、猶ほ寒士たり。

チンフ　陳普　(元)字は尙德。寧德の人。其學四書五經を以て本と爲す。三辟皆起たず。著書凡數百卷。石堂山に隱居す。學者石堂先生と稱す。

チンフ　陳孚　(元)字は剛中。台州臨海の人。嘗て安南に至り、書を致し其無禮を詰責す。辞氣直壯なり。還りて翰林待制に除す。尋て疾を以て家に卒す。孚天材人に過ぐ。詩文を爲る意に任せ即ち成る。雕斲を事とせず。文集あり、世に行はる。

チンブ　陳武　(漢)字は子烈。廬江の人。戰功あり。家財を盡して士を養ふ。死する日、妻子露立す。

チンブ　陳武　(宋)寧宗の時、僞學の黨籍に入る。

チンフク　陳宓　(宋)後卿の子。父の任を以て監奏院たり。慷慨、言を盡す。軍器監簿に遷る。嘗て三事を言ふ、曰く、人主の德は明に貴く、大臣の心は公に貴く、台諫の言は直に貴しと。後、秘閣に直たり。卒す。著す所、春秋三傳抄、續通監綱目、唐史贅疣等の稿あり。

チンフク　陳復　(明)福建懷安の人。永樂末の進士。戶部主事より知州に歷す。廉清にして私無し。士民之を畏憚す。景泰中、官に卒す。

チンフク　陳復　(明)字は啓陽。坦々居士と號す。燕山の人。後其伯父に從て南京に游官す。因て文人墨士と交る。是を以て才思充溢、尤り貲に長ず。山水松竹皆矩度あり。寫昭に精し。

チンフク　陳福　(清)永春の人。世々四民に居り。耕讀を以て業とす。兄弟同居、福に至るまで既に十二世。

チンフジン　陳夫人　(漢)賈帝の母。家も魏郡に在り。少にして聖佞を以て孝王の宮に入り、賈帝を生む。梁氏權を專らにすると以て榮寵及ばず。順帝の時渤海孝王妃と爲る。

チンフジン　陳夫人　(隋)文帝の妃。陳の宣帝の女。性聰慧、姿貌無雙。文獻皇后崩ずるに及び貴人となる。煬帝即位、出でゝ仙都宮に居り。尋で召し入る。歲餘にして終る。時に年二十九。帝深く之を悼む。

チンフジン　陳夫人　(宋)全皇后の宮人。安定夫人たり。臨安陷る時、全后に從つて燕に入る。越えて數日、安康夫人朱氏及び二少姬と沐浴整衣、香を焚て自縊す。

チンブン　陳文　(明)合肥の人。元季、家を挈へて太祖に歸す。攻伐功あり。都督僉事に擢す。是に至りて卒す。東海侯に追封し孝勇と謚す。明臣にして謚孝を得る者、文一人のみ。

チンブン　陳文　(明)字は安簡。廬陵の人。正統元年の進士。編修を授けらる。成化の間、英宗實錄を預修す。禮部尙書に進み、太子少保兼文淵閣大學士を加ふ。四年卒す。

チンブンウツ　陳文蔚　(宋)止饒の人。朱熹の門人。鉛山に講讀す。著書立言、其師の旨趣を得たり。人と爲り高風雅操、鄉邦の共に仰ぐ所たり。卒して學に嗣る。

チンブンキ　陳汝輝　(明)字は耿光。詔安の人。初め禮科給事中を授けらる。累官して大理寺少卿に至る。數々時奬を開陳して得失を言ふ、皆切直。最後に釋道二教を排して旨に忤ひ、罪を懼れて金水橋下に投じて死す。

チンブンシ　陳聞詩　(明)字は廷訓。柘城の人。嘉靖中、鄉に擧げらる。親の老を以て意を仕進に絕つ。已に親沒す。喪に居りて哀毀す。三十二年秋、賊帥尙詔、歸德を陷れ、又柘城を陷る。聞詩の名を聞き劫かして師と爲さんとし、誘引百端なるも屈せず。曰く、必ず吾行を欲せば人を殺すなかれ、火を縱つなかれと。賊許諾す。擁して以て行く。聞詩遂に食はず。鹿邑に至り自經して死す。鳳陽同知を贈らる。

チンブンジユツ　陳文述　(清)字は碧城。詩を善くす。

チンブンリヨウ　陳文龍　(宋)莆田の人。文龍文を善くし氣節を負ふ。淳祐の進士第一たり。參知政事に累官す。益王、閩に入りて制を稱するや、文龍を以て閩廣宣撫使と爲し、漳州興化の元兵を討平せしむ。或は文龍に降を勸する者あり。文龍曰く、諸君特に死を畏るゝのみ、未だ知らず、此の生、遂に能く死せざるを得るかなと。後、執囚せられて杭州に至り、食はずして死す。

ナンフリヤウ　陳傳良　(宋)字は君舉。瑞安の人。乾道中の進士。中書舍人と爲る。時に光宗、疾を以て重華宮に朝せず。傳良、抗疏忠懇、帝の袞を引くに至り、冒、淚と俱にす。後、官、實謨閣待制に至る。卒して文節と謚す。傳良、張栻、召祖謙と友たり。文、當時を擅にす。學者稱して止齋先生と曰ふ。著す所、左氏章旨、兩漢博聞等の書あり。

チンフリヤク　陳普略　(明)陳友諒に仕へて其の平章に除せらる。鄱陽の役、友仁友貴等と焚死す。

チンヘイ　陳平　(漢)陽武の人。少にして家貧し。讀書を好む。容貌甚だ美なり。田三十畝あり。兄伯、常に耕し、平をして縱に游學せしむ。後、高祖を佐けて天下を定め、凡そ六たび奇計を出す。未だ志を得ざる時、里中の社に宰と爲り、肉を分つこと甚だ均し。父老曰く、善いかな陳孺子の宰たるやと。平曰く、予をして天下に宰たらしむるも亦この肉の如けんと。長ずるに及んで典に婚する者なし。里に富人張負といふ者あり。女孫五たび嫁して夫輒ち死す。負、平が家に至るに、席を以て門と爲し、門外豈に美なるト陳平の如くにして長く貴しき者あらんやと。遂に女孫を以て之に嫁す。平、官、丞相に至り、曲逆侯に封ぜらる。孝文帝の二年卒す。獻侯と謚す。

チンヘイ　陳炳　(宋)鶴縣の人。廬を廬嶺山に結び、躬ら耕して志を求め學者と興に琢磨して俱に雅器を爲す。文檀卷白雲稿二十卷あり。包拯、嘗て之に師事す。其墓に志して曰く、文高表世、學優入聖と。

チンヘイシ　陳平子　(漢)長沙の人。太學生たり。范巨卿(式)と時を同じうす。

チンヘウ　陳豹　(周)齊に仕へて麗止と相謀比し已にして之に背き、陳恒等と通じて盡く麗止の陰謀を告げ、之を逐ひて弑逆を遂ぐ。

チンヘウ　陳表　(三國)字は文奧。修の弟、武の庶子。少にして名を知られ、諸葛恪(亮の兄の子)、顧譚、張休等と並に東宮に侍す。皆共に親友たり。尙書鑒鑒また表と善し。後、黜、罪に遇ふ。時人咸自ら警護す。表獨り然らず。士、此を以て之を重んず。太子中庶子と徙り、翼正都尉に拜せらる。

チンベン　陳勉　(明)鄱郡の人。永樂中の進士。仁宗の時、左副都御史に擢す。景泰の初、南京右副都御史に改む。幾もなく致仕して卒す。

チンベン　陳勉　(明)字は進之。秋林と號す。無錫の人。畫に工に又文を能くす。

チンボ　陳暮　(明)字は一德。泰和の人。經史百家に貫通す。隱居して心を經世の務めに究む。一時經世の學士多く之に從ふ。洪武の初、徵されて京師に詣る。留めて國學と爲さんと欲す。疾を引て辭し歸る。著書教授以て終る。

チンホウ　陳絳　(宋)莆田の人。咸平二年進士甲科、再試賢良第一たり。右正言に除せられ、司諫起居舍人に歷す。後、工部郎中を以て福州に知たり。事を以て薩州通判に左遷せらる。文集十二卷あり。子勳之、文を以て世に名あり。說之と同じく登第し俱に官、知秘書丞たり。王安石、歐陽修、

皆甚だ之を愛重す。

チンホウ 陳豊 (宋)字は宜中。仙游の人。驩の子。紹興中、進士に第す。初め泉州教授たり。陳康伯の荐を以て、召されて太學博士と爲る。孝宗初めて召監司を立て、各々循吏二人を舉げしむ。豐、首に居り。知南恩州に除せらる。

チンボウ 陳茂 (隋)貫直恭謹なり。文帝、引きて佐と爲し、待遇甚だ厚し。嘗て帝に從ひ、寶の師と晉州に戰ふ。賊甚だ盛なり。帝將に戰を挑まんとす。茂固く止めて得ず。因て馬鞚を捉ふ。帝怒り刀を拔きて其額を斫る。流血、面に被る。辭氣撓まず。帝感じて之を謝す。

チンホウチン 陳鵬年 (清)字は北溟。別字は滄洲。湖南湘潭の人。康熙三十年の進士。河道總督に累官す。卒する年六十一。恪勤と謚す。著、歷仕政略等の書あり。

チンホウヒ 陳鵬飛 (宋)字は少南。永嘉の人。紹興の進士。崇政殿說書と爲り、春秋を講ずるを以て秦檜に忤ひ、惠州に謫せらる。

チンボウレツ 陳茂烈 (明)字は時周。南田の人。弘治間の進士に第し監察御史と爲る。敝服朴質、一疲馬に乘る。人望んで之を敬す。母に事へて至孝なり。母卒す。茂烈亦卒す。識者曰ふ、時周と語れば沈痾頓に去る。と。其重んぜらるゝこと此の如し。

チンボク 陳睦 (宋)元豐間、高麗に使す。

テンホゲウ 陳輔堯 (明)楊州の人。萬曆年間、鄉に舉げられ永平同知を歷たり。餉を轉じて關を出で、自在知州段展と瀋陽に駐まる。天啓元年、日蠱常に異り。段展、袁應泰に牒して曰く、天象警を示す、宜しく豫防すべしと。月を踰ゑて瀋陽破る。輔堯、命を奉ずるに方り印なし。左右、守土の責なきを以て之を勸めて去らしむ。輔堯曰く、孰れか封疆の臣に非ざらん、何ぞ去ることを爲んと。闕を望んで拜し刀を拔いて自刎す。段展と鼎に按察僉事を贈らる。輔堯、初め膠孫に官たる時、山蘭を餽る者あり。受けて之を公帑中に懸く。

チンホンシン 陳本深 (明)字は有源。鄞の人。永樂の初、鄉舉より刑部主事に歷す。尋て知府に轉す。吉安に守たること十八年。已に去る。郡人像を圖して之を祀る。

チンムリン 陳無咎 (元)永豐の人。素より文名あり。叛將其才を嘉ひ、强ひて已に從はしむ。乃ち紙筆を請ひ一詩を書して興ふ。其詩詆罵を極む。賊怒りて其舌を拔き其腹を刳く。

チンメウジヤウ 陳ゆ常 (宋)貝觀尼の姑。年二十餘歲、姿色群を出づ。詩文俊雅、尤も音律に工なり。

チンモウ 陳蒙 (宋)鄞縣の人。堉の子。年十八、萬言の書を上りて國事を論ず。仕へて淮東總領官と爲る。

チンヤウ 陳暘 (宋)字は晉之。祥道の弟。

チンヤウ 陳揚 (元)人物山水を善くす。宋より元に入り隱居して仕へず。

チンユ 陳愉 (明)疎の子。父の職を嗣ぎ、永樂二十年北征に從ひて律を失ひ、獄に下されて死す。

チンユノツマ 陳兪要 (明)慶雲の諸生陳兪の妻賈氏。正德六年の兵變、舅卒するに遇ふ。家人之を棄てゝ避けしむ。聽かず。兵至り火を縱ちて迫り出でしむ。罵り口を絕たず、舅屍と同燼す。時に年二十五。

チンヨ 陳餘 (秦)大梁の人。張耳と父事し、兩人相共に刎頸の交を爲す。秦、魏を滅すや、兩人が魏の名士なるを以て、賞を懸けて之を求む。兩人姓名を變じて俱に陳に往き、里の監門と爲る。陳勝、兵を起すに及び往きて之に從ふ。勝、白立して陳王と爲り、陳人武臣を將軍とし、北、趙の地を畧せしむ。兩人これが左右校尉たり。武臣に勸めて自立して趙王と爲らしむ。李良、武臣を殺す。兩人また趙歇を立てゝ趙王とす。うの後、兩人、事を以て隙あり。漢の元年、項羽、張耳を立てゝ常山王と爲す。餘、憤うて之を破る。趙王歇、餘を以て代王と爲す。漢の三年、張耳及び韓信、趙を擊ちて陳餘を泜水の上に斬る。

チンヨ 陳與 (宋)字は去非。洛陽の人。天資卓偉なり。政和間、登第して、太常博士に累官す。徽宗、賦する所の曇梅の詩を見て、見ると晩しの歎あり。紹興中、翰林學士に拜し、參知政事に遷る。其出處氣節、文章翰墨、卓然として稱すべし。著す所、簡齋集あり。世に行はる。

チンヨ 陳璪 (明)疎の孫。字は立卿。正統の末、副總兵を以て沙縣の賊を平げ侯に進封す。景泰中、南京に守備す。天順元年召還せられて、歲祿を增す。三年卒す。默國公を贈り莊敏と謚す。

チンヨウ 陳容 (漢)射陽の人。臧洪に辟うて東郡丞と爲る。洪、袁紹に執へられ、將に死せんとす。容曰く、將軍大事を舉げて先づ忠義を殺す、可ならんやと。紹、無ち、人をして牽き出さしむ。容、顧みて曰く、仁義豈に恒所あらん、之を蹈めば則ち君子、之に背けば則ち小人、今日寧ろ臧洪と同じく殺さるゝも、將軍と同じく生きずと。竟に殺さる。

チンヨウ 陳容 (宋)字は公儲。三山の人。人呼んで陳所翁と爲す。端平二年の進士。寶祐元年、太學生より知平陽縣と爲る。簡易從容、邑人之に化す。

チンヨウ 陳庸 (明)字は叔振。錢塘の人。庶吉士より祠祭司主事を授く。楊士奇、其清介を稱す。仁宗の初、襲利の賊鋒に斃る。

チンヨウクワウ 陳用光 (清)字は碩士。道の次子。嘉慶六年の進士。編修より禮部左侍郎に累官す。嘗て千五百金を以て管鎖非姚姬傳兩先生の爲に祭田を設く。著、納祿錄あり。

チンヨク 陳翊 (唐)字は載物。貞觀中及第す。三府交々辟す。德宗、奏を覽て之を異とす。翊、文章を以て時に名あり。官、戶部員外郎知制誥に終る。詩集十卷あり。

チンラ 陳徠 (明)初の名は璞。字は叔徠。白室と號す。後字を以て行はる。縣州の人。山水を善くす。

チンリウシ 陳隆之 (宋)四川制置使たり。淳祐の初、成都、圍を破る。城破れて遂に殺さる。

チンリウチヤウコウシユ 陳留長公主 (南北)魏の高祖の女。王肅に嫁す。詞翰に工なり。

チンリクワ 陳履和 (清)雲南石屏の人。舉人。崔述に京邸に遇ひ、その攷信錄を見て、乃ち弟子の禮を執る。述歿するや、爲に其遺書を刊す。

チンリテイ 陳利貞 (唐)幽州范陽の人。初め平盧の將と爲り、李懷弼に從うて安祿山を征し、太子賓客に累遷し靜戎郡王に封ぜらる。李希烈叛す。利貞、奇兵を出し橫さまに賊鋒を擣く。朱泚反す。鑾下、亂に從はんと欲す。其勇に長れて乃ち止む。德宗之を嘉し汝州防禦使に擢づ。

チンリフ 陳立 (漢)蜀郡臨邛の人。成帝の時、牂牁太守と爲り、寇亂を討平す。又徙りて巴郡及び天水に守たり。治績、天下の最たり。天子賜ふに黃金四十斤を以てす。後、左馮翊と爲る。

チンリフ 陳立 (元)工に山水を描く。好んで東南の名勝を寫す。

チンリン 陳琳 (漢)字は孔璋。廣陵の人。雖を冀州に避く。袁紹、琳をして文翰を典子納、字は廣裕、亦及第す。

チンリン 陳琳 (明)字は玉晴。南田の人。庶吉士より御史に改む。曾て端本修政十五事を上る。出でゝ南畿學政を督す。劉瑾の健遷等を逐ふや、琳、抗章して其不可を言ふ。瑾怒り、揚陽丞に謫す。瑾敗れ、嘉興同知に遷る。世宗の時、南京兵部右侍郎に終ふ。

チンリン 陳璘 (明)字は朝爵。廣東翁源の人。嘉靖の末、指揮僉事と爲る。璘、謀略あり、至る所善く兵に將たり。朝鮮の用らしむ、嘗て紹の爲に檄を作りて曹操を酷詆す。紹敗れて後、曹操に歸す。操、其才を愛して敢て舊罪を咎めず、軍國の書檄、多くは琳の手に出づ。操、嘗て病み、臥して琳が作る所を讀む。翕然として起ちて曰く、此れ我が病を愈すと。數々厚賜を加ふ。官、門下督に至る。建安七子の一也。

チンリン 陳臨 (漢)字は子然。香山の人。蒼梧太守と爲り、鹽を推して理む。嘗て人を殺す者あり、吏の獲る所と爲る。臨その嗣無きを知り、妻をして獄中に侍せしむ。後、一男を生む。郡人歌うて曰く、蒼梧府君惠及死、能令人死不絕嗣と。

チンリン 陳琳 (元)字は仲美。汪が子なり。山水人物花鳥を善くす。法を前賢に取り妙に臻らざるなし。趙魏公と晨夕講論、裨益する所多し。凡て舊蹟を臨摸するに、觀るものをして幾んど辨ずる能はざらしむ。論ずるもの曰く、宋南渡後二百年其匹なしと。

チンリン 陳琳 (明)字は玉晴。南田の人。弘治三年の進士。庶吉士より御史に改む。曾て端本修政十五事を上る。出でゝ南畿學政を督す。劉瑾の健遷等を逐ふや、琳、抗章して其不可を言ふ。瑾怒り、揚陽丞に謫す。瑾敗れ、嘉興同知に遷る。世宗の時、南京兵部右侍郎に終ふ。

チンリン 陳璘 (明)字は朝爵。廣東翁源の人。嘉靖の末、指揮僉事と爲る。璘、謀略あり、至る所善く兵に將たり。朝鮮の用

兵に及び、彌傑情に熟するを以て副總兵官に充つ。尋て徐播の役あり。璘軍を率ゐて討伐す。斬首三千餘級、招降する者萬三千餘人。左都督世廉指揮使を加ふ。卒して太子太保を贈り再廕百戸。

チンリヤウ 陳良　(周)楚の產なり。周公仲尼の道を悅び、北、中國に學ぶ。北方の學者、未だ或は之が先たるを能はざる也。

チンリヤウ 陳亮　(宋)永康の人。幼より穎悟、才氣超邁、善く兵を談じ、議論風生、志、經濟に存す。隆興の初、中興五論を上る。報ぜず。退いて益々力學、書を著す。淳熙中、名を更めて同じく闕に詣り、上書して時事を極言す。帝、將に之を官せんとす。亮笑うて曰く、吾れ社稷の爲に數百年の基を開かんと欲す、寧んぞ以て一官を得るを用ひんやと。遂に垣を踰ゑて逃れ、即ち江を渡りて歸る。紹熙四年の試に、禮樂政刑の要を問ふ。亮、君道師道を以て對ふ。光宗大に悅び、御筆擢でゝ第一と爲し、簽書建康府判官を授く。卒して文毅と謚す。

チンリヤウイウ 陳良祐　(宋)字は天與。金華の人。紹興中の進士。仕へて左司諫と爲る。時に高宗銳意治を圖る。良祐、願はくは良臣と爲り忠臣と爲らざらんの語あり。果官して吏部尚書に至る。旨に忤ひて罷む。淳熙中、復た起ちて敷文閣待制に除せられ、建寧府に知たり。

チンリヤウカン 陳良翰　(宋)字は邦彥。公輔の族子。早く孤なり。母に奉じて孝あり。天資莊重、文を爲る恢博にして氣あり。紹興五年進士登第、瑞安縣に知として惠政あり。左司諫に累官して、湯思退の奸邪、張浚の精忠を疏論す。出でゝ建寧府に知たり。後、敷文閣直學士を以て祠を奉ず。良翰、朝に在りて論諫純正、多くは嘉納せられる。卒して懿肅と謚す。

チンリヤウサイ 陳良才　(明)秦州の人。家を庶吉士に起し、兵部侍郎に歷官す。嘉靖三十六年大計自ら陳す。已にして南京に調はる。嚴嵩に忤ひて落職す。

チンリヤウボ 陳良謨　(明)字は士亮。鄞人。崇禎四年の進士。初名は天工。莊烈帝即位の初、詔して群臣の天と名づくる者を改めしむ。推官より御史に擢す。十七年巻、李自成の難に殉ず。年五十餘。太僕卿を贈り恭愍と謚す。

チンリヨ 陳旅　(元)字は衆仲。興化南田の人。委屬韻異。至元中、國子監丞に遷る。

チンリヨウ 陳稜　(隋)字は長威。大業中、琉球を擊ちて之に克つ。

チンリヨウセイ 陳龍正　(明)字は惕龍。嘉善の人。業を高攀龍に受く。于王の子。崇禎七年の進士。中書舍人に除す。儒學を以て南京國子監丞に左遷せられ、家に抵れば京師陷る。福王立ち、召せども赴かず。既にして疾に卒す。

チンリヨウフク 陳曹復　(宋)泉州の人。文天祥と同じく登第して太府少卿に歷官す。天祥、南劍州に開督するや、龍復、往きて之を助け、遂に元兵に囚はれて死す。

チンリヨクシ 陳力修　(宋)字は介翁。平陽の人。常德府教授より累進して祭酒兼中書舍人に至る。嘗て理宗に面對して時弊をいふ。

チンレツ 陳烈　(宋)福州の人。人と爲り介僻孝友、親の喪に居て勺飲入らず。學行端飭、動もすれば古禮に遵ふ。從學する者常に數百。仁宗の朝、歐陽修之を薦む。召して國子監侍講と爲す。辭して至らず。

チンロク 陳祿　(明)字は憲章。字を以て行はる。如臯居士と號す。會稽の人。墨梅松竹蘭蕙を善くす。雅意儒雅王牧之と名を齊しうす。

チンワウノツマ 陳旺妻　(明)汝陽の陳旺の妻。唐氏。其夫に從ひ歌舞を業と爲す。正德三年秋、旺、妻及び女環兒、姪成兒を携へて江夏九峰山に至る。史聰なる者あり、老し嫁女皆艷麗なるを見て、旺を給き殺し、明日其嫁女幼姪を携へ武昌山に入り、利刀を持し唐氏を脅す。唐曰く、汝を殺し讐を復する能はずとも豈汝に從はんやと。遂に殺さる。賊亦た環兒に迫る。環兒哭罵す。聲、林木を振ふ、遂に殺さる。共に蘆撲中に埋めて去る。其年冬至、賊醉臥す。成兒潛に出でゝ官に告ぐ。遂に擒に就きて誅に伏す。

チンワウボ 陳王謨　(明)圭の子。初め僉書後軍たり。賊張廷舉を討平し、功を以て太子太保を加へらる。萬曆中、前軍府事を掌り、官に卒す。少保を贈り武靖と謚す。

チンキ 陳遺　(晉)吳郡の人。性至孝。母、鑑底の焦飯を食ふを好む。遺、郡の主簿と爲り、恒に一甕を製ひ、食を煮る毎に輒ち焦飯を貯へ、歸りて以て母に遺る。後、孫思、亂を作す。吳郡の守、即日進み征す。遺、既に數斗の焦飯を聚め得て、未だ家に歸るに及ばず、遂に携へて以て軍に從ひ、滬濱に戰うて敗る。軍人潰散し、山澤に逃走して皆多くは餓死せしが、遺獨り焦飯を食うて活くるを得たり。人以て純孝の報と爲す。母、晝夜號泣し、目は爲に明を失ひ、耳は聞く所なし。遺、還りて戶に入り、再拜號咽す。母、豁然として即ち明か也。後また河南の孝廉と爲る。

チンキ 陳煒　(宋)字は光仲。淳祐中、監察御史と爲る。後、太府少卿に除せられ、廣東轉運判官に遷る。

チンキンショウ 陳維崧　(清)字は其年。號は迦陵。江蘇宜興の人。康熙十八年、鴻詞科に召試せられ、諸生より檢討を授けられ、明史を預修す。性倜儻、綺帛を視ること土の如く、家貧にして淡如たり。其の文を作るや、六朝の体を用ひ、頃刻にして千言、鉅麗、與に比する無し。駢體、清朝の冠たり。汪堯峰曰く、開寶より後七年、此等の作なしと。姜宸英が序せる湖海樓詩は即ち維崧の集なり。

チンキトク 陳維德　(宋)字は微之。初め仕へて長樂縣尉たり。慶曆中、雷州に知たり。後、連州に遷る。官、遂に虞部員外郎に至る。

チンキンタウ 陳貞幹　(明)臨海の人。宣德五年の進士。御史に除し、正統間、福建右布政使に歷遷す。至る所政績あり。子遷。

チンエン 陳淵　(宋)字は默分。瑾の兄の子。少より穎悟、書に於て讀まざる所なし。楊時を師とす。時、その深く聖賢の旨趣を識るを稱し、且つ妻すに女を以てす。高宗の朝、監察御史と爲り右正言に遷る。

チンエン 陳遠　(明)過の弟。字は中復。鄞縣の人。嘗て過に隨つて帝に侍す。永樂の初、翰林待詔に擢でらる。繪事に精し。嘗て太祖の御容を寫して旨に稱ふ。于孟顒。

チヤウアイ 張鑑　(宋)字は伯雲。浦城の人。侍御史と爲る。太祖方に雀を後苑に彈す。鑑、急に請ひ入りて事を奏す。奏する所を見るに乃ち常事なり。帝怒て曰く、此小事なり、何ぞ急なるを此の如き。鑑曰く、亦彈雀よりも急なりと。帝色愈々厲に、斧柄を以て其口を撞き兩齒を墮す。鑑跪きて徐に之を拾ふ。帝曰く、汝朕を訟へんと欲するか。鑑曰く、臣訟ふる能はず、自ら史官の之を書するあるのみと。帝大に悔い、謙に謙百匹を賜ふ。

チヤウアク 張渥　(元)字は叔厚。貞期生と號す。杭州の人。白描の人物を善くす。筆法老を欠くと雖も、而かも工緻絕倫なり。

チヤウアン 張晏　(三國)字は子博。中山の人。著す所四漢書音釋四十卷あり。

チヤウアンセイ 張安世　(漢)字は子孺。湯の子。謹愼周密。父の任を以て郎と爲る。上、河東に幸す。嘗て三匱の詔を亡ふ。問ふに能く對ふるなし。惟安世のみ悉く之を識り、具に其事を述ぶ。後に書を得て相校するに、一も遺す所なし。武帝其才を奇なりとして尙書令に擢づ。光祿大夫に遷る。昭帝位に即く。右將軍に拜せられ富平侯に封ぜらる。宣帝の時に定策の功を以て大司馬に拜せらる。子孫七葉侍中諸曹散騎たる者千餘人。安世薦むる所ある毎に、其人來り謝すれば輒ち大に恨み、以爲らく、賢を擧げ能を進ずる豈私謝あらんやと。絕て復與に通ぜず。郎の功高くして調ばれざるものあり。自ら安世に言ふ。安世曰く、君の功高きは明主の知る所、人臣何の短長を執て自ら言はんやと。絕て許さず。已にして郎果して遷る。其名跡を匿し權勢を避くる類れ此の如し。子三人。千秋、延壽、彭壽。延壽、身に功德なきを以て上書力陳して封邑を讓る。

チヤウイ 張嵇　(南北)字は慶賓。武城の人。性公强にして風慨あり。經史を歷覽す。魏に仕へて散騎常侍兼侍節と爲り、陝東河南十二州を巡察して甚た聲稱あり。後に安西將軍秦州刺史に除せらる。羌夏其威を懷る。尋て召されて光祿大夫と爲る。

チヤウイ 張怡　(清)字は瑀星。上元の人。甲申の役に僧會に寄居し躬ら樵汲す。口、

詩書を言はず。足城市を履まず。時に白雲先生と稱す。

チヤウイウ　張融　(南北)字は思光。吳縣の人。數の子。草書を善くし百家に玩涉す。道士陸脩靜、白鷺羽扇を以て之に遺りて曰く、此異物當さに異人に奉ずべしと。宋の武帝の時に起て參軍と爲る。後、封溪令を歷、入りて御史中丞と爲る。融、性至孝、父母歿して皆土を負ひて墳を成す。著す所文集數十卷あり、玉海集と名づく。嘗て海賦を作る。中の警句に云く、窮嶌汎濤、萬里藏岸、湍轉則日月似驚、泯動則星河若覆と。後以て徐凱之に示す。凱之曰く、卿が此賦、實に元虛に超ゆ、但恨むらくは攄を道はざるのみと。融即ち筆を求め增して曰く、漉沙搆白、熬波出素、積雪中眷、飛霜晝露と。融暇を給はり東出す。帝問ふ、卿の住何れの處にか在る。答へて曰く、臣陸處するに屋なく、舟居する水に非ずと。後、上、其從兄緒に問ふ。對へて曰く、融東出して未だ居止あらず、櫓りに小船を岸上に牽きて住すと。

チヤウイウ　張裕　(南北)字は茂陵。敞の子。尙書郎に歷官す。宋文帝元嘉中に侍中益州刺史と爲り、入りて五兵尙書と爲る。卒して恭と謚す。子五人、演、鏡、永、辨、岱、俱に才名あり。時に張氏の五龍と號す。

チヤウイウ　張祐　(明)字は天祐。廣州の人。弘治中、廣州右衞指揮使が嗣ぐ。正德嘉靖の交、都督同知に歷進す。憂歸し、尋て疾を以て休を乞ふ。嘉靖十一年楊譽の賊を伐ち、危疾に中りて軍中に卒す。軍民咸く哀慟す。

チヤウイウ　張祐　(明)字は天宥。鳳陽の人。王牧之の弟子なり。梅花を畫く、淸氣人に逼る。

チヤウイウセイ　張友正　(宋)士遜の子。書を以て名あり。神宗其草書を評して當時第一と爲す。

チヤウイウチヨク　張友直　(宋)士遜の子。工部郎中に累官す。

チヤウイウテウ　張游朝　(唐)金華の人。莊列の書に通じ、象問、白馬諸篇を爲り、以て其說を佐く。子志和。

チヤウイウヒ　張雄飛　(元)字は鵬舉。瑯琊臨沂の人。父察、金に仕へて盱眙に守たり。後從りて許州に居り。蒙古の兵、許を屠る。雄飛、亂を避けて四方に流寓すること十餘年、諸國の語に通ず。元の至元二年、廉希憲これを薦む。世祖召見す。慨然として當世の務を陳じ、同知平陽路轉運司事を授けらる。累遷して中書參政知事に至る。頗る献替の功あり。帝每に嘉賞す。至元二十一年盧世榮、復た起ちて相と爲る。雄飛遂に罷む。二十三年燕南河北道宣慰使に任ぜられ官に卒す。雄飛嘗て奏して御史台を置く。元の御史ある、こゝに始まる。

チヤウイウヒ　張裕妃　(明)憲宗の妃。性直烈。客魏、其の己に異なるを惡み、別宮に幽して其飲食を絕つ。天雨ふる。妃龠匐して澗溜を飲みて死す。

チヤウイク　張臯　(元)字は光弼。廬陵の人。杭省左右司員外郎に官す。詩酒を以て自ら娛む。官を棄てゝ歸り四湖に寓す。自ら可問老人と號す。年八十三にして卒す。左司集あり。

チヤウイケン　張彝憲　(宋)字は季常。博學多聞。三たび科に應じて利あらず。意を功名に絕ち懷を林壑に放つ。楊文公と世親なり。咸平中、詩を以て文公に贈りて云く、疊巘峯差翠繞門、影梁賀燕自成群、割雞日夕期佳客、種竹寒暄到此君、且向東皐輸黍稷、便應北闕降元勳、子眞虞說耕巖石、不奈名聲四遠聞と。文公詩を移して京に入り、遍く貴游に謁して屬和を爲る。文公復た序引を作りて云へるあり、千里寄題、豈人遐而室遠、七閩傳誦、盡玉振而金聲、跼足爲吾讚之美談、寧獨光幽人之肥遯と。其子巡、祥符八年の進上。尙書に累官す。

チヤウイツ　張佚　(漢)國子博士と爲る。光武、太子の爲に傅を擇ぶとき、群臣、上意を承望して皆冒ふ、太子の舅陰識可なりと。佚色を正して曰く、今陛下の太子を立つるは、天下の爲にするか、陰氏の爲にするか。陰氏の爲にせば則ち陰侯可なり。天下の爲にするならば則ち固より宜しく天下の賢才を用ふべしと。帝善を稱して曰く、傅を置くは以て太子を輔けしめんと欲するなり。今博士は朕を正すを憚らず、況んや太子をやと。即ち佚を拜して太子太傅と爲して侍讀學士と爲り、安南に使して道に卒す。詩を善くす。高青邱等と同しく四傑と稱せらる。

チヤウイン　張寅　(明)太倉の人。嘉靖の初の進士。南京御史に歷し、大官を勅すること三次。南京文選郎中に除す。會々宮僚闕簡す。春坊右司直兼翰林院檢討に改む。未だ幾ならず、勅せられて罷む。

チヤウウ　張禹　(漢)字は子文。河內軹の人。經學に明智し、試みられて博士と爲る。身は大第に居り、前堂は生徒を敎授し、後堂は經竹帶絃を列す。弟子の中に於て戴崇を親愛し、彭宣を敬して之を疏んず。崇至れば則ち引て後堂に入れて飲食し管絃鏘鏘として樂を極む。宣來れば但だ便座に於て經義を講論す。日晏れて食を賜ふに一肉巵酒相對するに過ぎず。元帝の朝に禹に詔して太子に論語を授けしむ。成帝位に即き尊ぶに師傅の禮を以てす。鄭寬中と書を金華殿に說かしむ。河平中に相に拜し安昌侯に封ぜらる。子宏嗣ぐ。

チヤウウ　張禹　(漢)字は伯遠。宏帝の胡、安鄉侯に封ぜらる。

チヤウウ　張羽　(明)字は來儀。靜居と號す。潯陽の人。後吳に移る。洪武間、徵されて京師に至る。應對旨に稱はず。尋て事に坐して嶺南に竄す。牛道にして召還さる。羽自ら免れざるを知り龍江に投して死す。羽の文章淸潔法あり。尤も詩に長ず。尤も墨梅に長ず。

チヤウイ子イ　張以寧　(明)字は志道。古田の人。元末に翰林承旨と爲り、明に仕へて侍讀學士と爲り、安南に使して道に卒す。詩を善くす。高青邱等と同しく四傑と稱せらる。

チヤウイツ　張鎰　(唐)字は季權。河南の人。殿中侍御史と爲る。萬年令盧從、邑人の爲に搆せられ、有司死を擬す。鎰之を直とせず、從を理して死を免す。坐して撫州司戶參軍に貶せらる。大歷の初め濠州刺史と爲る。後に相に拜せられ、罷めて鳳翔隴右節度使と爲る。

チヤウイツ　張逸　(宋)滎陽の人。進士に舉げられ、鄧城、長水、青神、尉氏縣に歷知し、復、樞密直學士を以て益州爲り。民に人を殺して以て人を誣ふる者あり。吏、賄を受け、殺人者をして囚を守らしむ。逸曰く、囚の色、寃なり、守者の氣、直からず、豈に守者人を殺すかと。囚始めて敢て言ひ、而して守者果して服す。立ぞころに之を誅す。凡そ四たび益の守と爲り、而して政多く民に便なり。

チヤウイツケイノツマ　張一桂妻　(明)邵氏。姜李氏と同じく賊に遇ふ。李氏を引き去らんとす。邵氏固く担みて興へず。賊怒て之を殺す。李氏紿て曰く、響珥あり、後園井傍に埋むと。賊李氏に從ひ井傍に至る。李氏井に投ぜむと欲す。賊之を止む。乃ち大に罵る、聲雷の如し。賊之を刃す。

チヤウイツソウ　張乙僧　(淸)字は四又。嘉定の人。色の諸生。花草を畫くに工なり。尤も墨梅に長ず。

チヤウイウ　張祐　(宋)字は子文。河內軹の人。經學に明智し、試みられて博士と爲る。身は大第に居り、前堂は生徒を敎授し、後堂は經竹帶絃を列す。弟子の中に於て戴崇を親愛し、彭宣を敬して之を疏んず。崇至れば則ち引て後堂に入れて飲食し管絃鏘鏘として樂を極む。宣來れば但だ便座に於て經義を講論す。日晏れて食を賜ふに一肉巵酒相對するに過ぎず。元帝の朝に禹に詔して太子に論語を授けしむ。成帝位に即き尊ぶに師傅の禮を以てす。鄭寬中と書を金華殿に說かしむ。河平中に相に拜し安昌侯に封ぜらる。子宏嗣ぐ。

チヤウウ　張禹　(漢)字は伯遠。宏帝の胡、安鄉侯に封ぜらる。

チヤウウ　張羽　(明)字は來儀。靜居と號す。潯陽の人。後吳に移る。洪武間、徵されて京師に至る。應對旨に稱はず。尋て事に坐して嶺南に竄す。牛道にして召還さる。羽自ら免れざるを知り龍江に投して死す。羽の文章淸潔法あり。尤も詩に長ず。尤も墨梅に長ず。

チヤウウ　張蘊古　(唐)武德の末に大理寺丞と爲る。大寶藏を上る。其略に曰く、聖人命を受け溺を拯ひ屯を亨す、故に一人を以て天下を治め、天下を以て一人に奉ぜず、九重を內に壯にするも、居る所は膝を容るゝに過ぎず、彼、昏ものは知らず、を善くす。米氏父子を法として筆意最も妙なり。

チヤウウン　張氣　(唐)晉州の人。號は洪崖子。仙書秘典通ぜざる所なし。玄宗召して問ひて曰く、先生長嘯を善くすと、得て聞くべきかと。即ち聲に應じて發す。官に拜すれども受けず。洪州大人疫す。狂道士あり、藥を市る。服する者は立ぞころに癒ゆ。即ち氣なり。三召して至らず。天寶の末大霧、尸解して去る。

チヤウウン　張逞　(宋)貴溪の人。宣和中に進士に擢でられ藍山尉と爲る。寇を平ぐるの功あり。通判鼎州に累遷す。張俊の賊楊公を平ぐる、逞の力を多しと爲す。後に建州に知たり。方に大に旱す。境に入りて而して雨ふる。奏して病氏九事を除く。大理少卿、刑部侍郎を歷官す。獄之が爲に空し。金人盟を渝ふ。戶部侍郎に遷り、專ら餽餉を司る。敷文閣待制を以て卒す。

チヤウウン　項雲　(元)よく闘を畫く。

チヤウウンケイ　張逞桂　(淸)字は穆圃。運闘の第。咸豐十一年、兄と徽州を守り、悍酋賴裕新古隆賢を欽東に破る。同治元年、軍中大に疫す。病て歿す。官、總兵に至る。

其祭か瑤にして井室を瑩にす、八珍を前ユ羅ぬと雖も、食ふ所は口に適するに過ぎず、惟狂は念ふ罔し、其精を邱にして其酒を池にす、沒々として闇き勿れ、察々として明なる勿れ、晁旒目を蔽ふと雖も而も未形に覩、計纊耳を塞くと雖も而かも無聲に聽けと。上之を嘉して賜ふに束帛を以てす。

チヤウウンホウノツマ 張雲鵬妻 (明)蘆氏。潁州の人。夫病む。単衣蔬食、身を以て代るを願ふ。夫死せば殉せむを許し三日を期す。夫紅帔を付し訣を爲す。既にして夫死す。越えて三日、紅帔を結びて縊に就く。

チヤウウンラン 張運蘭 (清)字は凱章。湘鄉の人。咸豐六年武昌の賊上り犯す。運蘭、通城に趨き、石裕梅の寇屯を襲ひて之を走らす。明日、寇酋張庸愚、晉三元、衆數千を擁して來る。悉く之を殲す。七年、王珍に從ひ江西を援ひ、功最なり。八月、吉水に營し、逆琨黃錫を斬る。皇賊敢へて贛江を越ねず。未だ幾くならずして永豐の圍を解く。明年、南豐建昌を復し、攻めて安仁の賊を敗る。十年、曾國藩祁門に駐まる。李秀成、李世賢、數萬の衆を糾めて祁門を圍む。運蘭、鮑超と靡々賊を彫飲に破る。明年二月、休寧に克つ。五月、夥を復して盡く賊巢を夷す。同治二年、廣東を援ひ、李復猷を建州に禽ふす。三年、閩を援ひ、五百人を率ゐて賊を武平に拒ぎ、執へられて支解せらる。官、按察使に至る。忠

殺と謚す。

チヤウエイ 張嬰 (漢)順帝の時衆を率ゐて廣陵に起り、楊徐の間に寇亂すること十餘年、二千石制する能はず。張綱、太守となりて之に諭すに義を以てす。嬰乃ち出て降る。南州晏然たり。

チヤウエイ 張裔 (三國)字は君嗣。成都の人。公羊春秋を治め、博く書史に通ず。漢の昭烈益州を定め、以て太守と爲す。累官して長史に至る。嘗て丞相諸葛亮の參軍と爲る。裔少くして楊恭と友とし善し。恭早く死し、遺孤未だ數歲ならず。裔、恭が母を迎へて之に事へ、恭が子長ずるに及び、爲に婚を娶り及び田宅を買ふ。時人咸其義を重んず。後、輔漢將軍と爲る。裔、益州に在り、雍闓の爲に縛して吳に送與せらる。武侯、鄧芝を遣して吳に使し、其をして言次に孫權に從ひ裔を請はしむ。裔吳に至りしより流徙伏匿す。吳王未だ其賢なるを知らず。故に芝の請ふ所を許す。裔殺するに臨み、引見し問うて曰く、蜀の車氏の女亡げて相如に奔る、貴士の風俗何を以てか乃ち爾ると。裔曰く、愚以爲らく、車氏の寡女も猶實臣の妻に勝ると。權之を首肯す。初め雍闓の裔を送る時、鬼を假りて數へて曰く、張府君は瓠壺の如し、外は澤なりと雖も內は實に麤なり、殺すに足らずと。放に裔免るゝを得たり。

チヤウエイ 張永 (南北)字は景雲。裕の子。尚書中兵郎に歷官す。文章を能くし騎射を善くす。宋文帝の爲に知られ、楊威將軍に拜せられ都官を加へらる。永、志力を宣ぶるに在り、將帥を累歷して士卒と甘苦を同じうす。得る所の賞賜は即ち頒ちて士卒に與ふ。弟辨は尚書郎太司農に歷官す。

チヤウエイ 張詠 (宋)字は復之。濮人。樞密學士より出でゝ陳州に知たり。寇準と最も善し。每に準が過を面折し、貫しと雖も改めず。詠成都に在り、準の入て相たるを聞き、僚屬に謂て曰く、寇公は奇才、學術足らざるのみと。準が陝ユ知たるに及び、詠之に過ぎざる。準、供帳を嚴にし大に具を爲して以て詠を待つ。將に別れんとす。問うて曰く、何を以てか準に教へん。詠曰く、霍光傳讀まざるべからずと。準歸り取て之を讀み、不學無術に至り笑て曰く、張公我を謂へりと。詠、太平八年の第に登る。嘗て曰く、吾榜人を得る最も多し、謹重雅望は李公沆に如くはなし、深沈有德は王公且ユ如くはなし、面折廷爭は寇公準に如くはなし、方面の任に當るは詠敢て辭せずと。詠自ら奉養すること寡薄愈陋、寒士と雖も若かず。退て靜室を闢き、香を焚き危坐す。書を聚むる萬卷。往々誦讀校正す。並に聲色の好なし。李畋嘗て侍坐す。因て謂ふ、公の廢は禪室を如かずと。詠哂て曰く、吾輕肥の爲に官を爲さず、以て此に至ると。初め及第せしとき、詩を以て友の傳隸に寄せて云く、前年失脚下漁磯、苦戀明時未得歸、寄語巢由莫相笑、此身不是愛輕肥と。

嘗て陳希夷に從ひ道を學ぶ。華山の中陳を分たんと欲し、筆墨蜀牋を以て之に贈る。後、蜀に帥たり。希夷に詩を寄せて云く、性愚不肯山林、剛要清流擬致君、今日星馳飯南楸、回頭慙愧華山雲と。詠が鄙を守るの日、綠曹參軍の衰老せる者あり。詠之を責めて曰く、何ぞ明日に去らざると。參軍歸去を求め、別るゝに詩を以てして曰く、秋光多似宦情薄、山色不如歸興濃と。詠驚嘆して曰く、僚屬詩を能くす、而して我初め識らず、愧つべしと。因て慰めて之を薦む。眞宗嘗て手づから詠に諭して曰く、卿が蜀に在るを得、朕西顧の憂なしと。詠一像を畫き、自ら贊を作りて云く、乖則違俗、崖則利物、乖崖之名、聊以表德と。因て乖崖と號す。卒するに及び遺奏上言す、當に宮觀を造り天下の財を竭し萬民の命を傷くべからず、此れ皆賊臣丁謂が陛下を狂惑するなり、乞ふ謂が頭を斬り國門に置き、以て天下に謝せよ、然して後詠が頭を斬り、丁氏の門に置き以て謂に謝せよと。帝其忠を歎ず。忠定と謚す。

チヤウエイ 張穎 (宋)端拱元年慈溪令と爲る。廉潔をもつて自ら持す。邑人號して張清々といふ。太宗、詔を賜ひて之を襲諭す。民廟を立てゝ之を祀り、清々堂といふ。

チヤウエイ 張榮 (元)字は世輝。濟南歷城の人。金季、盜起る。榮鄉民を率ゐ來て歸を納る。太祖命じて濟南府事を知せしむ。太宗汴を取るを議す。榮六軍に先だちて陣道を清む。榮力戰、向ふ所皆靡拔す。從ひて睢陽を攻む。城下る。單騎城に入り其民を撫す。世祖即位して濟南郡公ユ封す。卒する年八十三。

チヤウエイ 張孫 (元)山水を畫く。閩次平夏珪に似たりといふ。

チヤウエイ 張瑛 (明)字は彥華。浙江建德の人。永樂中鄉に舉げられ、刑部員外郎を歷す。正統の時、建寧知府に擢でらる。瑛、建安典鄧茂七、亂を作して城に迫る。瑛、建安典史鄭烈を率ゐて都指揮徐信の軍に會す。斬首五百餘。遂に其砦を拔く。右參議に進み、府事を知す。茂七既に誅せらる。其黨林拾得等、城下に轉掠す。瑛從父敬と之を繫ぐ。賊破る。勝に乘じて北ぐるを逐ふ。伏中に陷り、敬は死し瑛は執へらる。大に罵り屈せずして死す。詔して福建按察使を贈り、祭を賜ひて其子を官す。弘治中、祠を立て、祭を致す。

チヤウエイ 張英 (清)字は敦復。號は樂圃。安徽桐城の人。康熙六年の進士。官、文華殿大學士に至り、致仕して太子太傅を贈り、卒して文端と謚す。朝に立つこと數十年、未だ嘗て一日も上の左右を去らず。典誥の文、多く其手に出づ。國史方略、一統志、淵鑑類函、政典典訓を編する、總裁官に歷充せらる。著に易書、衷論等の書あり。

チヤウエイアン 張永安 (明)石州の吏。嘉靖中、父、寇に邀はる。永安賊を追擊し、數十創を被りて死す。二十二年旌表せらる。

チヤウエイジュ 張泳壽 (清)嘉慶中、亂を亭子鋪に作し、徒を聚めて白蓮教旨を鼓吹し、愚民を扇動して徐添壽に應ず。已にして誅に伏す。

チヤウエイソ 張永祚 (清)字は景紹。新安の人。山水を善くし天文に精し。欽天監に入り俸に食ふ。

チヤウエイメイ 張永明 (明)字は鍾誠。烏程の人。嘉靖十四年の進士。中外に歷官すること三十餘年。官、左都御史に至る。嚴直假さず。給事中魏時亮に勸せられ、去るを求む。詔して之を許す。嘉靖四十一年卒す。太子少保を贈り莊僖と謚す。

チヤウエウ 張曜 (南北)上谷昌平の人。北齊に仕へ清白を以て稱せらる。尚書右丞に歷官す。文宣帝近出し、曜をして居守せしめ、夜に至りて還る。曜門を開かず。催迫甚だ急なり。曜、火の至るを須ち、面を識るに至りて方に開く。帝之を歎賞す。曜職を奉ずること恪勤、性節儉にして、祿賜輒ち散じて宗族に與ふ。左傳を治む。卒して右僕射を贈り、謚して貞簡といふ。

チヤウエウ 張耀 (南北)南陽四鄂の人。元魏に仕へて步兵校尉に累遷し、岐東荊州刺史を歷。清直にして事に勤む。尋て大將軍を加へらる。卒して司空を贈り謚して懿といふ。

チヤウエウ 張耀 (明)蘄州の人。太祖に事へ、累功して守禦福建指揮使に至り、興

化を守る。洪武四年、盧胸河に戰歿す。

チヤウエウ 張曜 (明)字は融我。三原の人。萬曆中の鄉擧。聞喜縣を知す。慈惠民を撫す。崇禎中、貴州布政使に歷官す。時に張獻忠死し、其部將孫可望、李定國等、衆を率ゐて貴州に奔る。巡撫、衆寡敵せざるを以て之を雖んず。俄にして賊奄ひ至る。曜、家衆を率ゐ、城に乘にて拒擊す。城陷りて執へらる。賊帥之に說て曰く、公若し降らば相と爲すべしと。曜怒詈して屈せず賊其妾を執へて之を怵して曰く、降らば即ち一家の死を免さんと。曜詈ること益々甚し。遂に賊に殺さる。

チヤウエウ 張曜 (清)字は耶齋。順天大興の人。咸豐五年新息の交に戰ひ、捻首徐保幗、齊懿、梁軌深等を獲、同治七年、四捻を平らぐ。十二年、陝甘を平らぐ。光緒三年、新疆を平らぐ。左宗棠朝廷に奏請して文職巡撫に改む。河堤を築き道路を修し、廠局を開き製造を奬め、百廢俱に擧ぐ。卒して勤果と謚す。

チヤウエウテウ 張鷂寃 (唐)蜀に居り。詩賦を善くし、殊に胸襟の氣なし。

チヤウエキ 張繹 (宋)字は弘道。幼にして家の貧なるに値ひ、未だ讀書を知らず。市に傭力す。一日、憤を發して力學し、業を伊川先生の門に受け、卒に伊洛淵源の學を受く。伊川每に人に謂て曰く、吾晚に二子を得たりと。蓋し張繹と尹焞とを指せるなり。

チヤウエキ 張奕 (金)字は玄徽。澤州高平の人。諸官を歷、大定三年戶部尚書となりて卒す。

チヤウエキ 張益 (明)字は士謙。江寧の人。永樂十三年の進士。庶吉士より中書舍人を歷て大理評事に改む。宣宗實錄を修するに預る。正統中、文淵閣に入る。十四年八月、賊瓦剌の難に死す。景帝立ちて學士を贈り文僖と謚す。益、夏昶と同年の進士にして共に喜んで文を作り竹を寫す。益、石渠閣の賦を作る。昶これを見て己れが上に出づとなし、遂に復た文を作らず。益亦昶が竹の妙絕を見て復た竹を寫さず。古今美談とす。

チヤウエツ 張說 (唐)字は道濟。洛陽の人。永泰中に賢良方正に策し第一たり。校書郎を授けられ左補闕に遷り同平章事に累官し、後、中書令と爲り燕國公に封ぜらる。朝廷の大逸作、多く其手に出づ。出でゝ相州刺史河北道觀察刺史と爲り、民を恤ひて隱として惠政あり。

チヤウエツ 張悅 (明)字は時敏。松江華亭の人。天順四年の進士。刑部主事を授けられ四川按察使に進み、喪に遭ふ。服闋り、湖廣王府承奉に補せられ吏部兵部の尚書に歷して機務を參贊す。弘治九年休を乞ふ。太子少保を加へらる。傳を驛せて歸り卒す。太子太保を贈り莊簡と謚す。

チヤウエン 張燕 (三國)常山の人。本姓は褚。劉惇攣邈なること人に過ぐ。故に軍中號して飛燕といふ。魏太祖冀州を定むるとき、燕、王師を佐けんことを求む。平北將軍に拜せらる。

チヤウエン 張演 (南北)裕の子。

チヤウエンシヤウ 張延賞 (唐)嘉貞の子。博く經史に涉り吏治に通ず。大歷の初め河南尹に除せられ、治行第一たり。四鎭を更へて吏民其愛を頌す。後、中書侍郎同平章事に拜せらる。

チヤウエンズヰ 張衍瑞 (明)字は元承。汲人。弘治十八年の進士。清豐知縣に除せらる。法を執るを以て劉瑾に忤ひ、詔獄に下されて幾んど死す。瑾誅せられて釋さるを得、吏部文選郎中となる。南巡を諫めて平陽同知に謫せらる。嘉靖の初、太常少卿に擢す。尋て卒す。太僕卿を贈る。

チヤウオウ 張歐 (漢)景帝の時に廷尉と爲る。歐初め帝に太子の宮に事ふ。申子刑名の學を治むと雖も、人と爲り長者にして、未だ嘗て盲人を挾ずるに及ばず。專ら誠實を以て官に處す。官屬も亦敢て欺犯せず。獄事を上具する每に、隙の郤くべきものあれば之を郤け、郤くべからざる者は、已むを得ず、爲に涕泣面對して之を封す。其人を愛する此の如し。武帝の時に御史大夫に遷る。

チヤウオウゲン 張應元 (明)崇禎中、官參將たり。十三年九月、賊張獻忠を討じて敗死す。

チヤウオウシヤウ 張應昌 (明)父の勳を以て都司僉書に除せらる。天啓崇禎の間、轉戰功あり、副將に累擢す。咸陽の役、疾を得て卒す。

チヤウオウチ 張應治 (明)秀水の人。隆慶中、官御史たり。抗疏多く可稱せらる。高拱に惡まれ、出て九江知府たり。山東副使に終ふ。

チヤウカ 張遐 (漢)餘干の人。幼にして聰明、日に萬言を記す。孝廉に擧げられ郡の功曹に補す。就かず。十九にして楊震に從ふ。震人に語て曰く、張遐は當に天下後世の儒宗と爲るべしと。建寧間に召されて五經博士と爲る。尋て疾を以て還りて教授す。諸葛瞻、陸遜、皆其門人なり。卒して族亭侯を贈らる。著す所、五經通義、易傳筮原、愈原、吳春秋等あり。

チヤウカ 張栻 (宋)壽光の人。种放に師事し、吳質、魏舒、楊朴、宋祁と友たり。性高潔にして文を爲くる奇澁。過非九篇を著はす。放謂へらく、隋唐以來の士能く之に及ぶ望れなりと。著す所詩文二卷あり。

チヤウカ 張櫃 (明)江四勅城の人。嘉靖三十八年の進士。蜀中に居り敢言す。屢々中官に疏抗し、且つ高拱を劾し、不隨に坐して罷め歸る。萬曆中、工部右侍郎たり。

チヤウカ 張夏 (清)字は秋紹。無錫の人。嵇川の上に隱居す。初め學を馬世奇の門に受け、已にして東林書院に入る。其學たる、經を先にして史傳を後にす。傳覽强記、而して本を自治に歸す。著、孝經解義、小學濂注、洛閩源流錄等あり。

チヤウカイ 張楷 (漢)字は公超。霸の次子。嚴氏春秋、古文尙書に通ず。門徒嘗て百人。賓客之を慕ふ者父薦宿儒より皆其門に遊る。黃門貴戚の家皆舍を巷次に起し以て過客の利を候ふ。楷輒ち移りて之を避くれば學者輒ち之に隨ふ。居る所市を成す。華陰山の南に遂に公超市あり。五府連りに辟して賢良に擧ぐれども皆就かず。順帝詔して云く、楷、行は原憲を慕ひ、操は夷齊に擬すと。鄴、時に禮を以て發遣すれば、楷、復た病を告げて到らず。楷、性道術を好み、能く五里の霧を作す。

チヤウカイ 張開 (金)景州の人。貞祐三年青州等の十有一城を復するを以て本州防禦同知を授けらる。後西走して民家の殺す所となる。

チヤウガイ 張閎 (晉)字は敬諧。丹陽の人。薛兼、之を元帝に薦めて冒ふ、其才幹貞固當今の瓦器と。左翼の功を以て開丹陽縣侯を賜ふ。蘇峻の亂、閎、王導と共に宮に入りて侍衛し、密に謀りて峻を討ず。峻平ぎ、尙書を以て散騎常侍を加へらる。

チヤウガイ 張鑒 (清)字は覆奧。一字は命士。直隸永年の人。少くして氣節に敦く、能詩を以て聞ゆ。又草書に工なり。甲申の變に狂疾を成す。嘗て齊晉楚燕の間に遊び、歸て自ら土室を閉ち、酒を飲て獨り酌み、辭へば輒ち痛哭す。妻子と雖も見を得ず。之に久うして狂益す甚しく、竟に死す。畿南三才子、鑒うの一人也。

チヤウカイウ 張嘉祐 (唐)嘉貞の弟。金吾尉將軍に任ず。朝する每に軒蓋騶從閭巷に盈つ。時に居る所の坊を號して鳴珂里といふ。

チヤウカイゼン 張介然 (唐)玄宗の時に衛尉卿を歷。安祿山の反せしとき陳留を守る。久しく戰を知らず。介然、屯に到り、三日ならずして賊已に河を渡る。遂に害に遇ふ。

チヤウカイフク 張介福 (明)字は子祺。吳中に寓居す。詩に工みなり。二親早く歿し、仕進に意なし。家貧しけれども饑介も取らず。賊吳に入り其家を犯す。危坐動かず。賊、刀を以て面を斫るも自若たり。賊怪みて異物と爲し、走り去る。病革る。友に謂て曰く、惟時に汚るゝなきこと幸なりと。遂に卒す。

チヤウカウ 張衡 (漢)字は平子。南陽西鄂の人。善く文を屬す。二京賦を作る。撰思十年、乃ち成る。人云ふ、張衡が二京、在思が三都、この二賦は六經の鼓吹たりと。衡、機を善くし、尤も天文曆算に通じ、渾天儀を爲る。侍中と爲りて宦官の讒に遇ひ、思原賦を作り以て情を寄す。出でゝ河間の相と爲る。嚴整にして上下肅然たり。冲帝永嘉中、徵されて尙書に拜せらる。

チヤウカウ 張邛 (漢)初め光武に仕へ、背きて赤眉に降り、復光武に歸す。遂に誅せらる。

チヤウカウ 張顥 (漢)梁の相と爲る。一日雨後に一鳥山雀の如きもの地に墮ちて化して圓石と爲るを見る。顥之を擣破して金印を得たり。曰く、忠孝侯印と。顥、表聞し秘府に藏す。靈帝の朝に太尉に官す。

チヤヨカウ 張孝 (漢)沛國の人。弟禮と共に母に養ふ。歲の饑饉に遇ふ。孝、菜を拾ひ、歸途賊の之を殺さんと欲するに遇ふ。孝叩頭して云く、家中の老母朝より未だ食を得ず、命を乞ふこと少時、家に歸り供し訖りて却來して死に就かんと。禮之を聞き、先づ賊所に走り、賊に謂て曰く、吾が兄、母を養ひ辛苦して竊獲す、禮が身は肉多し願くは兄に代りて死せんと。孝至り、爭うて曰く、孝もと賊に遇へり、何故に弟を殺さんと。賊二人の孝友を感じ、乃ち止めて殺さず。兄弟免るゝを得たり。

チヤウカウ 張綱 (漢)字は文紀。皓の子。少くして經學に明なり。仕へて御史と爲り。杜喬、周舉、周相、馮羨、欒巴、郭遐、劉瑜、八人と州縣を分行して、賢良を表し貪汚を察す。喬等命を受けて部にゆく。綱獨其車輪を洛陽の都亭に埋めて曰く、豺狼道に當る、何ぞ狐狸を問はんと。遂に大將軍梁冀、河南尹不疑等の姦惡十五事を勅奏す。京師震慄す。梁冀之を恨む。會々廣陵の賊張嬰なるもの揚徐州に寇し十餘年を積む。乃ち綱を以て廣陵太守と爲す。綱、單騎、嬰が壘門に詣り、書を以て嬰を諭す。嬰、相見て之を諭して曰く、前守貪墨なるが故に公等の憤を懷きて相聚そを致す、然れども之を爲す者は非義なり、今聖天子文德を以て叛を服す、故に太守を遣し來らしむ、賊に禍を轉じて福と爲すの時なりと。嬰深く感悟し、所部萬餘人を率ゐて歸降し、南州晏然たり。子續、官、郎中に至る。

チヤウカウ 張皓 (漢)字は叔明。彭山の人。留侯の後。司空に官し、薦拔する所多し。天下其の士を愛するを稱す。嘗て趙騰等八十餘人の死を救ふ。朝論之を賢なりとす。

チヤウカウ 張亢 (晉)字は季陽。載の弟。文を能くし尤も音樂を解す。

チヤウカウ 張鎬 (唐)字は從周。大志あり。經史を觀る猶ほ漁獵の如し。蕭高之を薦めて曰く、之を用ふれば則ち帝王の師と爲り、用ひざれば則ち岩谷の一叟のみと。

チヤウカウ 張亢 (宋)字は公壽。臨機の玄宗召して左拾遺と爲す。數年ならずして房琯罷め、鎬を以て相と爲す。蕭宗常に僧數百人をして道場を內に爲らしむ。鎬曰く、帝王は當に德を脩め以て亂を弭むべし、未だ僧に飯して太平を致すべきを知らざるなりと。上容を改めて之を謝す。

チヤウカウ 張亢 (宋)字は公壽。臨機の人。少くして奇才あり。進士に擧げられて源津鈴轄知渭州と爲る。敎閱に善し。屢々夏人を敗る。後に徐州總管と爲る。施を好み財を輕ず。凡そ燕犒皆厚きに過ぐ。軍を馭すること嚴明。至る所風迹あり。民圖像して之を祀る。

チヤウカウ 張綱 (宋)建炎の初に給事中と爲る。秦檜事を用ふるを以て、憤然として平かならず。仕を致して家居すること十餘年。檜死するに及び、起て參知政事と爲る。嘗て坐右に書して曰く、以直行己、以正立朝、以靜退高天下と。其篤行此の如し。

チヤウカウ 張孚 (金)字は彥通。大興潞陰の人。皇統六年登第す。諸官を歷て南京路轉運使に遷り知歸德府事に轉じて致仕し、泰和二年卒す。年七十八。才識強敏、吏事に明達し、每に大体を存して苛細を略す。

チヤウカウ 張浩 (金)字は浩然。渤海の人。太師を加へられ、貞元三年薨ず。帝、朝を輟むること一日。文康と謚す。子汝霖。

チヤウカウ 張衡 (元)字は士衡。樂陵の人。職を辭して田園に歸り、屢ば辟せども起たず。文字を作る、極めて奇古。山水は荊關を學び、書法は張史を學ぶ。墨竹は乃ち自ら一家をなす。

チヤウカウ 張衡 (明)萬安の人。洪武十八年の進士。禮科給事中を授けらる。奏疏剴切。禮部侍郎に擢でられ、清慎を以て褒せらる。後ち事を言ふを以て坐死す。

チヤウカウカン 張行簡 (金)字は敬甫。曄の子。穎悟學に力め淹貫く經史を眞く。大定十九年進士第一たり。太子太保太傅翰林學士承旨に累遷す。貞祐三年卒す。人となり端愨慎密。論を文正といふ。

チヤウカウキ 張孝基 (宋)同巢の富人の

女を娶る。富人只一子あり、不肖なり。之を斥逐す。富人病で且に死せんとす。悉く家財を以て孝基に附す。孝基興めに後事を治む。之に久うして其子詮に呼ふ。孝基惻然として之に謂て曰く、汝能く園に灌ぐや。答へて曰く、如し灌ぎて以て食に就くを得ば何の幸ぞと。孝基園に灌がしむるに其子甚だ力む。復謂て曰く、汝能く廚を管せんか。答へて曰く、亦之を能くせんと。孝基廚を管せしむるに其子醉醺なり。孝基其の能く自ら新にして故態に復せざるを知り、遂に其父の委する所の財產を以て之に歸す。其子家を治め操を勵み、鄉閭の善士と爲る。

チヤウカウケツ 張孝傑 (遼)建州永霸縣の人。家貧にして學を好む。進士に第し、累遷して樞密直學士たり。聲望一時を傾く。稍忠良を誣害し、意頗る驕り、將に廢立を圖らんとす。遂に謫せられて死す。

チヤウカウコ 張好古 (元)晉亨の子。勇にして謀あり。行軍千戶と爲る。樊城を攻む。身流矢に中りて少しも却かず。李壇の叛に宋人來攻す。好古兵を引き、力戰して死す。父濟南軍中に在り。之を聞て曰く、吾兒死所を得たりと。

チヤウカウシウ 張孝秀 (南北)南陽宛人。元魏に仕へて州從事と爲る。刺史陳伯の叛するや、孝秀、中州士大夫たり。襲ふを謀て克たず。遂に匡山に入りて道を學び田を力む。遠近歸墓之に赴くこと市の如し。性通率にして浮華を好まず。厚く群書を涉り、談論隸書を善くす。凡そ諸藝明習せざるなし。

チヤウカウシン 張行信 (金)字は信甫。先名は行忠。行簡の弟。大定の末進士に登す。哀帝即位して尙書左丞となる。正大八年卒す。年六十九。人となり純正眞率、修飾を事とせず。

チヤウカウシヤウ 張孝祥 (宋)字は安國。烏江の人。父祈、胡寅と厚し。秦檜、寅を憎み、祈を大理獄に下す。後、免るゝを得。孝祥、書を讀みて一たび目を過ぐれば忘れず。文章俊雅にして尤も翰墨に工なり。紹興中進士第一。集英殿修撰に累官し、平江靜江荊南に歷知し、皆聲績あり。孝宗の時に卒す。用才不盡の嘆あり。

チヤウカウセイ 張行成 (唐)太宗の朝に給事中に拜せらる。帝嘗て曰く、朕人主と爲り常に將相の事を兼れ行ふと。行成對へて曰く、古者禹は矜伐せずして天下之と爭ふなし、陛下亂を撥して正に反す、群臣誠に清光を望むに足らず、然れども必ずしも朝に臨て之を言はず、萬乘の尊を以て乃ち群臣と功能を校す、臣竊に陛下の爲に取らずと。上甚だ之を善みす。

チヤウカウソン 張孝孫 (清)字は祖望。錢塘の人。好で文詞を爲る。山水を喜び、幽を探め險を躡む。其詩、悲涼沈遠。小雅の遺あり。詩を論じていふ、少陵七律能く比興を用ふ、他人極功と雖も賦に過ぎざるのみと。

チヤウカウチヨク 張孝直 (宋)字は英甫。臨川の人。性孝友にして利欲に恬し。學を象山の門に受く。信に自ら見る所、據る所の者、實に易詩書語孟中庸口義五十餘篇あり。心の未だ安ぜざる所は伊洛諸儒の議論と雖も亦苟も同せず。鄂學に領袖として後進を披誘す。章從軒、蔡介軒と講論して終日倦むを忘れ、發明する所多し。

チヤウカウハク 張孝伯 (宋)和州の人。隆興間の進士。官、參知政事に至る。時に韓侂胄、國に當る。孝伯、勸めて僞學の黨禁を弛ぶ。一時賢人の貶斥せらるゝ者、漸く故職に還るを得。

チヤウカク 張角 (漢)鉅鹿の人。後漢の末、靈帝の時、妖術を以て敎授し太平道と號す。符水、病を療す。弟子を遣して四方に游ばしめ轉た相誑誘す。十餘年間にして徒衆數十万あり。三十六方を置く。大方は方餘、小方は六七千、各々渠帥を立て一時俱に起る。其徒皆黃巾を著く。所在燔劫し旬月の間に天下響應す。帝、皇甫嵩を遣して之を討たしむ。嵩、曹操と軍を併せて之を破る。角病んで死し、その弟梁、斬らる。

チヤウカク 張璆 (宋)字は柔直。閩縣の人。蔡京延て子弟の師と爲す。子弟倨貴なり。璆曰く、若曹直ちに善走を學ぶや否やと。諸生故を問ふ。曰く、天下の事、而の翥壞り盡す、旦夕亂將に起らんとす、賊必ず先づ至らん、而の家何ぞ善走を學び、好

し逃げ去らざるを。諸生大に愧き、奔りて京に告ぐ。京就て計を請ふ。嚮勸めて亟に正人を引かしむ。因て楊時の大に用ふべきを薦む。然れども已に晩し。直龍圖閣に累官す。

チヤウカク 張闡 (宋)字は台卿。河陽の人。大觀四年龍圖閣學士を以て杭州に知たり。杭久しく守を闕き、郡事廢弛す。闡、經理叙あり。先づ惡少の民害を爲す者を去る。召して兵部尚書と爲す。

チヤウカク 張赫 (明)臨淮の人。元末江淮大に亂る。義兵を團ゐ以て捍ぐ。明太祖の起るを聞き、衆を率ゐて來り附し、荐りに功を積みて大都督府僉事に擢んでられ航海侯に封ぜらる。洪武中、病て卒す。思國公を追封し莊簡と謚す。子衆。

チヤウガク 張諤 (宋)昌言の人。能文にして吏材あり。初め江南に仕へて秘書丞、通判鄂州と爲る。宋師南に下るとき、周の贈許昌齊と謀を協せて歎を歸くる。太祖召見して勞賜甚だ厚し。右賛善大夫を授く。蜀平らぎ知興州に選ばる。太平興國中、就て四川轉運使に除す。是より先き士人舟楫を習ふ者孚なり。江中の贏渡者を取り、漕運の役に給す。覆溺常に四五。諤建議して威輕軍を置き分隸管鈎す。是より覆舟の患なし。後に三司度支判官を以て出て、荊湖江浙等道制置茶鹽副使と爲る。子衆の故を以て太子太傅を累贈せらる。

チヤウガク 張岳 (明)字は維喬。慕安の人。幼より學を好み大儒を以て自ら期す。其學蓋し程朱を宗とす。正德十一年登第す。武宗世宗の二朝に歷事して輔正する所多し。竟に沈州に卒す。喪歸る。沈人迎へ哭する者絕ねず。已にして功を叙し、右都御史に復し太子太保を贈り襄惠と謚す。

チヤウガク 張岳 (明)字は汝宗。餘姚の人。嘉靖三十八年の進士。行人に除す。隆慶を經て萬曆に至り、左副都御史に累遷す。廷臣の賢否を評議して勅罷せらる。

チヤウガクガン 張學顏 (明)字は子愚。肥鄉の人。生れて九月、母を失ふ。繼母に事へて孝を以て聞ゆ。嘉靖三十二年の進士。知縣より兵部尚書に至り太子少保を加へられ、致仕して萬曆二十六年卒す。少保を贈らる。

チヤウカクトウ 張鶴騰 (明)字は元漢。鶴鳴の弟。萬曆二十三年の進士。雲南副使に歷官す。行誼醇篤、學其兄に過ぐ。明季、城陷りて執へらる。罵り口を絕たずして死す。

チヤウカクミン 張愍民 (宋)文州の人。太學に遊ぶ。元祐間進士に第す。後、馬涓等と上書して權貴に忤ひ、黨錮に坐して成都に退居す。張正已等と游び、草堂先生と號せらる。著す所歌詩雅著百餘篇あり。

チヤウカクメイ 張鶴鳴 (明)字は元平。潁州の人。萬曆二十年の進士。知縣より兵部右侍郎に歷す。天啓末禄禎の交、兵部尚書に累遷し大子太師を加へらる。休を乞ひて歸る。崇禎八年、流賊潁州を陷れ、執へて樹に倒懸す。鶴鳴賊を罵りて死す。年八十五。

チヤウカシ 張可仕 (明)字は交峙。可大の弟。字を以て行はる。隱居して仕へず。博學、詩文を善くす。嘗て明布衣詩一百卷を輯む。

チヤウガセイ 張我正 (明)陝州の人。素と豪俠、衆を集めて鄉里を保す。一方之に賴る。崇禎十四年、衆を勒して賊を禦き、三人を滅す。俄にして賊大に至る。衆懲く奔る。我正、臂を奮ひて獨り戰ふ。賊其勇を愛して生ながら之を致さんと欲す。我正詈罵し、自刎して死す。

チヤウカタイ 張可大 (明)字は觀甫。應天の人。南京羽林左衛千戶を世襲す。萬曆二十九年の武舉。建昌守備を授けらる。天啓崇禎の交、都督僉事に擢でられ總兵官に累進し、心を海防に盡す。海防圖說を爲りて之を上る。右都督に進む。五年春、戰敗れて天津に趨り投繯して死す。特進榮祿大夫太子少傅を贈り莊節と謚す。

チヤウカタン 張何丹 (漢)中散大夫。言を以て王莽に忤ひ松滋邑令に謫せらる。慈祥愷悌、民を愛する子の如し。時に嘉禾連穎の瑞あり。官に卒す。邑人之が爲に哀慟し、河四の勝地を擇びて之を葬り、歲の六月二日民爭ひ奠して絕ねず。

チヤウカツシ 張瞎子 (清)字は子明。曾て桂堂と官軍に通じて內應を爲し、後復叛

き て賊に降る。同治二年十二月誅に伏す。

チヤウカテイ 張嘉貞 (唐)蒲州の人。初め仕へて平鄉尉と爲り、事に坐して免ぜらる。武后の時、張循憲、河東採訪使と爲る。疑事あり、決する能はず。侍吏に問うて曰く、此間嘉客の興に事を議すべき者ありやと。侍吏、嘉貞の異才あるを薦む。循憲召して之を詢ふ。嘉貞之が爲に條析理分す、曉然たらざるはなし。還るに及び、循憲、武后に奏し、請ひて己の官を以て嘉貞に授けんとす。武后曰く、朕豈に一官の自ら賢を進むるなからんやと。嘉貞を召して監察御史と爲し、循憲を司勳郎中に擢んづ。其能く賢を薦むるを以てなり。嘉貞、梁秦二州都督を歷、政、嚴を以て聲ず。開元中に中書令に拜す。嘉貞產業を營まず。或は其田宅を市ふを勸むる者あり。曰く、吾貴きこと宰相と爲る、何ぞ寒餒を憂へんや、比ろ朝士の廣く莫田を占むるを見るに、身沒するの後、適々無賴の子弟酒色の資と爲すに足るのみ、是れ吾が取らざる所なりと。

チヤウガトク 張我德 (明)陝州の人。崇禎中詳察大に河南を犯すべきを知るや、妻子の孝を受けんことを恐れ、一家二十七人を驅り、樓に登りて自焚す。

チヤウカフ 張郃 (三國)字は儁義。河間鄚の人。魏に仕へて征西偏將軍に拜せられ武帝に從ひ鄚を攻めて之を拔く。文帝即位して都鄉侯に封ぜらる。諸葛亮と木門道に戰ひ、流矢に中りて卒す。謚して壯侯といふ。

チヤウカフ 張洽 (宋)字は元德。清江の人。朱熹に從て學ぶ。嘉定の初め進士に舉げられ累りて州縣に官して善政あり。著作佐郎直秘閣に累遷す。平生力を敬に用ひ、居間朝廷の事を言はず。或は災變に因り輙ち感嘆して樂まず。一君子の進用せらるゝを聞けば則ち喜び顏色に見はる。著す所、春秋傳、禮通、經義編あり。

チヤウカフチヨウ 張甲徵 (明)萬曆間の進士。四維の次子。工部郎中に累擢す。

チヤウカン 張增 (漢)字は君時。宛人。少き時志篤く行勵なり。諸儒號して聖といふ。光武の朝に郎中に拜せらる。大司馬吳漢、公孫述を伐ちて成都を拔き、增を留めて撫慰せしむ。蜀民大に悅ぶ。徵されて騎都尉漁陽太守に拜す。奸猾を捕擊し民の農桑を勸む。百姓歌して曰く、桑無附枝、麥穗兩岐、張公爲政、樂不可支と。郡に在ること八年、妻子麁素一日の如し。匈奴敢て塞を犯さず。職を去るの日、折轅車に乘じ布被襲のみ。大學に在る時曾て妻子を以て朱文季に託す。增亡して文季厚く之を賑贍す。

チヤウカン 張翰 (晉)字は季鷹。吳縣の子。清才あり、善く文を屬す。縱任不拘。或は之に謂て曰く、卿乃ち縱ひ一時に適すべきも、獨り身後の名を爲さざるか。答へて曰く、我をして身後の名あらしむるは即時一杯の酒に如かずと。時に讀して江東步兵と爲す。齊王冏に仕へて東曹掾と爲る。司馬氏の骨肉相殘するを見て、亂の將に作らんとするを知り、同郡顧榮と語るに去意を以てして曰く、吾はもと山林閒の人、明を以て前を防ぎ智を以て後を慮はかると。榮愴然として曰く、吾常に子と南山の麓を採り三江の水を飲むべきのみと。翰遂に秋風の起るに因て、吳中の蓴菜の羹、鱸魚の膾を思ひ、嘆じて曰く、人生は適意を貴ぶのみ、何ぞ能く羈官數千里にして以て名爵を要めんやと。遂に駕を命じて歸る。時に其志を高しとす。母の喪に居り哀毀禮を過ぐ。人孝を以て稱す。

チヤウカン 張翰 (金)字は林卿。忻州秀容の人。貞祐の初、翰林直學士となり、諸官を歷て戶部尚書に拜せらる。人となり雅より治劇の才あり、至る所輒ち辨ず。卒して進義と謚す。

チヤウカン 張瀚 (明)字は子文。仁和の人。嘉靖十四年の進士。南京工部主事より大名を改知す。俺答を却く。兵部右侍郎に進み總督漕運たり。隆慶萬曆の交、羅寇賊を平げ、太子太保を加へられ吏部尚書に改む。時相張居正に忤ひ、致仕して卒す。太子少保を贈り恭肅と謚す。

チヤウカン 張潢 (明)鐘祥の人。歷官して兵部左侍郎たり。寇を防ぎて未た平がず、事を以て勅せられ、鎮四衛に謫戍す。居る二十年にして卒す。隆慶の初兵部尚書を贈る。

チヤウカン 張鑑 (明)淮四の人。父の名

は明鑑。元の國運日に非なるを見て太祖に來歸し、官江淮行樞密院副使に至る。

チヤウカン 張簡 (清)東鄉縣の人。嘉慶中、賊王三槐に隷して豊城に據るゝ已にして湖北の徐賊と合す。後、擒誅せらる。

チヤウカンキ 張咸熙 (元)人物山水を善くす。宋より元に入り、隱居仕へず。

チヤウカンケイ 張漢卿 (明)字は元傑。儀封の人。正德六年の進士。魏鰲知縣に除せられ、刑科給事中に改めらる。嘗て饒倖を杜ぎ儲愼を嚴うし刑獄を愼むの三事を陳し又武宗の南巡を諫む。世宗即位し、累官して禮部尚書に至る。大禮の議に坐し斥けられて民となる。

チヤウカンシ 張柬之 (唐)字は孟將。襄陽の人。少くして經史に渉る。進士に擧げられ、初めて賢良を以て召されて對策第一たり。時に年七十餘。出でゝ合蜀二州刺史と爲る。武后嘗て一奇士を求む。狄仁傑曰く張柬之老いたりと雖も宰相の才なりと。即ち召して洛州司馬と爲し、司刑を卿に轉じ、同平章事に拜す。二張を誅して唐の社稷を復す。功を以て漢陽郡王に封ぜらる。出でゝ襄州刺史と爲る。卒して文貞と謚す。柬之剛直にして傳會せず、學に邃くして書數十篇を論次す。

チヤウガンソウ 張巖叟 (金)字は勇彌。大節の子。大定十九年登第。累官して太常卿兼國子祭酒に至る。大安三年元兵來り攻む。諸城門を塞ぐを議す。巖叟抗議して曰く、城は民人を守る所以、城を完うする所以のもの、其の城に任ずる人に任ぜざらんよりは兵を選び將を擇び城を背にして疾く戰ふに若かずと。時に以て宜しと爲す。尋て鎮西定國二軍節度使と爲る。貞祐二年また昭義沁南 改めらる。年老、邊要に任へず致仕し洛陽に退寓して卒す。

チヤウキ 張機 (漢)字は仲景。長沙太守と爲る。時に大疫流行して治法雜出す。機、また傷寒論金匱方を著す。世に行はる。漢法醫道中興の祖なり。

チヤウキ 張軌 (漢)涼川の人。少くして學を好み志開き識期なり。仕へて隴右府長史に至る。家に餘財なく惟だ書數百卷のみ。

チヤウキ 張軌 (晉)前涼主第一世。字は士彥。漢の常山王張耳十七世の孫。晉に仕へて征四將軍司馬・爲る。晉室の多難なるを見、陰に河西に保據し、竇融の故事を追はんかとを謀る。乃ち求めて淳州刺史となり、尋ぐ樂鄉侯に封ぜらる。大に姑臧に城き臥城と名く。張氏遂に河西に霸たり。軌、易に精しく、著す所易義十卷あり。在位十三年。年六十。武公と謚す。後に武王と追謚し廟を太祖と號す。

チヤウキ 張譏 (南北)後主東宮に奚す。玉柄麈尾を造り新に成る。後主親ら之を執て曰く、當今復た多士林の如しと雖も、此を執るに堪ふる者は獨り譏のみと。即ち以て譏に授く。後、鍾山に幸し、譏をして豎講せしむ。麈尾を索めて未だ至らず。勅して松枝を取り、亦手づから譏に授く。

チヤウキ 張鎮 (宋)字は深父。秦の三陽の人。父宗元は數文閣待制。鎮、恩を以て承事郎に任じ、兩浙轉運幕委、明州造船を經。人或は其勳伐の宜く處るべき所にあらざるを嘻。鎮謝して曰く、晁以道先生の言て爲す所なり、吾之に處て稱はざるを懼る、敢て之を薄しとせんやと。代を乞て去る。卑高を以て事を忘らず。時に文詞を屬して志を見す。然れども未だ嘗て妄りに出して人に示さず。居る所の帷屏門壁皆銘あり、以て自ら警む。

チヤウキ 張燮 (宋)海陽の人。政和中の進士。茂名令と爲る。民の寃獄を弁ず。大守、疑を致す。燮、投告して身去る。太守勉めて之を留む。諸司列薦して南中の清介惟だ燮一人 爲す。高宗璽書を賜ひて勉勵せしむ。後、廉州に通判たり。秋毫も取るなし。其子昌裔も亦通判容州。父子並に清節を以て聞ゆ。

チヤウキ 張洎 (宋)字は師黯。一字は偕仁。全椒人。俊才あり。博、典に通ず。南唐の時に進士に擧げられ知制誥と爲り機密に參與す。江南平ぎて宋に歸す。太祖之を賞めて曰く、汝李煜に教へて降らざらしめ、又詔を草して江上の救兵を召すと。對へて曰く、犬馬各其主に非ざるを吠ゆと。太祖之を釋し、太子中允に拜す。後に翰林學士と爲り、政事に參知す。文集五十卷あり。子安期、安世、皆朝に仕ふ。

チヤウキ 張著 (宋)字は公弼。開封の人。年十一にして眞宗に澄邦之事ふ。即位するに及び宣嚴南院使樞密副使に累遷す。時に玉清宮を建つ。著、奏疏して謂ふ、國の財力を竭すは天意を奉ずる所以に非ずと。後に鄭國公に封ぜらる。太子太傅を以て致仕す。子希一、朝一、皆數州に知たり。

チヤウキ 張煇 (宋)字は子充。永嘉城南の人。天資謹飭、問學を喜み、六經諸子の書より歷代の史記、百家の說に至るまで、皆遍習す。其辯、精微を析し旁ら證據を引き、論議亶々として老師宿儒と雖も能く屈するなし。大學に遊び屢々多士に先んじ。傳誦して楷式と爲す。親の喪に哀毀骨立、衣に勝へず。墓に廬する者三年。

チヤウキ 張祈 (宋)字は晉彥。歷陽の人。兄邵が牌に使するの恩を以て官に補せらる。祈、氣を負ひ義に高く、詩文に工なり。趙鼎、張浚皆之を器遇す。胡寅と交り最も善し。秦檜之を疑ふ。時に其子孝祥、進士第一に擧げらるゝに會す。祈を誣ひて罪を以て大理に付す。檜死して免るゝを獲たり。直秘書閣より累遷し淮南轉運通判と爲る。牌の叛を謀るを謀知し、屢々朝に以聞し、粟を儲へ兵を閱して備を爲さんと請ふ。言者張皇して事を生ずと爲し、論じて之を罷む。明年牌果して大に入寇す。祈、孝祥が仕へて渡々鄂にはるゝを以て、復自ら仕へず。居を蕪湖に卜し、其室を築きて歸去來といふ。祈、人と爲り謙恕。官に居て廉靜、守る所あり。喜て詩を吟ず。清麗和雅にして劉白か風格あり。雜ふるに選体を以てす。晚に禪學を好み、總得錄と號す。文集若干卷あり。

チヤウキ 張玘 (宋)潤池の人。建炎中に家財を以て兵を募り以て鄰興に屬す。金兵河を渡る。玘、之を白渦に禦ぐ。金將商州を取る。玘、統制董九先を佐けて之を禦ぐ。功を以て唐州馬步軍副總管に遷る。又岳飛に從て四京六州を復し、湖賊を平ぐ。金人と海州に戰ひ流矢に中りて卒す。孝宗命じて祠を戰所に立つ。子世雄は符離の戰に沒す。

チヤウキ 張禧 (元)東安州の人。性峭直。世祖の朝、新軍千戶を授けらる。樊城襄陽を攻むるに先鋒と爲りて戰功あり。日本を征するに從ふ。颶風に遇ひ他の戰艦悉く壞る。禧の所部獨り完し。京に至る。他將皆罪を獲、禧獨り免る。

チヤウキ 張迹 (明)字は懋登。餘姚の人。正德十六年の進士。庶吉士に改む。嘉靖中、刑科給事中を授けらる。大禮を爭ひ廷杖せらる。累遷して右給事中に進む。尋て言を以て旨に忤ひ、且つ李福達の獄に坐して謫せらる。母死し歸るを得ず。哀痛して死す。隆慶の初、光祿少卿を贈らる。

チヤウキ 張纘 (明)字は仲繼。安化の人。宣德の初、御史に擢てらる。正統中、右少卿に累進し、出でゝ屢々賊を平ぐ。景帝立ち、召還せられて道に卒す。

チヤウキ 張騏 (明)永城の人。燕世子妃の父。世子太子と爲り、京衛指揮使に拜せらる。尋で卒す。仁宗即位して彭城伯に進封し恭靖と謚す。

チヤウキ 張肇 (明)字は文豪。太倉の人。山水は夏珪を宗とす。筆力頗る老たれども未だ佳境に入らず。

チヤウキ 張琦 (清)字は輪風。號は宛腾。江蘇陽湖の人。道光三年、舉人を以て鄭平縣事を權知す。章邱館陶等の縣を歷て皆政聲あり。詩古文及び分隷に工、尤も輿地の學に著し。戰國策釋地等の書を著す。

チヤウギ 張儀 (周)張老の後。魏人。蘇秦と同じく鬼谷子を師とし、遊說を以て名を顯はす。楚相張ふるに金を盜むを以てし、笞擊數百に遍し。歸て其妻に謂て曰く、吾が舌を視よ、尙在りや否。曰く、在り。曰く、舌在らば足らんと。後、秦に仕へて相と爲る。楚王に說き齊に絕ち約して以て秦に事ふ。楚王儀の爲に實らるゝを知り、黔中の地を獻じて以て張儀に易へんと願ふ。儀行かんと請ふ。秦王曰く、楚將に子に甘心せんとす奈何。儀曰く、秦强く楚弱し、楚敢て臣を殺さず、且臣其嬖臣靳尙に善し。尙幸姬鄭袖に事ふるを得、袖の言、王聽かざる者なしと。遂に往く。楚王囚へて將に之を殺さんとす。儀尙をして袖に謂はしめて曰く、秦王甚だ張儀を愛す、將に六縣及び美女を以て之を贖はんとす、王地を重んじ秦を尊ぶ、秦女必ず貴くして夫人斥けられんと。

是ゝ於て釉日夜王に泣て曰く、臣は各其主の爲にするのみ、今張機を殺さば秦必ず大に怒らん、妾請ふ、子母俱に江南ゝ遷り、秦の爲に魚肉にせらるゝなからんと。王乃ち機を赦して厚く之を禮す。後仍ほ魏に相として卒す。

チヤウギ 張嶷 (三國)字は伯岐。巴西充國の人。昭烈、蜀を定む。嶷、都尉と爲り兵に將として山賊叛羌を討平し越嶲太守に除せらる。徵還せらるゝに及び、寇民葛燿し燮を扶けて涕泣す。後、蠻寇將軍に拜し魏の將と戰て歿す。蜀簡の夷民嶷の死を聞きて慟泣し、廟を立てゝ之を祀る。

チヤウギ 張誼 (五代)襄邑の人。幼にして孤、學を好む。諸父、耕を隴上に督せしむ。誼、書を樹下に閱す。後に唐の進士に舉げらる。晋に仕へて中書舍人に累官す。初め相凝、端明殿學士に拜せられ、門に署して賓客に接せず。誼、即ち書を著して以爲らく、四方の利害は宜しく訪詢すべし、若し賓客に接せざれば耳目を壅蔽して坐ながら職業を虧くと。凝大に之を奇とす。

チヤウキウイツ 張九鎰 (清)字は橘洲。九鉞の弟。乾隆丁巳の進士。官、川山道に至る。著、退谷詩鈔あり。

チヤウキウカ 張九哥 (宋)慶曆中京師に居り。凍雪と雖も亦單衣。燕王之を奇として、常ゝ召して與ゝ飲む。後、王に見えて曰く將に南遊せんとす、故に來り別る、小技あり、王を悅ばしめんと欲すと。乃ち重羅を取り剪りて蚨蝶と爲す。飛去して天日を蔽ふ。少頃にして之を呼べば皆來りて復た羅と爲る。王曰く、吾が蔽幾何ぞ。曰く、開寶寺の浮屠と齊しと。後、浮圖災あり。王亦薨ず。九奇遂に名山を往歷し、終る所を知らず。

チヤウキウカウ 張九皐 (唐)九齡の仲弟。宋襄廣二州刺史を歷。

チヤウギウカク 張牛角 (漢)中平中、博陵に起りて黃巾の徒に應ず。既にして流矢に中りて死す。

チヤウキウケン 張九鍵 (清)字は石圃。九鉞の弟。乾隆辛酉の舉人。官は隆平知縣。詩に工なり。漱玉園詩集あり。

チヤウキウシ 張九思 (金)字は全行。錦州の人。皇統の初、行台省女直譯史に補せられ後工部同書に遷りしが、事に坐して官を免ぜられ、疾みて卒す。

チヤウキウシ 張九思 (元)字は子有。宛平の人。工部尚書兼府事となり、後ち中書左丞に進む。實錄を修するに會ひて領史の事を兼ぬ。大德中、中書平章政事に拜せらる。四年を經て位に卒す。魯國公を贈られ忠獻と謚す。

チヤウキウシ 張九四 (明)士誠の弟。字は士信。性陰忍情險。兄の逆を佐けて甚だ力む。一日銀椅に踞して方に寞す。飛礫其首を碎きて死す。

チヤウキウシヤウ 張九章 (唐)九齡の季弟。溫吉曹三州刺史を歷。天寶中ゝ嶺南節度使と爲る。

チヤウキウセイ 張九成 (宋)字は子韶。號は無垢。又た橫浦と號す。錢塘の人。一に云ふ晉陵の人。八歲にして六經を默誦し、十歲にして能く文を屬す。十四、鄉校に游び、閤を閉ちて書を讀む。寒一て膠を折り暑くして金を鑠すも戶限を越えず。比舍隣に穴して視るに、其足を斂め端坐して簡編に對する神明と伍するが如きを見る。諸老先生之を歎異して曰く、奇童子なりと。始め龜山の門に學ぶ。紹興中集英殿に對策す。上曰く、忠鯁黠みすべし、宜しく第一に寘くべしと。仕へて禮部侍郎に至る。秦檜と和を議して合はざるを以て黜出せらる。後起て溫州に知として卒す。理宗の朝に至り、中興明道の功あるを以て、太師を贈り崇國公に追封し文忠と謚す。子二人、遜厚、幼厚。

チヤウキウセウ 張九韶 (明)張美和を見よ。

チヤウキウソウ 張九宗 (唐)遂寧の人。進士に擧げらる。宮觀碑銘、九宗の撰する所多し。

チヤウキウタン 張九鐔 (清)字は竹南。號は蓉湖。九鉞の弟。乾隆己酉の進士。官、編修。著、笙雅堂集あり。尤も經學に邃く、辨證する所あり。

チヤウキウレイ 張九齡 (唐)字は子壽。父韶州別駕と爲り任に卒す。遂に曲江に居り。七歲にして能く文を屬す。後進士に擢

てられ又た道侔伊呂科の高第を以て中書舍人と爲り、詞人の冠たり。時に號して文場元帥と爲す。左拾遺に遷る。玄宗の千秋節に群臣皆寶玩を獻ず。九齡乃ち前世興廢の源を述べ寶五卷を爲りて之を千秋金鑑錄と謂ふ。以て諷諭を伸ぶ。中書侍郎に累遷す。嘗て李林甫を抑し、反て擠されて相を罷め、家居して卒す。天下稱して曲江公と爲して名いはず。玄宗嘗て早く朝し、左右に謂て曰く、張九齡を見る毎に精神愼に生ずと。九齡罷むと雖も、相を拜する毎に帝輒ち問うて曰く、風度張九齡の如きを得るや否やと。初め張守珪、契丹王屈烈及び可突於を斬る。上、守珪の功を美とし、以て相と爲さんと欲す。九齡曰く、宰相は天に代り物を理す、功を賞するの官に非ざるなり。上曰く、假すに名を以てし其職に任ぜずんは可ならんか。對へて曰く、惟名と器とは人君の司どる所、人に假すべからず、守珪纔に契丹を破り、即ち以て相と爲さば、若し盡く突厥を滅さば將に何の官を以て之を賞せんと。帝即ち奪ふ能はず。九齡少時群鴿を養ひ、親知に書を與ふるとき、即ち足に繫ぎ敎に依て往きて之を投ぜしむ。之を飛奴といふ。初め安祿山、律を失ひ師を喪ふ。守珪之を誅せんと欲す。玄宗其才を惜み特に命じて之を宥す。九齡固く爭て曰く、祿山貌反相あり、殺さずんは必ず患を爲さんと。上從はず。後祿山叛し、上蜀に幸す。九齡先見の明を思ひ、之が爲に流涕し、使を曲江に遣し之を祭り、厚く其家を卹へしむ。祿山滅するに及び、追封して始興伯と爲し、文獻と謚す。

チヤウキウクワ 張九六 (明)字は士德。士誠の弟。狡にして善く鬪ふ。至正十六年、兵を率ゐて來り鎭江に寇す。伏に陷りて獲らる。

チヤウキウエツ 張九鉞 (清)字は度四。號は紫硯。湖南湘潭の人。生れて異稟あり。七歲にして詩文を能くす。十二、弟子の員に補せられ、十三、采石磯に登りて長歌を賦す。人呼んで太白の後身と爲す。乾隆二十九年舉人より知縣と爲る。蒞む所政聲あり。平生磊落抑鬱の氣を擧げて一に之を詩に洩らす。宏博縱橫、其力の至る所を縱ゝにす。詩詞等の集あり。

チヤウキウガン 張希顏 (宋)景德間に萍鄉縣に知たり。時に張詠、殿直范延貴に問ふ。曾て好官員を見しや否や。延貴乃ち希顏を稱す。詠問ふ、何を以て之を知る。答へて曰く、昨其境を過ぐるに、驛傳備道皆僑葺し、野に情晨なく、肆に賭博なく、市易喧しからず、夜邸中に宿するに、更鼓分明なり、是を以て其好官員たるを知れりと。詠乃ち朝に薦む。

チヤウキウガン 張起巖 (元)字は夢臣。章丘の人。延祐の進士第一。同知登州事に除せられ監察御史に補せらる。法を守る嚴正なり。時宰と合はず。宋遠益三史を修むるに會ひ、翰林に入りて承旨と爲る。史成る。年六十五。遂に致仕す。卒して文穆と謚す。著若干集あり、家に藏す。

チヤウキウクワ 張奇化 (明)崇禎中、遊擊ゝ補せらる。二年正月、清兵を遵化に拒ぎ、城陷りて之に死す。

チヤウキケイ 張徽卿 (明)清淳の人。柯孝廉の妻。書を善くす。

チヤウキコウ 張師厚 (五代)師龜の弟。善く弓槊を用ひ、能く少を以て衆を擊つ。

チヤウギシン 張儀眞 (明)周祥の妻。姑病む。醫百方にするも效あらず。一方士門に至りて曰く、人肝療すべしと。張氏左脇下を割き膜を得るに葉の如し、手を以て探り肝二寸許を取る。少痛無し、葬に作り以て進む。姑病遂に瘳ゆ。

チヤウギシヤウ 張義上 (元)字は師敬。工に山水を畫く。

チヤウキジユン 張季珣 (隋)少くして慷慨、志節あり。大業の末に鷹揚郎將と爲る。李密、蒼城を陷るゝとき、季珣轡に坐して顏色自若たり。群賊拽て密を拜せしむ。季珣曰く、吾敗將軍と雖も、猶天子の爪牙の臣たり、何ぞ賊を拜すべけんと。密、壯として之を釋す。翟讓從て金を求めて得ず。之を殺す。其弟仲瑛、幼琛、俱に害に遇ふ。

チヤウキツ 張顗 (宋)字は仲舉。昇州の人。進士に第して江陵推官に調ばる。歲飢す。使を遣はして安撫せしむ。顗、干事を條獻して數萬人を活かす。終陽縣に知たり。縣、梅山に接して溪洞多く、蠻獠出沒す。

頡、禁地を按じて約束し、農人を召で耕墾せんとす。其事を上りて報ぜられず。開封府判、提點江四刑獄、廣東轉運使に累遷す。熙寧中に章淳南地を取り、沆懿等の州を建てゝ梅山に充つ。頡言す、南江の殺戮過甚、無辜十に八九、浮屍江を蔽ひ、民魚を食はざる者數月と。淳、其說を疾み、功を分ちて之に喫はしめんと欲す。乃ち言ふ、頡、昔は益陽に令たりしとき、梅山の議を建つるあり、今日の成功は頡に權與すと。詔して絹三百疋を賜ふ。

チヤウキツ 張吉 (宋)合水縣の人。熙寧間に淮安鎭の守烽卒たり。脅すに兵を以てし、城中に呼ばしめて言ふ、淮安の諸砦已に破る、宜しく速に降るべしと。吉、其辭を反して曰く、努力せよ、諸砦虞なし、賊糧盡きて且さに去らんとす、庸て降るなかれと。賊怒て之を害す。死に至るまで罵て口を絕たず。事聞す。內殿崇班を贈り、又其子を錄す。

チヤウキツアン 張吉安 (清)字は廸安。號は蔚壃。江蘇吳縣の人。乾隆六十年の舉人。象山縣に選ばれ、新城、永康、麗水、餘姚等の縣を歷知す。凡そ水旱災荒には必ず請賑して以て給す。奸民蠹吏は嚴刑以て之を治す。卒して名宦祠に祀る。

チヤウキノツマ 張暎娶 (唐)侯氏。邊將張暎の妻。暎、戎を防ぐこと十餘年。侯氏繡文を綴して龜形を作り、闕に詣て之を進む。帝詩を見て暎を放ちて鄉に還す。

チヤウキヒ 張貴妃 (南北)陳の後主の妃。名は麗華。兵家の女なり。父兄織席を以て業となす。後主太子となる、選を以て宮に入る。時に龔貴嬪良娣たり、貴妃年十歲之が給使たり。後主見て之を悅び、因て幸を得、太子深を生む。貴妃性聰慧甚だ寵を被り、政柄を執る。隋軍臺城に尅つ。貴妃後主と與に井に入る。隋軍之を出す。晉王廣命じて之を青溪中に斬る。

チヤウキヒ 張歸寵 (五代)清河の人。晉て張曜と戰ひ流矢に中る。反て其矢を拔き以て賊を罵り、一發して斃し、其馬を奪て以て歸る。

チヤウキヒ 張貴妃 (五代)周の太祖の妃。鎭州眞定の人。父同芝、趙王々鎔に仕ふ。鎔死して鎭州亂る。時に武從諫、妃の家に館す。妃の幼なるを憐み、携へて太原に歸る。後ち其子の縉と爲る。太祖楊夫人卒す。妃亦寡居す。乃ち妃を納れて繼室と爲す。太祖貴くして吳國夫人に累封せらる。太祖兵を凡て京師に入る。漢劉銖を遣はし其家を戮す。妃、諸子と皆死す。太祖即位し、追贈して貴妃と爲す。

チヤウキヒ 張妃 (宋)仁宗の妃。父は堯封。進士に舉げらる。堯封卒するに及び、世父堯佐、妃を收恤ぜず。幼にして依る所なし。章獻宮に入りて仁宗に侍す。寵渥あり。妃巧藝善く承迎す。貴妃に進みて卒す。年三十一。皇后に追贈し溫成と謚す。

チヤウキフ 張及 (宋)臨功縣に知たり。太守水を引き舟を泛べんと欲し、使を縣に遣して堰水を決す。時に晨事方に興る。及曰く、民田を溉らして以て嘉游を事とす、可ならんや、今は去るべし、水は導くべからずと。守容を歛めて之を謝す。

チヤウキヘイ 張其平 (明)僊師の人。崇禎中、巡撫保定に官たり。清寇を却けざるに坐し、市に斬らる。

チヤウキベン 張歸弁 (五代)歸寵の弟。善く戰ふ。

チヤウキン 張欽 (明)字は敬之。順天通州の人。正德六年の進士。行人より御史に擢でらる。曾て數々上疏して時務を陳ず。報ぜず。世宗立ち、出てゝ漢中知府たり。太僕卿に累官す。嘉靖十七年、工部左侍郎たり。論罷せらる。欽、初の姓は李。既に顯はれて復姓す。父母に事へて孝なり。

チヤウキン 張岸 (明)字は文林。峽江の人。弘治十五年の進士。福州推官たり。正德中、南京御史に拜す。嘉靖に至り右僉政右布政使に歷す。時に海道侯人に擾され、居民を傷るに坐して罷む。歸りて鑑毋に事へて孝なり。身を持すること儉素、粗袍糲食其身を終ふ。

チヤウキン 張鈞 (明)石州の人。父敎、國子生たり。鈞、二親の早亡するを以て志を矢て仕へず、城北村に隱居す。鈞、正德の末、鄉に舉げらる。親の老を以て仕へず。嘉靖二十年、俺答、石州を犯す。鈞、父の難を慮り出て戰うて肩を傷く。疾く歸せて

至れば父已に殺さる。鈞隕絕、悲痛に勝へずして死す。越にて二年、門に旌せらる。

チヤウキン 張欽 (明)字は子敬。祥符の人。震齋と號す。畫に工に、山水花竹を善くす。古人の遺意を得たり。恭靖王懋の長子なり。

チヤウキンハウ 張錦芳 (清)字は粲夫。號は約房。順德の人。乾隆五十四年の進士。官、編修。錦芳詳籍に淹貫し、說文分隸に通じ、漢人の法を得。兼ねて繪事に工なり。而して詩に於る留る所尤も深し。馮敏昌、胡亦常と嶺南三家と稱せらる。詩文等の集あり。

チヤウキヤウ 張鏡 (南北)裕の子。少くして顏延之と隣居す。延之、常に談議し、酒を飲み、喧呼絕にず。而して鏡、靜默聲なし。後、鏡、客と談ず。延之、籬邊より之を聞くに、辭義清婉。延之、客に謂て曰く、此中に人ありと。是より復酬呼せず。鏡仕へて新安太守に至る。兄弟中に於て名最も高し。

チヤウキヨ 張舉 (三國)吳に仕へて句章令と爲る。民に妻、夫を殺し、因て火を放ちて舍を燒きしものあり。詐りて夫火に死すと稱す。夫の家疑て官に訴ふ。妻拒みて承けず。舉、豬二口を以て一は之を殺し一は之を活し、乃ち薪を積み之を燒く、殺せる者の口中を察するに灰なし。活ける者の口中には灰あり。遂に其夫の口中を驗するに果して灰あり。之を鞫して其妻罪に服す。人以て神明と爲す。

チヤウキヨ 張巨 (宋)武進の人。嘉祐中明經に舉げらる。少くして胡瑗に從て游び、蔣之奇、胡宗愈、丁隙と四友と爲す。薦を以て國子監直講に充てらる。王安石の新法行はれ、巨即ち引き去る。時論之を高しとす。文集四十卷、易解二十卷あり。

チヤウキヨ 張舉 (宋)常州の人。進士甲科。其親を養ひ、左右を去るに忍びず。戶を閉ぢて書を讀むこと四十年。手づから數萬卷を校す。經を窮め書を著す。范祖禹、蘇軾、交々表して其高行を薦む。詔して校書郎に拜す。竟に出てず。舉中を蹈み常を守り當世の爲に重んぜらる。卒して謚を賜ひ正素先生といふ。

チヤウキヨウ 張恭 (漢)天水の人。燉煌功曹と爲る。太守馬艾卒するゝ會す。郡人推して長吏の事を行はしむ。恩信甚だ著はる。子就を遣して曹操に詣らしむ。恭、從弟を遣て賊黃華の爲に執へらる。恭、從弟を遣して酒泉を攻めしむ、而して自ら首尾の援を爲す。黃華遂に金城太守蘇則に詣りて降る。後、恭に爵關內侯を賜ふ。

チヤウキヨウ 張拱 (宋)汴州の人。累りに進士に舉げられて第せず。藥を宜春門に賣る。道士あり、門に抵り、授くるに藥七枚を以てす、之を食ふ。是より食せずして二年を逾ゆ、浪矢共に經つ。神氣明爽にして日に數百里を行くべし。後、名山に遊び、終る所を知らず。

チヤウキヨウ 張恭祖 (漢)東郡の人。鄭去官して從ひて周官、禮、左氏春秋、韓詩、古文尙書を受け、世の名儒と爲る。

チヤウキヨク 張旭 (唐)字は伯高。吳人。書を善くす。酒を嗜み、大醉する每に呼叫狂走す。乃ち筆を下すに、或は頭を以て墨を濡して書す。既醒め、自ら視て以て神と爲す。世に張顚と號す。常熟に尉たりしとき、父老あり、屢々其狀に判せんことを求む。張怒る。老人曰く、公の筆勢奇妙なるを見、家に之を藏せんと欲するのみと。因て藏する所の書を問ふ。其父の書を出す。

チヤウキヨウ 張恭 (元)僊師の人。天曆の初、四兵河南に至る。居民悉く奔竄す。恭、母の病を侍して去らず。賊至り數箭を被る。後ち母歿して哀毀甚し。馴兎の瑞あり。

チヤウギヨウ 張嶷 (宋)無棣の人。少くして武勇節率。張美召して帳下に至らしむ。太宗藩邸に在りしときより其名を聞き、以て天雄軍駐泊天監と爲す。眞宗の時に契丹入寇す、嶷、部兵を率ゐ廉州に伏し、奮擊して敵に陷る。嶷の子昭遠、年十六にして行に從ふ。即ち單騎突て陣中に入り、嶷を拔して出づ。左右披靡して敢て動かず。その後、嶷、靈州副都署兼安撫使に累遷す。大に契丹を破る。契丹敢て略奪せず。殿前都虞侯を加ふ。卒するに及び家に餘財なし。前後の賞賜多くは以て師を稱ふ。其廉此に類す。

チヤウキヨウソ 張恭祖 (漢)東郡の人。鄭去官して從ひて周官、禮、左氏春秋、韓詩、古文尙書を受け、世の名儒と爲る。

チヤウキヨク 張旭 (唐)字は伯高。吳人。書を善くす。酒を嗜み、大醉する每に呼叫狂走す。乃ち筆を下すに、或は頭を以て墨を濡して書す。既醒め、自ら視て以て神と爲す。世に張顚と號す。常熟に尉たりしとき、父老あり、屢々其狀に判せんことを求む。張怒る。老人曰く、公の筆勢奇妙なるを見、家に之を藏せんと欲するのみと。因て藏する所の書を問ふ。其父の書を出す。

旭之を觀るに天下の奇筆なり。是より其妙を盡す。李太白等と飲中八仙と爲す。杜詩に云ふ、張旭三斗草聖傳、揮毫落紙如雲煙と。

チヤウギヨク 張玉 (宋)保定の人。狄青の麾下に隸し善く鍛簡を用ふ。仁宗稱して眞の勇將と爲す。後、儂智高を征して功あり。廣四鈐轄に擢でらる。王韶が熙河を開くや、玉、副都總管たり。河北三十七將を置く、玉を以て第一將と爲す。入りて馬步軍都虞候と爲る。

チヤウギヨクシヨ 張玉書 (清)字は素存。江南丹徒の人。順治十八年の進士。官、文華殿大學士加太子太保に至る。文貞と謚す。學問淵雅、風度嶷然。聖祖の知遇を受くること凡そ五十年。太平の宰相たること二十年。朝夕啓沃、大臣の体を得たり。每に經義に纘て忠を納れ、而も其獻替の迹を得るに由なし。作る所の古文辭、春容大雅、一代の大手筆たり。卒して賢良祠に祀る。

チヤウキヨクワ 張去華 (宋)字は信臣。幼にして學を勵み、屬詞に敏なり。建隆の間に進士の甲科に擧げられ工部侍郎に累官す。致仕し去る。去華議論を善くし節義を尚ぶ。嘗て元々論を獻ず。大旨、民を養ひ稽を務むるを以て急と爲す。眞宗命じて其論を寫し龍圖閣の四壁に列置せしむ。文集十五卷あり。子師古、師顏、皆國子博士。師錫、殿中丞。師德、諫議大夫。

チヤウギヨジヨウ 張御乘 (清)字は寫六。號は適園。烏程の人。花鳥を畫くに工、筆に異致あり。

チヤウキヨセイ 張居正 (明)字は叔大。江陵の人。嘉靖二十六年の進士。性勇敢事に任じ豪傑自ら許す。然れども深沈にして城府あり、人能く測るなし。穆宗の時、高拱と並びに重用せらる。帝の不豫なるに及び、二人に托するに後事を以てす。既にして神宗立つ。居正、太監馮保と結びて拱を勃罷し、遂に首輔と爲る。一日帝、居正に謂て曰く、皇考屢々先生の忠なるを稱す、先生幸に自愛し心を悉して輔せられよと。居正頓首泣謝して曰く、今國家の要務は惟だ舊制を遵守するに在り、必ず紛更せざらん、學を諮卜賢を親み民を愛し用を節するに至りては、又た君道の先とする所、乞ふ聖明意を留めよと。帝曰く善し。居正既に政權を得て慨然として天下を以て己が任と爲す。中外其丰采を想望す。其政を爲すや大約主權を尊び吏實を課す。嘗て曰ふ、高帝は嚴の威を得る者なり、世宗は能く其意を識る、是を以て法宮の中に高臥し委裘を朝して亂れず、今上(神宗)は世宗の孫なり、奈何ぞ祖を法とせざらんと。請うて羣臣を召して之を廷飭す。百寮惕然たり。御史劉臺、抗疏して居正が威福を專擅するを劾す。居正疏言す、曰く、臣が行ふ所は威福を正すなり、黜陟して下を悅ばしめんとするか則ち國を誤る、忠を竭して上に事へんとするか、以て專擅の譏を逃るゝなしと。因て職を辭して事を視ず。神宗勅して驗す。始めて起つ。詔して臺を獄に下し廷杖一百。之を遠戍す。萬曆十年六月、病んで京に卒す。帝之を勵して親く往きて祭り、文忠と謚す。大僕卿に命じて喪を護して江陵に至る。蓋し居正の病處は只だ權を攬り寵を固むるの二件にあり、若し相樂を論ぜば固より明代多く得ざる者。此の故に君子之を惜む。

チヤウキヨセン 張巨錢 (唐)邵武の人。母の喪に居り、墓に廬すること十三年。永淳の初め、其賦役を蠲く。

チヤウキヨハク 張虛白 (宋)鄧州南陽の人。太乙六壬の術に通じ、心を丹竈に留め眞人に遇ひて秘訣を得たり。徽宗其名を聞き、召して太乙宮を管せしむ。恩寵比なし。虛白、太虛大夫金門羽客に官し、蕊中に出入して終日道を論ず、一言も時事に及ぶなし。曰く、朝廷の事は宰相在り、予の知る所にあらずと。金人尤も之を重んじ、以て神仙と爲す。忽ち一日曰く、某年某月日吾當に化し去るべしと。期に至り果して然り。

チヤウク 張翊 (明)字は廷實。南海の人。成化間の進士。戶部主事に拜せらる。尋て憂に丁る。果薦起たず。正德中、召して南京通政司參議と爲す。即ち告歸す。卒する年六十。

チヤウクン 張訓 (唐)清河の人。楊行密の合肥に據るや、訓往て聘す。一見して舊の如し。授くるに親兵を以てす。功を以て黃頭都虞候に遷る。孫儼、宛陵を襲す。行

密、訓を以て黃池を禦がしむ。遂に歷陽を襲ひ滁州を取る。儼、高陵を棄てゝ走る。訓、兵を率ゐて城に入り、穀數十萬斛を得、以て飢民に賑ぶす。陳可言宛陵に據る。訓之を破る。遂に檢校右散騎常侍を以て常州刺史を守る。乾寧の初め刑部尚書を授けらる。

チヤウクンバウ 張君房 (宋)安陸の人。著ゝ郎と爲る。眞宗の時、日本の使至り、詞臣に乞ひて寺記を撰せしむ。時に直院の文は多く君房代りて之を爲る。既に宣して寺記を撰せしめ、日本の使之を待つ。而して君房市樓に飲み、之を索れども獲ず。直院大に窘む。後、楊億、閒忙令を改めて曰く、世上何人號最忙、紫微失却張君房と。

チヤウクンヘイ 張君平 (宋)潍陽の人。父承訓が契丹と戰ひて沒するを以て官に補せらる。累りに戰功を立てゝ左班殿直に遷る。天聖中に潛州修河都監と爲りて決河を塞ぎ、鈐轄に遷りて卒す。君平理財の才あり。尤も治水に明なり。自ら職して河を塞ぐ。朝延每に訪ふに利害を以てす。子瑩、河陰轉運判官と爲り、父の職を嗣ぐ。

チヤウクワ 張華 (晉)字は茂先。范陽方城の人。少時孤貧にして自ら羊を牧す。同郡の廬欽、見て之を器とす。鄉人劉放も亦其才を奇とし、女を以て之に妻ほす。學業優博にして辭藻温麗、其の自ら行ふや、造次必ず禮度を以てす。未だ名を知られざる時、嘗て鷦鷯賦を著す。陳留の阮籍、之を見て嘆して云く、王佐の才なりと。是により名始めて著る。後、歷進して尙書廣武縣侯と爲り、名聲一世に重し。晉朝の議禮憲章、多く其の增損する所に係る。而して當時の詔誥は皆其の艸定する所なり。荀勗自ら大族なるを以て、帝の恩を恃み深く之を憎疾し、遂に華を出して持節都督幽州諸軍事と爲す。時に年六十九。性人物を好み、後進を誘掖して倦まず。人の一善ある者は便ち咨嗟稱して措かず。性雅より書籍を愛す。身死するの日家に餘財なく、惟だ文史あり。機匱に溢ると云ふ。著す所の詩文、竝に世に行はる。

チヤウクワ 張果 (唐)恒州の中條山に隱れ、汾晉の間に往來す。自ら言ふ、堯の丙子の歲に生る。每に一白驢に乘じ、日に行くこと數萬里。休息する時は折りて之を疊みて巾箱に置く。用ふるとき則ち水を以て之を噴けば復驢を成す。則天武后使をして之を召さしむ。果詐て死女廟に死す。後開元中に、玄宗、徐嶠、盧里元をして璽書を齎らして迎へしむ。果京に至る。帝、玉真公主を以て果に降さんと欲す。果大に笑ひ、詔を奉ぜず。屢上表し、懇に辭して山に還らんとす。帝朝三百匹を賜ひ、光祿大夫に封じ、通玄先生と號す。常山に入る。天寶の初め帝復之に詔す。果開て轍ち卒す。帝樓護觀を立てゝ之を祀る。

チヤウクワイ 張壞 (南北)字は祖逸。吳縣の人。永の子。少くして幹略あり。桂州內史に遷る。拜せず。後、通直散騎常侍驍騎將軍と爲る。梁の天監の初め、給事中、右光祿大夫を以て致仕す。

チヤウクワイ 張塏 (宋)字は唐卿。洎の孫。進士に舉げられて秘閣校理に除せらる。淮南轉運使に轉ず。事に遇へば轍ち言ひ、勢要に觸忤して屢々黜けらる。而かも悔いず。

チヤウクワイ 張會 (六朝)翼の子。博聞強記。紹興元年の第に登る。饒の潛陽に尉と爲り、金陵の糾曹に調ばる。時に丘崇帥と爲り吏胥足を側つ。會肯て詭隨せず、平反するもの甚だ多し。任滿ちて復仕へず、家居十餘年にして卒す。子軫、輔、俱に科第に登る。

チヤウクヴイヤク 張愼約 (唐)越昌の人。初め隋に仕へて官學士に至る。後、唐に歸して溫州司馬と爲る。愼約幼にして令名あり。鄉人其德行を宗とす。博學强記。文詞典麗。三經三傳を講じ、諸儒の右に出づ。性簡約を尙ぶ。後、當陽山に隱れ、終る所を知るなし。

チヤウクワウ 張紘 (三國)字は子綱。廣陵の人。少くして京師に遊學し、後、地を江東に避く。孫策樂を江左に創むるとき、遂に賓を委す。張昭と並びに參謀と爲る。常に一人をして居守し一人を從征せしむ。權群臣に於て多く其名を呼ぶ。惟だ昭を呼ぶに張公といひ、紘を東郡といふ。二人を

重んずる所以なり。嘗て椅櫃枕賦を作る。陳琳河北に在り、持して人に示して曰く、此れ吾が郷の張子綱の作る所と。後絃、琳か武庫賦を見て、琳に書を遺り深く之を嘆美す。琳答ふ、此間率れ文字少し、故に雄伯たり易し、今足下と子布と在り、所謂小巫の大巫を見て神氣褻くるものと。初め絃、秣陵の山林城勢を以て權に勸め、以て治所と爲さしむ。權之に從ひ石頭城を作り秣陵を改めて建業と爲す。絃將に卒せんとす。子靖に留牋を授けて曰く、古より國家を有する者は皆德政を修めて隆を盛世に比せんと欲す、其治に至て多く譽響ならざるものは、忠臣賢佐なきに非ざるなり、主其情に勝たずして用ふる能はざるに由るのみ、夫れ人情は離を憚りて易を好み、同を好んで異を惡む、故に治道相反す、人君基を承け勢に據り、人に假ること無し、而して忠臣は進み離きの術を挾み、耳に逆ふの言を吐く、其合はざる亦宜ならずや、故に明君は寤寐に賢を求むること渴するが如く、諫を受けて厭はず、情を抑へ欲を損して義を以て恩を斷つと。備書を省して之が爲に流涕す。

チヤウクワウ 張宏 (宋)字は巨卿。益都の人。太宗の朝の進士。樞密副使に累官す。卒して右僕射を贈る。

チヤウクワウ 張宏 (清)字は君度。號は魁澗。奥人。山水を善くす。蒼勁雅秀、蕭疎淡遠。元人の風致に減せず。

チヤウクワウケイ 張光奎 (明)澤州の人。仕へて山東右參政に至る。崇禎五年、流賊、山西を聯る。歙人吳開先を署して將と爲し、之を澤州城西に破り、北留敬下に破る。而かも敬盡き援無し、一軍盡く沒す。賊乃ち再び澤州を犯す。光奎力め甲居す。兄守備光顯、千總劉自安等と衆を率ゐて固守すること八日、援兵至らず、城陷りて死す。光縣卿を贈らる。

チヤウクワウコウ 張皇后 (三國)蜀の後主の后。敬哀皇后の妹。建興十五年入て貴人と爲り、延熙元年立て皇后と爲る。咸熙元年後主に隨て洛陽に遷る。

チヤウクワウコウ 張皇后 (晉)宣帝の后。諱は春華。河内平皐の人。父汪、魏の渠邑の令。后少にして德行智識あり。景帝、文帝、平原王、南陽公主を生む。宣帝初め魏武の命を辭し、託するに風痺を以てす。嘗て書を曝し、暴雨に遇ひて覺えず自ら起ちて之を收む。惟だ一婢あり之を見る。后乃ち事漏れ、禍を致すを恐れ、遂に之を手殺して口を滅す。後ち柏夫人、寵あり、后、爲に進見を得ること罕なり。帝曰く、老物憎むべし、何ぞ后往て省す。帝曰く、老物憎むべし、何ぞ煩出すると。后慙恚食せず、自殺せむとす。諸子亦食はず。帝驚き謝す。后則ち止む。帝退きて人に謂て曰く、老物憎むに足らず、我好兒を慮る耳と。魏の正始八年崩ず。年五十九。洛陽高原陵に葬る。咸熙元年追て宣穆と號す。武帝即位に及び追尊して皇后と爲す。

チヤウクワウコウ 張皇后 (南北)梁の武帝の母。諱は尙柔。范陽方城の人。父稔之、文帝の從姑を娶て后を生む。后、宋の元嘉中を以て文帝に寵し、長沙實武王蠻永陽昭王敷を生み、次に武帝を生む。方に孕めるとき忽ち庭前菖蒲の花を見る。光采非常なり。驚いて侍者に報ず。皆見ずと云ふ。后曰く、常に聞く、菖蒲の花を見る者は當に富貴なるべしと。因つて取て之を呑む。是の月武帝生る。武帝將に產れむとする夕、后庭内に衣冠剖列有るがごときを見る。次に衡陽宣王暢義興昭長公主令燁を生む。后宋泰始七年秣陵縣に卒す。天監元年五月甲辰尊號を追上して皇后となす。文獻と謚す。

チヤウクワウコウ 張皇后 (唐)肅宗の皇后。鄧州向城の人。家新豐に徙る。祖母實、昭成皇后の女弟。肅宗太子となり、后を良娣とす。太子と共に玄宗の四幸に從ふ。實應九年帝大漸。后、内官朱輝光等と謀り越王係を立てむと謀る。而して李輔國程元振兵を以て太子を衝り后を別殿に幽す。遂に廢して庶人となし之を殺す。

チヤウクワウコウ 張皇后 (五代)梁の太祖の后。單州山縣張亭里の富家の子也。太祖少うして嫁を以て之を聘し末帝を生む。太祖貴うして魏國夫人に封ず。后賢明特悍、動くに禮法あり。太祖剛暴と雖も亦嘗て之を畏る。太祖每に外事を以て之に訪ふ。后の言、多く理に中る。太祖時に暴怒殺戮す。后常に救護す。人賴て以て全きを得たり。彤王友裕徐州を攻め、朱瑾を石佛山に破る。瑾走げ。友裕追はず。太祖大に怒り、其兵を寧ふ。友裕慄恐し數騎と山中に亡ぐ。后陰に人をして友裕に敕へ身を脫して自ら歸せしむ。友裕晨に騎て入て太祖に見ゆ、庭中に拜伏して泣涕死を請ふ。太祖怒甚し。左右をして捧出せしめ、將に之を斬らむとす。后之を聞き、履に及ばず、庭中に走り、友裕を持し泣て曰く、汝速身罪に歸す、豈反にあらざるを明かにするを欲せざらむや。太祖意解け乃ち免る。太祖已て朱瑾を破り、其妻を納れ以て歸る。后太祖を討丘に迎ふ。太祖之を皆ぐ。后遽に瑾の妻を見る。瑾の妻再拜す。后亦悽然泣下りて曰く、同姓の國、昆仲の間、小故を以て干戈を興し、吾が娘をして此に至らしむ、若し不幸にして汴州守を失はゞ、妾亦此の如けんと。言ひ終て又泣く。太祖感動し、乃ち瑾の妻を送て尼と爲す。后常に其衣食を給す。天復元年后疾を以て卒す。太祖即位して追冊して賢妃と爲す。末帝立ち、追謚して元貞皇太后と曰ひ宣陵に祔す。后死後太祖始めて荒淫を爲し卒に禍に及ぶと云ふ。

チヤウクワウコウ 張皇后 (明)世宗第二の后也。初め順妃に封ず。七年隆皇后崩ず。遂に立て后と爲る。是時帝方に古禮を追ふ。后に嬪御を率ゐて親から北郊に蠶せしむ。又日に六宮を率ゐ女訓を宮中に講ぜしむ。十三年正月廢せられて別宮に居り。十五年薨ず。

チヤウクワウコウ 張皇后 (明)熹宗の后。祥符の人。天啓元年四月冊して皇后と爲す。性嚴正、數々帝に客氏魏忠賢の過失を言ふ。嘗て客氏を召し繩すに法を以てせむと欲す。故に客魏怨恨、遂に謗言を以て帝聽を惑はす。三年后娠むあり。客魏其私人を以て承奉せしめ、寛に元子を損む。帝嘗て后宮に至る。后方に書を讀む。帝問ふ何の書ぞ。對て曰く趙高傳也。熹宗大漸に及び、忠賢の逆謀を折き、位を信王に傳ふる者は后の力也。莊烈帝尊號を上りて懿安皇后と曰ふ。十七年三月李自成都城に入る。后自ら縊る。順治元年詔して熹宗の陵に合葬す。

チヤウクワウコウ 張皇后 (明)孝宗の后。興濟の人。父は鏞。母、月懷に入るを夢みて后を生む。成化二十三年選ばれて太子妃と爲る。是歲孝宗即位し冊して皇后と爲す。帝頗る外家を優禮す。故を以て外族縱横奸利を爲す。武宗即位して皇太后と爲す。武宗崩ずるや后璽を禁中に定めて世宗を迎立す。世宗太后に事ふる極めて薄し。太后の弟延齡、逆を謀るに坐し、死に論ず。太后憂迫、爲に帝に請ふ。聽かず。尊て太后崩ず。延齡殺死せらる。後ち謚して孝康と曰ふ。

チヤウクワウコウ 張皇后 (明)仁宗の后。永城の人。洪武十六年燕世子妃に封ぜられ永樂一年皇太子妃と爲る。仁宗冊立して皇后となし、宣宗即位して尊て皇太后となす。英宗の時太皇太后と爲る。后始め太子妃と爲りしとき、婦道を操る至て謹み、雅より成祖及仁孝皇后の歡を得る。太子數々漢趙二王の爲めに間せらる。成祖之を易へんと欲するもの屢なり。卒に后の故を以て廢せられざるを得たり。立て后と爲るに及び、中外の政事周知せざるなし。實德の初、軍國の大事多く裏聽裁決す。

チヤウクワウコウ 張皇后 (清)仁祖の后。性端莊敏達。英明世に立て、凡そ詔令及び朝廷の太政、必ず后に白して然る後行ふ。正統の初、數年天下休息するは皆后の力なり。君子女中の堯舜と謂ふ。誠率と謚す。

チヤウクワウジュ 張宏儒 (明)常熟の人。趙千里を學びて畫を善くす。

チヤウクワウゼン 張光前 (明)字は爾荷。澤州の人。萬曆三十八年の進士。吏部檢封主事に擢拜せらる。抗疏して時政を言ひ、執政の意に忤ひて官を貶せらる。光前、操行嚴峻、大に中官に忌憚せらる。崇禎間、大理少卿に拜せらる。累疏して休を乞ひ家に卒す。

チヤウクワゲン 張華源 (南北)平承の人。少くして明敏にして器度あり。北齊に仕へて兗州刺史に歷官す。獄に罪徒數十あり、暇を給して歸らしむ。期に依て畢く至る。州境、猛獸暴を爲す。忽ち大駭あり、之食ふ。人咸以て化感の著す所と爲す。卒するに及び州人號慕し、爲に碑を樹て之を祀る。

チヤウクワン 張寬 (漢)武帝時、侍中

たり。

チヤウクワン　張奐　（漢）字は然明。燉煌酒泉の人。父惇、漢陽太守と爲る。奐、賢良對策第一に擧げられ、擢でゝ議郎は拜し安定屬國都尉に遷る。羌の叛師、奐が恩德に感じ駿馬二十疋を上る。奐受け、主簿を諸羌の前に召し、酒を以て地に酹ぢて曰く、馬を以て羊の如くならしめ以て廐に入れず、金を以て粟の如くならしめ以て懷に入れず。悉く金馬を以て之を還す。羌大に愧服す。使匈奴中郎將に遷り、召されて大司農に拜す。鮮卑、奐の去るを聞き、遂に羌を結びて入寇す。朝廷以て憂と爲し、復た奐を拜して護烏桓中郎將と爲す。烏桓、奐の至るを聞き、相率ゐて來降す。奐其主惡を誅し、餘は皆之を慰納す。時に司隸校尉王寓なるもの、宦官より出でゝ頗る權勢あり。百僚畏憚して許諾せざるなし。唯だ奐之を拒む。寓怒り、遂に陷るゝに黨錮を以てし、放ちて鄉里に歸らしむ。

チヤウクワン　張觀　（宋）昆陵の人。南唐の進士に擧げらる。宋に歸して彭原主簿と爲る。復召されて監察御史に拜し廣南西路轉運使に終ふ。廣覽閑雅、好て事を論じ、辭理切直にして古人の風あり。

チヤウクワン　張觀　（宋）官、參知政事たり。事に遇ふ毎に從容詳審、動て過擧なし。劉器之初めて第し二同年と試に應じ教を請ふ。曰く、某守官より以來常に四字を持す勤、謹、和、緩。一後生聲に應じて曰く、勿謹和は既に命を聞けり、緩の一字某の未だ聞かざる所と。張色を正しうして曰く、何皆教賢緩不及事、且道世間某事不因忙後錯了と。

チヤウクワン　張桓　（元）字は彥威。眞定藥城の人。賊、桓の名を知り、之を襲獲して脇誘す。大に罵り從はず。遂に殺さる。禮部尚書を追贈し忠潔と謚す。

チヤウクワン　張觀　（元）字は可觀。松江の人。善く山水を畫く。兼て馬遠夏珪を學ぶ。而して特に事倣に長ず。

チヤウクワン　張煥　（明）字は彥章。新槐と號す。孫章の人。寫照を善くす。

チヤウケイ　張興　（隋）奚の子。學を好み、尚書右丞に拜し、爵を進めて侯となる。隋高祖禪を受け、尚書右丞に拜し、爵を進めて侯となす。父の憂に丁り哀毀骨立す。民部尚書に累遷す。興、性和厚にして制度を有識し甚だ時譽あり。後に冀州刺史に拜す。

チヤウケイ　張景　（宋）公安の人。仁宗召見して問うて曰く、卿江陵に在り、地に何の景かある。對へて曰く、兩岸綠柳對虎溪、一灣芳草麗龍洲。曰く、食ふ所は何物ぞ。對へて曰く、新粟米炊魚子飯、嫩冬瓜煮鼈裙羹と。

チヤウケイ　張瓊　（宋）初め帝、周の將と爲り、瓊、幄下に隸す。嘗て身を以て帝を蔽ひ矢に中り死して復蘇す。帝、位に即くに及び、擢でゝ殿前都虞候と爲す。軍校史珪石漢卿瓊を譖す、擅に威福を作すと。帝瓊を召して之を訊ふ。伏ゃず。獄に繫がしむ。瓊自ら免れざるを知り、佩ぶる所の劍を解き以て母に遺り、遂に自殺す。瓊主に事ふるに忠にして私產を營まず。卒するに及び、帝其家に餘貲なきを聞き、心に深く之を悔い、漢卿を責め、仍て厚く其家を卹む。

チヤウケイ　張奎　（宋）字は仲野。臨濮の人。進士に擧げられて河東都轉運使知河南府に累官し、能政を以て聞ゆ。京東に盜起る。奎を以て鄆州に知とす。數月にして盜を捕へて悉く平らぐ。奎、身を治るに法度あり。風力精强、吏取て欺かず。

チヤウケイ　張珪　（金）工に人物を畫く。形貌端正、衣褶清勁、能法戰鬼、而して生動、直ちに前輩に駕軼せんと欲す。

チヤウケイ　張珪　（元）字は公端。濟慶と號す。弘範の子。少にして能く强弓を挽き、命中せしむ。珪學を鄧光薦に受け、南臺御史中丞に拜せらる。延祐二年中書平章政事に拜せらる。鐵木迭兒私寃を以て薊拜住、楊朶兒帝を殺す。珪獨り其寃を極言す。聞く者色を失す。後ち翰林學士に進み、蔡國公に進封せらる。卒す。遺命して蔡國公の印を上らしむ。

チヤウケイ　張惠　（元）字は廷傑。成都新繁の人。至元の初、貲を出し俘囚を贖ひて民と爲す。伯顏に從ひ宋を伐ち、其功勞甚

多し。楊州行省平章に拜し、至る所能聲あり。

チヤウケイ　張經　（明）字は廷彝。侯官の人。初め蔡姓を冒す。正德十二年の進士。嘉興縣に知たり。嘉靖中、累遷して右都御史兼兵部右侍郎に至り、禦寇功を積む。後奸人に陷れられ、獄に死す。實に嘉靖三十四年五月なり。隆慶の初、故官に復し襄愍と謚す。

チヤウケイ　張經　（明）興州左衛の人。正德六年の進士。御史に官たり。出て宣府を按じ、鎮守子喜の貪肆を劾す。反つて喜に訐かれ、詔獄に逮繫せられ雲南河四典史に謫せられ、尋で卒す。世宗即位の初、太僕少卿を贈る。

チヤウケイエイ　張瓊英　（宋）故宮の人。詩を善くす。三宮に從つて燕京に留滯す。

チヤウケイケン　張景憲　（宋）河南の人。父師德の任を以て淮南轉運使と爲る。屬官不法なる者多く擧刺せらる。河東轉運使に累遷し終に同州に知たり。官に居て强禦を長れず、自負して以て守り、人に於て許すこと少し。一日にして鬚髮盡く白し。當時、吳師道、孫諭等と共に七老會を爲る。

チヤウケイゲン　張慶玄　（明）善く蘭蕙竹石を畫く。

チヤウケイゲン　張惠言　（清）字は皐文。江蘇武進の人。嘉慶四年の進士。編修を授けらる。惠言、學を修め行を立て、禮に敦うして自ら守る。嘗て言ふ、文章は末なり、人と爲り表裏純白なるに非れば、豈第一流と爲すに足らんや。虞氏易禮、易事、易候、易言、及び周易鄭荀義、易義別錄、易圖條辨、儀禮圖說、說文諸聲譜、老柯義集、共數十卷を著す。嘉慶七年卒す。年四十二。

チヤウケイシ　張慶之　（宋）字は子善。其祖、武職を以て官に入り、建康より矣に徙る。父明、字は子聰。器宇奇偉なり。慶之、少くして志操あり、擧子の業を爲む。長ずるに及び棄てゝ習はず、經史百氏に出入し、精煎積年。太玄に擬して測靈を作る。又孔孟衍語を撰す。意を仕進に絕ち、好て山水の遊びを爲す。虎邱賦を註して因て自ら海峰野遯と號す。五柳先生に倣ひて海峰遺民傳を爲る。伯夷、蔣詡、陶潛、司空圖を以て自ら況ぶ。且つ謂ふ、沈冥は海に似、峻嶺は峰に似たりと。時人其狷介を賞す。初め文天祥の平江に知たるや、慶之諸生の列に齒す。國亡ぶるに及び、集杜詩評を作り、井に老子註、測靈、衍語、續胡曾史詠あり、世に行はる。

チヤウケイジ　張敬兒　（南北）冠軍の人。父曦、官、節府參軍に至る。敬兒、膽氣あり。好て猛獸を射る。發して中らざるなし。劉宋に仕へ、累官して寧蠻將軍と爲り、後に義嘉を平ぐるの功を以て中軍騎將軍に轉任す。

チヤウケイジン　張景仁　（南北）濟北の人。坊にして孤なり。家貧にして傭書を以て業と爲す。遂に草隸に工みなり。周に仕へて擢用せらる。人と爲り小心恭謹。後主使祚して散騎常侍に累遷す。

チヤウケイジン　張景仁　（金）字は壽甫。遂四の人。諸官を歷て禮部尚書に拜せられ、太定中卒す。

チヤウケイセウ　張惠紹　（南北）字は德濟。義陽の人。少くして武幹あり。齊に仕ふ。母の喪に遇て里に歸る。武帝兵を起すと聞き、乃ち自ら歸す。累りに功あり。帝踐祚するに及び、石陽縣侯に封ぜられ驍騎將軍に位す。

チヤウケイタツ　張敬達　（五代）唐に仕ふ。石敬瑭、契丹を引きて入寇す。敬達兵を率ゐて禦ぎ、重圍に困めらるゝもの數月。芻糧俱に盡く。楊光遠之に降を勸む。敬達曰く、吾元帥と爲りて軍に殿す、其職已に大なり、況や敵に降るをやと。光遠敬達を斬りて降る。契丹其忠を嘉みし、禮を備へ葬りて而して之を祭り、其下並に晉の將に謂て曰く、汝曹人臣と爲る、當に敬達に效ふべきなりと。

チヤウケイテウ　張景超　（唐）劉展の部將たり。展の敗るゝや、兵を法曹に授け、逃れて海に入る。

チヤウケイマウ　張繼孟　（明）字は伯功。扶風の人。萬曆末年の進士。澤縣を知す。天啓三年南京御史に擢でらる。未だ都を出でず、籌邊六事を奏す。忌む者、皆繼孟を

指目して東林の黨と爲し、尋で魏忠賢の祠を建てざるを以て斥けて邪黨となす。官位を削奪せられて歸る。崇禎二年故官に起ち、上言して四謬を論ず。帝納れず。永光深く之を疾む。出でゝ廣西知府と爲る。土酋普名聲久しく亂れて靖からず。繼孟軒を殺けて之を酖す。浙江撫巡使に遷さる。親遼内官崔璡に忤ひ、寧知府に左遷せらる。尋で副使に進み川四を分巡す。十七年八月、張獻忠成都に寇ず。陳其祭、張孔教、鄭安民、方堯相等と鄖撫龍文光を佐けて守る。城陷る。獻忠帝號を僭し、諸人を用ひて百官を備へんと欲す。繼孟等爲に屈せず。乃ち殺さる。

チヤウケイメイ 暢惠明 (周)齊の人。論語意十卷を撰む。

チヤウケウ 張喬 (漢)順帝の時に豪林の變區運りに入寇す。州郡之を討して克たず。是に於て喬を選びて交州刺史と爲す。喬單車にして州に至る。寇自ら弭む。

チヤウケウ 張嶠 (宋)字は景山。崇安の人。太傅籍の長子。五季の亂に武夷の陽に隱れ、釣漁を以て自適し、仕進に意なし。會々父籍、周に仕へて蘄州刺史と爲る。唐王之を聞き、吏を遣して嶠を召さしむ。就かず。遂に拘へて以て往く。後、江南滅びて宋に歸す。嘗て歙州に通判たり。適々廬山の虚絳竊に發す。嶠、太守龔慎儀と方畧を殷けて之を禦ぐ。時に賊勢方に盛に、郡守の兵單弱なり。或は少しく避けんと請ふ。嶠聽かずして曰く、吾敢て國に負かず、死戰あるのみと。盜も亦歸て息む。後に官、司門員外郎に至り、老を請ひて鄉里に歸る。尋で詔して入朝せしむ。太平興國間に右贊善大夫知博州に充てられ、御史中丞に遷る。工部尚書を累贈す。第岐、子放。

チヤウケウ 張翹 (宋)沅陵の人。神宗の時、章淳、湖北を經略す。翹、上書して南北江の利害を言ふ。淳、之を聊む。或は以て告ぐ。翹曰く、苟くも人に利あらば死も惡まざるなりと。淳以て害するなし。晩に深山の中に居り、文史を以て自ら娛み、門を杜ぢて出でざるもの幾ど二十年。鄉人之を高しとす。

チヤウゲツコ 張月湖 (元)道釋人物を善くすと君臺觀にあれども諸書見る所なし。相阿彌自筆と稱する書によりて姓張なるを知るのみ。或は月壺は仁發にあらざるかと疑ふものありと雖ども、畫法殊異なれば別人なる可し。其畫風眞娜優雅なり。(湖、一に壺に作る)

チヤウケフ 張協 (晉)字は景陽。少にして儁才あり。兄載と名を齊しうす。河間内史と爲る。郡にあり清簡寡欲、治績あり。時に天下已に亂れ、所在盜起る。協遂に人事を謝絶して草澤に屏居し、道を守りて世と競はず。屬詠を以て自ら娛みとす。永嘉の初、復た黄門侍郎に徵さる。疾に託して就かず。協、詩を善くし、風流閑遠、文体華淨、尤も鍛鍊を以て稱せらる。然れども其文は以て兄に及ばず、載の詩は更に弟に讓らざるを得ず、是れ二張の詩文、互に長短ある所なり。

チヤウケン 張儉 (漢)字は元節。濟寧の人。嘗て中常侍侯覽の不軌を劾す。覽怒り、誣ふるに黨事を以てす。儉遁れ去り門を望て投止す。到る處其名げを重ぜざるものなく、皆家を破りて相容る。嘗て東萊の李篤の家に奔りしとき、外黄令毛欽なるもの、兵を操て門に至る。篤曰く、張儉名を天下に知られ、而して亡ぐるは其罪に非ず、豈之を執ふるに忍びんやと。欽因て篤を撫して曰く、蘧伯玉は獨り君子たるを恥づ。篤曰く、僕義を好むと雖も、明公今日亦其半を敝すと。欽嘆息して去る。靈帝の時、八及の一たり。

チヤウケン 張騫 (漢)字は子文。河内の人。武帝の時、郎と爲りて四域に使し、大宛に至りて葡萄種を得。一名は馬乳、名は黑水晶、國人之を以て酒を釀す、十年敗せず。大夏に至りて邛竹種を得。四域に留まること十餘年。元朔中に匈奴を擊ちて博望侯に封ぜらる。

チヤウケン 張儉 (唐)字は師約。新豊の人。初め檢校代州都督たり。平羅法を建つ。貞觀中に營州に都督と爲り、遂を征して功あり。兄文師は太僕卿。弟延師は右衛大將軍たり。並に鎧胄光祿大夫を賜ひ、門俱に戟を立つ。世に三戟張家と號す。

チヤウケン 張儉 (南北)潁川の人。東魏

天平の末、兇徒を案めて亂を爲す。遂に誅せらる。

チヤウケン 張憲 (五代)初め莊宗憲に命じて晉陽を守らしむ。帝の弑に遇ふに及び、推官張昭遠、憲に勸め表を奉じて勤進せしむ。憲曰く、吾布衣より金紫を服するに至る、皆先帝の惠なり、豈生を偷み自ら愧ぢざる可けんやと。昭遠泣て曰く、此れ古人行ふ所、公能く之を行ふ、其忠義當に朽ちざるべしと。

チヤウケン 張儉 (遼)宛平の人。性端慤、外飾を事とせず。統和十四年進士第一。初め聖宗、四人側に侍し、二日に食を賜ふと夢む。儉の名を奏するに至り始めて悟る。雲州幕官に調せらる。帝雲中に獵す。節度使進んで曰く、臣の境他産なし、惟だ幕僚張儉、一代の寶、以て獻を爲すと。召見して世務を訪ふ。占奏三十餘事、旨に稱ふ。太平六年、南院樞密使、爲り政事令を兼ぬ。遺詔を受けて太子を輔立す。興宗立ち、號を貞亮弘靖保義守節著德功臣と賜ふ。大師中書令に進み尚父を加へ、徒て陳に王たり。人と爲り質素、衣食麤薄、祿俸親故に賑給す。嘗て帝、内庫の財物を取らしむ。獨り布三端を持して出づ。帝、其清廉を見て益々奬重を加ふ。相位に在る二十餘年、裨益多しと爲す。十三年薨ず。年九十一。勅して宛平縣に葬る。

チヤウケン 張建 (金)字は吉甫。蒲城の人。詩名あり。明昌の初、絳州教官を授けられ、召されて應奉翰林文字となる。老を以て休を乞ふ。章宗ルの純素を愛して華州陶樂同知を授け、詩を賜ひ以て之を寵す。著、蘭泉集あり。

チヤウケン 張憲 (元)字は思廉。山陰の人。玉笥と號す。富春山に入り以て自ら放まゝにす。且墓一編を手にす。人窺ふを得ず。死後之を視れば生平作る所の詩なり。著に玉笥集あり。

チヤウケン 張萱 (明)字は夢奇。九岳と號す。又別に四圃と號す。惠州の人。博洽多聞、著述甚だ富む。給事の名家にあらずと雖も偶々一たび之れを爲せば頗る別趣に富む。

チヤウケン 張憲 (明)字は廷式。浙江の人。成化八年の進士。正德中、南京禮部尚書に擢てらる。後、劉瑾に陷れらる。瑾敗れて工部に起ち、年を逾えて卒す。

チヤウケン 張攜 (清)字は疇如。江蘇長洲の人。官學教習を以て河南登封縣に選ばれ通判に累官す。大に文學を興し、嵩陽書院を復す。縣治より郊鄙に趨すること學舍を立つる二十一所。官を去るの日、士民四嗣を四鄉に立て、榜して天下清官第一といふ。

ヂヤウゲン 鄭玄 (漢)テイゲンを見よ。

チヤウゲン 張儼 (漢)餘杭の人。學を好み實德あり。漢末の亂に遇ひ、嘗て圖を開き瓠を種ゑ、舊る所の錢を以て犢を造り、營利を樂しまず。鄉人之を重んず。

チヤウゲン 張儼 (三國)字は子節。吳人。弱冠にして名を知らる。博學多識。吳に仕へて大鴻臚と爲る。晉に使せしとき荀勗等儼に知らざる所を以てせんと欲す。而かも風する能はず。羊祜、何禎、並に縞帶の好みを結ぶ。

チヤウゲン 張玄 (三國)字は希祖。范寧、王忱に謂て曰く、張玄は乃ち吳中の秀士。

チヤウゲン 張阮 (三國)高陵の人。度才に擧げられて新豊令に除せらる。治、三輔第一たり。魏の初め以て京兆尹と爲す。後雍州刺史安定太守に遷る。郡に在ること十餘年、惠政著聞す。後、四鄉侯に封ぜらる。

チヤウゲン 張元 (南北)後周芮城の人。性謙謹にして孝行あり。年十六、祖の目失明す。元、晝夜祈禱す。一夕夢に神人金丸を以て祖の目を癒す。越ること三日、祖の目痒し。元因て之が祗む。果して明かなり。後人祠を立て之を張府君廟といふ。

チヤウゲン 張弦 (宋)江津の人。進士に擧げられ召對して直言す。湖廣恐領に累任す。精神滿腹、簽算に長ず。至和の初め雷州に知たり。暇日に長老諸生を延きて條教及び舊習悉く更まる。又城壘を增治し田を開き水を溯へ久遠の計を爲す。雷人之を敬愛す。

チヤウゲン 張原 (明)字は士元。三原の人。正德九年の進士。吏料給事中に除せらる。嘗て六事を疏陳す、一に冗食を汰す、

二に工作を慎み、三に貢献を薄ず、四に賞罰を明かにす、五に冒路を廣む、六に德學を進む。疏入りて權倖に惡まれ貶謫せらる。大嘉靖中、出でゝ戶部右給中に擢でらる。大禮の議に坐して廷杖せられ、創重くして卒す。隆慶の初め光祿少卿を贈る。

チヤウゲイウ 張虞雄 (隋)虞威の弟。才器あり。秦孝王俊、秦州總管たりしとき、法曹參軍に選ばる。王嘗て親しく囚徒を按ず。虞雄百餘人に口對し皆事情を盡す。同列歎服せざるはなし。後に壽春陽城二縣を歷て俱に治績あり。

チヤウゲンカ 張彥到 (五代)梁太祖の時に方り、衆を聚めて乱を作し、敗れて誅せらる。

チヤウゲンクン 張元勳 (明)字は世臣。浙江太平の人。隆慶中、海門衛新河所百戶を襲ぐ。倭寇を福安に破る。嘉靖萬曆の間、都督に進み、尋で病を以て家に卒す。

チヤウゲンクワ 張元化 (晉)葛玄の弟子。嘗て汝州に寓す。前知の明あり。一日道士周元亨を召して之を戒めて曰く、吾化するの後に吾が軀殼を損するなかれと。既に化す。元亨其命に遵ひ城北に葬る。後五年、汝州の卒あり、蜀を戍りて一道士に山峽の間に逢ふ。卒に謂て曰く、能く我が爲に一書を持して、胡司馬、周尊師に與ふるや不やと。卒乙を許し、反て書を投ず。二人緘を開けば乃ち元化の親札にして、二人厚葬の意を謝するものなり。棺を發きて之を視るに、惟故履の存するあるのみ。宋の政和中に冲妙先生に封ず。

チヤウゲンケイ 張彥卿 (五代)南唐に仕へて楚州防禦使と爲る。周、兵を率ゐて城を圍み四旬を踰ゆ。彥卿固守して下らず。周主自ら諸將を督し、攻めて之に克つ。彥卿、都監鄭昭業と衆を率ゐ拒戰し、矢刃既に盡く。彥卿繩牀を擧げ以て鬪て死す。部千餘、死に至るまで一も降る者なし。

チヤウゲンコウ 張建侯 (宋)長州守たり。政和間に黃安俊、叛して鎭江寨を圍む。建侯、鎭陽令王憲之と兵を率ゐて之を討つ。衆潰ゑて俱に執へらる。賊迫りて寨中の人に諭し、出でゝ降らしむ。建侯縛さて詬す。寨下に至り大呼して曰く、人と爲らは當に順逆を知るべし、我れ萬に全きを求むるなし、汝等堅く守りて二心を懷く勿れと。賊怒り俱に之を害す。郡人其忠を哀み祠を立てゝ之を祀る。

チヤウゲンサイ 張彥材 (明)常熟の人。寓照に工なり。楊鉄崖と詩藁の交をなす。

チヤウゲンシ 張玄之 (晉)吏部尚書より吳興太守と爲る。才學を以て顯はる。會稽內史謝玄と同年同郡にして名を均うす。時人稱して南北二元といふ。

チヤウケイシウ 張敬修 (明)居正の長子。父の故を以て頗る威福を擅ふす。居正既に死するや、曾て斥遷せらるゝ者また路に當りて涕りに居正の好を發き、其睫子を執へんとす。敬修之を聞きて自ら縊る。

チヤウゲンシン 張彥眞 (晉)好學博聞、情に任せて不羈なり。相合する者には身を傾けて與に交はり、如し志好或は乖けば王公大人と雖も終に屈せず。常に歎て曰く、其れ我を知る者あらば胡越と雖も親むべし、苟も或は然らずば寧ろ獨立せんと。

チヤウゲンセイ 張元靚 (晉)前涼主第八世。字は元安。重華の少子。國人既に張祚を殺し靚を奉じて涼王と爲す。年始めて七歲。立て九年、其叔天錫の爲めに弑せらる。謚して冲王といふ。

チヤウゲンソ 張玄素 (唐)虞卿の人。初め隋に仕へて景城縣戶曹と爲る。竇建德執へて將に之を殺さんとす。邑人千餘、號泣して代らんと請ふ。之を釋す。武德間に易州錄事參軍と爲る。太宗其名を聞き、召見して問ふに治道を以てす。玄素條對して旨に稱ひ、擢でられて侍御史に拜し給事中に遷る。太宗卒を發して洛陽宮を修め、以て巡幸に備へんと欲す。玄素上書して極諫す。帝房玄齡に謂て曰く、玄素の言ふ所極めて理あり、即ち爲に役を罷む、後或は事ありて洛陽に至らば、露宿すと雖も亦傷むなしと。魏徵之を聞て嘆じて曰く、張公事を論ずる回天の力あり、仁人の言と謂ふべしと。太子左庶子を歷。

チヤウゲンソ 張元素 (金)字は潔古。易州の人。醫を善くす。

チヤウゲンソ 張玄素 (金)字は子眞。父

国、遂に仕へて節度使に至る。玄素、世宗の時、來り聘して戶部尚書に累遷し、致仕して卒す。年八十四。人となり質厚剛毅。性々片紙を以て字を其の上に署して癒を治すれば輒ち愈ゆといふ。其の人に長悍せらるゝこと此の如し。

チヤウゲンタク 張彥澤 (五代)其先は突厥部の人。彥澤、人と爲り驍悍殘忍、目睛黃にして夜光あり、顧視猛獸の如し。射を善くするを以て騎將たり。唐の世、數々莊宗明宗に從て戰伐す。晉に入り、高祖と連姻するを以て重用せられ、出帝の時、累遷して右神武統軍と爲る。晉、契丹と戰ふに及びて常に兵間に在り、數々戰功を立つ。開運三年、杜重威、李守貞等と同じく叛きて契丹に降る。耶律德光、闕を犯す。彥澤、傳住兒と共に先づ京師に入り、帝を開封府に遷し、軍士を縱ちて大に京師を掠む。既にして德光至り、其の亡狀を視て大に怒り遂に之を殺す。市人爭うて其腦を破り其髓を取り北肉を臠して之を食ふ。

チヤウケンチウ 張獻忠 (明)延安の人。李自成と同歲に生る。毅宗即位の初め流賊各地に蜂起す。獻忠亦起ちて府谷の王嘉胤に從ふ。獻忠陰謀多し。賊中、八大王と號す。其部最も強し。時に獻賊と稱す。李自成等に結び連りに陝西河南山西四川安徽湖廣に轉寇し、明將左良玉等と戰ひ、遂に蘄黃武昌を陷れて楚王華奎を殺し、武昌を稱して京城といひ六部五府を設けて之に據る。既にして湖南より江西に入り、連りに吉安袁州建昌撫州の諸郡を陷れ、荊州より蜀に趨り遂に成都を陷れ四川を奄有す。幾ばくもなくして病を以て蜀中に死す。

チヤウゲンノイモウト 張玄妹 (晉)會稽の人。才質あり。張玄常に其才敏を賞し、謝道韞に比す。

チヤウゲンベン 張元忭 (明)字は子藝。紹興山陰の人。氣節を以て自負す。隆慶間廷試第一。吏部右侍郎に累遷す。疾を得て卒す。天啓の初、文恭と追謚す。

チヤウゲンホ 張彥輔 (元)善く山水を畫く。

チヤウゲンホウ 張建封 (唐)字は本立。南陽の人。少くして文章を喜び、慷慨にして氣節を尙ぶ。代宗李光弼を詔して蘇常の盜を進討せしむ。建封前みて盜を驗さんと請ひ、一日に數千人を降す。德宗の時徐泗を鎭す。來朝して宴を曲江亭に賜ひ、宰相と鍋を共にして坐す。鎭に還る比ひ、親しく詩を賦して以て餞し、并に持つ所の鞭を以て賜ふ。曰く、卿節義寒歲にも渝はるなし、故に此を以て取ると爲すと。徐州に在ること十年、一軍大に治まる。文章ありて、世に傳ふ。封建未だ遇はざる時、尙青裘寬帶を罷めて四のかた汴に歸る。日晚るに舟を維ぐ。一人樹下に坐するを見る。衣服極めて敝る。寬展して之と語り、大に之を奇として曰く、君の才識を以て豈長く貧賤ならんやと。船中の錢帛奴婢を擧げて悉く以て之を取る。客、取を受けて讓らず、舟に登りて奴婢の低羸なる者輒ち之を鞭つ。裴公益々之を奇とす。既にして其人を問へば乃ち建封なり。建封の舞妓盼々燕子樓に居り。建封薨じて暫て他に適かず。燕子樓詩三百首あり。白樂天之が爲に序を作り、又た詩二絕を作りて云ふ、滿窓明月滿樓霜、冷被殘燈拂臥床、燕子樓中霜月苦、秋曾只爲一人長。今春有客洛陽回、曾到尙書墓上來、見說白楊堪作柱、爭教紅粉不成灰と。盼々、詩を見て樓より墜ちて死す。

チヤウゲン井 張虞威 (隋)晏の子。群書を涉獵す。周を歷て隋に入り、謁者大夫に累官す。上嘗て問ふ、卷見の人首立する者は誰とかなすと。虞威審に視て而して後に對ふ。上怪み之を問ふ。虞威、石建が馬を數ふるの故事を引て對と爲す。上數々巡幸して百姓疲弊す。虞威封事を上りて以て諫む。是に由りて疏せらる。子爽、仕へて閬陵守に至る。

チヤウコ 張祜 (唐)字は永吉。穴河の人。蘇州に寓居す。詩名あり。白居易杭州刺史と爲るの日、江東の進士多く杭に奔り解を取る。時に祜望を以て士を取る。祜自ら意へらく、必ず首薦たらんと。既にして徐凝多士に冠たり。祜遂に低羸として鄉試に應ぜず。令狐楚、天平に鎭せしとき祜が新舊詩三百編を裒して以て獻ず。祜京師に至り元稹の爲に抑せられ寂寞として歸る。嘗て自ら釣鰲客と號す。會昌の初め、李紳、淮

南に節度たり、其人と爲りを壯とし禮を厚くして之を遇す。祜、宮詞庭掖に長じ、多く之を吟咏す。杜牧、祜と詩酒の友たり。詩を寄せて云く、誰人得似張公平、千首詩輕萬戶侯と。當時以て故實と爲す。後、南海に知たり。罷むるとき但だ羅浮の石を載せて歸る。大間中に南陽に卒す。

チヤウコ 張固 (明)字は公正。新喩の人。宣德八年の進士。正統の初、刑科給事中を授けらる。景泰中、大理右少卿に擢でられ四川を鎮す。事を以て劾罷せられて卒す。

チヤウコウ 萇弘 (周)敬王の時大夫たり。孔子嘗て之に從ひて樂を問ふ。弘、心を王室に矢へども王用ふる能はず、且つ之を殺して以て悅ぶ。趙鞅、弘死して其血を藏むること三年、化して碧となるといふ。蜀人之を祀る。

チヤウコウ 張興 (漢)鄱陵の人。梁丘の易を治む。孝廉に舉げられ太子太傅に累官す。明帝數々訪ふに經術を以てす。聲稱著聞し、子弟の從游する者前後萬人に至る。子飭、其業を世々にし、位、張掖屬國都尉に至る。

チヤウコウ 張興 (晉)初め燕に事へ、後、桓溫に降る。燕兵來り攻むると急なり。會々城中食盡き、敗斬せらる。

チヤウコウ 張興 (唐)玄宗の時に饒陽裨將と爲る。力能く千鈞を舉げ、性復明辯なり。城陷り史思明の爲に擒にせらる。之に謂て曰く、將軍は眞の壯士なり、能く我と富貴を共にせんか。興曰く、興は唐の忠臣、固より降るの理なし 今主上の綠山を待つ、恩父子の如し、豈に報ずる能はず、反りて兵を勒して順を犯し、禍、生靈に及ぶ、足下の賊に從ふ所以の者は富貴を求めんが爲のみ、譬へば燕の幕に巢くむが如し、如何に久しく安からんや、如し間に乘じて賊を取へなば、禍を轉じて福と爲し、長く富貴を享けん、亦美ならずやと。思明大に怒りて之を鋸殺す。罵りて口を絕たず。

チヤウコウ 張弘 (唐)字は敬禮。吳人。篆隸飛白の書を善くす。當世に妙絕す。人稱す、其飛へるは游雲の如く、激するは飛電の如く、飛仙舞鶴の態ありと。常に烏巾を帶ぶ。時に張烏巾と號す。歐陽詢云く、張烏巾が飛白神品に入り小篆も亦能品に入ると。

チヤウコウ 張洪 (明)安福の人。正統中、進士より御史に擢でられ、十四年八月、土木の變に死す。

チヤウコウ 張興 (明)臺州の人。卒伍より起りて燕山左衛指揮僉事に歷し、戍祖に從つて兵を起し、都指揮同知に擢でられ、安鄉伯に封ぜらる。永樂五年正月卒す。

チヤウコウカウ 張弘綱 (元)字は憲臣。禱の子。河南諸翼征行萬戶を授けられ、叛變を征し力戰して殺す。齊郡公に追封し武宣と謚す。

チヤウコウカク 張後覺 (明)字は志仁。莊平の人。生れて異質あり。喪に居り哀毀禮に踰ゆ。早歲夙知の說を講習す。歲貢生を以て華陰訓導を授けらる。時に地大に震ふ。後覺、縣事を署し、災傷を扶救す。人皆悅服す。致仕して歸るに及び士民泣送道に滿つ。歸りて學理を講じ以て終る。萬曆間卒す。年七十六。學者、弘山先生と稱す。

チヤウコウキノツマ 張洪鄙妻 (南北)魏の人。劉氏。滎陽京縣の人。年十七、夫亡す。遺腹一子を生む。三歲又沒す。其舅姑年老ゆ。朝夕率養、禮に率ひ違ふ無し。兄、其の少にして寡なるを矜み、奪て之を嫁せむと欲す。劉氏自ら誓ひて許さず、以て其身を終ふ。

チヤウコウキン 張公謹 (唐)字は弘愼。繁水の人。貞觀の初め代州都督と爲り、屯田を置き以て餽運を省く。又數々時政の得失を言ふ。後襄州都督に遷り甚だ惠政あり、鄒公に封ぜらる。其卒するや上出でゝ次り哀を發す。有司奏す、辰日に哭するを忌むと。上曰く、君臣は猶父子の如し、情は哀に發す、安ぞ辰日を避けんと。遂に之を哭す。

チヤウコウゲイ 張公藝 (唐)東平壽張の人。九世同居す。高宗泰山に封じ、還て其宅に幸し、召見して其能く族を睦くする所以の道を問ふ。公藝、紙筆を請ひ、以て對ふ、乃ち忍字百餘を書して上て進む。帝之を善みし、之に縑帛百匹を賜ふ。

チヤウコウケウ 張孔敎 (明)字は魯生。會稽の人。鄉に舉げられ四川僉事に歷す。

崇禎十七年八月、張獻忠成都に寇す。龍文光を佐けて守り、屈せずして死す。

チヤウコウサ 張公佐 (金)並州の人。工に山水を繪く。明昌太和の間、名聲藉藉なり。

チヤウコウサク 張弘策 (南北)范陽方城の人。幼にして孝を以て聞ゆ。母の死に遭ひ、三年墟墓を食はず。梁武帝以て輔國將軍と爲す。郢城平らぎ、帝勝に乘じて直に建康を指す。弘策、帝と意を合せ、城平ぎて後府庫を封檢し、秋毫も犯すなし。後、洮陽縣侯に封ぜらる。

チヤウコウセイ 張弘靖 (唐)字は元理。延賞の子。盧龍節度使と爲る。時に王承宗、兵を縱ちて四掠す。衆爭ひ上表して討ぜんと請ふ。獨り弘靖以爲らく、兩役並び興らば恐くは國用支へず、請ふ力を并せて淮西を平げ、乃ち恒冀を征せんと。憲宗從はず。弘靖乃ち罷むるを求め河東節度使と爲る。後師出でゝ功なし。寬に其の慮はかる所の如し。弘靖嘗て軍士に謂て曰く、今天下太平汝曹能く兩石の弓を挽くも一丁字を識らずと。軍士之を銜む。元和中、相に拜せらる。父祖相繼ぎ三世相と爲る。明に三相張家と稱す。子次宗、中書舍人と爲る。

チヤウコウセイ 張興世 (南北)字は文德。寬陵の人。少くして家貧なり。白衣にして王玄謨に隨て蠻を伐つ。戰ふ毎に輙ち擒獲し、諸將及ばず。玄謨甚だ之を奇とし、龍騎將軍と號す。

チヤウコウソン 張孔孫 (元)字は夢符。其父孔廟に謁すと夢み、已にして生る。因て孔孫と名く。至元中累疏して事を言ふ凡七十。帝悉く嘉納す。官、集賢大學士に至る。成宗大德十一年卒す。孔孫素より文望に工みなり。

チヤウコウダウ 張宵堂 (明)字は敍寧。松江華亭の人。天啓五年の進士。官、知縣たり。崇禎七年御史に擢でられ右僉都御史に遷り太子太保を加へらる。順治八年、城破れ、從容詩を賦して自經す。

チヤウコウハン 張弘範 (元)字は仲疇。易州定興の人。馬塑を善くし、詩歌を爲る。行軍總管に除す。廷議、益都の兵强悍制し難きを以て、弘範に命じて之を領せしむ。弘範率ゐて漢江を狥へ、鄂を略し長驅して建康に至る。轉戰厓山の東より大洋に入り宋の舟に逼る。頃刻にして七舟を連破し大捷を得。嶺海平ぎ、厓山の陽に石を磨し功を紀して歸る。入朝して宴を賜ひ慰勞甚厚し。尋で疾作る。端坐して卒す。年四十三。淮陽王を加封し獻武と謚す。

チヤウコウリヤク 張弘畧 (元)字は仲傑。弘範の兄。淮東道宣慰使に拜す。饒州盜起る。即ち往きて其巢を擣き賊魁を生縛す。疾、謝し職を辭す。允さず。河南參政と爲る。卒して蔡國公に追封し忠毅と謚す。

チヤウコウレツ 張鴻烈 (清)字は毅文。山陽の人。康熙己未、廩生より召試せられて檢討を授けらる。二十三年、黃河漲溢し淮水倒灌す。鴻烈世々淮南に藉するを以て、其利弊を疏す。詩詞を善くす。短章奇卓、其の絕句は樂府より得來りて風韻尤も絕ぐる。

チヤウゴキ 張吾貴 (南北)中山の人。少くして聰慧、年十八にして魏に仕へ、太常博士と爲る。吾貴先きに未だ多く學ばず、乃ち鄭銓に從て禮を受け、牛天祐に易を受く。而して自得多しと爲す。其左氏を講ずるに義例多く新意を以て之に參ふ。學者之を奇とす。

チヤウコク 張毅 (金)字は伯英。許州臨潁の人。河東南路轉運使、權行六部尙書安撫使等を歷、興定元年疾で卒す。

チヤウコクキ 張國紀 (明)祥符の人。憲宗張皇后の父。天啓の初、太康伯に封ず。讒に陷り放鄙に放歸す。崇禎の末、輸餉を以て爵を進めて侯と爲る。賊に害せらる。

チヤウコクギ 張克巖 (清)字は緯人。號は拗齋。山西聞喜の人。康熙十八年の進士。郎中に累遷し、出でゝ廣西平樂府に守たり。後潮州に改まる。平樂に守たりし時、信義を以て苗會を服し、巨盜二人を獲、其一を殺し、其一を宥し、貫めて組捕せしむ。任を終るまで賊敢て境を窺はず。本る年七十六。

チヤウコククン 張國勳 (明)黃陂の人。崇禎十六年、李自成の兵至り、城將に陷らんとす。國勳、文廟に詣り先師の木主を抱て大に哭す。賊に執へられ大に罵て屈せず、

支解せられて死す。

チヤウコククワウノセフ 張國紘姿 (明) 楊氏。崇禎間、賊城を攻むる急なり。國紘諭して、丁壯は陣に登り、女子は石を運ばしむ。楊氏、樵櫻の旁に死す。家人其屍を收むるに兩手猶石を抱きて脫せず。

チヤウコクケン 張克儉 (明)字は萬型。屯留の人。崇禎四年の進士。輝縣知縣を授けらる。六年春、賊武安を襲ひ、遂に輝縣を犯す。克儉城に乘じて固守す。賊、三日にして去る。兵部主事に遷され、召對して旨に稱ふ。十二年、湖廣僉事に擢でられ副襄の諸軍を監す。楊嗣昌、襄陽を鎮め、深く之に倚仗す。張獻忠、羅汝才の敗るゝや、諸賊營を連ぬる數百里。時に河の南北大に饑う。降卒多く流民中に闌入す。克儉深く之を憂ふ。嗣昌蜀に入るに及び、克儉に委ねるに留務を以てす。賊を破るの功を錄し右參議を加へらる。監軍故の如し。移りて下川南道を守る。十四年二月、右僉都御史に擢でられ河南を巡撫す。未だ命を聞かず。獻忠人をして省府軍の符を假り詐して襄陽城に入らしむ。克儉辨ずる能はず。夜分賊、中より起り襄王府を焚く。克儉倉皇奔り救ひ、賊の爲に執へらる。大に罵て死す。

チヤウコクセン 張克獻 (宋)靖康の初め汾州に知たり。金兵城を圍む。克獻力拒して城破る。猶巷戰して勝たず。乃ち南に向ひ拜して自刎す。一家死する者八人。

チヤウコクチウ 張國柱 (清)奉天錦縣の人。初め明に仕ふ。順治二年來りて清に降る。葬りに賊を討ちて功あり。康熙十二年吳三桂反するや、國柱亦た之に應じ、勢竪りて誅に伏す。

チヤウコクリヤウ 張國樑 (清)字は殿臣。初の名は嘉祥。廣東高安の人。初め洪秀全等に從て亂を起す。後歸順して征伐に從ひ、金壇の圍を解き、句容、鎭江、秣陵關、楊州、儀徵に克つ。尋て鍾山の敗に戰死す。官、提督。忠武と謚す。

チヤウコクヂ 張國維 (明)字は玉汝。東陽の人。天啓二年の進士。知縣たり。崇禎中、兵部尚書兼右僉都御史に擢す。福王立ち、太子太保を加ふ。魯王、少傅兼太子太傅兵部尚書武英殿大學士に進む。順治三年六月、國勢の支ふべからざるを知り、絕命詞三章を作り、水に赴きて死す。年五十二。

チヤウコン 張根 (宋)字は知常。德興の人。元豐間の進士。遂昌令に調ばる。大父母を恩封せんと乞ひて遂に致仕す。徽宗召す。闕に詣りて上書す、願くは陛下心を清くし然を寡くして以て禍亂の源を塞げと。積官して惟南轉運使に至る。屢々建言す。皆時弊に切なり。權倖目を側つ。後に郴州に安置せらる。

チヤウコンハウ 張焜芳 (明)會稽の人。崇禎元年の進士。南京戶科給事中を歷す。十一年春上疏して廣道間、惠世揚、陳子壯、金光辰を薦め、舊臣文震孟の爲に恤を請ふ。帝、名を沽り恣を市るを以て之を切實す。

又、太僕少卿史莖を糾し、莖の爲めに訐かれ、遂に職を罷む。十六年正月、北上して臨清に抵り、清兵の至るに遇ふ。諸生馬之駒之駒と俱に執へられて之に死す。

チヤウサイ 張載 (晉)字は孟陽。安平の人。性閑雅、博學にして文章あり。太康の初め蜀に至り、道、劍閣を經、蜀人の險を恃みて亂を好むに怒じ、因て銘を作る。益州刺史張敏見て之を奇とし、乃ち表して其文を上る。武帝、使を遣はして之を劍閣山に鎖せしむ。又濫汜賦を作る。傅玄見て嗟嘆し、車を以て之を迎へ、言談盡日。寬に以て名を知らる。官、弘農太守と爲る。長沙王乂請うて中書郎に拜す。世の方さに亂るゝを見て復た仕進の意無く、遂に病と稱して家に歸り、詩文自ら樂む。載、容貌極めて醜なり。嘗て洛陽の市に游びしとき、群女瓦石を以て之に擲つ。二弟協、亢、皆文名あり。時に三張と稱せらる。

チヤウサイ 張濟 (南北)四河の人。書傳を涉獵して清辯なり。儀容を善くす。魏道武之を愛す。晉雍州刺史楊佺期、師を常山王遵に乞ひ、以て姚興を禦ぐ。道武、濟を遣して遵の從事と爲す。濟襄陽より還る。道武江南の事を問ふ。濟對へて旨に稱ふ。厚く之を賞す。後、勝兵將軍に拜す。

チヤウサイ 張載 (宋)字は子厚。郿人。進士に擧げられ祁州司寇に拜す。少くして喜んで兵を談ず。累ゝ客に結び、洮西の地を取らんと欲す。書を以て范仲淹に謁す。

仲淹曰く、儒者は自ら名教の樂むべきあり、何ぞ兵を事とせんと。因て之を勸めて中庸を讀ましむ。載其書を讀み、猶ほ以爲らく、未だ足らずと。晝て虎皮に坐して易を講ず。聽者甚だ多し。一日、程頤、程顥至り、與に易を論ず。次且、載、人に語て曰く、二程深く易道を明らむ、汝往きて之を師とせよと。遂に坐を撤して講を輟む。政を爲すに敦本善俗を以て先と爲す。呂公著、朝に薦む。神宗召見して治道を問ふ。載對へて曰く、政を爲して三代に法さらざるものは終に苟道なりと。帝悅び以て崇文校書と爲す。未だ幾くならずして商山の下に屏居し、終日一室に危坐し、簡編を左右にし、仰で讀み俯して思ひ、得るあれば則ち之を識す。或は中夜起坐し燭を取り以て書す。諸生と講學するに、每に皆ゝに禮を知り性を成すは氣質を變化するの道、學は必ず聖人の如くにして而して後に已むを以てす。又た呂大防の薦を以て召されて同じく太常禮院に知たり。疾を以て歸りて卒す。學者稱して橫渠先生と爲す。東四銘あり、世に行はる。謚して明といふ。

チヤウサイ 張采 (明)字は受先。太倉の人。性嚴毅、好んで可否を甄別す。臨川に知たり。强を摧き弱を扶く。士民大に悅服す。福王の時、禮部員外郎に遷る。鄉に歸りて卒す。

チヤウザイテイ 張在貞 (清)字は惠園。天如先生の女。經史に通ず。學書に工なり。妹文琳と倡和し、月窓合草あり。

チヤウサウ 張蒼 (漢)陽武の人。嘗て秦に仕へて御史と爲り、後に漢に歸す。從て臧荼を攻め功を以て北平侯に封ぜらる。孝文の初め丞相と爲る。年老て齒なし、女子の乳を食ひ百餘歲を得て卒す。著書十八篇、專ら律曆陰陽の事を言ふ。蒼初め沛公に從ひ南陽を攻む。殫あり斬に當る。衣を解き刑を受く。身長大にして肥白なる匏の如し。王陵見て之を異とす。沛公に力請して之を赦す。蒼、陵を德とし、父の禮を以て陵に事ふ。陵死して慟哭已まず。每日朝退するに、先づ陵の夫人に朝して食を上り、然して後家に歸る。

チヤウサウ 張藻 (唐)字は文通。藻を善くす。嘗て手に兩鞭を握り齊く下し、一は枯枝を爲り、一は生枝を爲り、並に潤澤なり。時に神品と號す。自ら繪境一篇を撰す。官、祠部員外郎に至る。

チヤウザウエイ 張臧英 (五代)范陽の人。後唐の末、舉族、賊孫居直の爲に害ぜらる。臧英蘇て居道を殺して以て其父母を祭る。時に稱して孝子と爲す。後周に仕へて刺史を以て邊任を領し、歷擊ちて契丹を敗る。太史之を褒奬す。宋の初め瀛州團練使と爲り關南軍に陞る。

チヤウサク 張騫 (唐)字は文成。深州の人。少くして聰慧絕倫。文を爲るに筆を下せば輒ち成る。進士に擧げられて考功員外郎に擢でられ、累官して學士に至る。時に其文を稱す、猶青銅錢の如し、萬選萬中と。固て青錢學士と號す。嘗、兒たりし時に紫文の大鳥あり、庭に止まる。其祖曰く、五色、赤文は鳳なり、紫文は鸞なり、殆ど將に文章を以て朝廷に瑞たらんかと。遂に騫と名づく。

チヤウサク 張嫜 (唐)字は少邊。河西敦煌の人。同の子。少より聰悟、章句に通ず。初め僧となる。黃巢の亂に家に返りて父母を奉じ、亂を田里に避く。後召されて廣文館博士に拜す。後梁に降る。

チヤウサン 張瓚 (南北)字は伯緒。方城の人。衛尉卿弘策の子なり。眉目疎朗、神采爽發。性學を好む。兄緬に書萬卷あり。晝夜披讀手を去らず。吏部郎に歷官す。何敬客と意趣協はず。敬客權輒に居り、賓客輻湊す。過ぎて纔に詣る者あり。輒ち拒て前めずして曰く、吾れ何敬客が殘客に對する能はずと。

チヤウサン 張璜 (明)字は宗器。孝感の人。正統十三年の進士。工部主事より知府に歷す。成化中、左副都御史に累遷す。至る所聲あり。官に卒す。

チヤウサン 張漾 (明)字は景川。廣東順德の人。善昭の子。正德九年の進士。建平知縣を授けられ、巡江御史某に忤ひて廣昌に調せらる。某削籍す。乃ち禮部主事に遷り員外郎に擢でらる。大禮を力諫して杖死す。後太僕少卿を贈る。

チヤウサンパウ 張三丰 (明)大耳圓目、

鬚髯敵の如し。頂に一髻を作る。劉乘忠、趙子昂等と興に書を善くす。李思訓の畫を見て之れに效ひ、月餘ならずして悉く其法を得。

チヤウサンヲウ　張山翁　(宋)字は君壽。其先は晉州の人。景定三年の進士。德祐元年、荊湖宣撫司と爲る。幹官鄂守張晏然議して欵を納れんとす。山翁書を以て之を諫む。晏然既に降り、山翁執へらるゝ屈せず。行省官賈思貞之が義とし、貸して殺さず。後、黃鶴山に居り、徒を聚めて教授して終ふ。著述亦た多し。

チヤウシ　張氏　(宋)羅江士人の女。其母陽氏、寡居す。一日親黨、讌會あり、母女僧に往く。其典庫雍乙なる者、從行す。乙先づ歸り庫に死す。提點刑獄張文饒、揚が私あり乙を殺して口を滅するを疑ひ、遂に命じて劾治し、并せて其女に逮ぶ。考掠實なく、母絕えて復蘇る者屢々。一日女獄吏を紿き母に見え謂て曰く、母寧ろ箠楚死すとも自誣すべからず、女今死して寃を天に訴へむと。言終て絕す。是に於て三日を連れて地大に震し聲雷の如く、天雪をふらし屋瓦皆落つ。勸官李志寧、其獄を疑ひ、夕に天に禱る。俄に廳前に假寢す。恍として猿の前に墜つるあり。驚き寤めて之を索むれば見えず。志寧念ふに、人を殺す者は袁姓に非ずやと。門卒忽ち言ふ、張氏饋食の夫袁大と曰ふと。明日袁大を執て之を鞫す。謂ふ、適々庫金を盜む、雍の歸るに會ひ遂に之を殺すと。母乃ち免るゝを得。時に女死して僅に數日、獄上す。即ち居る所を牓して孝感坊と曰ふ。

チヤウシ　張氏　(宋)江夏の民婦。里中の惡少年謝師乞なる者、刀を懷にし其家に至り、逼て興に亂を爲さむと欲す。張氏大罵して曰く、庸奴、我死すべし、生くべからずと。刀を以て其喉を斷たるゝに至り、なほ能く走りて師乞を擒にし、以て鄰人に告げて死す。朝廷詔して旌德縣君に封じ、墳に表して列女の墓と曰ふ。酒帛を賜ひ郡縣をして奠を致さしむ。

チヤウシ　張氏　(明)秀水の人。同邑劉伯春の聘を受け、未だ嫁せず。伯春卒す。女號泣、髮を絕ち自ら誓を爲り之を祭る。服を持する三年、服闋り即ち飲食を絕ち旬日にして死す。年二十。舅姑柩を迎へて合葬す。

チヤウシイウ　張志雄　(明)初め趙普勝に屬す。普勝の陳友諒に殺さるゝや乃ち友諒に從ふ。已にして事を以て友諒を怨み、安慶の役、官軍に應ず。

チヤウシイク　張士郁　(清)惠安の人。崇禎癸酉の副榜。明亡びて台灣に遯れ、東安坊に居り門を杜ぢて出でず。日に書史を以て自ら娛む。穀を辟くること三年、惟茶果を食ひ、壽九十九に至りて終ふ。

チヤウシウ　張紬　(三國)武威祖厲の人。麴勝なるもの襲て祖厲長を殺す。時に紬、縣史たり、間を伺ひ勝を殺す。郡邑之を義なりとす。後に魏に仕ふ。官渡の役に力戰して功あり、破羌將軍に遷る。

チヤウシウ　張琇　(唐)雍人。父審事、偽州都督を以て誣ひられて御史楊汪が爲に誅せられ、琇は嶺南に徒さる。之に久うして逃げ還りて汪を殺す。吏捕へて以聞す。玄宗謂へらく、孝子命を顧みず、之を殺して以て其志を成さんと。刑に臨み琇色自如として曰く、下に先人を見ば尖れまた何をか恨みんと。

チヤウシウ　張師禹　(宋)字は虞佐。天資耿介にして苟合せず、仕進を求めず。之に從て游ぶ者畏敬せざるはなし。鄉先生と號す。其猶子財に贈なり。師禹病みて且さに歿せんとす、必ず關約を作り戶籍を析たしむ。猶子已の產を推して之に附益せんと請ふ。師禹毅然として一金を受けず。續を尼するに及び、其友張具贈來りて疾を視る、師禹心を指し之を示して曰く、血氣枯る、而して一點動かずと。言訖り、溘然として逝く。

チヤウジウ　張充　(南北)字は延符。緒の子。少くして拘檢せず、意を肆まゝにして敗遊す。父暇を請ひて吳に還り始めて四郭に入る。充、正に獵す。左手鷹を臂にし右手犬を牽き、遙に緒を見て乃ち鷹犬を放ち、舟に向て拜す。緒曰く、一身兩役、乃ち勞するなきや。充跪て對て曰く、充聞く、三十にして立つと、今二十九、請ふ來年に至り終身節を折らん。緒曰く、過ちて而して能く改むるは乃ち顏子なりと。明年醒然として操守を易へ、師を尊て就學す。博く古籍に通じ、聲さして名士と爲る。官、祭酒に至る。

チヤウシウカウ　張秋江　(明)浙の人。美容花卉を寫す。

チヤウジウカン　其從簡　(五代)陳州の人。家本屠羊を以て生とす。唐に仕へて莊宗明宗に重用せられ蔡州防禦使より鄜汝汾金四州防禦使を歷。人と爲り剛暴制し難し。好んで人肉を食ひ、至る所民間の小兒を捕ふ。後、晉に降りて忠武軍を歷鎭し、入りて左金吾衛上將軍と爲る。卒する年六十五。

チヤウジウシ　張從師　(唐)蘇州の人。祖損之は隋の御史水部郎。父宏は碩學麗辭、名京師を動かす。從師仕へて河南府法曹參軍に終ふ。張說素志を撰して云く、冲和純粹、辯圓園逸、卓犖好古、倘蕩逸群、忘懷樂道と。上元二年卒す。虎邱の西原に葬る。于惟儉、惟靜、弱歲にして皆な左氏穀梁春秋に精し。弟從約、唐書儒林傳に在り。

チヤウジウシン　張從申　(唐)吳人。書を善くし、世に獨步と稱す。第に擢でられ秘書省正字たり。弟從師、從儀、從約、皆書に工に、右軍の風致を得。人之を四絕と謂ふ。

チヤウジウセイ　張從正　(金)字は子和。睢州考城の人。醫術に精し。其の著はす所世に行はる。

チヤウジウヒン　張從賓　(五代)晉の高祖に事へて愛重せらる。遂に皇子重父を殺し、乃ち誅せらる。

チヤウシガイ　張子蓋　(宋)字は德高。俊の從子。父宏、俊に從ひて河下に軍す。金人開德府を破り、宏戰死す。子蓋、初め韓世忠に從て苗傅を討ず。又俊に從ひて劉貌を擊つ。又大に金人を柘皐海州に敗る。安德軍節度使鎭江都統に累官す。孝宗初めて立ち、檢校少保淮東招撫使を授く。卒して太尉を贈り、恭莊と謚す。

チヤウシカウ　張士衡　(唐)樂壽の人。九歲にして母を喪ひ哀毀制に過ぐ。博士劉思軌、授くるに詩禮を以てす。隋末兵起り諸儒學を廢す。唐興り士衡復た鄉里に講教す。太子承乾迎へて賜を太宗に致す。崇賢館學士に擢でらる。太子嘗て佛に事ふるを問ふ。對て曰く、佛に事ふるは淸淨仁恕に在り、如し君仁、臣忠、子孝なれば、則ち福祚永からん、是に反すれば禍欲至ると。承乾廢せらるゝに及び、罷めて大隱に歸る。高宗の時に太常博士と爲る。正を守て詭らず。大臣の体あり。

チヤウジガンノツマ　張似顏妻　(明)王氏。南郡守らず、寇迫る。子を以て母に付して曰く、賊勢洶々たり、我一死有る耳、此れ張氏の一綫、善く之を撫せよ。冒ひ訖りて洞に投す。洞高さ數十仞、亂石纍巖、蹄及の如し。身か碎きて死す。

チヤウシキ　張十貴　(唐)虢州の人。善く左右に射る。隋末に群盜に從ひ城邑を攻剽す。高祖之を招降す。從て平治して功あり、本州刺史を授けらる。帝曰く、願ふに卿を以て錦衣晝遊せしむるのみと。貞觀中、累戰賊を破るを以て、右領軍大將軍に遷り、爵を虢國公に進む。

チヤウシキ　張士琦　(清)字は天申。江南嘉定の人。早歲鄉に舉げられ、文學を以て名を知らる。康熙四十一年、江西永豐知縣たり。惠政あり。事に坐して罷む。士民追送する者百餘里。卒する年五十六。

チヤウジキ　張次夔　(宋)字は和仲。大年の子。薩を以て福州理掾に補せらる。部使者州事を攝し、私意を以て獄を撓めんとす。堅く持して可かず。使者奪ふ能はず。帥相陳浚剛之を薦む。四安令通判興國軍に遷る。鄂に私鑄多く、大冶尤も甚し。守之を捕治すること甚だ急峻にして、擾亂平民に及ぶ。次夔之を諫むれども聽かず。已にして守果して、激變、盜の嘯聚を致すを以て、敗れ去る。人、次夔の明に服す。後、祠を率して里居す。適々歲少しく歉にして寇亂の起るあり。次夔密に乞ひ兵を遣して掩捕せんとす。聽かず。乃ち走りて郡守に報ず。次夔、鄉民の材武ある者を選び、賊を擊て數級を斬獲す。賊退く。鄉人生祠を立て、且之が爲めに碑を立つ。

チヤウジキ　張國岐　(淸)字は稷君。濟陽の人。明季の諸生。淸に入りて隱居志を求め、博く載籍を綜べ、篤志力行を以て本と爲す。固く程朱の說を守て變ぜず。尤も三

酒に精しく、卓然たる經師なり。康熙十六年に卒す。年六十六。

チヤウシキン　張思鈞　(宋)沙河の人。祖中正は漢の澤州刺史。思鈞、擊劍を善くし彊弩を挽く。初め龍衛指揮使に補し、歸漢等九州の都巡檢を歴。累に戰功を立て、左千牛衛將軍に遷りて卒す。年八十九。思鈞、質狀小にして精悍なり。太宗嘗て之を稱揚す。

チヤウシクン　張照訓　(宋)巴中の人。司天監の學生。精思巧絕、唐の李淳風、梁の令贊の法に本づき、渾儀を作り以て獻ず。日月の行度自然に成り人運を假らず。尤も精妙と爲す。帝深く之を歎賞す。

チヤウシクワ　張志和　(唐)字は子同。金華の人。游朝の子。肅宗の時明經に擢でられ錄事參軍を授けらる。親亡して復仕へず江湖に往來して自ら烟波釣徒と稱す。釣を垂るゝ毎に餌を設けず。志、魚に在らざるなり。陸羽嘗て問ふ、孰れと與に往來する者ぞ。對へて曰く、太虛を室と爲し明月を伴と爲し四海の諸公と友たり、未だ嘗て少しも別れず、何ぞ往來あらんと。著す所元眞子あり。李德裕、其隱れて名あり顧はれて事なく、窮せず達せざるを稱して、之を嚴光に比す。其母、楓葉上に生ずと夢みて志和を生む。初の名は龜齡。肅宗名を志和と賜ひ、奴婢父各一を賜ふ。志和二人を以て配して夫婦と爲し、名づけて漁童、樵青といふ。漁歌數首あり、清逸絕塵。嘗て刺史顏眞卿に謁す。舟甚だ敝る。眞卿之を館せんと欲す。謝して曰く、願くは浮家泛宅を爲り鷗と煙水の間に上下せんのみ、塵土中に人骨を埋むるを願はざるなりと。眞卿之と平望驛に游ぶ。志和酒酣にして席を水上に鋪き、獨坐して酌む。席の往來すること舟の如く、また靈鵲あり其上に盤旋す。眞卿の僚佐觀る者驚異せざるはなし。遂に手を揮ひ眞卿に謝し漸く昇て去る。兄鶴齡、室を越州に築く。亦隱逸あり。

チヤウシクワン　張志寬　(唐)安邑の人。父の喪に居て哀毀す。嘗て里正と爲る。忽ち縣に詣り母の病と稱して急に歸るを求む。狀を問ひしむるに對へて曰く、母疾あれば志寬輒ち病むと。令其妄を疑ひて獄に繫ぎ馳せて驗するに言の如し。乃ち之を慰遣す。母終り土を負ひ墳を成す。高祖使を遣はして散騎常侍に拜し其闕に表せしむ。

チヤウシゲン　張子言　(明)靜淵と號す。善く山樊水仙墨梅を畫く。

チヤウジゲン　張次元　(宋)父の任を以て太子中舍に累轉す。淮南路市易事を提舉し、職に稱ふを以て聞ゆ。信陽軍に知として學校を興す。學者感孚す。躬自ら代を勤めて還る。江淮荆浙福建廣南提點坑冶鑄錢司事に除せらる。朝自ら巡歷し、務めて積弊を革む。道に卒す。山陽の徐仲車、之を聞て嘆じて曰く、張公賦性高明、義にして而して能果、公は燒むべからず、清は汚すべからず、其尙ぶ所を考ふるに、古の所謂剛者に志ありと。鄉治爲に其行事を序次す。

チヤウシサイ　張師崴　(清)字は又堀。號は愚齋。伯行の子。康熙丁酉の舉人。河東總督に累官す。師崴職中外に歴、能く之に稱ふ。尤も河務に於て力を盡す。治水方畧等の書あり。卒して太子太保を贈り愨敏と謚す。

チヤウジサン　張次山　(宋)日川の子。少くして倜逸にして才名あり。年十六、即ち入りて仕へ、泰興主簿に調せられ、因て河を開かしむ。部夫整肅にして工力多く先づ辦ず。包拯之を朝に薦む。清名直節、司馬光に知らる。遂に泰州に知たり。鶴あり、庭に訴ふ。次山兵官を呼び、隨て去らしむ。乃ち其雛、人の爲に烹らる。次山爲に斷治す。鶴始めて退飛す。

チヤウシシウ　張子修　(宋)字は德夫。其父は開封の人。建炎の時に張浚に從ひ蜀に入り、子修を簡池に生む。子修、父の遺澤を受けて入て仕へ、因て石門酒官に任ず。遂に卜築して以て居り。轉建漕司、知鄂陽縣穀城縣、東南正將、江西路分都監を歴。至る所才能を以て稱せらる。名公交々之を薦む。擢でられて施州に知たり。任滿ちて浙東兵鈐轄副總管に除す。子修、雅より泉石に志す。力乞して歸り、故園を葺めて觴詠自適して終る。

チヤウシシン　張子信　(南北)河内の人。文學に渉る。白鹿山に隱居して時に京邑に出遊す。北齊大學中に徵されて尙書典御と爲る。武平の初、大中大夫と爲る。易算及び風角の術を善くす。

チヤウシシユン　張子俊　(明)古瀧と號す。浙江の人。山水を善くし、荆關楊を宗とす。

チヤウシセイ　張志成　(唐)昆明の人。四蜀に流寓して王右軍の草書を得、劉憲筆做して具に其似を得。歸りて其子箴に教ふ。

チヤウシセイ　張嗣成　(元)太宏と號す。工に龍を畫き、兼て山水を善くす。

チヤウシセイ　張士誠　(明)本字は九四。泰州白駒場の人。鹽場綱司の牙儈と爲り、弟士德士信と俱に販鹽を以て綠て奸利を爲す。性財を輕んじ施を好み頗る衆心を得たり。元の至正十三年、天下の亂るゝに乘じて兵を擧げ、泰州及び高郵を陷れて之に據り、大周と僭號し自ら誠王と稱し天祐と建元す。州郡を攻畧して勢頗る猖獗なり。二十三年遂に自立して吳王と爲り平江に即きて宮室を治め官屬を立つ。二十六年、明師大擧して之を討つ。明年九月、士誠遂に敗れて其官屬と共に擒せられて建康に送らる。士誠、舟中に在り、目を閉ぢて食ほず遂に自縊して死す。年四十七。

チヤウジセツ　張次尚　(宋)字は寬夫。次夔の弟。父の陸、以て官に補せられ、建昌令に調ぶる。軍器を督造する以て一秩を進む。秩滿ちて倅南雄知南劍州たり。陞辭して州縣の科罰民を苦むる事を論ず。既に官に到りて治蹟諸郡の最たり。諸司論薦す。召對して福建の配糴民を損するを論ず、旨に稱ふ。擢でられて徽州に知たり、改めて瀧州に知せなる。後、病を以て致仕して卒す。

チヤウシソウ　張嗣宗　(唐)崑山の人。高祖太原を鎭ずる時、引て賓客と爲し秦王に經を授けしむ。太宗即位するに及びて、君何の官をか欲すると問ふ。因て敢せずと謝す。帝曰く、朕卿に從て經を授けらる、卿朕に從て官を求む、何の疑ふ所あらんと。乃ち頓首して曰く、臣願くは國子祭酒を得んと。遂に之を授く。永徽間に至り致仕して歸る。

チヤウシソウ　張子聰　(清)東鄉縣の人。嘉慶中、賊王三槌に應じて至る所剽掠を逞うす、已にして誅せらる。

チヤウシソン　張士遜　(宋)字は順之。陰城の人。人と爲り寬厚にして人の過を言はず。淳化の間進士に擧げられ郟縣主簿に調ぶる。同中書門下平章事に累官し、後、太傅に拜し鄧國公に封ぜらる。致仕の年八十六。卒して文懿と謚す。

チヤウシダウ　張志道　(宋)嘉熙間の直言を求む。封事を上り建儲遷都の事を言ふ。宋亡び門を閉ぢて書を著す。家貧にして衣食給せず。之に處て泰然たり。著す所易傳等の書あり。

チヤウシチ　張四智　(明)費縣の人。天啓二年の進士。檢討に歴す。崇禎中、累遷して禮部尙書兼東閣大學士に擢でらる。後致仕して卒す。

チヤウシツ　張賓　(宋)字は守林。高唐の人。太宗の時に樞密院使と爲り、都承旨に累遷す。樞要に在ること五十年、事理を練習し、精明端愨、未だ嘗て過あらず。眞宗嘗て五代以降の軍藉更易及び利害の詳なるを問ふ。賓悉して書と爲し、目して兵要といひ、以て進む。眞宗覽て善と稱す。

チヤウジツ　張實　(晉)軌の子。父に繼ぎて四涼の牧と爲る。初め惠帝、置を蕩陰に失す。涼州の軍士之を得て實に獻ず。實曰く、是れ人臣の留むるを得る者に非ずと。乃ち之を朝に歸す。實、令を所部の吏臣に下し、能く其過を擧ぐる者あれば賞するに布帛米羊を以てす。諸曹佐隗達曰く、明公政事を爲すに巨細となく皆自ら之を決す、群下威を畏れ成を受くるのみ、此の如きは之に千金を賞すと雖も終に敢て言はざるなり、宜しく少しく聰明を損して群下に訪ひ、采りて而して之を行ふべし、則ち嘉言自ら至らん、何ぞ必ずしも賞せんやと。實大に悅び、達の位二等を增す。騎を遣はして入て援ひ、諸郡の貢計を送らしむ。詔して都督陝西諸軍事に拜す。

チヤウジツヨウ　張日川　(宋)靜海の人。新昌縣に知たり。鄞曹掾の子鄭獬を見て之を奇なりとし、要はすに女を以てす。後果して天下に魁たり。文彥博、河北を宣撫す。日川彥博に謂ふ、此行須らく便宜事を行ふを得べしと。上に請うて之を許さる。後、彥博遂に王則を擒にせるは、實に日用參畫の力なり。

チヤウジテウ 張自超 (清)字は彝猷。高淳の人。少くして孤。耕讀を課して其母に奉ず。經史を研究して躬行實踐を以て本と爲す。康熙癸未の進士。而して吏たるを肯ぜず。病なくして卒す。著書秋宗朱辨駁あり。

チヤウシトク 張師德 (宋)去華の子。最も父に器重せらる。眞宗の汾陰に幸せしとき、大禮禮を行在に獻ず。是歲進士第一に舉げられ、累官して諫議大夫に至る。孝謹にして家法あり。時相顧る之を悅びず。文集十卷あり。

チヤウシトク 張嗣德 (元)大一と號す。工に黑竹を畫く。

チヤウジバウ 張滋昉 (清)久しく日本に客游す。光緒二十六年病んで上海に卒す。

チヤウシハク 張思伯 (南北)河間の人。善く左氏傳を說き、又毛詩章句を爲む。北齊の國子博士と爲る。

チヤウシハツ 張坐發 (明)淄川の人。萬曆二十九年の進士。知縣より御史に改めらる。天啓崇禎の交、累官せられて首輔に至る。疾に移し去る。崇禎十五年七月卒す。少保を贈る。

チヤウシフ 張縝 (元)字は士明。益都膠州の人。性孝友、至正の末、母、病に臥す。賊突入、槍を舉げて刺さむと欲す。縝、身を以て母を蔽ふ。槍、脇に中りて死す。

チヤウシブン 張師文 (元)字は純甫。南陽の人。大德の初、國子司業と爲る。至大の初、成宗實錄を預修す。皇慶の初、王勃成道記の序を撰す。延祐の初、翰林學士に拜す。歸りて傳舍に卒す。襄陽峴山に葬り文肅と諡諡す。

チヤウシン 張進 (唐)饒陽の人。少くして奇質を負ひ膽氣あり。唐の初め饒陽太守諸葛德威と謀を合せて劉黑闥を擒にす。功を以て開府儀同三司を授けられ、廐馬五十疋黃金百萬を賜ふ。

チヤウシン 張津 (宋)右朝散大夫直秘閣渤海制置司公事を主管す。乾道間に鄉飲酒の禮を舉げ、每歲正月二日を以て州の庠に即て釋菜の儀を行ふ。僚佐を率ゐて鄉士大夫及び地方の流寓者と叙齒して講堂に會拜し三揖して退く。遂に以て常と爲す。時に惠光院に妖僧あり、神像を塑して老烏を其腹に納れ、術を以て之を呪す。禍福を以て民を惑し以て利を邀ふ。人災患あれば其神に禱らされば則ち寧からず。津之を知り、吏を遣して按ぜしめ、具に其姦狀を得、之に境外に追ふ。鄂人祠を學に立つ。津初めて四明圖經を作る。實に鄂志の始なり。

チヤウシン 張震 (宋)字は嗣之。休寧江厚の人。少くして孤。讀書に志す。乾道五年進士の第に登り、仁和主簿を以て臨川に分教たり。陸象山等と義理を講明す。當塗縣に宰たり、民訟を剖析し編類して書を成す。蔗詞類纂十二冊あり。趙汝愚尤も器重を加へ、召して審察とす。尊て疾を以て卒す。子會。

チヤウシン 張說 (宋)字は樞言。蒲城の人。進士に第し越州に通判たり。神宗の朝に陝西轉運使と爲る。召對す。帝曰く朕未だ卿を知らず、所奏を聞する毎に如ふ、獨り卿と蔡挺と論請する所あれば人をして了然たらしむと。累官して龍圖閣直學士知杭州に遷る。說、性孝友にして財を廉、平生田產を置かず。

チヤウシン 張震 (明)餘姚の農家の子。少時、父人の爲に陷られて將に死せんとし、震の指を齧て曰く、某は吾讐なりと。震長じて必ず報いんと誓ふ。幾もなく讎萬に乘て出づ。震の友、田器を以て之を擊ち死に至らしむ。震喜び走りて父の墓に告ぐ。事發はる。死を減じて戍に論ぜられ、後、赦に遇うて歸る。

チヤウシン 張信 (明)臨淮の人。永寧衛指揮僉事興の子。父の職を嗣ぎ、功を積み都指揮僉事に歷す。仕へて成祖に至り、都督僉事に遷り隆平侯に封ず。正統七年五月卒す。鄭國公を贈り恭僖と謚す。子瓘。

チヤウシン 張臣 (明)翰林衛の人。初め行伍より起りて隊長たり。蹈逮精悍、擒戰好んで堅を陷る。名、塞垣に著はる。萬曆十八年、甘肅の役、流矢に中り、創重し。乞うて去る。官、僉事左府事陝西總兵官たり。

チヤウシン 張紳 (明)登州の人。學行を以て知らる。洪武中、徵されて鄆縣教諭となる。尊て右僉都御史に擢でられ、浙江左布政使に終ふ。

チヤウシン 張津 (明)字は廣清。博羅の人。成化末の進士。建陽知縣に除せらる。城郭を築き壞垣を繕む。朱熹等諸賢の祠を建て、祭田を置きて其子孫に與ふ。憂歸し、また起ちて大冶に補せられ、右副都御史巡撫應天に擢でらる。是より先、浙孝豐の奸民深山に據り捕を拒むもの積んで二十年、能く制する無し。津、別事に托して悉く之を縛す。戶部右侍郎を加へらる。尋て卒す。南京戶部尚書を贈る。

チヤウシン 張湞 (清)字は尙若。順治己丑の進士。壬辰、庶吉士に選ばる。渴文正公と共に砥礪して聖賢の學を爲す。嘗て曰く、忠孝倫常を除くの外別に道學なしと。其得る所知るべし。

チヤウシンカウ 張晉亨 (元)字は進卿。冀州南宮の人。東平府に知たる七年。吏畏れ民安んず。憲宗の時奏して言ふ、汴堤南北沃壤間、屯田に宜しと。時を以て稽襲す。明年大に其利を收む。宋を伐ちて屢々戰功あり。疾を以て官に卒す。

チヤウジンガク 張任學 (明)安岳の人。天啓五年の進士。知縣たり。崇禎中、御史に除せられ、尋て都督僉事に署し河南總兵官に擢でらる。事を以て職を礙はる。

チヤウジンキ 張仁熙 (清)字は長人。廣濟の人。諸生たり。詩を善くす。文集あり。

チヤウシンケイノツマ 張晉興妻 (宋)鄭州の人。靖康中、金兵に得らる。之が鞍上に挾さむ。妻乃ち地に投じ、戟を手にして大に罵る。縱擊して杖下に死す。

チヤウシンゲン 張愼言 (明)字は金銘。陽城の人。萬曆三十八年の進士。知縣たり。泰昌中、御史に改められ、福王の時、太子太保を累加せられて致仕す。國亡びて後、疽背に發して卒す。年六十九。

チヤウジンゲン 張仁愿 (唐)下邳の人。文武の才あり。神龍中に絳州長史と爲る。朔方總管に遷り同中書門下三品に拜し韓國公に封ぜらる。又范陽節度と爲りし時、安祿山生れて光あり、鳥獸盡く鳴く。氣を望むもの以て祥と爲す。仁愿之を不祥とし、廬帳を搜りて之を殺さんと欲す。匿れて免かる。

チヤウシンサク 張振作 (明)廬江の人。明季に、父宏任、四川嘉定州に知たり。流賊城に逼る。振作、父の命を奉ずて數騎を領して突出して援を求む。還て父の害せらるゝを見、石に觸れて死す。

チヤウシンシウ 張振秀 (明)臨清の人。萬曆三十八年の進士。肥鄉永平を知し、兵部主事に遷る。泰昌元年、吏部に改められ更に四司を歷て文選員外郎に至る。崇禎改元、驗封郎中より起りて考功文選を歷、太常少卿に擢でらる。崇禎十五年、清兵河間を圍む。劉源清等と共に力を合せて之を禦ぐこと數日援至らず、城破れて之に死す。

チヤウシントク 張振德 (明)字は季修。崑山の人。祖情、從祖意、皆進士たり。情は福建の副使。意は山東の副使たり。振德、選貢生より四川興文知縣を授けらる。永寧の宣撫奢崇明、異志あり。潛かに奸人に結び、子女を掠賣す。振德、奸人を捕へ論じて之を罪す。天啓元年、方に成都に赴き鄉闈の事に與る。崇明の部將樊龍等、遂に重慶に據る。時に振德、長寧を兼署す。趣かに城に入り、鄉兵を督して戰ふ。敵ぜず。退いて居民を集めて城守す。會々大風雨あり、賊土城を毀ちて入る。振德、二印を取つて肘後に繫ぎ、北向拜して曰く、臣職を奉ずて狀なし、賊を殺す能はず、惟一死志を明にせんと。家人に命じて火を舉げしむ。火熾なり、乃ち自刎す。光祿卿を賜られ祭葬を賜ひ烈愍と謚す。

チヤウシンブ 張神武 (明)新建の人。萬曆中の武進士。天啓中、官、都司たり。清兵を拒ぎて利あらず。寬に戰死す。

チヤウジンリヨウ 張人龍 (明)遂化の人。寶豐知縣たり。崇禎中、李自成來り犯し、城陷る。屈ぜずして死す。妻年少にして氣力あり、悍奴に酒を飲ましめ、以て之を丞尉に告げ、奴を殺さしむ。

チヤウシメイ 張思明 (元)字は士瞻。其先は獲嘉の人、後輝州に徙る。幼にして穎悟、人に過ぐ。延祐三年中書參知政事に拜せらる。近臣其法を持する峭直なるを疾み、日に譖を搆へて工部尚書に改められる。思明政を勤むること初の如し。後ち參知政事に拜

せらる。年七十八にして卒す。平生恒産を治めず、惟だ書三萬七千餘卷を収む。尤も律に明にして謝仲和曹鼎新と同じく三絶と稱せらる。清河郡公を贈り貞敏と謚す。

チヤウシヨ　張蓋　(元)字は仲舉。晉寧の人。詩文を以て時に鳴り、翰林承旨に任ぜらる。年八十二にして卒す。平日諧謔を善し、談吐一座絶倒す。爲る所の詩文多し。死後國亡びて傳はらず。峨嵋樂府三卷あるのみ。

チヤウシヤウ　張敞　(漢)字は子高。平陽の人。宣帝の時に京兆尹と爲ること九年、抱鼓鳴ること稀なり。嘗て婦の爲に眉を畫く。有司以て奏す。上之を問ふ。對へて曰く、閨門の内、夫婦の私、尚此に過ぐる者ありと。上之を賞めず。後、楊惲誅せらる。公卿奏す。敞は惲の親友なりと。帝其才を愛し置て問はず。嘗て事を以て操縱舞を殺す。後舞の家に告げられ、免ぜられて庶人と爲る。敞罷めて數月、京師抱鼓四に起り、冀州部盜賊縱横。帝敞が功を思ひ、使者をして家に即て之を召さしむ。妻子皆驚泣す。敞笑て曰く、吾が身亡命して民と爲る、郡吏當に就て之を捕ふべし、今使者來る、此れ天子我を用ひんと欲するなりと。鼓を治し使者に隨ひ公車に詣る。上引見して冀州刺史に拜す。敞日夜傳に乘じて部に到る。盜賊屏息す。

チヤウシヤウ　張昌　(晉)一名は李辰。義陽の蠻人。惠帝の太安二年、黨數千を聚めて亂を作す。未だ勢を張るに至らずして誅せらる。

チヤウシヤウ　張敞　(南北)彭祖の子。宋に仕へて侍御史と爲る。父彭祖、子裕、三世皆善書の名家。

チヤウシヤウ　張祥　(隋)并州司馬諒、亂を作し、火を縱ちて郭を燒る。百姓驚駭す。城側に四王母廟あり。祥城に登り泣て禱りて曰く、神其れ靈あれば雨を降して相助くべしと。冒訖りて廟上雲起り、須臾にして驟雨注ぐが如く、其火遂に滅す。士卒其至誠を感じ、命を用ひざるはなし。

チヤウシヤウ　張庠　(宋)永新の人。博く經書に通ず。嘗て直蘆、正冒、二書を著し、以て佛老を折き、元經圖を作り以て五行六度の秘を推す。鄭獅、吳處厚、鍾明逸の輩皆之に師事す。白鹿先生と號す。

チヤウシヤウエイ　張商英　(宋)字は天覺。新津の人。童子の時に日に萬言を記す。向子山見て之を異とし、妻はすに女を以てす。崇寧中に相に拜せらる。時に蔡京久しく國柄を盜み、中外怨疾す。久しく旱し彗星天に嘗るに値ふ。商英命を受く。是の夕彗星見えず、明日雨ふる。帝喜び因て商霖二字を大書して以て賜ふ。商英相と爲り、大に蔡京の弊政を革め、帝に勸めて、華侈を節し土木を息め僥倖を抑へしむ。帝願るこれを憚る。何執中其の己に勝るを恥ぢ、臺臣を諷して之を論ぜしめ、出して河南府に知とす。

チヤウシヤウソウ　張昌宗　(宋)襄陽の人。家を處するに義を以てし、八世分たず。馮京詩あり、いふ、一水藥廻澆沌付、子房苗裔此間存、同居八世三千口、可惜君恩未裂門と。嘉定間に孫灼、襄陽を守る。其義を嘉みし、傳を捐て、代て稅を納む。事聞す。詔して表して義門といふ。

チヤウジヤウコウ　長城公　(南北)陳主第五世。姓陳。名叔寶。字元秀。小字黄奴。宣帝の長子。位に即いて未だ幾ならずして樓閣を起し奢侈を極め、官僚と長夜の飲を爲す。隋の兵江を渡り直に朱雀門に入る。守者醉うて拒ぐ能はず、乃ち降る。陳亡ぶ。在位七年。改元二、至德、禎明。

チヤウジヤウキ　張常清　(唐)字は巨川。句容の人。父瑋、建州司戸と爲り、建宗四年に卒す。清、墓に廬する者三歲。墓側瑞芝十二莖を生ず。土を守る者表聞す。詔して旌す。其從孫公挺も亦孝を以て稱せらる。人張世孝といふ。

チヤウシヤク　張杓　(宋)字は定叟。浚の次子。父の恩を以て寶謨二府に至る。能稱あり。湖北に提舉たり。常に入て事を奏す。孝宗甚だ喜ぶ。戶部侍郎に累遷す。端寧の朝に積官して端明學士知建康府に至る。杓天分高爽にして吏材敏給、治むる所の郡に能聲あり。直秘閣に累官す。朝に在て歷々諫疏を陳す。父祖の風あり。

チヤウジヤクアイ　張若靄　(清)字は晴嵐。廷玉の長子。雍正十一年の進士。編修より内閣學士に累官す。花草を愛くに工に、其

柳枝荷花、獻色沈鴻清麗にして、業を寫すに純ら思染を以てす。其筆を得る者之を多とす。

チヤウジヤクキ　張若麒　(明)睦州の人。崇禎中の進士。職方郎中に擢でらる。李自成の都城を陷るゝや、出て降る。

チヤウジヤククワ　張若化　(清)字は雨玉。號は蒼巒。福建漳浦の人。崇禎丙子の舉人。明亡びて後、丹山に閉戸して居ること四十年。足、城市に入らず。時に盜賊蜂起す。相戒めて曰く、慎で張公の廬を犯す勿れと。其身を終ふるまで境に入らず。鄉人多く依て以て難を避く。

チヤウシヤククワウ　張錫嶸　(清)字は敬堂。安徽霍壁の人。咸豐三年の進士。同治五年、撚匪陝西に竄す。錫嶸、赴き援ひ、陷りて賊陣に入り、十餘創を被りて死す。著に孝經句讀、孝經問答、朱子就正錄等あり。

チヤウジヤクコク　張若谷　(宋)字は總叟。沙縣の人、進士及第して巴州推官と爲り、賊を禦ぐを以て知を眞宗に受く。虫州を歷て杭州に徙る。歲飢するに會す。廩を發して朝を爲り以て賑す。至る所塞心民の爲めにして、激訐して名を取らず、而して自ら稱る惠政あり。

チヤウシヤクシ　張釋之　(漢)字は季。南陽堵陽の人。初め騎郎と爲り、十年調ぶるゝを得ず。貲盡之を朝に薦め廷尉に拜す。嘗て上に從て虎圈に登る。上、上林尉に諸禽獸の籍を問ふ。尉對ふる能はず。嗇夫旁より代て對ふること甚だ悉なり。帝釋之に命じ嗇夫を拜して上林尉と爲さしむ。釋之に曰く、周勃張丞相二人の如きは如何。帝曰、長者なり。釋之曰く、此二人、口利口捷給なるに效はんやと。帝遂に止む。太子一日梁王と入り、司馬門に下らず。釋之追て之を止め、不敬を劾す。薄太后之を聞き帝を召ぶ。帝免冠して兒子を教ふるの不謹を謝す。后乃ち使を以て詔を承けて太子梁王を赦さしめ、然して後に入るを得。帝是に由て釋之を奇なりとし中大夫に拜す。文帝行て中渭橋に出づ。一人あり、橋下より走る。乘輿の馬驚く。捕へて廷尉に屬す。釋之奏す、蹕を犯す者は罰金に當ると。上怒る。釋之曰く、法は天子の天下と公共する所なり、廷尉は天下の平なり、天子法を用ひ之が爲に輕重せば、則ち民安ぞ手足を措く所あらんやと。帝之に從ふ。其後、人、高廟の玉環を盜むものあり。釋之奏す、當に棄市すべしと。上大に怒て曰く、人無道にして先帝の器を盜む、吾之を族せんと欲す、而して廷尉法を以て之を奏す、吾が宗廟を寧ずる所以の意に非ず。釋之頓首して謝して曰く、法是の如くにして足る、今宗廟の器を盜て之を族せば、假令愚民長陵一抔の土を取らば陛下且に何を以て其法を加へんとするかと。帝太后に白して乃ち之を許す。時人謂て曰く、張釋之廷尉と爲り天下寃民なしと。景帝の時に、出て淮南王の相と爲る。時に王生なる者あり、黄老を善くす。釋之と善し。嘗て公卿を召す。王生座中に立ち襪解く。顧て釋之に謂て曰く、我が爲に襪を結べと。釋之跪て之を結ぶ。既に退く。或は曰く、奈何ぞ座にして張廷尉を辱かしむる。王生曰く、吾老て且つ賤し自ら度るに廷尉を益なし聊か結襪に辱しめ以て之を重くせんと欲するのみと。諸公之を聞き、皆王生を賢として釋之を重んず。子賞、官、大夫に至りて免ぜらる。容を當世に取る能はざるを以て終身また仕へず。

チヤウジヤクシユク　張若淑　(清)廷玉の三子。官、郎中たり。

チヤウジヤクチウ　張若仲　(清)字は聲玉。號は次巒。若化の弟。崇禎庚辰の進士。明亡びて後、山居すること五十餘年、清修獨り善くす。年八十四にして歿す。鄉人其兄弟を稱して丹山二先生と爲す。同じく鄉賢の廟に祀る。

チヤウジヤクチヨウ　張若澄　(清)廷玉の二子。内閣學士に累官す。

チヤウジヤクテイ　張若溥　(清)廷玉の四子。刑部尚書に至る。勤恪と謚す。

チヤウシユ　張種　(南北)吳縣の人。初め治曹參軍と爲り陳に仕へ太尉卿を歷て左氏光書に轉ず。高帝即位して都官尚書と爲り中書令に遷る。種、仁恕廉靜にして識其宏博なり。時に皆以て宰相の器と爲す。卒して謚て元といふ。弟陵も亦沈靜にして識

度あり。官、司徒長史に至る。

チヤウシユ 張守　(宋)晉陽の人。崇禎中に進士の第に登る。禍炎の初、御史中丞と爲る。嘗て上疏す、陛下宮室の安きに處ては則ち二帝母后の穹廬講幕を思ひ、膳羞の奉を享けては則ち二帝母后の糟肉酪漿を思へと。言極めて激切なり。翰林學士知制誥に遷り、尋で參知政事に除せらる。卒して文靖と謚す。

チヤウジユ 張授　(宋)德興の人。嘉祐中に權將作監丞たり。後、太府少卿に除せらる。蔡京が議して大錢を置き二を以て十に當つるを諫めて不便と爲す。上曰く、慶曆以已に行ふと。是より外任を歷ること十八年。

チヤウシユク 張叔　(漢)葉榆の人。天資奇穎。書、目を過ぐれば誦を成す。鄉俗學を知らず。叔每に之を病ふ。司馬相如が若水に至ると聞き、遂に笈を負ひて往き從ひ經學を受け、歸りて其鄉を敎ふ。子弟遂に美俗を成す。

チヤウシユク 張叡　(三國)會稽の人。吳に仕へ、阿諛を以て人主の意を迎へて悖理沒義多し。果遷して司直中郎將に拜す。一時寵愛を極む。天紀元年に至り、奸情發聞して誅に伏す。

チヤウシユク 張蕭　(宋)舒城の人。直諒を以て稱せらる。仕へて廣東轉運判官と爲る。後、江東提點刑獄と爲る。司馬光より而下七十四人、分韻して詩を作り、以て其行を贈る。皆一時の名流なり。其後三世登第す。

チヤウシユクシン 張叔振　(宋)字は振之。長溪の人。乾道中の進士。翹冠にして經を樸へて講授す。狀元木待問、嘗て師事す。一時の衣冠多く其門に出づ。果官して知蒲城縣通判岳州たり。入朝して四遷して太府丞と爲る。凡そ三たび召對す。言ふ所は皆當世の急務。上深く嘉納す。而して一時の權貴多くの之を忌む。出でゝ信州に知として卒す。學に嗣る。著す所奏疏詩文あり。

チヤウシユクヤ 張叔夜　(宋)字は嵇仲。永豐の人。喜んで兵を言ふ。陳留襄城縣に歷知す。海寇宋江、河朔に起る。叔夜誘て其副を擒にす。江乃ち降る。金人南下せるとき都總管と爲る。二子伯奮伯熊を率ゐ、兵を擧げて勤王す。轉戰して都に至る。簽書樞密院に果遷す。連に金人と大に戰ひ、其二貴將を斬る。城陷り創を被る。父子猶力戰して止まず。徽宗北狩す。叔夜之に從ひ、道中惟だ特に水を飲むのみ。義、粟を食はず。白溝に至る。御者曰く、界河を過ぐと。叔夜乃ち矍然として起ち、天を仰で大呼す。遂に復語らず。明に吭を扼して死す。朝廷其死を聞き、開府儀同三司を贈り、謚して忠文といふ。

チヤウシユケイ 張守珪　(唐)陝州の人。慷慨にして節義を尙ぶ。開元中に爪州刺史と爲る。虜奄至す。衆色を失ふ。守珪城上に置酒し諸將を會して樂を作す。虜、備あるを疑ひ、敢て攻めずして引き去る。守珪兵を縱ち擊て大に之を破る。入りて右羽林大將軍に拜す。子獻恭、數々軍功あり、檢校吏部尙書に果遷す。

チヤウジユサン 張樹珊　(清)字は海柯。安徽合肥の人。咸豐八年、髮匪捻匪方に熾なり。張、鄉人と堡塞を築き之を守る。合肥爲に恙なきを得たり。其後壽春の急に赴き、六安の圍を解き、果りに來安、無爲、滁山、大湖、霍山、三河の諸城に克つ。同治三年、李鴻章に從ひ、福山、江陰、無錫、金匱、江蘇、蕭清に克つ。五年、捻を追ひて湖北德安に至り、伏に圍まれて死す。官、總兵に至る。勇烈と謚す。

チヤウジユデンノツマ 張樹田妻　(明)嘉定の人。宣氏。夫狂悖、睦じからず。夫病む。晨夕事を率ず。夫死するに及び、身を以て殉ず。

チヤウシユン 張駿　(晉)前涼主第四世。字は公庭。寔の子。父祖に嗣ぎて西涼の主と爲る。張淳を殺して道ふ李雄に假り、以て裘を建康に通ぜしむ。雄僞りて之を許し、將に盜をして之を東峽に覆殺せんとす。或は淳に告ぐ。淳雄に告げて曰く、駿涼州舊德を忘れずして使を琅琊に通ず、今盜をして之を江中に殺さしむ、何ぞ以て天下に示すに足らんと。雄大に驚て曰く、安ぞ此事あらんと。是に於て淳、險阻に間關して建康に達す。詔して駿を大將軍に拜す。初め張軌及び實、河右を保據し、軍旅の事、歲として之なきはなし。駿位を嗣ぐに及び項

內漸く平なり。駿、庶政を勤修して文武を總御し、咸其用を得。民富み兵強く、遠近稱して賢君と爲す。僚佐駿に涼王と稱するを勸む。駿色を正しうして曰く、朕れ人臣の宜しく言ふべき所に非ずと。使を遣して貢獻絕たず。軌より駿に至るまで四世、晉に忠なる、世與に比するなし。駿の子重華、自立して涼王と爲る。駿を文王と追謚し廟を世祖と號す。

チヤウシユン 張濬　(唐)河間の人。汎く書詩を知り喜て高論す。度支員外郎に累官す。黃巢の亂に僖宗召して諫議大夫に拜す。都統判官と爲る。時に王敬武、平盧軍に在り、已に賊に臣たり。濬諭すに君臣の大義を以てす。敬武愧謝す。諸將佐を召して謂て曰く、今勤王の師天下に滿つ、賊平がば將に安くにか往かん、何ぞ共に大登を誅して天子を迎へざると。諸將曰く、諫議の言是なりと。敬武即ち軍を引き濬に從ひ而して四方。賊平らぎ戶部侍郎を以て度支に判たり。

チヤウシユン 張浚　(宋)字は德遠。漢州綿竹の人。進士の第に登り太常寺簿たり。時に金の粘沒喝、汴京に入り、張邦昌を立てゝ王とせんと欲す。浚逃れて太學に入り、書て狀に署せず。高宗立ちて侍御史に遷る。時に汪黃二人權を專にして、盜賊蜂起すれども以て上聞せず。浚直言す、金人必ず來り攻めん、請ふ豫め備を爲さんと。二人之を笑ふ。未だ幾くならずして朱勝非の薦を以て川陝京西諸路制置宣撫使に進み、便宜を以て黜陟す。劉子羽と密に謀りて范瓊を誅す。衆皆悅服す。苗劉の亂を平ぐ。帝再三問勞して曰く、聖眷兩宮隔絕す、一日奬を賜り、忽ち卿を貶すと聞きて覺えず手を覆す、念ふに卿謫せられば此事誰にか任せんと。服する所の玉帶を解きて之を賜ふ。浚、閬州より還る。時に辛炳、宿德を以て御史を率ゐて之を劾す。遂に罷められて資政殿學士と爲り福州に居り。都督趙鼎、帝に言て曰く、頃者陛下張浚を遣はして川陝に使せしめ、國勢今に百倍す、浚補天浴日の功あり、陛下禦山帶河の誓あり、乞ふ之を召して政府に居らしめんと。帝遂に浚を以て樞密院に知たらしむ。其盡忠竭節を以て中外に驗す。將士浚を見て勇氣百倍す。未だ幾くならず召還せられて右僕射に遷る。浚、中外の庶政を總べ、奏對する每に必ず聲涙の大なるを言ひ、反覆再三す。帝未だ嘗て容を改め流涕せざるはなし。事巨細となく必ず以て浚に咨ふ。諸將に賜ふの詔、往々浚に命じて之を草せしむ。呂祉之の死に因り、遂に力求して去る。帝浚に問ふ、秦檜は如何。浚曰く、近ごろ興に事を共にし方に其閣を知ると。檜之を憾み、言官に諷して之を論ぜしめ、永州に安置す。後、檜が和議を主とするを以て、星變に因りて時事を力陳せんと欲す。母許氏の年老いたるを以て、之を言ふの禍を致る測られざるを恐る。許氏之を知り、其父咸が紹聖の初の制策を誦して曰く、臣聞く言て而して斧鉞に死するも、言はずして以て陛下に負くに忍びずと。浚、意遂に決す。即ち上疏して言ふ、當今の事務は大疽を頭目心腹の間に養ふが如し、決せざれば止まず、遲ければ則ち禍大にして決し難く、疾ければ則ち禍輕くして治し易し、惟陛下之を心に謀り、謹で情僞を察せば、庶幾くは社稷安泰ならん、然らずんば將に請を嗾まんとす、異時國を以て敵に與ふる者、反りて罪を正鵠に歸す、此れ臣が食て咽を下らずして、一夕も安んずる能はざる所以なりと。時に秦檜太平を文飾す。之を見て大に怒り、遂に連州に貶し、必ず死に置かんと欲す。會々檜死して免るゝを獲たり。又陳俊卿の薦を以て召されて建康府に判たり。浚命を聞き、舟を買ひ風雪を冒して行く。時に金の兵充斥して采石に焚き、煙焰天に漲る。人、輕進する勿れと戒む。浚曰く、吾君命に赴くの急なる、直に前みて乘輿の所在を求むるを知るのみと。長江に一舟の敢て北行するものなし。獨り浚、小舟に乘じて徑ちに進む。帝建康に至る。浚道左に迎ふ。衞士浚を見て手を以て額に加へざるはなし。浚起ちて復用ひらる。風采隽然、民倚りて以て重きを爲す。帝之を勞して曰く、卿此に在り、朕北顧の憂なしと。遂に兩淮軍事を措置せしむ。未だ歲くならず、召されて朝に入り、江淮宣撫使と爲り、魏國公に封ぜらる。孝宗立ちて手書して浚を召し入る。

帝寧を收めて曰く、久しく公の名を聞く、今朝廷の恃む所は惟だ公のみと。因て坐を賜ふ。浚從容として言ふ、人主の學は一心を以て本と爲す、一心天に合すれば何の濟さざる所あらんと。又和議の非なるを力説し、帝に勸めて意を堅くして恢復を圖らしむ。帝之を嘉納す。浚を進めて樞密使と爲し江淮軍馬を都督せしむ。浚帝に請ひ、建康に幸して以て中原の心を動し、兵を山東に進めて以て夾擊の聲援を爲さんとす。帝、俊卿を見る毎ゝ、浚の動靜飲食顏貌を問うて曰く　朕の魏公ゝ倚るは長城の如し、浮言搖奪を容さずと。浚兵を進めて宿州を復し、中原震動す。帝手詔之を慰めて曰く、近日の湯報、中外鼓舞す、十年來此克捷なしと。時に士大夫の和を主とする者、皆浚の非を議す。帝浚に書を賜うて曰く、今日邊事は卿に倚りて重きを爲す、卿、人言を長れて而して猶豫すべからず、前日事を舉ぐるの初、朕と卿と之に任ず、今日亦須らく卿と之を終ふべしと。浚乃ち各處の守備を脩飾す。帝復た浚の子栻を召して入らしむ。浚附奏して曰く、古より有爲の君、腹心の臣、相與に謀を協せ志を同じうして以て治功を成す、今臣孤蹤を以て動もすれば輒ち掣肘せらる、陛下將に安ぞ之を用ひんと。因て餞骨を請うて歸らんとす。帝栻に謂て曰く、朕が魏公を待つ加ふるあり、乞去の事日に上るとも願も朕決して許さずと。帝近臣に對して云へは必ず魏公といひ、未だ嘗て其名を斥言せず。尹穡、湯思退に附して魏公　排擊し、遂に降して特進樞密使を授け、宣撫に充て、揚州を治めしむ。未だ一日ならず、復浚を以て江淮軍の都督せしむ。時に湯思退力めて和議を主とし、王之望を遣して金に使し、四州を割くを許す。浚上言して曰く、秦檜和を主として卒に遊亮の禍を成す、今其藁復出て、惡を爲す、今若し復た和議を倡ゝば、四海の英雄誰れか陛下の用を爲さんや。帝乃ち之望等に手詔して、一行の禮物並に回らしむ。會ゝ金、行人胡昉を執ふ。帝浚に謂て曰く、和議成らざるは天なり、自ら此事當に一に歸すべしと。乃ち浚に命じて師を江陵に視、忠義を招徠し戰船を增置し弓矢を葺治せしむ。山東の豪傑制節を受けんことを願ふ。且つ檄を以て契丹に諭し、約して應援を爲さしむ。金人大に懼る。湯思退、右正言尹穡に諷して浚を論ず。浚乃ち都督府を請ふ。浚既に去り、猶疏して帝に勸め、學を務め賢に親ぢしむ。或は浚に勸むるに時事を以て言を爲す勿らしむ。浚曰く、君臣の義は天地の間に遍ゝ所なし、吾岡朝の厚恩を荷ひ久しく重任に居り、今國を去ると雖も、惟上の心の感悟するを望む、上如し浚を用ひば浚當に道に就くべし、敢て老病を以て辭を爲さずと。開く者愛然たり。既に行きて餘干に至り、疾を得。手書して二子に付す。其略に曰く、吾國相と爲り、中原を恢復して祖宗の讎を報ぐ能はず、即し死せば當に我を先人の墓側に葬るべからず、我を衡山に葬らば足らんと。數日にして卒す。浚志恢復に在り、終身和議を主とせず。功成らずゝ雖も、人其忠を稱す。太保を贈らる。帝其忠を思ひ太師を贈り、忠獻と謚す。著す所、五經解及び雜說文集奏議あり。子二人、栻、杓。

チヤウシユン　張俊　(宋)字は伯英。凱翔成紀の人。徽宗高宗の世、屢ゝ金人と戰ひて功あり。樞密使に拜せらる。秦檜、和議を唱ふるに及び、檜の意を迎へて其說を贊す。岳飛の寃獄、俊また獨り飛の罪を構成す。故に論者之を惡む。紹興二十四年七月薨ず。年六十九。

チヤウシユン　張眷　(明)字は泰宇。同州の人。萬曆二十八年、鄉に舉げられて刑部主事を歷す。天啓三年正月、永平守を失ふ。眷を起して永平兵備參議と爲す。眷、獻言する所あり、參政に進む。諸將と僧に復た永平の諸城を收む。太僕少卿を加へらる。四年八月、清兵大凌河新城を圍む。眷に命じて總兵吳襄宋偉軍を監し馳せ救ふ。眷執へられ自ら縊死す。

チヤウシユン　張俊　(明)宣府前衞の人。世ゝ本衞指揮使たり。弘治正德の間、都督同知に歷遷して卒す。

チヤウシユン　張駙　(漢)字は子鵠。定陶の人。大夏侯の尙書を以て教授す。公府に辟せられて議郎に拜す。蔡邕と共に六經の文字を奏定す。侍中に擢でられ秘書近署を典領し、甚だ寵顧せらる。多く便宜に因り政の得失を陳ぶ。丹陽の太守に遷りて惠政あり。徵されて尙書に拜せられ、大司農に終ふ。

チヤウシユン　張純　(漢)字は伯仁。安世の玄孫。父放、成帝の時、侍中たり。純、爵土を襲ぎ、光武の初め更に武始侯に封ぜらる。三世に歷仕し明ゝ故事に習ふ。朝廷の禮儀正定する所多し。後に大司空と爲る。

チヤウシユン　張純　(三國)字は元基。敦の子。清才あり。其父郡の張儼、朱異と俱に重ぜらる。少くして共に往きて朱據を見る。據、三人の才名を聞き、之を試みて曰く、今三賢屈顧す、其れ我が爲に各一物を賦し然る後に坐せよ、夫れ驥騏(良馬の名)は迅逐を以て功と爲し、鷹隼は輕疾を以て妙と爲す、何ぞ必ずしも思を積まんと。純、席を賦して曰く、席以冬設、蒹爲夏施、揖遜而坐、君子修宜。儼、犬を賦して曰く、守則有威、出則有獲、韓盧宋鵲、書名竹帛。異、弩を賦して曰く、南嶽之幹、中山之銅、應機命中、射隼高墉。據大に稱賞す。純尤も操行を勵み、學博く才秀で、容止觀るべし。吳に仕へて郎中に拜し廣德令と爲る。治に異績あり。太子輔義都尉に擢でらる。赤烏十三年、吳主權太子和を廢す。純官を棄して極諫す。權之を幽殺す。

チヤウシユン　張巡　(唐)南陽の人。博く群書に通ず。身の長七尺、鬚髯神の如し。戰陣の法を曉り、志氣高邁、詩最も雄壯なり。開元の末に進士の第に擢でられ清河令と爲り治績あり。後、亂渾令に調ばる。安祿山の反するや、兵を雍丘に起し許遠と同じく賊を拒ぐ。賊蟻附して上る。巡、藩を束れ油を灌ぎ焚て而して之を投ず。六十餘日を積み大小三百餘戰。北ぐるを追て三千人を獲。賊將令狐潮至り、城中矢盡く。草を縛して人を爲り黑衣を衣せて夜城下に縋す。賊兵以爲らく、人下ると。爭て之を射る。矢を得ること數十萬。復城に縋す。賊笑て備を設けず。乃ち死士五百を以ゐて營を斫る。潮が軍大に亂れ巡を焚て去る。潮兵を益して之を圍む。郎將雷萬春をして城を巡らしむ。賊之を射る。萬春面六矢に中る。而かも動かず。未だ幾くならずして出て、戰ひ、賊將十四人を擒にす。賊乃ち夜遁る。巡、睢陽に入り許遠と兵を合す。尹子奇兵を引て城を圍む。累戰して皆克つ。城中食に乏し。茶紙馬廐糞俱に盡く。愛妾を殺して士を享す。將士に謂て曰く、吾國恩を受く、守る所只死あるのみ、但念ふ、諸君軀を捐てゝ力戰して而して賞は勳に酬いられず、此を以て心を痛ましむるのみと。諸軍皆感激。巡、四向再拜して曰く、臣の力竭く、城を全うする能はず、生きて以て陛下に報ずるなし、死して當さに厲鬼と爲り以て賊を殺すべしと。城遂に陷る。許遠等三十六人と皆殺さる。後、揚州大都督を贈らる。郡人廟祀す。巡、强記、嘗て人の漢書を讀むを見て曰く、何爲ぞ久しく此を讀む。曰く、乃未だ熟せざるのみ。巡曰く、吾書に於て讀むこと三遍に過ぎずして終身忘れずと。因て漢書を誦するに、卷を終るまで一字を錯らず。

チヤウシユン　張順　(宋)度宗の時に民兵の部將と爲る。襄陽圍を受くること五年、順力を竭して拒禦す。軍を收むるに順を失ふ。越えて數日、浮屍あり、流に遡て上り、介冑を被り弓矢を執る。直に浮梁に抵り、之を視れば順なり。身に鎧六箭中り、怒氣物を生ずるが如し。諸軍驚て以て神と爲し、冢を結び屍を斂めて葬り、廟を立てゝ之を祀る。

チヤウシユン　張順　(金)もと淄州の士伍。淄州、圍まるゝや、王庭玉、兵を將ゐて之を救ふ。順等三十人を募り往て城中をして援兵の至れるを知らしめむとす。夜に乘じて壕に城下に至り、執へらる。辭脅して降を說かしむ。乃ち大に呼て曰く、外兵多からず、援軍且に至らむとす、堅く守りて降る毋れと。兵刃交下り遂に死す。

チヤウシユン　張淳　(明)字は希古。桐城の人。隆慶二年の進士。永康知縣を授けられ、禮部郎中、建寧知府、浙江副使、陝西布政を歷す。

チヤウシユン　張恂　(清)字は穉器。一字は靈山。遷陽の人。進士を以て江南推官と爲る。藏を善くす。蔡襄片紙値千錢。

チヤウシユン　張春兒　(元)李青の妻。其夫、陣に臨み負傷して歸り死す。春兒、匠

に命じて大棺を造り、其衣服・器物を納め、飲終りて庭に自經す。家人共に之を殯す。

チヤウジユンシ 張潤之 (宋)字は伯威。[illegible]華の人。禮を尚び義を好み、篤實清介にして心を學問に專にす。地を長山に避り、其幽勝を摘みて古詠を爲くる。一時の名公或な之を賛詠す。

チヤウシユンミン 張鋒民 (宋)字は芸叟。新平の人。善く文を爲くる。進士に中り甄樂令と爲る。上言す、新法不便なりと。元祐の初、司馬光、其才器秀異にして剛直敢言なるを進む。召されて監察御史と爲り、出て、陝・潭・清三州に知たり。後に更て侍郎と爲る。元祐の黨錮に坐して商州に安置せらる。自ら浮休居士と號す。

チヤウシユヤク 張守約 (宋)溪縣に知たり。溪水暴漲して歳毎に堤壔を決め、費用貲せず。適〻年饑して其役を罷む。或は曰く、水害を如何せん。守約曰く、荒歳民を勞する禍患よりも甚しき。之を河神に禱る。一夕雷雨し、河徙て南し、城爲に害せられず。

チヤウシヨ 張所 (宋)晉州の人。進士の第に舉げられ監察御史に歴官す。高宗位に即き、所を遮して陵寢を按視せしむ。還て上疏して還京の五利を論ず。又南河の利害を條上し、及び黄潛善、汪伯彦の奸邪を言ひ、江州に謫せらる。李綱薦めて河北招撫使と爲す。時に岳飛上表して軍駕の北渡を請ふに因り、汪黄の意に忤ひ官を罷めて歸り、所に謫る。所興に語り、憮然として曰く、君は殆ど行伍中の人に非ずと。飛に武經邸を授く。所、方に義傑を招徠して恢復の計を爲さんと欲す。而して李綱和を進むるや、遂に落職して嶺南に安置せらる。寛に貶所に卒す。

チヤウシヨ 張逮 (漢)丹陽太守。博學にして治亂に通じ廉儉を以て自ら持す。後徳公に封ぜらる。

チヤウシヨウ 張承 (三國)袁術、帝を擁く民衆きを以て福を獲相に謂て曰く、孤地廣擬せんと欲す、何如。承曰く、德に在りて強に在らず、夫れ德を用ひて天下の欲に同うすれば匹夫よりすと雖も興る、霸王の功離しとするに足らざるなり、若し苟も一時を借擬して勃かんと欲せば衆の集る所、孰れか能く之を興さんと。術從ふ能はず。寛に曹操に殺さる。

チヤウシヨウ 張松 (三國)人と爲り短小、精敏にして才辯あり。劉璋はして曹操に詣らしむ。楊脩吳に語りて深く之を器とす。曹操が撰する所の新書を以て松に示す。松一覧、如ち朗然として之を誦し、一字遺るゝなし。脩、松を操に薦む。操納れず。松復西に歸る。蜀の先主川に入るとき、松翹關を懷にして以て獻ず。

チヤウシヨウ 張弁 (南北)京縣の人。父を喪し、哀毀度に過ぎ形骸枯瘁す。聖鄉里に聞る、盜賊其境を侵さず。州表して以聞し、其門閭に標す。

チヤウシヨウ 張昇 (宋)仁宗の時に御史中丞と爲る。昇、時政を指切し、長避する所なし。帝之に謂て曰く、孤立して乃ち能く是の如し。昇曰く、臣仰て聖主に託し位を侍從に致す、是れを孤なりと謂ふ、今陛下の臣、誠を持して望を愛ぶ者は多く、赤心國を謀る者は少し、臣竊に以爲らく、陛下乃ち孤立のみと。帝爲に感動す。未だ幾くならずして樞密副使に進む。英宗の初に老を請ひ鄉に還らんとす。帝曰く、太尉王家に勤勞す、距ぞ去るべけんや。命じて五日に一たび院に至り、進見に舞蹈するなからしむ。司馬光も亦帝に言て曰く、昇は忠謹清慎、干すに私を以てすべからず、請ふ之を留めんと。昇力めて去る。遂に許州に判たり。

チヤウシヨウ 張升 (後)字は進之。大同の人。漁陽縣簿より出身して綠州錄事參軍に遷り、國禾水に赴いて死す。

チヤウシヨウ 張昇 (明)字は叔暉。騏の次子。昭皇后の兄。成祖の時、舍人を以て北平を守る。宣德の初、左都督に進み左府の事を掌る。正統間卒す。惠安伯に追封す。

チヤウジヨウ 張嶷 (南北)字は四山。吳人。少くして孝行に敦し。父穆、青冀二州刺史と爲り、害に遇ふ。嶷、終身蔬食和衣す。侯景叛す。嶷爲に執へらる。景、其一子を存せんと欲す。嶷曰く、吾が一門已に鬼録に在り、爾の慝に在りて慝を求めずと。

是に於て皆死す。侍中を贈る。

チヤウシヨウイン 張承廕 (明)臣の子。父の廕に由りて仕官し、功を積みて延綏副總兵に至る。勇にして謀あり。尤も騎射に精し。後ち清兵の難に殉す。少保左都督を贈り祠を立てゝ精忠と曰ふ。

チヤウシヨウキウ 張承休 (唐)嶗山の人。隋の散騎常侍眉の後なり。張悅、其嘉志を撰して云く、布衾萬行、去華崇質、非法不由、非禮不動、精於理物、敏於從政と。朝議大夫柱國恒州刺史を歴す。

チヤウシヨウゲフ 張承業 (五代)承業家を治むる甚だ嚴なり。晉王存勗、其姪張瓘を以て鄜州刺史と爲す。承業之に謂て曰く、汝もと不法を爲すを慣る、今若し悛ずば死するに日なからんと。是に由りて瓘至る所故て貪暴せず。晉王連歳出征す。凡そ軍府の政事一に承業に委す。農桑を勸課し金穀を蓄積す。王或は錢を以て伶人を賞す。承業曰く、此錢は以て戰士を養ふ所なりと。王悅びず、語を以て之を侵す。曹太夫人怒に人をして承業に謝せしむ。未だ幾くならずして制を奉けて承業に開府儀同三司燕國公を授く。承業固辭して但だ唐の官を稱す。承業、晉王の自立せんと欲するを聞き、亟に魏州に至り諫めて曰く、吾が王世々王室に忠なり、今李氏尚存す、遽に大位に即くは殊に從衆征伐の意に非ず、老奴の意は他なし、但先王の恩を受くるを以て王の爲に萬世の基を立てんと欲するのみと。王從はず。承業慟哭して晉陽に歸り、怏々として疾を成して卒す。曹太夫人其弟に詣り、之が爲に服を行ふ、子姪の喪の如し。晉王其死を聞き亦食はざるもの累日。

チヤウシヨウシヤウ 張承相 (明)少うして孤。諸生と爲る。母を養ふこと二十餘年。孝を以て聞ゆ。

チヤウシヨウレツ 張承烈 (清)字は爾晉。武功の人。初め任俠を喜び、三變して心を平學に留め、節を折て書を讀む。先儒の書を以て準繩と爲し、尺寸毫髮と雖も苟くもせず。

チヤウシヨク 張塞 (晉)前涼主第二世。字は安邇。軌の世子。賢を敬し士を愛す。既にして地險に衆多きを恃み漸く驕る。位に在ること七年、左右の爲に殺さる。元公と謚す。後に明王と追謚し廟を高祖と稱す。

チヤウシヨク 張穫 (南北)字は公蕎。吳人。孝性あり。母劉、疾に遘ふ。穫年十一。衣、帶を解かず。終夜腰帷す。終るに及び哀毀骨立、杖して而して立つ。年數の幼童を見れば輒ち哽咽泣涙す。州里之を純孝といふ。御中丞丞と爲る。

チヤウシヨヒツ 張汝弼 (金)字は仲佐。玄素の兄。玄徵の子。尚書左丞に進み廣寧尹となりて薨ず。

チヤウシヨリン 張汝霖 (金)字は仲澤。遼陽の人。墨竹を畫く。黄華道人を師とす。

チヤウシリウ 張士隆 (明)字は仲修。安陽の人。弘治八年の鄉舉、太學に入り、十八年進士に登る。學行を以て聞ゆ。初め慮信推官を授けらる。入て御史巡撫河東に改められる。汙吏を劾去し、文教を興す。會〻乾清宮、災あり。上疏して時政を陳す。世宗立ちて陝西副使に拜せらる。漢中の賊を平げ、また偃を築き田に溉ぐ。民之を利とす。官に卒す。

チヤウシレン 張忠練 (漢)王景崇に屬して其叛を助け、群臣を指揮して官兵を苦しむ。其一鳳翔に敗るゝや、誅に伏す。

チヤウシロク 張資祿 (金)啟平府の人。諸官を歴て興定五年隴安金安二軍節度使に改む。兵を將て鄜州を援ふ。城破れて執へられ、肯て降らず、遂に死す。

チヤウシキ 張四維 (明)字は子維。蒲州の人。嘉靖三十二年の進士。庶吉士より編修に擢でらる。隆慶中、左諭德に累遷す。倜儻にして才智あり、時事に明習し、夙に勇務を知る。首輔に擢でらる。憂歸し、服闋に奪らんとして卒す。太師を贈り文毅と謚す。

チヤウシキ 張子長 (清)武進の人。懷南田の甥なり。花草に工にして舅氏の家法を得る。

チヤウスウ 張樞 (元)字は子長。婺州金華の人。幼にして聰穎、經史に通じ尤も文章に長ず。辟召皆固辭す。刊定三國志三十卷、林下編藁一卷あり。歌詩雜著を敝帚編と名く。

チヤウスウダ 張須陀 (隋)閿鄉の人。勇

略あり。弱冠にして史萬歳に從ひ四夷を討じ、功を以て儀同を授けらる。楊素に從ひ擊て漢王諒を平げ開府を加へらる。大業中に齊郡贊務と爲る。歳飢う。即ち倉を開きて給賑し詔策を待たず。後、戰を以て死す。

チヤウズキト 張瑞圖 (明)字は張公。放鶴亭と號し又た二水と號す。萬曆丁未の進士。畫を善くす。山水は大癡を法とす。著勤書あり、又書に工なり。

チヤウセイ 張生 (周)齊の將軍田曠軍を出す。張生之を郊に送り、五事を以て之を諷す。田曠曰く、今日諸人皆曠の爲に祖道して酒脯を具ふ、而して先生獨り教ふるに聖人の大道を以てす、謹で命を聞くと。

チヤウセイ 張靖 (明)山東の人。畫を善くし、人物は吳道子の筆を得。尤も寫照を善くす。

チヤウセイガ 張清雅 (明)潛山の人。家貧にして力學親を養ふ。崇禎十年、張獻忠來り犯す。時に會々父卒し、歛甫めて畢る。賊、棺内に金銀を藏するを疑ひ、剖いて之を視んと欲す。清雅棺に據て哀泣す。賊、其手を斷つ。幼子趙齡、年十六、號哭して代らんことを求む。賊復た之を斬る。父子俱に死し、棺剖かれざるを得たり。

チヤウセイクン 張瑋訓 (清)後名を肇恒と改む。桂陽州の人。咸豐六年、王珍に隷して百人を分領し、新軍と稱す。後、巡撫に進む。五百人に將として宣章莽山の賊屯を擊ち之を破る。又胡林翼に隷して崇陽を拒ぐ。八年左宗棠を佐けて浙江を援ふ。道員に累遷す。殁して太僕卿を贈らる。

チヤウセイケツ 張世傑 (宋)范陽の人。少くして張柔に從ひ杞に戍す。罪あり、遂に宋に奔る。呂文德召して小校と爲す。後、越國公に封ぜらる。召されて入衛す。元兵皋亭山に至り、使を遣はして降を說かしむ。世傑其使を斬る。帝を衛りて崖山に駐まるに及び、元將張弘範之を襲ふ。世傑力戰す。弘範之を如何ともするなし。其時世傑甥韓某なるものあり、元軍の中に在り。弘範三たび韓をして招かしむ。世傑從はずして曰く、我降れば生き且つ富貴なるを知る、但義移すべからざるのみと。因て古忠臣を歷數して以て之に答ふ。蘇劉義方興等を帥ゐ朝夕大戰す。會々日暮れ風雨昏霧四塞して咫尺相辨ぜず。陸秀夫帝を負ひ水に投ず。世傑小舟を以て楊太后を救ふ。太后帝の崩ずるを聞きて以へらく、趙氏已に盡くと。亦海に赴て死す。世傑之を海濱に葬り、將に占城に趨らんとす。土豪之を强ひて廣東に還らしむ。乃ち舟を回らして南恩の海陵山に艤す。散潰帥稍集る。廣に入り颶風大に作る。將士世傑に岸に登るを勸む。世傑曰く、以て爲す樣に登り香を焚き祝して曰く、一君亡すれば復一君を立つ、今又亡して我未だ死せざる者は、庶幾は敵兵退かば別に趙氏を立てゝ以て祀を存ぜん、とするのみ、今此の如し、豈天意かと。即ち天を仰ぎ呼び曰く、天趙氏の祀を存ずるを欲せずんば、則ち風吾が舟を覆へせよと。遂に舟覆る。世傑溺れ、趙氏亡ぶ。

チヤウセイケン 張齊賢 (唐)陝州の人。聖曆の初めに太常奉禮郎と爲り、博士に遷る。禮制を論じて古義に合ふ。諫議大夫に累遷す。

チヤウセイケン 張止見 (南北)字は見頤。清河東武城の人。祖善之は魏の散騎常侍渤海長樂二郡太守。父修禮は魏の散騎常侍郎にして瑑に歸す。簡文東宮に在りしとき、正見年十三にして頌を獻ず。簡文深く之を賞す。嘗て經の講筵に預りて疑義を決す。吐納和順、進退詳雅、四座咸目を屬す。仕へて彭澤令に至る。亂に遭うて匡俗山に避く。瑑亡び陳に入り、又た仕へて尚書度支郎に至り、太建中卒す。年四十九。

チヤウセイケン 張齊賢 (宋)字は師亮。寃句の人。太祖四都に幸せしとき、齊賢布衣を以て十策を陳し、四戰旨に稱ふ。其餘皆善なるを堅執す。帝束帛を以て之に還る。歸るに及び晉王に謂て曰く、吾四都に幸して一張齊賢を得たり、吾之を官にするを欲せず、他日汝を輔けて相たらしむべしと。太宗位に即き進士を取る。齊賢も亦選中に在り。有司論擇を失ひ下第し寘く。帝悅びず。故らに一榜に書して及第を賜ひ、特に京官通判知陳州を與ふ。契丹侵寇す。齊賢

使を遣はして澶州に期せしむ。美、人をして報ぜしめて云く、師柏舉に至り、密詔を得て出戰を許さずと。齊賢曰く、寇は美の來るを知りて退きしを知らずと。乃ち夜兵二百人を發し、一幟を持し一束の芻を負ひ、三十里を距てゝ幟を列して芻を燃す。契丹の兵火光を見るに、中に旗幟あり。大に驚き以爲らく、師を并せて至ると。夜遁る。齊賢先づ步卒を前に伏せ、掩擊して大に之を破る。帝手詔褒嘉す。未だ幾くならず、召し入れて相と爲す。眞宗の朝に出でゝ運原諸路經略使と爲る。時に母晉國夫人孫氏年八十餘、尙善く飯す。上數召して宮中に至らしめ、禮遇甚だ厚し。嘗て詩を賜ひ壽を爲す。致仕して洛陽に還り、裴晉公が午橋莊を得、渠を鑿り流れを通じ、花を栽ゑ木を植ゑ、日に故舊と觴を攜へて其間に游釣す。嘗て詩を咏じて云く、午橋今得晉公莊、水竹烟花興有餘、師亮白頭心已足、四登五府九尙書と。卒して文定と謚す。

チヤウセイコン 張世坤 (清)眞生の子。能く父の學を傳ふ。著に匪言集あり。

チヤウセイジヤウ 張止常 (明)字は仲紀。世々黃溪龍虎山に居り。元の時、號を天師と賜ふ。太祖改めて正一嗣教眞人を授け、銀印秩を賜ふ。寮佐を設けて贊教と曰ひ、掌書と曰ふ。定めて制と爲す。子孫之が嗣ぎ皆眞人と稱す。

チヤウセイソク 張正則 (唐)永泰大曆の間、韓會、崔造、盧東美の三人と友とし、好んで當世の事をいひ、皆自ら王佐の才を以て任ず。之を四襲と號す。

チヤウセイハウ 張齊芳 (漢)驃騎將軍意の子。中興を歷。句容の靈山に退隱し、山に採り水に釣り以て自ら適す。人遂に其父の官名を以て其山を名づけて驃騎といふ。鄉人祠を立てゝ祀る。

チヤウセイロク 張世祿 (明)儀封の人。其の儲く所の山水人物、名時に重し。

チヤウセウ 張劭 (漢)字は元伯。汝陽の人。范式と友と爲る。式、劭に謂て曰く、後二年にして當に過ぎりて尊親を拜すべしと。期に至り、劭母に白して雞黍を具へて之を待つ。母曰く、二年の別れ千里言を結ぶ、何ぞ期を審にせんや。對へて曰く、巨卿は信士なり、必ず違乖せずと。是日式果して至り、堂に昇り母を拜し、歡を盡して別る。邵死す、夢を式に見はして曰く、吾某日に於て葬れん、子能く相及ばんやと。式奔り赴く。喪已に發して柩背て前まず。母曰く、元伯豈望むことありやと。須臾にして式白馬素衣號泣して來り、因て紼を執りて柩を引て而して前む。世に稱して死友と爲す。

チヤウセウ 張昭 (三國)字は子布。彭城の人。少くして學を好み、左氏春秋に通ず。漢末大に亂る。昭、江を渡る。孫策命じて長史撫軍中郎將と爲す。策亡するに臨み、弟權を以て昭に託す。權吳王と爲り敬禮彌よ重く、輔吳將軍に封し婁侯に封ず。昭、容貌矜嚴にして威風あり。權より以下皆之を憚る。卒して謚して文といふ。

チヤウセウ 張邵 (南北)字は茂宗。裕の弟。晉の琅琊內史と爲る。劉毅相と爲りて士を好み、士、其門に輻湊す。惟だ邵のみ往かず。宋武帝聞て而して之を重んず。大尉參軍に轉ず。帝命を受くるに及び、功を以て臨沮伯に封ぜらる。文帝の時に征虜將軍雍州刺史に轉じ郡督を加へらる。卒して簡白と謚す。

チヤウセウ 張昭 (南北)字は德明。陳吳郡の人。弟と俱に孝なり。父卒して兄弟鄰帛を衣ず、擣醯を食はず。日に蓼屠蘇を食ふ。一たび感動する每に必ず嘔血を致す。服終り又母を喪す。哀毀先の如し。家貧にして未だ大葬を得ず。遂に布衣蔬食十餘年。郡、孝廉に舉ぐれども就かず。

チヤウセウ 張邵 (宋)少くして氣節を負ひ、博學にして文を能くす。高宗の時に龍圖閣に直す。洪皓、朱弁と金に使ひして皆捷愾を拜せず。且づ書を具して言ふ、天未だ宋を厭はず、金乃ち地を割きて劉豫を封じ、復兵を窮めて已まず、曲在るありと。捷愾怒り之を祁山營に囚ふ。年を踰ねて劉豫に送り之を用ひしむ。邵、豫を見て長揖するのみ。又た其だ豫を呼んで殿院と爲し、賞むるに君臣の大義を以てし、辭色俱に厲なり。豫怒りて獸に下し、復金に送りて之を燕山の僧寺に拘ふ。後和議成るを以て放還せられ、秘書修撰に除す。

チヤウセウ 張昭 (宋)本名は昭義。字は潛夫。濮州范縣の人。十歲にして即ち月を閉ぢて書を讀む。長ずるに及び經史に淹貫し通儒と稱せらる。乾德中、蜀南平ぐ。劉鋹、使を遣し、臣稱に就きて獻俘の禮を問はしむ。昭、口占して以て對ふ。共に其該博に服す。卒する年七十九。

チヤウセウ 張昭 (明)天順の初、忠義前衛吏たり。英宗位に復するの初、廷臣の四洋に遣はさんと欲す。昭之を諫止す。

チヤウセウ 張弨 (清)字は力臣。山陽の人。六書に精し。貧にして古を好み、尤も心を金石に究め、搜討遺すなし。亭林音樂五書、皆寫定する所。

チヤウセウ 張照 (清)字は得天。號は溥南。江蘇華亭の人。康熙四十八年の進士。刑部尚書に累官し、樂部中允を兼ぬ。法律に通じ音樂に精しく、尤も書に工みなり。高宗懷舊の詩に云く、書有夾之雄、而無米之略、復有董之整、而無蔡之嶷、義之後一人、舍照誰能者と。其重んぜらるゝ此の如し。卒して太子大保を贈り文敏と謚す。

チヤウセウトウ 張紹登 (明)字は振天。南城の人。崇禎中の舉人。應城縣を知す。崇禎九年賊來り犯す。紹登、之を禦ぎて遂に死す。

チヤウセウエン 張昭遠 (宋)濮の子。

チヤウセキ 張籍 (唐)字は文昌。烏江の人。古詩及び書輪行草を善くす。進士に擧げられ水部員外郎たり。累官して國子司業に至る。籍性狷直にして物を容れず。是時韓愈文術を以て天下の士を輕重す。而して籍は愈の客と爲り、且つ朝に鬻めらる。是より名、人口に播き、當時の賢士爭て之を慕ふ。

チヤウセキビ 張錫眉 (明)嘉定縣の人。崇禎末の舉人。嘗て兵を起して義を倡ふ。事成らず、竟に國に殉ず。

チヤウセツ 張説 (南北)字は巴玉。齊封川縣の人。官、司空に至る。長生久視の方を慕ふ。葛洪、家に至り臣に謂て曰く、上帝の命を奉じ子に命丹火鼎を授く、汝秘して而して之を行ひ、以て貧苦を救ふべしと。梁天監二年、夜半忽ち空中に臣を喚ぶを聞く。云ふ、清晨家を挈へ山に入るべしと。臣次日全家を携へて往き、女嚴復をして家に在らしむ。午間一疥癩道人家に至り、盧女に問ふ、酒罌何くにか在ると。盧之を指示す。道人酒缸中に入り、疥癩を浴し良久しくして去る。女に謂て曰く、司空に傳謝せよ、葛道士特に來りて相訪ふと。臣回り、之を聞て喜ぶこと甚し。庫酒を開くに異香あり。遂に全家をして之を飲ましむ。惟盧女其浴するを見、疾に託して飲まず。次日祥雲繽紛を擁し下り迎ふ。舉家八十餘口、白日飛昇す。惟り盧女半空に至り墜つ。累官して國子司業に至る。

チヤウセツ 張説 (唐)字は說之。河南の人。開元中、中書令に累官し、燕國公に封ぜらる。文章を以て天下に稱せらる。

チヤウセン 張鮮 (明)字は子野。烏程の人。性豪爽、貲を積むこと鉅萬。唐に仕へて沂密二州刺史を歷、唐亡びて晉に入り、出帝の時、將軍を以て馬を回鶻に市ふ。馬、式に中らざるに坐し、有司其假直を理す。因て鬱々として卒す。

チヤウセン 張闡 (宋)工部侍郎。上言して、遣使の命を嚴にし敵國の禮を正さんと乞ふ。曰く、彼或は從はざれば則ち戰ひあるのみ、此の如くんば則ち中國の威以て復すべしと。孝宗其言を然りとす。後、陳騤伯和を主とす。騤復た抗言して曰く、彼和を欲するは我を畏るゝか、直に我を欺くのみと。因て六害を力陳す。帝之を愧めて曰く、朕が意亦然り、結く宜きに隨て之に應ずるのみと。

チヤウセン 張先 (宋)字は子野。烏程の人。康定の初の進士。詩格清麗、尤も樂府に長ず。靈破月來花弄影、浮萍斷處見山影、

て自ら進み、甚だ當時の爲に重ぜらる。後年老て致仕す。後、隋の高祖徵し至り、賜ふに几杖を以てす。後、上表して勸むるに儉約を以てす。優詔して之に答ふ。卒する時年八十四。謚して定といふ。撰する所、老子莊子義あり、名けて道言と曰ふ。五十二篇あり。

チヤウセン 張鷟 (唐)鷟の孫。敏銳にして文辭あり。左拾遺に累官す。虞杞が姦慝を論じて譴議大夫に進む、秘書少監に改まる。卒して謚して憲といふ。

チヤウセン 張銑 (五代)鈞の弟。海州の人。性鄙吝、貲を積むこと鉅萬。唐に仕へて沂密二州刺史を歷、唐亡びて晉に入り、出帝の時、將軍を以て馬を回鶻に市ふ。馬、式に中らざるに坐し、有司其假直を理す。因て鬱々として卒す。

チヤウセン 張闡 (宋)工部侍郎。上言して、遣使の命を嚴にし敵國の禮を正さんと乞ふ。曰く、彼或は從はざれば則ち戰ひあるのみ、此の如くんば則ち中國の威以て復すべしと。孝宗其言を然りとす。後、陳騤伯和を主とす。騤復た抗言して曰く、彼和を欲するは我を畏るゝか、直に我を欺くのみと。因て六害を力陳す。帝之を愧めて曰く、朕が意亦然り、結く宜きに隨て之に應ずるのみと。

チヤウセン 張先 (宋)字は子野。烏程の人。康定の初の進士。詩格清麗、尤も樂府に長ず。靈破月來花弄影、浮萍斷處見山影、

隔牆送過秋千影の句あり。時に號して張三影と爲す。一に云ふ、無數楊花過無影、絮ふらくは是れ子野の句と。官、都官郎中に至る。

チヤウセン 張潤 (金)字は仲升。武清の人。幼にして志節あり、高仲振の門下にあり。天興の間、兵を少室山に避け、食はざるもの七日、妻と倶に絕澗に投じて死す。

チヤウセン 張銓 (明)字は宇衡。沁水の人。萬曆三十二年の進士。保定推官を授けられ御史に擢でらる。熹宗即位、出でゝ遼東を按ず。賊起りて爲に執へらる。衣冠を整へ自經して死す。

チヤウセン 張選 (明)字は舜舉。無錫の人。嘉靖八年の進士。知縣より戶科給事中に擢でらる。會々郭勛に代りて宗廟の祭事を首ひ、廷杖せられて幾んど死し、已にしてまた蘇す。擊海内に傳ふ。官に居ること僅に三月、穆宗立ち、遇赦叅謫に除ぜらる。尋で年老を以て致仕して卒す。

チヤウセン 張瑄 (明)字は廷璽。江浦の人。正統七年の進士。刑部主事より郎中に歷す。景泰成化の交、南京刑部尚書に累遷し、事を以て勤體せらる。孝宗立ちて復官す。

チヤウセン 張銓 (明)宦遼の人。從征して功を累れ指揮僉事に任ぜらる。洪武二十三年、永定侯に封ぜられ食祿千五百石、指揮使を世にす。

チヤウゼン 張楨 (宋)字は材仲。敦の子。遂安縣に知たり。方臘、縣に寇し、兵、遂安縣に入る。縣丞潭尉肯書に遇ふ。楨、力戰して刃骨に中る。縛して巢穴に入る。楨、賊に知たり。臨安府通判に陞り、泰州衛三州に知として、皆愛惠を以て稱せらる。卒するとき年七十八。官、朝請大夫に終る。正議大夫を贈らる。

チヤウセンウン 張蟬雲 (明)女子。蒲城の人。愈檜に字す。萬曆中、檜誣ひられて獄に繫がる。女、賄脫を得るを聞き、絕奩を貸して之を助けむと欲す。母許さず。女方に食す。即ち鴆を以て地に擲ち、幕に至て死す。

チヤウゼンギ 張全義 (唐)河南尹。初め東都洛に寇亂を經、戶は百に滿たず。全義流散を招懷して之に樹藝を勤め、刑寬に事簡なり。遂近之に趨くと市の如し。出でゝ田疇の美なる者を見れば、田主を召し勞するに酒食を以てす。蠶桑を收むる者あれば、賜ふに薪粟を以てす。田荒穢する者あれば、衆を集めて之を杖つ。是に由りて比戶豐實。水旱するも飢うるなし。既に去る。百姓之を思ひ、廟を立てゝ以て祀る。

チヤウゼンシヤウ 張全昌 (明)臣の孫。累官して宣府總兵官たり。屢〻清兵を拒ぎて利あらず。遂に罷謫せらる。

チヤウソ 長沮 (周)楚人。世を避けて隱居す。孔子楚を過ぎり、沮の耦耕するを見、乃ち子路をして津を問はしむ。沮曰く、是れ魯の孔丘か、是れ津を知らんと。

チヤウソ 張祚 (晉)前涼主第七世。字は太伯。駿の庶長子。靈曜を殺して自立す。恣に淫虐を爲し衆心皆背く。立て三年、國人に殺さる。威王と追謚す。

チヤウソ 張楚 (南北)梓潼の人。母疾む。昕禱著に至り、指を截りて自ら誓ふ。精誠感悟して疾癒ゆ。元嘉中、詔して門に榜して孝行といふ。

チヤウソ 張璇 (元)字は可用。渤海の人。範の子。世祖宋を伐つ時、凡そ徵發軍旅の文檄、悉く其手に出つ。威州の縣民、險を負ひて亂を爲す。璇往て諭す。逆黨百ら總して罪を請ふ。强を抑へ弱を扶くるを以て至る所の民皆喜ぶ。安豐路總管と爲る。官に卒す。清河郡公に追封し文敬と謚す。

チヤウソウ 張宗 (漢)南陽晉陽の人。鄧禹の河東を定むる時、宗、禹に謂り自ら薦す。禹、其機謀多きを聞き、表して偏將軍と爲す。禹が軍栒邑に到り赤眉の至るに遇ふ。宗後拒と爲り之を郤く。諸將其勇に服す。是より戰あれば必ず勝つ。河南部尉、大中大夫に累遷し、琅琊の相に終ふ。

チヤウソウ 暢皆 (漢)水德經一卷を撰む。

チヤウソウ 張瑞 (明)字は秉用。永嘉の人。鄉擧七試、第せず。年四十七、正德丁六年登郡す。疏して旨に稱ふ、頗る寵眷を極む。御醫を遣ひて名を手敕、字を手敕と賜ふ。官に出入すると再三、遂に疾を引き

歸り、嘉靖十八年二月卒す。太師を贈り文忠と謚す。

チヤウソウエウ 張僧繇 (唐)丹青絶代なり。金陵安樂寺に於て二龍を壁に畫き睛を點ぜず。人其故を問ふ。曰く、之を點ぜば即ち飛び去らんと。人以て妄と爲す。因て其一を點ずれば須臾にして雷電壁を破り一龍天に上り、其一點ぜざる者在り。閻立本往きて其畫壁を觀て曰く、虛名を得るのみと。再び往て曰く、猶近代の名手と。三たび往き、其下に寢食すること數日にして方に去る。

チヤウソウカウ 張侗倉 (南北)字は山容。烈の弟。書を歷涉し談說に充に、當世に名あり。諫議大夫を以て徵せども起たず。世號して徵君と爲す。

チヤウソウカウ 張宗衡 (明)崇禎十五年、清兵河間を圍む。宗衡、張振秀等と之を禦ぎ遂に破れて死す。太子少保を贈らる。

チヤウソウカウ 張總康 (清)字は炳垣。江寧府學の廩生。咸豐二年、潘公鐸に從て長沙を守ること八十餘日にして圍初めて解く。三年、九江の兵潰え、賊省垣に逼る。城陷りて賊に擒へらる。賊、之を書算に充つ。密に內應を爲さんと欲し、凡そ七たび書を上り而して奇功就らず。遂に害せらる。

チヤウソウサウ 張宗蒼 (清)字は默存。一字は墨岑。號は篁村。吳縣の人。山水を善くす。黃尊石の門に出つ。用筆沈着、皴法多く乾筆を以てす。材木を積累する、間々赤銅墨を用ひて乾緻す。乾隆十六年舉博を進め、命を以て都に入り內廷に祗候す。十九年特に戶部主事を授けらる。尋いて老を告げて歸り家に卒す。

チヤウソウヒツノツマ 張宋弟妻 (清)甄氏。三歲にして其の夫卒す。一子を生み甫めて五歲、亦卒す。獨り遺姑あり、子として一親なし。甄之に事へて孝を盡す。寬に孀守して外念を絕つ。

チヤウソウレン 張宗璉 (明)字は貢器。吉水の人。永樂二年の進士。刑部主事、左中丸、南京大理丞等を歷す。御史孚立の暴橫を怒り、直言に發して卒す。民白衣喪を送る者千余人。

チヤウソクシ 張即之 (宋)孝伯の子。父の愚を以て承務郎を授けらる。司農寺丞知嘉興に累官し、直秘閣を以て致仕す。能書天下に聞ゆ。金人其翰墨を得ればこれを重んずること寶の如し。

チヤウソツ 張率 (南北)字は士衡。吳縣の人。六歲にして能く文を屬す。南齊の時に蔡才に舉げられ太子洗馬に累官す。梁の天監の初め司徒に遷る。嘗て待詔賦を作る。帝手づから之に勅して曰く、相如は工にして敏ならず、枚皐は敏にして工ならず、卿之を兼ぬと。遂に秘書丞に遷り黃門侍郎に至る。文衡十五卷文集四十卷あり。率年十六歲にして賦頌二千餘首を作る。虞訥見て之を祗る。率、一旦焚毀し、更に詩を爲りて之を示し、託して云ふ、沈約の作なりと。訥俛ち句々稱賞す。率曰く、此れ吾が作なりと。訥愧ぢて退く。率、酒を嗜み疎脫なり。新安に在りて家僮を殺して米三千斛を載せて吳に還らしむ。耗して大半を失ふ。率其故を問ふ。曰く、雀鼠の耗なりと。率嘲て曰く、壯なる哉雀鼠と。竟に究めず。

チヤウソン 張瑟 (三國)鉅鹿の人。漢魏間の微辭に皆壓せず、遠く恒山に遊る。魏の明帝の時に張掖郡に寶石あり、圖を負ふ。太史令上奏して以爲らく、有魏の禎なりと。或は以て瑟に問ふ。曰く、神は以て來を知り既往を追はず、此石は今日の異、將來の禎祥なりと。遂に隱居して時と競はず、道を以て自ら樂む。年百有五歲にして卒す。

チヤウソン 張遜 (唐)乾寧の初め山陰令と爲る。董昌反して百官を署置す。遜を召して御史臺を知どらしめんとす。遜固辭して曰く、王自塞して天下の笑と爲る、且六州の勢逆王を助けず、孤州に據りて祗に死を速くのみと。昌怒て曰く、遜天意を知らず、邪說を以て我を拒むと。之を囚す。他日人に謂て曰く、費縱ひ遜なくも事に乏しきなしと。乃ち竟に之を害す。

チヤウソン 張存 (宋)世々深州に家す。父文質、冀州に徙る。存、進士に舉げられ、天禧中、侍御史に累官す。積遷して禮部尚書に至る。中外に出入し、七たび州牧を典り、更に清節を持し、皆歸然として望あり。性孝友なり。家居するに矜莊。子孫衣冠を正すに非ればこれを見ず。宗族を收恤して一人を

して所を失はしめず。卒して恭安と謚す。司馬老は其壻なり。

チヤウソン 張遜 (元)字は仲敏。溪雲と號す。吳郡の人。善く竹を畫く。鈎勒法を用ひ當世に妙絕す。山水は巨然を學ぶ。

チヤウソンカウ 長孫翊 (唐)蕭代の時の人。詩を能くす。

チヤウソンカン 長孫翰 (南北)肥の子。少にして父の風あり。騎射を善くするを以て獵郎と爲る。明元の外に在るや、翰、元磨渾等と潛かに奉迎を謀る。明元即位す。磨渾等と左右に拾遺たり。功を以て平南將軍、果遷し、衆を率ゐて北境を鎭す。威名甚だ著はる。太武即位す。平陽王に封ぜらる。翰、清直嚴明、屢く將卒を辱す。其の死するに及び太宗爲に流涕して親ら其喪に臨む。喪禮、安成王の故事による。謚して威といふ。

チヤウソンクワウコウ 長孫皇后 (唐)太宗の皇后。河南洛陽の人。晟の子。其の先は魏の拓拔氏。後宗室の長となり、因て長孫と號す。異母兄安樂反を謀り將に誅せられむとす。后叩頭して曰く、安樂罪死赦す無し、然れども向きに妾を遇するに慈を以てせず、今論ずるに法の如くせば、必ず謂はむ、妾憾を兄に釋つと、乃ち帝果たるなからむやと。遂に越席に流す。后性約素、圖籍を喜び古今成敗の跡を觀て自ら鑒む。嘗て遊春曲を作る。帝見て之を誦ず。后古婦人の事を采りて女則十篇を著す。年三十六にして崩ず。文德聖皇后と曰ふ。

チヤウソンケン 長孫儉 (南北)本名は慶明。北平王滿五世の孫なり。少にして方正操行あり、狀貌魁偉、神采嚴肅、私室に在りと雖も終日儼然たり。性妄りに交はるを好まず、其同志にあらざれば貴游其門に造るも亦與に相見ず。太平中四方騷擾す。爾朱天光に從ひて宿勒智達等を破る。功を以て爵索靖侯を賜ふ。文帝深く之を敬す。時に初めて附す。文帝、儉の功績を表して三荊等十二州の諸軍事を都督せしむ。荊蠻の舊俗、少、長に事へず。儉、股勤勸導して風俗大に革まる。務めて耕桑を廣め兼て武事を習はしむ。故に邊境侵なく、民其業に安んず。吏部、儉の樸清德默を表請し、碑を樹て文を刻す。又闕に詣りて留めんことを請ふ。朝庭嘉みして之を許す。七載を經て徵されて大行台尚書を授けられ相府司馬を兼ぬ。嘗て群公と侍坐す。文帝左右に謂て曰く、此公閑雅なり、孤每に與に語る長敬して失ふ所あるを恐る。他日に蕭然長歎して曰く、名と實とは理、相稱ふべし、尙書、志、既に貧素に安んず、儉と改名して以て雅操を彰すべしと。尙書左僕射を遷し侍中を加へられ尋て上柱國に拜せらる。卒して文と謚し鄭國公に封ず。

チヤウソンゲン 長孫彥 (南北)承業の子。膂力あり、父の征討に從ひ功を以て槐里縣子に封ぜらる。孝武帝齊の神武と隙あり。彥に中軍大都督を加へ弘農を鎭せしめて以て恪となす。帝に從ひ關に入るに及びて高平郡公に封ぜられ儀同三司に位す。彥、少時馬より墜ちて臂を折る。肘上起骨寸餘なり。乃ち命じて肉を開き骨を鋸り流血數升なるも言辭自若たり。時人以て關羽に踰るとなす。

チヤウソンサウ 長孫操 (唐)字は克節。洛陽の人。武德の間、陝東道たり。大行台城中に井なし。廣濟堰を開き水を引き以て井に代ふ。百姓其便に賴る。母の喪を以て解任す。

チヤウソンサホ 長孫佐輔 (唐)詩人なり。

チヤウソンジユントク 長孫順德 (唐)無忌の子。貞觀中、澤州刺史たり。節を折りて政を爲す。嚴明を以て稱せらる。先時の守長等多く餽問を通ず。順德、繩摘して容るゝ所なし。號して良才と稱す。

チヤウソンジヨ 長孫恕 (唐)貞觀中龍門令たり。縣の東南に石壩堰を壅ち田に溉ぐ。良沃にして畝に十石を收む。又縣西に馬鞍堰を穿つ。

チヤウソンスウ 長孫崇 (南北)代人。父仁、昭成の時、南郡太守たり。崇、寬雅にして器度あり、年十四、魏に歸す。果りに軍功を著し侍中司徒相州刺史を歷、改めて南平公に封ぜらる。明元即位す。崇、三陽侯奚行、北新侯寶同、白馬侯崔梁等八人と萬機を佐理す。世に八公と號す。太武即位す。平北王司州中正に進められ太尉に遷る。高麗を征するとき、崇、元老を以て多く留

りて京師を鎮す。謚して宣王といふ。

チヤウソンセイ 鳥孫晨　(南北)字は孝晨。射を善くし、一箭、雕を貫く。突厥、之を畏れ、其走馬を見て謂うて閃電となす。周に仕へて將軍となる。女、唐の太宗の后となり、女則一篇を著す。

チヤウソンセウエン 長孫紹遠　(南北)字は士師。寛容にして大度あり、典籍を好み聰慧人に過ぐ。父承業、壽春の牧たり。時に紹遠年十三。承業の管記に王頊なる者あり。文學の士なり。紹遠の强記を聞き之に試むるに禮記の月令を以てす。紹遠、紙を讀むこと一遍、之を誦して流るゝが如し。司徒府參軍となり、射ちて河東蜀薛を平ぐ。河東縣侯に封ぜらる。

チヤウソンタイ 長孫順　(南北)嵩の子。騎射を善くし弓三百石を繰く。爵を襲ぎ侍中鎮南大將軍を加へらる。

チヤウソンダウセイ 長孫道生　(南北)魏に仕へて司空となる。性清儉なり。一熊皮の障泥、數十年易へず。身三司たるも、衣華飾せず、食味を兼ねず、第宅卑陋なり。卒の後、其子弟順る修繕す。乃ち子弟を切責して其宅を毀たしむ。時人之を愛嬰に比す。

チヤウソンチヨウ 長孫澄　(南北)字は士亮。年十歲の時、司徒李璵之を見て奇とし、遂に女を以て之に妻はす。十四歲、父承業に從ひて征討す。智謀あり、勇、諸將に冠たり。功を以て西華縣侯に封ぜらる。長ずるに及び穿鋭雄偉風儀高雅なり。大統中、豫渭二州の刺史を歷、永寧伯に封ぜらる。

チヤウソンブキ 長孫無忌　(唐)長孫晟の子。字は輔機。博く書史に渉る。嘗て隋志を攝む。太宗を佐けて天下を定む、功勳第一たり。比部郎中に擢でられ齊國公に封ぜられ太子太師に累遷す。後ち褚遂良と同に顧命を受く。高宗の初め武昭儀を立つるを諫めしを以て爵を削られ黔州に流さる。

チヤウソンリヨ 長孫慮　(南北)代の人。母、酒を飲む。父眞、之を叱し誤りて杖を以て擊死す。縣吏之を執へ處するに重坐を以てせんとす。慮、辭を尙書に列して云ふ、父母怒り爭ふ、本と餘惡なし、直ちに誤擊を以て一朝橫過す、今母の喪未だ瘳せずして父の命旦夕なり、慮兄弟五人、並に冲幼なり、慮の身、長に居て今年十五、一女弟あり、尚ほ始めて四歲、父若し刑に就かば溝壑に交墜せん、乞ふ身、父の命に代り嬰刑をして存立を蒙るを得しめんと。尙書奏して云ふ、慮、父に於ては孝たり、弟に於ては仁兄たり、情を尋ね狀を究むるに特に矜憐すべきなりと。詔して其父の死罪を恕す。

チヤウソンレイ 長孫禮　(南北)彥の子。父の任を以て散騎侍郎となり、襲成公爵。元等と與に內侍す。恭敏にして才志あり。太武、之を顧眄して曰く、其父、吾祖に親しみ、其子我が左右に在り、亦た宜しからずやと。

チヤウタイ 張岱　(南北)字は景山。裕の子。水部郎に歷官して司徒掾に轉ず。母年八十、輙ち官を去る。有司糾さんと欲す。宋武帝曰く、過を觀て仁　知る、按するを須ひずと。明帝の時に州刺史を歷て諸軍事を都督す。齊高帝、岱が直なるを知り、給事中を加ふ。後、散騎常侍吳興太守に進む。卒して貞子と謚す。

チヤウタイ 張泰　(明)字は叔亨。廣東順德の人。成化二年進士に登る。知沙縣たり。時、恰かも鄧茂七の亂後に屬す。泰、流亡を招集して盡く舊に復す。入つて御史たり。憲を以て家居す。弘治五年故官に起ち、南京戶部尙書に累擢せられて致仕す。正德三年七月卒す。

チヤウタイ 張泰　(明)字は亨父。太倉の人。天順間の進士。檢討を授けられ修撰に遷る。性恬淡自ら守る。時、李東陽に亞ぐ。弘治間、皆張滄州と稱す。蓋し泰に滄州集あるを以てなり。同時に陸釴、字は鼎儀、陸容、字は文量あり。時人婁東の三鳳と號す。

チヤウダイ 張黛　(明)字は用和。歷城の人。成化十一年の進士。襄陵知縣を授けらる。入りて御史たり。直聲あり。帝心之を惡む。出て江西を按し盜を捕ふ。右副都御史巡撫事に進む。後ち劉瑾の厄に罹る。瑾

誅せられて官に復す。

チヤウタイイン 暢大隱　(宋)字は潛頌。洛陽の人。程氏を師とす。今の程氏の遺書廿五卷は則ち其記せし所なり。

チヤウタイジユ 張大受　(清)字は日容。長洲の人。順治甲午の舉人。己丑、進士となる。官、檢討。嘗て精舍を治め、匠門溪上、徒を聚めて經を說く。學者、履素先生と稱す。著に匠門集あり。

チヤウタイセツ 張大節　(金)字は信之。代州五臺の人。諸官を歷て靈武軍節度使に移る。世宗嘗て宰臣に語るらく、大節賦性忠實、政に從ふに果なり、惜いかな之を川ふるの太だ晚きと。承安五年致仕して卒す。年八十。

チヤウタイセツ 張大節　(清)偃師の人。乾隆十一年秋、伊洛水溢る。民皆水を奎星樓上に避く。大節亦母を奉じて登る。既にして水急にして樓傾き、皆水に落つ。大節、左手石柱の爲めに斷たる。右手を以て濤に入り母を救ふ。母惑なきを得たり。大節創重くして遂に死す。

チヤウタイチ 張大中　(宋)通州の人。群經百氏一覽して忘れず。人目して黑漆書厨と爲す。宣和間進士に擧げられ南浦令と爲る。時に稱して古廉吏と爲す。泉州通判に累官す。

チヤウタイチヨウ 張泰徵　(明)萬曆中の進士。四維の長子。累官して湖廣參政たり。

チヤウタウ 張湯　(漢)杜陵の人。見たる時、父に隨て長安丞たり。父之をして舍を守らしむ。鼠、肉を盜む。父怒て之を笞つ。鼠穴に入りて鼠及び餘肉を掘り得、鼠を劾して掠治し、書を援て訊鞫し、鼠を堂下に磔す。父其文辭を視て大に驚て曰く、此れ乃ち老吏の斷案なりと。乃ち獄を司らしむ。漢武の朝に大中大夫に拜せらる。子安世より吉に至るまで八世皆貴盛なり。

チヤウタウ 暢當　(唐)詩人。貞元中太常博士となる。

チヤウタウ 張燾　(宋)字は景先。兵部侍郎と爲る。河南に詣り陵廟を修せしむ。還り奏して曰く、金人の禍、上山陵に及ぶ、之を殄滅すと雖も未だ以て此の耻を雪ぎ此讐を復するに足らずと。因て必ず和盟を恃み復仇の大事を忘るべからざるを極言す。帝問ふ、諸陵時は如何。燾對へず。惟言ふ、萬世此賊を忘るべからずと。帝默然たり。秦檜之を患ひ、遂に燾を貶して成都府と爲す。時に燾の言を稱す、所謂直ちに氣を吐て虹を斗寒きものと。

チヤウタウ 張讜　(宋)端平間に德興縣に知たり。人之を頌して曰く、張侯張侯、敷政儒游、農樂其業、禾黍有秋と。

チヤウタウ 張瑾　(宋)衡山の人。僕射浚の後なり。益王立ちて天下に詔して勤王せしむ。銓兵を衡山に起し、檄を安化勤化諸縣に移して民兵數千を得。文天祥兵を率ゐ出でゝ領す。相與に接戰す。既にして兵敗れて執へらる。元の參政張燮之を降さんと欲す。鎧罵て曰く、今日降て而して死せば、何を以て我が祖魏公に地下に見えんやと。城命じて起兵の本末を述べしむ。鎧筆を奪ひ斥罵すること千百言。城怒て之を殺す。

チヤウタウ 張燾　(宋)奎の子。進士に擧げられ州縣を歷仕して皆治績あり。累官して龍圖閣直學士判太常に至る。燾、才智敏捷。英宗の時に三司闕んで事を奏す。帝、錯綜の本を詰る。皆對ふる能はず。燾悉く之を論じて釐すなし。帝之を是なりとす。

チヤウタウ 張瑄　(明)字は廷玉。慈谿の人。正統中の進士。刑部主事を授けらる。十四年八月、土木の難に殉す。

チヤウタウ 張燾　(清)福建連江の人。順治十三年、亂に遭ひて父子相失ふ。後數年にして歸り、事養甚だ孝なり。

チヤウダウゲン 張道源　(唐)并州の人。高祖の時に大理卿と爲る。年十四にして父の喪に居り。士人其孝を賢とす。縣令郭湛、其居る所に署して復禮鄉至孝里といふ。道源嘗て客と夜宿す。客盜に死す。道源主人の恐怖するを恐れ、屍側に臥して曙に至りて乃ち告ぐ。又徒步して其喪を護送して家に還す。

チヤウダウリヨウ 張道陵　(漢)字は輔漢。子房八世の孫。建武十年天目山に生る。龍眉隆準力願、七歲にして道德經地理河洛圖緯の書に通じ、皆其奧を極む。退きて北邙山に隱る。章帝召せど起らず。和帝徵して太傅と爲し冀縣侯に封ぜんとす。皆就か

す。蜀に入りて鶴鳴山に隱る。道陵仙術を修し、諸の奇特あり。稱して眞人と謂ふ。飛昇輕舉の法、諸品秘籙、斬邪二劍、玉冊玉印を以て其長子衡に授け、之を戒めて曰く、此文を領して邪を驅り祆を除し國を佐け民を安ぜよ、世々一子吾の位を紹げ、吾が家の子孫に非ざれば傳へざれと。永壽元年正月七日、夫人雍氏、弟子王長、趙昇と、霄臺峰に於て白日昇天す。年百二十三歲。今子孫眞人を世襲して江西貴溪の龍虎山に居りといふ。

チヤウタクノツマ 張鐸妻 (明)汝州の人。丁氏。崇禎の末、賊、城を破る。丁氏婢に謂て曰く、今日必ず死す、賊を殺して斃れは義烈鬼と爲らむと。是に於て挺を執り前む者三たび、賊大に怒りて之を刺殺す。

チヤウタン 張湛 (漢)字は子孝。平陵の人。矜嚴にして禮を好み、動止則あり。幽室に居て必ず整へ、妻子を遇する嚴君の如し。經黨に在て詳審正色、人以て儀表と爲す。光武の時光祿勳に拜せらる。數々諫諍す。嘗て白馬に乘ず。上之を見て輙ち曰く、白馬生且つ復た諫めんとするかと。後に太子太傅と爲る。

チヤウタン 張亦 (唐)華陰主簿。守令の爲に抑せられ歎じて曰く、大丈夫凌雲蓋世の志あり、而して下位に拘すること身を矮屋の下に立つるが如く、人をして頭を擡げ得ざらしむと。遂に官を棄てゝ去る。時に楊國忠權を專らにし、公卿以下諂事ざるなし。或は衆に勸め之に謁せしめて曰く、一たび見えば富貴立どころに圖るべしと。亦曰く、君璽の楊右相に倚るは泰山の如し。爲すのみ、若し皎日一たび出てなば君璽恃む所を失ふなきを得んやと。遂に嵩山に隱る。

チヤウタン 張澹 (宋)字は成文。南陽人。り移りて河南に居り。學を好み才藝あり。晉の進士桑維翰之を器とす。左拾遺禮部員外郎知制誥を歷る。宋の初め祠部郎中權直學士院を加ふ。尋て殿中監を擢し金紫を賜ふ。澹、風儀に美にして談論を善くす。中外に歷官して至る所皆洽ふ。

チヤウタン 張且 (宋)趙人。勇敢にして射を善くす。經學を以て第に中り國子博士と爲る。淳化中陵州に知たり。眞宗即位して兵部員外郎に遷り、尚食使知德清軍に改なる。景德中契丹入寇す。且、子利と擊て並に戰沒す。上之を聞きて驚悼し、特に左衛大將軍梁州團練使崇義副使を贈る。

チヤウタン 張端 (明)字は廷端。肯堂と號す。常熟の人。善く竹石を畫く。亦平遠小景を能くす。

チヤウタンゼン 張澹然 (明)九節道人と號す。蜀を善くす。山水は二米を宗とす。布景清雅。亦能く枯木竹石を作る。

チヤウチ 張鷹 (晉)樂成の人。隱居頤志、辟命に應ぜず。一郡號して高士と爲す。家に苦竹數十頃あり。張、竹中に於て屋を爲り、常に其中に居り。王右軍聞て之に造る。張竹中に逃避して與に相見ず。

チヤウチウ 張丑 (周)丑、燕に質たり。燕王之を殺さんと欲す。走りて且さに境を出でんとす。境吏丑を得。丑曰く、燕王の將に我を殺さんとする所の者は、人我に寶殊ありといひ、王之を得んと欲するなり、今我已に之を亡へり。而して燕王我を信せず、今子且さに我を致さんとす、我且さに子我が殊を奪て之を呑めりと言はんとす、燕王必ず子を殺して子の腹を剖き子の腸に及ばん、夫れ得を欲するの君は說くゝ利を以てすべからず、吾且つ死せん、子が腸も亦且さに寸絕せんとすと。境吏恐れて之を釋す。

チヤウチウ 張仲 (周)詩に云く、侯誰在矣、張仲孝友と。

チヤウチウ 張忠 (晉)字は巨和。中山の人。泰山に隱る。恬靜寡慾。符堅使を遣はして之を徵す。辭す。之を送り還して華山に達す。歎じて曰く、我は東嶽の道士、四嶽に殺す、これ命なり、奈何せんと。行くこと五十里、關に及びて死す。謚して安道先生といふ。

チヤウチウ 張冲 (南北)字は叔元。吳人。陳に仕へて左中郎將と爲る。其好みに非ず。乃ち思を經典に覃くし、春秋義略を撰す。杜氏に異なるもの七十餘事。また孝經論語論義十卷、前漢學義十二卷あり。官、國子博士に至る。子復胤。

チヤウチウ 張忠 (宋)字は聖昆。開封の

人。慷慨にして生產を事とせず。仁宗の時に累官して澧州に知たり、澧州總管に徙る。會々河、商胡に決す。詔して戍卒を留め以て堤役を助けしむ。輙ち群譟して亂を爲す。忠、潛に倡亂者數人を捕へて之を斬り、以て徇ふ。乃ち止む。

チヤウチウ 張鑄 (宋)洛陽の人。五代の時進士に擧げらる。梁に仕へ秘書監判光祿寺に累官す。宋の初め檢校刑部尚書を加へらる。鑄奏儀に美にして筆札を善くす。老て能く燈下に細書する蠅頭の如し。晉より以來數號封冊皆鑄之を書す。卒するに及び身に雜衣なし。家人其馬服劍圃を鬻ぎ以て喪を治す。

チヤウチウ 張中 (元)字は子正。松江の人。山水を畫く。黃一峰を師とす。亦墨戲を善くす。

チヤウチウ 張冲 (明)字は圓南。江都の人。畫に工なり。

チヤウチウ 張翀 (明)字は子儀。柳州の人。嘉靖三十二年の進士。刑部主事を授けらる。嘗て嚴嵩父子を劾して謫せらる。穆宗の時に至りて大理少卿に累擢せらる。討寇功あり、兵部右侍郎に進む。侍養を以て歸る。萬曆中、故官に起す。固辭して家に卒す。天啓の初 兵部尚書を贈り忠簡と謚す。

チヤウチウ 張籌 (明)字は惟中。無錫の人。詹同の薦を以て翰林應奉を授く。禮部主事に改む。嘗て詔を奉じて陶凱と四體編を編集す。後出でゝ湖廣參政たり。

チヤウチウ 張翀 (明)字は習之。潼川の人。正德六年の進士。庶吉士に選ばれ刑部給事中に改められ、疾を引きて歸る。既にして戶部に起つ。世宗即位の初、詔して天下顯外の貢獻を罷む。明年旋た即ち反す。翀上疏して其不可を言ふ。聽ぜらる。禮科給事中に累遷す。事を以て廷杖せられ置墻衛に謫戍せらる。居ること十餘年、東宮冊立の恩を以て放還せられて卒す。

チヤウチウツ 張仲蔚 (漢)平陵の人。博學にして詞賦を善くす。門を杜ち性を養ふ。三徑の蕪漸人を沒す。時人識るなし。惟劉龔のみ之を知る。

チヤウチウカ 張仲軻 (金)幼名は牛兒。市井の無賴なり。俳優を以て樂とす。傳奇小說を善くし、雜ふるに諧謔を以てす。海陵之を左右に引き以て戲笑に資す。後海陵を佐けて逆を成す。

チヤウチウカイ 張仲偕 (唐)伯偕の弟。

チヤウチウケン 張仲堅 (隋)四京の人。狀貌偉にして聲は虬の如し。衆號して虬髯公といふ。雄才大略、人これを測るなし。李靖と友たり。唐の將に興らんとするを見て、去りて之く所を知らず。唐の貞觀中、南蠻奏して曰く、海船千艘甲兵數十萬、扶餘國に入りて其主を殺し、自立して王と爲り、國既に定まると。王と爲る者は蓋し仲堅なりと云ふ。

チヤウチウジヨ 張忠恕 (宋)字は行父。右僕射沒の孫。開禧の末に入て籍田令と爲る。太廟、鴟吻雷雨の爲に壞らるゝに屬す。神主遷御す。忠恕因て論對して言路を廣め下情を通ぜんと請ふ。寧宗之を嘉納す。嘉定五年大府丞に遷り、出でゝ湖州に知たり。魏了翁嘗て忠恕を勉むるに、直に名節を立て家聲を濟すべきを以てす。是に於て嘆じて曰く、忠獻後ありと。嘗て孝宗に論對す。因て言ふ、當に事を曉るの臣を求むべし、事を辨ずるの臣を求むべからず、節に伏し義に死するの臣を求めんと欲せば、必ず顏を犯して敢諫するの臣に求めよと。語益々剴切なり。忠恕自ら時に容られざるを知り、外補を力請し、直秘閣を以て贛州に知たり。

チヤウチウハウ 張仲方 (唐)九章の孫。侍御杭の子。進士擢でられ諫議大夫と爲る。秘書監崔發、中使を擊つに因り、上怒て獄に繫ぐ。仲方諫めて曰く、鴻恩將に天下に布かんとして御前に行はれず、沛澤偏く昆虫に及びて獨り崔發に遣すと。卒して禮部尚書を贈り、謚して成といふ。

チヤウチウフ 張中孚 (宋)其先、安定より張義堡に徙居す。父逵、官、太師たり。中孚、父の任を以て補官せらる。金兵太原を圍む。會々父戰沒す。中孚、部曲を率ゐて虜に降る。爾來反覆再次、遂に誅せらる。

チヤウチウブ 張仲武 (唐)范陽の人。會稽の初め雄武軍使と爲る。我非に習ひ、性忠義なり。檢校工部尚書に遷る。回鶻を破るの功を以て兵部尚書に進む。李德裕に詔

して紀功碑を撰して以て後世に告げしむ。檢校司徒、中書平章に累官す。謚して莊といふ。

チヤウチケン 張知謇 (唐)字は匪朝。幽州涿の人。十一州の刺史を歴任し則天、其貌を奇なりとし、畫工に詔して之を圖せしむ。中宗立ち、范陽郡公に封ぜらる。兄弟五人、知元、知晦、知泰、知默、皆明經高第す。武后の朝に俱に顯官と爲り、吏治を曉り介然として守るあり、並に能名を著はす。

チヤウチハク 張知白 (宋)眞宗の朝、陳堯叟を罷め、遂に知白を進めて太政に參贊せしむ。未だ幾ならずして樞密副使に遷る。仁宗の朝に工部尚書同平章事と爲る。知白名器を慎み僥倖を抑へ、每に謙挹を以て戒と爲し、貴顯なりと雖も清約寒士の如し。

チヤウチン 張祝 (明)字は昭季。京平の人。洪武中、明經に舉げられ吏部尚書に累擢ぜらる。建文の時、官制を改め解職す。後、自縊して死す。

チヤウチンシウ 張鎮周 (唐)舒州の人。初め壽州都督と爲る。武德中に州都督に遷る。州に至り、故宅に就きて多く酒殽を市ひ、親戚を召して之と酣宴する、布衣たるの時の如きもの凡そ十日。既にして金帛を分贈し、泣て之れと別れて曰く、今日張鎮周猶故人と歡飲するを得、明日の後は則ち舒州都督白姓を治めんのみ、官民懸隔り、交遊を爲すを得ずと。是より親戚故人の法を犯すもの一も縱す所なし。境内肅然たり。

チヤウチヤウ 張揚 (南北)字は少微。邵陵の人。宋に仕へて郎室令邢沛郡太守を歴任す。元嘉中に魏の太武南侵す。江夏王義恭、彭城を棄てんと欲す。揚曰く、此の如きは人心を動ず。宜しく危に就くなりと。乃ち止む。事平らぎ吏部尚書に進み興道縣侯に封ぜらる。卒して宜子と謚す。

チヤウチヤウ 張潮 (明)字は時俊。蕭山の人。成化二十三年の進士。弘治の初、憲宗實錄を修め、事竣りて刑部郎中に進む。正德中、治行卓異に擢す。工部尚書を以て致仕し、數年にして卒す。

チヤウチヤウ 張京 (明)騏の子。昭皇后の兄。成祖に從ひて戰功あり。勇士衛指揮使に拜す。性恭謹自ら歛む。正統間卒す。

チヤウチヤウチン 張長年 (南北)魏に仕へて汝南太守と爲る。鄴人劉崇兄弟、惟一牛を分拆し、爭て決する能はず。長年、己の牛一を以て之れに賜ふ。是に於て境内各相戒約し、敦讓風を成す。子琛、孝行あり。官、太子翼軍校尉に至る。

チヤウチヨ 張昭 (南北)字は思曠。鍾の孫子。風姿清雅。時に靈和殿前に蜀柳を植うるあり。帝笑て曰く、此楊柳風流愛すべし、張緒が少年の時に似たりと。帝每に其清談を歎ず。宋の明帝の朝に中書令と爲る。緒少りと。宋の明帝の朝に中書令と爲る。緒少きより名を知らる。叔父緬、之を樂廣に比す。善く玄を談じ、聽者倦むを忘る。口、利に及ばず、財あれば輒ち之を散す。或は覓夕食に乏し。門人時に爲に具を治す。然れども未だ嘗て求めざる也。

チヤウチヨ 張緒 (明)字は廷端。海鹽の人。瞽を葬くす。夏仲昭と同時。竹石は仲昭に亞ぐ。

チヤウチヨウ 張澄 (晉)字は國明。吳人。光祿大夫本郡太守に進む。正書を善くす。父を葬むるに當り、郭璞葬地を占て曰く、某處に葬らば年は百歲を過ぎ位は三司に至り、而して子孫蕃ならず、某處に葬らば年は半を減じ位は卿に止り、而して子孫貴顯ならんと。澄乃ち其劣處に葬る。位果して光祿に止り年六十四にして卒す。其後遂昌ぶ。

チヤウチヨウ 張澄 (宋)紹興八年、右朝請大夫集英殿修撰を以て建康府に知たり。改めて臨安府に知と爲る。上將に臨安に還らんとす。澄先づ往て措置す。徽猷閣待制に陞る。時に臨安の守臣は、任京邑に同じく、而して澄治劇の才あり、甚た時譽あり。澄言ふ、臨安は古の都會、江を引て支河を爲り、城の内外に於て舟楫往來す、歲久しく湮滅して民顧ゝ之を病む、急に開濬を行はんと。之に從ふ。尹都侍郎に除す。紹興十四年龍圖閣學士右軍參大夫を以て紹興府に知と爲り、再び臨安に知と爲り、改めて温州を知る。

チヤウチヨウクワ 張重華 (晉)前涼主第五世。字は泰臨。駿の第二子。沈毅にして言少し。父卒するとき年十六。初めて永樂の年號を建つ。在位八年。謚して桓王といふ。

チヤウチヨク 張直 (唐)濮州の人。父楚平、壽張令たり。長安に調ぜられ黄巢の亂に値ひて終る所を知らず。直、幼にして地を河朔に避く。既に冠して父の所在を失ふを以て寢處するに遑あらず。時に盜賊蜂起して道路梗塞す。直、秦より蜀に抵り、徒行食を乞ひ以て父を覓む。十年獲ず。乃ち喪を發し服衰哀慕して身を終ふ。州の王師範再び書幣を以て學館に招致す。師範梁に降る。直、難を脱れて北に歸り、周易春秋を以て學者を教授す。時に遵遙先生と號す。

チヤウチヨク 張直 (宋)濮州范縣の人。孝行あり。唐在宗の時に監察御史理行に累官す。明宗の天成中、拜して左輔闕直史館と爲り、莊宗實錄を撰す。御史中丞に遷る。後晉の天福の初め幸に汴州に從ふ。宰相桑維翰薦めて翰林學士と爲す。開運中に唐書を修して成る。金紫の階を加へ爵邑を進む。宋初に至り吏部尚書に拜し鄭國公に封ぜらる。

チヤウツウコ 張通古 (金)字は樂之。易州易縣の人。幼より經史を該綜し讀書目を過ぐれば忘れず。復善く文を屬す。遂の天慶の進士に登り樞密院令史に補ぜらる。天會四年金始めて尚書省を建て、通古を以て工部侍郎兼六部事となす。累遷して天德の初め尚書左丞平章政事に進む、既にして司徒に拜せられ薛王に封ぜらる。時に海陵威權を專らにし下を御すること嚴厲、親王大臣未だ嘗て少しも顏色を假さず。惟だ通古を見れば必ず禮貌を以てす。正隆元年曹王に進封せられ致仕して薨ず。年六十九。

チヤウテイ 張悌 (三國)襄陽の人。吳に仕ふ。初め魏の司馬昭の蜀を攻るや、或は諫して曰く、司馬氏政を得てより以來大雖屢〻作る、今遽に遠征す、何を以て能く克たん。悌曰く、曹爽の功は華夏を蓋ひ、民威を長れて德に懷かず、丕叡、刑繁く役重し、蜂か父子其煩苛を除きて其惠を布き、蜀は國に政令なし、危きに因りて伐つ殆んど克たざるなけん、噫彼の志を得たり、蜀は國に政令なし、危きに因りて伐は我の憂なりと。吳人其言を笑ふ。後官丞相に至る。晉、龍驤將軍王蕃を以て吳を伐たしむ。吳主皓、悌をして諸葛靚と兵を率ゐて之を迎へしむ。大に敗る。靚、悌を迎へ共に遁れ去らんと欲す。悌涙を垂れて曰く、今日是れ我が死するの日なり、且我兒莫たりしとき、便ち卿が家の丞相に識拔せらる、常に恐らくは其死を得ずして名實の知顧に負かんことを、今日身を以て社稷に殉す、又何ぞ遁れんやと。親流涕して去る。悌遂に晉兵の爲に殺さる。

チヤウテイ 張貞 (元)建康の人。周曹の裔。曹、郡を以て獄死す。貞之を聞き水に投して死す。曹の屍其所を過ぐるに及び、貞の屍水面に浮ぶ。五日を踰ゑて神色變ぜず。聞く者之を異む。

チヤウテイ 張禎 (元)字は約中。汴城の人。元統の初の進士。紅巾の賊勢熾なり。禎、甚策を陳じ、并に大臣の奸惡を暴し其罪を正すを請ふ。報ぜず。禎即ち慨然辭し去り安邑山谷間に居り、敢て時事を言はず。後ち三年卒す。

チヤウテイ 張丁 (明)張孟兼を見よ。

チヤウテイ 張廷 (明)蒲州の人。萬曆三十五年の進士。官、郎中たり。鄭妃の事に坐して罷む。抑鬱以て死す。天啓の初、光祿寺少卿を贈る。

チヤウテイギヨク 張廷玉 (清)字は衡臣。一字は硯齋。桐城の人。康熙三十九年の進士。累官して保和殿太學士と爲り、三朝勤宣伯に封ぜらるの廷玉朝に在ること五十年。凡そ國の大事興らざるものなく、造膝面揚おほむね曙を移す。其籌畫する所、形迹すべきなし。康熙雍正乾隆三朝の治平を觀て其事業を想ふべし。七十の生辰、上、詩を賜ひて壽を爲し、又聯を賜ひて云く、藴國晚年猶墨守、呂端大事不塗糊と。三朝實錄、玉牒會典、國史、明史を修むるや、廷玉皆總裁たり。年八十四にして卒す。文和と謚し大廟に配享す。

チヤウテイクワン 張貞觀 (明)字は惟觀。沛の人。萬曆十一年の進士。知縣より兵科給事中に改められ、禮科都給事中に至る。三王並封の事を論じて貶官せられ寛に起たず。天啓中、太常少卿を追贈す。

チヤウテイケイ 張廷珪 (唐)河南の人。慷慨にして志尚あり。進士に第し監察御史に累遷す、按勅平直なり。開元の初、關中大に旱飢す。廷珪詔に應じて上疏す。官、少府監に至る。廷珪、姿儀に偉に、八分の書を善くす。李邕と友とし善し。邕が事に觸くに及び、謫表して之を薦む。人其方介を尚ぶ。

チヤウテイサン 張廷瓚 (清)字は卣臣。英の子。康熙十八年の進士。官、侍講學士に至る。

チヤウテイセイ 張貞生 (清)字は幹臣。號は養山。江南廣陵の人。順治十五年の進士。侍讀學士に累官す。司業と爲りし時に、鄭南畢が宋儒講略を刻して、頗る眞知の說を主とす。後、魏敏果、熊文端と往來講學して、乃ち一に考亭を宗とす。嘗て座右に大書して曰く、最危是人禽之界、喫緊在義利一關と。著に庸書二十卷、聖門戒律八條あり。卒する年、五十三。

チヤウテイゼンノツマ 張挺然妻 (明)黃氏。崇禎の末、挺然、冢官を受く。泣て諫む。聽かず。黃氏幼兒を抱き青山塞に匿る。挺然可計之を招く。曾聽ぜず。挺然、兒に金帶を寄す。怒て之を棄つ。後ち賊敗れ挺然死す。黃氏耕織以て其子を撫す。鄉人之を義とす。

チヤウテイチン 張庭珍 (元)字は國寶。臨潰金州の人。高麗王不敬なり。使命を奉じて往き、詰責して以て之を驗す。安南貢せず。復往て之を責む。安南長服す。開封府尹に累遷す。河決す、漂溺千里。庭珍、防禦、術あり。拯救全活する者衆し。尋て官に卒す。憲宗賜贈異等なり。

チヤウテイチン 張廷琛 (清)字は桓臣。英の子。雍正元年の進士。官、內閣學士に至る。

チヤウテイヘン 張定邊 (明)初め陳友諒に仕へて大尉に除せられ數々明帥に抗す。遂に討平せらる。

チヤウテイロ 張廷璐 (清)字は葯齋。英の子。康熙九十一年の進士。官、禮部侍郎に至る。

チヤウテウ 張超 (漢)鄭人。良の後。文行あり。靈帝の時、車騎將軍朱儁に從ひ黃巾を討じて功あり。別部司馬となる。賦頌箋檄等、文を著すこと十九篇。又草書を善くす。世に之を寶重す。

チヤウテウ 張超 (晉)儀の子。吳錄三十卷を撰す。

チヤウテウシヤク 張朝爵 (清)性險陰、頗る殺を嗜み、屢〻非刑を用て人を羅織し、已が聰明を衒ひて楊逆の獄を博す。即ち戮せらる。

チヤウテウブ 張彭武 (南北)中山の人。五經に通じ尤も三傳に明なり。弟子の業を受くる者百を以て數ふ。北齊の神武帝召して諸子の爲に講說せしむ。平原太守に遷り、後、侍中に除せらる。彭武自ら位大臣に致すを以て、厲精公に在り、議論廻避する所なし。數々寵賚を蒙り切し帷帟に獻替す。神武深く之に倚伏す。

チヤウテツ 張徹 (唐)幽州節度判官と爲りて任に至る。遇々府軍其從事を怒り、盡く之を殺して其の帥を囚ふ。且つ相約して徹を獲て之を帥所に置かんとす。徹門を出て、衆を罵て曰く、汝何ぞ敢て反するぞと。口を絕ずして死す。

チヤウデン 張傳 (宋)譙人。進士及第す。眞宗の時に奉符縣に知たり。工部侍郎に累官す。傳、七たび監司と爲る。至る所簿書を審覈し姦慝を勾摘す。州縣之を憚る。傳曰く、奚爲れぞ吾を憚るや、吾が事々に察を致す所以のものは、正に州縣の慶する所以なり、更敢て慢ならざれば、則ち州縣復法を犯さずと。人亦以て然りと爲す。

チヤウテンカウ 張天綱 (金)字は正卿。霸州益津の人。至寧元年の詞賦進士。性寬厚端直、議論醇正、遣次も少變ぜず。哀宗の東幸に扈從して歸德に至り、吏部侍郎となり權參知政事に擢し御史中丞に轉す。蔡城破れて執へらる。後終る所を知らず。

チヤウヤテンキ 張天騏 (明)初め張士誠に仕へて左丞に任ぜられ、兵を率ゐて數々明軍に當る。至正二十六年、遂に城を以て降る。

チヤウテンシヤク 張天錫 (晉)前涼第九世。字は純嘏。驍の少子。亢龍を殺して自立す。驕奢淫昏にして民務を恤へず。秦主堅、將をして之を伐たしめ姑臧に入る。天錫降り涼亡ぶ。在位十三年。天錫後に晉に奔り以て身を終ふ。

チヤウテンシヤクノセフ 張天錫妾 (晉)天錫に二妾あり、一を閻氏、二を蔣氏と云ふ。並に何許の人なるを知らず。咸な天錫ゝ寵あり。天錫疾に廢ぬ。二人に謂て曰く、汝二人何を以てか我に樂ずる、吾死せば豈人の妻と爲るべけむや。皆曰く、尊若し不諱ならば、妾請ふ死を效して地下の灑掃に供せむ、誓て他志無しと。其疾篤きに及び、二人皆自刎して死す。天錫疾瘳ゆ。之が追悼し、夫人の禮を以て葬る。

チヤウテンリン 張天琳 (明)李自成の將たり。人となり兇暴。其大同を守るに方り、陽和及鎭城の軍民に怨まれ、遂に屢殺せらる。

チヤウトウ 張棟 (清)字は鴻勳。號は玉川。吳江の人。邑の諸生。博學にして詩文に工なり。畫筆は王麓台に私淑し、專ら乾筆を用ひ、設色を喜ばず。乾隆十六年、兩浙の雅ゝ丞聘して南巡聖典を纂せしむ。

チヤウドウ 張洞 (宋)祥符の人。父惟簡、太常少卿たり。洞、書を讀む日に數千言。文を爲くる甚だ敏なり。未だ冠せざるの時に曄然として聲稱あり。仁宗の時に布衣を以て方畧を上る。尋で第して工部郎中に累官す。洞、鎭閩に在ること久しく、數々建明するあり。仁宗以て經を知ると爲し、因て飛白、善經の字を賜ひて之を寵す。

チヤウドウヘイ 張同敝 (明)居正の曾孫。文武の材あり。意氣慷慨。出師毎に先鋒たり。順治七年の役、桂林に戰死す。

チヤウトクキ 張德輝 (元)字は耀卿。冀寧交城の人。學を力めて數々鄉に舉げらる。累遷して參議中書省事と爲り侍御史に擢んでらる。天資剛直、博學にして經濟の器あり、性嬉笑を喜ばず。晚年、元裕、李冶と封龍山に遊ぶ。時人龍山の三老と爲す。年八十にして卒す。

チヤウトクキ 張德琪 (元)字は廷玉。薊州の人。書法精到、行書は劉房山を學び、草書は張長史を學び、墨竹梅花は王濟游を學ぶ。人、其滿意を謂ひて亦た書法にありと爲す。蓋し誣ひざるに似たり。

チヤウトクキ 張德輝 (明)字は秋巖。雲巢老人と號す。世々熱谿の大寶山麓に居り。少うして龍虎を尋び其趣を自得す。每に天陰り將に雨ふらんとするに遇へば、舍後の絕頂に登り、盤薄雲氣騰涌するを以て神會に默興す。晚年、烘染法あり、而して飛雲靈霧變化萬狀、或は累日一筆を下さず、或は一日數幅を連寫す。神妙を極む。陳所翁を道跡すべし。神祠梵宇古壁尙ほ其跡を存ずといふ。

チヤウトクケイ 張篤慶 (清)字は歷友。淄川の人。學植淹博にして筆を下せば千言。諸老宿稱して冠世の才と爲す。廷試ゝられて遇はず、歸て崑崙山ゝ隱れ、門を杜ぢて書を著す。詩は盛唐を以て宗と爲す。崑崙山房集あり。

チヤウトクシヤウ 張德昌 (明)臣の孫。崇禎の初、清水營守備たり。事に坐して罷む。保定參將に起ち、遷りに土寇を敗り又開封を援ひて功あり、保定副總兵に進み、官に卒す。特贈榮祿大夫左都督を贈る。

チヤウトクヒ 張德妃 (五代)梁の末帝の妃。其父歸霸、太祖に事へて梁の功臣たり。帝王たる時、嬪を以て之を聘す。帝即位、將に妃を冊して后と爲さむとす。妃、帝の天を郊するを待たむと請ふ。貞明五年、妃病甚し。帝遽に冊して德妃と爲す。其夕薨ず。年二十四。

チヤウトクリフ 張特立 (金)字は文學、曹州東明の人。泰和三年登第す。洛陽令、監察御史等を歷す。當路其の直を忌み邳州に左遷す。金末田里に游優し弟子を學を講ず。元世祖璽書を降して褒諭す。卒する年七十五。詔して中庸先生と曰ふ。著に易集說、曆年繫事記あり。

チヤウトン 張敦 (三國)字は叔方。德直淵懿、清虛淡泊。文詞を善くす。海督令と爲り甚だ惠化あり。

チヤウトン 張盾 (南北)字は士宣。謹重を以て稱せらる。無錫令と爲り、劫に遇ふ。劫に問ふ、何をか須ふると。斫刀を以て其頸を斫る。盾曰く、喊ぶ不易と。餘は言ふ所なし。是に於て生背皆蘇く。以て醫に介せず。湘東王の記軍と爲り、出でゝ富陽令を監す。廓然獨處、心を用ふる所なし。身死するの日、家に餘財なし。唯文章千餘卷

潤米數鍾あるのみ。

チヤウトン　張敦　(唐)浦江の人。諸監令と爲る。海寇三百餘人劉掠して患を爲す。敦悉く之を平ぐ。重泉令に轉ず。民其化を喜ぶ。車騎將軍に遷る。

チヤウトンギ　張敦義　(宋)字は行可。建寧縣の人。叔父卞、詩學を以て辟雍に升り、兄敦常、兩たび鄉に貢せらる。敦義、紹興甲戌進士に第し、醴陵尉を授けらる。清廉を以て稱せらる。衡州司理に調ぜれ、平反する所多し。尉あり、盜を獲て未だ賞格に應ぜず、乃ち平民を羅織して以て數に充つ。敦義、實を閲して其狀を得、民爲に免るゝを得たり。

チヤウナフヘイ　張納陛　(明)字は以登。宜興の人。王畿に學ぶ。萬曆十七年の進士。刑部主事より禮部に改む。平生風節を尚ぶ。部曹と三王並封の事を爭ひ、貶謫せられて卒す。天啓中、光祿少卿を贈る。

チヤウナンハク　張南伯　(明)墨梅に工なり。

チヤウナンホン　張南本　(唐)蜀郡の人。嘗て孫位と並に畫水を學ぶ。南本以爲らく、同能は一勝に如かずと。去て火を畫き、獨り其妙を得たり。嘗て辟支佛の火中に於て結跏趺坐するを畫く。烟飛び雷擊し、烈々として焚林燎原の勢あり。而して佛定懸の力を以て安然として動かず。

チヤウニツシン　張日新　(明)浙江臨德の人。歲貢生より訓導と爲り、齊東教諭に遷る。諸生と藝を講じ射を習ふ、土寇安守夏を招ぎ之を降す。崇禎十五年清兵來りて齊東を圍むに及んで、守夏と陣に登て守る。力屈して之に死す。

チヤウテイ　張寧　(明)字は靖之。芳州と號す。海盬の人。景泰の進士。書畫皆名あり。

チヤウノウ　張穠　(宋)錢塘の妓。張俊の愛姿。頗る詩書に涉る。柘皐の役、俊、書を穠に屬して家事を照管せしむ。穠報じて曰く、今日の事、惟だ宜旌に在り、家を以て念と爲す可らず。勉思して國に報ぜよと。俊其書を以て繳奏す。上大に喜び、親書奬諭して以て穠に賜ふ。仍て雍國夫人に加封せらる。

チヤウノウノツマ　張能妻　(明)劉氏。性至孝、姑病む。十年湯藥に侍し側を離れず。病劇しきに及び臂肉を割きて進めむとす。舅許さず。既よりして姑沒す。腹肉寸許を刲き榴中に置きて曰く、此肉を以て姑に伴せば身祐に事ふるが如しと。里人其孝を稱す。

チヤウハ　張穎　(漢)字は伯饒。成都の人。年數歲にして孝讓を知る。七歲にして春秋に通じ、博く五經を覽る。鄉人號して張曾子といふ。孝廉に擧げられ、和帝の朝に召されて侍中に拜す。

チヤウバイ　張瑁　(宋)御史を以て宣州に知たり。一家繁昌して千餘口同居す。內外肅然たり。楊傑、義居の二字を書して遺る。崇熙三年の進士。官、太常丞に至る。

チヤウバイド　張賈奴　(南北)平原の人。經義に該博にして、門徒千餘人。時儒以なこれを推重す。大學博士國子助教を歷。

チヤウハウ　張放　(漢)臨が子。母は尙平公主。復元帝の后の妹の女を取る。上爲に供張し出第服飾を賜ふ。號して天子婦を娶り皇后女を嫁すと爲す。兩宮の使者冠蓋絕えず。上と起臥して寵幸殊絕なり。后、寵の盛過なるを以て、大臣をして論劾せしめ、出して北地の都尉と爲し、遣して國に就かしむ。

チヤウハウ　張褒　(南北)梁の天監中、御史其學士の職に供せざるを劾す。褒曰く、碧山吾に貢かずと。乃ち章を焚き長嘯して去る。杜詩に云ふ、碧山學士焚銀魚と。

チヤウハウ　張倣　(宋)字は希古。崇安の人。進士に第し崇仁令に調ばる。粹堰萬金坡を修めて以て灌漑を增す。鹽黨近境に寇す。倣の備あるを覩て遂に引き去る。倣乃ち慰撫して之を撫す。後に鎭州の糧料を監す。眞宗澶淵に幸し、倣が名を聞きて太常博士に累遷す。仁宗の時、寄毫泰泗台六州を歷知す。會々江淮發運使張綸、倣を擧げて自ら代ふ。再命して泰州に知たり。復數郡を歷て、官、工部侍郎に至る。

チヤウバウ　張昉　(元)字は顯卿。東平汶上の人。性縝密、事に遇って敢言す。金亡び鄉里に還る。元、辟して行臺掾と爲す。世祖至元中、中書左右司郎中に任ず。古今を損益して典憲を裁定す。卒して東平郡公に封じ莊憲とす。

チヤウバウ　張昉　(明)字は子東。又號各と云ふ。崇禎丙子の擧人。畫を善くす。

チヤウハウキ　張邦奇　(明)字は常甫。鄞人。年十五、易解及び釋國を作る。弘治末の進士。庶吉士より檢討に改め、出て湖廣提學副使たり、大に文教を興す。世宗の時、便宴々以て南京兵部尙書と官たり。帝嘗て膳羞と語りて言、邦奇と及ぶ。羞曰く、邦奇は性至孝、母老いたるを以て北來を樂しまずと。帝其言を信じて遂に召さず。嘉靖二十三年卒す。年六十一。太子太保を贈り文定と謚す。學、程朱を宗とす。王守仁と友とし善し。而かも語每に合はず。躬修力踐、跬步必ず謹み、豐の爲す所、夕に必ず冊に書す。所著學庸傳五經說及文集あり。

チヤウハウケン　張邦憲　(金)字は正叔。秦州の人。正大中進士に登す。天興二年兵を徐州に避けしが遂に執へられて害に遇ふ。

チヤウハウシヤウ　張邦昌　(宋)字は子能。永興軍東光の人。欽宗の時、宰相と拜せられ、康王に副として金に質たり。後、金人、京師を陷れ二帝(徽宗、欽宗 北遷するに及んで、遂に金人の爲に立てられて帝と爲り國を楚と號す。在位僅かに三十三日、自ら安んぜず、遂に元祐孟太后を迎へて政を聽かしむ。太后、康王を迎へ立て、詔して中外に告ぐ。曰へるあり、漢家の厄十世、光武の中興に宜しく、獻公の子九人、惟だ重耳のみ尙ほ在りと。邦昌、自ら堪へず、地に伏し慟哭して死を請ふ。之を許す。

チヤウハウシユク　張芳叔　(元)怡顯道人と號す。山水人物を畫く。

チヤウハウジヨ　張芳汝　(元)山水人物を畫く。

チヤウハウソ　張彭祖　(宋)澄の子。官、龍驤將軍に至る。隸書を善くす。右軍其緣素を見る每に、輒ち取りて而して之を殿す。

チヤウハウヘイ　張方平　(宋)字は安道。宋城の人。少くして穎悟絕倫。書、眼を過ぐれば再讀せず。進士に擧げられ著作郎と爲る。平戎十策を上る、識略確當。宰相呂寬簡之を見て、自ら樞密宋綬に謂て曰く、大科人を得たりと。參知政事南京留守知陳州に累官し、太子少卿を以て致仕す。卒して文定と謚す。初め蜀を守り一時、蘇洵と其子軾、轍を得、深く之を異とす。嘗て軾を薦めて諫官と爲す。晚に知を神宗に受く。王安石方に事を用ふ。縱然として少しも屈せず。是を以て望一時に高し。方平少くして家貧にして書なし。人の三史を借り旬日にして之を還して曰く、已に其詳を知ると。平生文を屬するに未だ嘗て草を起さず。宋綬、蔡齊、以て天下の奇才と爲し共に之を薦む。上、其文章典雅にして三代の風あり と爲す。仁宗英宗神宗の三朝、始終一節。時論之を重んず。

チヤウハク　張璞　(明)字は中善。江夏の人。弘治十八年の進士。歸安知縣より御史に除す。正德八年、出でゝ雲南を按ず。鎭守中官梁裕、貪橫なり。璞之を越抑し、爲に誣ひられ、逮へられて詔獄に下されて死す。世宗位を嗣ぎ太僕少卿を贈る。

チヤウバク　張邈　(漢)靈帝の時、八廚の一人。

チヤウハクカイ　張伯偕　(唐)弟仲偕、形貌相似たり。仲偕妻を娶る。新粧擧り伯偕を見て曰く、妝ひ好きや否や。答へて曰く我は伯偕なりと。趨りて之を避く。須臾にして又見て皆げて曰く、向きに大に誤り伯を認めて卿と爲す。答へて曰く、我固より伯偕なりと。婦大に慚ぢ復敢て見ず。

チヤウハクカウ　張伯行　(清)字は孝先。號は敬庵。儀封縣の人。康熙二十四年の進士。禮部尙書に累官す。歷官二十餘年、剛直を以て著はる。治は養を以 先と爲し、教を以て本と爲す。浸災に遭へば租を蠲き賑救す。至る所必ず書院を建つ。嘗て餽送を止むるの檄あり、云く、一餘一乘、民脂民膏、寬一分民受一分之賜、受一丈身受一丈之汚と。當時傳誦して名言と爲す。伯行力學、程朱を以て主と爲す 門に及び學を受くる者數千人。著、道學源流、道統錄、小學性洛淵源錄、小學哲義、小學集解、養正類編、訓蒙詩選、續近思錄、廣近思錄、家規類編、園中實鑑等の書あり。卒して太子太保を贈り清恪と謚す。

チヤウハクキ　張白騎　(漢)中平中、黃巾に次て起り郡縣を侵害す。即ち誅に伏す。

チヤウハタギ　張伯儀　（唐）魏州の人。戰功を以て李光弼の軍に隸す。浙賊袁晁反す。伯儀をして討て之を平げしむ。功を以て睦州刺史に擢でらる。後に江寧の節度使と爲る。伯儀書を知らず。然れども誠を推して人を遇す。軍中長蘆し人亦之を便とす。

チヤウハクキヨウ　張伯俠　（元）佛像を描く。

チヤウハクギヨク　張伯玉　（宋）建安の人。太平州に知たるの日、司戶曾鞏に語りて曰く、吾が作る所の六經閣、子我が爲に之を記せよと。鞏、稿を呈す。終に意に合はず。遂に自ら之を爲りて曰く、六經閣者諸子百家皆在焉、不書尊經也と。鞏一見して長服す。

チヤウハクゲイ　張伯鯨　（明）字は經海。江都の人。萬曆四十四年の進士。三縣に歷知す。崇禎中、兵部左侍郎に累進す。疾を移して歸る。十七年春、京城陷り、尋で揚州破る。之と死す。

チヤウハクジユン　張伯淳　（宋）字は師道。少くして童子の科に擧げらる。父の任を以て銓せられて廸功郎淮陰尉を受く。楊州司戶參軍に改まる。尋で進士に擧げられ臨安府都稅院を監し觀察推官に陞り太學錄に除せらる。元に入り抗州路教授と爲り、累りに翰林直學士に陞り、階を奉訓大夫に進む。文集あり、家に藏す。

チヤウハクタン　張伯端　（宋）天台の人。少くして學を好む。神宗の熙寧間に蜀に遊びて劉海蟾に遇ひ、金液還丹火侯の訣を授けらる。乃ち名を川成、字は平叔と改め、紫陽と號す。嘗て一禪師と約し、同じく瞑目し出でゝ揚州に神往し瓊花を觀る。紫陽曰く、一枝を折り記と爲すべし。禪師曰く、諾と。歸るに及んで紫陽花を出し、弟子に示して把翫す。禪師手袖皆空し。弟子等其故を問ふ。紫陽曰く、我が金丹大道性命脈修す、之を陽神といふ、彼れ兼脩せず、之を陰神と謂ふ、神陰なれば物を動かす能はず。と。英宗の治平間に扶風の馬處厚を河東に訪ひ、著す所の悟眞篇を以て厚處に授けて曰く、願くば公此書を流布せよ、當に書に因て意を會する者あるべしと。元豐五年夏、缺坐して化す。年九十九。

チヤウハクリン　張伯麟　（宋）字は慶符。當塗の人。少くして强學、妄りに言笑せず。氣を以て里中に豪たり。每に古人の奇節を慕ふ。人未だ之を知らざるなり。紹興の初め明經を以て大學に入る。毅然として面の當り秦檜和議を主とし、百執事相戒むるに言を以てす。伯麟時事を覩て常に之を憤り、困て齋壁に題して云く、夫差而忘勾踐之殺而父乎と。同舍主之を見て大に駭き、云ふ、請ふ其の壁を抹し譏者をして知らしむる母れ、本聞せば君を累すこと淺からずと。伯麟曰く、大丈夫一死苟も所を得ば懼るゝなきなりと。檜方に太平を文致し、元夕に都市燈を張る。伯麟出遊して中貴人の白鬚門に燈綵盛に飾くるを見て、筆を取て其上に題すること齋壁に書する所の如し。秦檜之を聞て伯麟を獄に下し、捶楚全膚なし。吉陽軍に流す。檜死して伯麟釋されて原籍に回る。

チヤウハフウン　張法雲　（唐）魏州の人。貞觀六年五月五日生る。年八九歲の時、兄、安南に戍す。朝に侍き夕に回る。故に萬回と名づく。

チヤウハフライ　張法雷　（唐）劉展の部將たり。上元二年、展の既に敗るゝや、猶ほ杭州に寇す。已にして捕斬せらる。

チヤウハン　張範　（漢）字は公儀。修武の人。性恬靜にして徵命せらるゝも就く所なし。弟承は方正を以て議郎と爲る。董卓の亂、範承、徒に命して共に之を誅す。曹操、範を以て參軍と爲し、承を趙郡太守と爲す。弟詔も亦議郎と爲る。

チヤウハン　張攀　（宋）字は從龍。常熟の人。大學生より進士に登り、知溧水縣、嚴州通判、監聞鼓院、慶元通判、知興國軍、將作大監、大府寺丞、秘書丞に累官す。中興館閣の書目凡そ一萬四千九百四十三卷を整次して之を上る。權右曹郎官を兼ね、再命して殿中侍御史兼侍讀に拜せられ、起居郎に除せられ、崇政殿說書を兼ぬ。卒するとき年七十。通議大夫集英殿修撰を贈らる。攀寬厚易直、事に遇へば誠を開て一毫の矯飾なし。幼年鄙試に年を減じて欺を爲すを肯せず。家世々清白。之を持すること愈堅し。州縣に仕へ稻瓦を以て稱せられ、朝廷

に在りて靖蕃を以て著はる。孟寧文集、奏議、漢唐論あり。

チヤウパン　張磐　（漢）字は子石。丹陽の人。清白を以て稱せらる。度尙、荊州刺史と爲り、胡關の餘黨が南のかた蒼梧に走るを見て、己の責とならんことを懼れ、乃ち僞り上書すらく、蒼梧の賊、荊州の界に入ると。時に磐交趾に刺たり。徵して廷尉に下さる。辭狀未だ正さず、赦に會して原るさる。磐出獄するを肯せず。更に械節を牢持し、因て自ら列して曰く、磐位は方伯に備り、國の爪牙と爲り、而して尙に枉げらる、夫れ事に虛實あり、法は是非あり、磐實に不辜ならば赦は歸する所なし、如し忍て以て苟も免れなば永く侵呼の恥を受けん乞ふ尙を傳して廷尉に詣らしめよ、曲直を面對せば眞僞を明にするに足らんと。廷尉其狀を以て上つる。詔書を以て尙を徵して廷尉に至らしむ。詞窮し罪を受けしも、先きに功あるを以て原さるゝを得たり。磐、後に廬江太守と爲る。

チウパンカド　張仲家奴　（元）世祖に從ひて瀘州を攻め、大に宋軍を敗る。雲南諸蠻皆叛く。遂に之を平定す。至元の末、從ひて緬を征し之に死す。

チヤウパンサイ　張萬歲　（唐）太僕卿と爲り其職に善し。貞觀の初め、牝牡三千匹、高宗の麟德間に蕃息して七十萬匹に及ぶ。牧事之に賴る。

チヤウパンコウ　張萬公　（金）字は良輔。東阿の人。幼にして聰悟、喜んで書を讀む。正隆二年登第す。泰和二年金紫光祿大夫を加へられて敎仕し、七年卒す。人となり淳厚剛正、門に雜賓無し。文貞と謚す。

チヤウパンフク　張萬福　（唐）三世、經に明かなり。德宗召して滁州刺史と爲す。金吾將軍に累官す。時に德宗裴延齡を相とせんと欲す。陽城等延英門に至り、大言して賀して萬福趨りて延英門に至り、天下必ず太平ならんと。遂に遷城太平萬歲を連呼す。此より名天下に重し。萬福初め儒を業として顯れず。遂に軍に從て功を立て工部尙書に終ふ。年九十にして卒す。食祿七十年、未だ嘗て一日も病を言はず。凡そ九州に涖みて皆惠愛あり。

チヤウヒ　張飛　（三國）字は翼德。涿郡の人。少くして關羽と俱に先主に事ふ。曹操と共に呂布を破り中郎將に拜せらる。先主書を背き袁に向ひ、敗れて江南に奔る。操之を逐ふ。飛二十騎を領して長板橋頭に立ち、水に據り橋を斷ち、目を瞋らし矛を橫へて曰く、身は是れ張翼德なり、來て共に死を決すべしと。敵敢て近く者なし。故に遂に免るゝを得たり。先主既に江南を定め、飛を以て宜都太守と爲す。先主蜀に入り、飛をして巴郡を攻めしめ、其太守嚴顏を獲たり。飛、顏を呵して曰く、大軍至る、何を以て降らずして而して敢て拒ぎ戰ふや。顏怒て曰く、卿等無狀にして我が州を侵奪す、我が州には但だ斷頭將軍あり、降將軍あるなしと。飛大に怒り、武士をして牽き去て頭を斫らしむ。顏、色を變ずし曰く、頭を斫らば便ち斫れ、何ぞ怒ることを爲すやと。飛、壯として之を釋し、禮して上賓と爲す。先主漢中王と爲り、飛を封じて右將軍と爲し、後、車騎將軍に進む。初め飛雄壯威猛、關羽に亞ぐ。魏の謀臣程昱等、咸な稱して萬人の敵と爲す。羽は善く卒伍を待ちて士大夫に驕り、飛は君子を愛敬して小人を恤へず。先主常に之を戒めて曰く、刑殺を好むと既に過ぎ、差々父健兒を鞭撻し而して左右に在らしむ、此れ禍を取るの道なりと。飛愛めず。卒に范疆張達が爲に刺さる。其首を持し流に順て東奔す。後、先主吳を伐ち、范張二賊を得、心を剜きて以て祭る。子苞、先主に從ひ父の爲に仇を報じ、都先鋒虎威將軍に封ぜらる。

チヤウヒ　張岱　（唐）德宗の時に臨洛守たり。田悅之を攻む。城に登りて固守すること累月。士死し糧盡き救兵至らず。岱部將を召して軍門に立たしめ、女に命じ出でゝ遍く拜せしむ。因て曰く、戰其に苦む、の賞を爲すなし、願くは此女を賣りて以て衆士一日の費を爲さん。士皆哭して曰く、願くは請ふ、死戰せんと。敢て賞を言はず。會々李抱眞の救兵至る。岱其勢に乘じて出でゝ戰ふ。一を以て百に當らざるなし。功を以て泗州刺史に遷る。

チヤチウビ　張奐　（宋）字は玄珪。貝州清河

の人。周世宗に仕へて樞密承旨と爲る。淮南を征するに因り、美を留めて太內部署と爲す。宮城中を行親し多く防禦を設く。俄にして三司を授けらる。蘆革を條奏する毎に、上多くこれを可とす。太祖李釣を討ず。十萬の大軍太行を出でゝ經費闕くるなきは美の力多し。後移て滄州を鎮す。左驍衛將軍に改む。卒して忠惠と謚す。

チヤウヒウ 張彪 (南北)襄陽の人。梁に仕へて東揚州刺史と爲る。陳文帝震澤を犯す。彪之を家口に拒ぎ、陳の爲に獲らる。彪、若邪山に還る。陳兵を遣して圍れて彪を縛せしむ。彪眠り未だ覺めず。其養犬驚き吠え、一人を嚙む。喉に中り死す。彪刀を拔きて出で、火に映じ之を識て曰く、卿は我を殺つ者、但頭を取るべし、暫て生きて陳を見ずと。遂に害に遇ふ。

チヤウビクワ 張美和 (明)名は九韶。字を以て行はる。清江の人。詞賦を能くす。元末、累舉仕へず。明の洪武三年、薦を以て縣學教諭たり。國子助教授に遷り翰林院編修に改む。致仕して歸る。帝親ら文を爲りて之を賜ふ。

チヤウビジン 張美人 (三國)吳の孫皓の妃。張布の女。初め父布、皓の爲に殺さる。妃姿色あるを以て美人と爲る。寵幸を得たり。一日皓問て曰く、汝の父は如何と。答へて曰く、賊之を殺すと。皓大に怒り之を捧殺す。後人其顏色を思ひ、巧工をして木に刻し、美人の形象を造り、恒に坐右に置かしむ。後其姉あるを聞き、召して後宮に置く。所謂張夫人なり。遂に寵を專らにす。

チヤウヒツ 張弼 (宋)仙游の人。易に精しく、象數を推明する自得し出づ。隱居して仕へず。號へ葆光先生と賜ふ。

チヤウヒツ 張弼 (明)字は汝弼。松江華亭の人。成化の初の進士。南安府に知たり。悉地、兩廣の衝に當り、奸人の巢窟たり。悉く之を搜滅す。淫祠を毀つ百數十。社學を建爲す。疾を謝して歸る。士民爲めに祠を立つ。弼、詩文を善くし、草書に工なり。自ら東海と號す。張東海の名、外裔に流播す。

チヤウヒン 張賓 (晉)中止の人。博く經史を涉り溯遡にして大節あり。嘗て自ら謂へらく、智算識覺子房に讓らず、但高祖に過ぎざるのみと。石勒が山中を徇ふるに及び、賓所親に謂て曰く、諸將を歷觀するに此胡將軍に如く者なし、共に大業を成すべしと。乃ち劍を提げ軍門に詣り、大呼して見ゆんと請ふ。勒亦未だ之を奇とせざるなり。賓數々策を建つ。皆百ふ所の如くす。是に由て之を奇とし、賓に加へて大執法と爲し、呼んで右侯と爲して敢て名いはず。

チヤウヒン 張頊 (唐)清河の人。乾寧二年、趙觀文、進士の第を榜し柴胥郎を授く。櫻陽尉に調ばれ犀浦令に遷る。蜀王建國を開き、膳部員外郎に拜す。後に金堂令と爲る。王衍大慧寺に遊び壁間の題詩を見て愛賞之に久しうす。問ふ、誰か此を爲ると。左右頊を以て答ふ。因て紙札を給し詩を以て進めしむ。頊二篇を上つる。衍尤も器重し、將に召して知制誥たらしめんとす。宋光嗣以へらく、其輕傲剛隨宜しく之を疏すべしと。是に由て止み、白金千兩を賜ふ。頊生れて秀穎、幼にして籀什を能くす。單于臺に登るの詩あり、名を當世に知らる。

チヤウビン 張敏 (漢)河間鄚の人。諸初の時に孝廉に舉げられ、四遷して尙書となり、發明する所多し。和帝の時に汝南太守に遷る。清約にして利を煩用せず、平正にして能理の名あり。再び潁川太守に遷り徵されて司空に拜せらる。

チヤウビンダウノツマ 張敏道妻 (清)趙氏。年二十一、敏道疾みて將に終らんとす。趙氏夫に對して自ら誓ふ。夫歿するに及び日夜號慟し自ら經死す。詔して其の門に旌して貞烈といふ。

チヤウビンフ 張敏夫 (元)燕の人。喜んで竹石を畫く。劉自然を學ぶ。

チヤウヒヨウ 張憑 (晉)字は長宗。少くして聰慧なり。祖蒼梧、憑が父に謂て曰く、我は汝に如かずと。憑が父未だ所以を解せず。蒼梧曰く、汝佳兒ありと。憑、時に年數歲、手を欽めて曰く、阿翁距ぞ宜しく父を以て子に戲るべけんと。後孝廉に舉げられて都に出で、其才氣を負ひ自ら謂へらく、必ず時彥に參せんと。劉眞長に詣らんと欲す。鄉里及び同學の者皆之を笑ふ。對遂に劉に詣る。劉方に洗濯して事を料る。之を

下座に處らしめ唯だ案墨々通ずるのみ、神氣接せず。張自ら發せんと欲するに端なし。之に頃くして長史諸賢畢く集りて清言す。客主通ぜざる處あり。憑乃ち遙に末座に於て之を判ず。言約にして旨遠く、彼我の懷を暢ぶるに足る。一座皆驚く。眞長之を上座に延き、清言日を彌り、因て留り宿せしむ。晚に至り張皆退す。劉曰く、卿且去れ、まさに卿を取て共に撫軍に詣るべしと。憑還る。同侶問ふ、何れの處にか宿する。憑笑て答へず。須臾にして眞長傳を遣はし、張孝廉の船か覓めしむ。同侶惋愕す。即ち同載して撫軍に詣る。門に至り劉前進して撫軍に謂て曰く、下官今日公が爲に一太常博士か得て妙選すと。張既に前む。撫軍之と話言し、杳嗟して善と稱す。曰く、張憑、勃窣理窟を爲すと。即ち用ひて太常博士と爲す。後、累官して吏部郎御史中丞に至る。

チヤウヒヨウガイ 張氷涯 (元)花鳥鷹を畫く。

チヤウフ 張敷 (南北)字は景胤。小名は檀。父の小名は絜。宋文帝嘗て之に問て曰く、檀は絜に何如。對へて曰く、絜は是れ百果の宗なり、檀何ぞ敢て比せんと。父卒して毀瘠制に過ぐ。詔して其居を改めて孝張里といふ。武帝の朝に中書郎に拜す。子融。

チヤウフ 張溥 (明)字は天如。大倉の人。博く書史を究む。崇禎間選貢生を以て都に入る。名都下に震ふ。權貴の意に忤ひて罪を獲。突游上疏して寃を白す。事解くるを得て卒す。年四十。後ち有司、其著書三千餘卷を上る。

チヤウブ 張武 (漢)吳郡由拳の人。父は業、郡掾たり。太守の妻子を送りて鄉に還り、河內に至りて盜の夜劫すに遇ふ。業與に戰て死す。武、年幼にして父を識るに及ばず。後、太學に詣る。嘗て父の遺劍を持し、父の亡する處に至り父を祭りて泣く。太守第五倫、其行を嘉して孝廉に舉ぐ。母の喪に過毀、命を絕つ。

チヤウブ 張武 (明)瀏陽の人。燕山右護衛百戶を以て成祖に從つて兵を起し、功を積みて都督同知に擢し、成陽侯に封ず。永樂元年十月卒す。謚國公を贈り忠毅と謚す。

チヤウフウ 張風 (清)字は大風。上元の人。明の諸生。善く山水花草を畫く。師承なし。己の意を以て之を爲す。頗る自得の樂あり。嘗て燕趙の間に遊ぶ。中貴子あり招飲して之を館せんと欲す。風答へず酒罷で引き去る。

チヤウフク 張慮 (宋)字子宓。慈溪の人。唐の建中の密相薦の裔。詩易に習ひ、詞賦に工。慶元の進士に登り臨江に教授たり。權貴獻見て之を器とし、子弟をして師事せしむ。既にして翰林學士と爲り、復た浙東安撫使と爲る。時に金將に亡びんとす。上疏して言く、昔は其衰ふるを聞ては則ち喜び、今は其衰ふるを聞ては則ち懼る、蓋し一時の安を偷むに足ると雖も、而も當に深く防ぐべき所は自治に在りと。秘書丞に遷り下府教授を兼ぬ。疾を以て出でゝ南康郡に守たり。性澹泊、祠を奉じて家に居り。端平元年、太子、經筵を設け、國子司業兼侍讀を以て慮を召す。月令を講じて孟秋疑謗を決するに及び、反覆數百言。復た月令二十二卷を成して以て進む。國子祭酒工部侍郎に陞る。寵眉寬帶、諸生之を望みて肅如たり。壽八十にして卒す。文靖と謚す。

チヤウフク 張復 (明)字は元善。太倉の人。山水は初め石田を宗とし、晚年己れの意を參して稍や其法を變じ、自ら一家を成す。

チヤウフクヤウ 張復陽 (明)太倉の道士。陶憲を畫く。

チヤウフクワ 張敷華 (明)字は公實。安福の人。少より氣節を負ふ。早に孤、長じて國學に入り、順天八年の進士に第し、庶吉士に選げる。成化中、景寧礦の盜を平ぐ。其湖廣を知する時、歲饑う。府縣に令して大に學宮を修め、傭直を以て饑者に賚す。左都御史に累遷す。正德二年六月、病且に革る。衣冠家廟に揖し榻に就きて卒す。後二年、太子少保を贈り簡肅と謚す。

チヤウフケイ 張晉惠 (南北)常山の人。三禮に精しく兼ねて春秋百家の說を善くす。魏に仕へて冀州刺史に官す。謚して宣恭といふ。

チヤウフジン 張夫人 (三國)吳の孫皓の妃。張布の女。初め故衛尉馮朝の子魴に適

く。皓、其妹張夫人を殺し、後ち其委色を思ひて左右に問ふ、布、他に女有りや否や。左右、夫人を以て答ふ。即ち馮純を殺して之を奪ふ。寵幸を蒙り拜して左夫人と爲す。晝夜宴樂して朝政を聽かず。金を以て華鬘、步搖、假髻を作り、千數の宮人に著て以て相娛ませしむ。朝に脫し夕に敗る。轍ち出だして更作す。府藏爲に空し。夫人死す。皓哀慟思念し、工匠をして柏を刻みて木人を作り家中に內れ一め、金銀珍玩の物を以て殯を送る。皓喪を內に治めて半年出でず。

チヤウフジン　張夫人　（南北、宋の武帝の妃。少帝及び義興王義長公主憲媛を生む。永初元年夫人に拜す。少帝即位して皇太后となす。文帝元嘉元年營陽國太妃に拜す。二年薨ず。

チヤウブタク　張無擇　（唐）字は君選。句章の人。性篤孝なり。父死して七日漿を絕ち、三年櫛けづらずして墓に廬す。醴泉芝草の瑞あり。官、中散大夫に至り、和州刺史に遷る。

チヤウフツ　張敷　（明）吉水の人。成化八年の進士。知涪州宿州に歷す。介特にして權貴を避けず。已に老て用ひられず。王恕之が爲に請ひ特に誥命を予ふ。

チヤウフン　張奮　（漢）純の子。學を好みて節儉なり。得る所の俸、皆宗親に分贈す。後に司空と爲る。

チヤウフン　張濆　（唐）天台の隱士。嗜鬼の贈詩を、道爲天子問、名重四方招の句あり。

チヤウブン　張汶　（明）邯鄲の人。尙書國彥の曾孫。庶叙に由り後軍都督府經歷たり。譽て酒を被り魏忠賢が詆、獄に下し拷掠せられて死す。崇禎の初め贈郎せらる。

チヤウブンウツ　張文蔚　（唐）字は右華。河間の人。初め文行を以て名を知られ、進士に第す。昭宗に事へて中書侍郎同中書門下平章事に拜す。昭宗の弑せらるゝや、去りて後梁に歸す。後ち暴疾を以て死す。

チヤウブンキ　張文姬　（唐）鮑參軍の妻。詩を善くす。

チヤウブンキン　張文錦　（明）安邱の人。弘治十二年の進士。戶部主事を授く。正德の初、劉瑾に陷れらる。瑾敗れて故官に復す。累遷して安慶知府たり。從つて震澯を討平し、太僕少卿に擢す。嘉靖中、請うて邊堡を築く。部卒郭鑑等乱を作し、簿野王宮を燔かんと欲す。王懼れて文錦を殺し其屍を裂く。萬曆の初、右都御史を贈り、天啓の初、忠愍と追謚す。

チヤウブンクン　張文君　（晉）永嘉の人。丹霞山に隱居す。郡守王羲之往きて之を訪ふ。即ち遁れ去り、與に相見ず。其介此の如し。

チヤウブンクワン　張文瓘　（唐）字は稚圭。武城の人。高宗の時宰相に位す。帝宮殿を造り四爽を討ず、廐馬萬匹を養ふ。文瓘上書して諫止す。改めて大理卿を兼ね。旬日ならずして疑獄を斷ずる四百。罪に抵る者皆涙を下す。幽州都督を贈らる。子四人、潛、沛、治、逖、皆三品に至る。時に萬石張家と號す。弟文琮、文琮の子錫、皆顯官と爲りて政績あり。

チヤウブンケン　張文謙　（元）字は仲謙。邢州沙河の人。幼にして明敏、善く記誦す。劉秉忠薦めて掌王府書記と爲す。累官して司農司卿に拜せらる。後ち昭文館大學士領大史院事を授けられ樞密副使に拜せらる。病を以て卒す。文謙劉秉忠に從つて術數を洞究し、尤も義理の學に通ず。藏書數萬卷。尤も人材を引薦するを以て己れの任と爲す。魏國公に封ぜらる。卒して忠宣と謚す。

チヤウブンシ　張文之　（宋）字は子經。樂平の人。中書舍人顧の子。初め滁州に通判たり。金の兵至る。守孔鎬、夜逃るゝを諜る。文之曰く、果して爾く輕動せば城を奈何せんと。自ら兵を提げて出でゝ横間山に登り、賊と持すること十餘日、二十餘戰を經、外援の力なくして支ふる能はず。勉笏を具へ東望して拜して曰く、被擒にして我寡し、臣惟一死あるのみと。執へられて燕山に送らる。授くるに官を以てせんと欲す。屈せず。之を土窟に執ふ。曰く、吾世〻宋の恩を受く、其れ國に負くに忍びんやと。虜之を重んじて稍〻桎梏を寬にす。後に王忭和議を申ぬ。文之の覊苦の狀を見て、虜に請ひ一家青を得て還り奏す。朝廷悼嘆して月〻給恤し、又其ナ孝忠を官にす。

チヤウブンスウ　張文樞　（元）字は石麗。湖州の人。幼時曾たり。能く山水を畫く。巨然を學ぶ。亦墨竹に工なり。

チヤウブンタウ　張問陶　（清）字は仲冶。號は船山。四川遂寧の人。鵬翮が曾孫。乾隆庚戌の進士。檢討を授けられ吏部郎中に累官し、出でゝ榮州府に知たり。問陶、狀貌猿に似たり。因て自ら蜀山老猿と號し、亦老船と稱す。書法險勁にして徐青藤に近し。詩に工にして青蓮再生の目あり。著船山詩草あり。其婿、亦詩を能くす。句あり、云ふ、修到入間才子婿、不辭清瘦似梅花と。蓋し佳話なり。

チヤウブンタツ　張問達　（明）字は德允。涇陽の人。萬曆十一年の進士。知縣より刑科給事中に改められ、光宗熹宗に歷仕して吏部尙書に累進す。休を乞ふ。少保を加ふ。後ち魏忠賢に削奪せられ、家遂に破る。崇禎の初、太保を贈る。

チヤウブンメイ　張文明　（明）字は應奎。陽曲の人。正德六年の進士。行人より御史に改む。其陝西を按ずるや、中官鹽堂の爪牙二十四人を捕治す。曾て車駕延綏に幸す。文明之を諫止す。剛直を以て譴を速き詔獄に下さる。旋た釋され、電白典史に謫せらる。世宗即位、故官に復し、出でゝ松江知府たり。甫めて一年に抵り卒す。太常少卿を贈る。

チヤウブンヨク　張文翊　（隋）河東の人。父瑗、洹水令となり清正の聲あり。子姪をして皆明經自進せしむ。文翊、三禮、易、詩、書、春秋三傳に通ず。家貧にして圃に灌ぐを樂と爲す。仕籍中に群擧せられて應ぜず。其母に事へて至孝。德を以て人を化す。卒するに及び鄉人碑を立てゝ頌す。

チヤウヘイ　張衆　（三國）字は仲節。陽羨の人。時に顧邵、人を知ると號す。一見して遂に友とし善し。邵、豫章太守と爲り、殺して近路に在り。衆の病に値ふ。時に送者百數、邵辭して曰く、張仲節疾を以て來る能はず、之を見ざるを恨む、暫く還りて興に別れん、諸君幸に少時相待てと。衆是より晷遠く擔く。吳に仕へて雲陽太守に至る。

チヤウヘイ　張平　（晉）元帝の建武中、樊雅と衆數千人を案め、譙に在り塢主と爲る。朝使を殺し固く守る。尋て部將謝浮に殺さる。

チヤウヘイ　張秉　（宋）字は孟節。歙人。鬲の子。太平興國中に進士に試みらる。儀狀豐麗、屬詞敏速、書翰を善くす。太宗之を嘉みし、擢でゝ第二に至る。中外に出入し要職を累歷して監察御史に遷る。深く丞相趙普の爲に器とせられ、弟の子を以て之に妻はす。累遷して度支員外郎、知制誥、同判吏部と爲る。後に河陽檀滑二州に知たり。既にして知制誥を與へられ東京留守と爲る。禮部侍郎に轉じ樞密直學士を加へらる。再び幷州に知たり。將に行かんとす。上、面言を作りて之を賜ふ。相州に徙りて卒す。秉、簿府を典り贈賻の擧なし。好て衣服を飾り器を潤くす。家甚だ貧にして常に衣を質して以て費を給す。

チヤウヘイ　張平　（宋）青州臨朐の人。初め宋太祖京兆に尹たりしとき其邸に匿る。即位するに及び、召して右班殿直に補す。木を秦隴間に市ふを監せしむ。期歲の間、百材山の如く積む。太宗其功を嘉みして供奉官に遷し、陽平都水務兼造船場を監せしむ。績あり。崇義郎に改められ陽平署を掌る。卒して上將軍を贈る。

チヤウヘイ　張炳　（宋）字は明潤。和雅端靜。士人之を愛敬す。少くして奇疾あり。太學に在り、蜀士史戟之に師事して醫方の妙を極む。鄉里に歸るに及び、心を推して物を救ひ、貧窮貴賤を問ふなく請ひあれば必ず往て之を視る。寒暑を避けず。全活勝げて計ふべからず。鄉人之を德とす。學を嗜み文を能くし、老て倦まず。同郡の名士魏校之を稱して曰く、太古の遺民と。嶄水濂、遵州錄を歷。年九十三にして卒す。

チヤウヘイ　張溥　（明）字は仲明。慈谿の人。都御史楷の孫。成化八年の進士。知縣に除せらる。弘治中、副使守備に擢でらる。後疾を引き歸る。

チヤウヘイカウ　張平高　（唐）綏州の人。隋末に譯揚府校尉と爲り太原に戍す。唐高祖に從ひ京城を平らげ、累りに左領軍將軍を授けられ薛國公に封ぜらる。貞觀の初め丹州刺史と爲る。

チヤウヘイジユンノツマ　張秉純妻　（明）

劉氏。家貧しく井臼を操るも怡然たり。國亡び夫死す。妻、匂水口に入らず、子に命じ扶けて柩前に至らしめ、祭拜痛哭して絶す。

チヤウヘキラン　張碧蘭　(隋)女子。詩を善くす。

チヤウベン　張辨　(南北)裕の子。

チヤウベン　張汴　(宋)字は朝宗。少くして丞相吳潛兄弟の門に客となり、荊閫に出入すること歷年。明に韜略を習ふ。潛が兄弟既に勢を失ひてより、排斥せらるゝ者十餘年。度宗の時に文天祥兵を起し、辟して秘閣修撰領廣東提舉督府參謀と爲す。幕府を左右し、知りて爲さゞるなし。既にして兵敗れ、亂兵の爲に殺さる。

チヤウホ　張酺　(漢)汝南の人。初め章帝太子たりし時、書を酺に受く。帝即位するに及び、東郡の太守を拜せらる。帝東巡し、酺及び門生掾吏を劾て庭中に會し、弟子の儀を備へ、酺をして尚書を講ぜしめ、然して後に君臣の禮を修む。朝に還るに及び、賜賚甚だ厚し。時人之を榮とす。

チヤウホ　張步　(漢)字は文公。琅琊不其の人。移漢更始の兵起るや、步亦た衆を聚めて傍縣を轉攻し、數城を下して自ら五威將軍と稱し、遂に本郡に據る。更始屢諭せども可かず。梁王劉永と合縱して頗る猛猛を極む。然れども力足らず遂れて臨淮に奔り、追斬せらる。

チヤウホ　張輔　(晉)南陽の人。衛の後。少くして幹局あり。初め藍田令に補せられ、豪強の爲に屈せず。御史中丞梁州刺史に累遷す。嘗て司馬遷を論じて謂へらく、遷の著述、辭約にして義舉かる、此れ良史と稱せらるゝ所以なりと。

チヤウホ　張甫　(金)最も馭を善くす。軍功あり。

チヤウホ　張輔　(明)字は文弼。河間王玉の長子。燕師起る。父に從つて征伐功を積み、指揮同知より光祿大夫左柱國に擢でられ、竟に正統十四年の難に死す。年七十五。定興王に追封し忠烈と謚す。

チヤウホウ　張奉　(漢)章帝元和の時、廬江の毛義、東平の鄭平、皆行義を以て鄉里に稱せらる。南陽の張奉、義平の名を慕ひ、往きて之に事ふ。

チヤウホウ　張鵬　(唐)德興の人。宣宗の時に河東節度使書記と爲る。吐蕃邊を犯す。鵬數千騎を率ゐて之を敗る。懿宗立つ。表はして瓊管五州招討使と爲す。入りて金吾羽林二將軍と爲る。後、出でゝ邕州刺史制置使と爲る。

チヤウホウ　張鳳　(明)字は子義。安平の人。給事中益の子。宣德二年の進士。刑部主事を授けらる。宣宗英宗景帝の三世に歷事し、戶部尚書李賢事務に擢でらる。景泰五年二月卒す。

チヤウホウ　張鵬　(明)字は滕霄。淶水の人。景泰二年の進士。御史より累官して兵部尚書に至り、太子少保を累加せらる。致仕して歸り、弘治四年卒す。懿簡と謚す。

チヤウボウ　張俊　(晉)前涼主第三世。字は成遜。寇の同母弟。在位五年。堯ずるに臨み世子駿の手を執り遺訓して晉室に勸めしむ。成王と追謚し廟を太宗と號す。

チヤウボウ　張茂　(晉)字は倚康。會稽の人。丁潭(字は世康)孔愉(字は敬康)と名を齊しうし、會稽三康と稱せらる。

チヤウボウ　張懋　(明)輔の子。幼より孤長じて父の爵を嗣ぐ。憲宗の時、太師を加ふ。武宗即位の初、群小と狎遊す。懋、文武官を率ゐて切諫す。兵柄を握ること四十年、寵眷群臣の冠たり。正德十年卒す。年七十五。寧陽王を贈り恭靖と謚す。

チヤウホウカク　張鳳翮　(明)字は健仲。天啓五年の進士。崇禎中、御史に官たり。四川巡撫王維章の貪劣を極論しまた給事中章正宸を召還せんと請ふ。納れられず。十五年浙江右參政に遷さる。未だ任に赴かずして罷む。時に張獻忠反し城を陷れ、脅かして仕へしむ。屈せずして死す。

チヤウホウカク　張鵬翮　(清)字は遠胥。湖廣麻城の人。康熙九年の進士。武英殿大學士に累官す。鵬翮、河道總督に任せらるゝこと最久し。利幣を陳する凡そ數十事。每日馬に乘じて堤岸を巡視し、勞苦を憚からず。清勤著聞なり。卒して文端と謚す。著に籌海重編あり。

チヤウホウキ　張鳳奇　(明)陽曲の人。家を鄉學に起して知府たり。崇禎三年正月、清兵至る。鄭國昌等と共に一門盡く死す。事聞す。光祿卿を贈らる。

チヤウホウギ　張鳳儀　(明)繪事に名あり。

チヤウホウチウ　張鵬翀　(清)字は天飛。號は南華。江蘇嘉定の人。雍正五年の進士。詹事たり。寧慧にして詩才あり、兼て畫に工なり。衞、捷さこと其詩の如し。前後御製に恭和し、旨に稱ふ。康熙二十七年戊辰生れ乾隆十年乙丑卒す。年五十八。

チヤウボウノツマ　張茂妻　(晉)陸氏。吳郡の人。茂、吳郡太守と爲り、沈充に害せらる。陸氏家產を傾け、茂の部曲を率ゐて先登を爲し、充を討つ。充敗る。陸氏闕に詣り、上書して茂の爲に謝す。詔して曰く、茂夫妻忠誠、舉門義烈、宜しく茂を大僕を追贈すべしと。

チヤウホウヨク　張鵬翼　(明)四充の人。崇禎中、選貢生より衡陽知縣を授けらる。十六年八月、張獻忠衡州に逼る。巡撫王聚奎、李乾德、及び監司以下皆遁る。士民盡く奔る。鵬翼獨り空城を守る。賊至る。即ち陷る。脅て降らしむ。戟罵詬罵す。賊縛して睹を江に投ず。

チヤウホウヨク　張鳳翼　(明)代州の人。萬曆四十一年の進士。廣寧兵備副使を歷す。憂歸す。天啓崇禎の交、兵無尙書に累遷し太子少保を累加す。清冦を防ぐ能はず、重譴を蒙れて崇禎八年九月朔、藥を仰ぎ卒す。

チヤウホウヨク　張鳳翼　(清)字は蘋之。晚之稱庵と號す。蘇建遠城の人。嗣冠にして

で錄に食す。十四歲にして四書大全を熟讀す。忽ち悟て曰く、心常に身內に在り、身は當に心內に在るべしと。五十の後、專ら持敬寡慾の旨を持し、胸氣日々に堅し。壽八十三にして卒す。

チヤウホウレイ　張季禮　(南北)長樂の人。三傳を善くす。張思伯と名を齊しうす。北齊の國子助教と爲る。

チヤウボク　張模　(宋)根弟の人。大觀中の進士。侍御史に累遷す。嘗て言ふ、朋黨分攻するは朝廷の禍と非ずと。時に鄭員冗濫なり。徽宗模に驗して論列せしむ。乃ち其の所謂者を摘み之を外に疏斥す。後に蔡收、引きて道史檢討官と爲す。詔して中書舍人に試む。

チヤウボク　張樸　(清)字は穆之。號は鐵橋。莞の布衣。嘗て書を羅浮山の石洞に讀み、其山嵐の曙見を得。故に山水を畫くに勃然として生氣あり。尤も善く馬を畫き、嶺東の大手筆たり。韓純玉、其世嗣に題するの詩に云く、鉄筒年已七十五、醉裏顚毫拔劍舞、餘勇猶令筆墨飛、迅掃神驅力如虎、維繫雕籠、風雲奮鬣非尋常、用之彊場一敵萬、如何閉廐荒垌畔、壯心烈士悲暮年、永日披圖稱長嘆。蓋し老て不遇なるを惜むなり。

チヤウボク　張沐　(清)字は仲誠。號は起菴。順治十五年の進士。內黃知縣を授けらる。其治、躬行を以て本と爲す。沐、孫徵君に從ひて游び、鴻潛菴耿逸菴二先生と相往來講學す。其學、主敬を以て功と爲す。晚年、白鹿堂を闢く。草字土壁。以て四方の學者を受く。興起する者甚た衆し。著、史學鈔、一隅解の諸書あり。

チヤウホン　張本　(明)字は致中。東阿の人。洪武中、國子生より知縣に擢す。宣德中、工部尚書に歷進し、六年病んで卒す。

チヤウマウケン　張孟兼　(明)名は丁。字を以て行はる。禮部主事太常司丞に歷任す。性勤直、惡を惡むこと仇の如し。事を以て太祖の旨に忤ひ棄市せらる。

チヤウマウダン　張孟男　(明)字は元嗣。中牟の人。嘉靖四十四年の進士。推官より尙寶丞に歷す。萬曆中、南京工部尙書に累擢す。一たび致仕して復た故官に起ち、太子少保を加ふ。萬曆三十年春、礦稅の害を草し、其子に屬して之を上り、翌日卒す。太子太保を贈る。

チヤウマウヨウ　張孟容　(明)繪事に名あり。

チヤウマンセイ　張曼成　(漢)中平元年、南陽に起り、黃巾の徒を率ゐて太守褚貢を攻殺す。後ち誅に伏す。

チヤウムボウ　張無夢　(唐)永嘉開元觀の羽士。玄宗召對して易の讖の卦を請ず。上問て曰く、獨り讖卦なるは何ぞや。無夢對へて曰く、方大時あり、宜しく之を守るに讖を以てすべしと。復命下て運元編を講ぜしむ。數對詳明なり。玄宗大に悅び、宸翰特に賜ふに詩を以てし、其還山を寵す。

チヤウメイシン 張名振 (唐)李懐光に事へて都尉と爲る。懐光功を立つるを以て詔を奉じて侯ること甚し。名振大言して曰く、太尉賊を見て擊たず、使到りて迎へず、將又反せんとするか、且つ安史僕固等今皆族滅せらる、今何をか爲さんと欲すると。懐光怒りて之を拉殺す。

チヤウメイセイ 張名世 (明)天啓中、官參將たり。清兵を瀋陽に拒ぎて戰死す。

チヤウメイホウ 張鳴鳳 (明)清平の人。弘治九年の進士。永康知縣に除せられ政績あり。御史に擢でらる。正德元年九月、上疏納れられずして罷む。後起つて湖廣僉事に拜し副使に進む。母憂に丁りて歸りて卒す。

チヤウメウジヤウ 張妙淨 (元)女子。字は蕙蘅。自然道人と號す。鏡塘の人。音律を曉る。清逸にして才鳳脫。姑蘇の春夢樓に居り。嘗て楊廉夫の竹枝詩に和す。

チヤウモ 張模 (宋)字は君範。鎮興の人。後、道を聞きて名を道心と改め紫瓊と號す。名山に隱る。

チヤウヤウカウ 張養浩 (元)字は希孟。濟南の人。幼より行義あり。嘗て出づ。楮幣を道に遺す者あり。愈〻道て之を還す。邑に居り淫祠を毀つこと三十餘。嘗て英宗を諫む。帝大に怒る。既にして曰く、張希孟にあらざれば、敢て言はずと。父の老を以て歸養す。是より七詔皆起たず。天曆の初、關中大に旱饑す。特に起して四川中丞と爲す。慨然として道に就く。山川に禱祀す。累日雨を得ず。實夜慟哭。遂に疾を得て卒す。濱國公に追封し文忠と謚す。

チヤウヤウモウ 張養蒙 (明)字は養亨。潭州の人。萬曆五年の進士。庶吉士より吏科給事中に歷す。連りに時務を陳す。戶部、驛事に擢でらる。罷め歸りて卒す。天啓の初、穀敏と謚す。

チヤウヤク 長約 (明)字は處誠。善を善くす。吳嶽と共に昆山に學ぶ。竹石は夏太常に學ぶ。吳は竹に、屈は石に長ず。然れども皆師に及ばず。

チヤウヤクシ 張約之 (南北)秦郡の人。嘗て吉陽令と爲る。徐奚之の郭廢立を謀る。次を以て當に廬陵王曦眞に及ぶべし。乃ち諸して先づ曦眞を廢して庶人となす。約之憤惋上疏して切諫す。梁州府參軍に徙し之を殺す。論者謂へらく、田延年の風ありと。元嘉三年詔して其義烈を褒す。

チヤウユ 張愈 (宋)字は少愚。一字は叔才。明縣の人。道士と爲り自ら白雲片鶴と稱す。仁宗の朝に四戎邊を犯す。上書して攻取十策を陳す。校書郎を授けらる。歸りて青城山の白雲樹に隱る。蜀公、呂夷簡と嘗て之を薦む。皆起たず。凡そ六たび召命を辭し、門を杜ぢて書を著す。卒す。妻蒲氏、賢にして文あり。自ら誄を爲る。

チヤウヨ 張譽 (明)峨石と號す。廣東の人。山水を善くす。

チヤウヨウ 張膺 (宋)安德の人。毛詩を治す。開寶中の進士。南雍州に知たり。端拱中に右諫議大夫に累官す。後に尚書右丞を以て致仕す。雍、事に莅み恪勤、其清幹を重んず。賓佐を集めて綱食するのみ。

チヤウヨウケイ 張雍敬 (清)字は衍珮。號は簡菴。秀水の布衣。畫を善くす。特に草虫に工みなり。花草を布置する、宋人の勾染法に本づく。工細にして致多し。天文歷律の事を究め、定律玉衡十八卷を著す。詩に環愁草、靈鵲軒等の集あり。畫は蓋し其の餘技のみ。

チヤウヨウチヨク 張用直 (金)臨潢の人。少うして學行を以て稱せらる。海陵兄弟皆之に從つて學ぶ。海陵位に即くや、召して簽書徽政院事となし太常卿に轉じ太子詹事に擢づ。

チヤウヨク 張翼 (三國)字は伯恭。武陰の人。綱の曾孫。蜀の先主に事ふ。建興間に劉胄を討じて功あるを以て都亭侯征西大將軍に累遷す。後、鍾會が亂兵の爲に殺さる。子徽、學を好み廣陵太守に累官す。

チヤウヨク 張翼 (明)臨淮の人。聚の子。驍勇善く戰ふ。副千戶を以て父の職を襲ぐ。討寇積勳あり、鶴慶侯に封ぜらる。洪武二中に晉郡太守と爲る。履行貞素。婁子採樵して以て自ら供す。孝文深く之を嘉みす。京兆太守に遷る。清白を以て著はれ吏民の心を得たり。

チヤウヨウ 張雍 (宋)安德の人。毛詩を治す。開寶中の進士。南雍州に知たり。端拱中に右諫議大夫に累官す。後に尚書右丞を以て致仕す。雍、事に莅み恪勤、其清幹を恃み、遇を時に受く。玉る所の藩鎭皆之を重んず。賓佐を集めて綱食するのみ。

チヤウヨウケイ 張雍敬 (清)字は衍珮。秀水の布衣。畫を善くす。特に草虫に工みなり。花草を布置する、宋人の勾染法に本づく。工細にして致多し。天文歷律の事を究め、定律玉衡十八卷を著す。詩に環愁草、靈鵲軒等の集あり。畫は蓋し其の餘技のみ。

チヤウヨウチヨク 張用直 (金)臨潢の人。少うして學行を以て稱せらる。海陵兄弟皆之に從つて學ぶ。海陵位に即くや、召して簽書徽政院事となし太常卿に轉じ太子詹事に擢づ。

チヤウヨク 張翼 (三國)字は伯恭。武陰の人。綱の曾孫。蜀の先主に事ふ。建興間に劉胄を討じて功あるを以て都亭侯征西大將軍に累遷す。後、鍾會が亂兵の爲に殺さる。子徽、學を好み廣陵太守に累官す。

チヤウヨク 張翼 (明)臨淮の人。聚の子。驍勇善く戰ふ。副千戶を以て父の職を襲ぐ。討寇積勳あり、鶴慶侯に封ぜらる。洪武二十六年九月、藍玉の黨に坐し、誅に伏す。

チヤウヨクセイ 張翼星 (明)字は三明。左衛の人。崇禎の末の擧人。理學に精しく、尤も易に長ぜり。家貧くして仕へず、卜肆に隱れ、日に百錢を獲て以て自ら給す。衣履全からずして而かも晏如たり。

チヤウヨケイ 張予卿 (明)信陽を知す。崇禎十五年、清兵山東を下りて海劭に抵る。城陷り難に殉ず。

チヤウヨサイ 張興材 (元)字は國梁。別に廣徽子と號す。留國公に封ぜらる。信州の龍虎山に居り、大字を能くす、又竹と龍とを畫く。

チヤウライ 張來 (宋)淮陰の人。年十二にして文を能くす。弱冠にして進士に第し大學錄を歷て史館檢討に遷る。自ら守る澹如たり。紹聖の初め直龍圖閣を以て潤州に知たり。黨錮に坐して官を謫せらる。徽宗召して太常少卿と爲す。復出でゝ汝潁二州に知たり。又黨禍に坐して落職す。來、雄才あり、筆力絕健。人を誨へて文を作らしむるに、禮を以て主と爲す。以爲らく、六經諸子百氏皆理を寫すの具と。學者以て至言と爲す。

チヤウラウ 張耒 (宋)字は文潛。淮陰の人。十二歲にして文を能くし、弱冠にして進士に第す。尤も賦騷に長ず。人に作文を誨ふるに理を以て主と爲さしむ。官は起居舍人。黨禍に坐す。家貧なり。鄂守爲に產を置かんと欲す。堅く之を辭す。雅より蘇軾兄弟と善し。著す所、兩漢決疑八十卷あり、世に行はる。蘇門四學士の一。黃庭堅より少きこと六歲。

チヤウラウ 張老 (周)晉の大夫。獻文子室を成す。張老曰く、美哉輪焉、美哉奐焉と。君子之を善く頌すと謂ふ。

チヤウラゲン 張羅彥 (明)羅俊の弟。字は仲美。崇禎二年の進士。十七年二月、賊李自成、京師に逼る。羅彥、邵宗元及び兄羅俊と共に死守す。城遂に陷り、投繯して死す。

チヤウラシユン 張羅俊 (明)字は元美。清苑の人。父純臣、武進士より參將神機營左副將を歷す。羅俊、賢女を娶りて終身妾を置かず。崇禎十六年秋進士に擧げらる。十七年二月、李自成京師に迫る。羅俊及び弟羅彥、同知邵宗元等と血を歃て死守す。賊兩道に分れて攻む。羅俊東城を守る。其下を顧みて曰く、降らんと欲する者は我首を取て去れと。已にして城陷る。羅俊猶刀を持して賊を砍る。刀脫す。兩手に賊を抱き其耳を齧む。血、口吻の間淋漓たり、賊益々至り、遂に害に遇ふ。

チヤウラゼン 張羅善 (明)羅俊の弟。字は舜卿。諸生たり。崇禎中李自成來り犯す。羅俊羅彥の兩兄を佐けて城を守る。城將に陷らんとす。兩兄死するなからんを戒し。羅善曰く、節に死するの臣あらば節に死するの士なかる可らずと。井に投じて死す。

チヤウラホ 張羅輔 (明)羅俊の弟。崇禎十六年の武進士。十七年二月、賊李自成、京師に逼る。諸兄と共に之を禦ぐ。城破れ矢盡く。乃ち短兵を持し數人を殺して死す。

チヤウリ 張埋 (元)字は仲純。江西清江の人。度才學等に擧げらる。泰寧教諭を歷仕し、禍建儒學副提擧に終る。易象圖說三卷、大易象數鉤深圖三卷を著す。後ち至正の初、貫師泰、其書に序して世に傳ふ。

チヤウリシヤウ 張履祥 (清)字は考夫。桐鄉の楊園村居り。學者楊園先生と稱す。九歲にして父を喪ふ。母之を諭して曰く、孔孟も亦是れ同じく父なきの兒、たゞ肯て好人を學びしが爲に便ち大聖を成す、爾自棄するなかれと。履祥、紫陽居敬窮理の訓を恪守し、之を人間日用の間に實體す。身草野に在りと雖も未だ嘗て一日も天下を忘れず。康熙十三年に歿す。年六十四。

チヤウリセン 張履旋 (明)愼言の子。崇禎十五年の鄉舉。賊の陽城を陷るゝや、崖に投じて死す。御史を贈る。

チヤウリフダウ 張立道 (元)字は顯卿。世祖の時、皇子忽哥赤を雲南王と爲し、立道を王府文學に除す。時に奸臣逆を謀り王を毒す。王薨ず。立道義士を結びて共に賊を討ち、人を京師に走らせ變を告ぐ。事平らぐ。金五十兩を賜ひ其忠を旌す。雲南參政と爲り、事を視る期月にして卒す。土人祠を立て祀る。著に效古集、平劉總論、雲南風土記等あり。

チヤウリン 張林 (漢)章帝の時に尚書張

林上言す、縣官經川足らず、宜しく武帝均輸の法を復すべしと。

チヤウリン 張琳 (五代)眉州刺史。章仇に繼ぎ水利を通濟して田一萬五千頃に灌漑す。民歌て曰く、前有章仇後張公、疏決水利秔稻豊、南陽杜詩不可同、何不因之代大工と。

チヤウリン 張綸 (宋)字は公信。潁川汝陰の人。太宗の時に荊湖提擧刑獄に擢でらる。累りに辰渭州に知となり、江淮發運副使に遷り、轉りに泰州に知たり。流戸二千六百を復す。民爲に生祠を立つ。後又洛磁滄潁州に知たり。綸材略あり、至る所利を興し害を除き、循良の政あり。

チヤウリン 張倫 (明)字は秉彝。蜀に工なり。人物鬼神を能くす。

チヤウリヤウ 張良 (漢)字は子房。其先は韓人なり。秦の韓を滅するとき、良悉く家財を以て客を求め、秦王を刺して韓の爲に仇を報ぜんとす。力士を得て始皇を博浪に狙擊す。誤て副車に中たる。始皇大に怒り、大に天下に索ること十日、竟に獲ず。嘗て下邳の圯上に遊ぶ。一老父あり、褐を衣、履を圯下に墮す。顧みて良に謂て曰く、孺子下りて履を取れと。良愕然として意之を毆たんと欲す。其老いたるを憐み、遂に履を取り跪て進む。老父足を以て之を受け、笑て良に謂て曰く、孺子教ふべし、後五日平明に我と此に會せよ。良曰く、諾。五日平明に良往けば、老父已に先づ在り。怒て曰く、長者と期して後るゝは何ぞや、去て後五日早く會せよ。五日良雞鳴にして往く。老父又先づ在り。仍揮ひ去らしめて曰く、後五日にして早く來れと。良半夜にして往く。頃くありて老父至り喜て曰く、當に是の如くなるべしと。書一編を出して之を與へて曰く、此を讀まば則ち王者の師たらん、後十三年我を見ん、濟北穀城下の黃石は即ち我なりと。旦に書を視れば乃ち太公の兵法なり。良、晝夜誦習す。後、少年百餘人を聚む。沛公の地を下邳に略するに遇ひ、遂に屬す。乃ち兵を引て秦軍を擊ち穴に之を破り遂に咸陽に入る。沛公既に秦宮に入り、意に留て之に居らんと欲す。樊噲諫むれども聽かず。良曰く、夫の秦無道を爲す、故に沛公此に至るを得、夫れ天下の爲めに殘を除き暴を去る、宜しく縞素を爲すべし、今始めて秦に入り即ち其樂に安ぜば、此れ所謂桀を助けて害を爲すなり、且つ忠言は耳に逆へども行に利あり、良藥は口に苦けれども病に利なり、願くは噲言を聽けと。沛公乃ち還て霸上に屯す。時に韓王成立て王と爲る。良、韓に歸して之に相たり。項羽が爲に殺るゝに及び、良復漢に歸す。漢の爲に畫策して項羽を滅し天下を定む。高祖曰く、籌を帷幄の中に運らし勝を千里の外に決するは我れ子房に如かずと。功を論じて封賞するに及び、高祖良をして自ら齊の三萬戸を擇ばしむ。良曰く、臣始め下邳に起り上と留に會す、此れ天、臣を以て陛下に授くるなり、陛下臣の計を用ひ幸にして時々中る、臣願くは留侯に封ぜられなば足らん、敢て三萬戸に當らずと。乃ち封じて留侯と爲す。漢王の稱する所の三傑、良其一なり。良曰く、吾今三寸の舌を以て帝者の師と爲り萬戸侯に封ぜらる、此れ布衣の極、良に於て足れり、願くは人間の事を棄て赤松子に從て遊ばんのみと。良一日高帝に從て濟北を過ぎ、果して黃石を得たり。伏臘に塚に上り黃石を祠る。泗水亭に漢の功臣を銘する十八人、良は第三なり。文成と謚す。子不疑、封侯が嗣ぐ。次子辟疆、年十五にして侍中と爲る。

チヤウリヤウ 張梁 (漢)鉅鹿の人。角の弟。靈帝の時、兄と共に妖術を以て衆を惑はし所在燔刼す。所謂黃巾の賊なり。帝、皇甫嵩等を遣して之を討たしむ。既にして角、病んで死し、梁、戰敗れて斬らる。

チヤウリヤウ 張亮 (南北)字は伯德。關城の人。初め朱兆に事ふ。神武、兆を討す。兆、秀容に奔る。左右皆皆に誠款を通ず。唯だ亮のみ啓疏なし。兆敗れて窮山に竄するに及び、亮及び蒼頭陳山を以て其首を提げて降らしむ。皆忍びず。兆乃ち自ら樹に縊る。亮屍に伏して哭す。神武之を嘉嘆し、丞相參軍を授けて輒く親待し、委するに書記の任を以てす。天平中に文襄行臺郎中典七兵事と爲る。

チヤウリヤウ 張亮 (唐)太宗に從て天下を定め數々奇功を立つ。高麗を伐つに及び、

亮を封じて行軍大總督と爲す。凌烟閣の功臣、亮與かる。郟公に封ぜらる。

チヤウリヤウ 張亮 (明)四川の人。崇禎中、右僉都御史に歷遷す。福王に仕へて安慶を守る。城破れて執へらる。間に乘て河に赴きて死す。

チヤウリヤウエイ 張良齊 (宋)字は景先。寧化の人。篤く程氏の學を好む。建炎中第して臨川簿に調ぱる。就かず。郡守其行を高しとし、復辟して武平丞と爲す。會々盜起る。良齊 且騎賊堡を造り、論するに禍福を以てす。皆感泣して散ず。

チヤウリヨウ 張陵 (漢)桓帝の朝に尚書と爲る。元嘉中、正月朔、群臣朝賀す。大將軍梁冀、劍を帶びて省に入る。陵叱して出でしめ、羽林虎賁に敕して劍を奪はしむ。冀跪きて謝す。陵應ぜず、即ち冀を劾奏して廷尉の論罪を請ふ。詔あり、一歲の俸を以て罪を贖はしむ。百僚肅然たり。

チヤウリヨウ 張龍 (明)遼人。從征して功あり。花槍所千戸を授けらる。四番洮州を征して鳳翔侯に封ぜらる。尋て諸洞蠻を平げて增秩せらる。洪武三十年、疾を以て卒す。子麟。

チヤウレイ 張珩 (遼)磁州の人。初め唐に仕ふ。戰ひ敗れて遼に入る。太宗其剛直を喜び、擢んでゝ輸林學士と爲す。凡そ事に臨み盡言顧避する所なし。未だ幾ばくならずして亡歸す。道騎に獲らる。太宗其難を釋しまた之を任用す。嘗て奏す、大遼始めて中土を得、宜しく中土の人を以て之を治むべし、專ら國人及び左右近習を用ふべからずと。帝聽かず。尋て帝崩ず。禍綱に亂す。耶律五廝答、兵を以て其第を圍み、之を數めて曰く、何の故に國人中土を治むべからざるかと。珩抗言屈せず。廝答將に之を殺さむとす。人之を救止す。是夕悲慎して遂に卒す。

チヤウレイ 張令 (明)永寧宣撫司の。天啓中、賊奢崇明に屬す。後ち巡撫朱燮元に歸し、參將より建武遊擊に歷す。崇禎中、副總兵に遷りて川北を鎮す。征行毎に先鋒たり。十三年九月、賊張獻忠と戰ひ、敗れて之を死す。

チヤウレイ 張鑑 (明)字は夢晉。吳縣の人。書を讀み交游を好む。唐六如と隣たり。志氣雅合、茂才相敵す。人物を揣きて冠服元より古、形色清眞、卑庸の氣なし。間ま山水を作る。閑醫に由らずと雖も而かも能く生意勃勃、嶄然として絕俗す。

チヤウレイ 長齡 (清)字は懋亭。姓は薩爾圖克氏。蒙古正白旗人。繙譯生員より能帖式に補せらる。四番洮州を征して文華殿大學士たり。一等成男公に封ぜらる。累官して文華殿大學士たり。初め公、臺灣甘肅に隨征し、屢々戰功を加へらる。後三省の教匪及び逆回帳格爾を平げ、調度方あり、竭忠報國凱旋す。紫光閣に圖形せらる。卒して文襄と謚す。

チヤウレイエウ 張懋耀 (晉)前涼主第六世。字元舒。重華の子。父死すること年纔に十歲。長寧侯祚纔耀を殺して自立す。在位一年。哀公と謚す。

チヤウレイクワ 張麗華 (唐)死して路傍に葬る。人ありて衾行く。詩を吟ずるを聞く、聲甚だ美なり。次日之を隨すれば乃ち古墓也。故老に問へば皆曰く、麗華の墓と。

チヤウレイタク 張令鐸 (宋)厭次の人。南唐の時に小校に補せらる。宋の初め東京舊城內都點檢校に累官す。卒して侍中を贈る。令鐸、性仁恕なり。嘗て人に謂て曰く、我れ軍に從ふ三十年、大小四十餘戰、多く堅を摧き敵を陷れしも、未嘗て一人を妄殺せずと。

チヤウレイテイ 張麗貞 (明)吳江の人。自悔の詩あり。曰く、爲燕叙頃鈿子黃、翠翹斜護晚來妝、桃源路曲花陰暝、錯道漁郎作阮郎と。

チヤウレウ 張遼 (三國)字は文遠。雁門馬邑の人。先に呂布に從ふ。布敗れて曹操に歸し、中郎將に拜せられ、合淝內侯を賜ふ。從て袁譚を討ちて之を破る。乃ち別將として海濱を徇へ遼東の賊柳毅等を破り鄴に還る。太祖自ら出でゝ遼を迎へ、引て共に載す。遼寇將軍に封ず。復遼をして合肥を鎮せしむ。孫權、衆十萬を率ゐて合肥を圍む。遼、夜敢死の士を募りて八百人を得たり、牛を椎して將士を饗し、明日大に戰ふ。遼甲を被り先登して陣を陷れ將を斬り壘を衝き、大て權の麾下に至る。且より戰て日中に至る。吳人氣を奪はる。往來奮擊幾んに十歲。長寧侯祚纔耀を殺して自立す。在位一年。哀公と謚す。

と雖も未だ院體を脱ざるのみ。

チヤウロク　張緣　(明)字は宗制。城武の人。正德六年の進士。太常博士より御史に擢す。嘉靖の初、大禮を爭ひて廷杖せらる。出て畿輔を按ず。後ち誣ひられて罷め歸り、家居二十年にして卒す。

チヤウロク　張祿　(明)張祐の從弟なり。字は天爵。梅花を畫きて妙を究む。

チヤウロシ　張路斯　(淸)宣城の人。常に魚氏臺に釣す。夫人之を問ふ。曰く、我は龍なり、聖人鄭祥遠も亦龍なり、今日我と釣處の寶殿を爭ふ、明日當に戰ふべし、九子を生して我を助けしめん、我は綠綃の兵を領し、鄭は青綃の兵を領すと。明日衆青綃を射て之に中つ。九子皆龍に化して去るといふ。

チヤウロ　張魯　(三國)字は公期。沛國豐の人。漢に仕へて漢中太守と爲る。後隱身して道を學び、符法を以て病を治す。米一斗を致す者は病者立どころに愈ゆ。之に久うして米を積むこと鉅萬。曹操將を遣はして攻めしむ。克つ能はず。後、操自ら領して往て之を擊つ。魯降る。封じて征南大將軍閬中侯と爲す。

チヤウロ　張路　(明)字は玉馳。平山と號す。大梁の人。大學生たり。畫に工なり。人物は吳小仙に似而して韻致あり。亦戴文進の風致あり。一時縉紳咸く推重を加ふ。其眞蹟を得る璧を得るが如し。用墨佳なり

チヤウロク　張祿　(明)字は宗制。城武の人。正德六年の進士。太常博士より御史に擢す。嘉靖の初、大禮を爭ひて廷杖せらる。出て畿輔を按ず。後ち誣ひられて罷め歸り、家居二十年にして卒す。

チヤウロク　張緣　(明)張祐の從弟なり。字は天爵。梅花を畫きて妙を究む。

チヤウロシ　張路斯　(淸)宣城の人。常に魚氏臺に釣す。夫人之を問ふ。曰く、我は龍なり、聖人鄭祥遠も亦龍なり、今日我と釣處の寶殿を爭ふ、明日當に戰ふべし、九子を生して我を助けしめん、我は綠綃の兵を領し、鄭は青綃の兵を領すと。明日衆青綃を射て之に中つ。九子皆龍に化して去るといふ。

チヤウロ　張魯　(三國)字は公期。沛國豐の人。漢に仕へて漢中太守と爲る。後隱身して道を學び、符法を以て病を治す。米一斗を致す者は病者立どころに愈ゆ。之に久うして米を積むこと鉅萬。曹操將を遣はして攻めしむ。克つ能はず。後、操自ら領して往て之を擊つ。魯降る。封じて征南大將軍閬中侯と爲す。

チヤウロ　張路　(明)字は玉馳。平山と號す。大梁の人。大學生たり。畫に工なり。人物は吳小仙に似而して韻致あり。亦戴文進の風致あり。一時縉紳咸く推重を加ふ。其眞蹟を得る璧を得るが如し。用墨佳なり

チヤウロク　張緣　(明)字は宗制。城武の人。正德六年の進士。太常博士より御史に擢す。嘉靖の初、大禮を爭ひて廷杖せらる。出て畿輔を按ず。後ち誣ひられて罷め歸り、家居二十年にして卒す。

チヤウロク　張祿　(明)張祐の從弟なり。字は天爵。梅花を畫きて妙を究む。

チヤウロシ　張路斯　(淸)宣城の人。常に魚氏臺に釣す。夫人之を問ふ。曰く、我は龍なり、聖人鄭祥遠も亦龍なり、今日我と釣處の寶殿を爭ふ、明日當に戰ふべし、九子を生して我を助けしめん、我は綠綃の兵を領し、鄭は青綃の兵を領すと。明日衆青綃を射て之に中つ。九子皆龍に化して去るといふ。

チヤウワ　張緯　(漢)鉅鹿帝に事へて關中に守たり。中平中、馬超韓遂等と叛きて亂を作し、誅せらる。

チヤウワン　張綰　(南北)字は孝柳。繼の弟。兄と名を齊しうす。湘東王繹、聘て簿するに百事を以てす。綰對ふるに其六を闕く。百六公と號す。

チヤウヤウキ　張緯　(晉)少くして操行あり。恭帝の琅琊王たりし時、緯を以て郎中令と爲す。帝踐祚するに及び、劉裕、緯が帝の故吏にして素より親信せらるゝを以て藥酒一罌を封じ緯に付して密に帝を鴆せしむ。緯既に命を受けて嘆じて曰く、君を弑して生を求む、何の面目ありてか世間に視息せん死するに如かざるなりと。因て自ら飲て死す。

チヤウヤウキ　張偉　(南北)字は仲業。太原の人。學、諸經に通ず。鄉里業を受くる者恒に數百人。偉、告喻殷勤、常に經典に依附して教ふるに孝悌を以てす。人々其神化に感ず。之に事ふること父の如し。性淸雅にして、法に非れば言はず。太武の時に高元等と俱に辟命せられ、中書博士を授けらる。

チヤウヤキ　張威　(宋)字は德章。成州の人。仕へて利州副都統制と爲り屢々奇功を嘉定中に立つ。官、楊州觀察使に終ふ。威初め行伍に在り、勇を以て稱せらる。進て偏裨に充てられ、戰ふ每に輙ち克つ。陣に臨み戰酣なる每に綽采愈々奮ふ。金人其名を聞て之を長憚す。

チヤウヤウ井　張暉　(金)字は明伸。莒州日照の人。博學敏邁。正隆五年進士に登す。承安三年安武軍節度使となり卒す。人々なり清靜寡欲。二子行簡行信と古今を講論し、諸孫課誦し夜分乃ち寢む。

チヤウヤキ　張煒　(金)字は子明。洛州永年の人。大定二十五年登第す。貞祐三年安國軍節度使に遷りて致仕し明年卒す。

チヤウ井　張位　(明)字は明成。新蔡の人。隆慶二年の進士。編修に除し、世宗實錄を預修す。萬曆中、起居注を授くるを請ふ。議行はる。累遷して武英殿に至る。後ち事に坐して民に斥けられて卒す。天啓中官を復し、太保を贈り文莊と謚す。

チヤウ井　張璋　(明)字は席之。武進の人。少より孤貧。萬曆末の進士。廣東提學僉事に歷す。莊烈帝の時、左副都御史に累擢せらる。病を謝し歸り卒す。福王の時、左都御史を贈り清惠と謚す。

チヤウヤキカウ　張惟孝　(宋)襄陽の人。春秋に通ず。騎射に工なり。江陵の宣撫姚希得之を羅致す。乃ち空名帖を請ひ以て還る。旬を逾ゑて三十騎と俱に甲士五千を擁して至る。部伍嚴肅なり。希得大に喜び、統ふる所の姓名を問ふ。惟孝曰く、朝廷人に貢き、福は餌く禍は易し。聊か君侯の爲に一時の難を紓ぶるのみ、姓名は得べからずと。時に鼎澧五州危きこと甚し。是に於て鼓を擊ち兵を耀かすこと數日。衆萬人に至る。屢戰て俱に捷つ。江上平制使呂文德之を招く。就かずして還る。之を物色すれども得ず。

チヤウヤキケン　張惟儉　(唐)嘗論の人。和州刺史たり。柳宗元の父。柳鎭と友たり。

チヤウヤキイ　張維世　(明)太康の人。萬曆四十四年の進士。平陽知府に歷し、奸猾百吏を抑ふ。副使に遷り右僉都御史に累官す。陳新申に代りて宣府を巡撫す。事を親ること甫めて旬日、防を失するに坐し繫を削りて遣戍せらる。已にして釋され返る。崇禎十五年二月、李自成睢州を陷れ太康を犯す。維世、知縣魏命望を佐け力を竭して拒守す。城陷り節に抗して死す。

チヤウヤキツ　張聿　(唐)瑯琊の人。華亭令と爲る。吏民の初犯は罪由を藉る書して自ら新にするを聽す。再犯は則ち藉を擧げて勘照し按論して宥さず。府に征需あれば力を量り數を受く。然れども稍々浮濫に至れば輙ち爲に禍ぎ去る。干乞を以て境上に至る者あり。民の歌を聞くに曰く、華亭君來、幾時、免我疾苦瘴我飢と。其人曰く、慢悔の政安ぞ撓むべけんやと。謁せずして去る。

チヤウ井トク　張維德　(淸)安徽合肥の人。明季に寇あり、境に入りて其父を執へ、將に殺さんとす。維德、年甫めて十五、頭を延べて刃に就き、父に代るを求む。賊義として之を釋す。

チヤウ井ノツマ　張維妻　(明)燕谿の人。淺氏。弘治中夫死す。婦年二十五。其兄及舅姑、再嫁を勸む。肯ぜず、節を守る。舅の妾、子を生む。喜んで曰く、張氏絕ゆべからずと。後ち舅姑病む。紡績供養二十年衰へず。

チヤウヤキヘイ　張維屏　(淸)字は子樹。一名は南山。番禺の人。道光二年の進士。出て知縣と爲る。詩を以て世に名あり。著に聽松廬文鈔あり。

チヤウヤキン　張允　(五代)鎭州の人。初め張文禮の參軍たり。唐莊宗の張文禮を討つや、身を脫して莊宗に降る。後反きて晉に之き漢に降り、遂に周に攻められて自殺す。年六十五。

チヤウヤキン　張筠　(五代)海州の人。世々貲を以て商賈を爲す。筠、節度使時溥に事へて宿州刺史となる。梁兵來りて溥を攻め、宿州を取り筠を得て其辯慧を愛し、累拜して永平軍節度使と爲す。梁亡びて唐に仕へ、京兆尹と爲る。家甚だ富む。洛陽に居り酒色聲伎を以て自ら娛足するもの十餘年、人之を地仙といふ。天福二年居を長安に遷す。此年卒す。太子少師を贈る。

チヤウヤキン　張瀋　(隋)字は文懿。武城の人。父燮、淸河太守たり。免され歸る。鄉人陳の寇を引き至る者あり。燮、子弟を率ゐて之を擊たんと欲す。瀋、其計を贊成して寬に賊を破る。是に由りて名を知らる。瀋、周に仕へて主簿と爲り、隋に入りて潭州總管と爲る。卒して謚して莊といふ。

チヤウ井ンサイ　張允濟　(隋)武陽帝。民を愛すること子の如し。道に遺ちたるを拾はず。玄武の民狩牛を以て婦家に依り十餘牘を孳して而して還さざる者あり。縣に訴

へて決する能はず。乃ち允濟に詣る。允濟因て左右をして、民を縛して其首を蒙ひ、婦家に過ぎらしめて云く、牛を盜む者を捕ふと。盜く牛を出さしめ、問ふ、何れより來ると。婦家知らず、遽に庭へて曰く、此れ壻家の牛なりと。遂に斷じて壻に還す。

チヤウ井ンシウ 張允修 (明)居正の第五子。字は礎初。廕を以て尚寶丞たり。崇禎十七年正月、張獻忠の荊州を掠むるや、允修、詩を壁に題し、食せずして死す。

チヤウキンシン 張允伸 (唐)范陽の人。宣宗の時節度使と爲り、中書平章に累進し、燕國公に封ぜらる。時に徐州反す。米五十萬斛・錢二萬石を出して國用を佐く。詔して之を嘉みし玉帶寶器を賜ふ。進て侍中を兼ね。卒して太尉を贈り忠烈と謚す。

チヤウキントウ 張允登 (明)漢州の人。萬曆三十八年の進士。咸寧・咸陽を歷知す。善政あり。卓異に擧げられ刑部主事を得、河西兵備副使に累遷す。鄜延歲飢るに盜起る。允登撫循備禦に至る。士民之を德とす。崇禎四年閏十一月、餉を督して甘泉に至る。降卒潛かに流賊と通ず。知縣郭永固を殺し餉を劫す。允登力め禦ぎ、敵せずして死す。

チヤウエツタウ 張日韜 (明)字は席珍。華亭の人。正德十二年の進士。常州推官を授けらる。嘗て江彬の黨の橫行を防ぐ。世宗即位し、召して御史とす。大官を勸して旨に忤ひ廷杖せらるゝと再次、遂に死す。

隆慶の初、光祿少卿を追贈す。

チヤウエン 張遠 (元)字は梅巖。華亭の人。善く山水人物を畫く。並に馬遠・夏珪を學ぶ。蓄積を臨模して往々眞に逼る。

チヤウエン 張琬 (明)鄱陽の人。貢士を以て高等に試し、給事中を授けられ戶部主事に改めらる。一日帝天下財賦戶口の數を問ふ。對へて遣す無し。帝悅びて左侍郎に擢す。人と爲り才敏心計あり。年二十七、官に卒す。時人之を惜む。

チヤウヲン 張溫 (三國)字は惠恕。吳郡吳の人。使を蜀に奉じ博士秦宓と天を論ず。後、太子太傅に終ふ。

チヤウヲン 張渾 (明)太祖に從ひて江を渡り、千戶を授けらる。積功して天策衛指揮僉事に至り會寧侯に封ぜらる。後居室器用の僭上を以て罪を獲、遂に藍玉の黨に坐して死す。

チヤイフブン 儲雄文 (清)字は記雲。欣の弟。康熙辛丑の進士。文を以て名あり。

チヤイン 褚胤 (晉)吳人。年七才にして棋を善くす。長ずるに及び當代に冠絕す。父榮期、臧質と興に遊ぶを同じうす、胤も從つて誅せらる。何尚之謂ふ、胤の奕古今絕妙なり、父に因て戮を受く、特に之を痛惜すと。

チヤインリヤウ 褚寅亮 (清)字は楷升。鶴侶と號す。長州の人。乾隆十六年の召試擧人。官、刑部員外郎たり。錢宮・詹大昕と同じく經學を修め禮經に從事すること幾ど三十年、又天文曆算の術に精しく、尤も勾股に長ず。

チヨウクワン 澄觀 (唐)高僧。姓は夏侯氏。會山陰の人。初め天下の諸碩德に歷侍し、諸宗の要義を學ぶ。後遂に華嚴を賢首に承け、五臺山清涼寺に住す。九朝を歷、七帝の師となる。大に華嚴を弘む。開成三年三月六日寂す。年百二。著す所四百餘卷。華嚴を講ずること五十遍。弟子法を傳ふるもの一百餘人。

ヂヨエイ 女英 (上古)堯皇の妃を見よ。

チヨエン 褚燕 (三國)張燕を見よ。

ヂヨエン 女娟 (周)趙の河津の女。趙簡子の夫人。初め簡子楚を擊つ時、津吏と期す。至るに及び津吏醉眩なり。因て將に誅せんと欲す。娟進て曰く、妾が父主君の來り渡るを聞き、九江三淮の神に禱祠して供具禮を備へ、主觴杯酌の餘瀝に勝へずして此に至る、願はくは妾の鄙觚を以て父の死に代らんと。簡子遂に之を釋して誅せず。將に渡らんとする時、楫を用ふる者一人を欠く。娟乃ち攘卷して楫を取て從ふ。中流にして簡子の爲に河激の歌を發す。其辭に曰く、升彼阿兮面側清、水揚波兮杳冥々、禱求福兮醉不醒、誅將加兮妾心驚、罰既釋兮瀕乃濟、妾持楫兮操其雄、蛟龍助兮主將歸、呼來擢兮行勿疑と。簡子大に悅ぶ。後乃ち幣を父母に納れて立て夫人と爲す。

チヨキ 褚暉 (南北)字は高明。三禮を以て學江南に稱せらる。隋、天下儒術の士を徵して內史省に集め相次講論せしむ。博辨屈する所無し。禮疏一百卷を撰す。

ヂヨキウ 女鳩 (殷)湯王の賢臣。

チヨキウキウ 儲玖躬 (清)字は石友。湘鄉の人。諸生を以て戎に從ひ、曾國藩に識られ、拔きて一營を統べしむ。咸豐三年九月、宜章の賊を破り、十月、藍山の賊を破る。國藩嘗て王珍に與ふる書に云く、儲君自ら是れ忠節中の人、僕已に深く之を信ずと。四年二月、寇、湘陰を陷れ、四、陝道より寧鄉を犯す。國藩、玖躬を遣して往き援けしむ。玖躬、雨雪步進、未だ十里許に至らず。十餘人を率ゐて進前し、惡を搏つ。殺傷數十人。寇來ると益衆し。玖躬、十餘人と俱に戰死す。寇、主將の死を知らず、即ち夜引き去る。累功して同知に叙せられ道員を追贈せらる。予恤甚だ厚し。忠莊と謚す。

チヨキン 儲欣 (清)字は同人。宜興の人。康熙庚午の擧人。少にして孤、兩弟を率ゐて苦讀す。經史に博通して東南の文望を負ふ。嘗て唐宋十家文を選す。海內に風行す。乾隆中の御選唐宋文醇は蓋し其本を用ひて之を增益するなり。著す所の古文、在陸草堂集と曰ふ。

チヨキヤウ 褚尙 (宋)字は景致。雅より器量有り。位、侍中たり。風儀端麗、眉目畫くが如し。公庭に案列する每に衆の瞻望する所となる。

チヨクダツジ 直脫兒 (元)蒙古氏。太宗に從ひて河南關西諸路を收む。民戶を得ること四萬餘。繼染七局を涿州路に置つ。直脫兒之が總管たり。

チヨクフギ 直不疑 (漢)南陽の人。文帝の時、郎たり。同舍に告歸する者あり。誤りて同舍の郎の金を持ち歸る。金主、不疑を疑ふ。不疑金を買ひ之を償ふ。後ち告歸者至りて金を歸す。金を亡ふの郎、大に慙づ。此を以て長者と稱せらる。景帝の朝、御史大夫たり。功を以て塞侯に封ぜらる。

チヨクロコ 直管古 (遼)吐谷渾の人。太祖の時、兵、其國に至る。一騎士の衆を寡つるを見る。開て之を視れば一嬰兒を得。因て俘する所の者に問ひ、其世譜の子なるを知る。淳欽皇后之を收養す。即ち直管古なり。長じて亦醫を能くし、專ら鍼灸を事とす。太宗の時、太醫を以て給侍す。脈經・諸鍼灸の書を撰す。皆世に行はる。卒する年九十。

ヂヨクワ 女華 (上古)少典の子。大業の妻。大費を生む。

チヨクワウキ 儲光羲 (唐)丹陽の人。開元中進士の第に登る。召されて中書に入り、祀水尉と爲り、監察御史に歷官す。詩に工なり。著はす所の詩集あり。

チヨクワウコウ 褚皇后 (晉)恭帝の后。諱は靈媛。河南陽翟の人。爽の女。后初め王妃と爲り、元熙元年立て皇后と爲る。海盧宮陽公主を生む。帝位を宋に禪り、降て零陵王と爲るに及び、零陵妃と爲る。宋の元嘉十三年崩ず。時に年五十三。

チヨクワウコウ 褚皇后 (晉)康帝の后。諱は蒜子。河南陽翟の人。后聰明器識あり。少うして名家を以て宮に入る。康帝即位に及び、立て皇后と爲る。穆帝位に即き、尊んで皇太后と曰ふ。時に帝幼冲なり。群臣の請ひに依り、朝に臨み制を稱す。帝元服を加ふ乃ち政を還す。哀帝海西公の世に及び、太后復た朝に臨み制を稱す。桓溫海西公を廢するや、太后方に佛屋にあり、晉を燒く。內侍啓して曰く、外急奏ありと。太后乃ち出て奏を視ること數行、乃ち曰く我本より疑ふと。便ち筆を染め答へて曰く、未亡人幽此百憂、惑念存沒、心焉如割と。簡文帝即位して尊びて崇德太后と爲す。帝崩じて武帝立つ。幼冲なるを以て太后復朝に臨む。太元九年顯陽殿に崩ず。年六十一。在位四十年。謚して獻と曰ふ。

チヨクワウコウ 褚皇后 (南北)齊の廢帝東昏侯の后。諱は令璝。河南陽翟の人。太常澄の女。建武二年皇太子妃となる。而も寵無し。東昏位に即きて皇后となす。黃淑儀太子鋾を生みて卒す。後、廢せられ庶人となる。

チヨクワン 儲巏 (明)字は靜夫。泰州の人。成化間の進士。體貌清羸、淳行清修、介然自ら守る。詩文に工みなり。正德間、戶部右侍郎に累遷す。時に執政と合はず、疾を引き去るを求む。屢々召されども竟に就かずして卒す。嘉靖の初、謚を文懿と

賜ふ。

ヂヨケイレツアツシユツ　女奚烈斡出　（金）仕へて植州刺史に至る。元兵と戰つて流矢に中り、遂に執へられ屈せずして死す。

ヂヨケイレツシユグ　女奚烈守愚　（金）字は仲晦。六歳にして讀書を知る。性至孝なり。明昌二年進士に登す。貞祐二年保大軍節度使に轉ず。翰林學士參議陝西路安撫使事を加へらる。三年疾んで卒す。忠實無華、公ゆに孜々として殆ど天性然り。

ヂヨケウ　女僑　（夏）諫山氏の長女。禹、娶て以て妃となす。啓を生む。禹去て水を治むる事八年、三たび家門を過ぐれども入らず。塗山獨り勤勞を明にして其化を致す。啓ひずるに及び、其德に化し其教に從ひ卒に命名を致す。禹天子と爲り啓嗣と爲る。禹の功を持して殞さず。

チヨコ　褚垣　（清）姓は薩爾圖氏。滿州鎮黃旗人。年十七、征に從つて大陵河を圍み驍勇を以て聞ゆ。後征伐向ふ所功有り、副都統に累官す。卒して謚を襄壯といふ。

チヨサイ　褚載　（唐）字は厚之。元和中梁宋の間に客たり。詩を以て襄陽の節度に投じて去る。四風一夜壓紅關、一宿郵亭事百般、無地可耕歸不得、有恩當報死何難、流年怕老看將老、百計求安未得安、一卷新書滿懷淚、頻々門館訴飢寒。君牙これを薦めて第に推す。

チヨザイブン　儲在文　（清）字は禮執。欣の從弟。康熙丁未の進士。官、編修たり。

チヨサウ　褚爽　（晉）褚裒の裔孫なり。字は伯孔。謝安甚だ之を器とす。恒に曰く、褚生を朝して若し佳ならざる者あらば僕復た士を相せじと。長ずるに及び果して俊邁風氣あり。老莊の言を好み當世の榮譽之を屑しとせず、唯た殷仲堪と善し。中書郎義興太守に累遷す。女は恭帝の皇后となる。

チヨサフ　褚燾　（晉）字は謀遠。鳴臺の人。才藝を以て名あり。父の爵を襲いで關內侯たり。淮南內史に累官す。蘇峻の乱、王導と帝を抱き殿に登つて左右に侍立す。峻が兵へる。燾、正立之を呼ぶ。兵敢て動かす。賊平ぐ功を以て長沙縣伯に封ぜられ尚書左僕射に進む。

ヂヨシウ　女脩　（上古）帝顓頊の苗裔孫。嘗て織る時玄鳥あり、卵を隕す。女脩之を呑みて遂に大業を生む。これを秦の先となす。

チヨシウ　褚修　（南北）錢塘の人。父仲都、周易を喜み、天監中、五經博士に歷す。修少うして父の業を傳へ尺牘を善くし文章を辨ず。武陵王、陽州刺史となるや、引いて參軍帳內記室となす。性至孝、父喪し毀瘠禮に過ぎて寸に及ぶ。母の憂に水醬口に入らざるもの二十三日。氣絕えて復た蘇る。毎に哭慟して血を嘔く。寬に毀ゆ以て卒す。

チヨシウ　儲嗣宗　（唐）大中十三年、進士及第す。詩人なり。

チヨシヒ　褚師比　（周）定の子。衛の出公に仕へて司徒たり。莊公復入り、故政を害し懇く之を去らんと欲す。比、喊成と謀りて公を伐たんと欲す。果さずして宋に出奔す。

チヨシホ　褚師圃　（周）衛の靈公に事ふ。常に公兄孟縶と惡し。遂に豹に黨して乱をなす。

チヨシヤ　猪者　（元）牛を牆く。老融の弟子なり。

チヨシヤウ　褚翔　（南北）字は世舉。其の祖藥に繼ぐ義興太守たり。已を馭うし繁苛を省き浮費を去る。百姓之を安んず。郡の四亭に枯木有り、枯死累歲。翔至るころ復た生ず。咸な善政の感する所といふ。

ヂヨシユククワン　女叔寬　（周）晉の大夫。

チヨジヨカウ　褚汝航　（清）字は一帆。廣東の人也。咸豐四年甘文正、張公敬修を徵して戰船を統べしむ。來るを果さず。即ち君を以て之に代ふ。遂に總統十營を命ず。夏、鑾と湘潭に在り、戰船を監造す。並に三才鈔屋陣を剏む。皆精意あり。三月塔公、賊と湘潭に戰ふ。君往いて援く。上風に據り火を擧げ焚獲甚だ衆し。明日復戰ふ。君、大敵を手にして陣を督す。彭公玉麟、楊公載福、三版に乘じて往來す。炮雷鳴、湘波之が爲鼎沸す。賊舟を焚くこと三〻余、遂に湘潭に克つ。六月湖を渡り賊と湖中に遇ひ、賊舟を燒沈すること百余。舟を奪ふこと三十四。岳州の賊遁る。七月城陵の敗、陳輝龍等の戰舟膠淺す。君赴き援ひ遂に陣亡す。官、按察使に至る。司卿

を陽ふかと例の如し。孤兒有り。文正、五百金を送つて之を卹む。

チヨスキリヤウ　褚遂良　（唐）褚亮の子。字は登善。博く文史に涉り楷隸に工なり。貞觀中諫議大夫を歷官し起居注を兼ぬ。太宗曰く、朕不善有らば卿亦記すやと。對へて曰く、臣職穀筆に在り、君の過、舉げて必ず書すと。黃門侍郎に累遷し朝政を參綜す。尋て顧命を受けて高宗を輔け尚書右僕射に遷る。帝將に武后を立てむとす。遂良力諫すれども納れず。笏を殿階に置き叩頭流血するに及ぶ。曰く、笏を陛下に還し、乞ふ田里に歸らむと。後愛州刺史に累貶せられ、竟に憂を以て卒す。

チヨセウ　褚炤　（南北）字は彥宣。彥回の從父弟なり。父法顯、鄱陽太守たり。炤少うして高志有り。王儉、嘗て其才、保傅に堪へたるをいふ。成安郡と爲る。後、一目眇するを以て召されて國子博士となる。拜せず。

チヨセウソン　褚少孫　（漢）嘗詩を王式に受く。亦た儒學を以て稱せらる。元成の間博士となる。

ヂヨソウ　女宗　（周）宋の鮑蘇の妻。姑を養ひて其謹めり。鮑蘇衛に仕ふ三年にして外妻を娶る。女宗の姒、以て去るべきを勸む。女宗肯ぜずして姑に事ふること愈謹めり。宋公之を聞きて其閭に表し號して女宗といふ。

チヨタイ　褚大　（漢）蘭陵に居り儒學を以て稱せらる。五經に通ず。博士となる。

チヨタイハク　儲大伯　（漢）諫議大夫。光武、節を持して鮑永を徵さしむ。

チヨタイブン　儲大文　（清）字は大雅。欣の從弟。康熙辛丑の進士。官庶吉士たり。奥地形勢の學に精し。

チヨタウ　褚陶　（晉）字は季雅。錢塘の人。聰慧にして清談を善くす。年十三、鴟鳥水礎の二賦を作る。見る者之を奇とす。後ち官、中尉に至る。

チヨテキ　儲擢　（宋）溫陵の人。淳祐間、雷州に知たり。小學を創建し童蒙を訓養し、城池を修築し有爲に喜ぶ。海州刺史に歷す。

チヨテン　褚籙　（清）字は蒼書。長州の人。睹生たり、古學を涂厲して擧子の業を屏棄し天爵自ら高くす。聖祖南巡の時、行在に召見して書畫二幅を命ず。海鷗風姿の頷を御書して之を賜ふ。時に年九十有六。歲を踰にて卒す。著、海鷗室集有り。

ヂヨトウ　女登　（上古）有蟜氏の女なり。少典の妃と爲る。神龍之を感じて子を生む、之を炎帝と爲す。

ヂヨトン　女敦　（漢）賢人。

チヨトンジヨ　儲敦叙　（唐）字は彥倫。晉江の人。崇寧中、進士に第し、漳州龍溪に丞し、福州寧德に宰す。皆惠政あり。民爲に祠を立つ。性閑退、祠館に奉ずること十年。通判賀州たり。秩滿ちて復た祠を請うて里に居り。歷官三十餘年、屋一椽を增さず。詩文あり。王泉文集と號す。

チヨハウ　褚裒　（晉）字は季野。陽翟の人。少うして盛名有り、桓彝之を目して曰く、季野、皮裏の春秋有りと。其の外藏否無く而て內褒貶あるを言ふ。謝安亦曰く、裒言はずと雖も而も四時の氣已に備はると。仕へて鎭北將軍に終る。齋孫爽。

ヂヨハウ　女方　（殷）湯王の賢臣。史記に見ゆ。

チヨハクギヨク　褚伯玉　（南北）字は元璩。錢塘の人。少うして隱操有り。嗜慾寡し。婚するに及び婦人前門より入り伯玉後門より出づ。遂に剡に往きて瀑布山に居り。性暑に耐ふる寡なし。時人之を王仲都に比す。山に在ること三十餘年、人物を隔絕す。齊の高帝即位し手詔して之を徵す。就かず。

チヨヒエン　褚飛燕　（漢）常山の人。牛角黃巾の死するに方り、衆に擁せられて帥となり、一に黑山賊と號す。河北諸郡を害す。幾もなくして降を納る。

チヨムリヤウ　褚無量　（唐）字は洪度。盧官の人。家平湖に臨む。龍有り出づ。人皆走て觀る。無量尙ほ幼なり、讀書して聞かざるものゝ若し。衆之を異しむ。明經に擢でられ司業に遷る。中宗將に南郊に詔して皇后を亞獻となさむとす。無量之を極諫す。玄宗位に卽き左散騎常侍に遷る。

チヨヨウ　儲用　（宋）字は行之。晉江の人。淳熙中、建陽縣を知す。惠政あり。朱文公、之が稱す。會々黨禁起る。罷め去る。後、

直數文閣と爲り廣州に知たり。

チヨリシ　樗里子　(周)秦の惠文の弟、晉趙楚を伐ちて功あり。樗里子、之が右相たり。

チヨリヤウ　褚亮　(唐)字は希明。錢塘の人。少より警敏、博學にして圖史に通ず。陳の後主召し見る。詩を賦す。江總諸詞人皆其の工に服す。後、唐に仕へて弘文館學士となり、官、散騎常侍に至る。卒する年八十八。太常卿を贈り昭陵に陪葬せらる。子遂良。

チヨエン　褚淵　(南北)字は彦回。哀四世の孫。父湍、尚書左僕射たり。淵少うして清晏有り。父卒するや財寶悉く諸弟に與へ惟だ書數千卷を取る。宋及び南齊に仕へて尚書令侍中に累官す。卒するに及び家に餘財無し。彦回姿容美なり。山陰公主之を乱らんと欲す。彦回從はず。子賁、從父弟粲、並に名有り。

チリウ　嵇隆　(晉)字は宏始。金郷の人。直亮にして匪躬の節あり。尚書左丞と爲る。後、楊州の刺史と爲り、陳留王遂の爲に害せられ、父子皆死す。時議之を惜む。

チリン　智林　(南北)高僧。高昌人。出家して亮公の弟子となる。身の長八尺、天姿瑰雅、談吐流るゝが如し。永明五年卒す。

拳秋七十九。二諦論及び毗曇雜心記を著し、并に十二門論、中論等を註す。

チレイ　知禮　(宋)高僧。台家の第十七祖。明州の人。姓は金氏。初め嘉ら律部を探る。後教觀を寶雲に稟け、承天延慶等諸寺に歷住し、台宗を弘宣す。天聖元年正月元日示寂す。壽六十九。稟法の弟子三十人。著書頗る多し。

チヤ　智威　(唐)高僧。姓は蔣氏。處州縉雲の人。台宗を章安尊者に嗣ぐ。永隆元年十一月二十八日寂す。

チヤコン　邇維坤　(清)字は簡堂。漢軍正白旗人。康熙中、山東聊城の知縣に任ぜらる。毎月三八日を以て諸生を召して文を論じ、其賢者能者を禮して政事の得失を問ふ。また毎歲三七日を以て吠畝を巡行して農事を觀察し、以て賞罰を加ふ。卒して名宦祠に祀らる。

チエン　池瑗　(漢)中牟令。

チエン　智圓　(宋)高僧。字は無外。自ら中庸子と號す。錢唐の人。徐氏。出家して台宗を奉先清公に稟く。清公は天台の第十四祖なり。清、滅後、法化を西湖の孤山に闡揚す。天禧五年二月十七日寂す。壽四十七。著書二十餘部、百三十餘卷あり。

ツ

ツウブキ　痛無忌　(周)宋人。急就章に見ゆ。

ツウヨウ　通容　(清)高僧。密雲の法嗣。國の福清の人。姓は何氏。密雲和尚に謁して心印を傳へ、順治七年詔に應じて徑山に住し大に宗風を振張す。順治十八年示寂す。著す所、五燈嚴統等あり。嗣法の門人、隆元隆琦等二十餘人あり。

テ

テイア　鄭亞　(唐)字は子佺。滎陽の人。元和十五年の進士。數歲中、連りに三科に中す。深く李德裕に知らる。德裕出て浙西を鎮するや辟して從事とす。會昌の初め入朝し、累遷して諫議大夫給事中に至る。

テイアンセイ　鄭安世　(宋)興の孫。衆の子。名を當時に知らる。

テイアンミン　鄭安民　(明)浙江の貢生。蜀府左長史に歷す。崇禎十七年八月、張獻忠成都を圍む。安民南城を分守す。城陷り屈せずして死す。

テイイ　程頤　(宋)河南洛陽の人。珦の次子。字は正叔。少より兄顥と業を周敦頤に受く。高識あり、非禮動かず。年十八、闕下に上書して帝が世俗の論を黜け王道を以て心となさんことを欲す。大臣屢々薦むれども就かず。哲宗の初、司馬光等疏す、頤文章好古、貧に安じ節を守り、言必ず忠信、動禮儀に遵ふ、年五十を過えて進仕を求めず、眞に儒者の高蹈、聖世の逸と、詔して四京國子教授とす。辭す。尋て秘書省校書郎を以て召さる。入見して崇政殿說書に擢でらる。疏言す、習は知と長じ、化は心と成る、大率一日の中、賢士大夫に接するの時多く、寺人宮女に親しむの時少けれは、氣質變化自然に成る。願はくは名儒を選び、入侍せしめて以て顧問に備へば、必ず能く聖德を養成せんと。帝の宮中に潛水して蟻を避くるを聞き、願奏す、願はくは此心を推し、以て四海に及ぼせと。經筵に在り蘇東坡と合はず。遂に出でゝ西京國子監を管勾す。力辭す。紹聖間、元祐の諸臣を追貶し、目して奸黨と爲す。頤、坐して涪州に竄せらる。徽宗立ちて峽州に移る。崇寧間、黨禁弛み、宣議郎に復す。致仕して大觀元年家に卒す。年七十五。頤嘗て成都に游び、治篋箒帚の者、冊を挾むを見、就て之を視れば易なり。篋者問ひて曰く、若ち嘗て此を少くかと。因て未濟の卦を論ず。頤爽然たり。後ち袁滋に謂て曰く、易學は蜀に在りと。又た成都に游び、嚴遵翁なる者を見て與に語り、大に得るあり。嚴し篋吏醫翁は皆隱君子なり。頤、晚年、易春秋傳を著はす。嘗て言ふ、今農夫は祁寒暑雨五穀を播種す、吾得て之を食す、百工は肆に居り器物を作爲す、吾得て之を用ふ、介冑の士は披堅執銳、以て土宇を守る。吾得て之に安んず、若し功澤の人に及ぼす無くして歲月を浪度せば、晏然天地間の一蠹魚のみ、聖人の遺書を綴輯する、補あるに庶幾しと。師導尊嚴、淵源の漸する所、皆名士たり。涪人、北巖に祀る。世に伊川先生と稱す。高宗詔して直龍圖閣を贈る。寧宗理宗の時、顥と同じく謚を賜ひて正公と曰ひ、伊陽伯に封ぜらる。朱晦菴の贊に曰く、規圓矩方、繩直準平、允矣君子、展也大成、布帛之文、菽粟之味、知德者希、誰識其貴と。兄顥と俱に孔子の廟庭に從祭す。珍彥博嘗て稱して眞侍講とす。

テイイク　程昱　(漢)字は仲德。東阿の人。漢末、東阿を保ちて曹操に歸す。累遷して都督袞州事たり。卒して鄮侯と謚す。嘗て操に勸めて袞州三城を固め以て霸業を圖る。策すらく、袞紹は必ず公孫瓚を擒にし、孫權は必ず劉備を殺さずと。中らざる者無し。

テイイク　丁煩　(宋)字は晦叔。福津の人。人となり剛直にして私謁を受けず。大府少卿に累官す。嘉定中、利州路安撫使となり兼て興元府に知たり。事を決する明白にして吏民信服す。魏了翁嘗て曰く、丁晦叔は武階の一人而已と。

テイイツ　帝乙　(殷)殷第二十九世。子姓。帝太丁の子。在位三十七年。

テイイツホウ　鄭一鵬　(明)字は九萬。莆田の人。正德十六年の進士。嘉靖の初、戶科左給事中たり。性伉直、諫垣中に居りて數々敢言す。妄奏するに坐して除名せられ、卒す。隆慶の初、官を復し光祿少卿を贈る。

テイイン　鄭絪　(唐)字は文明。幼にして奇志あり。永貞の末、中書舍人に除せらる。元和の初、相に拜す。

テイイン　鄭賁　(宋)字は子敬。蔭を以て官に補す。召對旨に稱ふ。左師郎中兼權樞院副都承旨に拜す。請うて齊郡を爲り廟を立つ。又冗兵を汰し邊備を整ふるを言ふ。出て知漳州たり。卒す。性靜重博洽、藏書數萬卷。

テイイ并　鄭以偉　(明)字は子器。上饒の人。萬曆二十九年の進士。庶吉士より禮部尚書に歷進す。崇禎三年六月卒す。太子少保を贈り文恪と謚す。

テイウ　程羽　(宋)博野の人。五代晉に仕へて政績あり。後宋に事へ、累遷して文明殿學士たり。兵部侍郎を以て致仕す。後、朝廷其曾孫珣を錄す。蓋し二程の父なり。

テイウ　程瑀　(宋)字は伯寓。浮梁の人。政和間の進士。累官して校書郎たり。金人入侵す。使すべき者を求む。瑀、請うて燕山に詣り、屈せずして還る。欽宗慰撫備さに至る。右正言に除せらる。高宗の時、給事中に遷り、十四事を條上す。皆時務に切なり。官、兵部尚書に至る。所著、周禮義、尚書說、兩漢紫隴あり。

テイウン　鄭芸　(明)莆田の人。世宗の時、御史たり。同官と嚴嵩等を劾し、竟に爲に陷れられ、俸一級を奪はる。官に卒す。

テイウンホウ　丁雲鵬　(明)字は南羽。徽州の人。白描の人物に工なり。山水佛像妙に臻らざるなし。佛像は吳道子の筆意を宗とす。初めて見るに拙に似たり。細に玩すれば始めて學問幽邃古俊なるを知る。皆基く所あり。

テイエイ　帝泄　(夏)夏后氏第十世。姒姓。

帝芒の子。在位十六年。

テイエイ　程嬰　(周)晉人既に趙朔の孤兒を讒殺して屠岸賈疑はず。嬰乃ち趙氏の眞孤を抱へて山中に匿れ居ること十五年。韓厥、晉景公に言して趙氏の後を立つ。是を趙武とす。即ち孤兒なり。遂に屠岸賈を攻めて之を滅す。武既に冠す。嬰曰く、昔下宮の難、我死する能はざるに非ず、趙の後あらんを欲すれば也、今宜しく下、宣孟祥臼に報ずべしと。遂に自殺す。武、啼泣齊衰、三年祀を奉じて絕たず。

テイエイ　縪榮　(漢)太倉公淳于意の女なり。父罪を以て刑に當り、逮へられて長安に赴かんとす。姉妹五人、隨つて泣く。父歎じて曰く、子を生みて男を生まず、緩急以て救ふべきなしと。是に於て縪榮、父の言を傷み、乃ち父に隨ひて上書す。上見て其意を悲み遂に其父を釋して肉刑を除く。

テイエイ　鄭穎　(宋)字は茂叔。壽昌の人。嘉定間登第す。理官と爲り、法を執る平允なり。時相、邊を開き、謀官知政事に薦む。穎、政府賞功の地に非ざるを抗論す。遂に廢む。出て、嘉興に守たり。歸りて一室を闢き憲齋と號す。

テイエイ　鄭榮　(宋)字は光遠。壽昌の人。幼より聰敏、才思あり。七歲能く文を綴る。天禧三年の進士。天聖の初、契丹に使して回る。眞宗曰く、四方に使し君命を辱めざる、今其人を見るを。後、蔚の四安を知す。

テイエイ　鄭諶　(明)石康の人。父賜は擧人。兄藩は進士。天順中、母、獠賊に掠められる。諶年十六、身を挺して賊壘に入り、給て曰く、吾れ吾母の命を贖はんと欲す、豈金を惜まんや、第だ金は皆母の瘞むる所、願くば母に代り歸て取らしめんと。賊遂に諶を拘へて母を釋す。然して其家實に金無きなり。諶遂に殺さる。廉州知府張岳、祠を建て、祀る。

テイエイギ　丁銳義　(清)字は篁村。長沙の人。性豁達にして兵家の言を習ふ。咸豐四年、胡文忠、方さに貴東道たり。君の名を耳にして之に檄す。銳義、壯士百人を募り同じく鄂に赴く。還りて益々募りて五千人に至り義字營と云ふ。功を累れて縣丞に擢でらる。六年、羅忠節、武昌を攻めて賊を破る。餘黨万餘來り犯す。時に新たに大師を失ふを以て諸將皆職を欲せず。銳義、慷慨して曰く、願くば精兵四千を假り賊の不意に出でば一鼓して破るべしと。文忠、之に從ふ。遂に武昌縣を復す。八年、李文忠に從ひ連りに太湖潛山桐城等に克ち、十月三河の賊壘を破る。師再進す。遂に陣に死す。年三十有八。詔して擅運使を贈り騎都尉を賞す。

テイエイエン　鄭堅垣　(明)乍浦の人。性孤介絕俗。國變後、霧中に凍死す。李先生天植と金石の交あり。

テイエウデン　程瑤田　(清)字は易疇。歙の人。乾隆庚寅の擧人。官、太倉學官たり。著に通藝錄あり。

テイエキトウ　丁易東　(宋)龍城の人。進士に擧げられ編修官となる。元に入り數々徵せども起たず。周易傳疏に注し以て學者に便す。石壇精舍を建て生徒に教授し資するに廩餼を以てす。事聞す。濂陽書院の額を賜ひ授くるに山長を以てす。

テイエキフ　鄭奕夫　(宋)字は景允。鄞人。幼より穎悟人に絕す。勤止矩度に中る。心を性理の學に潛む。慈溪麗水常山三縣の教諭となり、徽州紫陽書院山長に調ぶる。所著、論語本義、中庸大學章旨衍、桂堂集若干卷あり。學者、習齋先生と稱す。

テイエン　丁偃　(宋)初め選英に試みらる。讀騷詩に云ふ、白虎前芳掩、金華舊事輕、天心非不厭、垂意在蒼生と。

テイエンソ　程延祚　(清)字は啓生。號は綿莊。江寧の人。少より好學、諸經百家通渉せざる無し。年十四、松賦を作る七千餘言。長老を驚かす。嘗て兩次召試せらる。皆報じて罷む。卒する年七十七。所著、經學の外、詩文三十卷あり。

テイオウリヨウ　鄭應龍　(宋)字は孝慈。長沙の人。慶元中の進士。後ら律に試みられて首選に中す。潭州理掾に試みらる。能く寃を雪ぎ枉を伸ぶ。嘗て兵士あり、師の金を盜む。獄に下す。株連數人、皆坐流せらる。應龍力爭す。師の意未だ解けず。應龍曰く、罪を無辜に及ぼす若くんば官を去るあるのみと。師歎じて曰く、其人衣に勝へざるが若し、乃ち能く法を執ること此の如しと。

テイオンタク　程恩澤　(清)字は雲芬。號は梅巷。安徽歙の人。嘉慶辛未の進士。累官して戶部侍郎に至る。恩澤、學識時俗に超え、篆法に工に、許氏の學に精し、詩文雄深、金石諸書に博雅なり。卒する年五十有二。

テイカイ　鄭獬　(宋)字は毅夫。安陸の人。逸邁不群なり。初め國子監第五人に擧げらる。謝啓に云ふ、李廣才無雙、自謂無雙、杜牧文章、止得第五と。皇祐五年、上、崇政殿に御し、圜丘象天地賦を試み、進士第一たり。初め陳州に通判たり。入りて集賢殿に直す。英宗即位す。獬、奏して曰く、陛下初めて臨御す、中外をして言を盡さしめ、採錄すべきあれば召して之と對せば必ず能く治道に益あらんと。神宗の朝、翰林學士となる。翰林夜直の詩あり、曰く、中使傳宣學士家、君王令草侍中麻、紫泥金印才封了、速炬殘一寸花と。

テイカイ　程楷　(明)里居參政たり。崇禎十五年、張獻忠盧州を攻む。楷、趙興基を佐けて南薰門を守る。夜半賊城中に起る。楷風せずして死す。光緒卿を贈らる。

テイカイフ　鄭介夫　(元)字は以居。鐵柯と號す。浙の開化の人。生平剛直敢言。太德七年太平鎮を上る、一綱二十目。奏入る。多く採納せらる。介夫嘗て韻海一書を著はす。世に行はる。官、金谿縣丞に終はる。

テイカウ　帝皐　(夏)夏后氏第十五世。姒姓。帝孔甲の子。在位三十一年。

テイカウ　程俱　(南北)程鄉の人。家貧にして力學す。門を杜ち交を寡くす。里人其行誼に服し、不平の者あれば輒ち俱に質す。風俗之が爲に淳樸なり。所居を號して程鄉と曰ふ。因て以て縣に名く。

テイカウ　鄭穎　(唐)餘慶の孫。進士に登す。弘文館校に結綬し右拾遺內供奉に遷る。詔して鍋青光緣大夫を授けられ起居郎に遷し、尙書郎給事中吏部侍郎を歷し、典貢二年、滯才を振拔す。今に至り之を稱す。刑部禮部侍郎に移る。大中三年、檢校禮部尙書河南尹たり。穎、戚里に居り、器度あり。大中の時、恩澤對なし。

テイカウ　程顥　(宋)河南洛陽の人。刑の長子。字は伯淳。能く詩賦を爲る。十二三にして庠序に居り、老成人の如し。弟頤と經術を以て諸儒の倡坐たり。泥塑の人の如く、人に接する渾べて是れ一團の和氣。隱前蔆草あり。或は之を芟るを勸む。曰く、常に造化の生意を見んと欲すと。盆池を置き魚數尾を蓄ひ、時々之を觀る。或は之に問ふ。曰く、萬物自得の意を觀んと欲すと。范祖禹、陳瑩中と顏子の過を貳せざる、惟だ伯淳之れを能くするを論ず。瑩中曰く、伯淳とは誰ぞ。禹曰く、程伯淳を識らざるか。曰く、予は東南に生長す、實に未だ知らざる也と。乃ち賫沈文を作り以て自ら賫む。顥、進士に擧げられ鄠上元主簿に調ぶる。茅山に池あり、龍を產す。蜥蜴の如くにして五色なり。祥符中、二龍を取りて都に入る。半塗に其一を失ふ。顥、捕へて之を脯にす。晉城令たり。民の事を以て縣に至る者あれば必ず告ぐるに孝弟忠信を以てす。鄉村の遠近を渡り五保とし、之をして力役相助け患難相恤ましむ。而して奸僞容るゝ所無し。鄉必ず校あり。暇時親ら至り、父老を召して之と語る。兒童讀む所の書、親ら爲に句讀を正す。教者不善なれば則ち爲に易置す。民之を愛する父母の如し。著作佐郎に改めらる。尋で御史中丞呂公著の薦を以て太子中允を授けられ權監察御史裏行たり。神宗素より顥の名を知る。便殿に召見し從容として咨訪す。顥、詞辨を飾らず。獨り誠意を以て主上を感動す。前後進說甚だ多し。大要は正心窒慾求賢育才を以て先とす。嘗て曰く、人主當に未萌の慾を防ぐべしと。帝曰く、當に朔の爲に之を戒むべしと。王安石、法を更む。胥者攻むること甚だ力む。顥、旨を被り都堂に赴きて事を議す。安石方に怒る。厲言厲色之を待つ。顥、徐ろに曰く、天下の事は一家の私議に非す、願くば平氣以て聽かんと。安石之が爲に愧屈す。帝、御史たる所以を問ふ。對へて曰く、臣をして拾遺補闕して朝廷を裨賛せしめば則ち可、臣をして陛下の短長を拾掇し以て直名を沽らしめば則ち能はずと。上曰く、亂御史の體を得たりと。後ち安石

と法を議して合はず、言職を去るを乞ふ。帝亦た其去を重んじ、屢々請へども許さず。顥、門を闔ぢて罪を待つ。乃ち提點京西刑獄に除せらる。固辭して曰く、臣が言は是れ之を行ふを願ふ、如し其の妄言ならば願はくば顯謫を賜へと。改めて簽書鎮寧軍判官たり。河決を治するの功を以て太常丞に除す。帝命して三經義を脩めしめんと欲す。執政之を沮む。出でゝ知扶溝たり。時に內侍王中正、保甲を按閱す。權煽震灼。鄰邑、侈を競ひ、供帳之を悅ばしむ。主吏來り請ふ。顥曰く、吾が邑貧なり、獨り邑令の故實張あり、用ふべきのみと。中正、數々境上を往來し、卒に顥の境に入らず。哲宗立ち、召して宗正丞とす。顥、平生經濟に意あり、徵還せらるゝに及び、世方に其の大に用ひらるゝを冀ふ。未だ赴かずして卒す。時に元豐八年なり。年五十有四。士大夫の識ると識ちざると、悲傷せざるは莫し。顥、秦漢以來、斯文の久湮を慨き、振ひて之を起さんと欲す。其言に曰く、道の明ならざるは異端之を害すればなり、昔の害は近くして知り易く、今の害は深くして辨じ難し、昔の人を惑はすや其の高明に因る、邪誕妖異の說競ひ起り、生民の耳目を塗し、天下を汚濁に溺す、高才明智と雖ども見聞に膠し、醉生夢死自ら覺ず、是れ皆正路蕪蕪、聖門閉塞すればなり、之を闢さて後、以て大道に僧ふ可しと。著す所の定性書、實に聖學の秘を闡き、太極圖說と相表裏す。天下の學者咸く之を傳誦す。謚公、衆論を採り其墓に題して明道先生と曰ふ。純公と謚し河南伯に封じ孔子の廟廷に從祀す。朱熹の贊に曰く、揚休玉立、玉色金聲、元氣之會、渾然天成、端日祥雲、和風甘露、龍德正中、厥施斯普と。

テイカウ 鄭亨 (明)合肥の人。用の子。洪武中、大興左衛副千戶を襲ぐ。仕へて宣宗に至り、後府の事を掌行し、大同を鎭す。九年二月、鎭に卒す。漳國公を贈り忠毅と謚す。子能。

テイカウ 鄭伉 (明)字は孔明。常山の人。日に諸儒の論議を究め、一切朱子に折衷す。親に事へて至孝なり。義學を設け社倉を立て以て族黨を惠む。著す所、易義發明、讀史管見、觀物餘論、蛙鳴集あり。多く火に燼す。

テイカウ 鄭江 (清)字は若菴。福建侯官の人。慷慨至性あり。母病む。股を割き粥に和して進む。病愈ゆ。順治中、邑大に飢う。江、穀を以て宗族に分贈す。

テイガウ 鄭遨 (唐)字は雲叟。滑州の人。文辞に敏なり。昭宗の時、進士に擧げらる。世乱を見て乃ち小室山に隱る。其妻數々書を以て家に還るを勸む。遨、輒ち火に投ず。後ち晉の高祖、諫議大夫を以て召す。赴かず。號を逍遙先生と賜ふ。

テイカウイ 丁孝懿 (明)女子。古杭の人。天部尚書德圓の女。鄒庠丁士に適く。姑に事ふるに孝謹を以てす。年二十にして卒す。鏡閣遺咏あり。黃良父之が爲に誌すといふ。

テイカウジン 程行諶 (唐)開元中、朝隱、裴子餘と同舍なり。子餘は儒を以て顯はれ、行諶朝隱は文法を以て稱せらる。或は優劣を長史陳崇業に問ふ。答へて曰く、蘭菊異芳なるも胡ぞ廢する者あらんと。卒して貞と謚す。子餘、謚して孝と曰ふ。張說、歎じて曰く、二謚、愧なかるべしと。

テイガウチウ 鄭剛中 (宋)溫州に判たり。歲饑ゑ流民道に載つ。守に昌を發して之を賑せんことを勸む。守曰く、恐くは實惠、饑者に及ばざらんと。答へて曰く、粟、措置ありと。乃ち萬錢を以て每錢一字を押し、夜、坊巷に出でゝ饑飢の者に過へば一錢を給し、戒て曰く、押字を拭ふ勿れと。次旱、錢に憑り米を給して遺なし。守、歎服す。

テイカウヂヨ 鄭孝女 (唐)襄州穀丘の人。父神佐、慶州に戰死す。時に母已に亡し、兄弟なし。孝女年二十四、即ち喪を護して鄉里に歸り、母と合葬す。墓下に廬し、手づから松柏を樹ゑ林を成す。節度使朝に狀す。詔あり、其閭に旌表す。

テイカウテイ 帝庚丁 (殷)第二十六世。子姓。帝甲の子。兄廩辛に嗣ぐ。在位二十一年。

テイカウラウ 鄭耕老 (宋)字は穀叔。少より才學を負ふ。紹興間の進士。數州を歷知す。索と聲律浮靡を厭ひ、詩易庸範語孟を讀みて其深微を味ふ。劉釋あり。孝宗の朝、國子監主簿に擢ぜらる。秩滿ちて徑に南陂に歸り澹如として官進に意無し。卒する年八十五。

テイカウリン 鄭蛟麟 (清)初め明の都司たり。松山より來りて清に降る。譚洪の吳三桂に赴くや、蛟麟も亦た逆を援く。後禁せらる。

テイカウレイ 丁好禮 (元)字は敬可。眞定藁州の人。至正二十年中書參知政事に拜せらる。後ち集賢大學士を以て致仕す。二十七年復起つて中書平章政事と爲る。尋て議會はざるを以て謝し去る。特に趙國公に封ぜらる。明兵京城を破るや、齊化門に殺さる。年七十五。

テイカガク 鄭可學 (宋)字は子上。露の後。少より孤貧。再試して利あらず。朱文公に從學し、最も精要を得。嘉定四年忠州文學を授けらる。所著、春秋博議あり。

テイカク 鄭愨 (三國)魏の正始中、三伏の內集に、賓僚、暑を歷陽に避く。大荷葉を取りて酒を盛り刺して柄と通ぜしめ、莖を屈して象鼻の如くし之を吸ふ。碧筒飲と名づ。

テイカク 鄭珏 (五代)唐の昭宗の時、監察御史に拜せらる。後梁に仕へ、後唐の莊宗興るに及びて復た背きて之に事ふ。

テイカク 鄭格 (宋)字は廸民。福清の人。博聞强記。時に書廚と號せらる。淳熙中の進士。建寧司理に歷して清操あり。知攸縣に改めらる。囊に餘財無し。二子堅、堡、皆博學淸介を以て稱せらる。

テイカク 鄭鍔 (宋)字は則中。鄞人。詞賦を以て時に名あり。後學多く宗とす。紹興の進士に第し、仕へて屯田郎に至る。寧宗の英邸に在るとき、小學教授を兼ね。嘗て勸戒を進む。元龜の後、特に加贈せられ其子沆を官す。

テイガク 鄭岳 (明)字は汝華。莆田の人。弘治六年の進士。戶部主事より刑部に改む。廉介假さず。世宗に仕へて兵部右侍郎たり左に轉ず。大官の賄を行ふを忌み、休を乞ひて歸り、家居十五年にして卒す。

テイガクケイ 程學啓 (清)字は方忠。安徽桐城の人。咸豐中曾國藩に從ひ、後李鴻章に隨つて諸方の賊を平げ功あり。遂に軍中に卒す。官、提督に至る。忠烈と謚す。

テイカクヂン 丁鶴年 (元)至正間母を奉して乱を避け定海に寓す。方國珍の兵起る。深海嶋に匿れ、藥を賣りて自ら給す。憂君愛國の念、皆之を詩歌に發す。著に海巢集あり。

テイカスキ 程嘉燧 (明)字は孟陽。松圓老人と號す。休寧の人。嘉定に僑居す。詩畫に名あり。顧養謙と友とし善し。一日養謙に詣る。江を渡りて古寺に寓す。酒人と歡飲數日、遂に養謙を見ずして歸る。休寧に家居して嶙嶙十六年卒す。年七十九。

テイカソク 程可則 (清)字は周量。一字は湟二。號は石曜。南海の人。順治中會試に擧げられて第一たり。官、知府に至る。著に海日堂集あり。少より漁洋荔裳愚山西樵若文及び沈繹堂曹顧菴と海內八家と稱せらる。

テイカフ 帝甲 (殷)殷第二十四世。子姓。帝武丁の子。兄祖庚に嗣ぐ。淫亂にして殷復衰ふ。在位二十三年。

テイカフク 鄭可復 (宋)字は彥修。進士に登り東流縣に調ばる。縣人喬行簡、妻路に處り、族黨勢を恃みて法に抗す。可復、法を守りて少しも屈せず。行簡深く之を奇とす。官、朝奉郎に至る。性樸儉、古書を好む。嘗て爾雅を修し又た破氏禮を刊す。晚年積て數千卷に至る。

テイカン 鄭滸 (唐)餘慶の子。初の名は涵。進士に第し右補闕を授けらる。敢言諫まず。憲宗、餘慶に謂て曰く、滸は卿の令子、朕の直臣なり、更に相賀すべきなりと。考功員外郎に遷る。文宗立ちて入りて翰林侍講學士となり戶部尚書を歷。謚して宣といふ。文集制誥三十卷あり、世に行はる。

テイカン 鄭瀋 (唐)字は中虞。閩縣の人。會昌中及第。文章峭絕なり。國子司業刑部郎中郢安鄧三州刺史に累官す。唐藝文志に其集を載す。同縣の人林滋、亦た會昌中及第して詞賦に長ず。嘗て邊城曉角賦を作る。王鐸、辟して判官となす。又た簷雄なる者あり。詩に長じ格高く筆壯なり。時に減の文、滋の賦、雄の詩を稱して閩中の三絕となす。

テイカン 程戡 (宋)字は勝之。陽翟の人。

進士に擧げられ累官して樞密直學士知瀛州たり。端明殿學士泰知政事に進み鄜延經略使荊延州を以て久しく邊安に在り。衛事を重んじ、治は名に近かず。卒して康穆と謚す。

テイカン　丁罕　(宋)潁州の人。幕に應じて衛士に補せられ指揮使に累遷す。淳化中澤州團練使となり覇州に知たり。河決す。私錢を以て之を築く。民咸な之を德とす。後ち密州觀察使に拜せられ具州に徒る。

テイキ　貞姬　(周)莊の白公勝の妻。白公死するや姬紡績して嫁せず。吳王其美なるを聞き金百鎰白璧一雙を持して之を聘し輜軿三十乘を以て之を迎へて以て夫人と爲さんとす。姬之を辭して曰く、白公世に在るの時、妾事に後宮に充つるを得、箕帚を執り衣履を掌り、枕席を拂ひ託して妃匹と爲る、白公不幸にして死す、妾願はくは其墳墓を守りて以て天年を終らんと。遂に辭して從はず。吳王其節を守りて義あるを賢とし、號して貞姬と曰ふ。

テイキ　丁姬　(漢)哀帝の母。丁將軍の玄孫なり。初め定陶の恭王先、山陽王と爲る。丁氏の女を納れて姬となす。一男を生む。哀帝是なり。帝位に即くに及び、丁氏立て帝太后となる。然れども權勢、王氏の成帝の世に在るが如くならず。建平二年崩ず。定陶貴寶山の東に葬る。哀帝崩じて王莽政を秉るに及び、有司をして丁氏の罪惡を擧奏せしめ、貶して丁姬と號し、遂に其冢を發きて璽綬を奪ひ、梓宮に代ふるに木棺を以てし、珠玉の衣を去りて媵妾の次に改葬す。

テイキ　丁顗　(宋)家貲を蓄して八千卷の書を貯ふ。曰く吾書を聚むる多し、必ず學を好む者ありて吾子孫とならんと。子逢吉、光祿寺丞となる。孫度、字は公雅、服勤詞科に登り仁宗の朝に翰林たること十年なり。邇英要覽十卷を著はせり。上、呼びて學士となし名いはず。端明殿學士に遷れり。仁宗曰く度、侍從たること十五年、天下の事を論じ未だ嘗て私に及ばずと。後ち參政に拜す。

テイキ　鄭綺　(宋)浦江の人。春秋に通ぜり。親に事へて極孝。父照、繫獄、死に當る。綺上書して代らんことを請ふ。事遂に白す。母張、蠻を病む。抱持する嬰兒の若きこと三年にして懈らず。綺、疫するに臨み子孫に醫巫して財を分ち奩を異にすること勿らしむ。乾道中、號冲素處士を賜ふ。子孫世々其教を守る。

テイキ　程輝　(金)字は日新。蔚州靈仙の人。戶部尚書、參知政事等を歷し承安元年卒す。年八十二。忠簡と謚す。輝生平雜學を喜び尤も醫を好む。

テイキ　鄭禧　(元)字は熙之。吳郡の人。工に山水を畫き、董源の筆法を得、用墨清潤なり。墨竹禽鳥を寫すに全く趙文敏を學ぶ。意趣高遠。然れども早逝して未だ其業を究へず。

テイギ　鄭儀　(三國)字は正体。沛人。曹操其才を慕ひ、女を以て妻はさんと欲す。曹丕曰く、正体目眇なり、女の悅ばざるを恐ると。後ち操數々興に語り益々之を奇とし、丕を責めて曰く、鄭儀は即ち兩目をして俱に盲ならしむるも、當さに女を以て妻はすべし、況んやたゞ眇なるをや、これ兒我を誤るなりと。

テイギ　鄭義　(晉)神方を以て吳眞君に授く。

テイギ　鄭義　(南北)字は初稱。滎陽の人。渾八世の孫。魏に仕へ中書令に累官し出でゝ四兗州の太守となる。嘗に士類を薦む。時論、之を多とす。

テイギ　鄭義　(元)河間の人。性豪俠客を結ぶ。太宗の時山東路都元帥と爲る。從ひて金を伐ち戰死す。弟德溫、徐州を攻め陣死す。弟江代、襄陽を攻め、亦陣歿す。

テイキウ　鄭球　(三國)字は瑜默。少にして宰府に辟さる。義兵を起して趙王倫を討ず。球、頓邱太守より右長史となり、功を以て平壽公に封ぜられ、侍尙書散騎常侍に遷る。

テイキウノツマ　鄭休妻　(晉)石氏。何許の人なるを知らず。少くして德操あり、年十餘歲、鄉邑之を稱す。既に鄭氏に歸ぎ、九族に重んぜらる。休が前妻の女幼く、又休の父の終に臨み、庶子沈の生るゝあり、命じて之を棄てしむ。石氏曰く、奈何ぞ舅の胤をして存せざらしめんやと。遂に沈及び前妻の女を養ふ。

テイキウバン　程九萬　(宋)晉陽の人。知武康縣たり。車より下り、首として儒術を訪ひ、頑民奸宄は之を繩すに法を以てす。境内肅清。秩滿ち任を去る。邑人擧て餞し、閭巷爲に空し。

テイキガン　鄭希顏　(唐)陝人。昭宗天復元年、王希羽、曹松、劉象、柯崇と共に登第して各々校正を授けらる。時に年皆老ゆ。世に之を五老榜といふ。

テイギソウノツマ　鄭義宗妻　(唐)盧氏。范陽の士族。書史に涉り、舅姑に事へ恭順なり。夜盜あり兵を持し刼す。其家人皆匿竄す。姑去る能はず。盧白刃を冒して姑側に立つ。賊に捽捶せられ幾んど死す。賊去る。家人問ふ何爲れぞ懼りざると。答て曰く人の鳥獸に異なる所以は仁義あるを以てなり、今隣里急あるも尙赴き救ふ、況んや姑を委棄すべけむや、若し直に一危あらば我獨生くるを得ず。姑曰く義哉うして松柏の後に凋むを知る、吾乃ち今にして婦の心を見ると。

テイギソン　鄭儀孫　(宋)建安の人。樂屏と號す。邱當國に從ひ易を學ぶ。咸淳癸酉の賢良科に應ず。明年少帝北行す。儀孫、退きて易圖說群解、大學中庸章句、史學蒙求等を著す。鄧守吳某、僚屬を率ゐて學に迎へ之に師事す。

テイキツ　鄭吉　(漢)會稽の人。卒伍を以て軍に隨ひ數々西域に出づ、是によりて鄯善王となる。宣帝の時、諸國の兵を發して車師を破る。神爵中、匈奴乖亂、日逐王、漢に降らんと欲す。吉五万人を以て之を迎へて京師に至る。吉、既に車師を破り日逐を降し、威四域に震ふ。功を以て安遠侯に封ぜられ食邑千戶を賜ふ。卒して繆侯と謚す。

テイキノツマ　丁虞妻　(三國)虞、趙安中黃門侍郎たり。文帝位に即くに及びて陳思王の故を以て誅せらる。妻因て寡婦賦を作る。

テイキヒ　鄭貴妃　(明)神宗の妃。大興の人。萬曆の初、貴妃に封ぜらる。三子を生み皇貴妃に進む。外廷妃の子を立るを疑ひ外議洶々たり、帝皆遲て問はず。萬曆二十九年春皇長子を立て皇太子と爲す、外議疑ふ者仍ほ已まず。後ち貴妃を靜所に移し、子福王を藩に之かしむ、群言漸く息む。光宗崩後、旋を垂れ政を聽く。崇禎三年七月薨ず。恭恪と謚す。

テイキン　帝匪　(夏)夏后氏第十三世。姒姓。帝扃の子。在位二十一年。

テイギン　程銀　(漢)關中に守たり。中平十六年、馬超等の十部と共に兵を擧ぐ、敗れて死す。

テイキヤウ　貞姜　(周)齊侯の女。楚の昭王の夫人。王出でゝ遊び夫人を漸臺の上に留む。王江水大に至ると聞き使者をして夫人を迎へしむ。其符を持することを忘る。使者至て夫人の出てんとを請ふ。夫人曰く王宮人と約す、令して宮人を召さば必符を以てせんと、今使者符を持せず、因て敢て從はず。使者曰く水方に大に至る、還て符を取らば則ち恐らくは後れんと。夫人義を守て從はず。使者符を取りて還れば則ち水大に至り臺崩れ夫人流れて死す。王嘆じて曰く、義を守り節に死して苟も生くることを爲さず、約に處し信を持して以て其貞を成すと。乃之を號して貞姜と曰ふ。

テイキヤウ　定姜　(周)衛の定公の夫人。公子の母なり。公子既に娶て死す。其婦子なし。三年の喪畢り、定姜其婦を歸す。自ら之を送て野に至り、燕々の詩を作る。定公孫林父を惡む。孫林父晉に奔る。晉侯郤犨をして爲に還さんとを請ふ。定公辭せんと欲す。定姜曰く、不可なり、是先君宗廟の嗣なり、大國又以て爲に請ふ、而して許さずんば將に亡びんとす、之を惡むと雖も猶亡びんに愈らずや、君之を忍べ。と。定公遂に之を復へす。定公卒して獻公立つ。獻公喪に居て慢る。定姜嘆じて曰く是將に衛國を敗らんとすと。大夫之を聞て皆懼る。孫文子是より敢て其重器を衛に舍かず。獻公遂に逐はれて出亡す。境に至て祝宗をして亡ぐることを告げ且罪なきを廟に告げしむ。定姜曰く不可なり、若し神無からしむるも罪有るを誣ふ可らず、公の行く、大臣を舍てゝ小臣と謀る一の罪なり、先君冢卿あり以て師保と爲す、而して之を蔑す二の罪なり、余巾櫛を以て先君に事ふ而して墨妾を以て余を使ふ三の罪なり、亡くるを告げんのみ、罪なきを告ぐる勿れと。其後一年の垂

耳漢を侵す。孫文子之を追はんとなす。農兆を定姜に獻じて曰く、兆山林の如し、夫有り出でゝ征し其雄を喪すと。定姜曰く征者雄を喪するは寇を禦ぐの利なり、大夫之を聞れと。衛人之を追て皇耳を大丘に獲。

テイキヤウ 程珦 (宋)河南洛陽の人。字は伯溫。仁宗の朝、黃陵尉知興國縣たり。縣素より治め難し、珦の邑に在る幾んど二年、獄空しき者歲餘。狡民の善く古劵を爲り田畝に契するもの、最も辨じ難し。珦、之を訊ふこと十數語ならずして盡く其情を得。興人其恩に感じ、祠を建てゝ之を祀る。康定間、南定に判たる時、周敦頤、司理たり。舉世これを知らず、珦其言貌の凡ならざるを視、與に語り果して有道者たるを知り、因て二子頤頤に命て學を受けしむ。漢州を歷知す。熙寧法行はるゝとき珦獨り未だ便ならずと抗議す使者李瑜元怒る。即ち病を移して致仕す。累轉して大中大夫たり。卒す年八十五。珦慈恕剛斷。平居幼賤と處るに其の意を傷むるゝらんことを恐る。義理を犯すに至れば假さず。前後五たび任子を得、以て諸父 子孫に均うす。所得の俸祿、親戚の貧者に分贈す。官小に祿薄く、克己を義とす。人以て難しと爲す。文彥博蘇頌等其清節を表す。詔一弔二百を賜ひ其葬を官給す。理宗の時、求年伯に封せらる。

テイキヤウ 鄭獨 (宋)字は南奕。長樂の人。紹興中、知州事たり。始め郡に至り廟學の荒圮を視、慨然として之を更築す。農桑を勸め、庠序を課す。越て三年、進士に登る者四人。後祠を稽古閣下に立て之を祀る。

テイキヤウ 鄭向 (宋)字は公明。陳留の人。進士に舉げられ甲科たり。大理評事より龍圖閣直學士に累遷し杭州に知たり。五代の乱、史冊多くは漏失す。向、開皇紀三十卷を著はして遺事を摭拾す、頗る補あり といふ。

テイキヤウノツマ 程珦妻 (宋)侯氏。開雁詩あり、人口に膾炙す。

テイキヨウ 丁恭 (漢)東繼の人。公羊嚴氏に春秋を學び學義精明なり。生徒に教授す、恒に數百人。當時稱して大儒となす。官諫議大夫に至る。

テイギヨク 丁玉 (明)初名國珍。河中の人。韓林兒に仕へ御史と爲る。才辯にして時譽あり。已にして太祖に來歸す。威望甚だ著はる。累遷して太都督府左都督に拜す。洪武十三年、胡惟庸の獄に坐し誅せらる。

テイギヨクセン 丁玉川 (明)江右の人。徽に工なり。山水は馬夏を宗とす。但雅潔の氣に乏し。亦人物を善くす。

テイキヨシン 鄭居津 (宋)字は知要。河南の人。高宗南渡の後、仕へて浙東路提舉たり。性剛直、時政の便ならざるものを抗疏して諫議を避けず。卒す、黃幹之を祭る文に曰く、職司提舉、惠及因民、封章兩上、可謂賢臣と。

テイキヨチウ 鄭居中 (宋)字は達夫。開封の人。進士に登第す。知樞密院に累官し少師を加へ三たび國公に封ぜらる。卒して華原郡王を追封し文正と謚す。徽宗の時、蔡京屢々契丹を攻めんことを勸む。居中力陳して可かず。京に謂ひて曰く、百万の生靈をして肝腦を地に塗れしむるのみ、公實に之れを爲さんかと。是によりて議遂に廢む。

テイキヨテイ 鄭居貞 (明)閩人。方孝孺と友とし善し。明經を以て登昌通判河南等政に歷官す。至る所善績あり。孝孺の漢中に教授たる時、居貞鳳雛行を作り之を勗む。後孝孺の黨に坐して死す。

テイグ 鄭愈 (唐)清河の人。家世殷富。幼より穎敏にして力學す。開成中の進士。褐を秘書省校書郎に釋く。嘗て桂管觀察使となり廉を以て聞ゆ。僖宗の朝、召して尚書左僕射に拜す。後三年薨す。子無し。詩文多く散逸して傳はらず、僅に一二首を見る、皆奇韻なり。

テイグ 程俱 (宋)字は致道。開化の人。宣和の進士。累官して徽猷閣待制 汪州太平觀提舉たり。俱、掖垣に在りしとき、命下り心に安んぜざる者ある毎に必ず反覆して之を言ひ少しも長避する所なし。其文を爲る典雅閎奥。著に北山集あり。

テイグウシュン 鄭遇春 (明)濠人。兄德興と共に勇力を以て開ゆ。夙に太祖に從ひ征戰功を累れ總管に進み、同知大都督府事

侯 封ぜらる。後胡惟庸の黨に坐して死す。爵除かる。

テイクン 鄭薰 (唐)字は子博。進士に擢でらる。時に數々大赦す。階正議光祿大夫たる者は一子を蔭し門に戟を施すを得。薰之を却け肯て叙知せず、寒畯を擧引す。士類之を多とす。既に老して所居を隱岑と號し、松を庭に植ゑ右松處士と曰ふ。

テイクンラウ 鄭君老 (宋)字は邦壽。長溪の人。咸淳四年登第す。乞歸して親を養ふ。連りに內外の諫に丁り未だ起たず。已にして宋亡ぶ。屢々召せども起たず。榮々として篤學し後進を誘ふ。學者私に靖節と謚す。所著五經解義梅壑集あり。

テイクワイ 帝槐 (夏)夏后氏第八世。姒姓。杼の子。在位二十六年。

テイクワイ 丁會 (五代)字は道隱。壽春の人。初め徒を集めて盜を爲し、梁太祖と偶に黃巢に從ふ。太祖宣武を鎮するのとき會を以て宣武都押衙と爲す。兵を將ゐて李罕之を擊ち大に之を敗る。光化二年昭義軍節度使と爲る。昭宗弑に遇ひ、會遂に晉に降る。晉莊宗賜ふに甲第を以てし位諸將の上に在り。都招討使と爲る。天祐七年卒す。太師を追贈す。

テイグワイジン 帝外壬 (殷)殷第十一世。子姓。帝大戊の子。兄仲丁に嗣ぐ。在位十五年。

テイクワイソ 丁魁楚 (明)啓睿の從父。崇禎中、右僉都御史を以て保定を巡撫す。兵部右侍郎に擢でられ、任に堪へず更に下さる。已にして釋さる。福王の時、故官に起ち未だ赴かず、梧州に走り元兵に獲られ寛に殺さる。

テイグワイヘイ 帝外丙 (殷)殷第二世。子姓。成湯の次子。在位二年。

テイクワウコウ 鄭皇后 (宋)徽宗の后。開封の人。異寵あり。王皇后崩じて立て皇后と爲る。性端謹、善く帝意を承順す。欽宗立ち、尊んで太上皇后と爲す。汴京破るゝに及びて北遷し、留ること五年にして五國城に崩ず。年五十二。顯懿と謚す。

テイクワン 丁寛 (漢)字は子饒。梁の人。初め梁項生、田何に從ひ易を受く。時に寛、項生の從者たり、遂に何に事へて學ぶ。學成りて東歸す。何門人に謂て曰く、易已に東すと。景帝の朝、寛、梁孝王の將軍となり易說三万言を作る。後ち、易を同郡の田王孫に傳ふ。

テイクワン 程璟 (明)徽州の人。畫に工にして青綠山水を善くす。人物は仇十洲より出づ。

テイクワン 鄭環 (明)藩家。鄭麟の子。其學を世々にす。而して醫術尤も精し。

テイクワンガノハハ 完我母 (明)石氏。甘州衛の人。完我官人之き母妻王氏と家居す。崇禎の末、賊至る。石氏預め薪を室中に積む。城破るゝに及び家人と俱に挾死す。遂退き屍を出せば、姑婦牽挽して手を釋かず女は覆ふに甕を以て 面色生るが如し。

テイクワンチウ 鄭寛中 (漢)字は陵人。儁才あり。張三附を師とし小夏侯の學を傳ふ。成帝の時、爵、關內侯を賜ふ。卒するに及び、谷永上疏して曰く鄭寛中は顏子の美質にして商偃の文學を包み、儼然として五經の妙論を述べ師傅の顯位に立つ、卒然として早終す、宜しく葬禮を加へ之に令謚を賜へと。上、弔贈甚だ厚し。

テイクワンフ 丁寛夫 (宋)丁昌期を見よ。

テイケイ 帝啓 (夏)夏后氏第二世。姒姓。大禹の子。初め禹、益を薦めて位を嗣がしむ。禹崩じて益、啓に讓り箕山の陽に避く。啓賢にして天下意を屬す。諸侯相率ゐて啓に朝して曰く、吾が君は帝禹の子なりと。遂に於て啓遂に天子の位に即く。有扈氏服せず。啓之を伐て、大に甘に戰ふ。將に戰はんとす、六卿を召して令を申ぶ、甘誓を作る。遂に有扈氏を滅す。啓在位九年にして崩ず。

テイケイ 帝扃 (夏)夏后氏第十二世。姒姓。帝泄の子、帝不降の弟。在位二十一年。

テイケイ 鄭敬 (漢)漢州の人。智謀あり。劉璋、時に益州の從事たり。昭烈、涪城に據る。敬、璋に謂て曰く左將軍は客なり我は主なり、軍に轉餉なく給を我に仰ぐ、今我と仇たり野穀を是れ資とするに過ぎず、若し巴蜀梓潼の民を驅りて、涪水以西の倉廩野穀を納れて盡く燒除を行ひ、壘を高くし溝を深くし、戰を請ふも許さざれば、百日を過ぎずして彼將に自ら走らん、走りて

之を截ぜば此れ擒ちんのみと。昭烈聞きて之を惡む。璋、從はず。

テイケイ　鄭綮　(唐)字は蘊武。滎陽の人。進士に擧げらる。昭宗の時、中書門下平章事に累官す。初め詩を善くし諷諧多し、時に鄭五歇体と稱す。乾寧の初、相に拜せらる。詔下る。綮首を搖きて曰く、歇後の鄭五宰相となる、時事知るべしと。朝に立ち侃々然としてまた故態なし。未だ三月ならず太子少保を以て致仕す。嘗て曰く詩思は灞橋風雪の中、驢子の背上にありと。綮、虛州の刺史たるとき黃巢、淮南を掠む。綮、檄を移して州境を犯す勿れと戒む。巢賊爲めに兵を歛む。

テイケイ　程迥　(宋)字は可久。初め寧陵の沙隨に家す。靖康の乱、餘姚に徙る。孤貧飄泊年二十餘にして始て讀書す。經學を諸處に授く。世に沙隨先生と稱す。書註すること百餘卷。隆興中進士に登る。任所毎に政令明簡、民を治むるに恩義あり。朱熹其博聞至行を稱して古人に比配す。

テイケイ　丁敬　(清)字は敬身。龍泓山人と號す。錢塘の人。市廛に隱れ酒を喜み、金石の文學を好くし、分隸に工みに、篆刻に精し。

テイケイエイ　丁啓睿　(明)永城の人。萬曆四十七年の進士。崇禎中、山東右參政となり兵部尚書兼右僉都御史に歷進す。崇禎十六年、賊李自成に擒へられ之を久うして釋されて歸る。

テイケイクワイ　鄭敬晦　(唐)字は日彰。河東の人。進士に及第して山南東道節度府に辟せらる。時に師律振はず。敬晦大吏を引き之を廷責す。吏、軍職を兼ねるを負ひ皆を引かず。走りて之を府の牙將に訴ふ。牙將之を庇ふ。敬晦詰責假さず、衆遂に愧謝す。累擢せられて諫議大夫と爲る。

テイケイシ　鄭繼之　(明)字は伯孝。襄陽の人。嘉靖四十四年の進士。隆慶萬曆の間累遷して吏部尚書に至る。致仕して歸り、卒す。年九十二。少保を贈る。

テイケイジウ　程啓充　(明)字は以道。嘉定州の人。正德三年の進士。三原知縣より入つて御史たり。上疏懲倖を遏けんと乞ふ。帝用る能はず。嘉靖間、屢時務を陳し、且つ郭勛が李福達の獄を庇ふを劾す。反つて勛が讒を以て邊に謫戍せらる。後赦されて還り卒す。隆慶の初、光祿少卿を贈る。

テイケイヘイ　鄭景平　(宋)吳人。字は晞月。溧陽の進士。官に居て廉介。饒州を知すること數月、衣を拂ひ去る。或ひと其故を問ふ。答へて曰く天子景に命じ郡を爲めしむ、當に撫字を以て職とすべし、今日金若干を須む、明日粟若干を須む、民以て枯骨す、安んぞ歸らざるを得んと。

テイケウ　鄭僑　(宋)字は惠淑。少くして六志あり。初め禮部に試せられて舉首たり。萬と同じく乾道五年の廷試に升る。孝宗覽て之を異とし第一に擢づ。著作郎に除せられ國子實錄院屬を兼ね吏部司封に官す。性介然節重にして自ら守り、一たびも執政の門に至らず。左氏春秋を以て東宮に侍講し爲に大義を陳す。而して猶ほ君臣父子君子小人の際に拳々たり。參知政事に歷官す。嘗慨を市らず譽を干めず、黨を立てず好惡を私にせず、清淨和平を以て天下玄默の治を輔けんと欲す。知樞密院事に歷す。怨ろに病を以て辭す。寧宗數次之を慰留す。尋で觀文殿學士を以て致仕す。僑、孝友にして端重、簡淡無欲なり。平生爲す所、皆常度あり。故に命名大節、世の爲めに重んぜられ、知る三朝に受け忠を賞せらる。

テイケウ　程曉　(三國)字は季明。昱の孫。嘉平中、黃門侍郎たり。時に校事放横たり。曉上書して其外は天威に託して以て擊勢を爲し、内は群奸を樂めて以て腹心となす、大臣は含忍して言はず、小臣は鬱結して告る無きを言ふ。是に於て校事を罷められて汝南太守に遷さる。

テイケウ　鄭曉　(明)字は窒甫。海盧の人。嘉靖二年の進士。職方主事を授けらる。尚書金獻民の屬を以て九邊圖志を撰す。大禮を爭ひ廷杖せらる。起つて刑部主事に至る。嘗て殿蒿と隙あり、擠せられて落職して歸り、角巾布衣、父老と游處す。見る者其貴人たるを知らず。既に卒す。子履淳等儀を繫ぐの功を朝に訟ふ。詔して官を復す。隆慶の初、太子少保を贈り、端簡と謚す。

テイケウタウタウシ　帝堯陶唐氏　(上古)

五帝の一人。或は云ふ名は放勳。帝嚳の子。帝摯に嗣ぎ位に即く。能く俊德を明にして以て九族を親しむ。九族既に睦くして百姓を平章す。百姓昭明にして萬邦を協和す。羲和に命じて曆日を正して民に時を授く。堯天下を治むること五十年。天下の治まるか治まらざるか億兆の己を戴くか願ふか願はざるかを知らんと欲し微服して康衢に遊ぶ。童謠を聞くに曰く立我蒸民、莫匪爾極、不識不知、順帝之則と。老人あり、哺を含み腹を鼓し壤を擊て歌て曰く、日出而作、日入而息。鑿井而飲、耕田而食、帝力何有於我哉と。堯位に在ること七十載。邇く貴戚疎遠隱匿の者に擇び位を讓らんと欲す。之を四嶽に詢る。嶽皆虞舜を進む。堯乃ち之に二女を妻はせ之を政に試む。共工、驩兜、三苗、鯀等を殛して天下咸舜に服す。堯老て舜を以て天子の政を攝行せしめ在位九十八年にして崩ず。百姓悲哀すること父母を喪するが如し。

テイケツ　丁杰　(清)字は光衢、一の字は小足。皈安の人。乾隆四年の進士。力を經史に肆にし旁ら六書音韻算數に及ぶ。著す所周易鄭注後定、大戴禮記繹、小四山房文集あり。

テイケツ　鄭俠　(宋)字は介夫。福清の人。初め王安石に從游す。進士に擧げらる。熙寧中、東京四上門を竪つ。荊公の詩に和して云ふ、何處雜鎮言、熙寧政失中、四方三面戰、十室九家空、見後牌如水、聞忠耳似聾、君門深万里、誇得此言通と。時に亢旱あり、俠本門見る所の流離の民老を扶け幼を携へ、飢寒困苦の狀を以て畫工に畫かしめ、流民之圖と爲し之を獻じて曰く、陛下にして臣の圖を觀、臣の言を行ひ、十日雨ふらざれば、乞ふ臣を宣德門外に斬り、以て君を欺き天を慢るの罪を正せよと。神宗、覽畢りて責罰の詔を下し、方田保甲青苗等の諸新法十八事を罷む。越て三日大雨あり。荊公、位を辭し呂惠卿を薦む。俠、上言して曰く安石は本、呂惠卿の爲めに誤らるゝ。報ぜられず。乃ち唐の房杜姚宋林甫國忠の輩を取て兩軸となし、一を君子正直社稷之臣事業といひ、一を邪曲小人容悅之臣事業といふ。執政怒り汀州編管に送る。元祐中、起ちて泉州の教となる。俠、忠勤を以て寬に小人の爲めに害屏せられて身を終ふ。

テイケツ　庭堅　(上古)八愷の一人。高陽氏の才子。舜その族を擧げて后土を主どらしむ。

テイケン　鄭虔　(唐)字は弱齋。滎陽の人。玄宗其才を愛し、廣文館を置き以て博士となす。官に居て貧約澹如たり。書畫を善くす、自ら其詩及び畫を寫して以て献す。帝其尾に書して曰く鄭虔三絶と。著作郎に遷り後ち台州司戶參軍　貶せらる。虔微なりし時書を好て紙なきに苦む。嘗て慈恩寺前に於て柿葉を掃ひ、貯へて數屋に至る。隸書を爲り識久うして殆んど遍し。

テイケン　鄭彥　(宋)字は季英。壽昌の人。春秋を治め史傳に通ず。淳祐中の進士。崇陽尉に擢でらる。青田亟に再任す。秩滿ちて眞州司戶に除せらる。至る所誠愛を以て

テイゲン　鄭玄　(漢)字は康成。高密の人。關に入り馬融に事ふ。居ること三年疑義を質し爭りて辞し歸る。融曰く鄭生今去る、吾道東すと。建寧の初、黨禍作る。玄、門を杜ぢて業を修む。時に何休、公羊學を、左氏膏肓、穀梁廢疾を著はす。玄乃ち墨守を發し膏肓を鍼し癈疾を起す。休曰く康成乃ち吾室に入り吾戈を操り吾を伐つ乎と。國相孔融、深く之を敬す。高密縣に告し特に一鄉を立て鄭公鄉といひ、門を通德門といふ。嘗て道に黃巾の賊に遇ふ。賊數万人、玄を見て皆拜し相約して敢て縣境に入らず。袁紹、冀州に師たり、大に賓客を會す。競いて異端を設け百家互に起る。玄、方に讀ひ辨對して或く問表に出づ。皆嘆服せざるものなし。詩書易禮記儀禮論語孝經に注せしものの凡そ百餘万言。何進等書に辟すれども皆就かずして山中に教授す。草の蘆葉の如きを生ず。士人名づけて康成書帶草といふ。玄、易に序して曰く易の名たる一言、三を涵す、簡易一なり變易二なり不易三なりと。袁紹、玄を辟し其の去るに及び之を城東に餞し玄の必ず醉はんを欲し、會者三百人皆席を離れ膝を奉じ、且より暮に至る。玄の飲を度るに三百餘杯、而して温克の容終日怠ることなし。子益恩。

テイゲン　鄭彥　(宋)字は季英。壽昌の人。春秋を治め史傳に通ず。淳祐中の進士。崇陽尉に擢でらる。青田亟に再任す。秩滿ちて眞州司戶に除せらる。至る所誠愛を以て

本とす、民其化に服す。累官して國子監丞を以て卒す。

テイゲン　丁鉉　(明)字は用濟。豊城の人。永樂中の進士。太常博士より刑部郎中に歴任す。正統中刑部侍郎に累進す。王佐等と土木の變に死す。尚書を贈り、襄愍と謚す。

テイゲンイウ　鄭元祐　(元)字は明德。遂昌の人。幼時乳媼右臂を傷ふ。左手楷書を能くす。自ら尚左生と號す。遂昌山樵雜錄を著す。其詩を儀奚集と曰ふ。

テイケンガク　丁乾學　(明)浙江山陰の人。京師に寄籍す。官撿討たり。憲宗の時、魏忠賢に忤ひ名除かる。已にして逮捕せられ憤懣して卒ふ。崇禎の初、侍讀學士を贈る。

テイゲンキン　鄭元瑾　(唐)滎陽の人。武德の初、蒲圻の令たり。任に在り善政多し、官署、學校、田土の經制、悉く其區劃せし所なり。

テイゲンクン　鄭元勛　(明)楊州の人。畫を善くす。

テイゲンコウ　丁元公　(清)字は原躬。嘉興の布衣なり。性孤潔にして交遊少し。詩は奇氣あり、畫は山水人物佛像を兼れ工にして纖ならず、後ち髡髮して僧となり釋菴と號す。

テイケンジウ　鄭建充　(金)字は仲實。天會七年來降し諸官を歴して平涼尹を授けらる。値ま南京宮室を營建するに力り誣られて獄中に死す。

テイゲンジュ　鄭元授　(明)經歴たり。崇禎十五年、張獻忠、廬州を攻む。元授趙興基を佐けて拒ぐ。夜半賊城中より出づ。元授南薰門を守り力闘して死す。

テイゲンセン　丁元薦　(明)字は長孺。長興の人。應詔の子。萬曆十四年の進士。中書舍人に補せらる。神光寮の三宗に仕へ、尚寶少卿に歴官す。會々朝事大に變じ、復其職を削らる。

テイゲンタウ　鄭元璹　(唐)字は德芳。諭して可汗兵を罷めしむ、數年始て還るを得。帝之を勞して虞鞏に呼められざるの蘇張といふ。鴻臚卿に拜す。突厥太原を攻む。元璹に詔し節を持し往て勞せしむ。既に至る。虞、不信を以て唐を告む。元璹間對隨折して屈する所なし。太宗書を賜うて曰く、公が可汗を伐つに堪るを知る、如し能く遂に邊火をして息熄せしめば朕何ぞ金石の賜うを公に惜んやと。

テイゲンタン　程元譚　(晉)元帝太興の初、鎮東軍謀襄州刺史を以て假持節新安太守となる。郡に居り萬二千石たり、民之を愛懷す。代を受けしさき請ひ留め覓に去るを得す。永昌元年郡に卒す。

テイゲンチウ　鄭建中　(宋)其先は本雍の人。五季の時安陸に徙る、貲産鉅萬。城中の居人客會多し。大雨毎に瓦を戟せ以て行き、屋漏者あれば之を補はしむ。客の若き自ら糊完を爲す。又隆冬苦寒に鐵鉢盈月。建中晩に子舒を得る。

テイゲンレイ　鄭元禮　(南北)遠祖の子。字は文規。少にして學を好み文藻を愛し名望あり。文襄、引きて館略歴と爲し、中書舍人南主客郎中太尉諮議參軍長廣樂陵二郡の太守を兼れ文林館に待詔せしむ。太子舍人崔昂、後に元禮の姉を妻り、魏收又た昂の妹夫たり。昂、元禮の詩數篇を以て廬思道に示し、乃ち曰く元禮比來の詩を看るに亦た魏收に減ずべからずと。思道、答て曰く未だ元禮の魏收に賢るを覺えず且つ妹夫の嬬弟より疏なるを知ると。元禮、齊亡びて周に入り大象中に始州の別駕に卒す。

テイケンヨウ　鄭獻霄　(宋)字は帝臣。伯玉の裔。少より鄉先生黄續に從學す。一日明儁と較藝し三十餘論を作る。咸淳の初に登第し、漳州推官に至る。宋亡び元起り義を以て仕へず。家に老ゆ。

テイコ　丁固　(漢)尚書となる。夢に松、腹上に生ず。人に謂つて曰く、松字は十八公なり、吾、十八歳にして其れ公とならんかと。果して其言の如し。

テイコウ　鄭俠　(周)燕の君。姬姓。哀侯の子。國を享くること三十六年。

テイコウ　丁公　(周)齊の君。姜姓呂氏。名は伋。太公の子。

テイコウ　定公　(周)魯の君。姬姓。名は宋。昭公の弟。十年公、齊景公と夾谷に會す、孔子相の事を行ふ。齊侯を責むるに非禮を以てす。魯亦た武備あり。齊侯乃ち魯の侵地を還す。孔子相の事を行ふこと三月、魯大に治まる。齊人懼れて女樂を贈る、魯之を受く。孔子遂に去る。國を享くること十五年。

テイコウ　定公　(周)晉の君。姬姓。名は午。孔子の時に當る。立て三十七年卒す。

テイコウ　丁鴻　(漢)字は孝公。尚書を治む。蕭宗、鴻に詔し諸儒と白虎觀に於て五經を論定せしむ。鴻、論難最も明かなり。語に曰く殿中無雙！孝公と。馬亭侯に封ぜらる。

テイコウ　鄭弘　(漢)字は巨君。山陰の人。少くして鄉の嗇夫たり。太守第五倫、見て深く之を奇とし、召して督郵　署し孝廉に舉ぐ。弘、同郡の河東太守焦貺を師とす。楚王英、反を謀り、發覺す。貺に連及して收めらる。既、病を以て道に亡し、妻子詔獄に繫留して拷掠せらる。連年の諸生故人等其連及を恐れ以て逃遁す。弘、獨り闕に詣り上章して貺の爲に罪を訴ふ。顯宗覺悟し、即ち其家屬を赦す。弘、躬ら貺の喪及び妻子を送りて鄉里　帰る。是によりて名を顯はす。拜して雒令となる、政仁惠あり民、蘇息す　稱す。淮陰の太守に遷る。元和の初め大尉に拜す。弘の前後陳ぜし所、王政に補益あるもの之を南宮に著し以て故事となす。

テイコウ　鄭弘　(漢)字は穆卿。泰山剛の人。兄昌、字は次卿と俱に經に明かに法律政事に曉通す。昌は涿郡の太守となり弘は南陽の太守となる。後ち弘、嗣第を以て入りて扶風となり官は御史大夫に至る。

テイコウ　鄭厚　(宋)字は景常。樵の弟。文詞に工に、自ら一家を成す。尤も易に長ず。紹興中詞賦を以て南省に試みられ第一たり。官昭信軍節度推官に至る。學者稱して鄉湘先生と爲す。

テイコウ　鄭興　(宋)字は少翰。開封の人。公羊春秋を學び左氏に兼通す。晉天福中章句訓詁を條列し及び三統曆を校す。建武間、徵されて大中大夫となる。

テイコウ　程功　(清)字は又鴻。號は柯亭。休寧の人。孝廉に舉げらる。國南宮に困す、遂に仕へず。山水を善くす、奇氣あり。又詩を能す。著に十竿草堂集あり。

テイコウカフ　帝孔甲　(夏)夏后氏第十四世。姒姓。帝不降の子。鬼神の事を好む。淫乱を事とし夏の德衰へ諸侯之に畔く。在位三十一年。

テイコウギヨク　鄭公玉　(宋)字は潤甫。古出の人。紹定間の進士。官朝議郎に至る。善く人材を評品す。尤も後進を奬拔するを好む。詩文亦工なり。官に莅み民に臨むに藹然仁政あり。

テイコウケイ　鄭鴻磬　(清)字は嬾遠。進士。官江蘇同知たり。輿地に深く、凌次仲亟々之を稱す。其書軌雜著皆地理の說を辨駁す。萊陽の趙氏と名を齊うす。

テイコウケン　鄭公顯　(宋)字は曜之。龍溪の人。乾道中の進士。建州司戶たり。秩滿ちて朝に造り、十事を論じて旨に稱ひ、太府寺丞兼敕令所刪定官に除し、權刑部郎官直學士院に進む。公顯問學淵源あり。廟堂の裁制多く其手に出つ。

テイコウチ　鄭公智　(明)字は叔貞。方孝孺に師事す。賢良に舉げられ御史と爲る。建文四年、孝孺の燕軍に執へらるゝや身を以て之に殉ず。

テイコウチヨ　丁公著　(唐)字は平之。蘇州の人。明經に舉げられ教授書郎たり。父の喪に土を負ひ墳を作る。詔して其孝を旌表す。工部侍郎湘西觀察使に累官し、河南尹に徙る。治靜清を以て聞ゆ。四たび禮部尚書に遷り侍講翰林學士たり。時に湘東災厲多し。觀察使に拜し米七万斛を賜ひ饑民を賑給せしむ。

テイコウヨウ　丁公霄　(宋)醴陵の人。紹興の初、高郵尉たり。金兵を拒き力戰して之に死す。朝庭其忠節を嘉みし其子を官にす。

テイゴキ　第五琦　(唐)字は禹珪。至德の初、監察御史に拜す。軍、興る、時に隨ひ趣に辨じ、人、賦を益さずして用、以て豐かなり。後ち司空平章事に進む。

テイゴキヨジン　第五居仁　(宋)奉化の人。蕭斗同恕を師とし博く經史に通ず、安度雅量あり。學徒門に滿つ。卒するに及び門人私謚して靜安先生といふ。

テイコク　鄭國　(周)魯の人。孔子の弟子。

テイコク　鄭谷　(唐)史の子。字は守愚。幼にして穎異。七歳にして詩を能くす。光

啓三年進士に舉げられ譽あり。司空圖、之を見て奇とし其實を拊ちて曰く、當さに一代風騷の主たるべしと。僧齊已、早梅の詩を携へ詣る。谷、數枝開を改めて一枝開に作る。齊已覺えず下拜し以て一字の師となす。世に稱して鄭都官といふ。鵠鵠の詩あり極めて佳なり、人之を鄭鵠鵠といふ。咸通十哲中の人。

テイコク 鄭毅 (宋)字は致剛。建安の人。中和の進士。安陸教授を授けらる。右司諫に遷る。高宗の時、苗劉二凶を面折す。累官して僉書樞密院事たり。

テイコク 鄭戩 (宋)字は致遠。建安の人。既に冠して太學に入る。文を爲るに時好を尙ばず。初め學に就き、聖人の道は中庸に在るを知る。父甚だ之を奇とす。

テイコクカウシンシ 帝嚳高辛氏 (上古)五帝の一人。黃帝の曾孫。父蟜極、祖玄囂皆位に在るを得ず。高辛に至り帝顓頊に嗣ぐ。

テイコクコウ 鄭國鴻 (清)字は雪堂。湖南鳳凰廳の人。雲騎尉より世職積功越兵に至る。道光二十一年、英兵再び定海を陷る。力戰して之に死す。事聞す。提督を贈り忠節と謚す。

テイコクコウシュ 鄭國公主 (宋)五道三年賢懿長公主に封ぜられ、王貽永に下嫁す。景德元年薨す。

テイコクシウ 鄭克修 (明)清江人。善く人馬を畜く。

テイコクシャウ 鄭國昌 (明)邠州の人。萬曆三十五年の進士。山西參政を歷。崇禎元年、按察使を以て、永平に治兵し、山西右布政使に遷る。上官奏して之を留む。三年正月、清兵京師より東行し、先づ人をして文廟承塵の上に伏せしむ。主者覺らず。初四日黎明に城に登る。守將あり之を左右にす。國章、其異を怪り、之を捶して死に致す。須臾にして北樓火發し、城遂に破る。國昌自ら城上に縊る。事聞す、太常卿を贈らる。

テイコクシャウ 程國祥 (明)字は仲若。上元の人。萬曆三十二年の進士。累遷して禮部主事たり。天啓崇禎の交、禮部尙書に歷進す。休を乞ひ去り卒す。詩集あり、曾て之を上る。

テイコクシュン 程克俊 (宋)字は元顏。浮梁の人。宣和の進士。累遷、給事中たり。時に鄱の學宮兵火に經る。或は朝に請ひ以て墓と爲さんとす。旨あり其奏を可とす。克俊制書を封還して學徒さゞるを得たり。官權參知政事に至る。卒して章靖と謚す。

テイコクヘイノツマ 丁國兵妻 (宋)建炎四年、盜叛友、滁州に於て、人を掠め糧と爲す。東安の民丁國兵及其妻、掠められる。妻泣て曰く丁族流亡已に盡く、乞ふ夫を存して以て其祀を續かしめよと。賊遂に夫を釋して妻を害す。

テイゴゲン 第五元 (漢)京氏易、公羊春秋に通ず。

テイゴジウカウ 第五充衝 (宋)新州に知たり惠政あり。流人多く其惠を被る。

テイコシン 鄭虎臣 (宋)德祐の初、會稽縣尉たり。台諫侍從たるに及び、上疏し賈似道を誅せんと請ふ。其父嘗て似道に爭められる。虎臣請うて之を貶所に監押し、烈日中に行かしめ、父を輿し杭州歌を唱へ之に謔れしめ、名每に似道を叱し、嘗膽備に至る。似道免れざるを知り、遂に自ら毒を服す。虎臣曰く好し汝をして愆の如く自ら之を爲さしむと。鎚數下して絕つ。

テイゴシュ 第五種 (漢)字は興先。奉使を以て職に稱ひ高密侯に拜せらる。論者、清高を既くに種を以て上序となし、直士は種を以て首となす。

テイゴハウ 第五訪 (漢)字は仲謀。順帝の朝張掖の太守に遷る。歲の飢うるに値ひ、倉を開き賑給す。重書を賜ひ之を嘉みす。

テイコン 鄭渾 (三國)字は文公。曹操に事へ下蔡長邵令となる。時に天下未だ定まらず、民の子を生む者多くは舉げず。渾、課して耕桑せしめ、去子の法を重くす。民漸く豊給し育せし所の男女、多くは鄭を以て字と爲す。魏建國の後ち、魏郡の太守に累官す。子崇仕へて郎中となる。

テイゴリン 第五倫 (漢)字は伯思。京兆の人。峭直私なし。肅宗立つに及び、清節を以て郡守より擢でられて司空となる。鄭弘徵なる時、倫の門下に出づ。弘が位日に上るに及び遂に靈母の屏風を置き隔て、坐す。年八十餘にて卒す。或人、倫に問うて曰く、公も亦私あるかと。倫曰く、昔吾に千里の馬を遺る者あり、受けずと雖も三公選事する所ある每に心に忘るゝ能はず、而して終に用ひず、又た兄の子昔て病む、一夕十たび往き、退いて安寢す、吾が子疾あり、省視せずと雖ども踏夕眠らず、私なしと謂ふべからずと。昔て會稽の太守たる時、躬自ら馬を牧し妻は自から炊き、受俸は饘粥を供するに止め、餘は悉く之を散じて貧民に施す。召に赴くに及び父老車に攀ぢて號泣し日に値に數里を行く。

テイサイ 鄭濟 (宋)字は興梁。未だ冠せずして太學に選ばる。元豐間の進士。出て睦州縣を治め簿正する所多し。昔て提點荊湖南路刑獄に除せられて陛辭す。嚴宗曰く湖湘盜賊多し、卿何の道か以て之を處せんと。濟元豐保伍を以て對とす。赴任受代して闕に詣る。上厚く之を勞ひ知泉州に除す。尋て致仕す。

テイサツ 程嘗 (南北)休寧の人。茂の子。幼より文を能くす。司徒長史に選ばれ累遷散騎侍郎たり。嘗て天竺城を乘り以て自況ふ。時の文士に傳へらる。

テイサン 鄭産 (漢)泉陸の人。白土鄉の嗇夫たり。時に民一子を産めば輒ち口錢を出す、人多く子を擧げず。産、百姓に勸む、子を殺す勿れ、口錢は自ら代出すべしと。郡縣爲めに表して口錢を出すことを除くを得。白土を改めて改生鄉と云ふ。

テイサン 定山 (元)畫家。

テイサン 鄭山 (明)新建の人。鄉人を集め、嘗を給びて自ら固くす。正德中、宸濠の簒謀重一、驅せて村に入る。萬木と共に執へ、蓋を張唯陽廟前に積み、人馬を縛して生のまゝ焚く。濠黨敗て犯さず。江上に飲む。賊浚十一の爲に逼らる。趣ち宸濠を見る。烙して之を推す。賊を罵て死す。

テイサンキ 鄭山輝 (明)工に闘を畫く。

テイサンシュン 鄭三後 (明)字は用章。池州建德の人。萬曆二十六年進士。知縣より南京禮部郎中に進む。崇禎中、刑部尙書を歷、太子少保を加へらる。致仕して旨に忤ひ、乞て歸る。國變の後、十餘年にして卒す。

テイシ 帝摯 (上古)帝嚳の子。之に嗣て帝位に即く。善からずして崩ず。五帝中に算へられず。

テイシ 丁氏 (漢)曹豊生の子の嫡。才學あり。曹大家の爲に賦頌銘誄闘註寡辭書論上疏遺令凡十六篇を撰集して大家賢を作る。

テイシ 鄭史 (唐)字は惟直。宜春の人。開成元年の進士。易博士となる。官を積み永州刺史に至る。賦百餘篇、詩十二首あり宜陽集に見ゆ。

テイシ 鄭氏 (唐)朝散郎陳邈妻。博學宏才。女孝經十八章を作り、表して朝に獻ず。朝廷其書を納れて以て世に頒行す。

テイシ 鄭賜 (明)字は彥寡。建寧の人。

洪武十八年の進士。監察御史に除せらる。太祖惠帝成祖に歷事し、禮部尙書に累擢せらる。永樂六年六月卒す。洪熙元年、太子少保を贈り文安と謚す。

テイジ 鄭時 (宋)戰の孫。字は是翁。苦學進士に登る。當塗縣に知たり。累官して朝奉大夫と爲る。身を律すること淸謹、政は寬厚を尙ぶ。書を嗜み老て益篤く、書史手づから編錄を事とす。邦人推重して從游する者甚だ衆し。

テイシ 程子 (宋)祖頤及び程頤を見よ。

テイシウ 鄭衆 (漢)字は仲師。父興に從ひ左氏春秋を受け三統曆に明かなり。永平の初、明經を以て給事中となる。節を持して匈奴に使ひして拜せず、單于怒り、之を脅服せんと欲す。衆劍を按じ自ら誓ふ。後ち遷り、上言して曰く臣誠に大漢の節を持し、氈裘に對し獨り拜すゝに忍びずと。

テイシウ 鄭聚 (漢)字は季序。章帝の時の宦者。班賞、每に則ち多きを辭し少きを受けたりといふ。

テイシウ 鄭修 (南北)北海の人。少くして岐南山に隱れ、岩に依り廬を結び世俗と交らず。經史を好み專ら玄門に志し、前後の相將、徵す每に至らず。岐州の刺史魏關根、頗りに致命を遣はす。修已を得ず暫く出て、關根を見、尋て山に還る。關根申表して修を薦む。明帝詔して雍州の刺史蕭寶夤に付して實を訪ひ以聞せしむ。會々寶夤、逆を作して事行はれず。

テイシウ　鄭修　(宋)遂州の人。年七歳にして日に萬言を誦す。太學に游ぶ。元祐間進士に登る。知梁州たり。軍餘餘あれば悉く小民の爲に代輸す。未だ引年に及ばず飄然として歸り、居る所に第を結ひ扁して飯牛菴と曰ふ。卒する年八十七。

テイジウタウ　鄭從讜　(唐)字は正求。滑の子。會昌の進士。門下侍郎に進む。李國昌、逸を擾す。朝廷從讜を拜して節度使兼招討使とす。自ら參佐を擇ぶ。皆一時の選士なり。人、太原に比して小朝廷といふ。才を得ること多きをいふ也。時に鄭田、宰相を以て鳳翔を鎮し、檄を移して賊を討つ。兩人忠義を以て相持す。賊最も之を憚り二鄭と號す。司空司徒を歷て侍中に拜せらる。文忠と謚す。

テイジウリヨウ　丁從龍　(宋)泰寧の人。勇にして義を好む。紹定三年鄉兵を率ゐて寇盜を擊走し功を以て保義郎を授けらる。端平二年兵を領して淮安城下に大に敵と戰ひ、土城を攻破す。敵兵奔潰す。淮安を克復す。忠翊郎に轉ず。其年秋、盜に梧州の懷集院に遇ひて戰死す。朝廷褒贈して廟を立てゝ之を祀る。

テイシキン　丁思觀　(五代)湖南楚王馬希範、圖畫園囿嘉宴室を作る。其費鉅萬なり。牙將丁思觀、希範を廷諫して曰く、奈何ぞ國用を耗し土木を窮めて兒女の樂を爲すかと。希範之を謝す。思觀、目を嗔らし希範を視て曰く、孺子終に教ふべからずと。乃ち喉を扼して死す。

テイシクワ　鄭至果　(宋)字は子剛。晉江の人。嘉定の進士に登り福清尉を授けらる。內艱に丁り、芝あり墳に產す。出て知州を歷す。至る所學を起し荒を修し、姦を捕へ盜を梟す。境賴て以て安し。

テイジジウチヨク　第二從直　(唐)玄宗の時中尉に任ぜらる。

テイジシフ　丁時習　(宋)字は行可。邵武の人。初め有司に試みられて合はず。遂に舉業を棄つ。鄉の朝貴、書を以て有司に薦め、自ら持謁せしむるものあり。時習、嘆じて曰く、我をして能く人に俯仰せしめば書を煩はさずと。晚年節益々高く文益々奇なり。未だ嘗て貧に居るを以て辭色に見はさず。

テイシシン　鄭子眞　(漢)名は朴。蜀中の人。谷口に家し道を修めて守默し嵩山の下に耕す。名、京師に震ふ。成帝の時、元舅大將軍王鳳、禮を具へて聘す。應ぜず。其清風以て貪を激し俗を厲すに足る。

テイシシン　鄭思忱　(宋)字は景干。嘉定中登第す。新興令より崇安縣を知し、後ち南恩州を知し至る所政績あり。浙東府參議官に辟さる。雷變あり。上封して、士萱且に溺れ、習ひ久しく化し難し、民困に坐し且つ盜す、宜しく貪を去り人を鄭み用を節し力を蓄ふべきを言ふ。監登聞鼓院に除す。

テイジシン　鄭士仁　(清)嘉斯の子。學行あり。善く其親に事ふ。其後嗣皆道を守り文を能くす。鄉里或く鄭孝子の家と曰ふ。

テイジセイ　鄭自誠　(宋)字は性之。廷試第一たり。著作郎となる。出でゝ袁州を守る。政、撫字を先にし、飭るに儒雅を以てす。任滿つ。民其去るを惜む。召して右司郎中に拜す。

テイシセウ　程之邵　(宋)眉山の人。蹇々以て新繁主簿たり。諸州を歷知す。徽宗の時、累官して顯謨閣待制たり、溫溫帥事を攝す。屯兵、邊に行く。敵人風を聞きて遁去す。

テイシセウ　鄭思肯　(元)字は所南。福州の人。工に墨蘭を畫く。妙に神采あり。嘗て自ら一卷を寫す。長け丈餘、品目粲然、塵表に超出す。題して曰く、全是君子絕無小人と。其高致此の如し。

テイシダウ　鄭至道　(唐)天台縣に知たり。政をなす寬簡にして專ら敎化を務め民心悅服す。後ち秩滿つ。邑民攀留して行くに忍びず。因て留りて松關に家す。今に至るも松關留鄭の故事あり。諭民の書七篇、尙存す。

テイシタン　鄭子聃　(金)字は景純。大定府の人。世宗の朝に待制兼吏部郎中、秘書少監、翰林直學士兼太子左諭德に遷る。後沂州刺史、左諫議大夫、吏部侍郎同修國史等に遷り年五十五にして卒す。英俊凜氣あり、作文も亦然り。

テイジノツマ　程鑑妻　(清)休寧富溪の程鎏の鎏の娶。竹林汪氏が女なり。鎏、松江に商遊して水に溺れて死す。汪、訃を聞き、慟絕して蹶る者數四。既にして家人の隙を覗ひ自ら經れて死す。

テイジヘキ　鄭自璧　(明)字は采東。祥符の人。京師に隸籍す。正德十二年の進士。庶吉士より工科給事中に擢でらる。世宗踐祚す。中外競うて時政を言ふ。自璧、化理に關する者を采り、類輯して書を成し、以て觀覽に備ふ。後累に坐して江陰縣丞に謫せられ貶所に死す。

テイシマウ　程師孟　(宋)字は公闢。夢人。進士甲科に擧げられ知南康軍たり。屢々劇鎭を領し、爲政簡にして嚴。罪の死に非ざる者は以て吏に屬せず。發隱摘伏神得の如し。豪惡迹を絕ち、所部肅然たり。民、爲に生祠を立つ。

テイシマウ　鄭師孟　(宋)字は齊卿。寧德の人。家貧にして力學し六經註疏手づから抄錄す。業を朱文公の門に受く。勉齋黃幹其志を嘉し女を以て妻はす。嘗て洪範講義を著はし、以て文公皇極辨の蘊を發明す。存齋と號す。

テイシン　帝辛　(殷)殷第三十世。子姓。帝乙の子。天下之を紂と謂ふ。紂資辨捷疾、聞見甚だ敏に、材力人に過ぎ、手づから猛獸を格す。智は以て諫を拒ぐに足り、言は以て非を飾るに足る。酒を好て淫樂し、婦人を嬖して妲己を愛す。賦斂を厚くして鹿臺の錢を實て鉅橋の粟を盈つ。益狗馬奇物を收め、多く野犬飛鳥を取て沙丘の苑臺に置き酒を以て池と爲し、肉を懸けて林と爲し、男女をして裸にして其間に相逐はしめ、長夜の飲を爲す。百姓怨望して諸侯畔く者あり。紂乃ち刑辟を重くし炮烙の法あり。庶兄微子數々諫れども從はず。之を去る。比干死を以て諫む。紂怒て曰く、吾聞く聖人の心に七竅ありと。比干を剖き其心を觀る。周の武王兵を興して紂を討す。紂之を牧野に拒ぎ大に敗る。走りて鹿臺に登り其寶玉を衣、火に赴て死す。在位三十三年。殷成湯より紂に至るまで三十世六百四十四年にして亡ぶ。

テイシン　丁珍　(唐)金壇の人。弱冠にして楊行密の部知兵馬と爲る。後ち自ら安んぜず病を以て歸る。生平殖貨せず酒を嗜まず人の善を掩はず。亂世に生れて明哲身を保つの義を得たり。

テイシン　程振　(宋)字は伯超。樂平の人。少より軼才あり。初め刑部侍郎に拜す。金人汴京を寇し、鹵掠至らざる莫し。振、金營に詣りて暴狀を責む。虜酋怒りて遂に之を殺す。端明殿學士を贈り剛愍と謚す。

テイシン　程秦　(宋)休寧の人。方臘の亂に鄉民を率ゐて、自際馬金嶺等の處を守る。鄂守は命じて本縣の軍謀に參せしむ。余山を柵守し、遂に恭壙を居く。

テイシン　程寀　(金)字は公弼。燕山析津の人。幼より成人の如し。冠に及び篤學にして進士甲科に登る。皇統八年彰德軍節度使に移り、官に卒す。年六十二。剛直狄仁古君子の風あり。

テイシン　程震　(金)字は威卿。東勝の人。其の兄鼎と俱に擢第せらる。仕へて能聲あり。興定中監察御史となり彈劾挽も所無し。後ち坐して官を罷め、歲余、血を嘔いて卒す。性剛直にして材幹あり。身を忘れて國に徇ひ少しも私假せず。

テイシン　鄭辰　(明)字は文樞。浙江四安の人。永樂四年の進士。監察御史に除せられ按察使に歷す。天順中、兵部左侍郎に擢拜せらる。八年風疾を得て告げ歸り、明年卒す。

テイシン　程信　(明)字は彥實。其先は休寧の人。洪武中、河間を戍る。因てこゝに家す。正統七年の進士。吏科給事中に除せらる。景泰中、四川參政に擢でられ、天順成化の交、南京兵部參贊機務に累遷す。致仕し、年を踰えて卒す。太子少保を贈り襄毅と謚す。

テイジン　丁仁　(宋)醴陵の人。進士に第す。淮蜀制幕に累遷す。高沙の變に及び諭すに順逆を以てして之を降す。無爲軍に知たり。城に依り堰を築く。鄂人成之を德とし丁公堰と名づく。繼て合肥の圍を解き知太平軍湖北漕使に進む。退居二十年にして卒す。年八十四。

テイジンケツ　鄭仁傑　(明)初め僞漢に仕へて胡廷瑞に隸す。驍勇を以て聞ゆ。顧る明軍に憚らる。後、明に降る。

テイシンケン　丁信言　(晉)後燕の慕容盛、字は道運、其群臣を新昌殿に讌す。盛曰く、諸卿各々其志を言へ、朕將に之を覽んとす。七兵尚書丁信言、年十五、盛の舅の子なり。進みて曰く、上に在りて驕らず高くして危からざるは臣の願なりと。盛、笑ひ曰く、丁尚書、年少なり、安くにか長者の言を得たると。蓋し盛威嚴を以て下を御し、驕恣にして親少なし、爲に猜忌せらる。故に信言之を言ふ。

テイシンシ　鄭申之　(宋)字は惟任。福州の人。乾道中の進士。官、國子助教に至る。朱文公、學禁を避けて邑に來る時、嘗て文公に從うて學ぶ。鄉に教授するに從游する者衆し。立行忠信四齋以て之を處す。文公其居樓に扁して衆迷と曰ふ。

テイシンタン　鄭審丹　(唐)詩を善くす。

テイシンハフ　程晉芳　(清)字は魚門。號は蕺園。歙人。家殷富なり。其資を擲くして書を購ふと五萬卷。日夜之を窮め之を討論す。天子南巡す。晉芳、賦を行在に獻じ、中書を授けられ編修に擢てらる。晉芳、秀眉方頤、鑿鑿々として左右に拂ひ、人と言ふに惟だ之を傷ふを恐る。文學の人に遇へば延譽日を絶たず。京都之が語を爲して曰く、自竹垞先生死、士無談處、自魚門先生死、士無走處と。其の聲華の盛なること此の如し。

テイジンヘウ　鄭仁表　(唐)詹の子。豪爽にして文あり。仕へて起居郎となる。門閥文章を以て自ら尊うす。曰く、天端に五色の雲あり、人端に鄭仁表ありと。

テイシヤウ　帝相　(夏)夏后氏第五世。仲康の后羿に逐はれ斟尋氏に依る。後に寒浞の子寒浞が爲に殺さる。在位二十七年。

テイシヤウ　程湘　(唐)字は從龍。休寧の人。二の弟。乾符中、黄巢の草寇を平け殊功あり。檢校工部尚書に歷官す。子全禮、全皐。

テイジヤウ　程驤　(唐)其父少瓦は鄲の盜、貲百萬を致す。老て行を改め復た里閭を出ざるもの五十年。既に死す而して驤之を知らず。後過あり、其母之を罵り曰く、此種不良、庸ぞ好事あらんと。驤泣して其故を問ふ。母實を告ぐ。驤數日食せず、悉く其財を散ず。年を逾ゑて甚だ貧なり。里中に就き讀書す。先生之を賢とし、時に饘粥を與へ其母に供せしむ。子史勵は鄒鑒あり、時丞之を聘すれども起たず。

テイシヤウキ　丁昌期　(宋)永嘉の人。明經篤行を以て後進の師表たり。醉經堂を建て自ら記を作る。鄉人之を尊び、經行先生といふ。三子あり、寬夫は三たび鄉貢に擧げられ、志夫は紹興の第に登る。三子俱に古を好みて力學し父の側らに侍し、兄弟商論すること朋友の如く爲めに苟くもせず。且つ曰く此理、天下の共にする所なり、家庭の爲めに屈比すべからずと。親の喪を執るに浮屠の法を斥去し歲時の享祀一に古禮に遵ふ。

テイシヤウグウ　程昌寓　(宋)知鼎縣兼鼎澧鎮撫使たり。時に湖賊楊么來り攻む。昌寓蔡兵を以て之を禦ぐ。後人爲に廟を立て名けて忠祐と曰ふ。

テイジヤウジン　丁常任　(宋)字は舜季。寶祐の從孫なり。博學强記。戶部侍郎に累官す。復讐の太義を極論し盡言諱むなし。後ち太中大夫寶謨閣待制を以て致仕す。晉晉陵縣開國男たり、食邑三百戶、壽八十三にして家に終る。

テイシヤク　鄭灼　(南北)字は旋昭。東陽の人。志を儒學に勵ます。梁の簡文、東宮にあり經術を愛し灼を引きて四省義學士となす。灼性精勤、尤も三禮に明かなり。家貧なり蔬疏を抄し日を以て夜につぎ、蔬食を嘗めて講授す、其篤志此の如し。

テイジヤクカウ　程若康　(宋)字は達源。勿齋と號す。休寧の人。淳祐間、湖州安定書院山長たり。後進士に擧げられ累りに師事を主る。及門の士最も盛なり。著す所性理字訓讀義百篇あり。

テイジヤクチウ　鄭若冲　(宋)字季益。鄞人。少くして怙恃を失ひ、伯父章に養はる。力學し擧子たるを耻づ。自ら書塾を置き、書を聚むること千卷。師を延き子に訓ふ。病に臥すと雖も書を廢せず。平居讀飭、是非を明かにし義理を辨ずるに至つては片辭と雖も貸さず。

テイシユ　程冰　(宋)休寧の人。淳祐十年の進士。貴池縣主簿を授く。己亥建康陷り、百官投牒降附す。洙天を仰ぎ嘆じ曰く、吾宋官を受くること二十餘年、守る所を移して降虜となり以て生を偷むに忍びんやと。自ら縊て死す。

テイシユ　鄭洙　(宋)字は教生。侯官の人。景祐の間、三禮科に擢でられ仕へて虞部郎中たり。致仕して東山先生と號す。初め洙の擧に赴くの時、陳襄之を送る詩に、談文詞蹈奮曾工、炎地聲華壓元白の句あり。蓋し未た仕へざる時、已に士林に重んぜられしなり。卒して學に祀らる。

テイシユク　鄭蕭　(唐)字は又敬。滎陽の人。儒を以て家學を繼ぎ、根底あるを以て進士に擧げられ、累官して平章事たり。挺々として大臣の節あり、李德裕と心を協せ攻を輔く。子泊。

テイシユクイウ　鄭叔熊　(宋)福清の人。叔韵の兄。好んで兵を談す。王安石之が國に歸るを送るの詩あり。

テイシユクタツ　鄭叔達　(宋)字は元誠。鄞の人。學を晴み老に至るまで倦まず。進士を以て湖學に第す。後ち時獘を論じて御史に擢でらる。二浙を賑濟して甚だ勞あり。累官して轉文閣直學士たり。卒して莊節と謚す。著す所玉堂等の集あり。

テイシユクヘウ　鄭叔韵　(宋)福清の人。元祐間、兵部郎、宗祀書、明堂制度、及び酌享冕服儀數卷を上る。兄叔熊。

テイジユツソ　鄭述祖　(南北)字は恭文。道昭の子なり。父の傳に詳かなり。

テイシユン　程驗　(南北)字は驗駒。曲周の人。少くして孤貧、喪に居り孝を以て稱せらる。魏に仕へて著作郎たり。高密太守に除せらる。吏才あるを以て之を留む。官に居るに慎清、事を言ふ毎に人心に愜ふ。詔して帛を賜ひ、以て其儉を旌す。驗悉く之を親舊に散ず。

テイシユン　丁倚　(宋)醴陵の人。春秋を習ふ。時に稱す、丁の家三傳して兄弟十七人義聚三百口家に間言なしと。祥符中詔して門閭に旌表せらる。

テイシユン　程俊　(宋)會州の人。紹興の初、碧の泥陽鎮に居る。始め俊幼稚のとき父母靈夏に陷る。常に號泣して自ら毀つ。長ずるに遠び家財數十萬を捐て以て贖ふ。未だ至らざるの日、北向號泣して以て請ひ、飲食爲に廢す。夏人感動して遂に其母を還す。

テイジユン　程洵　(宋)字は允夫。婺源の人。詩文を以て教を朱晦菴に求む。答書に曰く、文章の士たらんとする如き、已に自ら應に他人の後に在らざるべし、果して古人の學に志ある如き、云ゆる猶未だ其門を得ずと。往復問答數十頁、共に大全に載す。初め衛陽主簿に任ぜらる。士友雲集す。

テイジユン　邸順　(元)保定行唐の人。太祖九年に來歸し、行唐令に除せらる。眞定機を盜起る。順、其乱首を擒殺す。轉して恒州安撫使と爲る。已にして太宗に從ひ、河南諸郡を攻む。降民十餘萬。順至る所悉皆多し。卒する年七十四。

テイシユンイウグシ　帝舜有虞氏　(上古)・五帝の一人。顓頊七世の孫。或は云ふ名は重華。父を瞽叟といふ。舜の母死して更に妻を娶り象を生む。瞽叟後妻の子を愛して常に舜を殺さんと欲す。舜孝友の道を盡し、孜々として治めて姦に至らず。舜嘗て歷山に耕し、雷澤に漁し、河濱に陶す。年三十にして堯に擧用せらる。舜政を攝して八愷、八元を擧げ渾沌、窮奇、檮杌、饕餮の徒を四裔に流し天下大に治まる。舜政を攝すること八年にして堯崩ずや。舜即ち嗣て立つ。舜の時に禹は水土を治め、皐陶は大理と爲り、伯夷は禮を主とり、垂は工師を主とり、益は虞を主り、弃は稷を主とり、契は司徒を主とり、夔は典樂と爲り、龍は賓客を主とり衆功咸く興る。舜乃ち五絃の琴を彈じ南風の詩を歌ふ曰く南風之薰兮、可以解吾民之慍兮、南風之時兮、可以阜吾民之財兮と。舜帝位を踐み三十九年にして南に巡狩して蒼梧の野に崩ず。舜の子商均不肖なり、堯禹を薦めて位を讓る。

テイジユンケン　鄭遵謙　(明)會稽の人。諸生晉王に事へ、浙閩の間に崎嶇す。王に從つて海に航し、汝霖と並に害に遭ふ。

テイジユンソ　鄭順祖　(南北)述祖の弟。太常丞に官す。

テイジユンソ　鄭遵祖　(南北)述祖の弟。秘書郎たり。光州刺史を贈らる。

テイシヨ 丁謂 (三國)錢塘の人。役伍に出づ。顧邵拔きて之を友とす、爲めに聲譽を立て其善を揚げ以て隲全の列に並ぶ。吳に仕へて典軍中郎に至る。世以て顧邵は人を知ると爲す。

テイジヨ 鄭紆 (宋)建中の子。進士に第す。仕へて官詞曹侍郎に至る。五子あり皆顯官に任ぜらる。

テイジヨ 程徐 (明)字は仲能。鄞人。元名は儒。端學の子。至正中、春秋に明なるを以て知られ、兵部尚書に歷官して致仕す。洪武二年刑部侍郎を授けられ尚書に進む。人と爲り精勤通敏詩文に工なり。文集あり、世に傳ふ。

テイシヨウキ 丁勝琦 (宋)臨洛の人。章義軍節度使たり。德祐の交なり。

テイシヨウリン 帝承麟 (金)姓は完顏。哀宗の長子。哀宗國の爲すへからざるを知りて位を傳ふ。固辭す。許さず。即ち帝位に即く。俄頃にして大軍城に入る。承麟退き子城を保つ。尋で亂兵に害せらる。金亡ぶ。

テイシヨエイ 丁崑榮 (宋)富順の人。咸平の間、王均叛す。崑榮、牛酒を備へ均を讌樓に宴し擒して之を斬り其餘黨を殺す。功を以て榮州の刺史となる。

テイシヨウ 鄭昇 (宋)字は元舉。僑游の人。皇祐の進士。秘書省に試みられ校書郎と爲る。官に在み能聲あり。少きより刻苦問學し、尤も易春秋に深し。皆嘗て著述あり。以て其疑義を發す。詩文工緻、俱に稿あり家に藏す。

テイシヨウ 程勝 (明)字は六無。休寧の人。嘗て焦盤を以て蕉園を寫す。肆筆草々、晴雨風煙各神妙に臻る。

テイジヨカウ 鄭汝諤 (宋)字は山甫。括蒼の人。蔡を以て金華令たり。衢婺二州を歷守す。一に簡靜を以て治をなす。入朝して吏部侍郎たり。紹定六年、劍寇猖獗を極む。汝諤書を廟堂に移し策平す。居民其德に感じ相率ゐて像を繪き之を祀る。

テイジヨキ 丁汝夔 (明)字は大章。霑化の人。正德十六年の進士。庶吉士にり。嘉靖の初、禮部主事を以て大禮を爭ひ杖を受く。累官して兵部尚書兼督團營たり。邊務十條を上りて可とせらる。俺答數々寇す。之を防ぎ克たず、市に斬らる。時人之を痛惜す。

テイショク 丁軾 (宋)温嶺の人。武校尉たり。世雄の父なり。

テイシヨク 鄭湜 (宋)字は溥之。閩縣の人。光宗の朝、秘書監たり。奏對に因て親に事ふるの道を盡し、以て帝王の大孝を全うせんと乞ふ。慶元の初、直學士院に擢でらる。時に趙汝愚相を罷め去る。湜制を草し貶辭無きに坐し免す。後僞學黨に入れらる。卒して文肅と謚す。

テイシヨク 丁式 (明)常熟の人。正統中の進士。官員外郎たり。十四年八月土木の難に死す。贈卿せらる。

テイシヨク 鄭湜 (明)字は仲持。濂の弟。兄事ありて捕はる。湜之に代らんとし、人爭うて獄に入る。太祖召見て曰く、人あり此の如し、胥て逆を爲さんやと。之を宥す。左參議と爲る、官に居て政聲あり。南靖民亂を爲す、珪誤せらるゝ者數百家。湜請將に冒ひ盡く免釋す。居ること一歲、入覲して京に卒す。

テイジヨク 程時翼 (宋)字は勸道。崇仁の人。家貧にして徒に授く。或は累月食に缺なし。邑令請うて平政橋記を作り、此に因り之に餽んと欲す。時翼曰く我を汚す母れと。晚に始興尉となり、單騎之に赴き、賊を化して良民と爲す。紹興七年沐浴して衣を更め趺坐し逝く。年六十八。里人爲に卓行傳を立つ。

テイジヨシ 丁叙之 (明)山陰の人。花鳥人物に工なり。明末に當る。

テイジヨシヤウ 丁汝昌 (清)字は禹亭。髮匪討平の後、曾國藩奏して諸生を歐西に留學せしむ。汝昌も亦選ばれて英國に赴く。李鴻章の北洋水師を建つるや汝昌之が提督たり。甲午の役、日本艦隊と戰て敗れ退て威海衛を保つ。形勢日々に蹙まる、汝昌使を日本司令長官に致して兵艦を納れ、士卒を免さんことを乞ふ。之を許す。汝昌遂に自殺す。日本司令官之を義とし其遺骸を一艦に載せて之を清國に送る。

テイシヨナン 鄭所南 (宋)一名思肯。連江の人。太學上舍を以て博學宏詞科に應ず。

剛介志操あり。會元兵南下す。所南嘗て闕下に上書せる所あるを以て元人爭ひ之を目す。遂に後の名に變ず。所と曰ふは趙氏を忘れざるを示し、南と曰ふは復他姓に北面せざるを示すなり。

テイシヨモク 程處默 (唐)上元間、寧晉縣令たり。鹽鹵なるを以て新堰を城南に掘り、洨水を引き東の方大陸に入れ、地を澤し田に灌ぎ十餘里を經、復水を引きて城池に入れ、用つて豐潤す。民食乃ち甘し。

テイシリ 鄭士利 (明)字は好義。寧海の人。兄士元は剛直才學あり。進士より湖廣按察使に歷官す。空印の事に坐し獄に繫がる。會星變に因て言を求む。詔に曰く、公言を假り私する者は罪すと。士利因つて罪するに足らざるの罪を以て、用ふるに足るの材を壞るを極言す。書上る。帝大に怒り、獄に下して死す。

テイシリヨ 丁此呂 (明)字は右武。新建の人。萬曆五年の進士。推官より御史に擢でらる。慈寧宮災あり、言を上りて可とせらる。浙江右參政に歷官す。言を上りて罪を得、逮へて鎮撫に下し戍邊に謫せらる。

テイシリヨウ 程士龍 (宋)字は應辰。慈溪の人。進士に登第し、主簿容薄たり。時に議饑う、脅濟方あり、老弱輒つて以て全活す。嘗て臨江軍を知して善政多し。民爲に祠を立つ。國子丞に除せらる。理宗に論對し嘉奬せらる。右曹郎に遷り知撫州に改む。會獄を鞫す。民平寇歌を作り頌して神明とす。

テイシリヨウ 鄭芝龍 (明)字は飛黃。泉州府南安縣の人。父を紹祖といふ。芝龍長じて購略あり。萬曆の末、海に航して日本に至り、又呂宋海上を往來す。後遂に海賊の群に投ず。崇禎元年明の國內大に乱る。熊文燦、芝龍を招ぐ。芝龍乃ち其黨を率ゐて歸順し、兵を擕して清兵に抗す、轉戰して屢々之に勝つ。飛虹將軍と號す。後太祖の遺腹聯を奉じ南方に鎮る。平國公に封ぜらる。既にして勢稍々衰へ遂に清に降り柴市に斬らる。

テイシレン 程思廉 (元)字は介甫。命を奉じて轉餉に任じ、倉を置き粟を受く。轉輸する者、民と門を爭ひ時に至らず、思廉乃ち路を異にせしむ。粟乃ち至り露積す。後ち監察と爲り阿合馬を劾して獄に繫ぐ、卒に害する能はず。思廉人の急難を救ふに勞費を憚らず。人物を薦達するを好む。卒して敬甫と謚す。

テイシヲン 程思溫 (明)婺源の人。正統中の進士。官員外郎たり。十四年八月、土木の難に殉す。贈卿制の如し。

テイスウ 鄭雖 (南北)逃祖の族子。識尙あり操行清整なり。膠州刺史と爲る。初め文宣、皇太子たり、其女を納れ良娣となす。雖、時に尙書郎たり、趙郡の李祖昇兄弟、徵に相敬憚す。楊愔、奏して雖に趙郡太守を授く。祖昇兄弟、具服して雖に至り刺を投下拜謁す。文宣、之を聞き嘉笑して曰く得て李家の兒を殺すに足ると。

テイスウ 丁樞 (明)字は辰所。山陰の人。寫照に工なり。明末に當る。

テイス并 程邃 (清)字は穆倩。歙人。自ら江東布衣と號す。又垢道人と號す。博學詩文に工に、山水を善くす。先ち盧僕、下に善く、尤も好んで章布の士を奬譽す。

テイセイイウ 丁世雄 (宋)字は少雲。溫嶺の人。周禮を挾みて學に應ず。坐、式の如くならずして罷めらる。且つ書を讀み且つ之を警す。慨然として曰く豈天の我に與ふるもの限りあらんや、我家を以て自ら沒する者にあらずと。即ち高堂溫室に起居し、園池を闢らき四方の名士を招致して與に游び、以て論著する所あらんと欲す。客の天台雁蕩より來る者必ず之に歸す。留連旬月、之に依りて去らざる者あり。凡そ鄉人の官私の急難あるものは常に之を借助す。稅征或は爲めに代輸し疾病には藥を請ふ。死して歸なきものは爲めに殮葬す、僞死を以て獻具を乞ふ者あり。世雄少しも疑はずして亦た之に與ふ。從弟希亮、常に世雄の輕薄、杜季良に似たりゝ訾るも。世雄爲めに變せず。希亮、疾を得て絕ゆるに垂んとし、妻なくして子幼なり、乃ち世雄に後事を屬す。少雲曰く、弟匆々たる無れと。他日世雄、諸用を經紀する、希亮の在時よりも厚し。時人益々之を多とす。

テイセイケイ 丁清溪 (元)錢塘の人。工に道釋人物を畫く。李嵩、王輝、馬麟を學

ぶ。尤も寫貌に長ず。

テイセイコウ　鄭成功　（明）初名は森。幼名福松。父芝龍、日本に來り平戸に寓し田川氏を娶りて之を生む。風儀豪秀。崇禎十一年明に歸り大學に入る。王觀光一見して芝龍に謂て曰く、此兒英物、汝が及ぶ所にあらずと。隆武元年芝龍、太祖の遺孫唐王を立てゝ恢復を謀る。唐王之を封ずて平國侯と爲し、又成功を以て御衛中軍都督に拜し忠孝伯に封じ朱姓を賜ふ。因て國性爺と號す。二年芝龍清に降る。唐王亦殺さる。成功泣哭して儒服を焚き永明王を奉ずて明祚を繼ぎ猶清に抗す。清芝龍をして書を爲り成功を招かしむ。從はず。永明十二年延平王に封ぜらる。招討大將軍に拜す。大舉して南京を襲ひ克たず。永曆帝亦清人に擒せられ明の世統盡く。成功乃ち南して海に浮び臺灣に據り猶明の正朔を改めず。時に明の遺臣朱舜水もまた亡命して日本に在り水戸侯に仕ふ。成功、舜水と謀り、兵を日本に借りて明室の恢復を計らんとす。事成らず。十六年病て薨ず。年三十九。子經、孫克塽、克爽、相繼て臺灣を保つ。清康熙二十二年遂に清に入る。

テイセイシ　鄭清之　（宋）字は德源。覃の孫。少くして樓昉に從ひ學ぶ。嘉定中の進士。理宗濟邸のとき之に教授す。凡そ四たび相位に登る。端平の間、正人を召用せしは多く清之の力なり。太傅に累遷し保定軍節度使を以て齊國公に封ぜらる。致仕して卒す。魏鄂王に追封し忠定と謚す。著す所、安晩集六十卷あり。

テイセイヨク　鄭世翼　（唐）滎陽の人。世々著姓たり。弱冠にして盛名あり。武德中萬年丞楊州錄事參軍に歷す。敎ふるに言詞を以て物に忤ふを稱して輕薄とす。時に崔信明自ら謂へらく文章獨步なりと。陵轢する所多し。世翼之と江中に遇ふ。謂つて曰く、昔て楓落吳江冷といふを聞くと。信明欣然として百餘篇を示す。世翼之を覽て未だ篇を終へずして曰く、見る所聞く所に如かずと。之を江に投ず。信明對ふる能はず慨を擁して去る。貞觀中、怨望に坐して儋州に配流せられて卒す。

テイセイウ　鄭樵　（宋）莆田の人。博學强記。奇を搜り古を訪ひ、藏書家に遇へば必ず借留讀盡して乃ち去る。目を過ぐれば忘れず。凡そ經史禮樂天文地理蟲魚草木方書の學皆論辨あり。紹興中、薦を以て詔對し、樞密院編修を授けらる。著書凡そ五十八部、通志略尤も世に行はる。嘗て夾際山に居り學者稱して夾際先生といふ。

テイセイウ　程紹　（明）字は公業。徽州の人。萬曆間の進士。戶科給事中に拜し京營を巡視す。歷く時政の失を言ひ爭論す。帝怒り斥けて民と爲す。紹家居すること二十年。光宗即位して右副都御史に累遷す。魏忠賢と協はず疾を引て歸る。崇禎間、薦を以て工部右侍郎に拜す。上疏休を乞うて去り卒す。太部尚書を贈る。

テイセイウ　丁紹　（晉）字は叔倫。冀州の刺史たり。嘗て寇を破り功あり、假節して冀州を監ぜしむ。軍事を論じて號令嚴明なり。人長れて之を愛す。

テイセイウイツ　帝小乙　（殷）殷第二十一世。子姓。帝祖丁の子。兄小辛に嗣ぐ。在位二十八年。

テイセイウカウ　帝小康　（夏）夏后氏第六世。娰姓。帝相の子。初め帝相の羿が爲めに逐はるゝや妃后綸、有仍氏に歸り少康を生む。少康、田一成衆一旅あり。夏の舊臣靡、有鬲より兵を起し斟灌、斟尋二氏の餘燼を收め少康を奉じて寒浞を討じて之れを滅す。少康立て禹の績を復す。在位二十二年。

テイセイウカフ　帝小甲　（殷）殷第七世。子姓。帝太庚の子。在位十七年。

テイセイウシン　帝小辛　（殷）殷第二十世。姓は子。帝祖丁の子。兄盤庚に嗣ぐ。在位二十一年。

テイセイウシュク　鄭昭叔　（宋）字は顯仲。寧德の人。朱熹の漳州に守たりしとき、朝廷經界の法を行はんと欲す。乃ち昭叔を取り仙游を知ぜしむ。曰く、經界の次第睹司に申ず、上は之を朝省に乞ひ、下は之を部使に屬し、按差官をして取る所あらしめむと。且曰く昭叔の致仕して家居する老蕃康寯、九十六歲にして終ふ、蓋し亦其誠心愛民の所報なりと。

テイセイウセン　鄭昭先　（宋）字は景紹。閩

餘の人。初め主蒲城簿たり。嘆じ曰く饑俸一第するも問學未だ忘さずと。遂く朱熹の門に游ぶ。歸來單官して知樞密院事兼參知政事たり。右丞相に進む。

テイセウドウ　鄭小同　（漢）玄の孫。玄、其手紋の巳の名に似たるを以て小同と名づく。英發不群、六經を淹貫し鄉人之を師尊す。侍中と爲る。嘗て司馬昭に至る。昭、密疏を通じ未だ函ぜずして厠に如く。遂に問うて曰く卿我が密疏を見しや。對て曰く未だし。昭曰く寧ろ我卿に負くも卿我に負く勿れと。遂に鴆を投ぜられて卒す。

テイセウビ　丁少微　（宋）老州眞源の人。道士。華蓋谷に隱れ、志清源を尙び、善く氣を服し、多く麵を餌す。百餘歲にして康健病なし。太宗、召して闕に赴く、金丹巨勝南芝玄芝を獻ず。留ること數月にして山に還りて卒す。

テイセウビ　鄭少微　（宋）華陽の人。字は明華。少くして孤なり、力學して進士に第す。宣和間、上書し時弊を論じ、坐して廢せらる。賞にして田宅なく、金繩院に寓宅する十五年、其志を屈せず。力を古文に勞め、自ら水雁居士と號す。官朝請に至る。

テイセキ　丁積　（明）字は彥誠。寧都の人。成化十四年進士となり會稽知縣を授けらる。

テイセツ　程節　（宋）字は信叔。浮梁の人。嘉祐の進士。累官して廣西運使帥桂府と爲り甚だ人心を得。交趾と雖も亦曰ふ、天子

老成に我邦鄙を撫せしむ、我が小國豈敢て自ら天討を干めんやと。貢獻絕ゆ。官實文閣待制に至る。著す所竹溪集あり。

テイセツダウ　程接道　（明）程子の後。崇祖間、翰林院五經博士と爲る。子孫世襲す。土賊于大忠、亂を作す。力拒して之に死す。

テイセフ　鄭燮　（清）字は克柔。江蘇興化の人。板橋は其號なり。人となり疏宕脫灑、天性極厚。乾隆元年の進士。知縣に官し惠政あり。會歲飢う。民の爲に賑を請ひ大吏に忤ひて罷め歸る。蘭竹に工に、書法は楷隸行三體を以て相參す。絕詩は香山放翁に近く、鄭板橋一節の目あり。

テイセン　鄭泉　（三國）字は文淵。陳郡の人。博學にして奇志あり。性酒を嗜む。常に曰く、願くは美酒を得て五百斛の船に滿て、四時の甘脆を以て兩頭に置き、反覆之れを沒飲し、意ゝれば即ち往きて肴膳を啖ひ、酒斗升あり減ずれば即ち之を益す亦た快ならずやと。孫權、以て郎中となす。面諫を好む。權之に言て曰く、寧ろ龍鱗を畏るゝか。對て曰く、聖明なれば臣直なり、今上下の無諱に値ふ、實に弘恩を恃みて龍鱗を畏れずと。終りに臨み同類に謂て曰く我を陶家の側に葬れ、庶くは百歲の後ち化して土となり幸ひに取られて酒壺となれば實に我心を獲たりと。

テイセン　鄭潛　（唐）四瑜の次子。字は無隅。進士に第す。

テイセン　鄭戩　（宋）字は天休。天聖の初、雲端紀官賦を試みられ宋郊第一李靖臣第二鄭戩第三高若訥第四曹公亮第五たり。上、其賦辭を誦稱せしこと數四にして曰く戩が氣識英豪、朕將に之を用ひて相とせんと。官楓副に至る。李氏に娶り范文正と連秩たり。王禹玉を選びて壻となし後ち相に拜せらる。禹玉、[illegible]逢夫を選して壻となし亦た相に拜せらる。

テイセン　鄭詮　（宋）字は無機。宜春の人。六經に通じ、大字に工に、詩に長ず。宣和間、兩たび貢して偶ぜず。建炎三年、金人江西を犯す。詮知州事に書し時宜を論ず。崇寧人之を才とす。年八十にして卒す。應菴先生と稱す。

テイセン　程先　（宋）字は博之。休寧の人。全の子。父が節に金に死するを痛み、先墓を警守して仕へず。力學好古、邑の東山に隱居し、聖賢の學に志あり。書を以て道を朱熹に問ふ。朱子之を嘉す。載て朱子大全に在り。老舟を以て業を受くる能はず。子永奇を遣はし往て門に從ひ學を受けしむ。

テイセン　丁瑄　（明）何許の人たるを知らず。正統間、御史に官して聲あり。景泰の初、廣東副使に擢てらる。之を久うして卒す。

テイセン　丁濟　（明）上元の人。永樂中の進士。御史に官たり。左副都御史に累遷す。至る所聲績あり。

テイゼン　程全　（宋）休寧の人。宣和の末、方臘　盜起る。邑令翁由、將に印を棄て走

らんとす。全兵を起して之を遮留し、俱に賊を平ぐ。節鉞を授けらる。袴金冠を征し、衆寡敵せずして國難に殉ず。協忠太夫を贈る。

テイセンエウ　鄭滑曜　（唐）滎陽の人。母代國長公主。開元中、主疾に疫す。三月帳面せず。主疾革る。血を刺して神許の二字を大書して神に祈る。已にして主愈ゆ。而も左右を戒めて敢て言ふ無らしむ。後光祿卿に歴す。

テイゼンカウ　程全皐　（唐）字は廣愛。休寧の人。湘の次子。材武を以て銀青光祿大夫を歴、檢校戸部尚書兼國子祭酒上柱國たり。

テイゼンクワ　鄭善果　（唐）滎澤の人。隋に仕へ魯郡太守たり。母崔氏賢明なり、嘗て關内に善果の虞決を聽き、理に當れば悅び、不可あれば責む。故に善果至る所績あり。唐に踏して檢校大理卿たり。夙に績を公卿間に顯はす。從父兄元琰は文藝を愛尚し、五たび絶域に聘す。

テイゼンクワノハハ　鄭善果母　（隋）崔氏。清河の人なり。鄭誠に嫁し善果を生む。歲二十にして誠陣殁す。崔氏節を守り子を養ふ。善果年十四。父の庭を以て魯郡太守と爲る。母性賢明にして博く書史に渉る。善果出でゝ事を聽く毎に、母輙ち簾後に坐し、其剖斷理に合へば大に悅ぶ。或は妄りに嗔怒すれば、母泣て終日食はず。常に之を戒めて曰く、汝今位官顯重なるは、豈汝の身之を致さむや、皆汝先君の忠勤の致す所なりと。母恒に自ら紡績す。善果母訓の嚴なるに由り、已に克ち躾して清吏と爲す。後ち母卒す。善果漸く驕恣にして、公清平允なること曩昔の如くならず。

テイセンシ　丁仙芝　（唐）曲阿の人。進士に擧げられ餘杭尉となる。詩に工みなり。鄮人陶翰殷遙張潮と共に皆詩を能くするを以て時に聞ゆ。

テイセンシウ　程千秋　（宋）知公安縣。時に群盜公安を犯さんと欲す。千秋縣民を帥ゐ之を擊ぐ。岳鄂鼎豊皆賴つて以て安し。民間多く像を繪き之を祀る。

テイゼンフ　鄭善夫　（明）字は繼之。閩縣の人。弘治間の進士。戶部主事と爲り、清操を以て聞ゆ。壁倖の事を用ふるを憤り、告歸して草堂を金鼇峰下に築き、讀書自ら樂む。嘉靖間、南京刑部郎中に超拜す。行て建寧に抵り便道武夷九曲に游ぶ。風露に遇ひ疾を絶ち病を得て卒す。年三十九。善夫書法尤も神に入り、又畫を善くす。

テイセンリ　程千里　（唐）萬年の人。魁岸にして力あり。天寶の末、安西北庭節度使たり。安祿山反して來り攻む。千里防き戰ひ誤つて賜と俱に潼中に陷つ。擒へられて洛陽に送り囚せらる。

テイゼンレイ　鄭全禮　（唐）字は廣節。休寧の人。湘の子。東宮率將の後を嗣ぎ光祿大夫に任じ、檢校御史中丞上柱國たり。

テイソイツ　帝祖乙　（殷）第十三世。姓は子。河亶甲の子。巫賢職に任じ殷復興る。在位十九年。

テイソウ　鄭崇　（漢）字は子游。高密の人。哀帝の時、尚書僕射たり。毎に革履を曳きて進見す。上曰く、我鄭尚書の履聲を識る と。其寵眷せらるゝこと此の如し。後ち直諫して旨に忤ひ獄に下され死す。天下之を哀む。哀帝嘗て崇に謂て曰く、君の門何を以てか市の如きと。崇曰く、臣の門市の如きは、臣の心水の如くなればなり と。

テイソウギ　丁宗魏　（宋）金壇の人。嘉定間、進士に第す。從征郎を以て再び楊子縣に令たり。義武民兵軍政を兼ぬ。時に金人儀眞に入寇す。人情洶々、江を渡りて以て避けんとす。宗魏、肯ぜずして曰く、守禦の臣は誠に封疆に死すべし、敵至りて而して遁れば孰れか之が守たる者ぞと。卒に聽かず。之に久しうして同愛堂を建て州志二十卷を修す。以て世に行ふ。朝奉大夫に累官し廣德軍に知たり。

テイソウクワウテイ　定宗皇帝　（元）姓は奇渥溫氏。諱は貴由。太宗に嗣ぐ。即位の後朝政皆母后に出づ。宋の淳祐中に崩ず。壽四十三。起靈谷に葬る。簡平皇帝と追謚し廟を定宗と號す。

テイソウケン　鄭崇儉　（明）字は大章。寧鄉の人。萬曆四十四年の進士。推官より濟南兵備副使に歴す。崇禎間、兵部右侍郎に擢でられ屢々賊張獻忠と戰ひ之を走らす。後ち軍律を紊るに坐して棄市せらる。謚王

の時、始て其寃を白す。

テイソウシ　鄭曾子　（宋）字は子可。晉江の人。弱冠にして文學あり。咸淳甲戌、興渭に試し大學に寓す。景炎丙子、譯に三山に隨ひ、破功郎を以て潮州司法たり。未だ行かずして梅州、元に降る。元の左丞藩蔚庚、薦めて武略將軍梅州路治中を授く。就かず。曾子、性孝友、義を嗜み、持論公正なり。士大夫疑ふに遇へば多く請うて質す。自ら唯齋と號す。

テイソウシン　丁宗臣　（宋）晉陵の人。弟實臣と共に文名あり。二丁と號せらる。

テイソウカウ　帝祖庚　（殷）殷第二十三世。姓は子。帝武丁の子。在位七年。

テイソウシン　帝祖辛　（殷）殷第十四世。姓は子。帝祖乙の子。在位十六年。

テイソウテイ　帝祖丁　（殷）殷第十六世。子姓。帝祖辛の子。帝沃甲に嗣ぐ。在位三十二年。

テイソウヒン　程楚賓　（宋）家、財に富む。鄉人呂諲の才を重んじ、女を以て之に妻はす。諲、蚤く孤貧、自ら給する能はず。楚賓、厚く葬り、資財もて其欲する所を濟す。故に其名巷自ら廣し。

テイソウヲウ　程楚錡　（宋）綏寧の人。德祐の末、元兵臨安に入る。江東の列郡皆下る。楚錡、死士を結びて郡城を復するを謀り、事泄れて執へられ榜掠幾ど死す。守者に賄して脫るを得。宋亡びて義、元に仕へず。又た行きて謝枋得に國に從ふ。枋得元に執へらる。楚錡、俟る所無く、遂旗に死す。

テイソウン　丁泰運　（明）字は孟尙。澤州の人。崇禎十三年の進士。武陵知縣に除せられ河内に調ばる。廉直の聲あり。崇禎十七年二月、賊將劉方亮、彈坂より河を渡る。巡按御史蘇京執へらる。賊を引いて至る。京師迎へ降り監司以下皆竄す。泰運獨り南城を守る。力支へずして執へられ、屈せずして死す。

テイタイカウ　帝太康　（夏）夏后氏第三世。啟の子。饒遊して民事を恤へず。有窮の后羿太康を逐ひ國に反るを得ざらしめ其弟仲康を立てゝ政を專らにす。在位二十九年。

テイタイカウ　帝太庚　（殷）殷第六世。子姓。帝太甲の子。兄沃丁に嗣ぐ。在位二十五年。

テイタイカフ　帝太甲　（殷）殷第四世。子姓。成湯の嫡長孫。父太丁未だ立たずして卒す。帝仲壬崩じて伊尹乃ち太甲を立つ。太甲既に立て三年暴虐にして湯の法に遵はず。是に於て伊尹之を桐宮に放つこと三年。太甲過を悔いて自ら責めて善に反る。伊尹乃ち迎へて之に政を授く。太甲德を修め諸侯咸く殷に歸す。太宗と稱す。在位三十三年。

テイタイコウ　鄭太后　（晉）簡文帝の太后。諱は阿春。河南滎陽の人。后少くして孤、兄弟無し。惟だ姊妹四人あり。后最も長。先に田氏に適き一男を生みて寡なり。時に元帝、吳氏の女を納れむとす。后、吳氏の女と俱に後園に游ぶ。或人帝に謂ふ、鄭氏の女、寡と雖も吳氏に賢ること遠しと。建武元年納れて夫人と爲す。后貴幸と雖も恒に憂色あり。帝其故を問ふ。對へて曰く、妾の二妹未だ適く所あらず、姊人の妾たらば求むる者無からむと。帝乃ち二妹の偶を選び、並びに舊門に嫁せしめ以て后の意を悅ばしむ。后、簡文帝及び尋陽公主を生む。咸和元年薨ず。後ち尊號を上りて簡文太后と曰ひ、廟を大廟路の西に立つ。陵を嘉平と曰ふ。

テイタイシヤウ　程大昌　（宋）字は泰之。乾道中、司業兼禮侍たり。一時の文柄、大昌に屬す。人才を成就すること甚だ多し。萬功論五十一篇を著はし、江淮河漢弱水黑水を辨ずること甚だ詳なり。演繁露六卷、易老通言、易原莊餘四書各十卷を著はす。大に學者に功あり。

テイタイゼン　丁大全　（宋）字は子萬。鎭江の人。顏面憔色なり。嘉熙二年の進士。蕭山尉に調ばれ、令聲あり。寶祐の間、右丞相に累官す。御史沈炎、右正言曹永年、相繼ぎて、大全が刑威を假りく以て天下の口を箝し脅睒を挾て以て天下の財を籠するを論劾す。新州に竄謫せられ移りて海島に至る。舟、轢死を過ざるとき、水に擠されて死す。

テイタイテイ　帝太丁　（殷）殷第二十八世。子姓。帝武乙の子。在位三年。

テイタイボ　帝太戊　（殷）殷第九世王子姓。帝太庚の子。兄雍己に嗣ぐ。毫に祥あり桑穀共に朝に生じ一暮にして大きさ拱なり。太戊懼れて伊陟に問ふ。伊陟曰く妖は德に勝たず、帝の政其れ闕くるあるか、帝其れ德を修めよと。太戊之に從ふ、祥の桑枯る。太戊伊陟を廟に贊し臣とせずと言ふ。巫咸王家を治め成すことあり。殷復興る、之を仲宗と爲す。在位七十五年。

テイタウ　鄭璹　（宋）字は伯壽。穎の子。父の任ぶを以て官に補せられ、太理評事に累遷す。時に權相、邊守王惟中の勳名を嫉み、鴆して死に致す。璹、法を執りて屈せず。朝議其節を高しとす。大理寺正に擢でらる。性恬淡、范文正公の義田に倣ひて仁壽莊を置き、以て宗族を贍す。

テイダウ　程堂　（宋）知墅流鯉たり。聰斷明敏、廷に留獄無し。蝗あり苗を食す。堂曰く、吏天子の命を奉じ以て民を養ふ、蟲當に吏の五臟を食すべし、民食を食する無れと。乃ち泉を引きて之を呑む。蝗遂に境を踰ゆ。

テイタウジ　鄭當時　（漢）字は莊。陳の人。任俠を以て自ら喜ぶ。張羽を厄に脫し、聲、梁楚の間に聞ゆ。景帝の朝、太子舍人となる。常に驛馬を四郊に置き故人を存問して惟だ其知友並びに天下の名士に偏からざるを恐る。武帝の朝、大司農となる。門下に戒めて、客至れば貧賤となく躬留して賓主の禮を執り貴を以て人に下る、常に士を推毅し、惟だ後れんことを恐る。山東の諸公、翕然として之を稱す。後ち汲黯と同じく九卿に列す。

テイダウセウ　鄭道昭　（南北）北魏に仕へて兗州刺史となる。城南の小山に一亭を起し、石を刻して中岳先生鄭道昭之白雲堂と いふ。子述祖、字は恭文。齊の天保中、亦た是州に任ぜられ、舊跡を尋れて之を得たり。職に在り治を能くす。民歌うて曰く、大鄭公小鄭公、相去五十載、風教猶相同と。

テイタク　程卓　（宋）字は從元。休寧の人、淳熙中禮部に試みられ第一たり。刑部郎中に遷る。嘗て金に使し議論風ぜず。金人之を憚る。後、泉州を知す、民爲に祠を立つ。尋で召されて同知樞密院事たり。

テイタン　丁渾　（晉）會稽の人。時望あり。同郡の孔愉張茂と名を齊しうす。渾字は世康、愉字は敬康、茂字は偉康。時人號して會稽の三康といふ。

テイタン　鄭覃　（唐）琄瑜の子。父の蔭を以て弘文校理に補せられ、諫議大夫に歷官し御史中丞に遷る。文宗の時、廷に坐し詩の工否を論じて曰く孔子刪する所三百篇、其雅正にあらざる者は爲んぞ天子の道たるに足らんやと。經學に長ト古を稽へ正を守る。帝、甚だ之を重んず。清苦自持し、遺次にも人と欵洽せず。位、相國に至るも所居、未だ飾を增さず、人皆其素風を仰ぐ。

テイタン　程濂　（唐）休寧の人。靈洗十四世の孫。黃巢の乱、衆に推され將と爲り、毎に賊を擊て之を却く。楊行密、田頵をして地を畧し人を殺して之を論さしむ。嘗て曰く自ら保つ所のものは、三百年太平の民の賊 虜たるを欲せざるのみ、吾何をか求めんや と。頵乃ち單騎濂に詣る。濂因て謀を献ず。行密遂に以て歙州都知兵馬使と爲す、兵聲大に振ふ。弟湘、淘、皆預りて功あり、顯仕を歷。

テイタン　程覃　（宋）字は會元。提舉兩浙常平茶鹽權沿海制置使事たり。嘉定六年任に在り、堤を築き陂を修め校を興し賦を薄くし、民を惠むこと赤子の如し。人之に悅服す。

テイタンガク　程端學　（元）字は時叔。浙江鄞縣の人。至治辛酉進士に登り國子助教に遷る。剛毅方正を以て人之を長憚す。著書甚だ多し。

テイタンチウ　程編中　（宋）池州の人。嘗て知六安軍たり。金寇至る、力守して國難に殉ず。池州統制程全之を哀み爲に其骸骨を求めて歸り葬る。

テイタンノツマ　鄭覃妻　（宋）蕭氏。建炎四年金兵入寇す。覃小舟を操り妻と同載す。金兵に刧迫せらる。覃厲聲罵詈して水に躍て死す。妻泣て曰く夫亡す其辱を受けて生きむより死するに如かずと。亦自ら沈む。

テイタンノツマ　鄭愷妻　（明）石氏。愷は浦江鄭泳の孫なり。洪武の初、李文忠之を朝に薦む。敵庫提點に徒り、法に坐して死す。石氏遺配に當て泣て曰く我は義門の婦なり、身を辱かしめ以て家を辱しむ可けむやと。食せずして死す。

テイタンモウ　程敏　（宋）字は正思。朱熹の門人。學問淵源、獨り其宗を得たり。卒するに及び、朱子の贊に云はく、嗚呼正思、退然若不勝衣、而自勝有以舉烏獲之任、言若不出諸口、而衝道足以推挽衍之鋒、傀瑋日有孜々者、吾未見其止、乃一朝而至此、則天曷不假之以壽以成其始終、嗚呼此猶不足以概其敦實之貌、來者亦姑以是想見其風と。

テイチウ　鄭冲　（晉）字は文和。開封の人。傳く經史に通ず。初、魏に仕へ陳留の太守となり、太保に累官し壽光侯に封ぜらる。時に議禮律令を定む、多くは冲を主とす。入て太傅となり壽光公に進みて致仕す。

テイチウイウ　鄭仲熊　（宋）字は行可。高安の人。進士に第して有正官たり。累官して參知政事となる。嘗て奏檜の爲に數々辭められしかど屈せず。孝宗即位して端明殿學士に復す。祠を請ひて致仕す。

テイチウ　丁仲修　（宋）字は敏之。溫州の人。方臘、樂清を陷る。仲修、鄉兵を率ゐて台灣に禦ぐ。鄉兵據を失して散ず。仲修餘兵を以て賊と力戰し力屈して死す。

テイチウカウ　帝仲康　（夏）夏后氏第四世。姒姓。帝啓の子。兄太康政を失ひ有窮の后羿之を逐ひ仲康を擁立す。此時羲和淫して職を廢す。胤侯に命じ之を征せしむ。在位十三年。

テイチウジン　帝仲壬　（殷）殷第三世。子姓。成湯の三子。在位四年。

テイチウテイ　帝仲丁　（殷）殷第十世。子姓。帝太戊の子。在位十三年。

テイチウレイ　鄭仲禮　（南北）魏の參軍たり。人と爲り險薄無賴、任胄を厚く交を結ぶ。武平の間に至り、陰に俱に逆を圖り、未だ發ぜずして捕へて誅せらる。

テイチセツ　程知節　（唐）濟州東阿の人。太宗に從つて征伐し旗を竪げて先登する者一ならず。功を以て窃國公に封ぜられ盧國公に改めらる。岐州刺史に終ふ。

テイチン　丁綝　（漢）洲の父なり。光武に從ひて征伐功あり、新安侯に封ぜらる。

テイヂヨ　帝杼　（夏）夏后氏第七世。姒姓。帝少康の子。寒浞が子豷を戈ふ滅す。能く禹を師とすといふ。在位十七年。

テイチヨウ　鄭重　（明）字は千里。善く人物山水佛像を寫す。

テイテイ　程鄭　（周）貨殖傳に曰く、山東の遷虜なり、冶鑄を以て業とす、富、卓氏と埒し。

テイテイ　程鼎　（宋）婺源の人。羅願鼎と同年に朱松に學び、修身爲學の要を得て益自ら樹立す。經籍を博覽し、文を爲るに舉子の尺度に效はず。仕へずして卒す。

テイテイ　鄭鼎　（元）澤州の人。管軍萬戶に官す。憲宗大理國を征し麗山に抵る。鼎常に帝を貫ひ以て行く。後ち宋人と戰ひ、舟覆して溺死す。潞の公を贈り忠肅と謚す。

テイテイ　鄭鼎　（明）字は爾調。龍溪の人。鄉舉より廣順知州たり。安邦彥の必ず反するを策りて當事に上書す。州、故と城無し。民を督して柵を樹て、實たすに土を以てす。幾もなく邦彥果して反し來り攻む。鼎死を誓て固守す。曰く、吾は守土の吏なり、義、城と共に存亡す可しと。賊入るに及び、土官金燦と堂上に端坐し、賊の爲に殺さる。食事を贈らる。後ち光祿卿を贈られ、世々錦衣千戶を廕せらる。

テイテイ　鄭定　（明）字は孟宣。嘗て陳友定の記室と爲る。友定敗れて海に浮び逃れ去る。洪武間、徵に應じて國子助教に歷官す。

テイテイシン　鄭鼎新　（宋）字は中實。先世、建ノ浦城より僑游に遷る。太學生を以て嘉定十六年の進士に登り晉江縣に知たり。問政を建て論語の政に繫る者十四章を輯めて壁に書し、以て省覽に便ず。又た縣學文宣王廟敬一堂を建て扁するに尊道を以てす。時に直德秀、泉に守たり。頗る之を敬重す。邑民相共に生祠を紫澤宮に立つ。尋て處州に通判たり。朝奉郎に遷る。鼎新少にして業を黃幹の門に受け答問甚詳なり。嘗て禮書を考究して編を成す。名づけて禮學舉要といふ。又た禮學從宜一集を撰す。

テイテキ　程廸　（宋）字は惠吉。開封の人。蔭を以て營州團練使たり。金人永興に寇す。廸、奮鬪、槍を被り、幾たびか絕にて復た蘇り、猶と屬壘叱戰して已まず。遂に之に

死す。詔して明州觀察使を贈り恭愍と謚す。

テイテン　鄭畋　(五代)字は台文。姿采、峙立の如し。唐末、鳳翔節度使となり大に黄巢の兵を破る。上曰く、畋は儒者の勇なるものと。司空平章事に進む。

テイテンシヤク　丁天錫　(宋)赤岸の人。性沈静にして器識あり。讀書勤苦、諸子百家の書、精熟せざるなし。父先づ卒し母獨り堂に在り。奉養至て謹み怡悅志を承く。一日、兵寇其家に入り、母を拘して棄むる所あるに會ふ。母曰く、家貧にして藏蓄なしと。寇、兵を持し母を殺さんとす。天錫身を以て母を衛りて曰く、我が母を傷けんと欲せば盍ぞ我を殺さざる、見る所之を取るに任すと。寇も亦化語して曰く、天、孝子を殺さずと。是に於て母子俱に免かるゝを得たり。

テイド　丁度　(宋)字は公雅。顕の孫。

テイトウタイ　程登泰　(清)字は魯生。浙江山陰の人。尚荊山の弟子。始め王學を宗とし、卒に程朱に歸す。能く師說を發明す。疾亟なるも讀書輟まず。或は之を止む。則ち曰く、死は命のみ、學を以て死するは徒死に愈らずやと。卒する年二十九。

テイトクイウ　丁德裕　(宋)臨洛の人。父勝壻、章義軍節度使たり。德裕、周に仕へて供奉官となり、宋初、内客省に果官す。威都初めて平ぎ群寇大に起る。德祐、四川都巡檢使となり兵を率ゐ討て之を平ぐ。後ち江南に征して帶潤等の州の經畧巡檢使を領す。

テイトクケイ　鄭德珪　(宋)綺四世の孫。弟德璋と孝友天至なり。璋は凡を聯貫、夜は衾を同じうす。德璋、物と多く忤ひ、仇家に陷擠せられて罪死に當る。兄弟死を爭ひ、德珪先づ至りて獄に繫る。德璋骨を負ひて歸葬し墓に廬す。

テイトクゲン　程德玄　(宋)字は禹錫。崇澤の人。醫術を善くす。太宗京兆に尹たり。召して左右に置く。頗る信用す。即位に及んで輸林使に拜す。時に陳洪進來朝す。德玄に命じ迎へて之を勞ほしむ。船、淮を渡る。暴風起る。衆止るを請ふ。德玄曰く、吾れ君命を將ふ、豈に險を避げんやと。酒を以て祓して行く。風浪遽に止む。果遷して代州防禦使たり。

テイトクコウ　丁德興　(明)定遠の人。太祖に遠歸す。屢々矢石を冒し蠻族を勦して定策の功を積み、果擢せられて鳳翔衛指揮使を授けらる。平江の役、軍に卒す。都指揮使を贈る。洪武元年、濟國公を追封し功臣廟に列祀す。子忠龍。

テイドクシチクコウゼンウ　亭獨尸逐侯單子　(漢)南匈奴の主。名は呼子。適の子。師子立て降衆五六百夜之を襲ふ。漢の衛護の士興に戰ふ。斯降十五部相驚動し、十餘萬人皆反畔し、前單于屯屠河の子逢侯を立て單于と爲す。師子漢の將と共に之を伐つ。逢侯遂に衆を率ゐて塞を出づ。師子立て四年にして死す。

テイトクホン　鄭德本　(唐)瀛州刺史たり。治績あり。薛大鼎賈登願と名を齊しうす。故に河北稱して鑑脚刺史と爲す。

テイナンウン　程南雲　(明)清軒と號す。呼江の人。書法に工に、篆隸行楷精妙ならざるなし。又詩を能くす。尤も善く寒梅雪竹を畫く。筆致清麗なり。

テイナンシヨウ　丁南升　(宋)字は文振。潮陽の人。朱熹の門人。篤志力學、尤も心を語孟に潜め、質疑あれば朱熹皆之に答へて詳かなり。又之を稱して曰く文字を看る須らく鄭文振を以て法となせと。又曰く渠今退去して心中却て疑なしと。一時同門の者皆之を尊禮せり。

テイナンセツ　程南節　(唐)休寧の人。漫の子。父を佐け賊を討平す。南節の功多に居り。歷官して銀青光祿大夫檢校左領軍大將軍上騎都尉たり。天祐中疾を以て卒す。

テイハウ　鄭裘　(晉)字は林叔。奉の子。少くして孤なり。識鑒あり。荷攸、之を見て曰く鄭公の業亡びずと。魏に仕へて濟陰の太守に果官す。

テイハウ　鄭放　(唐)玄宗自ら刺史十一人を擧ぶ。放、大僕少卿より出て定州刺史たり。宰相諸王以上に詔して洛濱に祖送せしむ。放官に到り治最たるを以て聞ゆ。

テイハウ　鄭奬　(宋)字は成之。進士に應ず。登下に至る。會々詔し龍心。王元之林を峻ち行くを勤む。寡口く吾老母あり、別れて數百日、素より名を求め親を顧ぼさんと欲す。今詔下る、母必ず程を計へ以て待たん、遲るゝこと一日せば即ち母を紿くなりと。後登第して福州を刺し以て侍養し偶ず。

テイハウ　程洸　(清)字は鶴山。號は畢紡。北平の人。順治乙丑の進士。山水を善くす。老年潦落、布置整厚なり。

テイハウ　丁澎　(清)字は飛濤。茅園と號す。浙江仁和の人。順治十三年の進士、禮部郎中に官す。少にして異才あり、弟景鴻深と共に三丁と稱せらる。同里の陸圻、柴紹炳、毛先舒、孫治、張綱孫、吳百朋、沈謙、虞黃星、陳廷會と共に西冷の十子と稱せらる。後ち宋荔裳、施愚山、張譙明、周釜山、嚴灝亭等の七子と酬唱す。故に又た燕台の七子と稱せらる。著書扶荔堂集あり。

テイハウシン　丁寶臣　(宋)字は元珍。晉陵の人。兄宗臣と俱に文聲あり二丁と號せらる。景祐中、同じく進士に登る。寶臣、秘閣校理に歷官す。英宗、人物を論ずる必ず之を稱せり。尤も歐陽修と友とし善し、修其墓に志す。

テイハウテイ　丁寶楨　(清)字は稷琦。貴州平遠の人。道光廿三年鄉に舉げらる。咸豐の間、進士となり廣西士に改めらる。時に楊龍喜、乱をなし平遠に蔓る。寶楨家を毀ち鄉兵を練り、賊を擊て安平を救ひ、苗匪を勦平す。其後ち岳州を保ち、東撚四撚を平らぐ、中原賴りて以て肅清なり。卒して太子太保を贈り文誠と謚す。

テイハク　鄭伯　(唐)瀟の子。仕へて閬州刺史に至る。

テイパク　程邈　(周)秦人。篆を改め隸とす。今の楷書字是なり。

テイハクイウ　鄭伯熊　(宋)字は景羆。永嘉の人。德行夙に成り、經學尤も邃し。紹興間の進士。果官して龍圖閣知寧國府に至る。卒して文簡と謚す。紹興の末、伊洛の學稍息む。復伯熊に于て之を得。六經口義拾遺韻語若干卷あり。前賢の楷模及び時人の美墓、凡て理道に涉る者は畢く載す。是に由り永嘉の學皆鄭氏を宗とす。

テイハクギヨク　鄭伯玉　(宋)字は寶臣。八歲の時、叔父殿中丞之を試みて曰く、伐木斧斤聞谷口。答へて曰く、過橋旗影映波心と。景祐の進士に登り將侍郎を授けらる。果進して殿中侍御史に至る。人となり峭直にして權貴に屈せず。詩あり三百餘篇、錦囊塢と名く。

テイハクケイ　丁伯桂　(宋)字は元暉。莆田の人。嘉泰中進士に第し宗學官に遷る。事を論ずる抗直にして附麗する所なし。端平中、李宗勉と共に監察御史に遷り、一路に居ること二年、嘉熙中給事中に轉す。卒して遵勝大夫を贈らる。

テイハクエン　鄭伯淵　(宋)號は秋浦。羅源の人。淳祐中、鄉先生たり。邑の貴矜中は其門に出づ。鄉に急あれば暮夜と雖も必ず往き、利害を顧みず。嘗て大旱す、年已に七十餘、躬ら險阻を履み禱清潭に祈る。此の如きと再三。民皆美德に感ず。

テイハツ　聽訣　(上古)舜水氏の女。神異の妃と爲りて帝哀を生む。

テイハン　鄭翻　(隋)字は賴雀。晉陽の人。父紹元、字は安都、齊に仕へ太尉諮議趙郡太守たり。翻、少にして器量あり、交に涉り文章を好む。齊の武平の末、司徒記室參軍に位し、尋て齊王に遇ひ周隋を歷て遂に仕へず。滎陽の三窟山に隱居し、放誕自ら稱束せず、或は之く所あれば驢に騎り弊衣を衣る。遠近其高名を欽し、皆異狀あり と謂ひ觀者堵の如し。其形を見るに及び乃ち甚だ短陋にして聞きし所に副はず。然れども風神俊發にして貴賤を分たず並に之に敬服す。納言楊素、其名を聞き、使して滎陽を過ぐるの因み、迎へて與に相見る。言談、日を彌り深く禮重を加ふ。歸るに及び之を朝廷に言ふ。果徵すれども至らず家に終ふ。

テイハン　程瑨　(宋)豐城に知たり。凡ろ山川の起途、人物の名氏、目の一見する所、耳の暫聞する所、聰明多しと雖も復た忘廢せず。邑を爲むる三年、其民を識るもの且に半ならんとす。

テイヒ　鄭妃　(南北)名は大車。嚴祖の妹。初め魏廣平王妃となる。鄭に遷りて後、神武之を納る。寵後庭に冠たり。馮翊王潤を生む。神武の劉蠡升を征するや、文襄大車を焚す。神武還り、一婢之を背げ二婢護なす。馮翊太妃と號す。

テイヒ　鄭妃　(唐)憲宗の妃。丹陽の人。

或は言ふ本と爾朱氏と。李錡反す。相者あり曰ふ、妃當に天子を生むべしと。錡聞き納れて侍人と爲す。錡誅せらるゝに及び没して掖廷に入り懿安后に侍す。憲宗之を幸して宣宗を生む。孝明皇后と謚す。

テイビイン 丁美音 (明)女子。潯浦の丁正明の女。夏學程の聘を受く。未だ嫁せずして學程死す。父母嫁を勸む。美音指を嚙み自ら誓ふ。官之を旌し、賜ふに銀幣百金を以てす。乃ち室を搆へて獨居す。

テイヒカン 程比干 (唐)廳事と爲る。花磚あり、冬至の後、日影の八磚に及ぶを以て入直の候と爲す。比干性懶なり日遇て磚に入り乃ち至る。八傳學士と號す。

テイヒツ 程玭 (宋)字は懷古。休寧の人。紹興中の進士。昌化主簿を授けらる。果官して權吏部尚書より翰林院學士に拜す。朝に立ち剛正、風裁凜然たり。端明殿學士を以て致仕す。家居して賑恤を好む。所著洛水集あり。

テイヒン 丁賓 (明)字は禮原。嘉善の人。隆慶五年の進士。知縣より御史に進む。萬曆中、南京工部尚書に果進す。光宗即位の初に致仕す。南都に官たる三十年、旱潦に遇ふ毎に輙ち請て振貸し、時に家財を出し之を佐く。太子太保を果加せらる。崇禎六年卒す。年九十一。清惠と謚す。

テイビン 程欣 (南北)程鄉の人。人となり悃愊にして華無し。性書を嗜み樂毅を慕はず。素忠信を以て人に結ぶ。人其行義に服す。不平ある者、官に之かずして威を欣に取る。後人其里を思ひて程鄉と曰ひ、因つて以て縣に名く。(按ずるに程欣と同人なるべし。欣欣、未だ孰れか是なるを知らず)

テイヒン 鄭欣 (明)字は嘉倩。徽州の人。善く山水を畫く。

テイビンセイ 程敏政 (明)字は克勤。休寧の人。神童を以て薦められ、廬饌を給はれて左諭德に官し東宮に直す。弘治の初、權貴に疾まれ讒を以て獄に下さる。既にして釋さるゝを得たり。敏政獄を出て憤悲、癰を發して卒す。

テイフ 程普 (三國)字は德謀。北平土垠の人。初め州郡の吏たり。容貌計畧あり應對を善くす。孫堅に從つて出征す。堅卒して復た孫策に隨ひ、廬江を拔き秣陵を下し皆功あり。遂に吳郡都尉となり、零陵太守に果遷す。策卒して孫權を輔け不服を討平す。官蕪寇將軍に至る。子咨、高侯に封ぜらる。

テイフウ 程富 (唐)休寧の人。靈洗の後。勇力を以て聞ゆ。隋末、鄉兵を起して古城巖に據り、鄉人注華を推して帥と爲す。唐、歙宣抗睦饒睦六州を定有し、稱して王と爲る。富の力居多なり。唐の高祖既に立ち、華六州を奉下て唐に歸す。鄉人兵爽を免る。唐華を封じて越國公と爲し、富を以て司馬と爲し、休寧侯に封ず。鄉人華が全郡の德を追感して廟を立てゝ之を祀り四人を配食す、而して富其一に居り。

テイフウ 丁鳳 (宋)治平の人。蔡州に知たり、法を設けて賑濟し、活くる者六十萬人、籍て兵となりし者數萬。詔して移して亳州を知せしむ。蔡人攀轅號呼す。事聞す復た任に還らしむ。代り去るに及び、城を閉ち橋を斷ち行くを得ざること累日。

テイフク 丁復 (漢)始め趙の將たり、已にして高祖に從ひ關に入り、三秦を破り龍且を討ち、大司馬に拜せらる。項羽を破り將軍に拜し陽都侯に封ぜらる。高祖の即位せしとき符を剖き誓を作り之を金櫃石室に藏む。元功十八人、復は其ゐ十七に居り。

テイフシキ 程不識 (漢)遼郡太守たり。出て胡擊つ。部曲行伍營陳を正し、刁斗を擊ち軍簿を治して明に至る。軍休息を得ず。士卒之を畏る。

テイブンカイ 程文海 (元)字は鉅夫。雪樓と號す。至元間、召見せられ條對期徹なり。帝之れを奇とす。應奉翰林文字を授く。皇慶の初、武宗實錄を修む。三朝に歷事し前後上書して政事の得失を論ずる忌憚なし。致仕して五年家に卒す。年七十餘。泰定の初、楚國公に追封し文憲と謚す。

テイブンキ 程文季 (南北)靈洗の子。字は少卿。幼より騎射を習ふ。幹略多く果決にして父の風あり。弱冠父に從て征討す。必ず先登して陣を陷る。果遷して新安臨海二郡太守たり。父の卒する後其衆を領す。起つて越武將軍たり。大建中、吳明徹に從ひ北齊を伐つ。文季常に先鋒たり。齊軍程

虎と號す。後ち呂梁の役、周に囚はる。逃れて渦陽に至り逸度に執へられ、長安に送られ獄に死す。

テイブンシ 鄭文嗣 (元)婺州浦江の人。其家同居する者十世。庭に間言なし。家に兩馬を畜ふ。一出づれば一之が爲めに食せず。人以て孝義の感ずる所と爲す。

テイブンセン 丁文遷 (明)竹坡と號す。工に山水翎毛を畫く筆力清勁。枯木を寫して頗る精處に至る。

テイブントク 程文德 (明)字は舜數。永康の人。王守仁に從游す。進士に第し翰林編修を授けらる。父殁し墓に廬す。服終り南京國子祭酒に拜す。嘗て上疏する所あり。帝以て諧詢と爲し其名を除す。既に歸り徒を聚め學を講じて卒す。萬曆間、禮部尚書を追贈し文恭と謚す。

テイブンハウ 鄭文寶 (宋)字は仲玉。嘗化の人。太平興國中の進士。工部侍郎に果官す。嘗て縣氏山に題して云ふ、秋陰漠々秋雲輕、縣氏山頭月正明、帝子四飛仙馭逝、不知何處夜吹笙と。又綠野堂に題して云ふ、水曖晃鬟行哺子、溪深桃李鬬開花と。歐陽修、其王鹽詩杜少陵に減ぜざるを稱す。

テイブンハウ 鄭文炳 (清)字は嘉斯。福建蒲田の人。少より志操あり。長じて性命の學を操り、正學論を作り洛閩を以て歸と爲す。父の喪に萬里餞を負うて歸葬す。學廉方正に舉げられしも皆就かず。卒する年八十有六。周易要義等の書を著はす。

テイフラウ 丁普郎 (明)初め陳友諒に從て明師に抗し、勢の窮るに方り來り降る。

テイヘイ 程乘 (三國)字は德樞。太子太傅たり。孫權太子登の爲に周瑜の女を聘す。乘太常に守として妃を迎ふ。權乘の船に幸し深く優禮せらる。既に還る。乘登に說き て曰く、婚姻は人倫の始、王教の基、聖王之を重んじ、以て衆庶に卒先して天下を風化す、願は太子禮教を園房に尊び、周南の所咏を存用せよ。登笑て曰く、其美を將順し、其惡を匡救する、傅君に賴む所なりと。

テイヘイ 帝嵩 (宋)姓は趙氏。名は禹。端宗の弟。南海に即位す。元兵逼る、帝の舟走る能はず。陸秀夫帝を負て海中に投ず。楊太后亦海に赴て死す。張世傑之を海濱に葬り、遂に自ら溺死す。宋亡ぶ。改元一、祥興。

テイヘウ 丁表 (唐)麟德中、於潛令たり。政績あり。邑人德政碑を立つ。

テイホ 丁觸 (宋)成都制置使たり。嘉熙三年、北兵新非より許豎に入る。宋將李顯忠の族、直ちに成都に趨る。觸以爲らく、潰卒なりと、旗を以て榜し之を招く。既にして其非を知り兵を領して夜城南に出て迎へ戰ひ、石筍街に至り兵敗す。觸、力戰して之に死す。

テイホウ 丁卒 (三國)字は承淵。安豐の人。識勇か以て聞ゆ。果りに戰功を立つ。孫權位につき冠軍將軍に拜せられ、大將軍に遷り、徐州の牧を領す。

テイホウ 丁遙 (宋)字は端叔。晉陵の人。進士に舉げらる。金主、其婿、烏林荅天賜を遣はして來らしむ。貴を怙みて驕踞なり。衆憤るも能く折くなし。遙、上書して之を斬らんと乞ふ。孝宗其材氣を嘉みせらる。國子監書庫官に除せられ實錄關待制に終ふ。

テイボウ 鄭脅 (周)鄭女の嬀媯。楚の成王の夫人なり。初成王靈に登りて後宮を臨む。宮人皆傾き觀る。子脅直行して觀ず。王重位厚祿を以て之を誘へども敢て觀ずず。王其故を問ふ。子脅曰く王靈上に在り、觀るは義節に非るなりと。王善しと稱し立てゝ夫人と爲す。子脅廟臣の亂を知り、屢之を官へども王用ひず。因て自殺して以て諫む。

テイボウ 程茂 (南北)休寧の人。齊の元中、鄱州長史たり。會々蕭衍、兵を襄陽に起し路を分けて鄱城を圍む。守將張中と力を協せ拒守し、移書して衍を責めて正義反らしむ。詔して茂を以て都督鄱司二州軍事輔國將軍鄱州刺史と爲す。援絶ゆて城陷る。後、梁の官を受けず。

テイホウキツ 丁達吉 (宋)顗子。

テイボウリン 丁懋孫 (明)鄂北の人。萬曆八年の進士。餘姚縣を知して治績あり。吏科給事中に擢でらる。抗疏して削籍せらる。光宗立て太僕少卿に起ち果遷して工部左侍郎に至る。卒して尚書を贈らる。

テイホウノツマ 鄭表妻 (晉)曹氏。晉國薛人。表先きに孫氏を娶り早く亡す。聘して

繼室と爲す。男結に事へて甚だ孝、紡績の勞を躬らす。麥司空と爲り、其子默も亦朝列に顯はる。曹氏深く盛滿を憚れ、弁進每に輒ち憂へ色に形はる。常に浣濯の衣を服す。獲る所の秩祿は必ず親姻に分給す。初め孫氏黎陽に戍む。麥卒するに及び、曹氏曰く孫氏は元妃、理從葬すべしと。是に於て導從の禮を備へ、親から雁行の禮を行ふ。聞く者歎賞す。大康元年卒す年八十二。

テイホウラン　鄭逢闌　(明)崇禎中　兵部員外郎に歷官す。十七年寄、賊に禽へられ拷死す。福王の時、太僕寺丞を贈る。

テイボク　丁穆　(晉)字は彥遠、黜人。仕て順陽太守なり。符堅、順陽に寇す。戰敗れて執へらる。疾ありと稱して仕へず。後ち堅、國を傾けて南寇す。穆、關中の士と長安を襲はんと謀り、事洩れて害に遭ふ。

テイボク　惠穆　(宋)字は圜中。侯官の人。性醇謹にして動止度あり。進士一擧げられ累官寶文閣待制國子祭酒に至る。神宗嘗て其德行を賞す。年七十にして力辭す。太學生留まるを請へども從はず。

テイボクコク　程穆克　(宋)休寧の人。令說の子。夙に家訓を受け工文に入る。嘗て書を著し禮書の博文を約す。丞相、清之、倉使王伯文、其書に序す。

テイボクヲウ　鄭樸翁　(宋)字は仁宗。平陽人。冠朝太學に入り、咸淳中上舍を賜ふ。稱を聘き福州教授に歷し、轉て國子正に除せらる。宋亡びて後、鄭山湯下に歸隱す。山陰の王英孫、特に賓館に延く。子弟を教授する二十餘年。後、病を以て家に返り卒す。

テイホン　程本　(周)本、剡より反り孔子に詣に遇ひ、蓋を傾けて與に語りて日を終ふ。孔子子路に謂て曰く、東帛を取り以て先生に贈れと。

テイホンコウ　鄭本公　(明)朔州衛の人。正德九年の進士。御史に歷す。上書して儲嗣を擇ぶを請ふ。報ぜられず。已にして世宗立つ。時政事を陳す。帝之を納る。大禮を議するに當り言路も切中す。稍南京太僕少卿に遷る。病を謝して歸る。後詔召すれども赴かずして卒す。

テイマイ　程邁　(宋)字は進道。黜人。仕へて類護剛直學士たり。嘗て使に因り其鄉を過る。民に田を訟ふる者あり、二十年決せず。邁具牘を閱し訟者の年齡幾何と問ふ。曰く六十六。邁曰く爾齒すでに耳順、安んぞ要の財を得て產を買はんやと。訟者歎服す。

テイミツ　丁密　(漢)字は靖公。蒼梧の人。性、清介にして家織の布にあらざれば食はず、衾髮已が耕種せし粟にあらざれば食はず、衾髮の鎖も人に受けず。父の喪に遇ひ墓側に廬す。後ち母の喪に遭ひ復た墓に廬することを三年。

テイメイ　丁明　(宋)金壇の人。門を閉ぢ書を讀むこと二十年、手編年類及び諸史通考等の書百餘卷あり。奉祠して家居す。卒するに及び從に博雅先生と謚す。

テイメイ　程鳴　(清)字は友聲。號は松門。歙人。山水を善くす。苦瓜和尚に學び、乾筆枯墨、遲ちすに中錄を以てし、純ら書法を以て之を成し、渲染を加へず。蒼雅貧す可し。

テイメンシン　程名振　(唐)孫武の兵法を善くす。太宗召し方畧を問ひ其才敏を嘉みし勞して之を勉めしむ。名振失して拜せず。上試に賞怒して其爲す所を見る。名振謝して曰く、粗野の臣未だ嘗て親しく聖問を奉せず、適々方に心に對ふる所を思ふ、故に拜を忘るゝのみと。擧止自若、應對愈明かなり。上曰はく奇士なりと。驍果將軍に拜す。

テイメイホウ　程鳴鳳　(宋)字は朝陽。祁門の人。歷官して德慶府に知たり。將に官に之かんとす。適部內の山猺猖獗なり。或は之を止む。鳴鳳色を正うして曰く天下有事の秋、臣子奮志の日仗馬木鷹は吾爲さんと。至れば則ち之を平ぐ。代に及び建昌軍仙都觀を主管して以て歸る。未だ幾ならずして起て南雄を知す。陛辭に無遇の說を進む。上嘉奬する再三。三年を歷て解組して歸る。

テイモク　鄭默　(漢)字は思元。家を秘書郎に起し、蓋文を考覈して浮穢を刪省す。虞松曰く而今而後朱紫別る。

テイヤク　鄭譯　(隋)滎陽開封の人。字は正義。顧る學識あり、兼て鎔律を知り、騎射を善くす。武帝に仕へて銀青光祿大夫に拜し、左侍上士に轉ず。劉昉と親善なり。

初め譯、高祖と同學の舊あり無て心を傾く。後昉と俱に高祖を奉じて政を輔け稍貴重せらる。陰に昉と謀る所あり。事覺れて戮せらる。譯性輕險、職務を親らせず、職貨狼籍たり。是に由りて高祖の疎忌を遠く。

テイユ　丁瑜　(宋)永嘉の人。世元の孫、昌期の從兄。善を樂み施を好むを以て鄉閭仰ぐ、君子長者の風あり。

テイユショウ　帝由松　(明)第十八世。姓は朱氏。鄭王常洵の子にして神宗の孫なり。李自成京師を陷れて毅宗自殺す。南京の朝臣立てゝ賊を討す。立て一年清兵に擒せらる。改元一、弘光。

テイユラウ　帝由榔　(明)第二十世。姓は朱氏。桂王の子にして神宗の嫡孫。兩廣總督丁魁楚等に立てらる。清兵に追はれて緬甸に逃れ、後捕へられて清に送くらる。明亡ぶ。在位十三年、改元一、永曆。

テイヨケイ　鄭餘慶　(唐)綱の從子。字は居平。貞元中相に拜す。時に綱の第南に在り餘慶の第北に在り。時人、南和相北鄭相と稱せり。

テイラウ　鄭期　(唐)珣瑜の子。字は有融。右拾遺より累遷して起居郎と爲る。文宗宰相と政を議す。適々期が婿頭下に執筆するを見て謂て曰く、向に論ずる所の事亦之を記するか、朕將に之を觀んとす。期曰く臣が能を執て書する所の者は史なりと。帝悅び宰相に謂て曰く、期、故事を援き、朕をして起居注の事を見しめず、善く職を守ると謂ふ可しと。弟潛。

テイラク　鄭洛　(明)字は萬秀。安鄭の人。嘉靖三十五年の進士。推官より御史に擢てらる。殿試の策を極論す。萬曆中、文武に歷官し、戎政尙書に進み少保を贈り襄敏と謚す。

テイラクシヨ　鄭拓書　(明)字は啓範。莆田の人。弱冠にして登第す。上海知縣と爲り善政あり。嘉靖中、御史に擢てらる。權貴と善からずして降黜せらる。時論之に惜く。家居すること二年にして卒す。年三十九。

テイラン　丁蘭　(漢)河內の人。幼にして母を喪ふ。木像を刻して之に事ふること生けるが若し。鄰人張叔、蘭の妻につきて物を借らんと請ふ。妻之を笑して木像に問ふ。木像許さず。張叔、薛ひて木像を詈り杖を以て其首を擊つ。蘭歸り母像の色、懼ばるるを見て之を詢ふ。妻、具さに告ぐ。蘭、怒りて張叔を官擊す。吏至り蘭を捕ふ、木像爲めに泪を垂る。郡其孝を嘉みし之を奏す。詔して其形を圖す。

テイラン　丁覽　(三國)字は季連。淸身立行、財を推して弟に與ふ、齊讓を以て稱せらる。郡功曹に補せられ始平長に遷る。門に雜賓なし。孫權、之を貴重せしも擢用に及ばずして卒す。

テイリクヂヤウ　丁六娘　(隋)女子。詩を善くす。

テイリジユン　鄭履淳　(明)字は叔初。刑部尙書曉の子。嘉靖四十年の進士。刑部主事より尙寶丞に改む。隆慶中、疏して時弊を抉揚し、獄に繫がる。神宗立ちて光祿少卿に起つ。

テイリフチウ　鄭立中　(宋)字は從之。長汀の人。節操にして講略あり。咸和五年の進士。崇安尉たり數々賊を討して勞あり。遂に雄に殉す。特に朝散郎を贈り其子稙を官す。

テイリン　程林　(周)烏巾と俱に美酒を釀すを以て名を得。

テイリン　鄭林　(漢)上郡の大守。

テイリン　鄭輪　(宋)字は景行。德化の人。嘉泰の進士。保昌に尉たり。强盜を獲、嘗て論貸せずして曰く、人命は官に易ふべけんやと。龍南令たり。邑上瘠、山峒鄰す。民舊より輸租せず。一日數十人長鎗を以て錢を挈へて至る。吏驚怪し之を詰る。曰く聞く好官長ありと、願くば王民たらんと。秩、終り民之を遮留す。

テイリン　鄭麟　(明)福清の人。畫を以て名あり。

テイリン　程琳　(清)字は雲來。歙人。居を嘉興に徙す。花草を善くし、尤も水墨牡丹に工なり。

テイリヤウ　鄭良　(宋)德安の人。克く家訓を承け、道を樂みて仕へず。最も地理に精し。其後子孫繁衍して名譜牒に著はるゝ者六千家。

テイリヤウ　鄭梁　(清)字は萬楫。慈溪の

人。高州刺史を授けらる。山水を善くす。暮年右臂不仁、左手を以て畫き、更に別致を饒くす。又詩に工なり。曉行の詩あり、曰ふ、曉出茅簷片月低、依稀鄉國夢中迷、世間何物催人老、半是鷄聲半馬蹄と。呼て鄭曉行とす。

テイリヤウシン　鄭耳色　(宋)福州の人。初め潮に任ず。蓄と白丁鏗館科なる者あり、綿に據り取辨す。遷徙物故ありと雖も爲に除豁せず。公私交々病む。耳臣籍を易へ編を更む、民賴つて以て安し。學を韓山書院に設き以て士を養ふ。

テイリヤウチウ　程耳籌　(明)字は持潤。孝感の人。工部尚書註の子。天啓五年の進士。文選員外郎を歷て選事を掌る。李長庚、推擧の當を失するを用て籍を削らる。耳籌亦吏に下されて戍に遣はさる。久うして乃ち釋され歸る。十六年李自成承天を犯し孝感亦陷る。耳籌白雲山の險峻なるを以て壘を築きて之を守る。賊降を說かしむ。耳籌其書を毀つ。賊怒り之を攻む。相持する四十餘日にして解け去る。十二月進んで德安に薄る。兵敗れ退いて白蓮城を保つ。寨中の人賊に通ず。耳籌遂に執はる。降を說くも屈せず。密室に縊ぐ。明年正月、左良玉將を遣はして德安を攻む。耳籌を擁して外兵を止めしむ。從はず。良籌に逼て偕に行かんとす。從はず。遂に殺さる。太常少卿を贈らる。

テイリコウ　程龍　(明)官副將たり。子王等と太湖の賊を討ち敗れて戰歿す。時に崇禎十年正月なり。後ち贈廕あり。

テイレイエツ　程令說　(宋)字は彥晷。休寧の人。紹興間の進士。饒州鄱陽簿を授く。再調せられて知靜江府理定縣たり。卒す。茅堂詩集あり。

テイレイセン　程靈洗　(南北)字は元滌。新安の人。少より勇を以て聞ゆ。騎射を善くす。陳に仕へ、豫州刺史たり。雲飛將軍と號す。性嚴急、士卒の小罪あるもの必ず軍法を以て之を誅す。就令分明、士卒之を德とす。侯景の亂、惟歙州のみ全を保てるは皆靈洗の力なり。梁元帝授くるに本郡太守を以てす。都督に歷す。鎭西將軍を贈り忠壯と謚す。子文季。

テイレイキ　丁令威　(漢)遼東の人。道を靈虛山に學ぶ。後ち化して鶴となり遼に歸り華表柱に集り云ふ、有鳥有鳥丁令威、去家千年今始歸、城郭如故人民非、何不學仙塚累々と。

テイレン　鄭連　(宋)字は玉甫。番禺の人。少にして才名あり。門を杜ぢ讀書することなること山谷に坐するが如し。經學を講明す。遠近之に從ひ學ぶもの屢を外に羅ぬ。元豐二年時彥に登り進士に第し、始めて融州の司戶を授けらる。識視し民聚りて盜なを立て、賑濟し爲めに安きを得たり。監史功績を以て朝庭に薦む。宣教郎に移り尋で大府丞に拜し繫て雜庫に知たり。朝議郎に改め銀魚を賜ふ。

テイレン　鄭源　(明)字は仲德。福江の人。其家累世同居すること幾ど三百年。源、知を太祖に受け、昆弟是より顧はる。賦長を以て京師に詣る。太祖、治家長久の道を問ふ。對て曰く、謹て祖訓を守りて婦言を聽かずと。帝善と稱して家人に分つ。帝開て嘉歎し、官にせんと欲せしも、老を以て辭す。時に胡惟庸、罪を以て誅せらる、これ源氏の交通によると訴ふる者あり。吏捕ふ。兄弟六人爭て行かんとす。弟湜寬に往く。源曰く、吾長に居る、罪に任ずべし。湜曰く、兄年老ゆ、吾自ら往きて辨ぜんと。二人爭うて獄に入る。太祖見て之を宥す。十九年源事に坐して遠に當る。從弟洧代て斬らる。

テイレンフ　丁蹀夫　(宋)丁昌期の孫下を見よ。

テイロ　鄭露　(隋)字は思曳。其先は滎陽より出つ。江を過ぎ閩に入る。遠祖昭皆て興の莆口を過ぎ其風土を愛せり。因て祖の墳を南山に遷して葬る。陳の時莆猶ほ未だ爲たらずして人學を知らず。露其弟莊叔と福より永泰に之き徒りて墓側に居り、ふた勝を携へ書堂を構へ以て儒業を修む。後ち夢により乃ち所居を捨て金仙觀となす。別に小書室を架し以て自ら居る。露、學を倡へてより後ち莆人始めて學に興れり、號して湖南の二先生といふ。鄭氏家譜を案ずるに

ずを稱して隋の太府卿莊中郎將淑の則翼と稱せり。

テイワウ　定王　(周)周第二十一世。姬姓。名は瑜。頃王の子。匡王に嗣ぐ。楚莊王陸渾の戎を伐つや洛に次り人をして九鼎の輕重を問はしむ。王孫滿辭を設けて之を退く。在位二十一年。

テイワウ　貞王　(周)周第二十八世。姬姓。名は介。元王の子。在位二十八年。

テイワウ　貞王　(漢)濟北王。姓は劉。名は勃。淮南厲王の子。文帝厲王の死を悲み其子三人を分封す。勃め廬江に王たり。孫賞に至り亂行あり廢せられて國除す。

テイワウ　貞王　(漢)千乘王。姓は劉。名は伉。章帝の子。後國名を樂安と改む。孫孝王鴻勃海に徙さる。鴻の子は質帝なり。桓帝の子懷勃海王と爲り祀を奉ず。罪あり國除かる。

テイワウ　定王　(漢)長沙王。姓は劉。名は發。景帝の子。其後鴈王旦に至り絕つ。元帝又旦の弟孝王宗を立つ。其子魯人王莽の時に絕つ。世祖光武帝は定王の後なり。

テイヰカウ　鄭爲虹　(明)字は天玉。江都の人。崇禎十六年の進士。知縣たり。唐王の時、御史に改む。順治三年八月、浦城の役死す。年二十五。

テイヰクワン　鄭維桓　(明)恭谿の人。永樂十三年の進士。出て交趾南清州を知して聲あり。官に卒す。

テイヰシヤウ　程維象　(宋)婺源の人。占筭を以て天下に游び、百ふ、人の貴賤禍福皆驗め定まると。自ら三靈山人と號す。英宗淳熙に在りしとき、惟象嘗て人に語り曰く、後太平たらんと。眞宗即位の後、賜ふに御書を以てす。

テイヰツセウ　帝軍劍　(明)第十九世。姓は朱氏。太祖の後裔。福王清兵に擒にせられて明の遺臣等之を立つ。立て一年清兵に殺さる。改元一。隆武。

テイキン　程筠　(宋)字は德林。節の弟。嘉祐の進士。縣令を授けらる。時に新法方に行はる。筠其不便を條す。神宗爲に容を改む。陳留を知す。筠田賦を均し、徭役を平にし、權貴を避けず。戚里之を訴ふ。太后曰く筠は廉吏、晉其政を挽む可けんやと。戶部侍中に擢でられ直州を知す。

テイキンゲン　丁允元　(宋)字は叔仲。常州の人。淳熙中、忠諫を以て謫せられて潮に守たり。韓江の西岸、石州に四架を增置し、梁を以て屋を其上に爲る。民之を懷ひ丁公橋と名づく。田租三百六十五石を學に撥し。以て士を贍す。名宦祠に祀らる。

テイキンタン　鄭允端　(元)女子。吳門施伯仁の妻なり。幼にして穎慧、詩書に工なり。夫性村愚不諧。端因て詩を作つて自ら遣る。

テイキラウ　程渭老　(宋)字は少呂。歙人。祖恩を以て補官す。至る所清廉を以て聞ゆ。嘗て司馬溫公の祭儀跪拜獻興の節に倣ふ。未だ始めより俗に徇はず。貧乏にして婚姻する能はざる者は宜に隨ひ賙給す。富貴中に生長して能く身を立て物に接し寒素を異にせず。書翰清勁、自ら一家を成す。

テイヱイ　程箭　(晉)字は長立。曲周の人。劉毅北名を聞き辟し都官從事とす。毅奏す、中護軍羊琇は法を犯し死に當ると。武帝琇と舊あり、人を遣はし殺に喩さしむ。箭、色を正して以て不可とし、馳て護軍營に入り琇を收へ吏に屬して、琇の犯す所を考問し、然る後に奏言す。毅是に由り名遠邇に振ふ。

テイヱンシ　程寬師　(唐)宋州の人。母病む。十旬帶を解かず。藥嘗ざれば進めず。母終、土を負ひ墳を築き廬爐す。

テイヱンノツマ　鄭垣娶　(明)閩人。鄭氏。風教錄を著す。

テイヲン　鄭溫　(元)眞定靈壽の人。南征して功あり。李壇叛く。力戰して之を破り上賞を受く。江淮參政に累遷す。杭民饑う、米二十萬石を糴す。爲に全活する者甚だ衆し。又屯田を立て便を謀る。卒する年八十一。

テウアイジ　趙哇兒　(元)女子。太寧の人。年二十夫歿す。命じて巨棺を製せしめ、自經して死す。家人同棺に斂す。

テウアウ　趙浹　(周)簡子と號す。周舍簡子の門に立つこと三日夜。簡子之に問て曰く、夫子將に何を以て我に令せん。周舍曰く願くは謇々の臣と爲り、能を操て君の後に從ひ、君の過ちを書せむと。簡子興に感り。

幾何なくして命死す。簡子諸大夫と飲む。酒酣にして簡子泣て謂て曰く、百羊之皮、不如一狐之腋、衆人之唯々、不如一士之諤々、舍死してより後吾れ吾が過ちを聞かずと。

テウアン 趙安 (明)狄道の人。永樂中、都指揮同知に擢でらる。正統元年、都督同知に進み、右副總兵官に充つ。會川伯に封ぜらる。九年十二月卒す。子英。

テウイ 刁彝 (晉)字は大倫。渤海饒安の人。恪の子。少にして家難に遇ふ。王敦誅せらるゝの後、彝、讐人の黨を斬り首を以て父の墓を祭り、自ら廷尉に詣りて罪を請ふ。朝廷之を宥す。是に由りて名を知らる。徐兗州刺史に歷官す。子逵、廣州刺史たり。暢、冀州刺史たり。弘、始興の相たり。

テウイ 趙彝 (明)虹人。洪武の時、燕山右衛百戶たり。北征して功あり。都指揮使に歷遷し、忻城伯に封ぜらる。宣德の初め卒す。子榮。

テウイウ 趙雄 (宋)字は温叔。寶州の人。隆興の初、省事第一に類し、正字に除ぜらる。召見ぜられ恢復を極論す。孝宗大に喜び曰く、功名卿と之を共にせむと。譽て中書舍人を以て金に使ひし金主と爭辯す。金人之を龍門と云ふ。淳熙中參知政事に累官し右丞相に拜す。朱熹時事を極論す。上怒る。雄冒ふ熹は狂生なりと。其名を除して乃ち止む。光宗の初、又上書萬言身を修め家を齊へ以て朝廷を正すの道を陳す。卒して文定と謚す。

テウイウ 謂佑 (明)字は汝翼。婺流の人。弘治十二年の進士。寶昌縣より御史に擢でらる。正德元年正月災異あり、言を求む。佑上言して時弊を極論す。帝之を喜す。又中官の專横を疏す。已にして劉瑾の厄に遭ひて罷む。瑾の敗るゝ後、起つて山西僉事に卒す。

テイウ 趙佑 (清)字は啓人。鹿泉と號す。仁和の人。乾隆十七年の進士。編修官より左都御史に至る。屢々文衡を典し品藻に工みなり。學者奉して北斗泰山と爲す。著に清獻堂集あり。

テウイウケツ 趙雄傑 (五代)氐酋。周の時に新潼知三州の民を煽動し。徒二萬餘へか集め、鄧膳之應じて一時猖獗を極む。已にして勦誅ぜらる。

テウイク 趙昱 (隋)嘉州刺史。時に老蛟ありて害を爲す。昱千人を率ゐ江に臨み鼓譟し、自ら刀を持ち水に入る。頃らく有り江水盡く赤し。昱蛟を執へ波を奮ひて出づ。唐太宗神勇大將軍に拜し、灌江口に廟祀す。

テウイツ 趙堂 (漢)字は元叔。漢陽[illegible]縣の人。侍み驕傲。鄉里の爲めに容れられず。窮鳥賦を作り以て自道る。成州に客遊す。計吏敗亡皆廷下に拜伏す。堂獨り長揖す。遂之れを讓めしむ。堂曰く昔鄭食其漢王に見揖す、今三公に揖す、何ぞ遽かに怪しむやと。遂即ち下り其手を執り延いて上座に置き、顧みて坐客に謂て曰く、此れ漢陽の趙元叔なり、朝士これに過ぐる者無しと。既に出て河南尹羊陟に至る。見るを得ず因て堂に上り壁を擊げて大に哭す。門下皆驚く。陟其常人に非ざるを知り、遂に出て與に語り、大に之れを奇とす。明旦道訪の時、諸計吏皆盛飾騎從す。堂獨柴車蓬宿。陟に欺し車下に坐す。陟曰く瓦璞も剖かざれば、必ず泣血以て相明す者ありと。遂に賓遂と共にこれを薦む。名大に震ふ。未だ幾ほくならずして四に還る。十たび公府に辟されて皆就かず。家に終ふ。著はす所賦頌箴誄書論及び雜文十六篇あり。長安巨室宗連長、妻すに季女を以てす。裝資鉅萬遂に富人と爲る。

テウイツ 趙逸 (南北)字は思群、天水の人。學を好む。學成りて姚に仕へ中書侍郎を與へらる。後ち魏に歸して著作郎に拜し中書を歷。性壞典を好み白首孜々勤む。年七十を輸えて手筆を釋てず。著す所、詩賦頌五十餘篇あり。

テウイフ 趙以夫 (宋)字は用文。長樂の人。端平の初、漳州に知たり。始めて車を下る、鄙寇猝かに至る。諸道の兵皆郡に會し調度繁く起る。之に應ずる裕なること平生の如し。其揮帥を擒にし以て獻じ、吏士に勞賜する費は千萬を以てす。民獻を加へず。是より先き漳民丁錢に苦しむ。以大奏して廢寺の租を以て民に代り之を輸す。安撫眞德秀聞て節を擊ち朝に上て曰く、漳州此擧、分符して土を守る者の法と爲すべし

と。詔して其奏を可す。

テウイン 趙隣 (南北)字は彥深。平原の人。性聰敏にして書記を善くし、間に安んじ道を樂み交游を雜へず。魏に仕へて丞相功曹參軍と爲り、專ら機密を掌り文翰多く其手に出づ。時人稱して敏給と爲す。累遷して司徒に至る。

テウウ 趙萬 (漢)楊州の人。武帝の時、刀筆の吏を以て勞を積み、遷て侍御と爲り中大夫に至る。張湯と律令を論定す。禹、人と爲り廉清、吏と爲りて以來、舍に食客無し、公卿相造請するに終に報謝を行はず。務めて請託を絕つに在り。孤立して意を行ふ。後ち少府九卿と爲る毒を以て卒す。

テウウン 趙雲 (三國)字は子龍。眞定の人。漢の昭烈、曹操に追はれ、妻子を棄てゝ南走す。時に雲、騎將と爲り、保護して皆難を免るゝを得たり。翊軍將軍に累遷し永昌侯に封ぜらる。五虎の將、雲其一に居り、虎威將軍と號す。先主嘗て曰く、子龍一身都べて是れ膽と。年八十餘、蜀に卒す。

テウウンガン 趙雲巖 (元)溫州の人。華亭の育龍鎭に寓す。善く花鳥を畫く。設色法あり、濃艷を以て工となさず、而して清妍生動を以て貴しとなす。一時の名手皆則ち取る。

テウエイ 趙瑩 (五代)字は玄暉。華州華陰縣の人。初め梁の將康延孝に事ふ。人と爲り純厚柔靡。晉高祖に愛ぜられ、中書令に累拜す。高祖死して契丹晉を滅す、瑩出帝に北邊に從ふ。周太祖、契丹と好を通ずるに及び、瑩病で將に卒せんとす、尸を以て故鄉に還さんことを乞ふ。契丹之を許す。太祖之を憐み太傅を贈り華陰に葬る。

テウエイ 趙永 (明)字は爾錫。臨淮の人。弘治十五年の進士。編修より南京禮部侍郎に累進す。乞て致仕して去る。

テウエイ 趙榮 (明)字は孟仁。其先は四域の人。元の時、中國に入り閩縣に家す。正統中、太常少卿に擢でらる。景泰天順の交、工部尙書に進み、大理寺卿を兼ね。疾を乞ひ歸り、成化十一年卒す。賜卹制の如し。

テウエイシ 晁詠之 (宋)字は之道。端彥の子。少にして異才あり。蘇東坡楊州に在る時、詠之の兄補之、倅たり。詠之の詩を以て東坡に獻ず。東坡之を稱す。後、東坡に謁す、東坡之を上坐に挽きて、客に謂て曰く、此れ奇士也と。後、宏詞第一に擧げらる。元符の末、黨籍を以て廢斥せらる。詠之天資英特、文章を爲る立ろに成る。明潤密緻、官、左中大夫に終る。子四人、公道、公昂、公逸、公肯。

テウエキ 趙益 (金)戰功あり。太原同知府事兼招撫使に擢でらる。元光元年城破れ自ら縊死す。

テウエキ 趙奕 (元)字は仲光。孟頫の子。隱居して仕へず。眞行草書に工みなり。其合作のものは孟頫の亂を亂るといふ。

テウエツシ 晁說之 (宋)字は以道。迥の玄孫。端彥の子。意六經例に刻す。司馬文正を慕ひて自ら景迂と號す。進士に登る。年未だ三十ならず。蘇子瞻これを朝に薦む。元符中、黨籍に入りて放斥せらる。後、徽猷閣待制に終る。說之博く群籍、極め六經に通じ尤も易傳に精し。また畫を善くす。著す所、客語等の書あり。世に行はる。

テウエフ 趙曄 (漢)字は長君。山陰の人。少くして嘗て縣吏と爲り、檄を擧じて、督郵を迎ふ。曄其後に馳するを恥ぢ、則ち車馬を棄て、健爲諸社に到り請て韓詩を受く。寬に其術を究め、二十年間、門を絕ちて還らず。家爲めに喪を發し服を制す。樂を終へ乃ち州に歸る。召して從事に補す、就かず。後ち有道に擧げられ、家に卒す。著はす所、吳越春秋、詩細歷神淵あり。

テウエン 趙瑗 (南北)字は叔起。天水の人。父溫、仇池に卒し、惟だ母存す。幼にして武氏の亂に遭ひ、乳母に負かれて蕃巷に奔る。年十四にして乃ち歸る。孝心色養、飪熟の際必ず親ら之を調す。兗州司馬と爲る。瑗四十年を積んで、二親を葬るを得ず。蒸嘗に及び拜獻するに、未だ嘗て哀慕せずんばあらず、壞菜を絕ち諸饌味を斷ち、蔘を食ふ而已。世に孝子と稱す。

テウエンジュ 趙延壽 (遼)德鈞の子。遼に降りて南京留守と爲り山南の事を總ぶ。晉人盟に背く。帝親征す。延壽、先鋒と爲りて貝州を降す。後ち再び晉を伐つ。延壽力戰して歷々之を敗る。晉滅びて太宗汴に

入り、廣政殿に御して朝を視る。延壽に紹蟬冠を給し、中京留守大丞相に進む。軍還りて臨洛の上に至る。非色の荒殘せるを視る。太宗曰く、中國此の若きを致すは皆延壽の罪なりと。世宗の時、翊戴の功を以て樞密使に任ずる。天祿二年卒す。

テウオク 趙億 (晉)南陽督護に任ぜられ、宛城に據る。海四公の太和元年、背きて燕に降る。

テウカ 趙可 (金)字は獻之。博學高才、卓犖不羈。貞元二年登第。仕へて翰林直學士に至る。一時の詔誥、其の手に出づ。歌詩樂府尤も工なり。玉峯山人集の著あり。

テウカイ 趙戒 (漢)南陽太守。豪傑を糾め吏民を率ゐ。奏して中官子弟の令長と爲りて貪濁なるを者を免す。

テウカイ 趙楷 (宋)徽宗の子。高密郡王より嘉王に進む。母の觀を以て太傅に超拜せらる。欽宗の朝に風翔彰德軍を鎮す。諸王と皆北遷す。

テウガイ 趙愷 (宋)孝宗の子。雄武軍節度使、開府儀同三司に拜せられ慶王に封ぜらる。兄莊文薨す。次を以て皇太子に位すべし。帝其禍氣の薄きを見、次を越ゑて光宗を立つ。性寬惠、上皇に愛せらる。淳熙の初め薨ず。年三十五。淮西節度使徐楊二州牧を贈り惠愍と謚す。

テウガイ 趙崇 (宋)字は叔平。虞城の人。少にして篤學自ら力む。器識宏遠、進士に中る。仁宗の時、樞密使參知政事に累官し太子太師を以て致仕す。退居十五年、嘗て諫林百二十卷を爲り之を上る。仁宗詔して之を褒す。卒する年八十八。康靖と謚す。

テウカウ 趙孝 (漢)字は長平。沛國蘄の人。時に兵荒あり人相食む。弟禮、餓賊の爲めに得らる。孝これを聞き、即ち賊に詣りて曰く、禮獲せて孝の肥えたるに如かずと。賊驚異し並びに放ちて鄉に還す。顯宗其行を聞き、諫議大夫に拜す。孝、父田禾將軍なるを以て任ぜられて郎と爲る。告歸する每に白衣步擔す。嘗て長安より還り郵亭に止まらむと欲す。亭長、孝の過ぐべきを聞き、灑掃してこれを待つ。孝既に到る。長、內るゝを肯ぜず。因て問て曰く、田禾將軍の子何れの時到るとか。孝曰く、尋で到らんと。後ち諫議を以て衛尉に遷り、弟禮は御史中丞と爲る。十日に一たび衛尉府に就く。大官供具を送り、相對して歡を盡さしむ。

テウカウ 趙翊 (唐)安州の人。天水に居り。母殁して墓に廬し、血を刺し以て佛書を寫す。父殁するに及びて益々毀瘠す。翊卒す。子光遠、毀瘠其父の如し。詔して其門墓に表す。

テウカウ 趙顯 (宋)字は仲明。英宗の子。和州防禦使に拜し、安樂郡公に封ず。神宗即位して岐王に進封す。嘗て上に王安石の奸を言ふ。上悅ばず。元祐の初、弟を賜ひ、榜して親賢と曰ふ。宣仁后崩ず。官を解きて服を行はむと請ふ。許さず。薨ずる年四十七。尙書令兼中書揚荊冀三州牧を贈り、謚して榮と曰ふ。永厚陵に陪葬す。

テウカウトク 趙紆德 (明)字は秉彝。汝陽の人。安慶知府より入つて巨部侍郎たり。累遷して尙書に進み、吏部に改めらる。太祖、其典銓平らかなるを嘉す。陝四參政に終ふ。子殺。

テウカウハツ 趙昂發 (宋)池州判と爲る。元兵城を攻め、城將さに下らむとす。要に語つて曰く、吾れ義、死を効すべし、汝將さに安くに出でむとするかと。要曰く、君忠臣と爲る、我れ獨り忠臣の婦と爲らざらんやと。俱に自縊して死す。

テウカウフ 趙伉夫 (宋)字は邁道。鬱川の人。開禧乙丑、上高に知たり、內寇にして外獲、政、憲恕を尙び橫歛に忍びず。民之を懷愛し、目して趙佛子と爲す。年を踰えて政成り事簡なり。入て樞密都承旨と爲る。

テウカウフ 趙孝婦 (元)德安酈城の人。姑死す。子を襲ぎて棺を買ふ。南鄰火起る。孝婦泣て天に叫ぶ。風轉して免かるゝを得たり。

テウカフトク 趙合德 (漢)趙飛燕の妹。成帝の宮人。

テウカン 刁間 (周)史記貨殖傳に云ふ、齊俗、奴虜を賤む、而して刁間獨り之を愛貴す、樂豁の奴は人の愚なる所、唯だ刁間

收め取り之をして漁擄商賈の利を逐はしめ、終に其力を得て富を起すと數千万と。

テウカン 趙瑊 (宋)字は希中。晉江の人。天聖中進士に第し撫州に通判たり。疑獄を讞て免かるゝを獲るもの頗多し。歸州に知たり。州に淫祠あり、巴王と曰ふ。歲に多く人を殺して祭る。瑊、祠を毀ち像を江に投ず。州東三十里に灘あり、前後溺載勝て數ふ可からず。瑊利害を條奏し力めて疏鑿を請ひ、廬を給し役を視る。既に成る。人號して趙江と曰ふ。廬する所に就て祭る。三司戶部判官を歷て出でゝ明州に知たり。官に卒す。

テウカン 刁衍 (宋)字は元實。昇州の人。父彥能、南唐に仕へて昭武軍節度と爲る。衍、秘書郎と爲り、李煜に從うて宋に歸し、太常太祝を授けらる。出でゝ桐廬縣に知たり。詔に應して事を言ふ。殿中丞に累遷し、婺光廬湖州を歷知す。衍、唐に在るや、家富み服飮侈靡を極む。宋に歸して純淡寡雅を以て名を知らる。子湛、湜、渭及び湛の子釋、約、俱に進士に登る。

テウカン 趙鑑 (金)字は擇善。濟南草丘の人。宋の建炎二年登第す。諸官を歷て大定中鎭四軍節度使に遷り河北四路轉運使に改められ致仕して卒す。

テウカン 趙漢 (明)字は鴻達。平湖の人。正德六年の進士。建昌推官より南京戶兵二科給事中に歷す。嘉靖中、大禮を爭ひて廷杖せらる。官に出入するもの三たび、山四右參政を以て致仕す。子伊。

テウガン 趙巖 (五代)壁の子。梁の末帝に仕へて頗る專橫なり。梁太祖の女長樂公主に尙す。唐の駙馬杜悰が位將相に至り自ら奉ずること甚だ豐なるを聞きて其の及ばざるを耻ち、乃ち天下の良田大宅を占め商族を切刻す。其門、市の如し。租庸のもの半ば其私に入る。一飮食必ず萬錢を費す。唐莊宗の兵、汴に入る。末帝自殺し、巖は許州の溫韜に投ず。韜其の首を斬りて莊宗に投ず。

テウキ 銚期 (漢)潁川の人。父猛、桂陽太守と爲りて卒す。期、喪三年、鄉里之を稱す。期、容貌絕異、矜嚴にして威あり。光武、地を潁川に略し、召して椽に署す。後、鄧禹の裨將と爲り、至る所功あり、安成侯に封ぜられ、後、衛尉に拜せらる。期、信義を重んじ、將と爲りてより降下する所あれども未だ嘗て虜掠せず。朝に在りて國を憂ひ民を憂ひ、能く顏を犯して諫諍す。雲臺二十八將、期は其一人也。卒して忠侯と謚す。子二人、丹、純、俱に侯に封ぜらる。

テウキ 趙熹 (漢)字は伯陽。宛人。從兄の爲に殺さる。熹年十五、之れを報ずるを思ひ兵を挾み以て往く。仇家皆病む。熹曰く、病ゝ因て人を殺すは仁者に非ずと。乃ち出つ。光武の召に赴き、郡刺史に累遷す。擊あり。帝嘗て內戚諸夫人を延集す。各々前みて言ふ、熹は長者、往きて赤眉に遭て長安を出づる、皆熹に仗りて濟活すと。帝即ち引見して曰く、卿は但だ英雄ゝ保せらるゝのみに非ず、婦人亦た且つ恩に懷つくと。大尉に拜し關內侯に封ず。

テウキ 趙岐 (漢)長陵の人。少にして經史に明かに才藝あり。嘗て兄弟と罪を中常侍唐衡に得て禍を北海に避く。唐死して乃ち出つ。徵されて議郎に拜せらる。嘗て孟子章句及び三輔決錄を著はす。後ち荊州に居りて卒す。

テウキ 趙憂 (漢)武帝の時、文安縣令たり。吳政多し。縣大旱に値ふ。乃ち自ら焚死す。縣人感嘉し、爲に祠を立つ。

テウキ 刁逵 (晉)逵の子。

テウキ 趙貴 (南北)字は元貴。天水南安の人。人と爲り節概あり。魏の孝昌中、葛榮に從つて賊を擊ち、功を以て累進して鎭北將軍光祿大夫に至る。周の孝閔帝即位するに及び、太傅大冢宰に遷り楚國公に封ぜらる。後晉公護と叛を謀りて誅せらる。

テウキ 趙軌 (隋)洛陽の人。父蕭、後魏の廷尉卿たり。軌少うして學を好み行檢あり。後周の蔡王、引きて記室と爲す。隋初、齊州別駕に轉ず能名あり。徵されて京師に入り、牛弘と同じく律令格式を撰定す。齊州の父老これを送て曰く、公淸なる水の如し、一杯の水を酌みて奉饋すと。軌受けて之を飮む。壽州總管に累官す。岐陵三十六門を開き田五千餘頃に灌ぐ。人其利に賴る。

テウキ 趙杞 (宋)徽宗の子。四節度使、檢校大尉を歷て、開府儀同三司を加へらる。

日に帝の左右に侍す。京城陷る時、髮髻盡く白し。

テウキ　趙愔　(宋)孝宗の子。乾道の初に立ちて皇太子と爲る。尋て病む。上爲めに天下に赦す。薨する年二十四。謚して莊文と曰ふ。

テウキ　趙逵　(宋)字は莊叔。秦州の人。紹興中對策、旨に當りて第一に擢でらる。獨り秦檜の意に忤ひて外に補せらる。帝、逵の安くに在るを問ふ。校書郎に除せらる。逵、單車、闕に赴く。關吏檜に迎合して逵の藁中を搜るに僅に書籍のみ。檜卒するに比ひ、起居郎に遷る。帝曰く、卿これを知る乎、始終皆朕自ら擢んづ、檜一語卿に及ばず、眞に天子の門生也と

テウキ　趙葵　(宋)字は南仲、父方、寧宗の時、荊湖制置使たり。葵、警報を聞く毎に諸將と偕に出で、敵に遇へば輒ち深入す。諸將惟だ制置の子を失ふを恐れ、死を盡して之を救ふ。此れを以て捷を獲たり。一日方行きて軍士を犒賞す。軍士其溺きを憤る。葵時に年十三、亟かに呼んで曰く、出れ朝廷の賜なり、本司則に賞賚ありと。軍士遂に定まる。人其機警に服す。後ち相に拜す。屢々奇功を立つ。朝廷賴て以て重きを爲すもの二十年。卒して忠靖と謚す。

テウキ　趙淇　(元)渾州の人。宋の趙葵の仲子。平野と號し、又太初道人と號す。又訒齋翁と稱す。工みに墨竹を寫す。長竿勁節風致高間なり。

テウキ　趙煇　(明)字は黃如。河津の人。崇禎七年の進士。兵備副使たり。清兵霸州に入る。士民を督して固く拒む。援軍至らず、破れて自盡す。光祿卿を贈らる。

テウキエキ　趙希懌　(宋)字は伯和。太祖八世の孫。孝宗の時、進士の第に登る。趙汝騤、鶴鑑に帥たり。希懌、屬吏と爲る。嘗て言ふ、人を治むるは身を修むるが如く、政を治むるは家を理むるが如し。古今の官、惠愛を著はす者を取り、輔めて一編を爲して曰く、是れ吾が師なりと。汝愚之れを嘉みす。太平府に知たり。民の利病を知り、政を爲す聲譽あり。昭信軍節度使開府儀同三司に累遷す。致仕して卒す。年五十八。少保を贈り。成國公に封ず。

テウキキ　趙希洎　(宋)宜春に居り、廣東轉運使を領す。文天祥に薦に從ふ。兵敗れて囚へらる。遂に食せずして死す。

テウキクワウ　趙希瓌　(清)字は渭川。長寧の人。乾隆己亥の舉人。書を羅浮山に讀み、烟雲を呼吸し肌骨を灑滌す。詩絕えて塵俗の氣無し。

テウキクワン　趙希錧　(宋)字は君錫。幼名は希茁。燕王の後、汀州司戶參軍に除せらる。嶺寇起る。即ち除に據り伏を設けて之を敗る。餘黨引き遁る。理宗其賢を愛し、賜予甚だ渥し。節度使に陞り信安郡公に封ぜらる。卒して信安郡王に追封す。

テウキケン　趙僑謙　(明)字は古則。名を謙と改む。餘姚の人。幼にして孤貧、山寺に寄食す。六經百氏の學を究む。時に考古先生と稱す。洪武間、瓊山縣學教諭と爲る。後、番禺に卒す。

テウキケン　趙希乾　(清)字は仲易。江西南豐の人。少にして孤、母病み危きに垂んとす。往て市に卜す。占者見て嘆して曰く、危し、心を剖かば其れ救ふ可きかと。希乾歸り、心を割きて藥に和し以て進む。母病遂に瘳ゆ。希乾神醫に遇ひ調治す。亦愈無き を得たり。同時に闕孝子あり。亦心を割き以て親の病を療す。

テウキゲン　趙希言　(宋)字は若訥。衢州司戶參軍に課ぜらる。歲旱蝗、卒を闕りて之を補く。湖決す。爲に堤を築く。卒する年六十一。資政殿大學士を贈り越國公に封じ忠憲と謚す。

テウキセイ　趙熙正　(唐)開元の末、晉江縣令と爲る。晉江を開き、溝を鑿ち舟楫を通じ城下に至る。民之を德とす。

テウキツウ　趙季通　(明)字は師道。天台の人。教官より知永豐龍溪に歷し、太祖實錄を修するに預る。累進して司業たり。出て趙王府左長史となり、董子莊と同心輔導す。藩府の賢僚、首として趙董を稱すと云。

テウキツシ　趙吉士　(清)字は天羽。安徽休寧の人。康熙七年の舉人。山西交城縣に選ぜらる。縣北に交山あり、巖谷阻邃、綿延入百里。向きに盜賊の藪淵と爲り、歷々民患を爲す。公、保甲を創め義勇を設け、計を設けて賊酋數人を斬る。患遂に平らぐ。卒して名宦祠に祀らる。

テウギフ　趙旅嬉　(元)濟南鄒平の人。年十八、伍に歸く。伍、疏寧州に戍して卒す。嬉徒步四十里を喪に奔る。夫の葬地を問ふに識わず。忽ち童子あり、指示す。發きて骨を得、視して曰く、爾信に妾の夫なりは口に入り氷雪の如くなるべしと。已にして果して然り。詔して之を旌す。

テウキン　趙顥　(宋)英宗の子。初名は仲植。嘉王に進封す。性端重明粹、博く群書に通ず。頗る圖書を好み、且つ藥を儲へ以て病者を救ふ。荊南節度使を以て太尉と爲り薨ず年三十三。大師尚書令荊徐二州牧を贈り端獻と謚す。

テウキン　趙錦　(明)字は元樸。餘姚の人。嘉靖一十三年の進士。知縣より南京御史に擢でらる。嚴嵩を極彈し、爲に斥けられて民となる。穆宗立ち、故官に起ちて太常少卿に擢でらる。未だ上ちず、光祿卿に進む。穆宗神宗に歷仕し、刑部尚書の官に卒す。年七十六。太子太保を贈り端肅と謚す。

テウキンエン　趙今燕　(明)名妓。秦淮の人。雅より才情を負ひ妄りに交接せず。詩書を寫み自ら書樓を著す。每に風塵の感を抱く。知る者之を憐む。

テウキヤウイン　趙匡胤　(宋)太祖皇帝を見よ。

テウキヤウメイ　趙匡明　(五代)秦州の人。唐末、梁の太祖に事ふ。兄匡凝の故を以て梁詔に抗し、遂に遁れて蜀に入る。

テウキヤウギヨウ　趙匡凝　(五代)秦州の人。字は光儀。人と爲り氣銳甚だ偉なり。父の沒後、自立す。嘗て李克用の請を容れ、道を楊行密に假す。太祖怒り、來り攻むると急なり。乃ち亡げて行密に投ず。弟匡明。

テウギヨク　趙玉　(五代)漁陽の人。嘗て滄州節度使呂兗に客たり。劉守光、滄州を破り、盡く兗の親屬を戮す。兗の子琦、年十四、王之れを負ひ逃れて大原に至り、姓名を變し、衣食を丐ひ以て琦に給す。琦、後唐に仕へて兵部侍郎に至る。當時燕趙の間、玉能く呂氏の孤を存するを以て義烈之を稱す。

テウギヨクジ　趙玉兒　(元)女子。李氏に許嫁す。未だ婚せずして夫死す。誓てまた嫁せず。父母を養ふ。父母沒す。土を負ひて墳を爲る。鄉里其孝義を稱す。

テウキヨシン　趙居信　(元、字は季明。許州の人。至治の初、翰林學士承旨に拜す。著に經說、史評、蜀漢本末、理學正宗、禮經彙制あり。卒して文簡と謚す。

テウクン　趙壎　(明)字は伯友。新喩の人。學を好み文に工みなり。洪武の初、詔を奉じ元史を修む。書成り官に拜す、受けずして歸る。尋て召されて日曆を修む。翰林編集に拜す。詔を奉じ官露頭を撰す。太祖善と稱す。出て靖江王府の長史と爲り、卒す。

テウクンシ　趙訓之　(宋)字は晦道。秦王五世の孫。奚縣に知たり。奸臣に忤ひ疾を移して歸る。建炎の初、起ちて永豐に知たり。叛盜起り、爲めに捕らへられ、賊を罵り遂に害せらる。詔して朝散郎直秘閣を贈り忠果と謚す。

テウクワ　趙和　(唐)咸通中の江陰令。能く庠冒を以て獄を折む。

テウクワイ　趙淮　(明)字は行之。華亭の人。文を善くす。

テウクワイギヨク　趙懷玉　(清)字は億孫。一字は味辛。武進の人。乾隆庚子、內閣中書官同知を授けらる。好學思深、書として讀まざるなし。詩古文に工みにして著に詩文尋集あり。

テウクワウ　趙珩　(漢)關中の人。嘗て長安に遊ぶ。刺史聲之を奇とす。後ち仕へて涼州刺史と爲り能聲あり。

テウクワウ　趙瑤　(宋)寧宗の子。初名貴和。立つて皇子と爲る。寧武軍節度使に拜し郡王に封ぜらる。常に史彌遠の專權を患む。彌遠深く之を忌み遂に人をして之を殺さしむ。訃聞す、少師を贈、巴陵郡王に封ず。德祐の初、謚を賜ひ端獻と曰ふ。

テウクワウ　趙璜　(明)字は廷瑞。安福の人。嘗て道に遺金を得、其主に還す。弘治三年の進士。工部主事より兵部員外に歷す。出て濟南知府となり聲あり。正德の間、山東に調せらる。世宗に至り左侍郎に進む。卒して太子太保を贈り莊靖と謚す。

テウクワウカン　趙光漢　(漢)字は子都。

蠡晋の人。夜才に擧げられ陽翟令と爲る。治行あり京兆尹に遷る。善く鉤距を爲し以て事情を得。奸を發し伏を摘すること神の如し。豪强を威制し、小民職を得。匈奴中皆名を聞く。法に坐するに及び貧民闕を守り號泣する者數萬、曰く臣生きて餘官に益なし、願くは趙京兆の死に代らんと。

テウクワウコウ 趙皇后 (漢)成帝の后。

テウクワウコウ 趙皇后 (南北)宋の孝皇帝の后。名は安宗。下邳僮の人。父騭、平原の太守たり。后晋の穆帝升平四年を以て孝皇帝に嬪し、武帝を產む。

テウクワウサン 趙宏燦 (清)瓦棟の長子。官は兵部尚書に至る。敏恪と謚す。

テウクワウセフ 趙宏燮 (清)瓦棟の次子。官は直隸巡撫に至る。撫直十年、實心事に任ず。旗氏軋賂、盜賊鮮少なり。卒する年六十有一。恪敏と謚す。

テウクワウベン 趙光抃 (明)字は彥清。九江德化の人。工部郎中贊化の子。天啓五年の進士。崇禎の初、工部都水主事より兵部職方郎中に擢でらる。頻年清兵來り犯す。兵部右侍郎兼右僉都御史に拜し、擊つて之を却く。後敗れて劍を被る。朝廷之を法に措く。時人惑之を寃とす。

テウクワウホウ 趙光遙 (五代)字は延吉。文行を以て名を知らる。時人其方直温潤を稱して之れを玉界尺と謂ふ。後蜀に仕へて中書侍郎と爲る。

テウクワツ 趙括 (周)趙の將。昌國君樂毅の子。少くして兵法を學び能く當る者なし。孝成王の七年秦、趙を攻め長平、廉頗の兵を破る。趙の軍壁を固くして戰はず。秦、間を放つていふ秦は只馬服君の子趙括が將たるを恐るゝのみと。趙王之を信じ括を以て頗に代らしむ。藺相如曰く括徒に能く其父の書を讀み變に合ふことを知らずと。括の母亦上書して之を諫む。王聽かず遂に之を將とす。果して大に長平に敗れ其卒四十萬を坑にせらる。

テウクワツノハハ 趙括母 (周)趙の將馬服君趙奢の妻、趙括の母なり。秦趙を攻む。趙王、括を以て廉頗に代て將たらしむ。母上書して曰く括は將の器に非ずと。王遂に聽かず。母曰く王終に之を遣らば即稱はざるあるも、妾隨ふなきことを得んや乎と。括既に行きて廉頗に代ると三十余日、趙兵果して大に敗れ括死して軍覆る。王、括の母を以て仁智と爲す。

テウクワン 趙煥 (明)字は文光。掖縣の人。嘉靖四十四年の進士。世宗穆宗神宗に歷事し、知縣より吏部尚書に累遷す。病を謝して歸り卒す。光宗立ち師典制の如し。熹宗の初、太子太保を贈る。

テウクワンクワウ 趙觀光 (元)鄞人。昌國縣を治む。方國珍の寇起りしとき兵を引き海に出づ、賊船陣に至り衆長縮す。觀光短兵を持して奮戰す。力支へずして之に死す。

テウクワンブン 趙觀文 (唐)臨桂の人。乾寧の初狀元及第。是の年、觀人文化成天下賦、內出白鹿宣示百僚詩を試みらる。進士張貽憲等二十五人を放し、觀文第八たり。翰林學士に擢でらる。進士の張貽憲等二十五人を放し、觀文第八たり。翰林學士に擢でらるゝ者、不當を訴ふ。乃ち貢試す。觀文遂に多士に魁たり。是時劉季述の强暴橫なり。觀文以て冒を爲し宰相崔胤の意に忤ひ、遂に疾を辭して歸る。官侍講に終る。

テウクワリヨウ 趙化龍 (明)字は雲門。四明の人。獄を善くす。

テウケイ 趙煢 (隋)字は通賢。冀州刺史。市に奸僞多し。煢銅斗鐵尺を造り之を肆間に置く。百姓便と稱す。上聞て之を嘉みし天下に詔して其法の如くす。嘗て田中の蒿を盜む者あり、煢の爲めに執へらる。煢曰く此れ刺史宣化能はざるなり、彼何の罪あらんやと。慰諭して之れを遣はし、人をして蒿一束を載せて盜に賜はしむ。盜感泣すること嚴刑に過ぐ。

テウケイ 趙榮 (唐)大中の泉州刺史、晋江縣の天水淮を開き以て田に溉ぐ。民是に由て之を德とす。

テウケイ 晁迥 (宋)字は明遠。清豐の人。進士に擧げられて大理評事と爲り殿中丞に歷す。眞宗、東宮に在り。論德楊礪、其學行を稱す。眞宗稱して好學長者と爲す。景祐中、翰林學士と爲る。詔令多く其手に出づ。太子少保、工部尚書を以て致仕す。年八十一。文元と謚す。迥、吐納養生の術を善くし、未だ嘗て情を挾んで物を害せず。著す所、翰林集三十卷、道遊院集十五卷、法藏碎金十卷あり。世に行はる。子宗愨。

テウケイ 兆惠 (清)字は和甫。姓は吳雅氏、滿州正黃旗人。雍正九年、蘇帖式より內閣中書に補せらる。乾隆二十一年尼魯特等背叛す。兆惠副將軍に充てられ數十戰之を平らぐ。又大小和卓木を征して爲に圍まるゝ三月、援兵至り大に之を破る。一等武毅謀勇公に晋封せらる。同疆平定す。公、將士を率ゐ凱旋するや上親臨郊勞し、紫禁城騎馬を賜ひ、紫光閣に圖像す。協辨大學士に累官して卒す。太保を贈り文襄と謚す。

テウケイクワン 朝景煥 (南北)野人閑話六卷を撰す。

テウケイケン 趙景賢 (清)字は竺生。浙江歸安の人。道光二十四年の擧人。咸豐三年賊江寧を犯し、江浙震動す。詔して行團練法に擧ぐ。景賢獨り其事に任じ、重金を輸して衆の爲めに倡ふ。十年賊、廣德寧國を陷れ直ちに湖州に赴く。景賢部署嚴密、賊圍むこと三日にして解き去る。尋て杭州を復し、長興、德清、安吉、孝豐、武康の五縣に及ぶ、是の時邊州の防事一に以て景賢に委ゐ。十一年杭州再び陷り湖郡勢ひ孤注と成る。同治元年五月三日城遂に陷る。賊張謀紹洗、景賢を執ちへ去る。越えて一年譚逆、洋鎗を以て其胸を擊ちて殞す。年四十有二。官は道員に至る、忠節と謚す。

テウケイソウ 趙縝宗 (南北)潁州の人。兵を起し刺史を殺し自ら譙州刺史と號す。衆を擁して侵掠、恣にす。幾もなく敗死す。

テウケイ并 趙景綽 (宋)字は德父。於潛の人。少くして學を勤む。朱熹の門に游ぶに及ばざるを恨む。淳祐の初、進士の第に登り禮部侍郎に至る。卒して中奉大夫を贈り文安と謚す。景綽天性孝友、雅志冲淡。親殁して仕進の意無し。史稱して純儒と爲す。

テウゲウ 趙曉 (清)字は魏日。大倉の人。山水を善くし、王少司農の法を受く。虛懷にして學を好む。一圖を作るに稍々意に愜はざれば輒ち中止す。即ち成幅ある名を署せず。曰く再需三年、或は欺を題す可しと。時に年四十なり、其刻苦猶ほ此の如し。兼て墨竹を善くし、風神蕭爽、遙に時流を拔く。

テウケフ 刁協 (晋)字は元亮。渤海饒安の人。少にして經籍を好み、博覽强記なり。尙書左僕射に累官す。元帝南渡の初、朝廷草創、憲章未だ立たず。協、舊章に歷練す。凡そ制度する所、皆之に資る。王敦、遂を撑ふ。協出でゝ六軍を督し、江乘に至りて人の殺す所と爲る。元帝、賢俊百餘人を收用し、之を百六掾と謂ふ。協、之に與る。子彝。

テウケフ 趙叶 (唐)太定の初、贊皇令に任ず。甚だ政聲あり。秩滿つ、民其去るに忍びず。鄉貢進士孔明、德政碑を撰す、畧に曰く、叶字和甫、儀封人、來蘇邑、憂民如家、政平訟理、由是民歌之曰、百姓乏食、死于溝瀆、公力濟之、乃得延緩、我本窮愁、朝夕不給、我哺我衣、率免不釋、我本失業、困乏道路、復土給田、而得安處、我本惰農、田墓多荒、督勉以勤、而有穫會、其得民心如是、賢哉叶也。

テウケン 趙賢 (漢)文帝の時、淮南厲王の反謀に與り、遂に寒市せらる。

テウゲン 趙儼 (三國)字は伯然。陽翟の人。曹操に仕へて邯鄲長と爲り恩威並び著はる。魏國を建てゝ後、尉官して司空に至る。辛毘、陳羣、杜襲と名を齊うす。時に辛陳杜趙と號す。

テウケン 趙涓 (唐)冀州の人。監察御史と爲る。後ち衡州刺史と爲る。時に觀察使韓滉、素と相容れず。奏して官を免ぜんとす。帝其名を見て問て曰く、是れ豈永泰の時の御史乎と。詔して尙書左丞に拜す。既に至る、之を勞して曰く、卿の正直、朕自ら知る所、乃ち罪を以て聞するも朕信ぜずと。

テウケン 晁顯 (宋)字は顯卿。巢人。其の先は鄆城の人。文元公の裔。泰定の時、平江路總管と爲りて治聲あり。仕へて平江府に至る。

テウゲン 趙元 (金)字は善長。涿州范陽の人。遼の天慶八年の進士。遼亡びて金に歸す。河北四路轉運使、彰德武勝軍節度使を歷、老を以て致仕して家に卒す。

テウゲン 趙原 (元)字は善長。山東の人。丹林と號す。畫は董巨を師とす。甚だ其骨格を得。洪武中徵されて畫史とる。(原、一に元に作る。)

テウゲン 趙彥 (明)廣施の人。萬曆十一

年の進士。行人より山西左布政使に歷官す。光宗の時、定策の功を以て兵部尙書に擢てられ太子太傅に進む。家に卒す。

テウゲンアク 趙元偓 (宋)字は希道。太宗の子。姿爽偉異。厚重寡言。音律に通ず。帝之を愛し賜予甚多き。成德安國等軍節度使に累遷し、相王に封ぜらる。薨する年四十二。太師を贈り鄧王に封ず、恭懿と謚す。

テウゲンエン 趙彥瑛 (宋)字は孚卿。彭城侯叔毅の曾孫。初め溧陽尉に調ぜられ能名あり。平江府推官に改められ、宜興鹽を攝す。牧馬券科を以て負當と爲し、預め用ふること二年復稅す。民此れを以て病む。彥瑛奏じて舊借を釋る、豫借を禁ず。百年弊事遽かに絕つ。郡邑を歷、俱に政績あり。

テウゲンカイノツマ 趙元楷妻 (隋)崔氏。清河の人。甚禮度あり。隋末宇文化及の反に、元楷盜に遇ひ値に免る。崔氏賊に拘せられ以て妻と爲さむとす。崔氏堅く拒ぎて聽かず。既にして賊逼る。崔氏紿いて曰く、今力屈す當に處分を受くべしと。賊遂に之を釋す。因て賊刀を取り樹に倚て立て曰く、我を殺さむと欲せば宜殺せ。若し死を覓めば來りて相逼るべしと。賊大に怒り亂射して之を殺す。後ち元楷崔を殺す者を得て、之を支解して以て崔氏の柩を祭る。

テウゲンキ 趙元僖 (宋)初名は德明。太宗の子。人と爲り雄毅沈靜。京に尹たること五年政事失なし。淳化の初、俄に薨ず。上哀慟して朝を輟むこと五日、皇太子を贈り孝恭と謚す。上追念して已まず、思子の詩を作り羣臣に示す。

テウゲンキヨク 趙建極 (明)河南永寧の禎十六年正月、李自成の爲に城を陷れられ、五子と俱に難に殉ず。

テウゲンケツ 趙元傑 (宋)字は明哲。太宗の子。性穎悟、草隸飛白に妙なり。書を貯ふること萬卷。檢校太保、同平章事に轉じ、益王に封ぜらる。薨する年三十二。帝震悼し朝を輟む。太尉尙書令を贈り安王に封じ文惠と謚す。

テウゲンゲン 趙元儼 (宋)太宗の子。帝特に之を愛し宮を出だすを欲せず。眞宗の時、左衛將軍曹國公を授けらる。母王德妃に事へ至孝なり。平生寡欲、惟書を聚むるを好む。薨じて天雄上將軍徐兗二州牧を贈り恭肅と謚す。仁宗追悼し詔して其墨跡及び作る所の詩を秘閣に藏せしむ。

テウゲンゴ 趙彥故 (宋)青龍鎭稅を監し鎭巡を建つ。火土百里の間、絃歌相聞こゆ。兵部侍郎杜孝戲、彥故の官ありてはれず、民有りて多からず、知る所の者は本、務むる所の者は要なるを以て、文を爲り之を記す。

テウゲンサ 趙元佐 (宋)字は惟吉。初名は德崇。太宗の子。禮長を以て鍾愛せらる。射法に工みにして契丹の使驚異す。秦王の死を聞き狂疾を發し、火を禁官に縱つに坐し、廢して庶人と爲す。眞宗の時、起て左金吾衛上將軍と爲り楚王に封ぜらる。疾を養ひ朝せず。天禧の初薨ず、年六十二。河中鳳翔牧を贈り齊王に追封し恭憲と謚す。

テウゲンシ 趙謙之 (宋)字は恭道。溫州の人。旌江の時、親族離散す。謙之極力收邸し、因て信州に居り。仕へて數文閣直學士に至り、鉛山靈湖に卒す。子孫因りて爲に家す。

テウゲンシユク 趙彥蕭 (宋)字は子欽。建德の人。心を聖賢の學に留む。乾道の初、登第す。官は寧海軍節度推官に至る。著はす所、易說等の書あり。學者稱して復齋先生と爲す。

テウゲンシユク 趙彥樑 (宋)字は文長。訓之の孫。樂清尉に調ぜらる。大旱雨を禱る。彥樑曰く租斂を損ぜば和氣を招くべし何ぞ禱るを爲さむと。已にして果して雨ふる。時に海盜出沒す。奏して嘉定縣を置き兵を屯し以て守る。實謨閣待制と爲る。卒する年七十一。

テウゲンシヨウ 趙元爾 (宋)字は令聞。太宗の子。同平章事に拜し安定郡王に封ぜらる。景德間薨ず。年三十四。太尉尙書令を贈り曹王に追封し恭惠と謚す。集三卷、鞏札一卷あり。上爲めに序を製して之を秘閣に藏す。

テウゲンセイ 趙元靖 (元)盤竹を畫くを以て名あり。

テウゲンセイ 趙彥正 (元)工に人馬を畫く。

テウゲンタン 趙彥倓 (宋)字は安卿。廷美の孫。深陽尉に調ぜらる。蒙民潛氏兄弟三虎と號す。彥倓之を按治して皆其罪を正す。尋で紹興府に知たり。楮價の輕きを患へ之を權するに法を以てす。民其便を稱す。江西轉運使に拜し官に卒す。年六十四。

テウゲンチウ 晁元忠 (宋)詩を能くす。黃山谷の答書に云ふ、未識足下之面、而得足下之詩、興趣深遠、靡然類騷と。又た嘗するに詩を以てして云ふ、著書蓬蒿底、端有古人風と。

テウゲントツ 趙彥吶 (宋)字は敏若。太宗八世の孫。吳曦叛す。之を討平す。嘉定間、金人と戰ひ之を敗る。端平の初、興元府に知たり。金兵大に至る、大敗して衡州に貶ぜらる。尋で卒す。

テウゲンハク 趙彥博 (宋)武康の人。進士に舉げられ、郡を守り節を持す、能を以て稱ぜらる。孝宗の朝累官して工部部郎に至る。

テウゲンヒン 趙彥綸 (宋)貴溪令と爲る。廉以て己を律し、嚴以て吏を御し、寬以て民を恤くむ。嘗て座右に書して曰く、俸薄儉常足、官卑清自高と。

テウゲンフン 趙元份 (宋)初名德巖。後ち元俊と改む。侍中威武軍節度使を兼れ、越王に封ぜらる。東京に留守し暴疾に遇ひ薨ず。年三十七。大師尙書令を贈り鄆陳潤三王と累追す。

テウゲンユ 趙彥逾 (宋)字は德老。高宗の時登第す。秀州に知たり。太傅少卿に累遷す。政を爲すに寬恕なり。後ち改めて鎭江府に知たり。適ま歲旱飢す、彥逾浮費を節し、粟を發し糴を賑ぼす。民賴て以て安し。

テウコウ 趙貫 (漢)涿郡蠡吾の人。京兆尹たり。初め兄の子瑯邪太守と爲る。縣を行り其令薛宣を見て甚だ悅ぶ。還て府に至り妻子を見て戒めて曰く、薛君廉なり、丞相に至らん、我兩子も亦丞相の史と爲らむと。後宣果して張に代り丞相と爲り、貫の兩子を除して史と爲す。時に貫が人を知るの明見ありと稱す。

テウコウ 趙弘 (漢)黃巾張曼成の餘黨。中平中、衆に推れて帥となり、宛城に據る。衆十餘萬と稱す。後敗れて死す。

テウコウ 刁弘 (晉)彝の子。

テウコウ 趙狂 (明)字は雲輪。夏の人。祥符に徙る。洪武中、鄉舉より兵部職方主事に歷す。仕へて宣宗に至り、南京刑部と爲る。正統元年卒す。年七十三。

テウコウイツ 晁公逸 (宋)詠之の子。

テウコウカウ 晁公昂 (宋)詠之の子。

テウコウガク 晁公謂 (宋)端義の孫。資性穎異、少にして能く家訓を紹ぐ。又た孝友に篤し。嘗て股を刲きて以て母の病を起す。叔謙の恩を以て將士郎に補せられ廣昌令に歷す。公謂、官情素より薄く、事に臨みて苟くもせず正を守りて撓まず。時の稱する所と爲る。

テウコウキ 趙興基 (明)雲南太和の人。崇禎の初、鄉舉を以て盧州に通判たり。十五年、張獻忠、左良玉の爲に敗られて走り、諸郡と合す。三月を以て舒城を攻む、月を踰えて城陷る。改めて得勝州となして之に據る。游騎日に盧州城下に至る。興基之を守る。監司蔡如蘭貪戾にして民附かず。賊諜城中に滿ちて知る能はず。五月、提學御史徐之垣、試士を以て至る。獻忠、其徒を僞りて諸生と爲し、儒冠を戴て以て入らしむ。夜半礮を擧ぐ、城中大に擾る。興基時に水四門を守る。變を聞き刄を挺して戍樓を下り、鬪つて數人を殺し、創を被りて死す。河南僉事を贈らる。

テウコウケン 趙公峴 (宋)字は培鄉。紹興間、順昌縣に知たり。廉明勤敏、政寬簡を尙び、庭に留訟無し。歲歉す、乃ち廩を發して賑貸ず。民爲に食に乏しからざるを得たり。辛大なる者あり、資を竊むを謀る懇ふる者踵て至る。公峴、陽に之を叱して妄と爲す、衆皆愕然たり。密に擒捕者を遣はして藁く其黨を獲。民柩を停むる者あれば之を諭して葬らしむ。貧にして擧ぐる能はざる者は則ち官其費を助く。學を修め士を養ひ、文風大に振ふ。張魏公闋に帥たりしとき朝に薦む。遂に秩を改めて去る。

テウコウサク 晁公邇 (宋)字は子四。紹興八年の進士。絕人の資ありて而かも五世文獻の傳を承く。故に其文雄深雅健、鉅麗後偉。是を以て名を時に擅にす。歷官して

朝奉大夫に至る。

テウウコシヤウ　趙與辭　(金)平州盧龍の人。遼の太師思溫六世の孫。素より孝行あり。絳陽軍節度使、太子少保等を歷し、世宗の秘書監となる。

テウコウセウ　晁公肯　(宋)詠之の子。詠之の條を見よ

テウコウダウ　晁公道　(宋)詠之の子。

テウコウウ　晁公武　(宋)字は子止。冲之の子。乾道の初、興元府に知たり。瓦吏の目あり。世に昭德先生と號す。

テウコウマイ　晁公邁　(宋)字は伯咸。傳密居士と號す。詠之の季子。父の蔭により仕郎に補せらる。宣和間、盛名あり。而かもその黨家たるを以て敢て用ひられず。靖康の初、禁解けて開封府刑曹と爲る。能名あり。

テウコウヨ　趙公璵　(宋)字は仲謙。常熟の人。幼にして聰警、左氏春秋を記して一字を謬らず。進士の第に登る。紹熙間、眞州に知たり。公璵人と爲り沈厚清苦。平居靜坐を以て適と爲す。官に居る廉正なり。常に言ふ吾れ稽史と爲るを求め、餘吏と爲るを求めずと。果官して寶謨閣待制に至り致仕す。著はす所、奏議燕、堂、藁數卷あり。

テウコク　趙穀　(明)字は雲石。泰州の人。畫を善くす。

テウコクチウ　趙國忠　(明)字は伯通。錦衣衛の人。指揮職を嗣ぐ。嘉靖八年、武會試に舉げられ都指揮僉事に進む。又都督僉事提督東官廳に遷る。敵を却けて秩一等を進む。尋で論罷せらる。

ウコクテイ　趙國鼎　(明)山西樂平の人。鄉試第一、崇禎七年の進士。定興知縣たり。城賊の爲に破られて死す。

テウサ　趙左　(明)字は文度。松江の人。畫を善くす。山水は黃子久を宗とす。而して秀潤の氣は則ち其天賦なり。烟靈生動、烘染法を得。骰色韻致、宋元に臨倣す。亦焦墨枯筆を用ひて之を爲る。吳下の蘇松一派は乃ち其手創の門庭なり。

テウサイケイ　趙才卿　(宋)成都の官妓。性柔婉にして詞翰を善くす。

テウサイシ　趙敍之　(宋)字は伯羽。公武の世父。進士に登る。黃魯直嘗て之が蘇子瞻に薦めて云ふ、晁伯羽、醇厚にして文元戒めて曰く、他日仕籍に登り、若し官を以て家を富ましめば、先人の遺書未だ刻せざるもの尙ほ百餘万言、必ず身を約して而して次第に之を布けと。

テウサウ　才雙　(南北)魏の明文の末、四兗州刺史に除せらる。時に盜賊蜂起す。州人張桃弓等、亡命を招聚して刼掠を公行す。雙、境に至り、先づ使を遣して桃弓を諭し、禍福を陳示せしむ。桃弓、乃ち使に隨ひて郢に歸す。雙、捨てゝ問はず。後、盜起るの處あり。桃弓をして追捕せしめ、咸悉く擒獲す。是に於て州境清肅なり。

テウサツ　趙察　(宋)來安の人。少にして才望を負ふ。親に事へて其孝、生養死葬、力を竭し、禮を盡す。母歿して墓に官す。芝草九莖あり墓亭に生ず。事聞す。其門に旌す。

テウサン　趙贊　(宋)字は元輔。幽州の人。初め周に仕へて功を累れ、保信節度使を授けらる。盡く苛政を去る。居民之を便とす。太祖の時、檢校太師を加へ、改めて定州を鎭す。太宗立て衛國公に遷封す。卒して侍中を贈る。贊、書を知り喜んで詩を吟ず。容止閑雅、士大夫に接するに禮を以てす。家を御し下を使ふ、咸な方略あり。時に賢と爲す。

テウサンクワ　趙贊化　(明)天啓中、官、工部郎中たり。嘗て鄉人曹欽程の魏忠賢に父事するや、贊化の子光抃、之に謂りて曰く、富貴は一時、名節は千古、君書にせざる可からずと。欽程之を感み、即日贊化を出して南寧知府とす。南寧は邊地なり。贊化戀々として死す。

テウサンロ　趙參魯　(明)字は宗傳。鄞人。隆慶五年の進士。庶吉士より戶科給事中に改めらる。神宗の時、南京刑部尙書に拜せらる。休を乞ひて去るに先ち太子太保を累加せらる。致仕して卒す。端簡と謚す。

テウシ　趙衰　(周)字は子餘。臨晉の人。夙の孫。深志遠謀あり。重耳と齊に安んず。衰、男犯と公子を勸めて歸るか謀る。後ち襄王命じて卿と爲す。以て繁枝に讓る。文公國に歸りて伯たるを得るは其謀に出つるもの多し。衰を以て原大夫と爲し任ずるに國政を以てす。謚して成と曰ふ。子を盾といふ。

テウシ　趙咨　(漢)字は文楚。陽城の人。東海相に拜せられ、道、滎陽を經。令曹藩塵を望むに及ばず。嘆じて曰く、趙君界を過ぎて見ず、必ず天下の笑と爲らんと。即ち印綬を棄てゝ咨に謁す。咨日を計りて俸を受け、清節を以て聲を著はす。咨少にして孤、孝行あり。盜嘗て夜咨を刼す。咨母の驚くを恐れ、盜を迎へ謝して曰く、母老ひ且つ病む、乞ふ少しく衣糧を置げ、妻子の物は一も咨む所無しと。盜慚ぢて去る。咨追て之れを與ふ。及ばず。是に由て名を知らる。

テウシ　趙子　(漢)河內の人。燕の韓嬰に事へて詩學を受く。還りて徒に授く、甚だ盛んなり。趙子以て蔡誼に授け、誼、食子公と王吉とに授く。食子公は梁豊に授け、吉は長孫順に授く。是に由て韓詩に王食長孫の學あり。

テウシ　趙至　(晉)年十四にして大學觀に入る。時に嵇叔夜、學に在て石經古文を寫す。事訖りて去る。至これに隨ひ其姓名を問ふ。嵇曰く。少年何を以てか我に問ふ。至曰く、君の風器を觀るに常に非ず、故に問ふ耳と。嵇具さに以て告ぐ。年十五、陽里にして家人の爲に追得せらる。又身に灸すること十數處に至る。年十六、遂に亡命して洛陽に至り。求めて稽を索む。具に太學中の事を道ふ。便ち稽を逐て山陽に歸る。

テウシ　趙師　(唐)字は耶利。善く琴を鼓す。貞觀の初、獨り步して京に上る。嘗て云ふ、吳聲は清婉、長江廣流の綿綿徐逝するが如し、國士の風なり、蜀聲は躁急、激湍奔霤の若し、亦一時の俊快と。

テウシ　趙氏　(宋)貝州の人。王則の反するを聞き、劫して之を致す。乃ち紿さて曰く、必ず我を妻とせむと欲せば、宜しく日を擇んで聽すべしと。賊之を信じて家に歸らしむ。既にして賊聘帛を具へ、盛奧を以て來り迎ふ。趙氏家人と訣れて曰く、吾復た此に歸らずと。遂に奧に登て去る。州廨に至り、簾を擧げて之を視れば、已に自ら奧中に縊れて死す。

テウジ　趙似　(宋)神宗の子。簡王に封ず。哲宗と同母なり。徽宗立ちて司徒を加ふ。武昌武成を鎭し、徒りて蔡に封ず。崇寧間遷す。大師尙書令を贈り榮寵を極む。子有恭、定國軍節度使たり。

テウシウ　趙鞏　(五代)青州の人。幼にして群兄と戲るゝ部分行伍、指顧すること大將の如し。壯に及びて弓劍を善くし、勇果氣を重んず。唐末、黃巢を拒ぎて功あり。梁に仕へて忠武軍節度使と爲る。卒す。弟昶代り立つ。昶卒す。其弟珝代り立つ。珝、德政あり。卒するに及び、陳州(唐昭宗、陳州を以て忠武軍と爲す)の人之が爲に市を罷む。

テウシウ　趙翹　(明)梁山の諸生。正德中、賊、城を攻む。友人黃甲、李鳳、何璟、蕭銳、徐宣、楊廈寬、俱來と同じく死を誓て拒守す。城陷りて死す。

テウジウ　趙柔　(南北)字は元順。金城の人。少にして德行才學を以て名を河右に著はす。沮渠牧犍の時、金部郎と爲る。歷官して河內太守と爲る。甚だ信惠を著はす。嘗て路に在て人の遺金と珠一貫とを得、主を呼び之を還す。後ち人有り金環數百枚を遺る柔、子華明と之を市に鬻ぎ、只綉二十匹を索む。華明、其價の賤しきを知りて之れを取らむと欲す。柔曰く、人と交易する一言にして便ち定まる、豈利を以て心を動かす可けむやと。遂に之を與ふ。繕神聞きて敬服す。

テウジウ　才柔　(南北)字は子溫。渤海の人。少にして學を好み心を儀禮に留む。性强記、古今の典を暗悉す。母の喪に居り孝

を以て聞ゆ。國子博士に累遷す。

テウジウ　趙縱　(唐)慶州に守たり。黨項と戰ひて死す。杜牧哭するに詩を以てす。將軍獨來鐵驄馬、輸奚戰中金僕姑、死國却是古來有、驍將自驚今日無と。

テウジウコク　趙充國　(漢)字は翁孫。上邽の人。瓦家の子。騎尉を善くす。沈勇にして方略あり。武帝の朝に中郎將車騎將軍に拜す。霍光と同じく冊を定めて宣帝を立つ。元康の初、羌人叛く。時に充國年七十餘、上ふれを老いたりとし、丙吉をして誰か將さすべきを問はしむ。充國曰く、老臣に踰ゆる無しと。馳せて金城に至り、圖して方略を上る。羌を破り、振旅して還る。營平侯に對ず。卒する年八十六。謚して壯侯と曰ふ。成帝の時、麒麟閣に圖畫す。

テウシエキ　趙師擇　(宋)字は從善。從讜五世の孫。孝宗其才を奇とし眷遇厚し。司農卿に累遷す。陽に韓侂冑に附して陰に其備を爲す。三たび臨安に知たり。治に異績あり。卒する年七十四。

テウシカ　趙師夏　(宋)嘉定間、南康軍に知たり。奏して畢子縣の個稅錢を以て上供を補す。又た海洞寺田及び魚池を興學に入れ、三學社倉を立つ。善政甚多し。

テウシカ　趙師櫰　(宋)宗室の子。嘗て罪を以て拘せらる。王夢龍、其智勇を知り軍器を製するを委ぬ。紹定中寇逼る。身先鋒と爲りて戰ふ。馬山中に陷り右臂斷つ。左手を以て佩刀を拔き七級を斬る。遂に沒す。尤溪の民、戰所に廟を立つ。武節郎を贈らる。

テウシカウ　服志皐　(明)字は汝遷。閩縣の人。隆慶二年の進士。編修に除せらる。萬曆中、建極殿に累擢せらる。嘗て時相張居正を極論す。已にして病みて休を乞ふ。允さず。禪に在ること四年。疏を上ること八十餘。萬曆二十九年秋、邸舍に卒す。太傅を贈り文懿と謚す。

テウシカク　趙子覺　(宋)令衿の子。霽齋居士と號す。文名あり。

テウシキ　趙師揆　(宋)字は元輔。子倜の子。鼎を以て淮西提刑兼提舉に遷り、屯田の事を領す。寧宗陛して節度使と爲し、召見するに屑輿を賜ふ。薨じて大傅を贈り澧王に追封し恭惠と謚す。

テウシキ　趙師嚮　(宋)字は汝一。子倜の子。數文閣待制を加へられ永興軍承宣使に轉ず。紹興の初、父に侍して入覲す。尋で歸り卒す。年六十一。少師を贈り新安郡王に追封す。

テウシキ　趙士譞　(明)萊陽の人。崇禎中の進士。官、中書舍人たり。十七年春、城陷りて之に死す。文名あり。

テウシキウ　趙士崎　(宋)字は仰夫。太宗五世の孫。建炎の初、虔民亂を作す。士崎、大后に請ひ赦を賜ひて之を安んず。右監門衛大將軍。惠州防禦使に遷る。卒して建寧軍承宣使を贈り建安郡王に追封す。

テウシゴ士　趙晤　(宋)字は公美。太宗五世の孫。天資警敏。右監門衛大將軍、貴州團練使と爲る。紹興間、泉州觀察使に遷る。卒する年四十六。少師を贈り和義郡王に追封し、忠靖と謚す。

テウシシウ　趙師秀　(宋)字は紫芝。永嘉の人。紹熙の第に登り、州縣に浮沈す。秩を改めて卒す。乾淳より以來、濂洛の學方に行はれ、諸老類れ經を窮むるを以て相尚び、詩或は志を言ふも、足るを取て止み、昔人聲病を體驗し、律呂をして相宜へしむるが如くなるに暇あらず。潘檉出づるに至つて始めて唱へて唐詩を爲る。而して師秀、照翁卷、徐機譯と遺緒を尋ね、日に鍊り月に鍛へ、一字苟も下さず。是に由て唐體盛んに行はる。其詩、清新閑美。野水多於地、春山半是雲、濕近春風濕、松多曉日奇の句の如きは人皆之を傳誦す。

テウシシン　晁子眞　(宋)字は點仲。詠之の孫。撫州に居り。人と爲り雅靜。自ら清谷居士と號す。子百谷。

テウシシン　趙子深　(明)清江の人。善く山水を畫く。

テウジシヤウ　趙時賞　(宋)字は宗白。和州の宗室。風神明俊、議論慷慨、謀略あり。益王即位して邵武軍に擢知す。空坑の敗に追兵に執へらる。時賞、奮罵して屈せず害に遇ふ。

テウシシユク　趙子潚　(宋)字は清卿。孝靖公令奥の子。吏戶二部郎中に累官し、江淮軍馬錢糧を總領す。孝宗恢復に志あり。

子潚、朝夕兵を練り、鵝鶴魚鱗の陣を爲す、上臨觀、賜ふに金帶を以てす。卒する年六十六。

テウシシユン　趙士眷　(明)用賓の孫。字は景之。崇禎十年の進士。編修を授けらる。累に坐して獄に下さる。疏辨する所あり。廕東廂敢司に謫せらる。後ち故官に復し、左中允に終ふ。

テウジシユン　趙時眷　(明)字は景仁。平涼の人。嘉靖五年の進士。庶吉士に除せられ再遷して兵部主事たり。上疏して旨に忤ひ、斥けられて民となる。既にして輸林編修に起ち、司經局校書を兼ぬ。復た旨に忤ふ。召されて兵部主事に擢でらる。後ち寇を禦ぎて克たず、竟に官を解かる。

テウシシヨ　趙子書　(宋)字は叔問。少にして警敏、書翰に工みなり。宣和の初、九域圖を詳定す。子書、その編修官に充てらる。建炎四年、尚書左司員外郎に遷り兼て貨物を權り、歲に茶鹽香錢六百九萬緡を收む。功を以て秩一階を進め太常少卿に試みらる。太常因革禮八十篇を集めて七十卷と爲す。後ち眷分高媒を祠るの禮を復す。權禮部侍郎に除し徽猷閣待制樞密都承旨に遷る。後ち都承旨に文臣を用ふるは皆子書より始まる。衞殿信饒の民、子を生みて多く棄げず。子書請て之を禁絶す。累りに外に補するを求む。徽猷閣直學士に遷り秀州に知たり。

テウシシヨウ　趙子崧　(宋)字は伯山。太祖五世の孫。宗正少卿徽猷閣直學士を以て淮寧府に知たり。事に遇て明斷、吏一錢を得ず。物を道上に遺して敢て取る者無し。後ち僞王を迎立して人心を慰安す。汴京、守を失ふ。乃ち康不遜なるに坐して南雄に安置せられ、尋で卒す。紹興間、赦に遇ひ集英殿修撰に復す。

テウシシヨウ　趙子僩　(宋)孝宗の父。高宗の時、直秘閣に除し、五品服を賜ふ。紹興間、致仕す。尋で卒す。太師中書令を贈り秀王に封じ安僖と謚す。紹熙元年廟を湖州秀園立つ、攝土の故事の如くす。

テウシシヨク　趙子湻　(宋)字は正之。太祖の孫。幼にして警悟、千里駒と稱せらる。談論を善くし詩に工みなり。紹興の初、徽猷閣直學士に除し、四外宗正司に知たり。卒する年六十七。

テウジセン　趙時踐　(宋)字は容月。宋末の人。采石に僑居し從侍郎に爵す。初め廣德軍司戶參軍に調ばれ、德祐元年建平縣事を攝す。時に邊境縛騷し、凶徒内に横はる。勢ひ爲す可からず。元兵南下し、先驅東門を擁す。時踐、經遑起と事を官署中に計る。夜嘆じて曰く、時勢此の如し、寧亡知る可し、詰朝惟死有る耳と。寤起曰く、家を如何。時踐曰く、皮の存せざる、毛將た安くに附かむと。翌明前遂を指さして曰く、吾れ已に家人と訣る、石を懷くは是の中と。因て寤起、縣尉王君擢、直學陳夢常と縣樓に登り、皷を鳴して敵と遇ふ。敵人縣境に入り窮蹙す。遂に其妻子僕妾と與に渾溪に赴きて死す。

テウシタン　趙師且　(宋)字は潛叔。江州に知たり。事に遇て明斷、吏一錢を得ず。物を道上に遺して敢て取る者無し。後ち僞智高の難に死す。其喪歸りて江山に至る。邑人攀號する者數百里絕えず。是より先、師且其妻を山谷に藏す。一子を生みて草中に棄つ。賊去て後ち凡三日、尚ほ生く。人以て忠孝の報と爲す。

テウシチウ　趙子靈　(宋)字は叔問。太祖五世の孫。警敏强記、建炎間太常少卿に遷り、太常因革禮八十篇を集めて二十七卷と爲す。尋で秀州に知たり。歸りて衢に寓し卒す。年五十四。

テウシツ　趙賈　(金)字は景道。燕城の南に隱居して教授を業となす。泰和二年卒す年八十五。

テウシテイ　趙子砥　(宋)仕へて鴻臚丞と爲る。北に遷りて燕山に至り、遽れ歸りて乃ち言ふ、金人和を請じて以て兵を用ふ、我國兵を斂めて以て和を待つ、譬へば人、虎を長れて肉を以て之に餧するが如し、食盡くれば終に必ず人を噬まむ、若し必ず陷阱以て之を待たば、庶くは能く虎を制せむと。因て故官に復す。已にして對を賜ひて旨に稽ひ、命じて台州に知たらしむ。

テウシデウ　趙士蕘　(宋)字は立之。仲御の子。學を好み文を屬す。太宗正事に知たり。苗劉の亂に長子の股を刲き、蠟書を納れて張浚に告ぐ。岳飛の誣罪を辨論して大に秦檜に忤ふ。檜怒りて建に謫す。凡そ十

二年に卒す。年七十。太傅を贈り循王に追封す。

テウシト　刁子都　(漢)東海の人。兵を起して徐兗を鈔す。漢に降りて徐州牧に拜せらる。

テウシトク　趙子德　(明)括蒼の人。善く花鳥を畫く。

テウシハク　趙之璞　(明)合肥指揮同知たり。崇禎十五年、張献忠廬州を攻む、之璞、趙興基を佐けて東門を守る。夜半賊、城中より出つ。巷戰して死す。

テウシフ　趙渠　(宋)字は伯遠。淳熙間、長興縣令と爲る。邑に蝗あり、民を募りて抗捕し三千餘石に至る。又旱して河竭き、穀價、騰湧す。官錢を出し値を増して粟を糴す。粟商輻輳し、民皆濟ふを得。又學租を增し以て人才を造就す。士民之を德とす。

テウシフシン　趙執信　(清)字は伸符。秋谷と號す。山東益都の人。穎悟絶倫、鄉里號して神童と爲す。康熙十八年の進士。編修を授けられ、右賢書に累遷す。大清會典を預脩す。是に由て名日に高く、忌む者日に衆し。幾何もなく忌者に中てられ、職を罷めて歸る。益々情を詩酒に放さゝにし、居る所の園に因り山に依つて亭榭清泉秀石喬木を搆へ、各天趣を極め、林壑に徜徉する五十年。年八十三にして卒す。著に談龍錄あり。其詩、思路雕刻を以て主と爲す。

テウシヨン　趙帥民　(宋)字は周輪。臨淄の人。九歲にして文を能くし、進士の第に擧げらる。學問精博、志尚清遠。榮正殿說書に歷官し、宗正丞に遷る。上書して十五事を陳す。刑部郎中に遷る。集三十卷あり。

テウシン　超進　(南北)高僧。本姓は顧項。長安の人。宋太始中、徵されて都に出て大法鼓經を講す。俄にして會稽に旋り、還た法化を紹く。宋元徽中、春秋九十有四にして卒す。

テウシン　趙振　(宋)字は仲威。眞宗の時、慶州沿邊都巡檢使と爲る。時に金陽李欽を豹神と曰ひ、木馬兒、高羅、跛臧の三族尤も悍にして制し難し。振羌を招降し、募るに利を以てし、相攻めしめて十餘堡を破る。欽等振に詣り自ら歸す。振爲に酒を置き洗醑す。小的を數百步外に植て共に射る。欽等百發中らず。振十矢皆貫く。欽等皆驚き復た敢て犯さず。

テウシン　趙瑶　(元)雲中蔚州の人。父、金に仕ふ。瑶、幼より不羈、武事に閑習す。元太祖南伐す。瑶衆を領して來附す。直前奮擊、功諸將に最たり。中統の初、燕南道按察使に累遷す。致仕して家に卒す。定國公に追封し襲穆と謚す。

テウシン　趙紳　(明)字は以行。諸暨の人。父秩、大清會典を預脩す。幾何もなく忌者に中てられ、職を罷めて歸る。益々情を詩酒に放さゝにし、居る所の園に因り山に依つて亭榭清泉秀石喬木を搆へ、各天趣を極め、林壑に徜徉する五十年。年八十三にして卒す。著に談龍錄あり。其詩、思路雕刻を以て主と爲す。

テウシン　趙帥民　(宋)字は周輪。臨淄の人。九歲にして文を能くし、進士の第に擧げらる。學問精博、志尚清遠。榮正殿說書に歷官し、宗正丞に遷る。上書して十五事を陳す。刑部郎中に遷る。集三十卷あり。

テウシン　超進　(南北)高僧。本姓は顧項。長安の人。宋太始中、徵されて都に出て大法鼓經を講す。俄にして會稽に旋り、還た法化を紹く。宋元徽中、春秋九十有四にして卒す。

テウシン　趙振　(宋)字は仲威。眞宗の時、慶州沿邊都巡檢使と爲る。時に金陽李欽を豹神と曰ひ、木馬兒、高羅、跛臧の三族尤も悍にして制し難し。振羌を招降し、募るに利を以てし、相攻めしめて十餘堡を破る。欽等振に詣り自ら歸す。振爲に酒を置き洗醑す。小的を數百步外に植て共に射る。欽等百發中らず。振十矢皆貫く。欽等皆驚き復た敢て犯さず。

テウシン　趙瑶　(元)雲中蔚州の人。父、金に仕ふ。瑶、幼より不羈、武事に閑習す。元太祖南伐す。瑶衆を領して來附す。直前奮擊、功諸將に最たり。中統の初、燕南道按察使に累遷す。致仕して家に卒す。定國公に追封し襲穆と謚す。

テウシン　趙紳　(明)字は以行。諸暨の人。父秩、大清會典を預脩す。幾何もなく忌者に中てられ、職を罷めて歸る。益々情を詩酒に放さゝにし、居る所の園に因り山に依つて亭榭清泉秀石喬木を搆へ、各天趣を極め、林壑に徜徉する五十年。年八十三にして卒す。著に談龍錄あり。其詩、思路雕刻を以て主と爲す。

テウシン　趙信　(清)字は辰垣。憲林と號す。谷林の弟。乾隆丙辰、兄と同じく鴻博科に擧げらる。報じ罷む。南歸、書を著はし自ら樂む。爲魂露吟稿あり。

テウジン　趙諶　(宋)欽宗の子。常德軍節度使に除せられ崇國公に封ぜらる。上、靖城に幸す。監國を以て制を稱す。金人驅迫北に去らむと欲す。百官軍吏及び大學生車前に擁拜し、哭聲天を震ふ。遂に帝に從ひ俱に北す。

テウシンゲン　趙深彦　(清)景賢の長子。年甫めて十二、湖南に寓し、湖州失ふを聞き孝を服して死す。

テウシンシン　趙慎畛　(清)字は遵路。雷樓と號す。湖南武陵の人。嘉慶元年の進士官は雲貴總督に至る。官に在る清勤を以て自ら失ふ。水利を開き書院を建て貧吏を勉し海盜を捕ふ。凡う事、民生の疾苦、國家の憂樂に關する者は之を思ふて輙ち竟夕寢ねず。富を得れば則ち已む。卒して文恪と謚す。從政錄等の書を著はす。

テウシヤ　趙奢　(周)人。田部吏と爲る。秦、韓を伐つ韓救ひを趙に請ふ。趙、奢を以て將と爲し、大に秦軍を破る。馬服君と號す。其子括徒らに能く父の書を讀む。長平の役、秦の白起の爲に殺さる。

テウシヤ　趙蠡　(明)永寧の人。志節あり。學行を以て聞ゆ。訓導より賢良に擧げられ貧善大夫より工部尚書に歷官す。奏して天下誠々に遵る所の軍器の數を定め、且藩王宮城の制度を議定す。洪武十二年刑部に署

す。尋で致仕す。

テウシヤウ　趙昌　(唐)貞元間の泉州刺史。唐水を鑿ち以て田に灌ぐ。利と爲る甚だ博し。鄂人恒に之に懷く。

テウシヤウ　趙湘　(宋)字は巨源。宗姓を以て華州に居る。著作佐郎に歷遷す。補政患言十篇を上る。昇州火あり命じて往て祠を致さしめ、兼て民の疾苦を問はしむ。還りて官吏の不職の者を奏し皆之を黜罷す。集賢學士に升る。疾を以て虢州に徙り卒す。

テウシヤウクワン　趙尙寬　(宋)安仁の子。仁宗の時、平陽縣に知として異迹あり。遷て忠州に知たり。考課第一を以て唐州に知たり。同宿二州河中府に徙り、又梓州に徙る。至る所農に勸む。故に治異等なり。仁宗嘗て秩を進め金を賜ふ。官を積て司農に至る。

テウシヤウゲン　趙昌言　(宋)字は仲謀。蔡義の人。父叡、雍邱太康縣を歷知す。昌言少して大志あり。文思甚だ敏。太宗特に進士に擢ぐ。樞密副使に累官し戶部侍郎に進む。卒して吏部尚書を贈り景肅と謚す。昌言强力にして氣を尙び至る所威斷を以て名を立つ。喜んで獎進を推す。

テウシヤウシ　趙像之　(宋)字は明則。高安の人。學を嗜み、寢食を忘る。紹興の進士。臨川司戶を授けらる。藝を廬陵に校し、周益公、楊誠齋を得て門生と爲す。仕へて軍器少監に至る。像之の文を爲る、平淡簡速なり。節を持し磨を乘ると雖も家猶ほ貧し。

テウシヤク　趙綽　(隋)河東の人。開皇の初、大理丞と爲る。法を執る平允なり。少卿に累遷す。高祖嘗て刑部侍郎の亶永雒禪に卒するを以て、謂へらく厭蠱を爲すと。之を斬らむと欲す。綽執つて可かず。帝怒り命じて綽を斬らしむ。綽曰く法を執る一心。敢て死を愛せずと。乃ち之を釋る。卒するに及び帝爲めに流涕す。

テウシヤク　刁釋　(宋)湛の子。

テウジヤクゲイ　趙若檄　(宋)字は自木。霧山と號す。崇安の人。必遜の弟。咸淳の末、登第し、元に入りて仕へず。性倜儻に生産を治めず、獨り吟咏を嗜み、山水の間に徜徉して合心の處に遇へば輙ち止ると數日。人、陶阮の輩を以て之を目す。評者、其所作、晚唐の風致を得たるをいふ。

テウシユク　趙肅　(南北)字は慶雍、洛陽の人、早とに操行あり名を時に知らる。元魏の孝昌中、家より起りて殿中侍御史と爲り、左將軍大中大夫に累遷す。清河縣子に封ぜらる。復た廷尉に除じ鎭東將軍を加へらる。肅法を執る平允。凡そ所斷する所、咸な其情を得。廉愼自ら持して產業を建てず。時人是を以て之を稱す。

テウシユク　趙俶　(明)字は本初。山陰の人。元の進士。洪武六年、徵して國子博士を授く。翰林院待詔を以て致仕す。宋濂同官及諸生千餘人を率ゐ之を送る。卒する年八十有一。子圭玉。

テウシユクカウ　趙叔俠　(宋)秦王四世の孫。元豐間、德州兵馬都監に至る。建炎の初、金人城を陷る。猶力戰し勢窮して執らへらる。怒罵して屈せず、遂に害に遇ふ。

テウシユクキン　趙叔近　(宋)廷美の孫。建炎の初、秀州を守る。杭卒陳通反して城下に抵る。叔近城に乘り諭すに禍福を以てす。乃ち去る。後、讒に遇ひて死す。紹興間、御史其寃を訟ふ。集英殿修撰を贈らる。

テウシユクビ　頂淑美　(宋)淳安の人。方希文の妻。希文好むで書を畜ふ。杭州守らず、希文書を載せて山間に遯く。一日賊至り火を縱つ。希文在らず、淑美急に書を取り左右に積む高さ身と等し、其中に坐して焚死す。賊退き希文歸る、餘燼旋て堆を成し、其骨を護る者の如し。希文慟哭す、灰即ち散す。乃ち骨を收め先兆に埋む。

テウシユクビヨウ　趙叔憑　(宋)武翼大夫に累官す。金人陝を圍む援兵至らず。其子に蠟書を遺りて曰く、人臣國難に當る、況むや吾は近屬、死すべきのみと。遂に戰死す。

テウシユホ　趙主父　(周)武靈王を見よ。

テウシユン　趙俊　(明)籍里を知らず。工部侍郎より尙書に進む。帝嘗て國子監所藏の書板、歲久しく殘缺するを以て諸儒に命じ考補し、工部は匠を督し修治せしむ。俊監を兼ねて之を監理す。古籍始て備はる。洪武十七年、官を免す。

テウジユン　銚純　(漢)期の子。

テウジユン　刁選　（南北）繼の子。洛州刺史たり。

テウジユン　趙詢　（宋）初名は熙寧。燕王十世の孫。寧宗の養子。福州觀察使に除せらる。開禧間、皇子と爲り、崇王に進封す。尋て立ちて皇太子と爲る。嘉定間薨す。年二十九。謚して景獻と曰ふ。

テウシジユンノツマ　刁思遵妻　（南北）魏の人。魯氏。始めて笄し、思遵に聘せらる。踰月ならず思遵亡す。其家、其の寡を矜み、許嫁已に定まる。魯氏死を以て誓ふ。遂に郡に訟ふ。魯氏乃ち老姑と徒步して司徒府に詣り、自ら情狀を告ぐ。普泰の初、有司其節を奏す。本司に詔して式に依り標榜す。

テウシヨウ　趙勝　（周）趙の武靈王の子。秦郡鄲を圍む急なり。毛遂を用ひ楚と合盟し又救ひを魏の公子無忌に請ひ、遂に復た趙を存す。食客常に數千人。平原君と號す。齊の孟嘗君、楚の春申君、魏の信陵君と四豪と爲す。

テウシヨウ　趙勝　（明）字は克功。遷安の人。永平衛指揮使を襲ぐ。正統天順の交、左都督に進み太子太保を加へ昌寧伯に封ぜらる。官に卒す。侯を贈り壯敏と謚す。

テウジヨウ　晁次膺　（唐）詞に工なり。宣和間、協律郎に充てらる。

テウシヨウソ　刁承祖　（清）包の孫。康熙五十四年の進士。累官して布政使に至る。盡く包の遺書を刻して世に行ふ。

テウジヨエン　趙汝璦　（宋）字は履常。太祖八世孫。趙汝愚の定策多くは與に參訂す。汝愚國を去る、汝璩弟汝讜と共に韓侂胄の非を言ひ並に黨禍に罹り斥出せらる。祖墓に依り以て居ること累年。志を學問に肆さゝにす。文を爲るに西漢の風景あり。刑部尚書兼學士に官し以て終る。

テウジヨキ　趙汝暨　（宋）新建の人。仕へて明州錄事參軍と爲る。時に平民を執らへて人を殺し盜する者と爲すものなり。汝暨其寃を直す。繼で眞盜を獲たり。縣章利を食る。宣撫趙葵、汝暨を薦め鄉を知らしむ。郡民始めて安むず。且つ地を拓らくの功あり、善政具に舉る。刑部尚書に進み工部に轉じて致仕す。

テウシヨク　刁湜　（宋）衍の子。

テウジヨグ　趙汝愚　（宋）字は子直、餘干の人。樞密に累遷す。孝宗崩じて光宗病ひ篤く、中外洶々たり。汝愚奮て身を願みず頃刻に大計を定む。賢士を召收し寧宗を輔く。未だ幾ばくならずして韓侂胄の爲に譖排せられ、永州に謫せられて卒す。沂國公に追封して忠定と謚す。

テウジヨクワイ　趙汝回　（宋）字は幾道。永嘉の人、嘉定の末に登る。主管進奏院に終る。名一時に重し。著吟して興致高邁、自ら一家を成す。橘花を詠じて云ふ、春風過後雪初白、夜雨晴時水亦香。水仙花を詠して云ふ、風原一點沈湘恨、李白三生提ㄌ身と。皆詩人に珍とせらる。其從學する者多く名あり。

テウジヨクワン　趙初浣　（明）清兵の南京を陷るゝや。興民帑と城に據り拒守す。已にして軍敗れて之に死す。遂縣の諸生なり。

テウジヨシウ　趙汝修　（宋）字は蠹卿。普江の人。嘉定の進士。端平の初、除せられて對林州に知たり。陛對に言ふ、國家頻年厄多し、德を謹み政を修め以て災を弭和を召かんと。時に宗臣言を進むるの體を得たりと稱せらる。將さに行かむとして韶州に改めらる。治は平易を以てす。汝修人と爲り清曠、僧廬に託して以て居る。子皆聯第す。

テウジヨジユツ　趙汝述　（宋）字は明可。太宗八世の孫。淳熙間の進士。封事を上る議論懇惻なり。尚書知平府に遷り卒す。知者多く時に趙るを以て之を少とす。

テウジヨダウ　趙汝儻　（宋）字は蹈中。大宗八世の孫。少して俶儻、後ち節を折りて書を讀む。趙汝愚の寃を訟ふるに坐し、廢黜せらるゝこと十年。嘉定の初、將作監簿、大理司農二丞を歷、史彌遠と合はず、出て漳州に知たり。未だ幾ばくならず卒す。

テウジヨダウ　趙汝滢　（宋）宗室の子。嘉熙元年奏議郎を以て桐廬縣に知たり。縣帑五千緡を發して學田を增置し士を養ふ。又屋三棟を常平倉後に創し、巳れの俸を捐て、豐に糴し歉に糶す。名つけて惠民舍と云ふ。人之を便とす。

テウヨダン　趙汝談　（宋）字は履常。太宗八世の孫。文章に於て天功あり。倫誼に篤く仇怨を忘る。嘗て朱熹と疏義を訂す。權

給事中に除せられ刑部尚書に終る。著に易詩書論語孟子周禮々記荀子莊子通鑑等の註あり。

テウジヨトウ　趙汝騰　（宋）字は茂實。太宗八世の孫。寶慶の進士に登る。州郡を歷知し禮部尚書兼給事中に拜す。景定の初、南外宗正事に知として卒す。

テウジヨノウ　趙汝能　（宋）字は公舉、紹興の進士。泉州錄參、當途糾曹に調せらる。秩を改め泰の海陵に知たり。饑飢を民嘯聚して亂を爲し、人情洶々たり。汝能其魁を殺して餘は追究せず。民始めて業に定まる。又計を盡くし之を賑す。民賴て活する者甚多し。諸司多く謗讟を以て之に委ぬ。勅折簡明、號して平允と稱す。學校を興し生徒を增養す、士風翕然丕ひに變す。郡囂きに巨寇の根穴たり、數州の金寶を掠めて聚む。官軍之に迫る。盡く之か詔を藏す。僚吏詔を發するの策を勸む。汝能之を領し、之を導くに教化を以てす。州人乃ち歸を知り、行李始めの如し。浙四男沿海驕暴、朝請大夫に歷官す。清心寡欲、粗衣を甘んずること寒士の若し。事に遇うて剛決、仁者の勇あり。詩文清純にして體あり。自ら雲谷道人と號す。

テウシリウ　趙士樓　（宋）士龍を見よ。

テウシリン　趙子璘　（宋）太祖六世の孫。父令興、右千月大將軍に任ず、朝奉郎に改め杭州に知として惠政あり。通議大夫に累官す。崇禎二年官榜を承け、子璘、弟子嶼と同じく及第し、左朝散大夫を授けらる。建炎の初、潮州に知として秘閣に直す。時に金人南侵す。子璘親ら將士を率ゐて敵を禦く。人皆感勵死守し事甫めて定まる。遽かにして罷め去る。民懷を攀ぢて涕泣す。紹興の初、叔安定郡主令玲と徙て智度寺に居り卒す。御史潮州郡民の情を以て上に達す。詔して郡人に之を祀らしめ、人をして王を智度寺後山に合葬せしむ。子伯履、紹興の進士。韶州に卒す。子師贇、中散大夫泉州市舶提舉たり。

テウシリヨウ　趙士龍　（宋）字は景瞻。開封の人。系は太宗に出づ。初め淮南四路鈐轄と爲る。時に劇賊丁一箭を壽春に追殺す。詔して三官に遷し、江南東路鈐轄に除す。時に東胡方に强く、群盜李成淮南に寇し九江を圍む。士龍守將と捍禦すること百餘日、城中食盡き守將委れ去る。士龍獨り餘民を糾合し誓つて死守す。已にして城陷る神色恰然たり。衆號呼して言ふ、我が趙鈐轄を殺す無れと。賊之を義とし僞安撫使を授く。士龍罵て曰く、賊我を屈せむと欲するやと。陰に帛を裂きて以て書して諸子に寄示す、曰く義不可活、絶食與飲、謹毒自戕、爾輩當爲我刷恥と。遂に藥を仰て死す。子三、不愈、不濟、不隱、皆死す。武功大夫を贈り二孫を官するに承信郎を以てす。（龍一に謹に作る）

テウシロ　趙師魯　（元）字は希賢。霸州文安の人。趾の子。風采端莊。仁宗の朝、中書省に補せらる。朝廷の典章故實、律令文法に於て練習せざるなし。事に臨み明敏果斷、執政多く之を奇とす。出て、河間路轉運使と爲る。孔廟を新にし、雅樂を製し工師を聘して、春秋に釋奠す。士論之を稱す。疾篤きを以て官を棄て、京師に歸り卒す。天水郡侯に封ず。文靖と謚す。

テウシワン　趙思綰　（五代）魏州の人。河中節度使趙贇の牙將たり。漢高祖即位し贇を徙して永興を鎮せしむ。贇、京師に入朝し、思綰をして兵數百人と永興に留まらしむ。高祖、使者を遣し思綰を召さしむ。思綰曰く、趙公既に人手に入る、我が屬并死するに至らんと。遂に叛す。高祖、郭從義、王峻を遣して之を討たしむ。思綰、李守貞に投す。守貞、以て晉昌軍節度使と爲す。隱帝、郭威を遣し先づ守貞を河中に圍ましむ。思綰、勢窮りて遂に降る。詔して之を鎮國軍留後に拜す。思綰、遲留して任に赴かず、陰かに蜀に奔らんとす。朝廷乃ち之を擒へて市に斬る。

テウジヱツ　趙時鉞　（宋）字は子禮。崇安の人。少にして文名あり。嘉定の進士に登り南康星子簿に調ぶれ再び汀州長汀州丞に調ぶる皆政聲あり。沿臺檄して上杭令を攝せしむ。適〻汀寇甫めて平ぎ、餘黨猶尚洶々たり。時鉞奮然願みず。關麻胡なる者あり、賊曾汝紅雲を招請して亂を爲す。時鉞奇計を出して之を捕獲す。民跡を安んずるを得たり。部使者、其功を以聞す。辟して眞に

即かしむ。尋て梅州崇仁縣に知たり。徐忠簡公鴻臣、廣右を經略す。之を賓州倅に辟し州事を攝せしむ。逆賊黎夢符、海道に寇するに會ふ。凶燄甚熾なり。時鉞檄を被り、兵を領し往て之を攻む。捷聞す。權發遣南寧軍事に除せらる。未だ幾ばくならずして海上に卒す。朝廷之を嘉みし、特に朝請郎に轉ず。

テウシヲシ 趙思溫 (遼)字は文美。平州盧龍の人。少して果毅、膂力人に絕す。神冊 年遼に降る。大祖擢でゝ漢軍都練使と爲す。從ひて渤海を伐ち扶餘城を拔き身數創を被る。天顧間、南京留守、盧龍軍節度、管內製察處置使に改め、侍中を兼ぬ。號を協謀靖亂翊聖と賜ふ。會同の初、晉に使し冊禮を行ふ。還て檢校大師を加へらる。二年卒す。上、使を遣はし慰祭せしめ太師魏國公を贈る。子延昭、延靖、官皆相に至る。

テウスウ 趙樞 (宋)徽宗の子。肅王に進封す。凡六節度を歷、金人京城を圍む時、張邦昌と出て使ひし幹離不に留めらる。

テウス井 趙從 (唐)襲亭の人。篤學仕へず。雅より李白と善し、布衣の交を稱す。著書に長知經、梓州志あり。

テウス井チウ 趙粹中 (宋)字は叔達、密州より徙り鄧に居り。幼歳より詞章を能くす。紹興進士科に[illegible]る。孝宗銳意北伐を復せんとす。虞允文、王前、趙雄、兵を言ふを以て恢復機密十論、制狄樣鑑四十卷、富强要策十卷を撰め進む。孝宗大に之を喜ぶ。一歳九たび遷る。秘書郎權起居郎給事中より吏部侍郎に除せらる。奏對する所の言は邊防多し。嘗て上疏して王安石父子の從祀を罷め、岳飛の寃を雪ぐを乞ふ。又司馬光、葉鍾、董井等の奏議を集め、太祖東向の位を正さんとす。議行はれず。寧宗位に即くに及び其議の如くす。後ち待制を以て池州に知たり。次に軍校を罷し、日に公幣錢を用ふる三百萬。郡政修擧し、民之を生祠す。

テウセイ 趙鑿 (晉)洛陽の人。符秦の時、散騎常侍と爲る。常に忠を盡くし匡諫す。時に秦主堅、頗る酒色を好む。鑿嘗て詩を爲り之を上る。曰く、昔聞孟津河、千里有一曲、此水本自清、是誰使令濁と。堅色を正うして曰く、朕の過なりと。

テウセイ 晁清 (南北)遼東の人。祖暉、魏の濟州刺史、潁川公たり。清、襲爵して例降して伯と爲る。後、梁の師と戰ひ、檀盡き城陷りて殺さる。宣武褒美し道陵大守を贈り謚して忠と曰ふ。子榮賓、襲爵す。

テウセイ 趙性 (宋)赤水の人。紹興中、集英に入對す。其策に曰へるあり、以括蘆爲深計、臣知其人矣、主和議者當之、以首鼠爲玄機、臣知其人矣、杜冒路者當之。考官大に驚き以爲らく劉貫以て過ぐる無しと。秦檜これを抑抑せむと欲す。檜卒するに會て止む。

テウセイエン 趙世延 (元)字は子敬。本と雍古氏。雲中より居り。幼にして喜んで書を讀む。弱冠にして世祖に召見せらる。院臺に入つて官政を習ふ。至元二十六年觀察御史に擢んでらる。同列五人と共に丞相桑哥の不法を勅す。中丞相國輔は桑哥の黨なり、抑へて上つらず。五人悉く其擠する所と爲り、世延獨り免る。參知政事に拜し中書に居り。御史中丞に遷る。鐵木迭兒の罪惡十有三事を勅す。泰定四年召されて中書右丞と爲る。御史中丞に遷る。其年高く疾多きを以て、小車に乘りて入內する事を許さる。尋て平章政事兼翰林學士承旨奎章閣大學士を以て、命を奉じて經世大典を修む。奏して機務を解きて專意纂修を得しめんことを乞ふ。帝曰く、老成卿の如きは幾ど比なし、仍ほ事を中書に視て銓選に預かる無かる可けんやと。魯國公に加封せらる。至元二年成都に還り卒す、年七十七。文忠と謚す。嘗て律令疏を撰定す、また風憲宏綱、世に行はる。

テウセイカン 趙清澗 (元)淮安の人。善く人物女仙を寫す。

テウセイケイ 趙世卿 (明)字は象賢。歷城の人。隆慶五年の進士。南京兵部主事に除せらる。仕へて神宗に至り戶部尙書と爲る。乞うて歸り卒す。太子少保を贈る。

テウセイセン 趙世選 (明)訓導。崇禎中、流賊來り犯す。屈せずして死す。國子學錄を贈らる。

テウセイフ 趙鼓夫 (宋)嘉定間、賓州に知たり。民を待ち民を恤む一に誠に出づ。

理宗嘗て廉吏を問ふ。鼓德秀、鼓夫を以て對ふ。首として衣を賜ひ以て之を示寵す。

テウセイレイ 趙胥翠 (清)字は然乙。安徽涇の人。乾隆元年の進士。御史に累官す。蜀に在ること五年、直擊あり。古詩文に工みに、詩は漢魏より宋元に及ぶまで學く貫ぬかざる無し。獨り杜工部を宗とす。晚に昌黎に歸す。其學尤も史に長じ、特識ありて雷同の說を爲さず。著に讀左管窺、漱芳居文集あり、世に行はる。

テウセン 趙穿 (周)晉人。夙の庶孫。襄公の壻なり。靈公六年秦兵來り攻む。穿將として之を禦ぎ功あり。靈公不君なり。趙盾屢々之を諫む。公將に之を攻んとす。盾齊に奔る。十四年秋九月穿公を桃園に攻めて之を弑す。

テウセン 趙旃 (周)晉景公三年、楚、鄭を伐つ。晉師を出し之を援ふ。楚、成ぎを晉に求む。期に先ち盟を破り來り襲ふこと甚だ急なり。旃、公子等を棄て族を殺せて奔る。

テウセン 趙戩 (漢)字は叔茂。平陵令と爲る。戩本と王允の故吏なり。允害せられ敢て其尸を收むる者莫し。戩、官を棄てゝこれを營葬す。李郭嘗て戩を捕ふ。衆人震危す。戩顏色自若たり。李郭乃ち悔謝す。

テウセン 趙瞻 (宋)鼎屋の人。進士に第し、孟州司戶參軍に調せらる。萬泉夏縣を歷知し皆善政あり。英宗の時、侍御史を以て上疏す。出て汾州に判たり。神宗の時、開封に判として青苗の不便を言ふ。出て同州に知たり。同知樞密院事に累遷して卒す。

テウセン 趙蕃 (清)字は然乙。安徽涇の人。乾隆元年の進士。御史に累官す。蜀に在ること五年、直擊あり。古詩文に工みに、詩は漢魏より宋元に及ぶまで學く貫ぬかざる無し。獨り杜工部を宗とす。晚に昌黎に歸す。其學尤も史に長じ、特識ありて雷同の說を爲さず。著に讀左管窺、漱芳居文集あり、世に行はる。

テウセン 趙穿 (周)晉人。夙の庶孫。襄公の壻なり。靈公六年秦兵來り攻む。穿將として之を禦ぎ功あり。靈公不君なり。趙盾屢々之を諫む。公將に之を攻んとす。盾齊に奔る。十四年秋九月穿公を桃園に攻めて之を弑す。

テウセン 趙旃 (周)晉景公三年、楚、鄭を伐つ。晉師を出し之を援ふ。楚、成ぎを晉に求む。期に先ち盟を破り來り襲ふこと甚だ急なり。旃、公子等を棄て族を殺せて奔る。

テウセン 趙戩 (漢)字は叔茂。平陵令と爲る。戩本と王允の故吏なり。允害せられ敢て其尸を收むる者莫し。戩、官を棄てゝこれを營葬す。李郭嘗て戩を捕ふ。衆人震危す。戩顏色自若たり。李郭乃ち悔謝す。

テウセン 趙瞻 (宋)鼎屋の人。進士に第し、孟州司戶參軍に調せらる。萬泉夏縣を歷知し皆善政あり。英宗の時、侍御史を以て上疏す。出て汾州に判たり。神宗の時、開封に判として青苗の不便を言ふ。出て同州に知たり。同知樞密院事に累遷して卒す。

テウセンエイ 趙胥翠 (清)字は然乙。安徽涇の人。乾隆元年の進士。御史に累官す。蜀に在ること五年、直擊あり。古詩文に工みに、詩は漢魏より宋元に及ぶまで學く貫ぬかざる無し。獨り杜工部を宗とす。晚に昌黎に歸す。其學尤も史に長じ、特識ありて雷同の說を爲さず。著に讀左管窺、漱芳居文集あり、世に行はる。

テウセン 趙穿 (周)晉人。夙の庶孫。襄公の壻なり。靈公六年秦兵來り攻む。穿將として之を禦ぎ功あり。靈公不君なり。趙盾屢々之を諫む。公將に之を攻んとす。盾齊に奔る。十四年秋九月穿公を桃園に攻めて之を弑す。

テウセン 趙旃 (周)晉景公三年、楚、鄭を伐つ。晉師を出し之を援ふ。楚、成ぎを晉に求む。期に先ち盟を破り來り襲ふこと甚だ急なり。旃、公子等を棄て族を殺せて奔る。

テウセン 趙戩 (漢)字は叔茂。平陵令と爲る。戩本と王允の故吏なり。允害せられ敢て其尸を收むる者莫し。戩、官を棄てゝこれを營葬す。李郭嘗て戩を捕ふ。衆人震危す。戩顏色自若たり。李郭乃ち悔謝す。

テウセン 趙瞻 (宋)鼎屋の人。進士に第し、孟州司戶參軍に調せらる。萬泉夏縣を歷知し皆善政あり。英宗の時、侍御史を以て上疏す。出て汾州に判たり。神宗の時、開封に判として青苗の不便を言ふ。出て同州に知たり。同知樞密院事に累遷して卒す。

テウセンケン 趙普言 (宋)字は從之。祖元陰を守る因て家す。初め常熟尉に調せらる。侍郎劉穎、參政張孝伯、見て之を器重す。朝請郎知臨江軍に終る。其官に居ては民を利し、事に於ては剛勇之を爲す。兩邑一郡、皆陰德あり。

テウセンサ 趙善佐 (宋)字は佐卿。邵武に居り。宗室の子を以て有司に試みられ、連りに中りて將仕郎に授けられ、果官して泰州常德府嶺州に知たり。法を舉じ民を愛し、勸儉を以て自ら約飾す。妾に公帑を費さず、干請應ずる所無し。穎に在ること年を踰ねて卒す。民之を哀思す。善佐、學を張敬夫に受け、又朱熹に從て學ぶ。疑義問答あり。

テウセンジ 趙選侍 (明)光宗の選侍。未だ封號あらず。熹宗即位して魏忠賢、客氏之を惡み、旨を矯めて自盡を陽ふ。選侍、光宗の賜物を案上に列し、四向して佛に禮し、痛哭自經して死す。

テウセンシヤウ 趙善湘 (宋)字は清臣。太宗七世の孫。嘉定の初、屢々賊を平定す。樞刑部侍郎知建康兼江東安撫使行宮留守に累擢せらる。淳祐の初、致仕して卒す。帝震悼朝を輟め、少師を贈り賻物加等あり。著若干。

テウセンシユン 趙善俊 (宋)字は俊臣。不衰の子。薦を以て召對して旨に稱ふ。廬州に知たり。金の和好輯むべからざるを知り、城池を浚へ農政を修めて之が備へを爲す。善俊功名を喜び事を論ずるを好む。卒する年六十。

テウセンホウ 趙善封 (宋)字は德可。慶元進士の第に登る。實德に密たり。學校を崇び農業を課す。當時名卿交々之を薦め、以爲らく古の循吏に庶幾しと。容州を守るに及び、尤も意を撫字に加へ、產藉を校して以て差役を定め、保伍を立て以て盜賊を戢む。廣右帥臣、善封の風力あるを以て、檄して藤梧等六郡の兵を率ゐ以て賊を討せしむ。方さに道に就き賊已に敗散す。政を爲す寬平、尤も廉潔を尙ぶ。大師楊長繩、嘗て餽るに詩を以てす曰く、清如玉壺冰、淡若朱絃懇と。

テウセンヨ 趙善譽 (宋)字は醇之。太宗六世の孫。幼より敏慧にして學を力む。海盜を捕得するの功を以て兩浙運幹を授け臨川に知たり。官に居り廉潔自ら率ゆ。祠を乞ふて歸り、圖書自ら娛しむ。卒する年四

十七。著述甚多し。易說あり尤も稱せらる。

テウゼンリヤウ　趙善良　**趙善良**　(明)繪事に名あり。

テウゼンレウ　趙善璙　(宋)字は德純。歙縣の人。宋の宗室。少くして苦學登第す。德淸縣簿と爲る。嘗て曰ふ、士大夫官に臨み民に臨む、九章に明らかならざれば則ち以て疑ひを斷する無しと。後ち大理評事に除せられ、尙書郎に累官す。自警篇あり世に行はる。

テウソ　龜錯　(漢)潁川人。孝文帝の時、濟南の伏生に就きて尙書を受く。後、太子(孝景帝)の家令と爲りて幸を得。太子の家、號して知囊といふ。太子即位して錯を內史と爲す。錯、數々間を請びて事を言ふ。寵、九卿を傾け、法令、更定する所多し。丞相以下之を忌む。後、遷りて御史大夫と爲り請うて諸侯の地を削らんとす。吳楚七國反し、錯を誅するを以て名とす。袁盎、奏して曰く、錯を斬り諸侯の故地を復せば刃に血ぬらずして亂平がんと。錯、遂に東市に腰斬せられ父母妻子皆棄市せらる。(龜、一に晁に作る)

テウソウ　晁崇　(南北)字は子棐。天文術數を善くす。太史令に拜せらる。

テウソウ　趙悰　(宋)字は彥忠。待制恩誠の子。晉江の人。朱文公と善し、福建を爲む。管に遷り撫法の民を病しむる者を寬す。惠州に知たり。惠、前に豐郡と稱し、後ち縣寄を報ず。悰曰く、必ず吏の欺むくなりと。之を覆するに果して米斛七十、緡錢五萬を得たり。悰入りて既に能く淸ます。餘を斥けて民に惠む。治是を以て聞ゆ。常平に提舉し、官に卒す。

テウソウ　趙曾　(淸)字は北嵐。乾隆己酉の舉人。官は知縣。金石文字及び古錢を好む經を治めて三經及び古文尙書、左氏春秋に深し。

テウソウイウ　趙宗祐　(宋)允讓の子。幼にして父母を失ひ、克己自約、寒士の若し。宗族其賢を推す。靖海軍節度使、開府儀同三司に累遷す。紹聖間卒す。欽王に追封し穆恪と謚す。

テウソウイウ　晁宗裕　(宋)字は孝元。原州の人。進士登第して秘書省校書郎に試し、青州從事に歷し、著作佐郎に改まり、常熟縣を知り、秘書丞に遷る。

テウソウカク　晁宗恪　(宋)字は世恭。尙書遷の子。人と爲り樂易慈恕、言笑少く喜怒の色を見はさず。世父迥の蔭を以て將作監丞に調せられ、信州に知たり、光祿卿と爲る。

テウソウカク　晁宗愨　(宋)字は世良。迥の子。父の蔭を以て秘書省校書郎と爲る。召試して進士及第を賜ふ。康定中、翰林學士と爲り、資政殿學士、工部尙書に歷す。卒して文莊と謚す。

テウソウカン　趙宗漢　(宋)允讓の子。生平豪を善くす。嘗て八鷹の圖を作る。人其工を稱す。檢校司徒大尉に累拜す。大觀中、上其邸に幸す恩澤優渥なり。薨じて太師を贈り景王に追封し、孝簡と謚す。

テウソウガン　趙曾巖　(南北)北海の人。寥廓常無、人測る能はず。劉善明と友たり。善明青州と爲る、舉げて秀才と爲さむと欲す。大に驚き衣を拂つて去る。忽ち沙門と爲り山谷に栖遲す。嘗て一靈を以て自隨ふ。一旦弟子に謂て曰く、吾れ今夕靈中に死すべしと。夜に至て亡す。

テウソウケツ　趙宗潔　(宋)字は廬則。括蒼の人。進士に舉げられ、浙西常平提舉を授けらる。入て右侍郎と爲り又人才を以て宰相と爲る。理宗の朝、中貴盧必升、權を擅まゝにし事を用ふ。在朝の人敢て言ふもの無し。宗潔奏して之を罷斥し、以て官府紀綱を肅せむと乞ふ。是に由て名朝廷に振ふ。官に居て私謁を受けず。至る所、淸濁を激揚するを以て譽を著はす。

テウソウゲン　晁宗愚　(宋)仲詢の父。

テウソウジ　趙崇滋　(宋)字は澤民。永嘉の人。父汝豊、第に中り道州通判に終る。崇滋少くして穎悟、卓犖不羈。嘉定の第に登り嚴州司戶に調せらる。氣を尙びて屈せず。檄に當り浙右に繼す辭して行かず。人其淸を贊す。詩に工に、儕に輩人間に入り、義獄の遺憾を得たり。子必愧、必杉、俱に登科す。必莽、舍選を以て褐を輝く、必穫、貴溪宰に終る。

テウソウセイ　趙宗晟　(宋)允讓の子。紹聖の初、武安軍節度使を以て大宗正事に判たり。奥宗郊せむとして雨ふる。或は改めんとするを勸む。宗晟曰く、至誠神を感ぜしむ、精意に在りと。朝に及び果して霽る。薨ずる年六十五。太師を贈り呂王に封し、端孝と謚す。

テウソウバン　趙宗萬　(宋)字は仲圖。少くして名を知らる。鍾忠鄭之れを器とす。入朝するとき之と俱にせむと欲す。親老を以て辭して行かず。既に長じて博く書傳を極め、經濟の術を貫ふ。進士を以て詔に應ず、眷宮に館す。宗萬天資蕭散、世故に於て淡然たり。壯歲室を郡の照水坊に築く。左は平明を瞰み、前は秦望を挹む。一鶴を蓄ふ丹沙と號す。以て侶と爲し、足跡高門に及ばず。懷を披し書を讀み、怡然として自適する者三十餘年。祥符中、詔して遺逸を舉ぐ。鄂守張戩、宗萬を以て薦む。尋で召さる。乃ち曰く、吾れ老す、以て事を任ずるに足らずと。因て跛奚傳を獻に以て自ら見めす。且つ自ら道家流に託せむと請ふ。朝廷其志を奪はず、賜ふに羽服を以てす。後ち十余年卒す。宗萬神志淸明、饑度寒暑、終日憂淡嬰兒の若し。然れども去就取舍の際は確乎として奪はれざる者あり。八分草隸書を善くし、畫扁術或は辟穀導氣に通ず。嘗て詩を爲て曰く、吐懸金印心雖動、屛列春山眼暫開と。

テウソウゲンクワウテイ　趙祖原皇帝　(淸)姓は愛親覺羅。名は孟德穆、黑圖阿喇地に居り。其事跡多く詳かならず。

テウソドウ　趙祖同　(宋)本、隱事の人。富順に僑寓す。隱居して書を讀み、志行純潔。鄉閭稱式と爲す。郡學の主ごるに當り、席に即て守貳以下、皆之を禮す。善く文を屬し、凡そ郡邑學舍祠廟碑刻は、皆其手に出づ。

テウタイ　趙泰　(明)潞城の人。字は熙和。鄉舉より國子監に入り、都察院に歷事し、知州に擢てられ、工部郎中に累遷して官に卒す。

テウダイ　刁代　(元)元江路安撫使たり。時に洞蛟、民害を爲す。代、利劍を挾さみ洞に入り、蛟と與に死す。民愚始めて息む。每歲是日に於て祀るに大牢を以てす。

テウタウ　趙棠　(宋)衡山の人。少くして胡宏に從て學ぶ。嘗て張浚に督府に見ゆ。浚、雅より其才を敬す。右選を以て之を官にす。棠屈せず。果りに策を以て兵事を言ふ。浚之れを奇とし、子栻に命じて棠と交はらしむ。棠の子遂に栻に從て學ぶ。

テウタウ　刁璹　(宋)字は景汜。熙寧中、於潛令と爲る。蘇軾、縣に行き、爲に野霧亭の詩を賦す。我來觀政問風謠、皆云吠犬足生蕎の句あり。後、蘇軾と並に浮槎の上に嗣らる。

テウタツ　趙達　(晉)九宮一算の術を治め、對問神の如し。一日知故を過ぐ。之が爲めに食を具ふ。食畢る。謂て曰く、倉卒酒殺に乏しきなりと。遂因て盤中の隻雞を取り再三之れを縱橫す。乃ち言ふ、卿東壁に美酒一斛又鹿肉三斤ありと。主人大笑して曰く、卿の善射を以て、故らに相試みるなりと。遂に酒肉を出して酣飲す。

テウタン　銑丹　(漢)期の子。

テウタン　刁湛　(宋)衍の子。

テウタンイ　趙端頤　(宋)字は養止。臨川の人。進士及第を賜ふ。康定中、翰林學士と爲り、資政殿學士、工部尙書に歷す。卒して文莊と謚す。

テウタンイウ　晁端友　(宋)字は君成。迥の曾孫。沈靜淸介、文詞に工なり。尤も詩に長じ常に自ら晦匿して人の知るを求めず。早く進士に登り累官して著作佐郎に至る。詩文淸厚靜深、每篇輒ち新言奇語を出す。蘇軾嘗て其文に叙す。

テウタンキ　晁端規　(宋)仲詢の子。

テウタンギ　晁端義　(宋)公謂の祖。

テウタンク　晁端矩　(宋)仲詢の子。

テウタンゲン　晁端彥　(宋)字は叔美。仲衍の子。章子厚と同じく乙亥に生れ、同榜に及第し、又同じく館職と爲り、常に三同を以て相呼ぶ。紹聖の初、子厚入りて相た

り。叔美、其施設、大に金山に在る時言ふ所と書くを見、因て力を竭して之を諫む。子厚怒りて黜けて陝守と爲す。叔美、所親に謂て曰く、三同今は百不同なりと。秘書少監、開府儀同三司に歴す。文章字法、朝野宗朝す。子祁之、觀之、詠之。

テウタンジュン　晁端準　(宋)仲詢の子。

テウタンリン　晁端禀　(宋)字は大受。宗懿の孫。仲衍の子。寂然居士と號す。文を爲る捷敏、早く名譽あり。進士に第し累官して堯山縣に知たり。

テウチ　趙智　(明)正德中、賊鉅鹿を掠めて智の母を捕ふ。智曰く、母の年老ゆ、我が殺せ。弟慧亦曰く、兄年長ず、願くば留まりて母を養ひ、而して我を殺せと。母復た曰く、吾老いたり當に死すべし、乞ふ二子を留めよと。賊笑つて並に釋す。

テウチウ　刁冲　(南北)字は文期。十三にして孤なり。家世々貴達なれども而かも身自ら炊爨し、志を勵ふして學に向ひ晝夜を舍てず殆ど寒暑を忘る。諸經に通じ、凡そ陰陽圖緯筭數天文風氣の書、該綜せざるは無し。當世、其精博に服す。魏の宣武、徵して功曹主簿と爲す。

テウチウキ　晁仲熙　(宋)字は子敬。迥の孫。蔭を以て將作監主簿を授けられ才を以て稱せらる。太子右贊善、虞部比部員外郎に歴し、均州を知り、南京國子監に列たり。平生忠信坦夷、寬裕にして矜伐せず。君子以て文元(迥)の風ありと爲す。

テウチウギヨ　趙仲御　(宋)允讓の孫。博く經史に通ず、多く典故を識る。帝特に優禮を加ふ。泰寧軍節度使、開府儀同三司に累拜す。薨ずる年七十一。太傅を贈り郇王に追封し康孝と謚す。

テウワウクワウ　趙汪光　(清)字は輝堂。貴州郎岱廳の人。咸豐六年、勇丁より雲南回匪を勦して功あり。同治元年進むで王牟を攻む。王牟は清水江外に在る賊の老巢なり。汪光奇兵を用ひて之を奪ふ。三年、黔省群盜麻の如く、巨熟潛名志、省南に踞り、何得勝、省北に距ぐ。汪光頻年轉戰虛日無し。六年貴郎岱廳の賊安平に入る。汪光蘆筑に要喉一伏に中つて死す。賊出でゝ、心を剖き腹を裂き首を攫み去る。年三十。官は提督に至る。剛節と謚す。

テウチウシ　晁冲之　(宋)字は叔用。少にして才華あり。知を後山に受く。呂居仁の江西詩派圖二十五人、冲之與る焉。詩あり云ふ、男兒更老氣如虹、短髮何嫌乱似蓬。欲問桃花借顏色、未甘著笑向東風と。紹聖の初、黨中に落ち、超然として具茨の下に家す。屈々鬱むれども應ぜず。具茨集あり。

テウチウジュン　晁仲詢　(宋)字は翁民。宗懿の子。性穎敏なり。黄晉直一見之を奇として篇を贈る。云へるあり。歌若豪甚倚天劍と。五たび禮部に試して奏名せず。退きて任城に居り親に事ふ。而して公燕を樂み四方の賓客三日を問せず。又勸めて遠近に施し室中の有無を顧みず。人皆德宇嶽ひ難きを歎ず。仲詢風儀溢重妄りに言笑せず、一喜怒猶ほ儼若たり。子三人、端規、端矩、端準。

テウチウシヨク　趙仲湜　(宋)字は巨源。允讓の子。欽宗の朝、靖海軍節度使に拜す。高宗南遷の時紹興府に寓す。薨して儀王に追封し恭孝と謚す。

テウチヤウ　刁暢　(晉)彝の子。

テウチヤウ　趙昶　(五代)肇の弟。家世々陳州の牙將たり。唐末、黄巢陳を犯す、昶の兄弟之を防き、又兵を梁を乞ふ。梁の太祖、李克用と共に之を援ふ。兄弟共に梁に躍す。既にして秦宗權復淮西を乱し旁二十餘州を陷る。兄弟力を併せて力拒し爲に全きを得たり。肇死して昶襲て節度使と爲る。兵を休し農を課し、梁に事ふること尤も謹む。

テウチヨウ　趙逖　(清)字は雲江。博學にして詩を善くす。山水に工みに、尤も臨摹を善くす。

テウチヨウクワ　趙亘華　(明)雲南太和の人。七歳の時、父廷瑞、江湖の間に遊ひ久うして返らず。亘華長じて萬里親を尋れ、遂に無錫南禪寺に於て父を見、相與に慟哭す。乃ち雲南に還る。

テウチヨウフク　趙重福　(金)字は履祥。豊州の人。女直大小字に通ず。河東北路轉運使に遷りて致仕し、元光二年卒す。

テウテイ　趙鼎　(宋)字は元鎮、聞喜の人。巢寧中の進士。高宗に謁ひ南渡す。殿中侍御史に累官す。四十餘を陳し御史に遷る。初め鼎、張浚を薦む。後ち並ひ相となり、心を協せ以て興復の功を謀る。秦檜と和議を論じて合はず、相を罷め嶺南に謫せらる。吉陽に在り食せずして卒す。自ら銘旌に題して云ふ、身騎箕尾歸天上、氣作山河壯本朝と。孝宗の時太傅登國公を贈り、謚して忠簡と爲す。

テウテイ　趙瑧　(明)字は秉珪。絳縣の人。崇禎元年の進士。南安侯官二縣を知す。歴々河間兵備僉事に遷る。太僕を贈られる。

テウテイキツ　趙貞吉　(明)字は孟靜。內江の人。六歳にして日に書一卷を誦す。博洽を以て知られる。最も王守仁の學に善し。嘉靖十四年の進士。中外に歴官す。南京禮部尚書兼文淵閣大學士に遷り太子太保を累加せらる。此の時に方り、朝臣權を爭ひて止まず。貞吉休を乞うて去り、萬曆十年卒す。忠保を贈り文肅と謚す。

テウテイシン　趙廷臣　(清)字は君鄰。漢軍鎮黄旗人。順治二年、貢生より山陽縣に知たり。累遷して浙江總督と爲り、太子少保を加へらる。晝て獨り官書を治め丙夜に至りて燭并ひ爵す。左右其私を行ふを得ず。寃獄を平反し、剖決留滯なし。惠を加へ民を恤む。行路之が爲めに感泣す。尤も惹直を嫉絶す。歳時の餽獻、敢て其門に至らず。卒して清獻と謚す。

テウテイズ并　趙庭端　(元)字は天表。庭珍の弟。宿衛を以て先鋒と爲る。屢々宋を攻めて功あり。中統間、羌人犯す。大に之を破る。都掌蠻叛す。松枝を聯絡牌と爲す。庭端射て其牌に出づる牟幹、鑾、鑾服す。潭州路總管に改む。居ること三年にして卒す。

テウテイビ　趙廷美　(宋)字は光美。天祖の弟。乾德の初、同中書門下平章事に累拜す。後ち進みて秦王に封ぜらる。太平興國の間、太宗契丹を征せ一とき、命を受け東京に留守す。其の軌を謀ると皆くる者あり。是に於て罪を得たり。又珍符の讒を以て、降て涪陵縣公と爲り房州に安置せらる。憂悸疾を爲す。雍熙の初卒す、年三十八。涪王に追封し謚して悼と曰ふ。仁宗の時、太師尚書令を贈る。

テウテイラン　趙庭蘭　(明)徐人。洪武中、知潍陽縣たり。能く民を愛し事に任ず。朝廷若て便を還はして陳氏の散卒を徵す。他姦多くは民丁を以て之に應ず。庭蘭獨り言ふ。歸には有る無しと。潍陽の人、永く庭蘭を稱すといふ。

テウテン　趙典　(漢)字は仲經。成都の人。父戒亡尉と爲る。桓帝立て、定策の功を以て廚亭侯に封ず。典少して篤行謹約。博く經書を學ぶ。父卒して封を襲ぐ。後ち太常と爲る。朝廷災異疑議有る毎に、輙ち之に咨問す。典經正に據て對ふ。後ち閑に就く。

テウテン　趙甸　(清)字は禹功。會稽の人。明滅びて後、綱に隱れ、醫を賣り以て活計を爲す。晚年學を倡山に講す。生徒甚衆し。

テウデンカウ　趙敏昂　(清)字は功千。谷林と號す。仁和の貢生。性風雅に耽り、春草園を築く。池館の盛あり。藏書甚富み、異本書數萬卷。著に愛日堂集あり。

テウテンシヤク一　趙天錫　(元)字は受之。冠氏の人。太祖南下せしとき、天錫遂に帳下に隸す。仍て冠氏令と爲る。眞定の李全來り攻む。天錫死士を率ゐ城に乘り力戰す。敵下す能はざるを度り遁れ去る。太宗の時、行在に朝して民事の便を陳す。

テウテンタク　趙天澤　(元)字は鑑淵。蜀の人。工に梅竹を畫く。

テウテンリン　趙天麟　(元)山東夏津の人。博學文を能くす。至元中、布衣を以て太平金鏡策を進む。前後數萬言。政事を評論すること、多く時宜に切なり。他に著はす所の詩文尤も富む。其稿多く傳はらず。

ダウドウ　道同　(明)河間の人。其先は蒙古族。母に事へ孝を以て聞ゆ。洪武の初、太常司贊禮郎を授く。出て番禺知縣たり。法を執る嚴にして一毫も假借せず。會々永嘉侯朱亮祖至り同を撓かす。同爲に動かず。亮祖京に還り、同が詘微無禮の狀を勅す。帝其由を知らず、使を遣はして之を誅す。縣民悼惜して木を刻して祀る。

テウトウギ　趙東曦　(明)字は馭初。上海の人。萬曆四十七年の進士。崇禎中、知鮮より刑科給事中に歴す。王坤に忤ひ謫せらる。又起つて行人司に遷る。福王の時、給

事中に擢せらる。官に卒す。

テウトク　趙德　(唐)海陽の人。經に明らかに古に博く、力めて異端を排し、文學を以て著はる。韓愈聘して士子の師と爲す。潮人學を知る、此より始まる。號して天水先生と爲す。

テウトクイ　趙德彝　(宋)字は可久。廷美の弟。年十九、兄に代り沂州に判たり。徐州刺史保信軍節度觀察留後に累遷す。卒する年四十九。上臨奠朝を廢し、昭信軍節度使を贈り、信都郡王に追封し安簡と謚す。

テウトクイン　趙德誼　(唐)蔡州の人。初め秦宗權に仕へて申州刺史と爲る。梁太祖、蔡州を攻む。宗權屢々敗る。德誼乃ち山南東道七州を以て梁に下る。太祖大に喜び表して行營副都統河陽保義昌三節度行軍司馬と爲し、其兵を會して以て蔡を攻めて之を破る。德誼の功多し。子匡凝。

テウトクキン　趙德鈞　(宋)字は子正。廷美の子。性和雅、書翰を善くす。淳化の初、右武衛將軍に拜す。卒して河州觀察使を贈り、鄭國公に封す。

テウトクキン　趙德欽　(宋)字は丕從。廷美の子。右屯衛將軍に拜す。卒する年三十一。雲州觀察使を贈り雲中侯に追封す。子承遵、四京作坊使と爲る。

テウトクキヨウ　趙德恭　(宋)字は復禮。廷美の子。出て、申州防禦使を授けらる。官を免して父に從ひ房陵に徙る。端拱の初、安定郡公に進封し左驍衛左軍武大將軍に拜す。卒する年四十五。保信軍節度使を贈り申國公に追封し慈嘉と謚す。

テウトクゲン　趙德懿　(宋)字は公謹。廷美の子。淳化初、右千牛衛將軍に拜す。卒する年二十四。涼州觀察使、姑臧侯を贈らる。

テキイク　狄煥　(宋)字は子炎。梁公の後なり。喜んで詩を吟ず。柳を詠じて云ふ、墨色折不盡、離愁生更多と。

テキエイコ　翟永固　(金)字は仲堅。中都良鄉の人。宗翰其の能を愛し辟して府椽となす。諸官を歷て尚書丞となり、大定六年卒す。

テキエンジ　狄婉兒　(元)女子。古詩を善くす。

テキギ　狄儀　(周)賢人なり。

テキギ　翟義　(漢)字は文仲。東郡の太守たり。王莽攝に居り。義乃ち陳豐に謂て曰く、新都侯天子の位を攝し、故ちに宗室の幼稚者を擁び、以て疑ひを依托、周公成王を輔くるの義と爲す。且づ以て觀望するに、必ず漢家に代らん、方今天下衰弱して外に強藩なし、天子傾首服從して能く國難に抗するなし、吾幸に宰相に備はるの身にして大郡に守たるを得たり、漢の厚恩を受く、義まさに國の爲めに賊を討ち以て社稷を安んずべしと。兵を起して四、王莽を誅せんと欲す。

テキクワウ　翟璜　(周)下邽の人。魏の文侯士大夫と與に坐す。問ひて曰く、寡人は如何なる君ぞ。皆曰く君は仁君なりと。翟璜曰く、君は仁君にあらずと。文侯怒り公叔座に問ふ。叔座對て曰く仁君なりと。曰く、子何を以て之を言ふ。對て曰く、臣之を聞く、其君仁なれば其臣直なりと、向きに璜の言直なり、是を以て知ると。文侯曰く善しと。復た璜を召して上卿となす。

テキクワウゲフ　翟光業　(五代)繼母に事へ孝を以て聞ゆ。財産を殖せず、官舍を假りて以て居り、蕭然として僅かに風雨を蔽ふ。日に賓客と酒を飲み書を案めて樂とす。後周に仕へて樞使となる。

テキクワウシ　狄光嗣　(唐)聖曆の初、司府丞となる。武后宰相に詔して、各々尚書郎一人を舉げしむ。仁傑、光嗣を薦む。職に稱ふを以て聞ゆ。后曰く、郝奚內舉して果して人を得たりと。光嗣は仁傑の子なり。

テキケイ　翟景　(周)戰國の時、天下合從遊說の士なり。

テキケウ　翟璆　(晉)湯の孫。莊の子。克く其の德を世々にし子法賜に至る。時人稱して溥陽の四翟と云ふ。

テキケンイウ　翟乾祐　(隋)道術あり、考召を以て名を著はす。雲安の一邑、江流の險十有五處あり。一日其難神を召して之を平げしむ。來る者十四人、最後に至るは乃ち一女人なり。曰く、沿江の小民、江流の險に藉り、人の爲に挽負して以て其身を實するものあり、豈平くべけんやと。是に於て難神に命じ悉く其險に復せしむ。

テキケンボ　狄兼謨　(唐)字は汝諧。仁傑の族曾孫。剛正にして祖風あり。文帝の朝、御史中丞たり。帝曰く、御史は是れ朝廷紀綱の一なり、臺正しければ則ち朝廷治ると。尚書左丞に官す。

テキコウ　翟公　(漢)下邽の人。文帝の時廷尉となり賓客門に滿つ。罷むるに及び門外雀羅を設くべし。後ち復た用ひらる。賓客往かんと欲す。公其門に大書して曰く、一死一生、乃知交情、一貧一富、乃知交態、一貴一賤、交情乃見と。

テキコウ　翟興　(宋)字は公祥。伊陽の人。徽宗の時、弟進と寡に應じて賊を擊ち大翟小翟と號す。陵寢を保護するの功を以て四京の安撫使に累官し河南府に知たり。紹興の初、劉豫將に汴陰に遷らんとす、人を遣はして興を殺さしむ。事聞す。保信軍節度使を贈らる。興將となつて勇略多し。軍食或は繼かざれば激するに忠義を以てし奮勵せざるなし。河南に在り、金人敢て睢陵を犯さず。

テキコテツ　廸姑迭　(金)溫廸琴部の人。軍功あり。天輔七年、上に從ひ山西に至り病みて卒す。年四十七。

テキサウ　翟莊　(晉)湯の子。字は祖休。少くして孝友を以て著はる。湯の操に遵ひ人物に交らず、耕して而して後食ひ、酷俗に及ばず、惟だ弋釣を以て事となす。昌ずるに及びて復た獵せず。或人曰く、漁獵は同じく生を害するの事なり、先生其一を去るは何ぞやと。莊曰く、獵は我よりし、釣は物よりす、未だ領畜する能はず、故に先つ其甚しき者を節す、且つ失れ餌を食りて鈎を呑むは豈我ならんや、莫我ならんやと。時人以て知言となす。晚節亦た釣せず、鄴門に端居し菽水喰ひ水を飲み、州府の禮命及び公車の徵、並びに就かずして卒す年五十六。

テキサン　狄山　(漢)博士。武帝の征伐を諫む。

テキシ　狄諮　(宋)字は君謀。狄青の子。熙寧中、閤門使奏事延和殿となる。上問ふ、卿の父資書ありやと。乃ち平蠻記及び戰陣圖を奉る。

テキジンケツ　狄仁傑　(唐)字は懷英。太原の人。明經に舉げらる。嘗て并州に赴き太行山に登り白雲の孤飛するを見て曰く、吾が親舍其下に在りと。同府の參軍鄭崇質、母老い且つ病む。嘗て絕域に使せしめられんとす。仁傑、請うて代り行く。長史簡仁基、之を義として曰く斗南の一人と。後ち地官侍郎同平章事を以て委曲、武后に請ひ政を還さしむ。薦むる所の張柬之姚宗等皆中興の名臣たり。或人之に謂つて曰く天下の桃李盡く公の門に在りと。公曰く、賢を薦むるは國の爲なり私の爲に非ずと。聖曆舊むるは國の爲なり私の爲に非ずと。中詔して各々尚書郎一人を舉げしむ。仁傑其一、光嗣を舉げ職に稱へり。后曰く昔、新奚、內舉して人を得たり今卿は是なりと。公江南の巡撫たり。吳楚淫祠多し。公之を毀つこと一千七百餘。獨り留めし所のものは夏禹吳泰山季札伍員の四祠のみなり。幽州の都督に遷る。紫袍金帶を賜ひ親ら金字十二を記に製して以て其忠を旌ぜらる。中宗の時梁國公に封ぜられ文惠と謚す。仁傑昌平に令たるの時老嫗あり。泣て虎其子を害せしを訴ふ。仁傑文を移して神を呼ふ。幾ばくならずして虎階下に伏す。乃ち衆に告げて之を殺さしむ。又彭城の令と爲る。奏して大辟を赦すもの三百餘邑人、之を德とし、望雲台を立て以て祀る。

テキジユンド　狄遵度　(宋)字は元規。梁の昌子。少にして穎悟、篤く學に志す。書を讀む毎に、得る所あれば即ち仰臥瞪視す。人之を呼ぶも應ることなし。父の任を以て襄陽主簿となり數月にて棄て去る。好て古文を爲り、春秋雜說を著し發明する所多し。嘗て時學の靡散を思ひ皇子冊文を作擬す。侍御史に除せらる。裴晉公傳を制す。人多く之を稱す。尤も杜甫の詩を嗜み嘗て其集に讀す。一日夢に甫を見て爲めに世に未だ知られざるの詩を誦す。覺むるに及んで纔に十餘字を記す。遵度之を足成す。後、數月にて卒す。集あり十二卷。著す所の石室論二江の諸賦、白雲秋月の諸篇並びに館閣と稱せらる。

テキシヨウシ　狄承嗣　(宋)蓬州の人。母年八十忽ち病む。承嗣、湯藥必ず親ら嘗め、夜則ち香を焚きて昊天に叩頭し身を以て代らんことを願ふ。母卒す。身、土を負ひ墳を成し墓に廬すること三年。

テキジヨブン　翟汝文　(宋)字は公巽。丹

陽の人。進士に擧げらる。紹興の初、輪林學士に累官し政事に參與す。秦檜と和せずして罷め去る。汝文風度翹楚、古を好み篆隸に精し。文集あり。

テキセイ　狄青　(宋)字は漢臣。四河の人。風骨奇偉。騎射を善す。仁宗の時、西夏、青を拔いて延州刺史とす。戰ふ毎に、飭るに銅面具を以てず。敵之を望む神の如し。後ら廣西を宣撫す。時に儂智高、眞宗を破守る。青、賓州に至り、上元の節に値ふ。大に燈を張らしめ、首夜將佐を宴し、次夜參軍と宴し、次夜三更、青忽ち疾と稱し暫く起て內にゆき藥を服す。數々左右を遣はして酒を行はしむ。客、曉に至るも未だ散せず。忽ち報して云ふ、三更已　眞宗を破ると。

テキゼン　翟善　(明)字は敬夫。貫擧を以て吏部文選司主事に歷官し、再遷して尙書に至る。經術に明に、奏對帝の意に合ふ。頗る寵倖せらる。洪武二十八年、事に坐し宣化知縣に降す。以て終ふ。

テキソウシン　翟琮深　(宋)翟興の子。勇にして父の風あり。翟興に繼ぎて鎭撫使となる。

テキソン　翟巽　(金)章宗の時、貴德州の人。

テキタウ　翟湯　(晉)字は道淵。南陽の人。漢の翟方進の後なり。篤厚任素、讓廉節にして、餽贈一つも受くる所なし。乱の多きに値ふも、寇、湯の德名を聞き皆敢て犯さず。庾亮江州に臨み、湯の風を聞き、束帶躡履して詣る。禮甚だ恭し。湯曰く、使君直だ其枯木朽株を敬するのみと。亮其能言を惜し裘してこれを蔽む。國子博士に徵さるれども赴かず。主簿張玄曰はく、この君は臥龍なり、動かすべからず。家に終はる。

テキタウ　翟唐　(明)字は魏佐。長垣の人。弘治十二年の進士。嘉光知縣より御史に擢づ。正德中、奏疏して時務を陳し、中に劉瑾が竊柄變蔽の語あり。瑾甚だ之を銜む。後ら事に坐し雲南蒼明知州に謫す。再遷して陝西副使となり卒す。

テキハウシン　翟方進　(漢)字は子威。年十二にして孤。四、京師に至り經を受く。後母之に隨ひ廬を織りて以て朝夕を給す。永始中相に拜せらる。後母猶ほ在り。儒雅を以て吏事を緣飾す。號して通明相となす。高陵侯に封ぜらる。

テキハフシ　翟法賜　(南北)海陽於桑の人。曾祖湯、祖湯、父嬌、並びに高尙にして仕へず、辟徵を退避す。法賜少くして家業を守り、屋を廬山の頂に立つ。親を喪するの後ち復た家に還らず。五穀を食はず、獸皮及び草を以て衣となす。鄉親と雖ども見るを得るなし。州、主簿に辟し秀才に擧げ著作佐郎に徵す。皆就かず。後ち其家入石室に至りて尋求す。因て復た遠從す。徵辟を遵避して通跡幽深なり。海陽太守鄧文子表して曰く、法賜廬山に隱迹すること今に四世、身は幽巖に栖み人見ること罕なり、如し當さに過るに王癒を以てし來すに嚴科を以てし、山を驅り草を獵り以て擒獲を期するも、必ず顚隕を致して盛化を傷つけんと。乃ち止む。後ち巖石の間に卒し月日を知らず。

テキヒ　狄梁　(宋)字は補之。長沙の人。進士に擧げられ甲科たり。太常少卿に累官し廣州に知たり。龍圖閣學士に遷り河中河南府に歷知す。

テキフフク　翟溥福　(明)字は本德。東莞の人。永樂二年の進士となり會陽知縣に除せらる。

テキフリン　翟普林　(南北)親に事ふるに孝を以てし、躬から耕して色養す。鄉里稱して楚丘先生となす。

テキホ　翟酺　(漢)字は子超。四世詩を傳ふ。圖緯天文歷算を善くす。安帝の朝六百石に議し、試みに政事に對へしむ。酺、對第一、尙書に拜せらる。

テキホウ　翟鵬　(明)字は志南。撫寧衛の人。正德三年の進士。戶部主事より陝西按察使に擢す。性剛介、清操を以て聞ゆ。嘉靖に至り、右僉都御史巡撫寧夏に進む。賊を討じ克たざるに坐し、京獄に死す。時人之を惜し。隆慶の初、官を復す。

テキホウチウ　翟鳳翀　(明)字は凌元。益都の人。萬曆間の進士。諸郡を歷知し治に聲績あり。上疏直諫す。旨に忤ひ江西に謫せらる。晉官編敕すれども皆納れず。天啓

の初、右僉都御史に擢拜す。魏忠賢の專權を憂へ連章之を論ず。遂に籍を削らる。崇禎の初、兵部右侍郎に拜す。尋で疾を以て歸り卒す。兵部尙書を贈らる。

テキボク　狄墨　(周)齊の人。孔子の弟子。

テキボク　翟牧　(漢)閬陵の人。子あり兄と云ふ。兄、同郡の白沛と孟子易を受け仕へて博士となる。是に由つて、易に孟白の學あり。

テキメイエン　狄明遠　(宋)大觀の進士。撫州に知たり。政を爲す清明。民を字くる方あり。邪人之を祀る。

テキラン　翟鑾　(明)字は仲鳴。其先は諸城の人。曾祖京師に家す。弘治十八年の進士。庶吉士を授けらる。正德の初、編修に改む。累遷して吏部左侍郎兼學士直文淵閣に至る。憂歸す。行沙使に充てられ、官、首輔に至る。會々嚴嵩に劾せられ、廷杖六十、其官を罷はる。越て三年卒す年七十。穆宗即位の初、官を復し、文懿と謚す。

テキリツ　狄梁　(宋)字は孟章。長沙の人。學好みて自立す。穀城縣に知たり。時に天下の學校久しく廢す。梁、即ち廟舍を修し子弟を訓率す。是より人文を尙ぶを知り風俗敦奬となる。

テツカ　鐵哥　(元)西域迦葉彌兒の人。世祖其容儀を愛して宿衞に備ふ。漢人の女を娶る。累官して中書平章政事に進む。足を病むを以て屑輿朝に入るを聽さる。帝嘗て北征の事を憶ふに悉く記する能はず。鐵哥條擧すると甚だ詳なり。皇慶中太傅錄軍國重事を加へらる。卒す、延安王に追封し忠獻と謚す。

テツゲン　鐵鉉　(明)鄧の人。洪武中、國子生より禮科給事に除し、都督府斷事に調せらる。嘗て疑獄を讞し立ろに白す。太祖喜び鼎石と字す。建文の初、山東參政たり。北伐、餉を督し乏しきと無し。又方面の功あり兵部尙書に擢す。後ち燕王に征服せられ執へられて至る。背を反し廷中に坐す。成祖怒り市に磔す。年三十七。

デツコライ　揑古來　(元)阿速氏。阿散眞の第。兄戰死す。帝其驍悍を見、從つて烏蠻を征せしむ。功あり。又從ひて宋を伐つ。流矢に中りて死す。

テツシツ　鐵失　(元)英宗に仕へ、累進して特進光祿大夫御史大夫を授けらる。威權朝を傾く。輒ち宿怨に因り羅織して獄を成し罪を加ふ。且つ英宗を禁錮に弑す。晉王即位し、其黨と俱に囚へ戮せらる。

テツソウクワウテイ　哲帝皇帝　(宋)姓は趙氏。諱は昰。神宗の第六子。即位の時年十歲。太皇の后同く政を聽く。悉く新法を廢す。司馬光を相と爲す。在位十五年にして崩ず。諡三十九。謚して欽文睿武孝皇帝と曰ふ。廟を哲宗と號す。改元三、曰く元祐、紹聖、元符。

テツハウ　鐵保　(清)字は冶亭。號は梅菴。茲州正白旗人。乾隆三十七年の進士たり。編修官より兩江總督に至る。先生、詩を以て名あり。百蘭溪詩、其詩、王子晉の月に向ひ笙を吹き雙鶴外に在るが如く、其氣韻の深宏に至りては、河流の源を天上に發するが如く、其推挹此に至つて著はる。梅菴尤も書法に工みなり。北人書を論ずる者、劉石も相國翁潭溪閣學と先生とを以て鼎足とす。

テツボクカアツセキキン　鐵木哥斡赤斤　(元)皇太弟也。太祖、乃蠻を伐つを議す。群臣諫ふ秋を俟つべしと。太弟曰く事爲すべきは之を斷せよと。遂に兵を擧げ大に之を破る。薨ず、子孫皆も蕃盛なり。

テツボクジタフシキ　鐵木兒塔識　(元)字は九齡。康里脫脫の子也。初め國子生に補せられ、順帝の時累遷して中書平章政事に至る。帝諭して曰く、爾の先人累朝に歷事して勞績あり、爾實に能く其家を世々にせよと。特に左丞相と爲す。塔識命を拜して紀綱を修飾し內外通調の法を立つ。上都に幸するに從ひ選つて政事堂に入る甫めて一日、暴かに卒す。年四十六。冀寧王に追封し文忠と謚す。生平學術正大、深く伊洛諸儒の書を究む。

テツボクテツシ　鐵木迭兒　(元)翼古の人。武宗の時雲南行省左丞に拜せらる。仁宗位に即くや、太后鐵木迭兒を以て右丞相と爲さんと欲す。帝已むを得ずして之に從ふ。鐵木迭兒勢を恃んで貪虐兇殘甚しく、中外爲に切齒す。中丞楊朶等四十余人共に劾して其樂豁姦貪國を誤るの罪を奏す。鐵木迭

見憎れて太后の宮に逃る。帝、后の意を傷るに忍びず、但だ其の相位を罷む。仁宗崩ずるや、遂に太后の命を以て復た中書に入り、己れに附せざるものを譖し其私報を逞す。帝是に於て漸く疏外す。因て疾と稱して出でず鬱々として家に死す。

テツリ　徹里　(元)燕只吉台氏。曾祖太赤、太祖に從ひて中原を定めて功を以て徐邳二州に封ぜらる。因て徐に家す。徹里幼にして孤、母之に學を教ふ。世祖召し見るに應對詳雅なり。因て悅ひて常に左右に侍せしむ。成宗立つに及び南臺御史大夫に拜せらる。未だ幾ばくなくして江浙平章に改む。九年召されて中書平章政事に拜せられ、尋で疾を以て卒す。年四十七。徐國公に追封せられ忠肅と謚す。至治中武寧王に加封し正憲と改謚す。

テツリテフボクジ　徹里帖木兒　(元)阿魯温氏。監察御史に除せらる。時に鐵木迭兒右丞相を以て擅に人を生殺す。敢て忤ふ者なし。徹里帖木兒獨り抗言して其奸を詆る。至元中累遷して中書平章政事に拜せらる。奏して科舉を罷む。後ち伯顏其已に忤ふを惡みて南安に貶す。竟に貶所に卒す。

テツレン　鐵連　(元)蠻人。綿州の人。早く拔都王府に宿衛す。中統の初、海都王叛かむとす。世祖德を以て懷けむと欲し、其使者を擒ふ。鐵連の雄辯を嘉し、命して往かしむ。遂に其任を全うす。母の老病を聞き侍養を乞ふ。詔して綿州を授く。

テフボクジフクワ　帖木兒不花　(元)脫歡の子。至元の初、廬州蕪湖牧地一百頃を賜ふ。廬州盜起る。蕪行之を討ち其渠帥を擒にす。明兵京師に逼まる。帝北に奔る。止まり國を監す。城破れ之に死す。年八十三。

テフボクリンコウシュ　帖木倫公主　(元)烈祖の妹。孛堯に適ぐ。孛堯、騎射を善くす。初め太祖潛邸に尤兒撒丹を出使せしむ。孛堯之を待ち禮遇加ふるあり。太祖大に喜び妻はすに皇妹を以てす。孛堯曰く、臣馬三千あり、請ふ其半を以て聘と爲さむと。太祖曰く、繒綵財を論ずるは商賈なり、朕方に天下を取らむとす、汝等忠を我に効す可し。皇女を以て娶はす。

デンアウ　田鞅　(周)齊の人。諸御官たり。常に陳恒と結納し親善なり。遂に恒を助け逆を成さしむ。

デンイウ　田雄　(元)字は毅英。北京の人。曉勇を以て顯はる。太祖の軍北京に至る。衆を率ゐて降る。諸州を平定するの功を以て、温州刺史、兼鎮戎軍節度を授けらる。雄至る所荊襄を披き疆禍を開闢す。降附日に衆し。定宗の時、和林に卒す。

デンイウガン　田游巖　(唐)三原の人。太白山に隱る。後、箕山に入り許由の祠の傍に居り。高宗嵩山に幸し、巖を往げて親ら門に至る。遊巖野服して出て拜す。帝左右に命じて扶け止め、謂て曰く、先生此に來る佳なりや否や。答て曰く、臣は所謂泉石膏肓烟霞痼疾なる者と。召されて京師に至り崇文館學士に拜せらる。韓法昭　宋之問と興に方外の友たり。

デンイツシュン　田一儁　(明)字は德萬。大田の人。隆慶二年の進士。庶吉士より編修に改め侍講に進む。萬曆中、張居正の旨に忤ひ皆げ歸る。居正殺し、故官に起ち禮部左侍郎に遷り翰林院を掌る。疾を辭して未だ行かず。卒す。禮部尚書を贈らる。

デンエイ　田嬰　(周)齊の威王の子。宣王の庶弟。威王の時より職に任じ事を用ひて功あり。宣王の九年、齊の相と爲る。居ること凡十一年、宣王卒して湣王立つ。三年、薛に封ぜらる。號して靖郭君と曰ふ。子四十餘人。孟嘗君(田文)は其一人なり。

デンエイ　田榮　(秦)狄人。齊王田儋の從弟。儋、既に臨濟に戰死す。榮、乃ち餘兵を收めて東阿に走り、齊人立つる所の王假を逐ひ、儋の子市を立てゝ齊王と爲し、自ら之に相たり。而して田橫これに將たり。兵を發して齊の地を平ぐ。後、項羽、齊王市を徙して更に膠東に王とし、即墨治せしむ。榮、事を以て項羽を怨み、市を止めて膠東に行かしめず。市、項羽の强暴を恐れ乃ち逃げて國に就く。榮怒り、追擊し市を即墨に殺し、自立して齊王と爲り、悉く三齊の地を并す。項羽之れを聞きて大に怒り、北、齊を伐つ。榮、敗れて平原に走る。平原の人、榮を殺す。

デンエツ　田悅　(唐)田承嗣の姪。承嗣に

騎ぎて魏博節度使と爲る。また頗る驕慢にして遂に李正己と共に叛を謀り、自ら魏王と稱す。既にして上表して罪を謝し王號を去る。子季安、嗣ぐ。

デンエン　田衍　(元)字は師孟。彰德の人。性頴異にして才識あり。多く法書名畫を藏す。時を以て涉獵し、墨竹を畫くに王濟游を學ぶ。

デンエンチン　田延年　(漢)字は子實。河東太守と爲りて豪强を誅勦す。遷りて大司農と爲る。時に昭帝崩じて昌邑王賀(武帝の孫、哀王髆の子)立つ。淫戲、度なし。霍光、亟廢して決せず、延年に問ふ。延年曰く、將軍(霍光)國の柱國と爲り、此人の不可なるを審にす、何ぞ太后に白して之を廢し、更に賢を選んで立てざる乎と。光、乃ち百官を召して會議す。衆、色を失ひ、敢て言を發する者なし。延年、劍を按じて曰く、先帝、將軍に屬して劉氏を安んぜしむ、今社稷將に傾かんとす、將軍死すと雖も何の面目ありてか先帝に見えんや、今日群臣後應する者あらば臣劍を請うて之を斬らんと。是に於て議決し、遂に太后に白して昌邑王を廢し而して宣帝を立つ。後、昭帝を葬るの時に當りて、例、大司農、民車を儛ふ、延年、因りて增儛して錢三十萬を盜取し、怨家の告ぐる所と爲りて、罪、死に當す。遂に自殺す。

デンカ　田何　(漢)字は子莊。淄川の人。惠帝の時、年老い家貧しく、道を守りて仕へず。帝その廬に幸して易を受く。齊魯の士、多くは之を宗とす。

デンカウ　田瀯　(金)字は默之。興中の人。歸降して諸官を歷し、入て刑部尚書となり老を請ひ家に卒す。

デンガクタウ　田學韜　(清)湖北の人。烏武壯(蘭泰)の部下に隸して勇名あり。烏公擢でゝ左右翼と爲す。凡そ戰皆先登し、賊の指目する所と爲る。烏公桂林に戰殺するに及びて、學韜亦前みて死す。

デンキ　田基　(周)中牟の人。趙簡子中牟か屠る。基從はず。趙簡子之を召して官せんと欲す。受けずして乃ち楚に之く。楚王其義を高しとし、以て司馬と爲す。

デンキ　田忌　(周)齊の將。孫臏を威王に薦む。

デンキ　田祈　(宋)貝州清河の人。十世同居す。太平興國三年、詔して其門閭に旌し また其家に復す。

デンキダウ　田歸道　(唐)契丹に使し、長揖して拜せず。將に之を殺さんとす。辭色挑まず。歸りて夏官侍郎に歷す。

デンキヒ　田貴妃　(明)莊烈帝妃。陝西の人。妃性寡言才藝多し。帝に信愛に侍す。崇禎元年、禮妃に封し皇貴妃に進む。宮中夾道あり、暑月行幸し御蓋中を行く。妃命じて蘧篨を作りて之を覆ふ。從者皆休息を得たり。又小黃門之奥を昇ふ者に易ふるに宮婢を以てす。帝聞て以て禮を知ると爲す。嘗て過ちありて別宮に謫せらる。所生皇子へず。帝その廬に幸して易を受く。齊魯の士、多くは之を宗とす。

デンカウ　田瀯　(金)字は默之。興中の人。歸降して諸官を歷し、入て刑部尚書となり老を請ひ家に卒す。

デンガクタウ　田學韜　(清)湖北の人。烏武壯(蘭泰)の部下に隸して勇名あり。烏公擢でゝ左右翼と爲す。凡そ戰皆先登し、賊の指目する所と爲る。烏公桂林に戰殺するに及びて、學韜亦前みて死す。

デンキ　田基　(周)中牟の人。趙簡子中牟か屠る。基從はず。趙簡子之を召して官せんと欲す。受けずして乃ち楚に之く。楚王其義を高しとし、以て司馬と爲す。

デンキ　田忌　(周)齊の將。孫臏を威王に薦む。

デンキ　田祈　(宋)貝州清河の人。十世同居す。太平興國三年、詔して其門閭に旌し また其家に復す。

デンキダウ　田歸道　(唐)契丹に使し、長揖して拜せず。將に之を殺さんとす。辭色挑まず。歸りて夏官侍郎に歷す。

デンキヒ　田貴妃　(明)莊烈帝妃。陝西の人。妃性寡言才藝多し。帝に信愛に侍す。崇禎元年、禮妃に封し皇貴妃に進む。宮中夾道あり、暑月行幸し御蓋中を行く。妃命じて蘧篨を作りて之を覆ふ。從者皆休息を得たり。又小黃門之奥を昇ふ者に易ふるに宮婢を以てす。帝聞て以て禮を知ると爲す。嘗て過ちありて別宮に謫せらる。所生皇子別宮に薨ず。妃遂に病む。十五年七月薨ず。恭淑と謚す。昌平天壽山に葬る。即ち思陵なり。

デンキン　展禽　(周)一名は獲。字は季。魯人。柳下に居り。魯に仕て士師と爲り、三たび黜けられて去らず。人之れを問ふ。曰く道を直くして人に事へば、焉くに往くも三たび黜けられざらむ、道を枉げて人に事へは、何ぞ必ずしも父母之邦を去らむと。卒す謚して惠と云ふ。孟子稱す、汙君を羞ぢず、小官を辭せず、進んで賢を隱さず、必ず其道を以てす。又曰く、柳下惠は聖之和なる者也と。魯に男子あり獨居す。夜風雨し比隣屋吹る。忽ち一婦あり之れに役ず。男子納れず。婦曰く、子柳下惠を知るか、不速の門の女を溫めゝ國人其亂を稱せず。男子曰く、柳下惠に在ては則ち可、吾は則ち不可、吾が不可を以て柳下惠の可を學ぶ可からずと。

デンキン　田錦　(唐)合肥の人。壯果にして大志あり。楊行密、表して馬步軍都虞侯と爲す。後、累官して太保同中書門下平章事に至る。

デンキヤウ　田强　(漢)五陵五溪の酋領なり。王莽、强に銅印を賜はんと欲す。强、子十人あり。雄勇、人に過ぐ。乃ち曰く、吾等は漢の臣たり、誓て莽に事へじと。是に於て强らの三子を以て五万人に將とし、各々一城を築きて烽火相應ぜしむ。

デンキヤウ　田況　(宋)字は元均。冀州信

都の人。少にして卓拳、大志あり。進士甲第に舉げられ、江陵推官に補ぜらる。夏竦、陝西を經略し、辟して判官と爲す。治邊十四事を言ふ。至和の初、樞密副使に擢でられ、太子少傅を以て致仕す。卒して宣簡と謚す。況、寛厚明敏、文武の才あり。人と不可なきが若く、而かも其の守る所に至りては人亦移す能はず。奏議二十卷あり。蜀を治むること公平、人歌くに忍びず。稱して腦天燭燭と爲す。蓋し其の聰斷の明を言ふ也。

デンギヨクバイ 田玉梅　（清）字は鼎目。湖の龍山の人。咸豐間、向公榮に從ひ長髮賊を討ちて功あり。咸豐十年、四人天津を犯す。京師戒嚴す。玉梅、部下を率ゐて汝陽に至り、鑣匪の沮む所と爲り、銃丸胸を洞して死す。年三十二。太僕寺卿を贈る。

デンクワイ 田洄　（唐）瀛州刺史。能く劇賊を盡平す。賊肯廉潔、任を稱むるの日、其家甚だ貧し。

デンクワウ 田光　（周）燕の處士。人と爲り智深くして勇沈なり。王喜の太子丹、其賢を聞きて之を招き、與に國事を謀らんとす。光曰く、臣聞く、騏驥盛壯の時は一日にして千里を馳す、而かも其の老ゆるに至りては駑馬も之に先つと。今太子、光が盛壯の時を聞きて、臣が精、既に消亡せるを知らずと。因て荊軻を薦む。太子曰く、願はくば先生漏す勿れ。光曰く諾。也〻〻敬じて曰く、夫れ行を爲して人をして之を疑はしむるは節俠に非ざる也と。遂に自ら刎ねて以て其の言はざるを明かにす。

テンクワウシ 天皇氏　（上古）太古の君長。天地初めて立て天皇氏あり。澹泊にして施爲する所なし。而して俗自ら化す。兄弟十二人各一萬八千歲。

デンクワウメイ 田廣明　（漢）宣帝の時、御史大夫たり。昭帝の喪に、大司農田延年、輦あり死に當す。廣明、田延年が昌邑王賀を廢して宣帝を立つるに與りて功ありるを以て、杜延年を霍光に白す。光また之を哀み、更に其の死を議せんとす。廣明、人をして之を田延年　告げしむ。田延年遂に自殺す。

デンクワン 田完　（周）陳の厲公佗の子。齊に奔りて陳氏となり、後また陳を改めて田と爲す。桓公に事へて工正と爲る。卒して敬中と謚す。

デンケイ 田京　（宋）字は簡之。沿州の人。進士に舉げられて、蜀州司法參軍に調し、京西陝西轉運使に累遷し、嘗て兩たび滄州に知たり、諫議大夫に拜ぜられて卒す。京、議論を喜ぶ。人と爲り氣節を尚び倜儻を以て聞ゆ。兵戰及び曆算雜家の術に通じ、天人流術通儒十數書を著す。

デンケイイウ 田景獻　明）貴州思南の人。天啓間、賊貴陽を圍む。單騎往き曉すに嘲罵を以てす。賊聽かず。擁して一室に入れ、實玩を陳し之を誘ふ。爲めに動かず。又恐すに奇禍を以てす。景獻怒り力を振さ賊を擊つ。賊中に觀衆する二年、遂に皆に遇ふ。大常少卿を追贈す。

デンケイセン 田景遷　（宋）乾中中、珍州刺史たり。上言す、珍州の郡名を賜ひて以來、連りに火災に遭ふ、乞ふ郡名を改めんと。太祖之に從ひ改めて四高州と爲し、並に五溪都防禦使の印を鑄て以て之を賜ふ。

テンケツ 顏頡　（周）晉の重耳（文侯）に從うて出奔すること十九年、國に返りて大夫に封ぜらる。

デンコウ 田弘　（五代）高平の人。慷慨にして謀略あり。周に仕へて鎮陰縣に封ぜられ、驍騎大將軍に累遷す。嘗て四羌及び鳳州の叛民を討平す。陣に臨む毎に鋒を摧きて直前し、身百餘箭を被り骨を破るもの九。後、大司空少保に拜ぜらる。

デンコウジヨ 田興恕　（清）字は忠誓、湖南の人。年十六、粵賊を長沙に攻む。咸豐六年、蕭壯果（啓江）に從ひて江西を援び萬載に克ち袁州を復す。八年、江西の諸城を克復す。十一年、貴州に巡撫たり、また寇賊を討平ず。同治元年、四人文乃爾、教を簿へて黔に入る。興恕うの擢強を惡みて之を殺す。是に因りて罷を職む。光緒三年家に卒す。

デンコウセイ 田弘正　（唐）字は安道。北平盧龍の人。人と爲り忠孝長慎、檄を起して書を案め萬餘卷に至る。鎮州節度使と爲り沂國公に封ぜらる。元和間、詔して韓愈に命じて其先廟の碑銘を撰ばしむ。子布、字て教化、戰功あり。御史中丞を授けられ、

河陽節度使と爲る。時に父弘正また成德節度使に徙り、父子同日に拜命す。時人之を榮とす。

デンコク 田穀　（金）天眷の初、吏部侍郎たり。性剛正にして、人物を評論するを好み賢否を分別す。後ち果官して中京留守同知となる。利濟軍節度使に終る。

デンサ 田蹇　（周）晉の平公の臣。直諫を以て名あり。

デンサキヨウ 田佐恭　（宋）思州の人。吐、馬援をその宅に入ると夢みて遂に佐恭を生む。田氏代々異才を產す。佐恭また頗る俊傑、蕃部を保安して功あり。累りに置書を賜ひて之を勞す。世々思州守と爲る。

デンサン 田贊　（周）楚の儒生。

テンシ 顓孫　（漢）藝文志に見ゆ。

デンジ 田滋　（元）字は榮甫。開封の人。至元の初、建言して御史臺を立つ。大德の初、浙西廉訪使に遷る。縣尹張瑛の寃枉を察し之を平反す。時に大旱す。獄神に禱る。大雨する三日。疾を以て卒す。開封郡公を贈り莊敏と謚す。

デンジウテン 田從典　（清）字は寬五。號は曉山。山西陽城の人。康熙二十七年の進士。官、文華殿大學士兼吏部尚書に至る。卒する年七十八。文端と謚す。

デンシカウ 田志亨　（唐）盧杏の人。潁貳子と號す。父母死す。乃ち妻子を捨てゝ唐縣の廢廟に居をトし、柏樹の下の一磨石に坐して、日に食を村落に乞ひ、夜に石上に宿す。延賞巨蛇皆首を俛れて遠く。里人之を異とし、爲に觀を想めて爲に居らしむ。都八十にして終る。

テンシキ 展子奇　（漢）蜀に工なり。畫家三史と爲す。

デンジシン 田時震　（明）富平の人。天啓二年の進士。官、知縣たり。崇禎二年御史に改められ左僉政に累遷し、嘗めて歸る。十六年冬、李自成、富平を陷れ、授くるに僞官を以てす。屈せずして死す。

デンシハウ 田子方　（周）魏の文侯の師。文侯甚だ之を重んず。

テムシン 鐵木眞　（元）太祖皇帝を見よ。

デンシン 田汧　（漢）弟慶虜と三人、財を分つ。堂前に紫荊一樹あり。慶甚し。共に議して之を破りて三と爲す。未だ幾ばくならずして枯死す。眞、歎じて曰く、木は本と同株、分折に因て摧悴す、況んや人をやと。相感じて復た合す。荊も亦た茂ると畫の如し。

デンジン 田仁　（漢）叔の子。衛將軍（青）の舍人と爲る。武帝の時、屢々從ひて匈奴を伐つ。青、薦めて郎中と爲す。果官して遂に司直に至る。

テンシンカカン 天親可汗　（唐）回紇主。名頡莫賀。牟羽可汗の從父兄。可汗を殺して自立す。唐の德宗と和親す。

デンシンギヨク 田神玉　（唐）南宮の人。

デンジンクワイ 田仁會　（唐）長安の人。神功の弟。汴宋節度留守たり。制學に舉げられ左武衛中郎將に累官す。太宗、遼東を征す。薛延陀、數万騎を以て河內を掠ふ。仁會擊て之を敗る。平州刺史と爲る。歲大に登る。民之を歌ふ。後、勝州都督に遷り、右衛將軍に轉ず。

デンシンコウ 田神功　（唐）南宮の人。天寶の末、縣の史たり。安祿山の亂に賊を破りて功あり。太子太師に累遷す。神功、親に事へて孝、人を待つも誠。嘗て疾む。庚、爲に祈禱す。卒して司徒を贈る。

デンジンラウ 田仁琅　（宋）大名元城の人。父武、晉の昭義軍節度使たり。仁琅、性沈厚にして餘略あり。嘗の舊恩に涉る。從うて李重を討ち遂んで太原を征して首功あり。知慶州に累官す。太宗の時、秦定州に知たり。至る所皆善政あり。右神武軍大將軍に遷る。

デンシヤウ 田章　（五代）鄭平の人。敏の子。官、殿中丞に至る。

デンジヤウコウ 展上公　（周）道を句容縣玉晨觀に修め、仙を得る。

デンジヤウシヨ 田穰苴　（周）田完の苗裔。齊の景公の時、晉は阿甄を伐ち燕は河上を侵し、齊の師敗績す。景公之を患ひ、晏嬰の薦によりて穰苴を以て將軍と爲し、兵を率ゐて燕晉の師を扞がしむ。穰苴恩威並び行はれ士卒爭ひ奮つて戰に赴く。燕晉の師を聞き、風を望みて解き去る。乃ち之を追擊して盡く失ふ所の封內の故境を復す。景

公郊迎て師を勞ひ禮を爲し、穰苴を尊びて大司馬と爲す。既にして讒者の言によりて退けられ、疾を發して死す。その後、齊の威王、大夫をして古への司馬の兵法を道論せしめ、穰苴を其中に附く。因て號して司馬穰苴が兵法と曰ふ。

デンシヤク　田錫　(宋)字は表聖。眞宗至道中、知制誥に擢てられ、召對して御覽三十餘卷御屏五卷を上る。詔して之を褒す。帝嘗て之を目して曰く、朕の汲黯なりと。錫事に遇ひて敢言し、權貴を避けず、魏徵、李抗の人と爲りを慕ふ。兩朝に歷事し、始終諫諍を以て己れの任と爲し、言を盡して諱まず。封疏五十三卷、悉く之を焚きて曰く、直諫は臣の職なり、豈に副を藏して以て直を賣る可けんや。卒するに及び、眞宗憫然として曰く、田錫は直臣なり、天何ぞ之を奪ふの速なると。手づから其の上る所の疏封を集めて一篋に置き、以て仁宗に遺る。

デンシユク　田叔　(漢)趙陘城の人。齊の田氏の裔。劍を好み黃老の術を樂巨公(樂毅の後)に學ぶ。趙王張敖に事へて郎中と爲る。後、趙王廢せられて宣平侯と爲る。叔、乃ち漢の高祖に事へて漢中守と爲り、居ること十餘年、孝文帝即位し、叔を召して天下の長者を問ふ。叔、孟舒(趙王敖の舊臣)を以て之に薦む。後數歲、叔、法に坐して官を失ふ。既にして景帝、以て魯の相と爲す。また數年、遂に官に卒す。子仁。

デンジヤン　田濟　(五代)高州龍仲令。孟蜀廣政二十三年(宋太祖建隆元年)川度足らざるを以て始めて鐵錢を鑄、凡そ器の演鐵を用ひて之を爲る者は鍮を置きて之を搗し、又た使者を遣して諸路果年の逋負を督せしむ。濟、上疏して言ふ、民を擾せば天意を犯し材を聚むれば君德を損ずと。語甚だ切直なり。蜀主用ふる能はず。濟好んで治亂を談ず、又た果りに朝政の得失を陳す。嘗て王昭遠、伊審徵、朝保正の用ふべからざるを言ふ。或人、勸むるに辭を遜して責任を取るべきを以てす。濟曰く、大丈夫豈に能く狗鼠に附して以て進を求めんやと。

デンシヨウ　田崧　(晉)前魏の將軍。仇池を守る。氐羌揚雄敵、襲うて之に尅ち、崧を執へて拜せしむ。崧、目を瞋らし叱して曰く、氐狗、吾寧ろ國家の鬼となるとも豈に汝が臣と爲る可けんや、何ぞ速に我を殺さざると。遂に雄敵の爲に殺さる。

デンシヨウジ　田承嗣　(唐)代宗の時、魏博の節度使と爲る。驕慢にして朝命を奉ぜず。而かも帝之を如何ともする能はず。

デンジヨガウ　田如鑑　(宋)進士に擧げられる。丞相呂頤浩、一見して之を器重す。高宗召して江右の盜賊を問ふ。對て曰く、小寇盧ろに足らず、憂ふる所の者は西北のみと。監察御史に累官し、出でゝ道州に知たり。民その愷悌を樂む。後、直秘閣、京西轉運副使に歷任す。昆弟如鑑、如鵬、俱に進士及第す。

デンシヨク　田式　(南北)は顯操。馮翊の人。性剛果、武藝多し。拳勇人に絕す。周に仕へて渭南太守に任ぜられ、政嚴猛を尙ぶ。吏民之を重んじ敢て法に違はず。本郡太守に遷る。請托行はれず。

デンシヨクシノハハ　田穉子母　(周)田穉子、齊に相たり。下吏の貨金百鎰を受けて其母に遺る。母之を誡めて曰く、吾聞く士は身を脩め行を潔くして苟も得ることを爲さずと、今君官を設けて以て子を待ち、祿を厚うして以て子に奉ず、則宜しく以て君に報すべし、力を盡し能を竭し忠信にして欺かず、務めて忠を効すにあり、必す命を奉じ廉潔公正なれば遂に患なし、今子之に反し忠に違ざかる、夫れ人の臣と爲りて忠ならざるは、孝にあらざるなり、不義の財は吾が有ゝ非ず、不孝の子は吾子に非ず、子起てと。田穉子慙ぢて其金を反し、王に自首して誅に就かんことを請ふ。宣王之を聞きて其母の義を賞し、遂に其罪を赦し其相位を復し、公金を以て母に賜ふ。

デンジヨセイ　田汝成　(明)字は叔禾。錢塘の人。博學にして古文に工みなり。嘉靖間の進士。南京禮部主事に拜す。後ち官を免し田里ゝに歸る。浙西の諸名勝を窮め四湖游覽志を撰す。其他論著する所甚多し。時に其博洽を推す。

デンセウヒン　田紹斌　(宋)汾州の人。長興間、戰法を習ふ。其後累りに格鬪を以て功を立て、康州團練使に累遷す。

デンセンシウ　田千秋　(漢)長陵の人。武帝の時、高廟園郎たり。征和二年、戾太子據、江充に譖せられ、制を矯めて兵を發し、丞相劉屈氂の軍を逆へ擊ちて遂に死す。千秋、上書して曰く、白頭翁あり、臣に教へて云ふ、子、父の兵を弄す、罪、當に笞つべしと。帝悟りて曰く、此れ高廟の神靈、我に告ぐる也と。太子の罪なきを知り、姉來望思の臺を湖に作り、千秋を拜して大鴻臚と爲す。千秋また奏して、方士の神人に候する者を罷む。征和四年、遂に劉屈氂に代りて丞相と爲り富民侯に封ぜらる。昭帝の時に至りて年老ゆ。詔して小車に乘りて宮に入ることを許す。因りて號して車丞相と曰ふ。

テンソクサイ　天鳥災　(宋)高僧。北天竺迦濕彌羅國の人。太平興國五年來朝し、法賢等と共に再び譯事を興す。七年、譯經院新に成るに及びて之に居り。號を明教大師と賜ふ。雍熙二年、試光錄卿となる。咸平三年八月示寂す。譯する所、聖佛母經等數部あり。

テンソクワウテイ　天祚皇帝　(遼)姓は耶律。諱は延禧。字は延寧。小字は阿果。道宗の嫡孫。諸路大に饑ゑ人相食ふに至る。金と戰ひ大に敗績す。既にして金兵都城に迫る。遂に金將に獲られ、金に至りて降る。海濱王に封ぜられ疾を以て終る。壽五十四。在位二十四年にして國亡ぶ。改元三つ、曰く乾統、天慶、保大。

デンタイエキ　田大益　(明)字は博眞。四川巫溪の人。萬曆十四年の進士。知縣より兵科給事中に歷す。礦稅の六害を論じ、謫れて時務を陳し、君德の缺失を疏す。太常少卿の官に卒す。

デンタク　田冢　(金)字は器之。蒲州安邑の人。軍功を以て諸官を歷す。宣宗の時、直背に發して卒す。

デンタク　田鐸　(明)字は振之。橋城の人。成化十四年の進士。戶部主事を授けられ、員外郎郎中に遷り、蓬州知州に調せらる。

デンタン　田單　(周)齊の諸田の疏屬。湣王の時、臨菑市掾たり。時に燕、齊を伐ちて悉く齊の城を降す。たゞ莒と即墨と下らざるのみ。湣王、莒に死す。即墨の人、單の智謀あるを以て立てゝ將軍と爲し以て燕を拒ぐ。單乃ち城中の千餘牛を收め、絳繒の衣を爲りて畫くに五彩の龍文を以てし、兵刃を其角に束れ、脂を灌ぎて葦を尾に束れて其端を燒き、城に數十穴を鑿ちて、夜、牛を縱つ。壯士五千人その後に隨ふ。尾熱して牛怒り、奔りて燕の師に觸る。燕の師大に敗る。盡く齊の七十餘城を復す。因て襄王を莒より迎へて臨菑に入れ、之を立つ。襄王、單を封じて安平君と爲す。

デンタン　田儋　(秦)狄人。故の齊王田氏の族。陳勝、兵を起して自ら陳王と稱し、周市をして魏の地を略定せしめ、北、狄に至る。儋、乃ち狄の令を殺し、自立して齊王と爲り、兵を發して周市を擊退し、進んで齊の地を畧定す。秦の將章邯、魏王咎を臨濟に圍む。魏王、救を齊に請ふ。儋、兵を將ゐて魏を救ひ、章邯と戰うて臨濟の下に死す。その從弟榮、榮の弟橫、皆王となり。

デンチウ　田疇　(漢)字は子泰。幽州の人。董卓の亂、疇、宗族及び附從の者數百人を率ゐて徐無山中に入り、躬ら耕して親を養ふ。百姓嘉然として其威信に服す。魏の曹操北征し、署して司空戶曹掾と爲す。後、功を論じ封を行ふ。疇、固辭して受けず。文帝即位し、疇の德義を高しとして其從孫に爵關內侯を賜ふ。

デンチウ　田疇　(宋)華亭の人。號は興齋。嘉定間、嘗て講席を國學に設く。六館の士、皆托して北面す。著はす所、易學蒙徑、四書說約あり。

デンチウ　田豐　(宋)字は承肯。陽穀の人。況の從子。徽宗の時、仕へて校書郎と爲り、四河縣に知たり。鄒浩と與に氣節を以て相屬す。後、淮陽軍に知となり病みて卒す。

デンチヨウシン　田重進　(宋)幽州の人。淮陽の人、記りて以て土砌と爲す。形貌奇偉にして武功あり。太祖の時、屢々官して靖難軍節度使に至る。人と爲り朴厚、太宗藩邸に在り、其忠勇を愛し、人をして遣ろに酒炙を以てせしむ。受けず。使者に謂て曰く、我が爲に王に謝せよ、我れ天子あるを知るのみと。太宗即位す。その私なきを美とし終に厚く之を遇す。

デンデン　田田　(宋)辛棄疾の妾。其姓に因て之を名さす。嘗札を善くす。

デントクボウ　田德望　(隋)高平の人。父仁恭、開皇の初、父の軍功を以て爵平原郡公を賜ふ。仁恭死す。德望、喪に居りて哀毀骨立、墓側に廬し土を負うて墳を成す。高祖聞きて詔して其閭に表す。

デンビン　田敏　(五代)鄭平の人。少にして春秋の學に通じ、禮樂を詳明し典墳に博渉す。梁、進士に舉ぐ。周に至りて工部尚書に累官し、太子少保を以て致仕す。敏、官を解きて歸り、多く美酒を釀して賓客を待ち、親ら諸子、經を授く。子章。

デンフ　田布　(唐)字は敦禮。弘正の子。

デンフン　田蚡　(漢)武帝の時、大尉と爲る。蓋し皇太后の同母弟なり。儒術を好むの後、武安侯に封ぜらる。

デンブン　田文　(周)齊人。嬰の子。湣王の時、父に嗣ぎて薛公と爲る。號して孟嘗君と曰ふ。食客常に三千人。名、諸侯に聞ゆ。湣王二十五年、王、文をして秦に入らしむ。秦の昭王これを殺さんと謀る。文の客に雞鳴狗盜を能くする者あり。文、爲に僅かに免れて歸る。湣王、文を以て齊の相と爲す。後、王、文を去らんと欲す。文恐れて魏に往く。魏の昭王、以て相と爲し、四、秦趙に合ひ、燕と共に伐ちて齊を破る。湣王、莒に死し、襄王立つ。文、中立して諸侯と爲り、屬する所なし。遂に薛に卒す。

デンブン　田雯　(清)字は紫倫。德州の人。康熙三年の進士。官、戶部右侍郎に至る。雯、古學に邃く詩文に工なり。著、古懷堂集あり。

デンブンコ　田文虎　(宋)字は炳叔。寶慶の初、進士の第に登り、仕へて樞密院檢討に至り、出でゝ常州に知たり。官に居り性極めて廉介、自ら奉ずる苦淡、妻子僅だ布素を衣るのみ。死するの日、家に餘貲なし。

デンヘキ　田闢　(宋)字は思孟。南康の人。天資篤實、學を嗜みて倦まず。上庠に游ぶこと二十年、成る所なし。浩然として歸隱し、大隱居士と號す。子九人、各一經を授く。教法甚だ嚴なり。登第特恩に及ぶもの七人。時、義方を稱する者、必ず田氏を曰ふ。

デンヘン　田昉　(周)昉子を見よ。

デンホウ　田恩　(漢)字は季宗。靈帝の時、郎と爲る。帝その署を過ぎて曰く、堂々乎たり京兆田郎と。

デンホウ　田豐　(三國)字は元皓。鉅鹿の人。袁紹の別駕たり。曹操自ら劉備を征す。豐、紹に說きて許を襲はしむ。紹その子疾あるを以て之に從はず。豐、杖を擲げ地を擊ちて曰く、夫れ過ひ難きの機を以てして、而かも嬰兒の病を以て其會を失ふ、惜むべき哉と。後、紹、審配の計を聽き、兵を興して操を伐たんと欲す。豐、其の時機に非さるを諫む。紹また從はず。後、紹、果して敗れ回る。或人、豐に謂て曰く、君必ず重んぜられんと。豐曰く、紹、寬以て內忌、吾が忠を亮とせず、勝てば則ち喜び、敗れば則ち怒る。吾れ生を望まずと。遂に紹に諫して曰く、田豐、敗を聞き、掌を拊ちて大に笑ふと。紹曰く、吾れ出豐の言を用ひず、果して爲に笑はるると。遂に之を殺す。

デンボウ　田牟　(唐)大中十三年、宣帝、牟が登　徐州を鎭して能名あるを以て、復た詔して武寧軍節度使となし、以て康季榮に代ふ。一方遂に安し。

デンユ　田瑜　(宋)字は資忠。河南壽安の人。進士に擧げられ、寰那合三州軍事推官を歷て龍圖閣學士に累遷し壽檀州を歷知す。謹厚にして文少く能く繁劇に任へ而して吏事に於ては尤も心を盡す。

デンヨ　田豫　(三國)字は國讓。武清の人。魏に仕へて南陽守に遷る。盜賊迹を屏め境內肅清なり。屢々位を辭すれども聽かれず。乃ち曰く、年高七十にして位に居る、之を譬ふれば鐘鳴り漏盡きて夜行休せざるが如し、是れ鄙人也と。遂に疾を以て辭し去る。

デンヨク　田翼　(隋)母に事へて孝なり。開皇中、母、暴疴を患ふ。翼謂へらく毒藥に中ると。遂に親ら穢惡を嘗む。母終る。翼一慟して絕ゆ。妻亦哀に勝へずして死す。鄉人共に厚く之を葬る。

デンワウ　田橫　(漢)狄人。齊王田榮の弟。榮既に平原に死するや、橫、齊の散兵を集めて數万人を得、項羽を城陽に擊つ。時に漢王、楚を敗り彭城に入る。項羽、乃ち齊を釋て歸り、連りに漢と戰ふ。故を以て橫復た齊の城邑を收むるを得たり。是に於て榮の子廣を立てゝ齊王と爲し、自ら相と爲りて國政を專にす。居ること三年、漢將韓信、齊に入りて廣を虜にす。橫、乃ち自立して齊王と爲り、漢將灌嬰と戰ひて大に敗れ、梁に走りて彭越に歸す。後、歲餘、漢、楚を滅し、漢王立ちて皇帝と爲り、彭越を以て梁王と爲す。橫、誅を懼れ、其徒屬五百餘人と與に海に入りて嶋中に居り。高祖之を召して曰く、田橫來れ、大なる者は王とし小なる者は乃ち侯とせん耳、來らずんば且に兵を舉げて誅を加へんと。橫、乃ち二客と傳に乘じて洛陽に詣る。未だ至らざること三十里。曰く、我れ始め漢と同じく南面す、今何の面目ありてか北面して之に事へんと。遂に自殺す。高祖之が爲に流涕し、其二客を拜して郡尉と爲し、王禮を以て橫を葬る。葬既に終りて二客また皆自刎す。海島中に在るもの五百餘人、また橫の死を聞きて皆自殺す。

テン　典韋　(漢)陳留の人。形貌魁梧、膂力人に過ぐ。曹操に從ひて呂布を濮陽に討つ。操、陣を陷るゝ者を募る。韋手づから戟十餘を持ち大呼して起つ。抵る所、手に應じて倒れざる者無し。布の衆退く。韋か都尉　拜す。其後、張綉及し操の營を襲ふ。韋戰殺す。子滿、中郎と爲る。

デンヰ　田畿　(宋)燕人。打諢尉と爲る。因りて蜀に家す。傳古堂を作る。藏書五万七千卷、重複する者なし。黃魯直曰く、文士圖書の富、未だ田氏に過ぐる者を見ずと。

デンヰ　田潤　(宋)字は伯濟。繡嶺の人。進士に舉げられて辰州教授に調ぜらる。五溪の人皆學に向ふと潤より始まる。後、朝に在ること八年、清廉自ら持す。前後奏對十餘疏。淳熙十四年、浙東提舉常平に除せらる。惠政あり。民賴りて以て安し。

ト

トイ　杜夷　(晉)字は行齊。少うして恬淡、操尙貞素、居甚だ貧窘、產業を營まず。經籍を博覽して百家の書算歷圖緯畢く究めざるなし。汝潁の間に寓居すること十載、足門を出でず。四十余にして始て鄉里に還り、門を閉ぢて教授す、生徒千余人。元帝の時、國子祭酒となる。

トイウ　杜祐　(唐)字は君卿。萬年の人。父希望、恒州刺史たり。祐、產を以て參軍に補せらる。德憲國朝、司空に拜し司徒に進み岐國公に封ぜらる。祐、學を嗜み、貴なりと雖も夜分猶ほ讀書す。通典二百篇政典三十五篇を憤す。二子、式方、觀察使たり、從郁、秘書丞たり。

トイウ　杜宥　(明)進士に第す。景泰中、御史と爲る官たり。直言旨に忤ひて謫ぜらる。英宗位に復して知縣に除せられ韶州通判に遷る。後ち病を謝して歸る。

トイウカイ　杜友開　(唐)字は陽父。居を君山の麓に卜す。家甚だ貧しく徒に授け以て業となす。大歷の間、歲大に飢ゑ、生徒散亡し食盡きて出づる所を知らず。寬に飢死す。其妻吳氏、悲傷して苟も活くるに忍びず。遂に相枕藉して卒す。後ち十年、邑人王蹇、其里を過ぎて一古硯を得たり。乃ち友開が銘する所の故物なり。爰に雙瓌硯を作りて其の夫婦を哀む。

トイク　杜育　(晉)字は方叔。幼にして岐嶷、神童と號す。長ずるに及び丰姿美にして、才藝あり。時人稱して杜聖といふ。

トウアン　董黯　(漢)字は叔達。仲舒に世の孫。母に事へて孝なり。比隣王寄之の母、黯の孝を以て寄之に謂す。寄之を忌み、黯の出づるを伺ひて其母を辱む。黯之を恨む。後ち母死す。寄の首を斬り以て母に寄せ、自ら官に陳す。和帝詔して其罪を釋し、且つ異行を旌し、召して郎中に拜す。就かず。

トウイウ　竇攸　(漢)世祖、大に靈臺に會して鼠を得たり。約文の如く、熒々として光澤あり。世祖之を異とし群臣に問ふ。能く之を知る者なし。攸對へて曰く、候鼠なり、爾雅に見ゆと。乃ち秘書を按ずるに攸の言の如し。

トウイウ　竇融　(漢)字は周公。扶風平陵の人。初め王莽に仕へ、莽敗れて更始の大司馬趙萌に降る。萌甚だ之を重んず。更始新に立ち東方尙ほ擾る。融、累世河西に仕官して其土俗を知る。是に於て私かに其兄弟と謂つて曰く、天下安危未だ知るべからず、河西殷富、河を帶びて固めとなす、張掖屬國精兵萬餘騎、一旦緩急あらば河津を杜絕し、以て自ら此の遺種の處を守るに足

ちんと。乃ち趙廟に因つて往くを求む。更始以て張腋關國都尉と爲す。融既に到り、雄傑を撫結し羌虜を懷輯し、其歸心を得たり。太守都尉梁統等五人、甚だ厚善なり。更始敗るゝに及びて、五人の者、融を推して河西郡大將軍とす。融自ら河西を守り、光武の威德を聞き、心東向せんと欲し未だ自ら通ずる能はず。乃ち隗囂に從ひ建武の正朔を受く。囂、辯士張玄をして融等に說かしめて曰く、更始、車既に破り尋いで復た亡滅す、此れ一姓再たび興らざるの效、當に各〻土宇に據り隴蜀と合從せば、高きは六國と爲る可く、下きも尉佗を失はずと。融等、豪傑を召し之を議す。其中の識者皆曰く、今皇帝の姓名、圖書に見はる、漢再たび命を受くへしと。融遂に策を決し速かに向はんとし、長史劉鈞等をして書を洛陽に奉ぜしむ。帝、融に璽書を賜うて曰く、今益州に公孫子陽あり、天水に隗將軍あり、蜀漢相攻むるに方りては權、將軍に在り、舉足左右すれば、便ち輕重あり、此を以て之を言へば、相厚うせんと欲するも豈に相量る有らんや、遂に桓文に效ひ霸國を輔けんと欲せば、當に勉めて功業を卒ふべし、三分鼎足連衡合從せんと欲せば、亦宜しく時を以て定むべし、今議者必ず任囂が尉佗を致して七郡を制せしむの計あらん、王者土を分つ有るゝ民を分つ無し、自ら己が事に適ぜんのみと。因つて融に授けて涼州牧と爲す。囂書、河四に至る。皆驚いて以爲へらく、天子明かに夷里の外を見るゝ。後ち融、五郡太守たるに及びて入朝す。融を以て冀州の牧と爲す。既にして融を進めて大司空と爲す。融自ら舊臣に非ず一旦入朝して功臣の右に在るを以て、召會進見する每に、容貌辭氣卑恭甚し。數々群位を辭す。上疏して曰く、臣融、子あり、朝夕教導するに經義を以てし、天文讖記を觀しめず、恭肅にして事を長れ、恂々として道を守らしめんと欲す。其才能あるを顧はず、況や當に傳ふるに連城廣土を以てし、故諸侯王の國を享くべけんやと。帝許さず、復冒ふを得る勿らしむ。年七十八にして卒す。謚して威侯といふ。長子穆、公主に尚す。

トウイウ 鄧攸 (晉)字は伯道。襄陵の人。石勒の乱、家を挈へて走る。平定の後、吳郡太守となる。已にして疾を稱して去る。郡例、銀錢數百萬を送る。攸、斥けて受けず。民遮り留めて去るを得ず。夜竊に道れ歸る。官、吏部尚書に至る。死するに及びて嗣無し。時人之を痛惜す。

トウイウ 鄧佑 (五代)童科に擢でられ、弟吉、三禮科に擢でらる。よりて所居を改めて場名鄉兩秀里となす。

トウイク 鄧郁 (南北)荊州建平の人。少うして仕へず。衡山極峻の巖に隱居し、山を下らざるもの二十餘載。唯だ澗水を以て靈母を服し、日夜大澗經を誦す。武帝敬信殊 篤し。

トウイクシウ 佟毓秀 (清)字は鐘山。蒲州の人。官、甘肅巡撫たり。山水を善くし元人に法とる。筆端頗る逸致あり。

トウイサン 鄧以讚 (明)字は汝德。新建の人。隆慶間、廷試第三を以て編修を授けらる。張居正と讌合はざるを以て引退す。召して吏部右侍郎に除す。力辭して拜せず。母の喪に勝へずして卒す。禮部尚書を贈り文潔と謚す。

トウイチゲン 董一元 (明)宣府衛衛の人。暘の子。嘉靖中、薊鎭遊擊將軍に歷す。隆慶萬曆の交、左都督に累遷し太子太保を加へられ本衛世指揮使を廢せらる。之を久うして卒す。

トウイチヨク 賈易直 (唐)始平の人。明經に擢でられ校書郎に補せらる。藍田尉に歷し浙西觀察に累遷し戶部侍郎となる。文宗の時、左僕射と爲る。公潔を以て自ら喜び未だ嘗て引用せず。

トウイチイ 董以寧 (清)字は文友。武進の人。邑の諸生たり。詩文を善くす。歷象樂律方輿の旨に於て明する所多し。晚年悉く棄て去り、專ら經を窮むるを事とす。尤も周易參伍に深く、著書家に滿つ。交遊を恤み然諾を重んず。弟子恒に數百人。著、正誼堂集あり。

トウイン 滕胤 (漢)胄の子。字は承嗣。少にして氣節あり。丹陽太守と爲り、日に賓客に接し夜は文書を省す。

トウイン 鄧殷 (晉)汝陰の太守たり。是より先、夢に水邊を行き一女子を見る。猛獸其後に隨ふ。占して曰く、水邊の女は汝字、獸は守なり、當に汝陰の守たるべしと。果して然り。

ドウイン 同寅 (明)字は景明。安邑の人。年十二にして贅、卜筮の術を研習す。禍福多く奇中す。英宗北狩、使を遣はして期を問ふ。寅の筮言悉く驗あり。筮を以て公卿の間に游ぶ。人之を信重す。卒する年九十。

トウウ 鄧禹 (漢)字は仲華。新野の人。幼にして游學し光武と相親しむ。光武、河北を收む。禹、策を杖いて往き見て說いて曰く、明公、英雄を延攬し、務めて民心を悅ばしむるに如く莫し、高祖の業を立て萬民の命を救ひ、禹をして其尺寸を效さしめば、功名を竹帛に垂れんのみと。光武大に悅び、與に計議を定め諸將を任使する、多く禹に訪ふ。創將軍を以て節を持し關に入る。名聲四に震ふ。大司徒に拜し高密侯に封ぜられ、大事に參議す。卒して元侯と謚す。性篤行淳備。子十三人あり。

トウウキン 竇禹鈞 (五代)漁陽の人。祖遜は玉田令、父思恭は嶋州司馬たり。禹鈞、周に仕へ累官して諫議大夫に至る。嘗て義塾數十楹を建て、名儒を延きて以て遠近の士に教へ、貧にして供するなき者は皆之を衣食せしむ。官に在るに及びて、四方の賢士輒て以て舉ぐる者甚だ多く、其門に由りて貴顯に登るもの踵を接す。五子あり、相繼で登科す。時に燕山竇氏の五龍と曰ふ。

トウエイ 董永 (漢)千乘の人。少うして母を失ひ、獨り父を養ふ。孝感に流寓し、父亡して以て葬る無し。乃ち人に從ひ錢一萬を貸りて曰く、後ち錢還す無くば、當に身を以て奴と作るべしと。葬り畢へ。忽ち道に一婦人に遇ふ。永の妻たるを求む。永、俱に錢主に詣る。錢三百疋を織り以て償はしむ。一月にして畢り、永辭して去る。乃ち曰く、我は天の織女なり。君の至孝に緣り、天帝我をして、君を助けて債を償はしむと。言ひ訖りて空を凌いて去る。子仲。

トウエイ 竇嬰 (漢)廣國の從子。字は王孫。景帝の朝、詹事と爲る。七國の平ぐや嬰興りて功あり。魏其侯に封ぜらる。賓客を喜び、天下の遊士多く之に歸す。

トウエイ 鄧泳 (宋)字は德載。約禮の子。嘉定十三年の進士。分寧簿を授けらる。荊湖に居り、幕下に制司す。再たび江寧錄參に調せられ、樂寇の功あり。累官して右文殿修撰に至り、刑部侍郎に遷る。會々大嬰あり言を求む。泳奏す、根本を愛惜し、人才を愛惜し、日力を愛惜すと。泳、官に居り、至る所廉を以て稱せらる。晚歲累に坐し遷謫せられて卒す。

トウエイテイ 竇榮定 (隋)平陵の人。深沈にして器局あり。文帝の初、右武侯大將軍に拜せられ、卒して陳阿公を贈らる。

トウエキ 鄧驛 (宋)字は千里。沙縣の人。淳熙二年登第す。秘書正字を歷て校書郎に遷り、嘉王の直講に充てらる。遂に左司諫となり、亮直敢言、權倖を避けず。慶元の初、召して起居舍人と爲し中書舍人に拜す。朱熹、韓侂胄に忤ふを以て熱羹を罷む。驛、面奏して留めんと乞ふ。許さず。呂祖儉、上疏して趙汝愚を留め、并に朱熹等の當に逐ふべからざるを論ず。語、侂胄を侵し、韶州に安置せらる。太學生楊宏忠、汝愚を救ふを以て、坐して編管す。驛、皆封駁還黃して制を草せず。未だ幾ばくならず、集英殿集撰を以て泉州に知たり。文華閣待制に進み奉祠す。

トウエツ 董說 (清)字は雨若。俟庵と號す。一字は月南。浙江烏程の人。明の諸生なり。國變の後、祝髮して僧となり南潛先生と號す。僧に遊ると雖も顧餘にして文字を嗜む。詩、清淡荒遠。草書猶ほ奇逸。其の首陽山を咏ずるに曰く、草笠古鬚眉、首陽一樵子、擔柴入都邑、問話背峯裏、云有兩男兒、守饑四山死、白髮齊太公、淚滴青蘚水、還顧召公言、采薇人已矣と。其の胸中の壘塊一に之を詩に發す。

トウエフ 鄧嘩 (漢)析の人。更始の元年、將を遣はして王莽を討つ。嘩、兵を起して之に應じ、四湖を拔きて莽を敗り、遂に武關を開き、漢兵を迎へて長安に至り共に莽を誅す。將軍に拜せらる。

トウエン 滕延 (漢)字は伯行。北海の人。濟州の相たり。時に中常侍侯覽、小黃門段珪の徒、行暴を切掠す。延、一切收捕して數十人を殺し、屍、道路に陳す。覽、珪、大に怒りて帝に訴ふ。蚤一て免ぜらる。後ち京

兆尹に拜せられ能名あり。

トウエン　竇衍　(唐)抗の子。官、左武衛將軍に至る。

トウエン　竇瑛　(唐)長安の人。北海令と爲り、甚だ治聲あり。渠を穿ち水を引くこと曲折三十里、以て田に溉ぐ。之を竇公渠と號す。

トウエン　董瑛　(明)董子莊を見よ。

トウオウキヨ　董應舉　(明)字は崇相。閩縣の人。萬曆二十六年の進士。廣州教授に除せられ、督監の專横を抑へて名を知らる。南京大理丞に擢拜せられ、災異に因りて帝の失德を諫む。懷官其直を惡みて之を劾し、遂に職を落さる。應舉學を好み文を善くし、好んで利を興し害を除く。授するに及び、海濱の人之を祠祀す。

トウカ　鄧遐　(晉)字は應遠。勇力絶人、氣當世を蓋ふ。數郡太守を歷、名將と號せらる。襄陽沔水、蛟あり人を害す。遐、水に入り劍を揮ひて蛟を斬ること數段。患息む。

トウカイ　鄧戒　(宋)始興の人。弟闕と家學を修して相勵む。嘉定中、名を聯ねて登第す。戒に當時詩を作る者、尤袁聯名與兄弟の句あり。

トウガイ　鄧艾　(三國)字は士載。棘陽の人。大志あり。魏に仕へて尚書たり。景遷して鎮西將軍都督隴右諸軍事に至る。景元中大舉して蜀を平げ、太尉に擢でらる。後ち鍾會に陷へられて蜀に死す。後ち段灼、上疏して其寃を伸ぶ。

トウガイ　滕愷　(宋)藝源の人。幼にして穎悟なり。邑簿呂廣問、兄仙問、尹煒の高弟なり。此に客たり、愷と師友たり。紹興五年進士に登り信州司戶參軍に調ばる。朱熹其才器を稱して傑然流輩に超出すと稱す。

トウガイ　董久　(宋)字は彦臣。治平の間の進士。魏王宮教授に官し天章閣修撰を授けらる。大理寺卿に遷りて樂書卿首議經を進め、朝請大夫數文閣待制に進み、華亭縣に知となりて國南を開く。哲宗敕して云ふ、教を王宮に興す、忠孝勉旃の意あり、刑を大理に司る、寬恤剖決の仁を極むと。果れて制詞を賜ひ且つ門牌に題して數封天子詔、同代帝王師といふ。

トウカイワウ　東海王　(南北)魏主第十世。

トウカイワウ　姓元。名曄。(武帝の玄孫。南安王楨の孫。)初め非州刺史たり。爾朱榮世及び爾朱兆等、推して主と爲し以て敬宗に抗す。既にして其疎遠にして人望なきを以て之を廢す。改元一、建明。

トウカウ　鄧廉　(漢)禹の孫。寬安侯珍の子。少うして操行あり。兄良襲封して後なし。廉を以て封を繼がしむ。經騎校尉たり。廉、太后久しく朝政に臨み宗門盛滿なるを以て、數々上書して諫爭す、宜しく公室に從ひ自ら私權を損つべしと。言甚だ切なり。太后怒り、遂に廉の言を寬し國に遣歸し、其寃を絶つ。安帝即位し、復た徵して侍中と爲す。太僕に進む。方正にして名に稱へり、朝廷に重ぜらる。位特進を加ふ。卒す義侯と謚す。

トウカウ　竇抗　(隋)威の姪。字は道生。帝の甥なるを以て甚だ崇寵ぜらる。果歸して涼州刺史たり。抗、高祖と少にして相親狎す。大業の末、抗、竇武に於て、高祖京城を定むと聞き、衆に對して抃して曰く、蕭遂にして大度あるは眞に撥亂の主なりと。因て長安に歸す。高祖之を見て大に悅び拜して將に大匠と作さんとす。武德元年本官を以て納言を兼ね。高祖朝を罷くさき、或は御坐に升り、退朝の後は延いて臥内に入れ之に命ず。分を忘れて縱酒談謔、平生の歡を敍ぶ。宴に侍るに當りては或は禁内に留宿す。高祖每に呼んで兄と爲し名を云はず。後、太宗に從ひて薛仁平ぐるを以て勳を擧げて蹤して密と曰ふ。抗三子あり。衍は蘭爵し、靜は吏部尚書と爲り、誕は中正少卿と爲る。孫徽玄左相と爲り、德玄の子懷貞、侍中と爲る。

トウカウ　滕廉　(宋)字は子淸。宋城の人。崇寧の進士。秘書省正字に除し著作佐郎に遷る。高宗即位す。屢々封事を上る。詔を下して褒諭し、其諫臣の風あるを稱す。端明殿學士同簽書樞密院に累擢せらる。卒する年八十四。文集二十卷あり。

トウカウ　董誥　(淸)字は蕭林。浙江富陽の人。乾隆二十八年進士となり、官太保文

華殿大學士に至る。公廳朝四十年に垂んとす。知つて言はざる無く、言て盡さざる無し。其の猶雖きものは、和珅と同じく相位に居り、正を守りて阿らず、卒に能く刷新を仰覓し大弊を蠲除す。公從を善くし諸藩本を兩聖人に進呈す。並に題詠あり。卒して太尉贈り文恭と謚す。

トウカウ　滕綱　(淸)字は建山。歲貢生たり。隱居して經を窮め、人の過失を言はず。一鍾の餽も能く受くるなく、又た能く之を强ふるなし。宋の程朱の學を論究し、陽明を斥く。閨懷庭之に師事す。

トウカウシヤウ　董孝章　(宋)解州の人。眞宗の時、十世同居す。同時に又た潞州の邢濟あり、八世同居す。溫州の趙友、七世同居す。所在を以て族表を加へんと請ふ。之に從ふ。仍つて其の課調を蠲く。

トウカウホ　鄧考甫　(宋)字は咸之。臨川の人。進士に第し奉議郎に至る。開封府に提點たり。河渠を界す。事に坐して官を去り、遂に戶を閉ぢ書を著はし復た仕を言はず。元符、直言を求む。考甫年八十一、上書して、願寄而下、權臣逖に起りて世を改り人を誤るを論ず。蔡京之を疾み、削籍して筠州に竄す。崇寧、黨碑を去り、逐臣同類の者五十三人を釋す。惟だ考甫、范柔中と獨者し遂に筠に卒す。且に死なんとす。約孫名世に命じ筆を執らしめ、口占百餘言。其略に曰く、予自讀山中宰相盧有其才也、自謂文昌先生盧有其嗣也、不得大用于盛世亦無憾焉、蓋有天命耳と。論述する所、世大實龜、伊洛蓁蘊、義命彝著、太平策要等凡二百五十餘篇。

トウカウレン　鄧孝廉　(宋)字は清臣。曲江の人。詩書自得す。尤も春秋に深し。建州教授たり。邑州に遷列し炎中の進士。韶州教授たり。邑州に遷列し州事を攝す。適々歲飢う。廉を發いて之を賑恤して足らず繼ぐに俸金を以てす。全活する者甚だ衆し。德慶府に遷知す。

トウガク　鄧嶽　(晉)字は伯山。陳郡の人。始め四陽太守たり。蘇峻叛するに及び、溫嶠、嶽を遣し、督郵王愆期、太守紀睦と兵を率ゐて離に赴かしむ。郭默を討するに及びて功あり、宜城伯に封ぜらる。

トウカケン　竇可賢　(元)乳源の人。慷慨にして大節あり。賊至り砦を攻む。拒守兩月、食盡き水竭く。子弟七人と皆殺さる。砦破る。守民四百人、一も降る者なし。

トウカン　竇侃　(五代)禹鈞の子。官、起居郎に至る。

トウカン　鄧咸　(宋)湘陰の人。天禧間、縣未だ學あらず。咸、義學を縣南に創め、書を置き師を招き、族子弟及游學の士に訓ふ。馮京鄭獬皆て業を肄ふ。廷珙、僧城主簿たり。夜、廊下哭り哭するを聞き之を詰る。曰く、官錢三百貫を失ふ、歸を獲ざるを恐ると。珙盡く錢を以て之に代り官に還す。其人、惠に感じ二女を以て之に獻ず。納れず。時論之を嘉みす。

トウカンギ　鄧漢儀　(淸)字は孝威。泰州の人。康熙已未召試す。年老を以て、官正字を授けられて歸る。先生、洽聞廣見、尤も詩を以て世に名あり。

ドウカンシン　童漢臣　(明)錢塘の人。嘉靖中、知縣より御史に擢でられ權臣に忤ひて湖廣布政司都事に謫せらる。旋た泉州知府に遷る。倭寇、城に薄る。保障の功を以て江西副使に進み、官に卒す。

トウカンジユ　董漢儒　(明)開州の人。萬曆十七年の進士。推官より右副都御史に歷す。熹宗の時、兵部尚書に擢す。憂歸す。後ち家に即き太子太保に進め、子に錦衣百戶を廕す。卒して少保を贈り敵愾と謚す。

トウガンチウ　鄧巖忠　(明)江陵の人。鄉舉を以て推官に歷す。城破れ、自ら縊死す。

トウキ　竇毅　(南北)字は大武。蔗陵の人。周に在りては柱國と爲る。後ち隋に入りて太傅と爲る。

トウキ　竇軌　(唐)字は上則。威の兄の子。太宗に從て王世充を討平す。又蜀の盜を平げて功あり。貞觀の初、洛州都督と爲る。威信大に行はる。

トウキ　竇僖　(五代)禹鈞の子。官、左補闕たり。

トウキ　鄧熹　(宋)遂昌の人。勇略あり。文章を善くす。宣和中、陸賊、松陽遂昌の間を犯す。家貲を捐てゝ鄉民を集め、邑に入りて禦侮し、賊と戰うて大に勝ち、遂に兩縣を全うす。鄧守黃葆光之を朝に薦む。增秩賜金以て其歸を榮にし、其子を官にす。

トウキ　滕祺　(宋)茂實の弟なり。兄の傳に詳かなり。

トウキ　鄧玘　(明)四川の人。天啓中、守備より參將に擢づ。崇禎の時、都督同知に累遷す。毎に左萬玉と力を戮せて寇を拒く。福王元年、竟に萬玉等と戰死す。

トウキ　滕毅　(明)字は仲弘。初め太祖、儒士を以て徐邈の幕下に留め、尋で起居注に除す。命を奉じ楊訓文と、古昔無道の君主の行事を集め以て上る。吳の元年、出でゝ湖廣按察使たり。尋て召還し吏部に擢す。江西行省參政の官に卒す。

トウキ　董基　(明)字は巢雄。掖縣の人。萬曆八年の進士。刑部主事に除す。規諫する所多し。南京大理卿に累進し、官に卒す。

トウギ　竇誼　(漢)蜀の峨眉に居り。放浪不羈。月夜、子規夜竹に啼く。誼曰く、竹裂けなば吾れ峨峰に歸る可しと。是夕竹裂く。黎明、峨峰に遷る。武帝三たび徵せども起たず。

トウギ　鄧嶷　(唐)祁縣令たり。異政あり。邑人石に刻して德を紀す。

トウギ　竇儀　(五代)禹鈞の子。字は可象。學問優博、風度峻整。禮部尚書に累官す。宋の太祖之を相とせんと欲す。趙普其剛直を忌みて之を沮む。卒するに及びて太祖之を惜みて曰く、天何そ我が竇儀を奪ふとの速なる耶と。初め帝將に改元せんとす。宰相に喩して曰く、年號は前代未だ有らざる所の者を擇ぶ可しと。蜀平らぐなるに及びて蜀の宮人入内す。帝、其鏡背に乾德四年鑄と識せる者あるを見て、之を怪み出して宰相に示す。皆答ふる能はず。時に儀、翰林學士たり。曰く、此れ必ず蜀の物ならん、昔し蜀王衍の時此號ありと。帝歎じて曰く、宰相は必ず讀書の人を用ふべしと。是より益す儒臣を重んず。儀の子、諲、錫、誥、俱に登第す。諲は都官員外郎、錫は秘書丞たり。

トウキウトクシン　東宮得臣　(周)齊の大夫。後ち蓋山に隱る。年三百歲。

トウキガン　鄧希顏　(宋)南豐の人。咸平間、進士に登す。累官して大理司直兼侍御史たり。危言讜論を以て、眞宗に崇信せらる。

トウギシン　鬬宜申　(周)字は子西。楚の成王の時、司馬に任ぜらる。成王三十八年、宜申、成得臣と嚔を滅し、夔子を以て宋に歸す。後ち赦されて還り、仲歸と穆公を弑するを謀り、事洩れ誅に伏す。

トウキシヤウ　董其昌　(明)字は元宰。思白と號す。華亭の人。萬曆十七年已丑の進士。官、大學士に至る。書畫に精し。山水樹石烟雲浸潤神氣具足す。而して出すに儒雅の筆を以てす。風流蘊藉、宜しく一代の宗となす可し。元宰、幼より字を學ぶ。紙費して屋に盈ち、名字内に聞ゆ。畫は子久を倣ひ、能て苑副使董源に倣ふ。嘉靖三十四年乙卯に生れ、崇禎九年丙子に卒す。年八十二。明史には八十三に作る。按ずるに乙丑正月十九日の生なるべし。

トウキン　董鈞　(漢)字は文伯。蜀中の人。禮を慶氏に習ふ。永平中、舊士となる。時に郊廟禮樂威儀章服を草創す、多く鈞の議に從ふ。當時號して通儒となす。五官中郎將に累遷す。

トウキン　竇瑾　(晉)字は道瑜。頓邱人。少にして文學を以て名を知らる。中書博士より寧遠將軍を加へられ、軍國の事に參す。屢々軍功あり。秘書監に遷り、爵を衛國侯に進めらる。

トウキン　鄧均　(宋)一名は坰。建昌の人。嘉定中の進士。官吏部侍郎に至る。踐履純粹、政を爲す寬平なり。至る所、鄧佛を以て之を稱す。卒す。清惠と謚す。

トウキヤウ　滕珩　(唐)榮陽の人。太和の初め、太子右庶子を以て致仕す。四品給券にして刺に還るは珩より始まる。白居易、送るに詩を以てす。曰く身着錦衣兒戲繡、東陽門外數滕家と。子時、侍御史となる。

トウキヤウジヨ　東郷助　(唐)周易物象什疑一卷を著す。

トウキヨウ　竇鞏　(唐)字は友封。元和二年、進士の第に登る。袁滋、滑州を鎭す。辟して從事となす。滋、荊襄三鎭に改るや皆之に從ふ。又辟して副使となす。朝に入て侍御史に拜し、司勳員外刑部郎中を歷。元稹浙東を觀察し奏して副使檢校秘書少監兼御史中丞となし金紫を賜ふ。鞏、五言詩を能くす。昆仲の間、李の詩と俱に時の貴重する所となる。性溫雅、多く論を持する能はず。士友言議の際、吻動して發ぜず。白居易等目して嚥嚥翁と爲す。鄂渚に終る。時に年六十。子六人、景、餘、師、俗、最も知名なり。

トウキヨウ　滕璘　(宋)字は德章。茲源の人。璘の弟。太學に入り淳熙の第に登る。合肥の令に終る。兄さ名を齊しうす。子鈔。

トウギヨウ　鄧顒　(明)樂昌の人。正統中の進士。官永豐知縣たり。賊宗留を征し、兵潰えて執へられ、屈せずして死す。諡節せらる。

トウクン　桐君　(上古)爐を爲りて藥を煮、白日飛昇す。

トウクン　董勛　(漢)人あり勛に問ふ、元日屠蘇酒を飲む少者より起るは何ぞやと。勛曰く、俗に少者は歲を得るを以て故に之を賀す、老者は歲を失ふ故に之を罰す、元日以後遽に飲食相邀ふ、因て號して傳座と曰ふと。

トウクン　鄧訓　(漢)禹の六子。字は平叔。大志あり。顯帝の初、郎中に拜す。讒怨士に下る。會々上谷變あり、訓詔して兵を屯し防を爲す。鮮卑敢て近かず。元和の初、張掖太守に轉ず。羌胡の來る者は待つに恩信を以てす。大小感悅し、皆な塞を歎いて賀を納る。遂に屯兵を罷む。之を久うして官に卒す。羌胡旦夕臥哭する者數千人、家ごとに主祠を爲す。元興の始、敞侯と謚す。女、和帝の后たり。

トウグン　竇群　(唐)字は冉列。德宗、處士を以て徵して右拾遺と爲す。二兄當牟二弟庠鞏、進士に擢第し郎と爲る。俱に詞章に工みにして聯珠集を爲す。世に行はる。

トウクワ　董和　(三國)字は幼宰。中郎將と爲る。清介自守、菑苴汚れず、家に儋石之儲へ無く、節は羔羊の素を蹈む。

ドウクワ　僮和　(漢)蘇州刺史。能く俗を匡し民を信にす。武陵太守に遷る。

ドウクワ　童華　(清)字は心樸。浙江山陰の人。雍正の初、貲を入れて知縣を授けられ蘇州府に累官す。華、官に在りて精勤廉幹、奸を發き伏を摘する神の如し。偶々大吏の意に忤ひ官を罷めて卒す。年六十六。著、銅政條議等あり。書尤も工なり。

トウクワイ　董恢　(三國)字は休緒。襄陽の人。劉備に事へて宣信中郎と爲る。費禕、吳に使す。禕、之に副へり。孫權、大醉して問ふ、楊儀、魏延、牧豎小人にあらずや と。禕、答へず。恢、曰く、今方に强寇を掃除し區夏を混一す、功は才を以て成り業は才に由りて廣し、若し此を捨てゝ其後患を防ぐに任ぜずんば、是れ猶ほ風波ありて而て遂に舟楫を廢するが如し、長計に非ざる也と。權大に笑ふ。諸葛亮、之を聞きて知と爲し、辟して丞相府屬と爲す。後、巴郡太守に遷る。

トウクワイ　董槐　(宋)定遠の人。廣類豐眉、少うして兵を言ふを喜ぶ。既にして節を折り學を爲す。嘉定の初、進士に登り靖安主簿に調す。累官して右丞相兼樞密使たり。政を爲す大体を務め、苟くも以て國家を利す可きは、知つて爲さゞる無し。許國公に進封す。一日將に暮れむとし天雷雨大に作るに値ふ。槐起つて衣冠して坐し諸生の爲に易の兌謙二卦を說き、畢つて遂に卒す。文清と謚す。

ドウクワイ　童恢　(漢)姑幕の人。不其令たり。民虎に害せらる。恢、二虎を捕へ謂て曰く、王法人を殺す者は死す若し人を殺す者は當に號訴すべしと。一虎頭を垂れて瞑目し一虎恢を視て號鳴す。乃ち之を釋す。吏民之が爲に歎頌す。丹陽太守に遷る。法を執る廉平。循吏傳に入る。

トウクワイテイ　竇懷貞　(唐)中宗の朝、御史太夫たり。歲除の日、帝群臣と宴す。懷貞に謂て曰く、殯室を喪へり繼室を欲するかと。俄にして竇鞏、殿に臨み、一襲衣の者出づ。乃ち衛后の乳媼莒國夫人なり。

トウクワウキ　董宏毅　(清)字は士超。任庵と號す。奉天の人。康熙甲寅、撫督より奉新縣を授けられ累官して左都御史たり。公、奉新縣に知たりし時、耿逆衆を率ゐて來り犯す。公、壯士を督し各々强弩を挽きて城樓に登り、內應者を斬り一矢を發して賊酋を殪す。賊遂に退き城保全するを得たり。官を去るの日、民間號泣し走送の聲數十里に震ふ。董公殺賊の圖を繪がき以て獻ず。卒する年八十有二。奉新名宦祠に祀る。

トウクワウコウ　鄧皇后　(漢)和帝の皇后。

諱は綏。大傅禹の孫にして光烈陰皇后の從弟の女也。六歲にして詩書を能くし、十二歲詩論語に通ず。諸兄、經傳を讀む毎に輒ち意を下して維問す。志典籍に在りて居家の事を問はず。母之を非とす。后因て竇は婦業を飭め、暮るれば經典を誦す。家人號して諸生といふ。父卒するや、三年、鹽菜を食はず憔悴毀容す。永元七年、諸家の子と俱に選ばれて宮に入る。后長七尺二寸、姿顏秀麗、左右皆驚く。八年、掖庭に入りて貴人と爲る。時に年十六。恭肅小心、陰皇后に承事して夙夜戰兢たり。陰后、巫蠱の事を以て廢せられ后代て位に即く。帝每に鄧氏を官爵せんと欲す。后輒ち哀請して讜諫す。元興元年、帝崩ずるに及びて、殤帝生れて始て百日。后乃ち迎へて之を立つ。后を尊びて皇太后と爲す、太后宮人の訟を聽くに義決流るゝが如し。詔して建武以來諸の妖惡を犯す者及び馬竇の家屬禁錮せらるゝ者を赦し、之を復して平人と爲す。殤帝崩す。太后議を定めて安帝を立つ。猶朝政に臨む。作事を減約し、執法の怠懈を戒め、外戚貴屬と雖も即を犯せば假貸する所なし。太后、陰氏の廢黜を憐み、其徒を赦して鄉に歸らしめ、勅して資財を還すと五百余萬。太后宮掖に入りてより、曹大家に從ひて經書を受け、天文曆數を兼ぬ。竇は王政を省み夜は則誦讀す。其謬誤あらんとを患へ典章に乖かんとを懼る。乃博く諸儒劉珍等及傅士鎮郎四府掾史五十余人を選び、東觀に詣りて傳記を讎校す。又中官近臣に詔して、東觀に經傳を受讀せしめ以て宮人に教授す。太后朝に臨みてより水旱十載、四夷外に侵し盜賊內に起る。人飢うるを聞く每に、或は旦に遣して賑ねず、躬自らも減徹して以て災阨を救ふ。故に天下復た平なり。元初六年、太后詔して、河間王の子弟及鄧氏の近親子孫等七十余人を徵して、經書を教授し躬自ら監試す。永寧二年三月病を以て崩ず。在位二十年、年四十一。順陵に合葬す。和熹鄧皇后と曰ふ。

トウクワウコウ　竇皇后　(漢)章帝の皇后。大司徒融の曾孫也。年六歲書を能くす。建初二年、女弟と俱に選例を以て入て長樂宮に見る、明年遂に立て皇后と爲る。后性敏給心を承接に傾く。稱譽日に聞ゆ。后寵幸殊特なり。初め宋貴人皇太子慶を生み、梁貴人和帝を生む。而して皇后子なし。並に之を疾忌して數々帝に間す。后遂に宋貴人を誣ひて自殺せしめ、慶を廢して清河王となす。后和帝を養て子と爲す。外家の權を專にせんと欲して梁氏を忌む。乃飛書を作りて以て梁貴人の父竦を陷る。竦誅せらる。貴人姉妹亦憂を以て死す。是より宮房悚息す。帝崩に和帝位に即くに及びて皇太后と爲る。永元九年崩ず。未だ葬に及ばざるに、梁貴人の姊懇上書して貴人枉殺の狀を陳す。百官上言して、太后の尊號を貶し先帝と合葬すべからざるを奏す。帝手詔して曰く、竇氏法度に遵ふずと雖も而も大后常に自ら減損す、朕奉事十年深く大義を惟ふ、前世を案ずるに上官太后亦降黜なし、其れ復た議するを勿れと。是に於て敬陵に合葬す。在位十八年、章德竇皇后と曰ふ。

トウクワウコウ　鄧皇后　(漢)桓帝の皇后。諱は猛女。和熹鄧皇后の從兄の子鄧香の女也。永興中、貌美なるを以て掖庭に入り、梁冀誅せらるゝに及びて立て皇后と爲る。桓帝內幸多く、博く宮女を採ること五六千人に至る。驅役從使復た此に兼倍す。而して后尊を恃みて驕忌す。帝の幸する所の郭貴人と更に相譖訴す。延熹八年、詔して后を廢して桑蜜に送る。立つこと七年北邙に葬る。

トウクワウコウ　竇皇后　(漢)桓帝の皇后。諱は妙。章德竇皇后の從祖弟の孫女也。鄧皇后廢せらるゝや、后掖庭に入て貴人と爲り其冬立て皇后と爲る。而も御見甚稀なり。帝の寵する所は唯采女田聖等也。遂に聖等の九女を以て貴人と爲す。帝崩ずるに及びて、后皇太后となり、朝に臨み簾を定めて解犢侯宏を立つ。是を靈帝と爲す。太后素より田聖等を積怒す。桓帝の梓宮尚ほ前殿に在るに、遂に田聖を殺す。又盡く諸貴人を誅せんと欲す。蘇康苦諫して止む。時に太后の父大將軍竇武宦官を誅せんとを謀る。而して中常侍曹節等詔を矯めて武を殺し、太后を南宮雲臺に遷す。竇氏誅せらるると雖も、靈帝猶ほ太后援立の功有るを以て、南宮に朝して親しく饋し膳を上る。熹平元年、太后の母比景に卒す。后病を愍じて崩ず。

立つこと七年、宣陵に合葬す。桓思竇皇后と曰ふ。

トウクワウコウ　董皇后　(漢)靈帝の母。河間の人。解瀆侯萇(後追尊爲孝仁皇)の夫人と爲り靈帝を生む。建寧元年、帝位に即くに及びて后を以て慎園貴人と爲し、尊號を上りて孝仁皇后と曰ふ。南宮嘉德殿に居り。竇太后崩ずるに及び、始めて朝政に與る。帝をして官を賣り貨を求めしめ、自ら金錢を納めて掌室に盈滿す。后自ら皇子協を養ひ數々帝に勸めて立て太子と爲さんとす。何皇后恨む。謝未だ定らずして帝崩ず。何太后朝に臨み權勢相害す。何太后の兄何進、遂に兵を擧げ驃騎府を圍む。后の兄子驃騎將軍重、官を免ぜられて自殺す。后憂怖し疾病して墓に崩ず。在位二十二年。民間、咎を何氏に歸す。慎陵に合葬す。

トウクワウコウ　滕皇后　(三國)吳の孫皓の后。父牧の皓、爲程侯たる時、聘して妃と爲す。皓即位して立て皇后と爲る。後ち父滕牧數々諫爭するを以て、后の寵漸く衰ふ。何太后恒に之を左右す。又太史運歷を言ふ、后易ふ可からずと。故に廢せざるを得たり。常に升平宮に供養す。天紀四年、皓に隨ひ洛陽に遷る。

トウクワウコウ　竇皇后　(南北)魏の沒鹿回部大人竇の女なり。竇卒して二子速侯回詛、帝の喪に會するに因て變を爲さむとし、語泄る。帝晨に起きて佩刀を以て后を殺し驍せて速侯等に后墓かに崩ずと言はしむ。速侯等乘り赴く。因て執へて之を殺す。

トウクワウコウ　竇皇后　(唐)京兆平陵の人。高祖の皇后。父毅。后生れて髮垂れて顎を過ぐ。三歲にして身と等し。女誡列女等の傳を讀み、一たび過ぐれば輒ち忘れず。周武帝之を愛して宮中に養ふ。始め貞元太后羅、疾あり、而して性素と戲。諸姉姒皆長れて敢て侍すもの莫し。后獨り之に事へ怡謹孝を盡す、或は淹月衣履を縅かず。工に繡革規諷を爲る、文雅体あり。又書を善くし高祖の書と相雜ふるも人辨ぜず。

トウクワウコク　竇廣國　(漢)字は少君。文帝の皇后の弟。后新に立つや、兄長君と俱に厚く田宅を賜はりて長安に家す。周勃灌嬰等曰く、兩人の所生微なり、宜しく師傅賓客を擇ばざる可らず、又再び呂氏の大事に效はんとを恐るると。是に於て乃ち士の節行ある者を選びて兩人と居らしむ。此に由て退讓の君子と爲り、敢て尊貴を以て人に驕らず。後ち安豐侯に封ぜらる。

トウクワウセン　鄧光薦　(宋)字は中甫。庐陵の人。進士に擧す。少より奇氣あり。文天祥と同じく王に勤む。贅臺多きに居り。家を擊へ廣東に入る。土賊に遇ひ妻子皆焚殺せらる。果官して禮部侍郎權直學士たり。國亡びて海に投ずる再吹、死するを得ず。後ち故山に歸り沒す。

トウクワウダイ　竇光鼐　(清)字は元調。東皐と號す。山東諸城の人。幼にして神童の目あり。家貧にして書を人に貸り、一覽輒ち誦を成す。乾隆七年、進士たり。編修より累官して左都御史と爲る。朝に立つこと五十余年。書籍はさるなく、詩は少陵を宗とし、古文は退之を法とす。著、省吾齋詩文集あり。卒する年七十六。

トウクワウフ　鄧光布　(唐)字は明遠。固始の人。乾符中、崇安鎭將たり。智略絕人。沙縣令曹朋と協謀して縣治を徙す。後ち黃巢、閩を破る。光布衆を率ゐ之を禦ぎ、悞りて流矢に中りて死す。沙民祠を立て以て祀る。

トウクワウリヤウ　滕宏諒　(宋)字は子京。明道中、司諫を以て謫せられて岳州に守たり。岳陽樓を重修す。時に稱す、此樓子京作り范文正記し、蘇子美書し、邵子篆額すと。時人四絕と稱す。

トウクワクエン　東郭偃　(周)齊人。崔杼傳賓客を擇ばざる可らず、又再び呂氏の大事に效はんとを恐るると。是に於て乃ち士の節行ある者を選びて兩人と居らしむ。此に由て退讓の君子と爲り、敢て尊貴を以て人に驕らず。後ち安豐侯に封ぜらる。

トウクワクエンヘイ　東郭賈　(周)齊人。崔杼と親姻あり。常に之が惟幄に參し、筮蓍する所あり。其をして逆を遂げしむ。

トウクワクカ　東郭賈　(周)齊人。騶止の臣。常に依附す。處々委任せらる。後ち事を以て衛に奔る。

トウクワクガ　東郭牙　(周)齊の臣。顏を犯して進諫し、死亡を避けず富貴に撓まず、立つて大諫の官たり。

トウクワクキヤウ　東郭姜　(周)齊の女。棠公の妻。崔女の御、東郭偃の妹なり。美色あり。棠公死す。崔子佳き吊うて姜を說

び遂に之を娶る。姜前夫の子棠杜告と倶に入る。莊公姜と通じて驟々崔氏に如く。崔子之を知り遂に公を弑す。姜二子明成を生む。崔子前娶の二子あり。諸子邑を爭ひて相殺す。大夫慶封陰かに崔氏と權を爭ひ、其滅びん事を欲す。乃ち之に乘じて廬蒲嫳をして、徒衆を帥ゐて其廬廐を焚かしむ。東郭姜自經して死し、崔子亦死す。

トウクワクジユンシ　東郭順子　（周）魏の人。道を修め眞を守る。田子方、之に師事して魏の文侯の師となる。

ドウクワン　童貫　（宋）徽宗の時、內侍たり。蔡京父子と相表裏して專ら邊を開くを務め、事を外に生ず。欽宗即位す。大學生陳東等闕に伏し上書して貫等を誅せんと請ふ。後、竄殺せられ、南雄に道斬せらる。

トウクワンカウ　鄧通瀾　（清）江西萍鄉の人。父、事に坐し刑部獄に繫がるゝ三年、孝子隻身之に左右す。

トウクワンギ　賈關漢　（漢）將軍なり。北定侯たり。

トウクワンヘイゴ　東關壁　（周）晉人なり。

トウケイ　董京　（晉）字は子威。何許の人なるを知らず。洛陽に在り、白社に隱居す。時に被髮市に行吟し、殘絮敗絹を乞ひて、結んで以て自ら覆ひ百結衣と號す。時に孫楚數々社中に就き戲ぶて倶に歸る。又書を貽り其仕進を勸むも京詩を以て之を拒ぐ。後ち數年、遁れ去りて之く所を知る莫し。其

トウケイ　鄧啓　（宋）字は元廸。崇仁の人。人となり氣節あり。早に名あり。詩を能くす。徐守約其集に序して曰く、人知先生之詩工力絕倫、不知先生之消之死不屈、先生以是爲詩、故不迫少陵不止と。

トウケイ　鄧槩　（明）字は孟擴。南城の人。永樂末の進士。監察御史を授く。正統中、右副都御史に擢づ。十四年八月、土木の變に殁す。右都御史を贈り襄敏と謚す。

ドウケイ　童珪　（宋）參の子。

トウケイキノツマ　董景起妻　（南北）魏人。張氏。景起早く亡す。張氏時に年十六。夫の年少く亡するを痛み、哀傷禮に過ぐ。蔬食長齋す。又兒息無く獨り貞操を守る。鄉曲之を高しとす。終に標異せらる。

トウケイソウ　鄧繼曾　（明）字は士魯。資縣の人。正德十二年の進士。行人を授く。世宗即位の初、兵科給事中に擢す。時奬を極論し、時務を開陳すること再次、遂に旨に忤ひ掠治し金壇縣丞に謫す。徽州知縣に卒す。

トウケイダウ　鄧景道　（晉）字は文博。弘農の人。少うして學を好み、千里師に從ひ人と交る寡く、春秋三傳、京氏易、馬氏尙書、韓詩、皆精密なり。永嘉中、世亂を知り商洛山に隱る。劉曜の時に徵して大子少傅散騎常侍と爲す。皆辭して就かず。

トウケイヨウ　竇景庸　（遼）中京の人。振の子。聰敏にして學を好む。清寧中、進士に第し少府少監に累遷す。太安の初、南府宰相に轉じ、知樞密院事を兼ぬ。陳國公に封ぜらる。疾あり裘して致仕を請ふ。許さず。武定軍節度使を加ふ。寇滯を審決し輕重宜しきを得、獄空きを以て聞ゆ。九年薨す。謚して肅憲と曰ふ。子瑜、三司副使たり。

トウケウクワイ　董敎會　（清）字は益甫。江蘇上元の人。乾隆五十二年、進士となり官陝西巡撫に至る。公、詞臣より入つて軍機に直り、出でゝ封疆たり。强毅にして阿諛らず、人皆之を敬憚す。閩浙兩廣に撫たりし時、地棄と盜を患ふ。公之を捕獲して餘力を遺さず。患遂に息む。卒して文恪と謚す。

ドウゲウミン　童堯民　（宋）遂安の人。紹熙四年の進士に登る。累官して右正言に至る。言事を以て韓侂胄に忤ひ罷め歸て復た仕へず。

トウケン　竇憲　（漢）字は伯度。太后の弟なり。永元の初、耿秉と同じく精騎萬餘を將ゐて、北單于と稽落山に戰て大に之を破り、塞を出ること三十余里、燕然山に登り、中護軍班固に命じて石に刻して功を勒し、漢の威德を紀せしむ。復た北匈奴を破り、塞を出ること五十余里にして還る。後ち和帝、大將軍憲父子兄弟の朝廷に充滿して專權謀遊あるを以て、遂に中常侍鄭衆と定議して憲を誅せんとす。太后の故を以て誅と名くるを欲せず、迫りて自殺せしむ。兄弟中唯

竇憲忠覓に獨り難を免るゝを得たるのみ。

トウケン　董恒　（漢）光武の時、鵰崩等と連和し漢軍に抗す。自ら東平王と號す。遂に誅せらる。

トウケン　鄧騫　（晉）字は長眞。長沙の人。少より志氣あり。常に誠を推し己を行ふ。刺史譙王、命を承けて主簿と爲す。尋て魏又に敗らる。久、騫を求る甚だ急なり。鄉人皆懼る。騫笑ひて曰く、彼新に州を得、賢を求んと欲するのみと。往詣するに及び久大に喜び、別駕となす。累遷して大司農たり。子璃。

トウケン　鄧謙　（明）孝感の人。進士たり。崇禎十一年冬、城を守りて淸兵を防ぎ、城上に於て季父有正と倶に死す。光祿卿を贈らる。

トウゲン　竇儼　（五代）竇禹鈞の子。字は望之。幼にして能く文を屬す。性爽曠、賢を好み善を樂む。禮部侍郎に累官す。當時の祠祀樂章宗廟の謚號、多く其撰定する所なり。

トウゲン　董儼　（宋）字は望之。洛陽の人。太平興國の進士。俊辯にして材あり。然れども不學無行、士大夫の醜とする所たり。知鄆州を以て卒す。年五十四。

トウゲン　鄧儼　（金）字は子威。鹽州の人。大定中、左司員外右司郎中を歷し機務を掌るもの數年、世宗其の敏を悅ぶ。後ち歸德知府を授けられ致仕す。

トウゲンカウ　董元亨　（宋）深州の人。國子博士通判貝州に累官す。王則、城に據て叛す。元亨、龐事に坐す。賊黨、圍を排して入る。左右皆奔り潰ゆ。賊遂に元亨を脅かし軍資庫鑰を索む。元亨案に據つて叱し聲を厲まし目を張り賊を罵る。遂に害せらる。事聞す。仁宗曰く、守法の臣なりと。太常少卿を贈る。

トウゲンカク　鄧顯鶴　（清）字は子立。一字は湘皐。湖南新化の人。嘉慶甲子舉人たり。晚に寧鄉訓導を授けらる。先生博く群書を究め、文詞淵雅歸として楚南の文獻と稱せらるゝ者二十年に垂んとす。著書數十種あり。

トウゲンシヤウ　鄧元昌　（清）字は萬濂。江西贛の人。諸生たり。文名あり。朔望に五經及び宋儒の書を陳れて之を拜す。晨起每に晚きて遺書太極圖說四銘を讀む三四遍乃ち起ちて靜坐す。一日宋昌圖、朱子或問首章を讀む。先生麾下を過りて之を聽き、遂に昌圖と相持して歌く。昌圖に謂ひて曰く、子年二十志趣を負ふ、願くは子勉めて之を卒へよ、吾が悔ゆる所を蹈み永く朱子の罪人たる勿れと。

トウゲンシヤク　鄧元錫　（明）字は汝極。南城の人。父殁し水漿口に入らず。門を杜ぎ著述すること三十餘年。平生博く羣書を極む。要六經に歸す。學者潛谷先生と稱す。著す所、五經繹函史上下篇皇明書等あり並に世に行はる。

ドウゲンチン　童元鎭　（明）桂林右衛の人。萬曆間指揮使たり。平樂の賊を討ちて功あり。游擊將軍に累遷す。既にして賊起る。備へ全からずして賊に破られ溺死多し。援兵至り賊を破る。歸りて逗留に坐し謫戍す。廣西總撫使爲めに申救す。許されず。竟に戍所に卒す。

トウゲンテウ　鄧元超　（南北）字は仲居。當陽の人。少より膽幹あり。南齊に仕へ武寧太守たり。梁武兵を起す。元超、武帝と會す。中興の初、益州刺史たり。天監の初、當陽縣侯に封ず。後ち右衛將軍たり。卒して忠侯と謚す。

トウコ　董狐　（周）晉の史官。獻公、趙盾を殺さむと欲す。盾出奔す。已にして趙穿、公を桃園に弑す。盾遂に復還す。董狐書して曰く、趙盾其君靈公を弑すと。盾曰く、然らず。對へて曰く、子は正卿と爲り、亡げて境を越えず、反て賊を討たず、子に非ずして誰ぞと。孔子曰く、董狐は古の良史なりと。

トウコ　鄧虎　（宋）輒の子。字は文鹿。文を爲る辨博、氣を以て勝る。嘗て曰ふ、吾が文左氏を祖とし遷氏を宗とし、百家に出入し韓柳を驅騁し、餘勇を以て之を貫く、何ぞ進士に在らんやと。後ち名貂如犀如なる者あり、亦文を以て稱せらる。

トウコウ　董公　（漢）新城の人。秦の隱士。史其名を失ふ。漢の高祖に說いて義帝を弑する者を討す。曰く、德に順ふ者は昌に德に逆ふ者亡ぶ、兵出るに名無し事故に成らず、

項羽無道其主を放弑す天下の賊也、夫れ仁は勇を以てせず、義は力を以てせず、大王宜しく三軍を率ゐて以て之を伐つべしと。是に於て、漢王始めて義帝の爲めに喪を發し、三軍皆縞素す。蓋し董公の獻言に因りてなり。

トウコウ 鄧鴻 (漢)禹の少子。籌筭を好む。永平中、小侯たり。興に幼事を議す。帝以て能とし將兵長史に拜す。肅宗の朝、出でゝ匈奴を擊ちて功あり、徵して行車騎將軍とす。

トウコウ 董興 (明)長垣の人。初め燕山右衛指揮使たり。累遷して右都督に至り海寧伯に封ず。後ち事に坐して爵を奪ひ官を免せられ、家居十餘年にして卒す。

トウコウエン 董公偃 (宋)字は安義。來蘇の人。博物洽聞、操行甚だ正し。大觀年中、轉運陳覺民、表奏す。乃ち八行を以て擧げられ、未だ官するに及ばずして卒す。公偃、嘗て靜和軒を作る。林逋の詩に曰く、寂々峰巒千古意、溶々花木一家春。陳易、石所に游びて軒壁に題して曰く、酒吸陽春入肺腑、茶罷清風生咐腹、安知石所洞中人、不是武陵溪上客と。此を觀て其人を想見すべし。

トウコウシン 鄧洪震 (明)宣化の人。隆慶中、兵部郎中に官たり。上疏して時務を陳す。帝其言を納る。尋で疾を以て歸る。萬曆改元、交薦すれども竟に起たず。

トウコウヨ 竇弘餘 (唐)常の子。會昌中、黄州刺史と爲る。

トウコク 鬬克 (周)字は子儀。楚の臣。初め申公たり。成王三十七年、秦晉來りて楚を侵す。克敗れ秦に擒へらる。後ち歸るを得て、公子燮等と亂を作し文王を遊す。

トウコクイン 佟國印 (清)養性の從孫。征に從ひ、錦州等の城、皆紅衣大砲を用ふ。工部右侍郎に累官し三等男に封ぜらる。

トウコクエウ 佟國瑤 (清)養性の從孫。順治十七年、三等伯を襲ぎ都統を授けらる。後、征伐を以て功あり。官、將軍に至り一等伯に封ぜられ忠懿と謚す。

トウコクカウ 佟國綱 (清)國賴の長子。一等公を襲ひ都統を授けらる。征に噶爾丹に從ひ鎗に中りて陣に歿す。忠勇と謚す。

トウコクキ 佟國器 (清)字は滙山。養性の從孫。順治二年、嘉湖道を授けらる。馬世英朱大定を擒にし、並に白腰賊陸汧等を招降し、鄭成功を定關に敗る。巡撫に累官す。

トウコクキン 竇克勤 (清)字は敏修。一號は靜庵。河南拓[illegible]の人。康熙十七年進士たり。學は欺かざるを以て本と爲す。朱竭書院を創立して正學を倡導す。謂く、道統正傳は必ず宋儒を以て斷と爲す、而じて宋儒の孔孟の嫡派を稱するは必ず周程張朱を以て師と爲すと。康熙戊子閏月二十五日端坐して逝く。

トウコククワウ 鬬克荒 (周)楚の臣。楚人、越椒を殺して若敖氏の宗を滅ぼす。惟だ克黄、齊に使して還り難を聞く。人曰く以て入る可らずと。克黄曰く、君の命を棄つれば獨り誰か之を受けん、君は天なり、天は逃る可らずと。遂に歸て復命し自ら司寇に拘へらる。

トウコクテイ 佟國楨 (清)養性の從孫。順治の初、拔貢に由りて無爲州に知たり。堤を增築すること四千丈有奇。水患遂に免る。州人之を德とす。江西布政に遷る。時に吳三桂耿精忠相繼ぎて叛乱し、分れて江西を犯す。國楨、戰を督して三千余級を斬り、僞總兵百餘人兵万余人を招撫し、江西平ぐ。功を以て兵部尚書銜を加へられ巡撫に官す。

トウコクメイ 鄧克明 (明)陳友諒の將たり。初め撫州に據り、佯りて降を請ふ。明師之を知り夜襲ひ至る。單騎にして遁れ、尋いで獲斬せらる。

トウコクライ 佟國賴 (清)遼東の人。征に從ひて關に入り、歷戰功を立つ。山東河南湖南江南數省に轉戰し、斬獲無算、功を以て禮部侍郎を授けられ三等子に封ぜらる。卒して少保を贈る。襄勤と謚す。

トウコクロウ 佟國龍 (清)字は信侯。遼東の人。康熙三十年、筆帖式より山東文登知縣を授けられ潭州知州を授けらる。文登に知たる時、營兵乱を爲す。國龍單騎往きて叱して曰く、營兵乱を同じくす、寃あらば當に我に訴ふべし、何ぞ妄動此に至るや。衆遂に皆散ず。蒞む所聲あり。民、祠を立てゝ之を祀る。

トウコク并 佟國維 (清)國賴の次子。議政大臣と累官す。雍正の朝、太傅を追贈し端純と謚す。

トウコン 鄧根 (宋)字は伯深。昭武の人。進士に第す。建炎の初、崇德縣に令たり。倜儻にして氣慨饒し。日に丁壯を集め武藝を講ず。是の秋、陳通、杭に反す。鄉兵を率ゐ之を討す。尋で徐明、乱を作す。往て之を鎮す。民之に賴て以て安く、境爲に肅靜たり。

トウコンコウ 東昏侯 (南北)齊第六世。姓は蕭。名は寶卷。字は智藏。明帝の第二子。淫昏度なし。齊人之を弑す。在位三年。改元一、永元。

トウサク 董策 (明)字は清寰。四明の人。畫を善くす。

トウサツ 鄧琮 (宋)字は晦之。連城の人。材武あり、兵書を讀むを好む。皇城使に擢でらる。性剛毅、下を遇するに禮あり、士卒と甘苦を同うす。故に士皆之が用を爲すを樂む。黑河を收復し、都統武功大夫に遷る。

ドウサツ 童琮 (宋)字は[illegible]之。雙流の人。博く經學に通じ尤も易に長ず。發隴一篇を著す。蜀守蔣宗、張方平、趙汴、皆逸民を以て上に薦め粟帛を賜ふ。再び州の助教に命ぜらるれども就かず。嘉祐中、神退處士の號を賜ふ。

トウサン 鄧粲 (晉)泉陵の人。少うして高潔、劉璃之、劉尚公と友とし善し。州郡の辟に應ぜず。會々荆州刺史桓伊、辟して別駕とす。粲乃ち召に應ず。璃之、粲に謂つて曰く、卿忽ち節を改む、吾れ望む所を失ふと。粲笑ひて曰く、足下は隱に志ありと謂ふ可し、未だ隱の道を知らず、夫れ隱は我に在りて物に在らず、是を以て朝市亦た隱る可しと。璃之以て之を難ずる無し。

トウサン 竇參 (唐)字は中時。刑部尚書誕の四世の孫。律令を學ぶ。人と爲り嚴敬を務め果斷を尚ぶ。薛を以て累官して萬年尉と爲る。同舍夕直に當る者、親の疾を聞きて惶遽す。參爲に之に代る。會々囚を失ふ。京兆、直簿を按して其人を劾す。參曰く、彼は親に謁するに及ばざらんとするを以て往けり、參當に坐すべしと。乃ち江南尉に貶せらる。人皆之を義とす。監察御史に遷り累りに御史中丞たり。奉劾避くる所なし。宦官之を嫉む。竟に謫せられて邕州に死す。

ドウサン 童參 (宋)歐寧の人。性淳樸、耕に隱る。仁宗の元年、參軍百有三歲、勅を賜ひて勞を慰む。年を逾ゆて卒す。子珪進士に登り承奉郎を授けられ清遠縣主簿と爲る。

トウサンボ 董三謨 (明)黎平の驛人。知縣たり。崇禎中、賊羅[illegible]うて山陽を陷る。三謨、父嗣成、弟三元と俱に之に死す。光祿丞を贈らる。

トウサンホウ 鄧三鳳 (宋)字は鳴陽。東安の人。博學にして詞賦を以て名あり。賢良方正に擧げられ、紹興壬戌進士となり、福州に列たり。薦を以て朝ら御書を閲し、儀禮を參訂し、復た上書して王安石父子を論ず。禮部尚書に進み梁克家と合はす。乞うて歸り道に卒す。修する所の宋儀禮制論議才正古史の風あり。

トウサンリヤウカイ 洞山良介 (唐)青原不五世の法嗣として、曹洞宗の開山祖師なり。寶鏡三昧歌を作りて其道を明にし、又其の新豐山に居て新豐吟をなす。

トウシ 鄧芝 (三國)字は伯苗。新野の人。禹の後。蜀漢に仕へ廣漢太守たり。清廉にして治績あり。入りて尚書となる。吳寧で和を請ふ。照然屈するに及び諸葛亮、芝を遣し吳に報ぜしむ。芝、孫權を見て說くに、吳蜀二國宜しく唇齒たるべきを以てす。吳遂に魏と絶ち蜀と連和す。芝、大將軍たること二十餘年。卒する日家に餘財なし。

トウシ 竇鐵 (南北)四魏の廢帝元年、原州刺史に除せらる。州に滯在すること十載、甚だ政績あり。城北に泉水あり、纖麗々茲に遊ふ。嘗て僚吏と泉側に宴す。因て水を酌み自ら飲みて曰く、吾れ此州に在りて唯嘗に水を飲む可きのみと。驢を去るに及びて人其遺惠に感ず、此泉に至るもの之を懷はざるなし。

トウシ 董氏 (宋)滕縣の人。劉氏に適くを許す。建炎の初、盜李昱、縣を劫め其色を悅び之に乱せむと欲す。終に屈せず、其首を斷らる。

トウシ 滕嗣 (宋)復寘の弟なり。